新潟県埋蔵文化財調査報告書 第263集

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅹ

新　町　遺　跡

２０１６

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅹ

新町（しんまち）遺跡

２０１６

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道 49 号は新潟市と福島県いわき市を結ぶ主要幹線道路です。2011 年 3 月の東日本大震災の際は、鉄道や磐越自動車道とともに避難や救援物資の輸送に大きな役割を果たした事は記憶に新しいところです。また、同路線は沿線市町と新潟市を結び、日常生活や地域経済を支える重要な基盤道路としての役割を果たしています。しかし、現道は阿賀野市街地での幅員減少等の問題を抱え、近年の著しい交通量の増加に十分に対応できておりません。その結果、交通混雑、交通騒音、交通事故の増加等、生活環境に悪影響を与える様々な問題が生じています。

そこで阿賀野市六野瀬から同市下黒瀬を結ぶ延長 13.7km の阿賀野バイパスの建設が計画されました。同バイパスは安全で円滑な交通の確保と都市機能活性化のために重要な役割を果たすものと大いに期待されています。

本書は阿賀野バイパス建設に先立ち、2014 年度に実施した新町遺跡の発掘調査報告書です。調査の結果、遺跡の調査区を横断するように上幅約 2m の溝を両脇に持つ幅約 18m の道路状の遺構を検出しました。そして、この遺構を挟んで南北に 7 棟の建物や多数の井戸が見つかっています。井戸は 97 基検出しました。その中でも直径 5m もある井戸は、四角い木枠をもち、その外側には葦が厚く巻いてありました。大きく掘って井戸枠を据えて、その後、周囲に土を埋め戻す時に土の重さで木枠が変形しないようにする配慮かも知れません。遺跡の時期は出土した焼物類から 15 世紀後半（室町時代）を中心に数十年続くとみられます。茶道具や香炉、輸入陶磁器があることから、社会的階層の高い人が住まいしていた村か屋敷の一部と考えられます。近接する境塚遺跡や山口野中遺跡などの集落の在り方を含め、阿賀野川沿いの中世集落の様子が徐々に明らかになってきました。

今回の調査結果が、地域の歴史を解明するための研究資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解を深める契機となれば幸いです。この調査に関して多大な御支援と御協力をいただいた阿賀野市教育委員会並びに地元住民の方々、そして発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配をいただいた国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

2016 年 3 月

新潟県教育委員会

教育長　高　井　盛　雄

例　　言

1　本報告書は、新潟県阿賀野市大字百津字新町ほかに所在する新町遺跡の発掘調査記録である。

2　この調査は、一般国道 49 号阿賀野バイパス建設事業に伴い、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所（以下、国交省）から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したもので、調査主体である県教委は公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に調査を依頼した。

3　埋文事業団は、発掘調査作業及び関連諸工事を株式会社ノガミに委託し、平成 26 年４月から９月にかけて実施した。

4　遺物の註記は、調査年度（2014 年度）の下二桁「14」と新町遺跡の略記号「シンマ」を組み合わせて「14 シンマ」を頭に付し、出土地点（グリッド）・遺構名・層位等を併記した。

5　掲載遺物の番号は種別に関わりなく通し番号とし、本文及び観察表、図面図版、写真図版の番号はすべて一致している。

6　本文中の註は脚註とし、頁ごとに番号を付した。

7　引用・参考文献は、第Ⅵ章を除き著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。

8　遺構図のデジタルトレース及び各種図版作成・DTP 編集・印刷は、株式会社ライフに委託した。

9　調査成果の一部は、『平成 26 年度 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』で公表しているが、本書の記述をもって正式な報告とする。

10　出土遺物及び調査に関わる各種資料は、すべて県教委が新潟県埋蔵文化財センターで保管している。

11　本書の執筆は、田海義正（埋文事業団調査課 課長代理 当時）、秋山泰利、福山俊彰、大越直樹（株式会社ノガミ埋蔵文化財調査部 調査員）、高橋　敦（パリノ・サーヴェイ株式会社）が行い、編集は秋山が行った。執筆分担は、第Ⅰ章１・２：田海、第Ⅰ章３：秋山、第Ⅱ章１：秋山、２：大越、第Ⅲ章・第Ⅳ章：秋山、第Ⅴ章１～５：秋山、第Ⅴ章６：福山、第Ⅵ章：高橋、第Ⅶ章：秋山である。

12　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示と御協力を頂いた。ここに記して厚くお礼申し上げる。（敬称略　五十音順）

阿賀野川土地改良区　　阿賀野市教育委員会　　阿賀野市建設課　　大 安 尚 寿　　木村孝一郎
国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所　　珠洲市教育委員会　　珠洲市文化財保護審議会
珠洲市立珠洲焼資料館　　胎内市教育委員会　　平 田 天 秋　　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館　　古 澤 妥 史　　水 澤 幸 一

目　　次

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯……1

2　試 掘 調 査……2

A　調査の体制……2

B　調査の結果と取り扱い……2

3　本発掘調査と整理の経過……3

A　調査・整理の体制……3

B　調査の経過……4

C　整理の経過……5

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地理的環境……6

2　歴史的環境……7

第Ⅲ章　調査の概要

1　グリッドの設定……9

2　基 本 層 序……9

第Ⅳ章　遺　　構

1　概　　要……12

2　記 述 方 法……12

3　各　　説……14

A　掘立柱建物（9 棟）……14

1）記載の方針……14　2）概　　要……15

3）各　　説……15

B　溝（10 条）……18

1）概　　要……18　2）各　　説……18

C　道状遺構（側溝 2 条）……20

1）概　　要……20　2）各　　説……20

D　井　　戸（97 基）……21

1）概　　要……21　2）各　　説……21

E　土　　坑（24 基）……40

1）概　　要……40　2）各　　説……40

第Ⅴ章　遺　　物

1　概　　要……41

2　土器・陶磁器……41

1）記 載 の 方 針……41

2）各　　説……42

A　遺 構 出 土……42

B　遺構外出土……48

C　転　用　具……49

3　石　　製　　品……49

4　金　属　製　品……50

5　鍛 冶 関 連 遺 物……50

6　木　　製　　品……51

1）記 載 の 方 針……51

2）各　　説……51

第Ⅵ章　自 然 科 学 分 析

1　目　　的……56

2　分　　析……56

A　樹 種 同 定……56

1）試　　料……56　2）分 析 方 法……56

3）結　　果……56

B　漆塗膜構造観察（薄片作製観察）……57

1）試　　料……57　2）分 析 方 法……57

3）結　　果……57

3　考　　察……58

A　材 質 的 特 徴……58

B　樹種の選択性……58

1）工　　具……58　2）容　　器……59

3）食　事　具……59　4）服　飾　具……60

5）施設材・器具材……60　6）祭　祀　具……60

7）そ　の　他……60

第Ⅶ章　ま　と　め

1　遺跡の性格……62

A　遺構の検出状況……62

B　区画された掘立柱建物……62

C　出 土 遺 物……63

D　道 状 遺 構……63

E　鍛冶関連遺物の出土状況……65

F　遺跡の評価……67

《要　　約》……69

《引用・参考文献》……70

《観　察　表》

遺構観察表　掘立柱建物 ……75
遺構観察表　溝・道状遺構……78
遺構観察表　井戸 ……78
遺構観察表　土坑 ……79
遺物観察表　土器 ……80
遺物観察表　石製品 ……85
遺物観察表　金属製品 1……85
遺物観察表　金属製品 2……85
遺物観察表　金属製品 3……85
遺物観察表　金属製品 4……85
遺物観察表　金属製品 5……85
遺物観察表　鍛冶関連遺物……85
遺物観察表　木製品 ……86
遺物観察表　漆器……88

挿図目次

第 1 図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置…… 1
第 2 図　84 トレンチ検出遺構（SE65）…… 2
第 3 図　試掘トレンチ位置図…… 3
第 4 図　90 トレンチ検出遺構（SD102）…… 3
第 5 図　河道の変遷と土地利用…… 6
第 6 図　百津潟とその周辺の村…… 7
第 7 図　周辺の中世遺跡分布…… 8
第 8 図　グリッド設定図…… 9
第 9 図　基本層序……10
第 10 図　断面積に含有する割合 ……12
第 11 図　遺構の平面図・断面形状の分類……13
第 12 図　埋土の堆積形状の分類 ……13
第 13 図　平地住居の平面類型……14
第 14 図　梁間一間型建物の構造形式……14
第 15 図　建物の部位名称 ……14
第 16 図　挽物の計測部位 ……51
第 17 図　曲物の構造と各部名称 ……51
第 18 図　曲物細部の各部名称……51
第 19 図　木取り及び木材一般の部位名称 1 ……51
第 20 図　木取り及び木材一般の部位名称 2 ……51
第 21 図　遺構の検出標高 ……62
第 22 図　SD101・SD102 と掘立柱建物の主軸方向
……63
第 23 図　SD101 と SD102 の礫の重量分布……64
第 24 図　鉄滓の重量分布 ……64
第 25 図　羽口の重量分布 ……67

挿表目次

第 1 表　周辺の主な中世遺跡…… 8
第 2 表　器種分類別の種類構成……58
第 3 表　抽出遺物の出土点数……63
第 4 表　高野山浄心院越後過去名簿 1 ……65
第 5 表　高野山浄心院越後過去名簿 2 ……66

図版目次

［図面図版］

図版 1　全体図
図版 2　遺構分割図（1）
図版 3　遺構分割図（2）
図版 4　遺構分割図（3）
図版 5　遺構分割図（4）
図版 6　遺構分割図（5）
図版 7　遺構個別図（1）SB1
図版 8　遺構個別図（2）SB2・3
図版 9　遺構個別図（3）SB4・5、SA1
図版 10　遺構個別図（4）SB6・7
図版 11　遺構個別図（5）SB8・9
図版 12　遺構個別図（6）SD3・13・108・149・202・327 ～ 329・377・378、P376
図版 13　遺構個別図（7）SD101・102
図版 14　遺構個別図（8）SE2・63・66・68
図版 15　遺構個別図（9）SE65・599
図版 16　遺構個別図（10）SE65
図版 17　遺構個別図（11）SE69 ～ 71
図版 18　遺構個別図（12）SE72・74・75
図版 19　遺構個別図（13）SE103・104・107・109・111・124
図版 20　遺構個別図（14）SE114・125 ～ 127
図版 21　遺構個別図（15）SE128 ～ 130・132・148・152・153
図版 22　遺構個別図（16）SE155 ～ 158
図版 23　遺構個別図（17）SE154・167・195・199
図版 24　遺構個別図（18）159・168・169・190・196
図版 25　遺構個別図（19）SE170・191・194・197・198
図版 26　遺構個別図（20）SE201・241 ～ 243
図版 27　遺構個別図（21）SE219・244・247
図版 28　遺構個別図（22）SE245・246・249・250
図版 29　遺構個別図（23）SE251 ～ 254・256
図版 30　遺構個別図（24）SE257 ～ 261・263
図版 31　遺構個別図（25）SE262・264 ～ 267
図版 32　遺構個別図（26）SE270 ～ 273・275
図版 33　遺構個別図（27）SE276・277・279・288・295
図版 34　遺構個別図（28）SE301 ～ 303・306
図版 35　遺構個別図（29）SE304・305・307
図版 36　遺構個別図（30）SE315・317・318・320
図版 37　遺構個別図（31）SE321・580・SK1・14・60・62・67
図版 38　遺構個別図（32）SK61・73・105・106・110・112
図版 39　遺構個別図（33）SK131・133 ～ 136・193、P192
図版 40　遺構個別図（34）SK217・218・220・221・248・274・292、P289
図版 41　土器・陶磁器（1）
図版 42　土器・陶磁器（2）
図版 43　土器・陶磁器（3）
図版 44　土器・陶磁器（4）
図版 45　土器・陶磁器（5）
図版 46　土器・陶磁器（6）
図版 47　土器・陶磁器（7）
図版 48　石製品
図版 49　金属製品・鍛冶関連遺物（1）
図版 50　鍛冶関連遺物（2）
図版 51　木製品（1）
図版 52　木製品（2）
図版 53　木製品（3）
図版 54　木製品（4）
図版 55　木製品（5）
図版 56　木製品（6）
図版 57　木製品（7）

［写真図版］

図版 58　遺跡全景・基本層序
図版 59　疑似畦畔・SB6・SB7・P1
図版 60　SE65・SE72
図版 61　SE199・SE219・SE244・SE273・SE599
図版 62　SB1
図版 63　SB2 ～ 4
図版 64　SB4 ～ 6・SA1
図版 65　SB7・SB8
図版 66　SB8・SB9・SA1
図版 67　SA1・SD3・SD13・SD108・SK14
図版 68　SD149・SD202・SD327
図版 69　SD327 ～ 329
図版 70　SD328・SD329・SD377・SD378・P376
図版 71　SD377・SD378・SD101・SD102
図版 72　SD102・SE2・SE63・SE65
図版 73　SE65
図版 74　SE65
図版 75　SE65・SE66・SE68 ～ 71
図版 76　SE70 ～ 72・SE74
図版 77　SE74・SE75・SE103・SE104・SE107

図版 78　SE107・SE109・SE111・SE114
図版 79　SE124 ～ 126・SE128・SE129
図版 80　SE130・SE132・SE148・SE152 ～ 154
図版 81　SE154 ～ 157
図版 82　SE157 ～ 159・SE167・SE196
図版 83　SE168 ～ 170
図版 84　SE170・SE190・SE191・SE194
図版 85　SE154・SE195・SE197 ～ 199
図版 86　SE201・SE219・SE241
図版 87　SE241 ～ 243
図版 88　SE244・SE245
図版 89　SE246・SE247
図版 90　SE249 ～ 251
図版 91　SE251 ～ 253
図版 92　SE253・SE254・SE256・SE257
図版 93　SE257 ～ 260
図版 94　SE260 ～ 262
図版 95　SE262 ～ 265
図版 96　SE265 ～ 267・SE270・SE271
図版 97　SE271 ～ 273
図版 98　SE275 ～ 277・SE279
図版 99　SE288・SE295・SE301 ～ 303
図版 100　SE302 ～ 304・SD327 ～ SD329
図版 101　SE304 ～ 307
図版 102　SE307・SE315・SE317・SE318・SD327
図版 103　SE315・SE317・SE318・SE320
図版 104　SE65・SE320・SE321・SE580・SE599
図版 105　SE599・SK1・SK14・SK60
図版 106　SK61・SK62・SK67
図版 107　SK73・SK105・SK106・SK110・SK112
図版 108　SK131・SK133 ～ 136・P142
図版 109　SK193・SK217・SK218・SK220・P192
図版 110　SK221・SK248・SK274・SK292・P289
図版 111　土器・陶磁器（1）
図版 112　土器・陶磁器（2）
図版 113　土器・陶磁器（3）
図版 114　土器・陶磁器（4）
図版 115　土器・陶磁器（5）
図版 116　土器・陶磁器（6）
図版 117　土器・陶磁器（7）・石製品
図版 118　金属製品・鍛冶関連遺物（1）
図版 119　鍛冶関連遺物（2）
図版 120　木製品（1）
図版 121　木製品（2）
図版 122　木製品（3）
図版 123　木製品（4）
図版 124　木製品（5）
図版 125　漆器

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

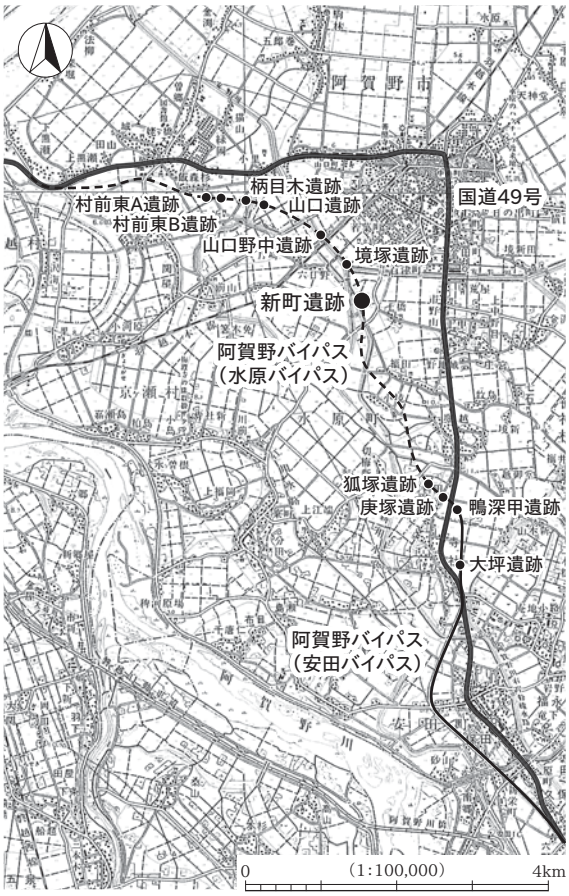
一般国道 49 号（福島県いわき市～新潟市）は、太平洋側と日本海側を結ぶ重要な幹線道路である。2011 年３月に発生した東日本大震災では、救援活動や被災地への物資輸送、また避難路としても高速道路や鉄道とともに大きな役割を果した。

阿賀野市街地を通過する国道は、幅員が狭小なため、その交通量に対応できず交通混雑や騒音、交通事故などの生活環境に与える影響が問題となっている。これらの問題を解消し、安全かつ円滑に交通を処理することを目的に「一般国道 49 号安田バイパス」（阿賀野市六野瀬（ろくのせ）～寺社（じしゃ）間 5.6㎞）と「一般国道 49 号水原バイパス」（阿賀野市寺社（じしゃ）～下黒瀬（しもくろせ）間 8.1㎞）が計画された。2004 年３月に安田町・水原町・京ヶ瀬村・笹神村の４町村が合併し、人口約 48,000 人の阿賀野市が誕生した。合併に伴いこの２つのバイパスをあわせて「阿賀野バイパス」と呼ぶことになった（国交省新潟国道事務所パンフレット 2006 年）。このうち水原バイパスは、1999（平成 11）年３月に都市計画決定、2000 年４月に事業化、2003 年度には用地買収に着手した。

事業の進展に合わせ、国交省は 2003 年３月に県教委に事業地内の遺跡の有無を照会した。県教委は平成 15 年３月 27 日付け教文第 1319 号で埋文事業団に対して遺跡分布調査を依頼した。埋文事業団は収穫が終わった 2003 年 12 月に水原町寺社から京ヶ瀬村下黒瀬間 8.1㎞の遺跡分布調査を実施した。分布調査の結果、周知の遺跡は事業地には含まれていないが、23 か所で古代を中心とした土器を採集した。このことから水原バイパス事業地のほぼ全域、約 470,000㎡において試掘調査が必要であると県教委に報告した。

遺跡の有無を知るための試掘調査は、2005（平成 17）年９月に既に供用されている南側の安田バイパス寄りの阿賀野市（旧水原町）寺社から始めた。試掘対象面積約 12,000㎡に対し、4,850㎡で遺構や古代の遺物を検出し、庚塚遺跡として新規登録した。このあと用地買収の進捗と工事に合わせ、2012（平成 24）年まで断続的に試掘・確認調査を実施した。

新町遺跡を含む周辺の試掘は、平成 20 年３月 31 日付け教文 1435 号の２で埋文事業団に依頼があり、同年（2008 年）６月に調査を行った。試掘対象地は水原バイパスの法線に沿って延長約



第１図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置

（国土地理院地形図「新潟」「新津」1:50,000 原図 平成 14 年発行）

700 m、面積 44,717㎡であった。試掘調査の結果、土橋川から工事杭 STA.№ 212 付近（第３図）で中世を主体とした遺跡を発見し、新町遺跡として県教委に報告して新規登録した。道路法線に係る本発掘調査必要面積は 9,649㎡である。2014 年１月に国交省新潟国道事務所で県教委に埋文事業団も参加して、春からの発掘調査遺跡について協議を行い、新町遺跡も調査対象とすることが決まった。これを受け国交省は平成 26 年３月 18 日付け国北整新調第 26 号で県教委に対し新町遺跡の本発掘調査を依頼した。その面積は暫定２車線分の工事に係る 6,750㎡である。県教委は平成 26 年３月 31 日付け教文第 1582 号の２で埋文事業団に新町遺跡の本発掘調査を依頼した。この間も埋文事業団では調査体制の調整を続けていたが、事業団職員を発掘担当者に充てる人的余裕がないことから、調査担当者を含めた調査員３名全員を発掘調査支援組織に依頼した。調査監理は埋文事業団調査課の課長代理が行った。

2　試 掘 調 査

A　調査の体制

調査期間　2008 年６月９日～７月２日
調査主体　新潟県教育委員会（教育長　武藤 克己）
調　　査　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　木村 正昭（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　事務局長）
管　　理　斎藤　栄（　　同　　総務課長）
庶　　務　長谷川 靖（　　同　　班長）
調査総括　藤巻 正信（　　同　　調査課長）
調査担当　田海 義正（　　同　　課長代理）
調査職員　畠野 義昭（　　同　　主任調査員）

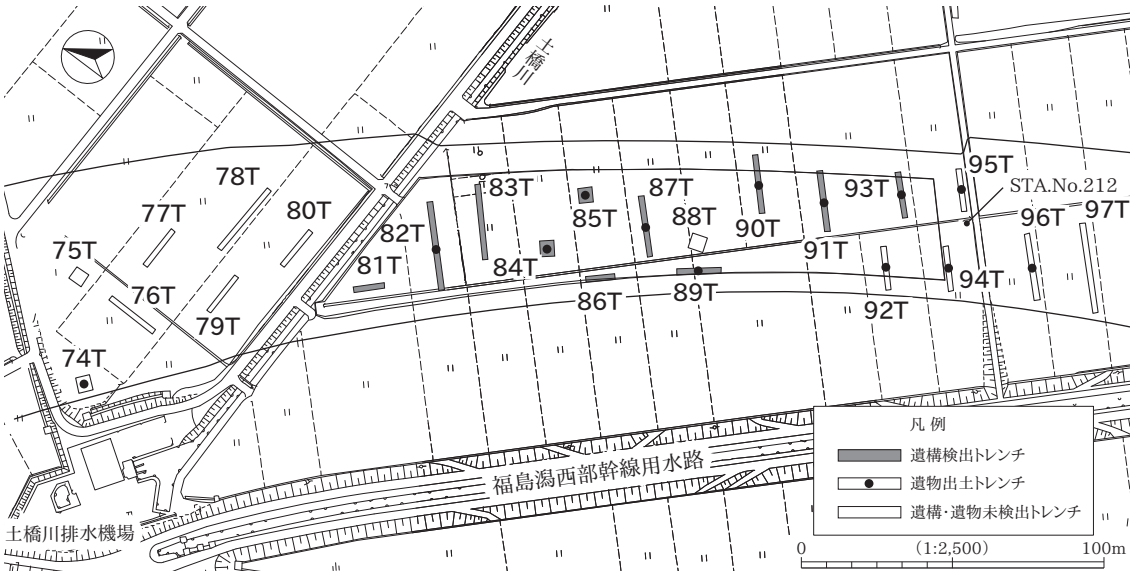
B　調査の結果と取り扱い

新町遺跡を含む周辺の調査は、６月９日から７月２日までに 17 日間実施した。対象地は小里川右岸堤防下（東側）から県道新関水原停車場線間の距離約 700 m、面積 44,717㎡であった。そこに 43 か所の試掘トレンチ（以下、トレンチ）を設定して調査した。結果、中世以前の遺物が出土したトレンチが 23 か所、遺構検出のトレンチも 23 か所あった。遺構と遺物のまとまりは３か所あり、平安時代と中世の遺跡を確認した。３か所のまとまりのうち、北側から境塚遺跡の範囲拡張[註1]、中央が本遺跡、南側が石船戸東遺跡の北側部分であった。

第２図　84 トレンチ検出遺構（SE65）

新 町 遺 跡　前年度から試掘・確認調査を継続しているため、トレンチ番号（以下、T）はトレンチ設定数と一致しない。81 Tから 93 Tの 13 か所のうち 11 か所で土坑・井戸

1）境塚遺跡の範囲拡大とした 10,876㎡について、2009 年の本発掘調査で遺構としていた溝からホーロー製鍋が出土した。昭和初期の開田の時に存在した溝に混入したものと結論し、小里川から南は境塚遺跡の調査範囲から除外した。
出典：水原町史編さん委員会　1982 『水原町編年史』第三巻　水原町役場



第３図　試掘トレンチ位置図

状の落ち込み･柱穴･溝･性格不明遺構を検出した（第３図）。84 Ｔでは直径約３ｍで中央に炉状のプランをもつ遺構を検出した（第２図）。この遺構は 2014 年の本調査で側板をもつ井戸(SE65)と分かった。90 Ｔの SD102 の埋土から、椀形滓など鉱滓が多数出土した（第４図）。そしてフイゴ羽口も出土していることから、この地区では鍛冶関連の遺構の存在が想定された。遺構は水田耕作土直下のにぶい黄色粘土や灰黄色、青灰色粘土及びシルト上で検出した。

第４図　90 トレンチ検出遺構（SD102）

遺構検出面は１面で、遺物包含層は存在しない。遺物は平安時代・中世・近世初期のものがある。92 Ｔ・93 Ｔは平安時代の土器が多く、ほかは中世の珠洲焼や中世土師器が優勢で、遺構の年代を反映していると思われる。しかし、遺構埋土でそれらの時期を区別することはできなかった。また、中世も一時期ではなく出土した珠洲焼は吉岡編年［吉岡 1994］Ⅲ期（13 世紀後半）～Ⅴ期（15 世紀後半）である。

以上の遺構と遺物から中世を主体とした集落跡と判断し、地籍の字名から新町遺跡とした。

阿賀野バイパスの試掘・確認調査において、ほぼすべての対象地で遺物包含層が削平されている。『水原町編年史』［水原町史編さん委員会 1982］を見ると、一帯は大正時代頃までは桑畑や林であった。1919（大正８）年に内地食料生産増進を目的に開墾助成法が成立し、1923（大正 12）年に北蒲原郡南部耕地整理組合を結成、1927（大正 16）年に用水路工事に着手して 1932（昭和 7）年に竣工。同年水田造成にかかり 1937（昭和 12）年に完成した。これにより 850 余町歩の豊かな穀倉地が誕生した。

3　本発掘調査と整理の経過

A　調査・整理の体制

2014 年度（本発掘調査・整理）

調 査 期 間　2014 年４月１日～９月 30 日

整 理 期 間　2014 年 10 月１日～ 2015 年３月 31 日

調 査 主 体　新潟県教育委員会（教育長　高井 盛雄）
調　　査　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　土肥　茂　（公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団　事務局長）
管　　理　熊倉 宏二　（　　同　　総務課長）
庶　　務　仲川 国博　（　　同　　班長）
調 査 総 括　高橋　保　（　　同　　調査課長）
監　　理　田海 義正　（　　同　　課長代理）
支 援 組 織　株式会社ノガミ
　現場代理人　戸田 哲雄　（株式会社ノガミ　埋蔵文化財調査部）
　調 査 指 導　戸根 与八郎（　　同　　調査室長）
　調 査 担 当　秋山 泰利　（　　同　　調査員）
　調　査　員　福山 俊彰　（　　同　　調査員）
　　同　　大越 直樹　（　　同　　調査員）
　整理作業員　石倉 栄輝・大塚 賢一・熊野 敦子・鈴木 理恵・津野 里美・福田 志穂

2015 年度（整理）
整 理 期 間　2015 年 4 月 1 日～ 2016 年 3 月 31 日
調 査 主 体　新潟県教育委員会（教育長　高井 盛雄）
調　　査　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　土肥　茂　（公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団　事務局長）
管　　理　松田　祐　（　　同　　総務課長）
庶　　務　仲川 国博　（　　同　　班長）
監　　理　鈴木 俊成　（　　同　　調査課長）
支 援 組 織　株式会社ノガミ
　調 査 指 導　戸根 与八郎（株式会社ノガミ　埋蔵文化財調査部　調査室長）
　調 査 担 当　秋山 泰利　（　　同　　調査員）
　作　業　員　秋山 やよい・鈴木 理恵

B　調査の経過

4 月 5 日、本発掘調査に必要な測量基準点を設置した。4 月 10 日、調査前の地形測量を行った。4 月 14 日午前、土層観察を目的としたベルトを設定した。土層観察ベルトは、調査区を縦断する南北ベルト 1 本、調査区を横断する東西ベルト 3 本である。同日午後、作業員を投入し、調査区北西端から重機による表土掘削を開始した。この作業で近代の水路敷設に伴う深さ 60cm 以上の撹乱が調査区北辺際に平行していたことから、この撹乱を土層観察と排水を兼ねることを目的にすべて除去した。断面観察の結果、Ⅲ a 層で炭化物が微量見つかったが、中世以前の遺構・遺物は検出されなかった。表土掘削が終了したところから順次遺構検出を行った。4 月 22 日、4･5G グリッドで直径約 5m、さらにその内側に直径約 1.5m の円形プランをもつ遺構が見つかった。周辺遺跡で検出されたような井戸側や曲物が設置される大型井戸であることが想定された。4 月 23 日、調査前現況の水田畦畔（南北ベルト 5E グリッド）での断面観察を行った。観察の結果、畦畔は擬似畦畔（Ⅱ層：中世の遺構検出面）であることが判明した。ここでは中世の遺物

包含層は認められず、その下のⅡ層も約 25cm 削平されていることを確認した。したがって、掘り込みが浅い遺構は残っていない可能性がある。また、調査前現況が水田であったことから、Ⅱ層上面や遺構埋土がグライ化していることを確認した。以上のことから、掘立柱建物の認定にあたっては、ピットの深さよりも、配列状況を判断の優先においた。4 月 24 日、設定したベルトに沿って排水と土層観察を目的とする開渠掘削を行った。開渠を設定した位置にピットや井戸がかかることから、開渠部の遺構調査を優先させ、写真撮影・平面測量などの記録をしたのちに開渠を掘削した。遺構埋土は、酸化鉄・マンガン粒の沈着やグライ化しているものが多いが、遺構プランは識別可能なものが大半であった。4 月 25 日、下層（中世以前、特に縄文時代晩期の文化層）の有無を確認する目的で幅 3.6m × 3m、中世の遺構検出面からの深さ約 1.6m（標高約 5.0m）のトレンチを調査区東壁（7E グリッド・第 9 図②）に設定して掘削した。調査の結果、遺構・遺物は認められなかった。トレンチは翌日埋め戻した。5 月 1 日、調査区北側から本格的に遺構掘削を開始した。5 月 9 日、ベルトコンベアを設置した。排土置き場が農道を越えた位置にあることから、調査区内の一画に 4 トンダンプを停車させ、ベルトコンベアから直接積載して運搬した。5 月 14 日、SE201 は平面が円形で、断面形が漏斗状を呈し、検出面からの深さ約 1.7m にある砂層を掘り抜いていることが判明した。このことから、底部に曲物が設置されていると推測したが、人力での掘削限界と判断した。これらの遺構については、人力での遺構掘削後、重機を利用しての深掘り調査を行うこととした。調査前現況の水田用水用塩化ビニール管を一旦撤去した。5 月 19 日、一時的な排土置き場を除いて、重機による表土掘削を終了した。

6 月 30 日、県教委と調査区南側を拡張する協議をしたが、遺構が希薄であることから拡張しないことを決定した。8 月 2 日、現地説明会を開催し、105 名が参加した。8 月 5 日、一時的な排土置き場の表土掘削を行い、溝・土坑・ピットを検出した。9 月 11 日、県教委が終了確認をした。9 月 12 日、航空写真を撮影した。9 月 22 日、重機を利用して井戸の深掘り調査（以下、断ち割り）を開始した。調査前現況の水田の用水溝（U字溝）は、遺構にかかる箇所を取り外した。9 月 26 日、中世以前の文化層の有無を確認する目的で、調査区南壁（10T グリッド・第 9 図⑦）に幅 5.4m × 4m、中世の遺構検出面からの深さ約 2.8m（標高約 4.0m）のトレンチを設定して掘削した。調査の結果、遺構・遺物は認められなかった。トレンチは即日埋め戻した。9 月 30 日、調査掘削・平面測量が終了した。10 月 1 日、断ち割りをした井戸の埋戻しを行った。10 月 2 日、取り外した用水用の U 字溝の復旧を開始し、3 日に終了した。10 月 6 日、調査区外の農道の補修作業を開始し、7 日に終了した。2015 年 3 月 4 日～ 7 日、調査前現況の水田に附属する塩化ビニール管の復旧を行い、すべての現地調査に関連する作業を終了した。

C　整理の経過

出土遺物の水洗、註記、接合と遺構図の基礎整理を現地作業棟で、本発掘調査と併行して行った。12 月 1 日から、株式会社ノガミ埋蔵文化財調査室で本格的な整理作業に着手した。年度内に遺構図の整理と遺物の接合・復元・実測を行い、報告書図版の仮レイアウトと原稿執筆の大半を終了した。平成 27 年度は編集作業を行い、報告書を印刷・刊行した。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

新町遺跡は新潟県阿賀野市大字百津字新町に所在（第５図）し、阿賀野川右岸の自然堤防上に立地する。新町遺跡が位置する旧水原町は、近隣の旧安田町、旧京ヶ瀬村、旧笹神村と合わせて水原郷と呼ばれる。現在の所在は阿賀野市で、2004（平成 16）年に水原郷内の町村が合併して成立した。

遺跡の東には五頭山（912.5m）を代表とする五頭連峰が位置し、その西側には標高約 100 mの笹神丘陵が五頭連峰に沿うようにある（第７図、図版 58）。笹神丘陵は陶土や、鉄を含む花崗岩が潤沢で［中野 1968］、古代～中世の頃には土器や鉄の生産が活発な地域であった。現在においても屋根瓦（安田瓦）の一大生産地が所在している。

笹神丘陵の西側に広がる沖積平野は、主に水原郷の西側を流れる阿賀野川によって形成された。「阿賀野川が流れる新潟平野は、海岸線に沿って砂丘群が発達し、河川の海への流出口を狭くしている。この地形のため、洪水時になると河川の水が海に流出しづらく氾濫をおこしやすい。阿賀野川は氾濫を繰り返すことによって流路を変え、自然堤防、三日月湖（河川湖）を作り、旧河道の痕跡を残してきた」［浦部 2001］。当遺跡から西側の阿賀野川右岸には、旧河道の痕跡が確認できる（第５図）。遺跡近くの近世における阿賀野川の流路変遷については小田［2001］・古澤［2011］に詳しい。第５図の①は 1911（明治 44）年阿賀野川第一期改修工事以前の河道である。②は『正保越後国絵図』（正保２（1645）年　新発田市立図書館蔵）に記されている河道で、③はすでに河川湖（百津潟と記載）となっている［浦部前掲］（第６図）。

旧百津潟周辺の開発については、「五十嵐甲家文書」に享保元（1716）年、百津村が百津潟の地元権について訴えを起こし［水原町史編さん委員会 1978］、享保２（1717）年の江戸評定所で判決され、その落着證文によれば、「百津潟之義百津村申上候潟は従古来之在り候村名は百年余以前吉田町を百津と改申候」『為取替證文之事』とある。また、同史料には、「水帳にも潟之廻りに在之地面各所百津畑と名載り申候中潟村の者四十年余以来潟之内に新田所持仕候」とあり、18 世紀初頭には百津潟及びその周辺では耕作がなされていたようである。

第５図　河道の変遷と土地利用

（大日本帝國陸地測量部地形図　「新潟」「新津」1:50,000 原図　大正３年発行）

江戸時代中期頃の北蒲原郡は、江戸などの大消費地にむけた絹を出荷するため、桑栽培地となる［山崎 1985］。明治時代の初めには養蚕が奨励され、これ以降は国力増強とも相まって水原郷の養蚕は収繭量・品質において水原繭市場として著名で

あった［水原町史編さん委員会 1982］。第５図は、大正期の地図中に記されている水田と桑畑を色分けしたものである。自然堤防などの高いところに桑が植えられていた。

1932（昭和７）年に竣工した南部耕地整理組合阿賀野川用水取水工事及び水田造成は、桑畑のあった自然堤防上にもおよび、53 町歩の桑園を喪失することとなった［水原町史編さん委員会 1982・1984］。これは、当該地域における桑栽培から水稲栽培への転換の契機といえよう。それ以降も、幾度かのほ場により水田域が拡充し、阿賀野市は現在のような豊かな穀倉地となった。

第６図　百津潟とその周辺の村

（正保２年『正保越後国絵図』新発田市立図書館蔵に加筆）

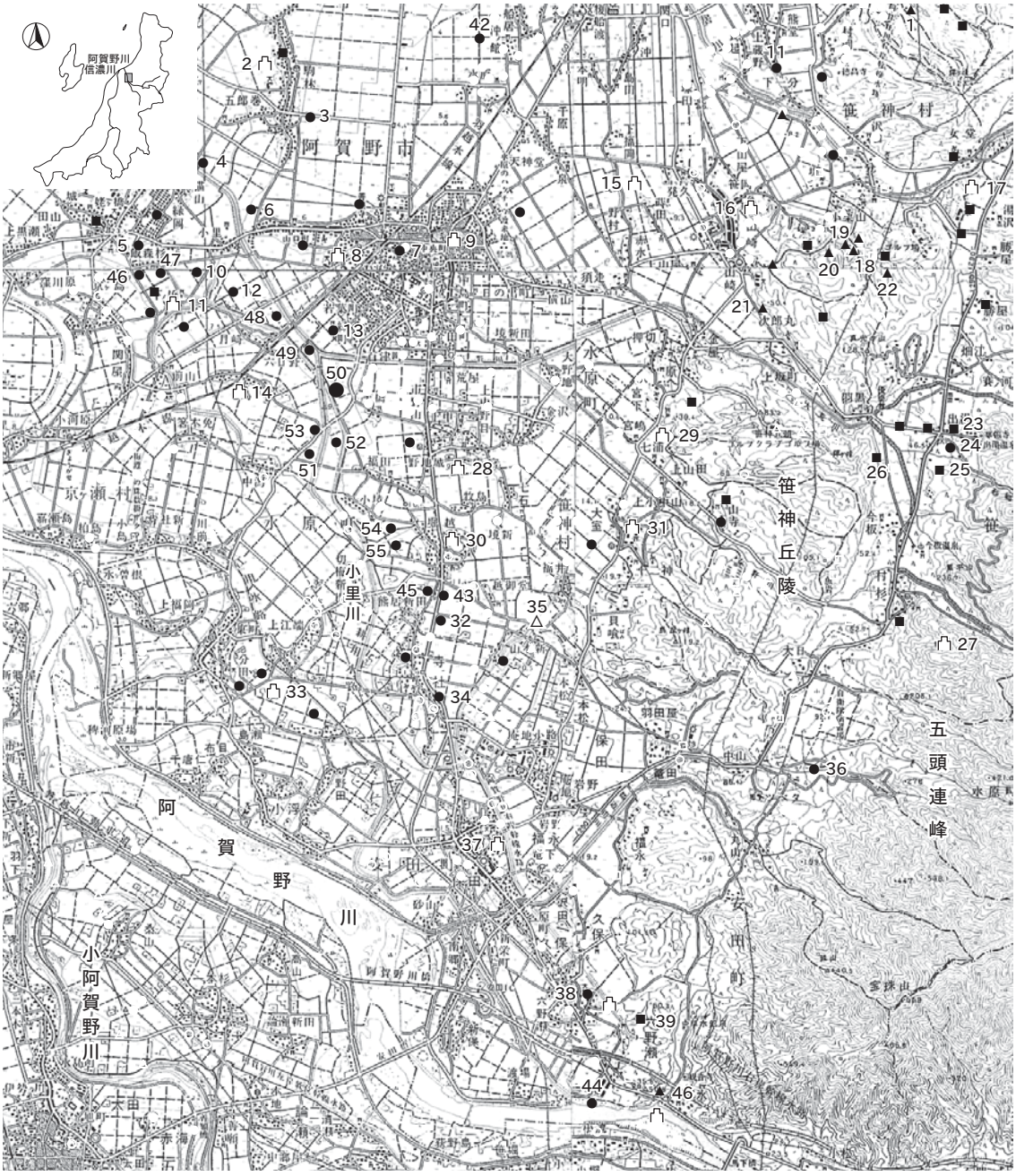
2　歴史的環境

南北朝時代、越後における南朝勢の動きが激しくなった暦応４（1341）年頃、室町幕府が越後に派遣した鎌倉幕府執事（のちの関東管領）の上杉憲顕が実質的に守護の役割を担うこととなった。観応の擾乱（じょうらん）期を経て、貞治６（1367）年には長尾高景が守護代となり、その後、守護上杉氏と守護代長尾氏による支配体制が 16 世紀前半まで続く。新町遺跡の存続期間は 15 世紀後半～ 16 世紀初頭と考えられ、その前後には大きな二つの騒乱が起きている。応永 30（1423）年、越後支配の実権を握っていた守護代長尾邦景（守護代方：堀越館（30）・水原館（９）ほか[註1]）と守護上杉頼方（守護方：笹岡城（16）ほか[註2]）との間で争いが起き、揚北（あがきた）における国人もそれぞれに分裂して大乱となる。いわゆる応永の大乱である。当遺跡が終焉をむかえる 16 世紀初頭には、「長尾為景様永正三年ノ時五十嵐石田大須賀高家一党逆心ノ輩共追罰有テ（後略）」『永正三永禄三御太刀之次第』［新潟県 1982］とあり、上杉一門で地方の守護や領主に対し権威をふるい、政治的にも大きな影響力をもっていた八条家と守護代長尾為景との間に権力闘争が起きる（「高家」とは八条家と考えられる［森田 2004］）。そして、守護上杉房能が没したのちの永正４（1507）年には、北蒲原郡において本庄時長らが挙兵するなどの事態となっている［高橋 1971］。北蒲原郡での争いは翌永正５（1508）年には終結し、守護上杉定実・守護代長尾為景という権力体制が構築されるが［森田 2004］、これ以降も断続的に騒乱が続き、亨禄３（1530）年からは亨禄・天文の乱となる。いずれの大乱も、越後の統治権（越後守護職と関東管領職）をめぐる争いによってもたらされたものである。

新町遺跡の時期は、この二つの大乱にはさまれた上杉房能の父・守護房定の時代にあたる。宝徳 2（1450）年、上杉房定は先の大乱で勝利した守護代長尾邦景を討ち、越後に留まり政を執る。文明 18（1486）年には、守護としては異例の従四位下の位階を受けている［森田 2004］。また、大乱とは対照的に都からの僧侶・文人・商人の往来で連歌会などが越後各地で開催され、比較的安定した時期であることが窺える［矢田 1999・佐藤 2006］。

１）［田村 2004］によると、白河氏・大見氏・水原氏などが守護代方についたと考えられている。なお。堀越館は、守護方の上杉頼藤によって陥落させられたという。

２）『秀叟記録』によると、守護代討伐の幕府命を受けた中条房資が笹岡城に入っている。



第 7 図　周辺の中世遺跡分布

（国土地理院地形図「新潟」「新発田」「新津」「津川」1:50,000 原図　平成 14 年発行）

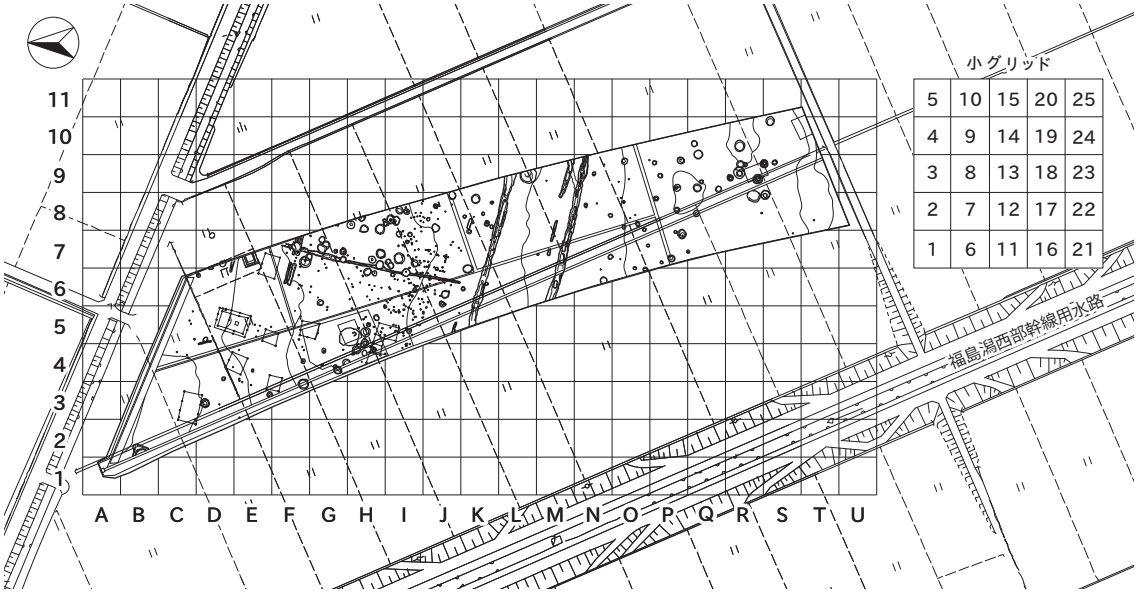
No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	甚兵エ沢窯跡	室町	15	滝沢屋敷跡	室町	29	山浦城跡	室町	43	庚塚	古代・中世
2	駒林要害跡（駒林城）	室町	16	笹岡城跡	南北朝	30	堀越館跡	室町	44	六野瀬	縄文・弥生・中世
3	土井内西	平安・中世	17	女堂館跡	室町	31	大室城跡	室町	45	狐塚	弥生・中世
4	大割	中世	18	堤上窯跡	室町	32	鴨深甲	平安・中世	46	村前東A	古代・中世
5	町道上	中世	19	兎沢窯跡	室町	33	分田館跡（館の越館）	室町	47	村前東B	中世
6	羽萱場	中世	20	狼沢中世窯跡	室町	34	大坪	縄文・弥生・平安・中世	48	境塚	縄文・弥生・古代・中世
7	七面堂	中世	21	権兵衛沢窯跡	室町	35	横峰経塚群	中世	49	山口野中	縄文・平安・中世
8	下条館跡（館の越城）	室町	22	背中炙窯跡	鎌倉	36	滝山	室町	50	新町	室町
9	水原館跡	室町	23	経沢中世墓域	鎌倉～室町	37	安田城跡	室町～江戸	51	石船戸	縄文・平安・中世
10	柄目木	古代・中世	24	目洗沢中世墓域	鎌倉～室町	38	北郷	平安～南北朝	52	石船戸東	縄文・平安・室町
11	下の橋館跡	室町	25	蓮台野中世墓域	鎌倉～室町	39	六野瀬館跡	南北朝～室町	53	石船戸北	縄文・中世・近世
12	山口	弥生・古代・中世	26	今坂	室町	40	赤坂山中世窯跡	中世（鎌倉）	54	蕪木	平安・中世
13	三辺稲荷	弥生・古代・中世	27	村杉城	室町	41	壱本杉	古代・中世	55	向野	古代・中世
14	七島館跡（長谷川館）	中世	28	野地城跡（庄や屋敷）	室町	42	台田	古代・中世			

第 1 表　周辺の主な中世遺跡

第Ⅲ章　調査の概要

1　グリッドの設定

調査区を覆う形で 10m 方眼を組み大グリッドとした（第８図）。グリッドの方向は、真北を基準に設定した。国家座標の X 座標 =202710（北緯 37° 49′ 28″）、Y 座標 =62830（東経 139° 12′ 49″）を起点（１A）とした。大グリッドの横軸方向は北西側から算用数字を１～ 11、縦軸方向はアルファベットを A ～ U で昇順に付した。両者を組み合わせて、「5E」のように表記した。小グリッドは北西隅を起点として配列し、大グリッドを２m 方眼に 25 分割して算用数字を付した。大グリッドに続けて「5E12」のように表記した。なお、国土地理院 2014『平成 23（2011）年東北地方太平洋沖地震に伴う座標補正パラメータ及び公共測量成果改定マニュアル』が公開されているが、北陸地方整備局新潟国道事務所「一般国道 49 号水原バイパス（16 工区）計画平面図（その１）」が平成 19 年に作成されていることから、これに準拠し、震災前の座標を用いた。グリッド設定時に起点とした「1A」の補正した座標値は、国家座標の X 座標 =202709（北緯 37° 49′ 28″）、Y 座標 =62831（東経 139° 12′ 49″）で、「11U」は X 座標 =202509（北緯 37° 49′ 33″）Y 座標 =62931（東経 139° 12′ 41″）となる。



第８図　グリッド設定図

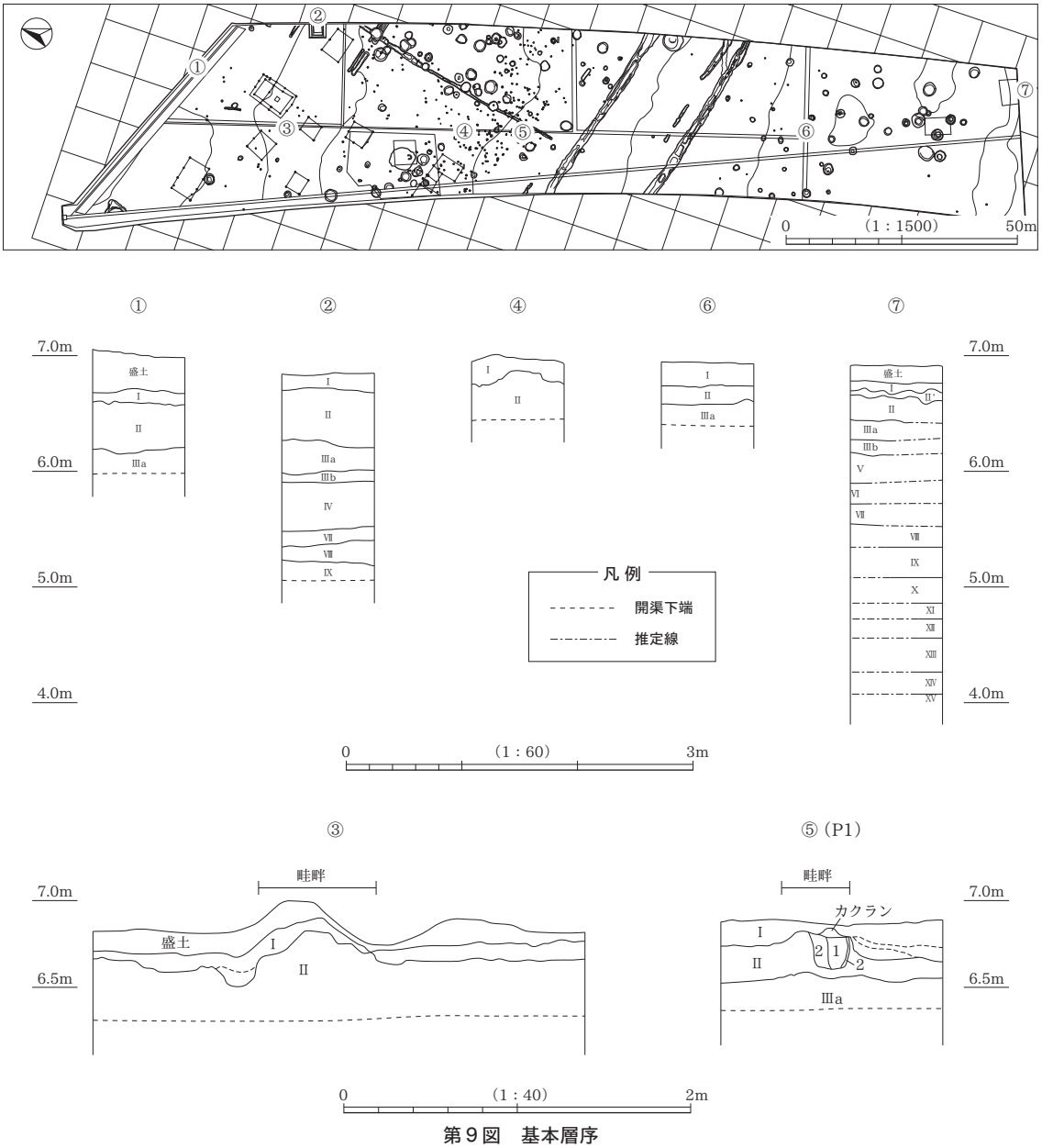
2　基 本 層 序

1933（昭和 8）年の福島潟西部幹線用水路の築堤工事によって遺跡の上部は著しく削平された。そして、平成 20 年度の試掘調査では今回の調査地点を含む広範囲に包含層やその相当層が遺存しないことが明らかとなっている［田海 2009］。本発掘調査では、改めて削平の程度を知るために、削平後の水田造営に伴う撹拌の影響が少ない畦畔上（4・5E グリッド）で土層の観察を行った。その結果、削平の度合いを知ることはできなかったが、畦畔上に包含層は残っておらず、削平後の水田造営による撹拌が、Ⅱ層（中世

遺構検出面）残存部上位から 25cm 前後およんでいることを確認した（第 9 図③、図版 59）。昭和 8 年の削平とその後の水田造営による撹拌は、中世の包含層に留まることなく、その地山（Ⅱ層）へも深く及んでいることが理解できた。

Ⅳ層は北側で、Ⅴ・Ⅵ層は南側でのみ認められる層であるが、Ⅲａ層以下は、相対的に南から北西へ緩やかに傾斜する。その上のⅡ層は、上部が削平されているものの、下層の状況から同様の傾斜であったと考えられ、中世集落もこのような緩やかな傾斜地に営まれた可能性が高い。

なお、当遺跡からは平安時代の遺物が少量出土し、周辺に位置する境塚遺跡・石船戸遺跡・石船戸東遺跡においては縄文時代後期～晩期の文化層が検出されている。そこで、中世以前の遺跡の有無を確認するため 7E グリッド（②）と 10T（⑦）グリッドで重機によるトレンチ調査と遺構壁面での検出作業を実施したが、遺構・遺物とも確認していない。したがって、当遺跡の時代はほぼ中世に限定される。



第 9 図　基本層序

Ⅰ層：水田耕作土

Ⅱ′・Ⅱ層：浅黄橙色シルト（10YR8/5）。よく締まる。Ⅰ層との層界はグライ化し、Ⅱ層上面からの深さ約 10cm まで（Ⅱ′層）が灰白色シルト（2.5Y8/1）・青灰色シルト（5PB6/1）を呈する箇所があり、下部には酸化帯が見られ、マンガン粒が多量に沈着する。

最大約 20cm の深さで水田耕作による撹拌を受ける。F ～ I グリッドでは、遺構プランが明瞭でなく、グライ化土を除去したあとにプランを確定したものもあったが、大半はⅡ層上面で識別可能であった（中世の遺構検出面）。

Ⅲａ層：浅黄橙色シルト（10YR8/5）。よく締まるが、Ⅱ′・Ⅱ層に比べて粘性が弱い。調査区南側では細砂が少量含まれる。約 10mm 角の炭化物を含むが、50m の距離で 3 片が確認できる程度である。

Ⅲｂ層：Ⅲａ層に比べて還元していることから分層した。色調はⅣ層に似るが、土質はⅢａ層と同様であることからⅢ層をａ・ｂに細分した。Ⅲ層堆積後の環境下で変化したものと考えられる。

Ⅳ層：明黄褐色砂質シルト（10YR6/6）。細砂を多量に含み、シルトの割合は極めて低い。その中でも、シルトは本層の上半部及び断続的に底部に認められるが、全体的に細砂が含まれることからⅣ層に包括した。基本層序として記録した箇所は第９図②であるが、井戸の壁面における観察で当該層が確認できるのは、おおむね７グリッドライン以東かつⅠグリッドライン以北である。

Ⅴ層：浅黄橙色粘質シルト（10YR8/3）。細砂を少量含む。おおむねＮグリッドライン以南で認められる。

Ⅵ層：浅黄橙色粘質シルト（10YR8/3）。Ⅴ層に比べて色調がやや明るく、粘性が強い。細砂を少量含む。おおむねＮグリッドライン以南で認められる。

Ⅶ層：浅黄橙色粘質シルト（10YR8/3）。Ⅵ層に比べて締まらない。調査区北側では、上部にⅦ層に細砂が少量含まれ、わずかに還元色を呈するが、調査区北側と南側とでは土質に大差は見られない。

Ⅷ層：灰白色粘質シルト（10YR8/2）。シルトの割合が高い。粘りがないことからパサパサした触感であるが、上下の層とは対照的に締まる。

Ⅸ層：灰色粘質シルト（N6/）。Ⅷ層に比べてシルトの割合が低く、粘性の割合は高い。本層以下の土色は還元色を呈する。

Ⅹ層：灰色粘質シルト（N6/）。Ⅸ層に比べてやや明るい色調である。Ⅸ層とは色調の濃淡で識別した。

ⅩⅠ～ⅩⅢ層：灰色粘質シルト（N5.5/）。粘性が強く、締まらない。炭化した植物遺体が少量含まれる。黒色粒が斑点状に少量含まれるが、指先ですり潰しても伸びない。植物遺体の一種と判断される。

ⅩⅣ・ⅩⅤ層：青灰色粘質シルト（5PB6/1）。粘性が強く、締まらない。ⅩⅠ～ⅩⅢ層に比べて粘りがあり、炭化した植物遺体は少ない。

ⅩⅥ層：砂層

第Ⅳ章　遺　　構

1　概　　要

遺構は、調査区北半部で掘立柱建物・井戸・溝・ピットを検出したのに対して、南半部では井戸は多いものの溝やピットは極めて少ない。SD101 以南で検出したピット数は、それ以北の約 5% である。前述（第Ⅲ章２）したように、上記した遺構分布の極端な濃淡は、旧地形（南から北西へ傾斜）が大正期の大規模な削平とその後の水田造営による削平・撹拌が大きな要因と考えられ、本来は調査区全体に各種の遺構が分布していたものと推測する。

2　記 述 方 法

遺　構　名

遺構記号と通し番号を組み合わせて表記した。遺構記号は、形態や機能に応じて、掘立柱建物＝ SB、溝＝ SD、井戸（掘方が透水層に達しているもの）＝ SE、土坑（長径 50cm 以上で柱穴でないもの）＝ SK、ピット（柱穴に限らず、長径 50cm 未満のもの）＝ P とした。番号は、遺構の種別に関わらず通し番号とし、「SE65」などと表記した。基本的には固定番号方式を採用し、検出段階で遺構の番号を付したが、調査の結果遺構と認識しなかったものは、その番号を欠番とし番号の付け直しはしていない。ただし、掘立柱建物に限り、検出した順に１～９までの番号を付し、「SB1」などと表記した。したがって、遺構番号の数は遺構数と一致しない。

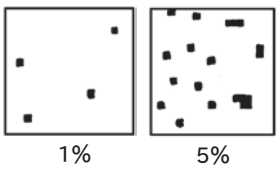
土 層 観 察

色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帖 2006 年度版』（以下、『標準土色帖』）に拠った。標本色と色片色に差がある場合、『標準土色帖』に準拠し、本文・図面図版中では、近接する土層と比べ「より明るい」・「より暗い」と記したものもある。

当遺跡の土質・締まりを観察するにあたって、柄目木遺跡の記載方針が適していると考え、これを参考にした［高橋・真壁・石垣 2013］。以下、引用する。「遺跡の土質は、基本的には「シルト」であり、粘性の強い部分と弱い部分がある。より粘性の強いシルトを「粘質シルト」、粒子が細かく粘質シルトより粘性の強いものを「粘土」、より砂質のシルトを「砂質シルト」として区別した。（中略）しまりは、個人の感覚的要素が特に多い記載である。殊に、乾燥の度合いによって記載の内容が左右されることがあるため、上下の土層との相対差を示す記載を加えた」。ただし、本報告では加藤［前掲］の「粘土」を「粘質土」とした。

混　入　物

『標準土色帖』を参考に、断面積に含有する割合を記載した（第 10 図）。1％未満を「微量」、1％以上５％未満を「少量」、5％以上を「多量」と表記し、上下の土層と比較してその差を示す記載を加えた。



第10図　断面積に含有する割合
（『新版 標準土色帖2006年度版』）

本　　文

遺構種別ごとに記載した。記載のない遺構については、観察表を参照されたい。「3 各説」の遺構名に続く（　）内には、検出した遺構の数を記した。

遺構観察表

遺構種別ごとに観察項目を設け記載した。各種観察項目のほかに、報告遺物番号を加えた。溝を除いた遺構の平面形状･断面形状の分類は加藤［1999］（第 11 図）、埋土の堆積状況の分類は荒川［2004］（第 12 図）に準拠した。遺構の切り合い関係は、「＞」･「＜」の記号を用いた。「A ＞ B」は「A は B より新しい」、「A ＜ B」は「A は B より古い」である。主軸方向は、掘立柱建物と溝にのみ用いた。真北から角度を測定して「N-25°-E（経線を軸に東へ 25°傾く）」のように記載した。すべての方位の表記を真北から時計回りに測った方向角に統一した。

図 面 図 版

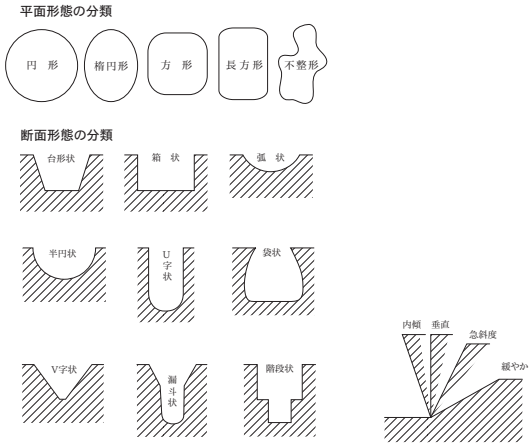
遺構図面は、遺構全体図、遺構分割図、遺構個別図で構成される。図面の縮尺は、遺構全体図：1/600、分割図：1/200、遺構個別図：1/40、掘立柱建物の平面図・セクション図・エレベーション図：1/60 を基本とした。ただし、状況に応じて前述した縮尺でない遺構もあるため、図版中にスケールを示した。

写 真 図 版

遺構個別図で掲載した遺構を中心に種別順に掲載した。すべての遺構写真を掲載したわけではない。

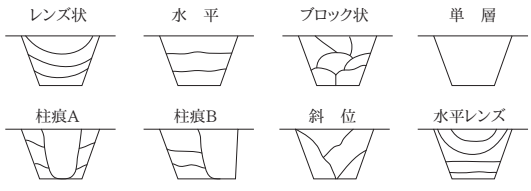
円形	長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の1.2倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上のもの。
不整形	凸凹で一定の平面形を持たないもの。

台形状	底部に平坦面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面を持たない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
U字状	確認面の径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
袋状	確認面の径よりも深さの値が大きく、内傾した後に垂直ないし外傾して立ち上がるもの。
V字状	点的な底部を持ち、急斜度に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。



第11図　遺構の平面図・断面形状の分類（［加藤1999］から転載・一部改変）

レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
水平	複数層が水平に堆積する。
ブロック状	ブロック状に堆積する。
単層	覆土が単一層のもの。
柱痕A	柱痕が掘形の平面の中ほどにあるもの。
柱痕B	柱痕が掘形に接するもの。
斜位	斜めに堆積するもの。
水平レンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。



第12図　埋土の堆積形状の分類（［荒川2004］から転載・一部改変）

3　各　　説

A　掘立柱建物（9 棟）

1）記載の方針

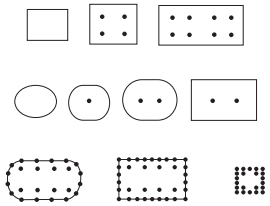
建物型式は、春日真実氏の分類［春日 2009］を参考に、宮本長二郎氏の分類［宮本 1999・2002］に拠り、梁間一間型（第 14 図）・平地住居（第 13 図）に分類した。梁間一間型には平面形式を類型化したⅠa 型、Ⅰb 型･Ⅲ型を検出した（第 14 図）。このうち、妻柱と判断できなかったものは側柱建物（梁間一間型）とした。平地住居は検出していないが、北陸地方の平野部に検出例があることと、「後世に掘り込みが削平された竪穴建物が含まれている可能性がある」［春日前掲］こと、特殊な竪穴建物とは認識していないものの、保管や貯蔵を目的とした「倉」･「庫」としての機能を考慮して、竪穴構造式を分類の対象とした。平面のタイプで竪穴構造型とだけ表記した。

建物の部位名称は、川畑誠氏の「掘立各部の呼称」［川畑 1995］と春日真実氏の「部位名称」［春日前掲］を参考に、掘立柱建物の計測は荒川隆史氏の「計測位置」［荒川 2006］を参考に第 15 図に示した。

建物の面積は、川畑誠氏に従い、身舎の面積（廂・下屋を除いた部分の面積）とした［川畑前掲］。

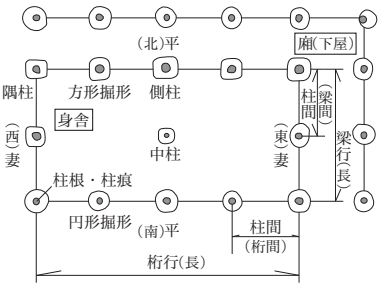
柱間寸法は、柱痕の中心を基点とし、柱痕が検出できなかったものは掘形の平面の中ほどを基点として計測した。本文中には、必要に応じて各計測値の平均値とばらつきを「2.31 ± 0.22m」のように記載したものがある。ばらつきは「3 σ（σは標準偏差）」とし、対象となる数値全体の 99.73％が収まるようにした。柱根は出土していないが、柱痕の柱間に対する割合を記載したものがある。本文中と観察表では、柱痕の柱間に対する割合を「木割」と表記した。

計測したすべての情報は観察表に記した。



第 13 図　平地住居の平面類型

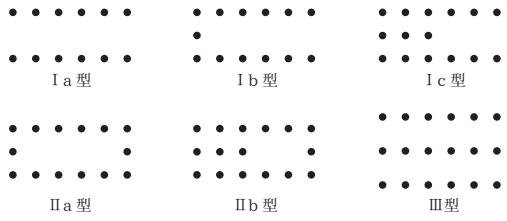
（［宮本 2002］から転載、改変）



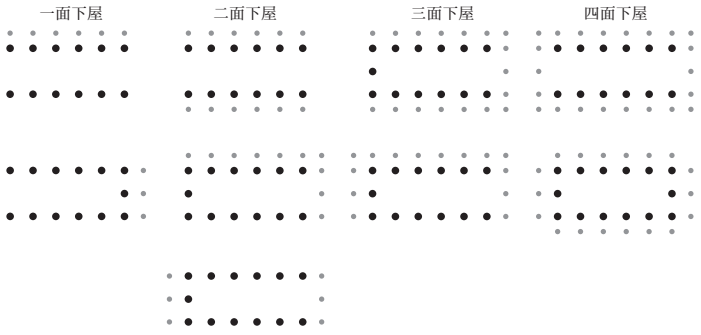
面積：身舎の面積（廂・下屋を除いた面積）。
柱間寸法：単位は m、偏差値採用、標準偏差は「3σ」。
木割：柱痕の柱間に対する割合。

第 15 図　建物の部位名称

（［川畑 1995・荒川 2006・春日 2009］を参考）



梁間一間型住居平面類型



梁間一間型住居下屋分類

第 14 図　梁間一間型建物の構造形式（［宮本 1999］から転載・改変）

2）概　　要

柱穴は各々の柱が自立する形態で、これらが方形（長方形）平面を基本形として配置されているものを掘立柱建物とし、9 棟認定した。検出した建物は SD101 から北側、かつ SD327 から西側に位置する（図版 1）。9 棟のうち、総柱型は 1 棟（SB8）、梁間一間型は 4 棟（SB1・2・7・9）で、このうち廂が付く建物は 1 棟（SB1）、竪穴構造型は 2 棟（SB4・5）、側柱建物は 2 棟（SB3・6）である。

建物の桁行方向（以下「主軸」や「主軸方向」とも呼ぶ）は、11 ～ 18° 東偏する南北棟（SB1・5・7・9）と 103 ～ 113° 東偏する東西棟（SB2 ～ 4・6・8）とに大別することができる。建物同士の直接的な切り合い関係はないことから、主軸方向による時期差は不明で、異なる主軸をもつ建物同士が併存していた可能性もある。

柱穴の平面は、SB7 のすべてが方形で、これ以外はおおむね円形を呈する。断面形態は、SB3 － P229・SB5 － P238 が底部に平坦面をもたないが、後者からは礎盤石が出土している。柱の抜き取られたものは、SB8 － P503 にその可能性が窺える。これを除く柱痕は、断面での堆積形状の観察から、根入り部分が腐食したものと考えられる。柱根は遺存していない。柱痕には、平面の中ほどに認められる「柱痕 A」と壁面に接している「柱痕 B」とがある。柱痕 B は、SB4 － P236・SB8 － P508 の 2 基が認められ、掘立柱建物を構成する柱穴 69 基の 2.9％に過ぎない。

調査前現況が水田であったためか、埋土がグライ化しており、同一建物を構成する柱穴であっても埋土の色調やその彩度に若干の違いが見られる。

SB1・2・8 は、棟通りの中央の桁行柱間が短いが、遺構数が少ないことから柱間寸法の詳細な比較検討はしていない。しかし、柱間寸法や柱材の規模・設置状況が建物構造の違いを探る手がかりになるのではないかと考え、本文中に記すとともに観察表の項目にも加えた。

発掘調査時に建物を検討していたもので、柱穴が同一の建物を構成すると認められなかったものについて、以下に記す。8I・J グリッドに位置する P283 ～ P287・P297 は（図版４・５）、その配置状況から総柱型ないしは梁間一間型建物Ⅰｃ型を想起させるが、検出面からの深度が浅く、グライ化の進行したものが大半で、Ⅱ層と埋土の区別が明確でない。5I・J、6I・J グリッドに位置する P358 ～ P363・P370・P374 は（図版４）、SB1・5・7・9 の主軸方向に近似して長方形状にピットが配されるが、底面標高・掘形に大差がある。6I・J、7I・J グリッドに位置し、SB1・5・7・9 の主軸方向に近似して存在するピット群は（図版４）、長方形状に配されているようにも見えるが、形状や深さに大差があり、かつ大半は柱穴と認められないものである。

3）各　　説

SB1（図版 3・7・62・66）

5D・E グリッドに位置する。梁間 3 間、桁行 3 間の四面廂が付く梁間一間型建物である。桁行（廂を含む）長 8.73m、梁行（廂を含む）長 5.79m、桁行長 7.08m、梁行長 4.42m を測り、桁行長の 2 分の 1 の距離が梁行長とほぼ同じになる。

身舎の柱筋の通りは悪い。東平は P30 ～ P32 までは通りが良いが、P33 が東へ張り出し、隅柱を直線で結ぶと P31・P32 を通らない。西平では、P35 は通るが、P36 がわずかに内（東）側に入り込んでいる。柱間寸法は、2.31 ± 0.22m で近似値を示す。柱穴の平面はおおむね円形で、断面は台形状を呈

するものが多い。底面標高にはばらつきが見られ、P34・P36 の埋土 1 層は柱痕とするべきか判断に迷う。P30 は、底面の中ほどにグライ化した円形の柱アタリを検出した。埋土はブロック土が充填するが、抜き取り痕は認められない。隅柱にあたる P30・P33・P37 は相対的に根入りが深く、特に P33 とその対角線上に位置する P37 が最も深く検出面からの深さはそれぞれ 35・36cm である。柱痕径は 14.5 ± 0.04cm、柱痕の柱間に対する割合は 6.3% で建物の大きさに対して細い柱を用いている。P38 は P31 と P36 を結ぶライン上に位置し、柱筋の通りは良いが、柱間寸法に 50cm 程度の差がある。P30 と P37、P32 と P35、P33 と P34 の間にそれぞれ柱穴がないことから総柱型を取り込む形式とは考えられない。根入りは 30cm と相対的に深いものの柱痕径が 8cm と細いことから間仕切りとしたいが、明確でない。

廂部も柱筋の通りが悪い。東平は、P43 ～ P45 までの通りは良いが、P41 が内（西）側に寄っており、隅柱を結ぶと P43 と P44 を通らない。西平では、東平の P44 － P45 と P48 － 49 が並行するが、P50 が若干内（東）側に入り込んでいる。妻も柱筋の通りが悪く、特に内側の 2 基（P46・P47）は外（南）に張り出している。平の柱間寸法は 2.54 ± 1.14m、妻の柱間寸法は 1.86 ± 0.58m とばらつきが見られる。しかし、平と妻のいずれも内側に位置する 2 基の柱間寸法（P39 － P40、P46 － P47、P43 － P44、P49 － P50）に比べて隅柱からの柱間寸法（P40 － P41、P45 － P46、P47 － P48、P41 － P43、P44 － P45、P48 － P49）が長いという共通点がある。西平の北西隅柱が撹乱のため検出できないことと、P34・P36 と同様に P48 埋土 1 層を柱痕と判断するには遺存状態が悪いことを考慮しなければならないが、本遺構は妻の 2 基の柱間が短く、かつ外（東西）側に張り出す廂を有する形態と考えられる。同様のものに SB2･8 がある。柱痕径は 12.8 ± 0.02cm、木割は 5.6% で、身舎との柱痕径に大差は見られない。

P31・P39・P40・P47 は、断面図では柱痕が壁に接しているように見えるが、遺構調査時にやや斜めに掘り込まれていることを確認している。遺物は出土していない。

SB2（図版 2・8・63）

2C･D、3C･D グリッドに位置する。梁間 1 間、桁行 3 間の梁間一間型建物Ⅰ a 型である。桁行 7.82m、梁行 4.88m である。柱筋の通りが良く、妻・平は、ともに柱間寸法が対辺と近似した値を示す。両平の柱間寸法は 2.58 ± 0.21m であるが、P204 － P206、P207 － P208、P209 － P210、P211 － P213 では 2.6 ± 0.18m で、P206 － P207、P210 － P211 では 2.51 ± 0.1m となる。わずかながら平の内側 2 基の柱間が短い。隅柱が外側へ開く形態で、同様のものに SB1･8 がある。柱痕径は 19 ± 0.5cm で、木割は 6.3% である。底面標高は、P204 が突出して浅いが、6.25 ± 0.23m 程度である。遺物は出土していない。

SB3（図版 3・8・63）

4D・E グリッドに位置する側柱建物である。柱間寸法は 4.45 ± 0.47m であるが、対辺と近似した値を示す（ただし、北側は P223 － P226 間とする）。柱穴平面はおおむね円形を呈するが、断面形状にばらつきが見られる。いずれのピットからも柱痕は認められない。埋土は褐灰色シルトとにぶい灰白色シルトのブロックが充填するが、柱抜き取り痕も認められない。P223 以外のピットの底面標高は 6.31 ～ 6.38 m であるのに対し、P223 は 6.05m と突出して低い。しかし、隅柱の配置が均等なことと、柱筋の通りが良いというピットの配列状況を考慮して建物と認識した。遺物は、P228 の 3 層から珠洲焼（122）が出土している。

SB4（図版 3・9・63・64）

3E・F、4E・F グリッドに位置する竪穴構造型である。柱間寸法は 3.35 ± 0.45m であるが、対辺と

近似した値を示す。柱穴平面はおおむね円形を呈し、いずれも底部は平坦である。P235 は、明確な柱痕が認められなかったが、褐灰色シルトが充填し柱状に見える部分は柱痕の可能性がある（図版 9 では破線で表記した）。P236 は断面が箱状を呈する。上部が撹乱を受けており明確ではないが、柱痕の位置から、柱を柱穴の壁につけて据えられていたと推測される。底面標高は、6.26 ～ 6.36m で、ほぼ一定である。遺物は出土していない。

SB5（図版 3・9・64）

４E・F、５E・F グリッドに位置する竪穴構造型である。柱間寸法は 3.45 ± 0.65m で、P238 が外側に張り出しており、歪な形状である。柱穴平面はおおむね円形を呈するが、断面はＵ字状・半円状・台形状を呈し一定でない。P238 は、断面で柱痕が認められなかったが、底面の中ほどに礫が出土したことから柱穴と判断した。扁平礫であることから礎盤石として利用されたものと考えられる。柱根の腐食防止を意図したのだろうか、礫は被熱して柱根に接する面に炭化物が付着するが、遺構内で焼成した痕跡は認められない。P237・P240 では、明確な柱痕が認められなかったが、褐灰色シルトが充填し柱状に見える部分は柱痕の可能性がある。底面標高は 6.28 ～ 6.31m で、ほぼ一定である。遺物は、礎盤石 1 点だけである。

SA1（図版 3・9・64・66・67）

5E グリッドに位置する。構成するピットは３基である。柱穴平面は円形で、断面は箱状と台形状を呈する。SB1 と SB5 の間に位置することから目隠し塀と思われる。柱痕は検出していない。遺物は出土していない。

SB6（図版 3・10・59・64）

6E・F、7E・F グリッドに位置する側柱建物である。P55 － P56、P56 － P57 の柱間寸法は 2.81m、2.84m と近似した値を示すが、P56 は P55 と P57 の直線上よりも内（南）側に入り込んでおり芯を通らない。また、P54 が外（南）側に張り出し、歪な形状である。柱穴平面はおおむね円形を呈するが、断面形状は底部が平坦なものとそうでないものがあり一定でない。底面標高にも最大で約 20cm の差が見られ、ばらつきがあるが、柱痕が認められる柱穴が配置する状況を考慮して建物と認識した。P56・P57 はいずれも柱痕の周囲がグライ化し、さらにその外側は酸化している（図版 59）。遺物は出土していない。

SB7（図版 3・10・59・65）

5F・Ｇグリッドに位置する梁間一間型建物Ⅰb 型である。P337 ～ P339 は柱筋の通りが良いが、P335・P341 は外（東）側に配されており、やや歪な形状である。P336・P340 は外側に張り出し、P337 － P339 ラインに平行して西寄りに位置している。埋土は黄灰色シルトと浅黄色シルトのブロックが充填し、断面で柱痕が認められるのは P337 だけである。柱の抜き取り痕は認められない。P339 の底面の中ほどで柱アタリを検出した。柱のアタリは長辺 14cm、短辺が８cm であることから、柱材は直方体であったと想定される（図版 59）。当遺跡で角材の使用が推量される唯一の例で、柱穴平面のすべてが方形で、底部もおおむね方形となり、規格性がある。P336 を除く柱穴の平面の辺は、梁に対して平行ないし直交する。P341 の底面標高は 6.18m と突出して深いが、これ以外は 6.45 ～ 6.54m でほぼ一定である。また、当遺構以外の建物、特に側柱建物としたものと比較しても、底面標高に目立った差はなく、柱材の形状と根入りの深さとの相関は見いだせない。P340 埋土２層から銭貨（「□□□寶」）が出土している。

SB8（図版 4・11・65・66）

4H・I、5H・I グリッドに位置する。梁間２間、桁行４間の梁間一間型建物Ⅲ型である。H ～ K グリッ

ドラインは、Ⅰ層の落ち込みや耕作痕と思われる溝状やピット状の撹乱が目立つ地帯で、なおかつ遺構南西部は調査区外となるため全体は把握できないが、P509 ～ P511 を中柱と判断してⅢ型と認識した。柱痕を検出したのは P501・P503・P505・P508・P509 で、P509 からは円形の柱のアタリも検出した。柱筋の通りは明確でないが悪い。北平では、P501 ～ P505 を直線で結んだライン上から P502・P504 がはずれ、これらを結ぶとジグザグしている。P503・P506 の検出時には、P506 を P503 の添束と考えていた。しかし、断面調査では両者の切り合い関係が見られず、P506 は P503 の柱抜き取りの痕跡とも考えられる。P503 埋土 4 層と 2・3 層の境はグライ化し、4 層は酸化鉄が沈着することから、これを柱側面のアタリと判断した。北平の柱間は SB1・2 と同様に、隅柱側が長い。P502 － P503・P503 － P504、P501 － P502 と P504 － P505 の柱間寸法はそれぞれ近似した値を示す。中柱の配置状況に規則性は見いだせない。柱穴平面は P502 が長方形を呈するが、おおむね円形で、底部は平坦である。底面標高にはばらつきが見られ、高低差の最大が 40cm にもなる。Ⅲ型は当遺構だけであるが、ほかの建物との木割に目立った差がなく、5.5% と細い。また、柱痕が遺存する中柱は P509 だけであるが、側柱の柱痕径とに差はない。遺物は出土していない。

SB9（図版 4・11・66）

6H･I グリッドに位置する。梁間 1 間、桁行 3 間の梁間一間型建物Ⅰａ型である。H ～ K グリッドラインは、Ⅰ層の落ち込みや耕作痕と思われる溝状やピット状の撹乱が目立つ地帯で、東平側では西平側に対応する柱穴を見つけられなかった。上部構造に起因するものだろうか、対辺の柱穴にあたる P332 － P334 は、P329 － P330 と平行しない。東平は P332 がやや内（西）側へ入り込むが、柱筋の通りはおおむね良い。P330 － P331 と P331 － P332 の柱間寸法は、P332 － P333 の寸法のそれぞれ 60％・70％となる。埋土 1 層は、柱根が腐食し土壌化したことを示す土色・土質である。長径が 9 ～ 12cm で、他の建物の柱痕径と近似した値を示すことから柱痕と判断したが、1 層は底面まで達しておらず、根入りが浅い。底面標高は、6.46 ± 0.16m とほぼ一定である。遺物は出土していない。

B　溝（10 条）

1）概　　要

長軸方向から 13˚ 東偏する SD327（6・7F ～ J グリッド）にほぼ直交し、SD3・108・149・328・329・377・378 が 104 ～ 109˚ 東偏して走向する。2B グリッドに位置する SD202（図版 2・12・68）は、屈曲する位置を基点に、それぞれ 18˚・112˚ 東偏する。7F グリッドの SD327 と SD328・329 は、重複関係にあるものと思われるが、その交点部が SE304 に切られ、新旧関係は不明である。溝の長軸方向が掘立柱建物の軸とおおむね一致することと建物との直接的な切り合い関係がないことから、建物ないしは建物を中心とした空間を区画することを目的とした溝と考えたい。

2）各　　説

SD3（図版 3・12・67）

6D、7D・E グリッドに位置し、検出長 3.28m を測る。埋土は、黒褐色シルトを主体とする上層（1 ～ 3 層）と黄灰色シルトを主体とし、グライ化が顕著な下層（4 ～ 7 層）とに大別される。最下層の 7 層は、砂粒を含んだ灰白色シルトである。底面標高が最も低くなる地点でのみ確認できた本層は、底部に沈殿し

たものである。下層は、ブロック土の粒径が小さく、レンズ状に堆積することから自然堆積と考えられる。廃絶直後から湛水状態が続き下層が形成され、その後、人為的に堆積したブロック土が充填する様相が窺える。遺物は、1 層から青磁が出土している。

SD108（図版 5・12・67）

8K グリッドに位置し、検出長 2.88m を測る。埋土は、黒褐色シルトを主体とする 1 ～ 3 層と炭化物・土壌化が進んだ炭化物からなる 4 層に識別される。4 層は、溝の中央部に長径 113cm・短径 73cm の範囲で検出した。焼土ブロックが微量に含まれるが、遺構内に被熱痕を確認できないことから廃棄されたものと判断される。遺物は、1 層から珠洲焼の片口鉢が出土している。

SD149（図版 4・12・68）

5J グリッドに位置し、検出長 2.71m を測る。埋土は、2 層に識別され、SD327 埋土に近似する。また、SD327 と直交し、延長線上が SD327 の検出開始点となることから、両者が併存し、かつ同じ性格をもっていた可能性が高い。遺物は出土していない。

SD327（図版 3・4・12・68・69・100・102）

6H ～ J、7F ～ H グリッドに位置する。本構の西側には掘立柱建物が立ち並ぶ。検出長 48.45m、底部の比高約 10cm で北側へ傾斜し、調査区外へ延びる。南側は、6J グリッドで緩やかに立ち上がり収束する。埋土は、1 層はシルトで、2 ～ 4 層は粘質シルトが主体でグライ化が顕著である。埋土や底面及び壁の様子からは浚渫による造作や水路としての機能は想定できない。遺物は、1 層から須恵器、2 層から珠洲焼が出土している。

SD328・329（図版 3・12・69・70・100）

6・7F グリッドに位置する。検出長は、SD328 が 11.26m、SD329 は 10.53m を測る。SD328 と SD329 は、それぞれが 2m ほど距離をおいて断続し、併走する。埋土上位層の立ち上がり状況から、削平が顕著であると判断される。いずれの溝も、底面は東側へ傾斜しているが、検出面からの深さは、最深部で SD329 が 12cm であるのに対して SD328 は 48cm と圧倒的に深い。SD328 の埋土は、黄灰色シルトを主体とする上層（1 ～ 6 層）と、グライ化が顕著な下層（7 ～ 10 層）とに識別される。下層の土色・土質の状況から、廃絶直後に湛水状態が続き、6 層以降は人為堆積と思われる。1 層では被熱した礫が出土しており、5 層は粒径が約 10mm 以下の炭化物を少量含む炭層で、7F19 グリッドでのみ確認できた。こうした堆積層状況と出土遺物から、下層が埋没した後は、窪地を利用して不用となったものを廃棄したことが推測される。時期が判別できる遺物がなく明確でないが、両者が切り合い関係にないことから同時に存続していた可能性がある。遺物は、SD328 埋土 6 層から茶臼（146）が出土している。

SD377・378（図版 5・12・70・71）

SD377 は 8・9M グリッド、SD378 は 7・8M グリッドに位置する。検出長は、SD377 が 10.51m、SD378 は 7.58m を測る。SD377 と SD378 とでは溝の規模に差があることから、それぞれに遺構名を付した。埋土は検出時には粘性が強く、締まらなかった。時間の経過とともに粘性が弱くなり、土層の観察時には、硬く締まり、クラックが入るまでになってしまった。

埋土はいずれも褐灰色を主体とし、グライ化が顕著である。SD377 を切る P376（図版 5・12・70）が還元色を呈していないことは、水田耕作による土色・土質の影響が及んでいないと考えられる。Ⅰ層ないしはⅠ層が漸移したⅡ層上位の土色に似ているが、近世以降のものとは認められない。また、P376 の底面から珠洲焼が出土している。したがって、本構の存続時期は溝埋土出土遺物も考慮して中世と判断した。

SD377 の底面は東へ傾斜しており、次第に幅が広くなる。検出面から底部にかけてグライ化している状況は、埋没後も水分を多く含んでいたものと推量するが、壁面や埋土の観察からは、水路とする根拠が見つからなかった。また、SD377 と SD378 では、埋土の土色・土質が類似しており、それぞれの層の成因が同等と判断されることから、両者は同一の機能を有していた可能性が高い。SD101・SD102 との相関は不明で、溝の性格も判然としない。遺物は、SD377 埋土 2 層から珠洲焼（46）・朝鮮陶器（47）・瓷器系陶器・青磁・羽口（188）・鉄滓、SD378 埋土 1 層から青磁が出土している。

C　道 状 遺 構（側溝 2 条）

1）概　　要

SD101 と SD102 の間、そして調査区南側の S ～ T グリッドラインには遺構が少ない。後者に遺構が少ないのは先に記したように後世の削平が成因で、SD101 と SD102 に挟まれた空間は道としての利用が、そして両溝は平行することから、道の側溝としての機能が想定される。ただし、路面・路床は遺存していない。側溝の上端間の距離（道幅）は約 16m を測るが、削平されていることを考慮すると機能時の道幅は 16m 未満となる。

SD101 の底部は西から東へ傾斜するのに対し、SD102 は東から西に傾斜しており対照的である。

遺物にはバリエーションがあり、珠洲焼・瓷器系陶器・瀬戸美濃焼・瓦器・越前焼・青磁・白磁・青白磁・青花・朝鮮陶器・須恵器・土師器・鉄滓・礫・銭貨・釘・炉壁・羽口・粘土塊・茶臼・粉挽臼・砥石・軽石が出土したが、底面直上から出土した遺物で時期が判断できるものはない。また、遺物の時期幅は両溝とも同じである。

なお、平行する SD377・SD378 との関係については不明である。

2）各　　説

SD101（図版 5・13・71）

道の北側の側溝である。上幅は最大 2.78m、最小 1.19m である。断面は階段状で、断続的にテラス状の平坦面を有し、緩やかに立ち上がる。底面は、7K17・18・22・23、8L4・5・9・10 グリッドで明瞭な段を有し、西から東へ緩やかに傾斜している。西端と東端との高低差は約 10cm である。また、底面を概観すると平坦面を有するが、全面に凹凸が認められる。底面の凹凸は「土坑連結式掘削工法」［早川 1997］の可能性も考えたが、凹凸の単位が不規則である。構築時の痕跡によるものか浚渫された結果かは不明である。埋土は 6 層に識別され、レンズ状に堆積する。3・6 層には黄褐色シルトブロックが多量に含まれ、遺構肩部の崩落土である。7K25 ～ 8K2・8L グリッドでは、底面にやや還元した黄褐色粘質シルトブロックを少量含む黒褐色粘質シルトが水平に堆積する。底面標高が低い地点であることから、埋没初段階は湛水していたものと推測される。

遺物には、珠洲焼（1 ～ 6）・瓦器（7）・越前焼（8 ～ 13）・瀬戸美濃焼（14・15）・青磁（16 ～ 23）・青花（24）・朝鮮陶器（25）・珠洲焼の転用研磨具（137）・白磁の転用研磨具（141 ～ 143）・茶臼（145）・砥石（153・154・156）・釘（162）・銭貨（164 ～ 167）・炉壁（197）・瓷器系陶器・羽口（189）・粘土塊が 1 層を中心に出土した。そのほか自然礫・軽石が出土している。

SD102（図版 5・13・71・72）

道の南側の側溝である。上幅は最大 2.34m、最小 1.04m である。断面は階段状で、8 グリッドライン以東では、テラス状の平坦面を有し、緩やかに立ち上がる。底面は、7M17･18 グリッドで明瞭な段を有し、東から西へ緩やかに傾斜している。東端と西端との高低差は約 16cm である。また、SD101 と同様に、底面には凹凸が認められるが、凹凸の成因は不明である。埋土は、上層（1a ～ 1c）と下層（2a・2b）とに大別され、上層と下層との層界は色調・粘性・締まりから明瞭に識別できる。いずれもレンズ状に堆積する。1a 層から 1c 層にかけて次第に粘性が強く、締まらなくなる。上層は灰褐色シルトを主体とし、下層はグライ化して褐灰色を呈する。2a 層上面は、テラス状の平坦面と同レベルである。9N9・10 グリッドと 8M21・22 グリッドでは、埋土 2 層が 1 層に切られているように見られることから、溝の拡幅がなされたものと推測される。遺物には、珠洲焼（26･27）･瓦器（28 ～ 30）･瀬戸美濃焼（31 ～ 33）･青磁（34 ～ 42）･青白磁（43）･白磁（44）･朝鮮陶器（45）･白磁の転用研磨具（144）･瓷器系陶器・羽口・粘土塊・軽石・粉挽き臼・荘厳具ヵ（182）があり、上層から多く出土している。

D　井　　戸（97 基）

1）概　　要

調査区全域に分布する。井戸は最大で 3 基が重複する。時期が判別できる遺物が少ないことから、廃絶時期の不明瞭なものが多いが、おおむね 15 世紀後半から 16 世紀初頭にかけて廃絶したものと判断される。透水層は、Ⅳ層・Ⅶ層・ⅩⅣ層と考えられ、井戸はそれぞれの透水層まで掘り込んでいる。井戸を構築する季節･タイミングによって、水位が上下することはあるが、造り替えと判断した井戸（SE279･SE288 など）は、より深く掘り込んでいる。したがって、すべての井戸が対象とはならないが、隣接し直接的な切り合い関係になくても、底面が深い井戸ほど新しく掘られた可能性がある。

底面標高と曲物設置の有無を確認する目的で、重機による断ち割りを 44 基で行ったが、監理者である事業団を含めての事前打合わせ（調査個所･調査方法･記録化など）が充分でなく、底部まで確認したものの、形状や埋土そして水溜などの施設について記録していないものがある。記録していない成果については、調査所見として各説や観察表に可能な限り記した。

底面を確認した井戸は、断ち割り調査の成果を含め 56 基である。断ち割りの有無や到達する透水層の層位は観察表に記載した。

当遺跡の井戸の構造は、井戸側と水溜からなる。分類方法には、井戸側に着目したもの［宇野 1982］、水留に着目したもの［水澤 2009a］がある。検出した井戸には、素掘り井戸（ＡⅠ類）、縦板組隅柱横桟留（ＢⅣ類）［宇野前掲］と、素掘り井戸で水留がないもの（Ⅰａ類）、素掘り井戸で水溜がつくもの（Ⅰｂ類）、水溜に底板のない曲物を設置するもの（Ⅱａ類）、水溜に底板のない桶を設置するもの（Ⅲａ類）［水澤前掲］がある。当遺跡では、すべての井戸の底面を確認していないことから、構造形態による考察はしていない。なお、本報告では宇野［前掲］の「縦板」を、「側板」とした。

2）各　　説

SE2（図版 2・14・72）

6D グリッドに位置する。1 ～ 10 層には、径約 1cm の細かいシルトブロックが充填し、レンズ状に堆

積する。堆積形状からは自然堆積に見えるが、層厚と各層に含まるブロック土の堆積状況から人為堆積と判断される。13 層以下は、径約 5cm 以上のシルトブロックが充填し、1 ～ 10 層と比べブロック径が大きい。15 ～ 17 層は還元色を呈する一方で、本層と同じレベルの壁面（Ⅳ層）は酸化して鉄分が沈着している。これらの酸化帯は「加弥」［日色 1967］（以下、「加弥」とだけ記す）と判断される。遺物は、8 層から粘土塊が出土している。

SE63（図版 3・14・72）

4G グリッドに位置する。検出面からの深さ約 65cm までレンズ状に堆積する。1 ～ 5 層は、黒色と浅黄橙色を呈したシルトブロックが充填し、土壌化が進んだ炭が互層をなして堆積している。層厚約 10cm の炭が自然に堆積するとは考えにくく、ブロック土も含まれていることから、不用となったものを投棄した人為的な堆積と判断した。なお、構内に被熱痕は認められない。7 層には断続的に酸化鉄が沈着し、検出面からの深さ約 1.12m（標高約 5.5m）の壁面には「加弥」と思われる酸化鉄が帯状に沈着する。これより下位はグライ化する。検出面からの深さ約 1.24m(標高約 5.38m)で人力掘削による調査を断念したが、さらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は､4 層から瓦器(48)･白磁(49)･珠洲焼・粉引き臼、5 層から珠洲焼・白磁が出土している。

SE65（図版 4・15・16・60・72 ～ 75・104）

4G・H、5G・H グリッドに位置する。長径約 5m を測る大型の井戸である。検出面では、埋土と裏込め土が明瞭に識別できた。埋土部分の平面は隅丸方形を呈していたことから、長軸に沿って半截し、検出面からの深さ約 80cm で井戸の側板を検出した。しかし、埋土の平面形態と井戸側の軸方向が合っていないことから、井戸側の軸に沿って再度、土層観察面を設定した。1 ～ 20 層は、上部の埋土で、レンズ状ないし斜位に堆積する。22･23 層は底面に近い堆積土である。23 層は、腐植土が多量に含まれている。22 層中から、青磁（51）・曲物底板（219）・板状木製品が出土した。底部は、粘質シルト（ⅩⅤ層）を掘り抜き、粘質土によってパックされた砂層（ⅩⅥ層）に達している。砂層からは、湧水とともに細砂が噴き出し、約 1m の範囲でⅩⅤ層上に広がっている。25 ～ 34 層は、井戸側の裏込め土である。25 ～ 31 層は斜位に堆積し、32 ～ 34 層は水平に堆積する。

井戸側は、端部を凸加工と凹加工した桟木を組み、それぞれに隅柱を置いたものを 3 段に積み上げている。ただし、埋土内からも桟木と隅柱に用いられた部材が出土していることから構築時には 4 段以上積まれていた可能性が高い（20 層と 32 層間の縦に伸びる土層は締まりのない灰色の粘質土で、4 段目の側板の痕跡の可能性がある）。桟木と隅柱は組まれておらず、桟木とその上部の自重によって維持されている。桟木には隅柱による圧痕が明瞭に残る。側板は 3 段目まで検出されている。側板材には板状や杭･棒状のものがあり、そのほか桟木が再利用されている。側板を設置したのちは、33 層まで裏込めされる。その後、井戸側を覆うように、縦にしたアシを密にかけている。アシの下部は裏込め土 33 層上でスカート状に開いている。アシは土圧により扁平しているが、幾重にも重なっている。アシの機能については横からの土圧を和らげる効果と透水層の導水や土砂流入防止（濾過）が考えられるが、透水層はアシ出土位置から 1.8m 下位（ⅩⅥ層）にあり、肯定できない。ここでは 3 段目までの井戸側を土圧から守る補強材と考えておきたい。その後、32 層が裏込めされる。32 層上面には前記とは別のアシが井戸側の外に放射状に敷かれていた。これについては、4 段目以降の井戸側設置作業に伴う足場補強と考えられる。そうした場合、下位の井戸側を覆うアシは、この作業から既にある 3 段目までの井戸側を守る工夫とも考えられよう。4 段目以降は遺構内に遺存していないが、積み上げ後は 25 ～ 31 層で裏込めされたものと思われる。

遺物は、1 層から珠洲焼・朝鮮陶器、4 層から珠洲焼・瓦器・青磁、10 層から朝鮮陶器（53）、22 層から青磁（51・52）・青花（54）・曲物底板（219）・手桶の側板（220）・柄の持ち手（221）、25 層から珠洲焼（50）、26 層から装具ヵ（183）、27 層から漆器椀（222）、28 層から粘土塊、そのほか埋土から珠洲焼・青磁・土師質土器、裏込め土から珠洲焼・粘土塊・鉄滓が出土している。井戸側の構築材には、側板（198・199）・板状木製品（200）・桟木（201 ～ 213）・隅柱（214 ～ 217）がある。

SE66（図版 3・14・75）

4G・H グリッドに位置する。水田に伴う水路が重複し、湧水が想定されたことから、重機による断ち割りを行った。土層観察直後に崩落したため、土層断面図を復元して掲載している。埋土は、1 ～ 9 層に識別される。1 ～ 3 層は斜位に堆積し、4 層は層界に凹凸を有し、こんもりと積まれるように堆積する。5 層は、上部は酸化鉄を含み、下部は還元色を呈する。6 ～ 8 層は、色調と締まりの差異は認められず、粘性のわずかな違いで分層した。6 ～ 8 層にかけて次第に粘性が強くなる。9 層は、暗青灰色粘質シルトを多量に含む。検出面からの深さ約 1.88m（標高約 4.4m）で底面を確認した。底部は、ⅩⅢ層をわずかに掘り込んでいるが、透水層と思われるⅩⅣ～ⅩⅤ層には到達していない。遺物は、珠洲焼（55）、2 層から朝鮮陶器・白磁、そのほか粉挽き臼が出土している。

SE68（図版 4・14・75）

4H グリッドに位置する。1 ～ 7 層は黒褐色のシルトである。1 層の底面には、層界に沿って径が 2mm 前後の炭化物を含む砂粒が約 1cm 以下の厚さで堆積する。4 ～ 6 層は、炭化物が土壌化したもので、約 10mm 角の炭化物が含まれ、層界は明瞭である。4 層には断続的に灰が含まれる。また、3 ～ 6 層は、異なる色調のシルトが互層をなして堆積するが細分していない。8 層以下は浅黄橙色を基調とするシルトブロックが水平に堆積することと、壁面が比較的フラットであることから、少なくとも崩落による堆積ではなく、人為的に埋められたものと認識した。1 ～ 6 層の堆積状況から、井戸が埋まったのち、土坑として再利用された可能性も考えられる。16 層を掘削中に湧水による崩落があったことから、検出面からの深さ約 1.2m で掘削限界と判断した。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、灯明皿として使用された中世土師器の皿（56）、1 層から珠洲焼、 2 層から青磁・羽口、11 層から白磁が出土している。

SE69（図版 4・17・75）

4H グリッドに位置する。3・7・9 層は、径約 1cm の炭化物を含む土壌化が進んだ炭と灰が充填する。検出面からの深さ約 40cm で湧水が確認されたが、調査前現況水田に伴う水路から引っ張られたものである。水の影響により人力掘削による調査を断念し、9 層までを掘削したのちに重機による断ち割りを行った。21 層の位置はⅩ層に達している。10 ～ 12･14 層はブロック土がレンズ状に堆積する。17 層はブロック土が水平に堆積している。遺物は、 8 層から粘土塊、19 層から曲物が出土している。曲物は、出土位置から、廃棄されたものと考えられる。

SE70・SE71（図版 4・17・75・76）

4・5H グリッドに位置する。検出時には、2 基ないしは 3 基の井戸が重複するものと想定し半截した。SE70 は SE71 を切っている。SE70 は、断面が袋状を呈することから、下部は崩落した可能性も考えられる。しかし、SE71 の埋土に相当するものが SE70 にはみられないことから、井戸浚いを行っていたのであろう。両遺構ともに検出面からの深さ約 90cm（標高約 5.9m）以下の埋土は還元色を呈する。SE71 の底面には酸化鉄が沈着する砂質土（Ⅳ層・透水層）が存在する。SE70 の埋土 18 層と同じレベルの壁からは、湧水が確認された。重機による断ち割り調査では、SE70 の底部から水溜に設置されていた曲物

（224）が出土している。しかし、土層の所見と曲物及び底面標高などの記録はない。遺物はこのほか、SE70 埋土 1 層から瀬戸美濃焼（57）、17 層からも瀬戸美濃焼が出土している。16 層から出土した珠洲焼が SE273 の 104 と接合した。SE71 からは出土していない。

SE72（図版 4・18・60・76）

5H グリッドに位置する。検出面での埋土が同心円状に見えることから、遺構上部は著しく削平されている。6 層以下では、10・11・14・15 層が流れ込むように堆積するものの、それ以外はシルト及び粘質シルトブロックの水平堆積で、人為的な埋土と考えられる。1 ～ 6 層は、炭化物・焼土・スサ状の有機物を含むシルトブロックがレンズ状に堆積している。これらの層は、井戸がほぼ埋まったのち、土坑状となった窪みを利用して不用となったものを断続的に投棄した痕跡と思われる。断面は、検出面からの深さ約 68cm までを垂直に掘り込んだのち、内側に屈曲する。このあたりから下位は、埋土と地山がともに還元色を呈する。検出面からの深さ約 1.72 mで人力掘削を断念したが、遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、1・2・4・8 層から銭貨（171 ～ 175）、8 層から青磁（59）・珠洲焼、15 層から珠洲焼（58）・瀬戸美濃焼、18 層から漆器椀（225）、23 層から曲物底板（226）・ほぼ完形の曲物（227）・小型の曲物（228）・火付け木と思われる板状木製品、そのほか棒状の火付け木が出土している。

SE74（図版 4・18・76・77）

4H グリッドに位置する。1 ～ 20 層の埋土の堆積形状は、レンズ状を呈する。8・9・15 層は、土壌化が進んだ炭が含まれる。これらの層は自然による堆積形状を示すが、不用となったものを投棄した可能性もある。検出面からの深さ約 88cm の壁面には、幅約 10cm で「加弥」と思われる酸化鉄が帯状に沈着する。これより下位はグライ化している。検出面からの深さ約 1.08m（標高約 5.6m）で人力掘削による調査を断念したが、遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、1 層から青磁、6 層から白磁が出土している。

SE75（図版 4・18・77）

5H グリッドに位置する。1・2・5・8・14 層は、土壌化が進んだ炭が水平に堆積する。また、1・2・5・8 層にはスサ状の植物遺体が含まれ、フカフカして締まらない。これらの堆積物は、扁平した浅黄橙色シルトブロックと互層をなしてほぼ水平に堆積していることから、投棄されたものと考えられる。8 層以下は、おおむね浅黄橙色と褐灰色を基調としたシルトブロックが充填し、層界は凹凸を有するものの、ほぼ水平に堆積している。検出面からの深さ約 84cm の壁面には、幅約 10cm の「加弥」と思われる酸化鉄が帯状に沈着する。これより下位はグライ化している。検出面からの深さ約 1.10m（標高約 5.56m）で人力掘削による調査を断念したが、遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、4 層から珠洲焼、15 層から青磁が出土している。

SE103（図版 5・19・77）

6K グリッドに位置する。1 ～ 4・6 層は、黒色を基調としたシルトが堆積する。5 ～ 7 層は、壁に沿うように堆積している。所見では、「黒色を呈する 6 層は、灰褐色シルトの 5 ・ 7 層に挟まれるように堆積し、井戸側などの部材が腐食して土壌化した可能性があるが、井戸側と断定できない」としている。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.14m（標高約 5.53m）で底面を確認した。底部はⅦ層に達している。遺物は、9 層から板状木製品・棒状木製品が出土している。

SE104（図版 5・19・77）

8K グリッドに位置する。4 層と 5 層の層界は明確でないが、4 層は灰褐色シルトである。検出面から約 80cm 以下は腐植土が底面まで充填する。井戸廃絶直後に投棄されたものと思われる。重機による断ち割りを行った。底部は、検出面からの深さ約 1.2m（標高約 5.4m）で確認した。径約 20cm・深さ約 12cm の水溜がⅦ層まで掘り込まれている。遺物は、1 層から鉄鍋（186）が出土している。

SE107（図版 5・19・77・78）

8K グリッドに位置する。1 ～ 3 層は、層界に凹凸を有する水平堆積である。埋土はシルトブロックが充填する。2 層には土壌化が進んだ炭・黒色シルトと明褐灰色シルトのブロック・にぶい黄橙色シルトブロックが互層をなして堆積している。投棄行為の作業単位を示すものかもしれない。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 2.0m（標高約 4.1m）で底面を確認した。底部は、ⅩⅣ層に達しているものと推測される。遺物は、3 層から珠洲焼（60）、4 層から砥石（151）が出土している。

SE109（図版 5・19・78）

8・9J グリッドに位置する。検出時に設定した土層観察面が崩落したため、長径からやや東側で断面の観察･記録を行った。埋土の堆積形状は、水平レンズ状を呈する。検出面からの深さ約 1.04m（標高約 5.46m）で人力掘削による調査を断念し、重機による断ち割りを行った。井戸底部に、径約 30cm・深さ約 30cm の水溜を検出したが、記録はない。

SE111（図版 5・19・78）

7・8K グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。7 層は、土壌化が進んだ腐植層で、炭化木が出土しているが、構内に被熱は認められない。8 層は、腐植土と土壌化が進んだ炭が互層をなして堆積する。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.3m（標高約 5.4m）で底面を確認した。底面はⅤ層に達していると推測される。遺物は、1 層から珠洲焼（61）が出土している。

SE114（図版 5・20・78）

9L グリッドに位置する。長径約 4.4m を測る大型の井戸である。検出面では、埋土と裏込め土が明瞭に識別できた。プランはやや扁平した円形と推測される。1 ～ 5 層は、暗褐色シルトと暖色系のシルトのブロックが充填する。1・2 層は、暗褐色シルトの割合が極めて高く、3 ～ 5 層では割合が低い。6 層は、オリーブ灰色シルトが水平に堆積している。7 ～ 11 層は、井戸側の裏込め土で、明褐灰色シルトブロックを主体とし、水平に堆積する。6 層及び 11 層以下は還元色を呈し、井戸側が遺存する。

桟木の端部は、凸加工と凹加工が施され、留められている。桟木と隅柱は組まれておらず、桟木とその上部の自重によって維持されている。側板は、上下 2 段に組まれた状態で検出され、桟木は 4 本 1 組を検出したが、6 層から桟木と側板が出土していることから、さらに上へ積み上げられていたものと推測される。

本遺構は、調査区外に延びており、調査区外の崩落が危惧されたことから、掘削深度の限界と判断し、検出面からの深さ約 2.3m（標高約 4.4m）で調査を終了した。遺物は、2 層から珠洲焼（62）が出土している。井戸側の構築材には、桟木（233）・側板・隅柱がある。

SE124（図版 5・19・79）

6N グリッドに位置する。1 ～ 7 層は、おおむね水平堆積を呈するが、層界は凹凸を有する。堆積状況から、3・4 層は崩落土と推測され、8 層は土壌化が進んだ炭と腐植土からなる投棄された土壌と考えられる。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.4m（標高約 5.3m）で底面を確認した。底部は、

Ⅶ層に達している。遺物は、1 層から珠洲焼･鉄滓、9 層から鉄滓、10 層から曲物の底板が出土している。

SE125（図版 5・20・79）

7N・O グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、レンズ状を呈する。4 層は炭化した植物遺体を含む炭層である。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.56m（標高約 5.2m）で底面を確認した。底部は、Ⅸ層に達しているものと推測される。遺物は、珠洲の瓶子（63）が出土している。

SE126（図版 5・20・79）

6・7O グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、レンズ状を呈する。検出面からの深さ約 50cm まで掘削し、湧水が著しく人力掘削を断念した。底面が透水層まで達しているか不明であるが、遺構はさらに深く掘り込まれていることから井戸の可能性が高い。重機による断ち割りは行っていない。遺物は出土していない。

SE127（図版 5・20）

6・7O グリッドに位置する。1 ～ 13 層は、黒色シルトと明褐灰色シルトのブロックで構成され、レンズ状ないし斜位に堆積する。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.3m（標高約 5.4m）で底面を確認した。底部は、Ⅶ層に達しているものと推測される。遺物は、1 層から青磁・瀬戸美濃焼・粘土塊が出土している。

SE128（図版 6・21・79）

7P グリッドに位置する。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 85cm（標高約 5.8m）で底面を確認した。底部は、Ⅳ層に達している。遺物は、1 層から土師器片が出土している。

SE129（図版 5・21・79）

7O グリッドに位置する。1 ～ 5 層は、黒色シルトと明褐灰色シルトのブロックが充填し、レンズ状に堆積する。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.2m（標高約 5.5m・Ⅳ層）まで掘削したが、底面は検出していない。遺物は、1・4 層から土師器、羽口が出土している。

SE130（図版 5・21・80）

7・8O グリッドに位置する。1 ～ 3 層は、炭化物を含むブロック土で構成される。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.65m（標高約 5.0m・Ⅸ層）まで掘削したが、底面は検出できなかった。遺物は、1 層から砥石（159）、4 層から青磁（113・114）・曲物の底板・杭状木製品、検出面からの深さ約 1.0m で完形の曲物（234）が出土している。

SE132（図版 5・21・80）

8N・O グリッドに位置する。1 ～ 3 層は、土壌化が進んだ炭や炭化物・灰を含むシルトブロックで構成され、4 ～ 7 層は、シルトブロックを少量含む土壌化が進んだ炭が充填する。これらの層は斜位に堆積していることから投棄されたものと考えられる。7 層から下位には腐植土が堆積している。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.38m（標高約 5.28m）で底面を確認した。底部は、Ⅳ層に達している。遺物は、7 層から珠洲焼（115）・羽口（191）、1 層から羽口・粘土塊、7 層の下からは珠洲焼・白磁が出土している。

SE148（図版 5・21・80）

8O グリッドに位置する。1 ～ 4 層は、灰褐色と黒褐色を基調としたシルトブロックが充填し、レンズ状に堆積する。5 層は、Ⅱ層に比べて粘性が強く、締まらない。壁からの崩落土と判断した。掘り込みはⅦ層まで達していることから井戸と認定したが、さらに深く掘り込まれているものと推測される。重機に

よる断ち割りは行っていない。遺物は、1 層から土師器、4 層から珠洲焼（64）・青磁・白磁・粘土塊が出土している。

SE152（図版 4・21・80）

8I グリッドに位置する。半截中に断面が崩落し、エレベーション図のみ記録した。掘り込みは検出面から 1.2 m下まで確認したが、遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、5 層から越前焼（65）、3 層から越前焼・白磁が出土している。

SE153（図版 4・21・80）

6I グリッドに位置する。4 層の下部には、土壌化が進んだ炭が幾層も堆積している。また、6 層は、灰やスサ状の植物遺体と明黄褐色シルトブロックが互層をなしている。これらの層は投棄された可能性がある。11 層以下は拳大のブロックが充填し、埋め戻しの土壌と考えられる。検出面からの深さ約 74cm（標高約 5.96m）で調査を断念し、重機による断ち割りは行っていない。遺物は、1 層から鉄鍋（184）・青磁・白磁・羽口・粘土塊、4・6 層から白磁が出土している。

SE154（図版 4・23・80・81・85）

7H グリッドに位置する。1 ～ 5 層まで、粘質シルトブロックが充填し、層界は凹凸を有すものの、おおむね水平堆積を示す。4 層から井戸側の側板と思われる部材が 1 点出土し、井戸側の検出が期待されたが、部材は単独で井戸底部に接していないことが分かった。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 2.2m（標高約 4.48m）で、X層をわずかに掘り込んだ幅 38㎝･深さ 24㎝の水溜を検出した。遺物は、2 層から白磁が出土している。

SE155（図版 4・22・81）

7H グリッドに位置する。1 ～ 8 層までは、黒色と褐灰色を基調とするシルトブロックがレンズ状に堆積する。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 2.1m（標高約 4.6m）で底面を確認したが、記録はない。底部は、Ⅶ層を掘り込んでいるものと推測される。8 層から下位はグライ化し、明青灰色を呈する。長径約 70cm･短径約 34cm、深さ約 28cm の水溜状に掘り込まれた底部を調査時に確認している。遺物は、5 層から青磁の椀（66）が出土している。

SE156（図版 4・22・81）

7I グリッドに位置する。崩落土の堆積（4･6 層）があるが、おおむね水平にシルトブロックが充填する。7 層以下は、土層観察用断面が崩落したため、断面は見通しを図化した。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 2.0m で水溜を検出した。水溜は、径約 66cm･深さ約 48cm である。底面標高は約 4.32 m で、X層に達しているものと推測される。遺物は、9 層から棒状木製品（235）が出土している。

SE157（図版 4・22・81・82）

7・8H グリッドに位置する。1 ～ 4 層はレンズ状に堆積し、シルトブロックが充填する。2 層上面と 4 層上面には、土壌化が進んだ炭が層界に沿って断続的に薄く堆積する。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.7m（標高約 5.0m）で底面を確認した。検出面からの深さ約 1.7m の平坦面に水溜が掘られている。規模は、径約 56cm・深さ約 24cm で、平坦面のやや西側に位置する。底部は、Ⅸ層に達しているものと推測される。遺物は、1 層から朝鮮陶器（67）、2 層から粉挽き臼（148）、4 層から越前焼が出土している。

SE158（図版 4・22・82）

8H･I グリッドに位置する。SE159 と重複しており、当遺構が古い。検出時の平面プランは不整形を呈し、

1 ～ 3 層がレンズ状に堆積する。4 層上面での平面は円形を呈し、4 層と 5 層の層界はやや凹凸があるものの、おおむね水平に堆積する。2 ～ 5 層は、黒色シルトを基調とし、明褐色シルトブロックが含まれる。明褐色シルトブロックの量に多少の差はあるものの、堆積時間に大差はないものと推測される。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.84m（標高約 4.86m）で底面を確認した。底部はⅧ層に達しているものと推測される。5 層から下は、グライ化した緑灰色を呈する。遺物は、5 層から青磁が出土している。

SE159（図版 4・24・82）

8I グリッドに位置する。重複する SE158・SE196 を切って構築している。埋土は、にぶい褐灰色と明褐灰色を基調としたシルトブロックが充填している。レンズ状に堆積し、硬く締まる。検出面からの深さ約 70cm（標高約 6.0m・Ⅳ層）で人力掘削を断念した。遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は出土していない。

SE167（図版 4・23・82）

6H グリッドに位置する。埋土は、おおむね水平レンズの堆積であるが、5・9 層のようなブロック状堆積もある。また、そのほかの層にもブロック土が含まれている。遺物は、4 層から白磁、7 層から鉄滓が出土した。

SE168（図版 4・24・83）

6・7H グリッドに位置する。1 ～ 7 層はおおむねレンズ状堆積、9 ～ 19 層はブロック状の堆積を呈する。6・7 層では扁平なシルトブロックが東から西方向へ流れるように堆積する。また、9 層では東から西方向へ、直下の 11 層では西から東方向へシルトブロックが流れるように堆積し、投棄した方向や土量が推定できる。検出面からの深さ約 1.2m（標高約 5.48m・Ⅳ層）で人力掘削を断念した。遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、2・3・6 層から鉄滓、15 層から曲物の底板が出土している。

SE169（図版 4・24・83）

6H グリッドに位置する。埋土には、黒色・灰白色・浅黄橙色を基調としたシルトないし砂質シルトのブロックが充填し、レンズ状に堆積する。遺構の深度は約 80cm を測り、隣接する井戸の深度に比べて浅いが、底部が透水層Ⅳ層に達していることから井戸と認定した。また、検出面からの深さ約 20cm（標高約 6.44m）の壁面には「加弥」と思われる酸化鉄が帯状に沈着している。これより下位は還元し、灰白色を呈する。遺物は出土していない。

SE170（図版 4・25・83・84）

7I グリッドに位置する。2･3 層の堆積状況を観察すると、2 層と 3 層の層界はレンズ状に湾曲するが、2 層を構成するスサ状の植物遺体と土壌化が進んだ炭と灰は水平に堆積する。3 層以下では、それぞれの層の中でも黒色シルト・明黄褐色シルト・炭などが互層をなすように堆積することから、不用となったものを投棄した可能性がある。検出面からの深さ約 1.08m（標高約 5.6m・Ⅳ層）で人力掘削による調査を断念した。遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、1 層から瓦器（69）、2 層から椀形滓（194）、3・6 層から青磁（71・72）、4 層から珠洲焼（68）・瀬戸美濃焼（70）・砥石（158）が、そのほか 1 層から白磁・砥石、3 層から珠洲焼・青磁・粘土塊・石臼、4 層から青磁・粘土塊、5 層から珠洲焼・粘土塊、7 層から青磁、11 層から珠洲焼が出土している。また、2 層からは鉄滓がまとまって出土し、腐植土を多量に含む 7 層からは、曲物の打ち合わせ部の本綴じに用いられた

と思われる波板状に変形した樺が出土している。

SE190（図版 4・24・84）

6I グリッドに位置する。極暗褐色・黒色を基調としたシルトがレンズ状に堆積する。検出面からの深さ約 80cm（標高約 5.9m・Ⅳ層）で湧水し、人力掘削の限界と判断した。遺構はさらに深く掘り込まれている。5･6 層直下には、投棄したと推測される炭化物を含む腐植土が長径約 40cm の範囲で堆積している。遺物は、1 層から珠洲焼・青磁・白磁、5 層から鉄滓が出土した。

SE191（図版 4・25・84）

7I グリッドに位置する。1・2 層はレンズ状、3・5 ～ 7 層は南から北へ向かって流れ込むように堆積する。 8 層は炭化物を多量に含むシルトで、わずかに腐植土が含まれる。長径が約 1.2m と小さいこともあり、人力掘削は 8 層中までとし、重機による断ち割りを行った。8 層以下はオーバーハングし、断面形は袋状を呈する。オーバーハングしている上端付近の壁面には酸化鉄が帯状に沈着し、これより下位は白色ないし明青灰色を呈し、グライ化している。崩落の危険があったため、8 層以下の分層は行っていないが、土壌化が進んだ黒色（7.5YR2/1）粘質シルトと明青灰色（10BG7/1）粘質土が互層をなして堆積していることを確認している。底部の中央に水溜と思われる径約 64cm･深さ約 12cm の緩やかな落ち込みがある。底面は、検出面からの深さ約 1.8m（標高約 4.9m）で確認した。底部はⅩⅢ層に達しているものと推測される。遺物は、3 層から鋳型（196）・青磁が出土している。

SE194（図版 4・25・84）

7I グリッドに位置する。 2 層は、1・3 層に比べて締まらず、扁平したシルトブロックや炭化物が混入する。遺物は、1 層から越前焼･青磁･白磁･鉄鍋（185）･粘土塊、2 層から坩堝（192）、3 層から石鉢（150）･炭化木が出土している。

SE195・SE199（図版 4・23・61・85）

重複関係は SE195（6・7I グリッド）が SE199（7H・I グリッド）を切っている。重機による断ち割りを行った。SE195 と SE199 の底面標高はそれぞれ、検出面からの深さ約 2.46m（標高約 4.18m）と約 2.32m（標高約 4.34m）である。前者の底部はⅩ層まで達しているが、後者はⅨ層中で止まっている。SE195 は、漏斗状の断面を呈し、水溜は素掘りである。SE199 の断面も同様に漏斗状を呈するが、水溜に曲物（236）が設置されている。SE195 からは遺物は出土していない。

SE196（図版 4・24・82）

8I グリッドに位置する。1 ～ 5 層はおおむね水平に堆積している。1・2 層には、地山と近似する浅黄橙色シルトが充填し、硬く締まる。3 ～ 5 層は黒色のシルトないし粘質シルトと浅黄橙色シルトブロックが充填している。重複する SE159 に切られる。検出面からの深さ約 78cm（標高約 5.92 m・Ⅳ層）で人力掘削を断念した。遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、3･4 層から出土し接合した越前焼（73）、2 層から白磁、 3 層から珠洲焼・越前焼、 4 層から越前焼が出土している。

SE197（図版 4・25・85）

8H グリッドに位置する。遺構の東側が調査区外となるため、全容は不明である。1 ～ 6 層はにぶい褐色を基調としたシルトが充填し、レンズ状に堆積する。1 層は炭化物を多量に含み、4・ 6 層には、扁平したシルトブロックが層界に沿って堆積している。遺物は、5 層から瓦器（74）が出土している。

SE198（図版 4・25・85）

8H グリッドに位置する。遺構の大部分が調査区外となり、SE197 に切られているため、全容は不明である。1 ～ 6 層はレンズ状に堆積する。2・3 層は、黒色を基調としたシルトで、炭化物を多量に含む。3 ～ 6 層には、暖色系のシルトブロックが多量に含まれ、3･4 層は黒色シルトと互層をなすように堆積し、5・6 層ではシルトブロックが充填している。遺物は出土していない。

SE197 と SE198 の層界は明瞭に識別されるが、埋没後の地中の酸化･還元作用に起因するのだろうか、埋土の色調は、よく似ている。両遺構とも検出面からの深さ 86cm（標高約 5.86m）前後で人力掘削による調査を中断した。重機による断ち割りを行っておらず、底部を確認していない。

SE201（図版 2・26・86）

3D グリッドに位置する。1･2 層には、土壌化が進んだ炭が断続的に見られ、ほぼレンズ状に堆積する。3 ～ 10 層には、シルトブロックが充填している。4・5・8・10 層は、拳大のシルトブロックが充填し、レンズ状ないし斜位に堆積する。6 層は、上下の層（5・8 層）に比べて、ブロックのサイズが小さく、層界は明瞭に識別できる。重機による断ち割りを行ったが、底面は確認できず、掘り込みはⅩⅤ層まで確認している。13 層は、下部に細砂が堆積している。3 ～ 14 層は、井戸廃絶直後（埋め戻し）の堆積と考えられる。遺物は、1 層から白磁が出土している。

SE219（図版 3・27・61・86）

3・4F グリッドに位置する。1 ～ 6 層は黒色ないし黒褐色シルトブロックがレンズ状に、7 ～ 9 層は浅黄橙色・灰白色の還元色を呈したシルトブロックが層界に凹凸を有し、レンズ状に堆積する。検出面からの深さ約 30cm で湧水が確認されたが、調査前現況水田に伴う水路から引っ張られたものである。水の影響により人力掘削を断念し、重機による断ち割りを行った。底面は、検出面からの深さ約 2.92m（標高約 3.66m）で、ⅩⅤ層に達しており、ⅩⅣ層を掘り抜くと噴水のような湧水があった。14 層から上位は、井戸廃絶後の埋土である。水溜には桶（238 ～ 240）が設置された状態で出土している。検出時は、上段･中段にそれぞれ 1 条ずつ、下段に 2 条の計 4 か所に箍がはめられ、上段の箍の直下には 1 条の縄が巡っているが遺存状態が悪い。箍は､土圧によって製作時の状態を維持していたようであるが脆く､亀裂が入った箇所から弾けるように外れてしまったため、縦板は番号を付して取り上げた。粘質シルトが斜位に堆積する 10 ～ 13 層は、グライ化が著しく識別が難しいが、粘性・締まりの違いで分層した。また、9 層と 10・11・13 層の層界は不明である。11 層から曲物（237）が出土しており、出土状況から投棄されたものと判断される。15･16 層は、桶を設置する際の裏込め土である。遺物は、1 層から瀬戸美濃焼・青磁・白磁、11 層から完形の曲物（237）、14 層から水溜として設置されていた桶（238 ～ 240：側板）が出土している。

SE241（図版 6・26・86・87）

10S グリッドに位置する。浅黄橙色･褐灰色を基調としたシルトがレンズ状に堆積し､4･8 ～ 10 層には、浅黄橙色シルト・灰白色シルトブロックの割合が高く、多量に含まれる。検出面からの深さ約 1.44m（標高約 5.24m）で人力掘削を断念したが、遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、5 層から白磁（75）・羽口、3・4 層から鉄滓が出土している。

SE242（図版 6・26・87）

10R グリッドに位置する。1 ～ 3 層は､褐灰色シルトを主体とし､断面はレンズ状を呈する。2･3 層は､層界に沿って土壌化が進んだ炭が褐灰色シルトと互層をなして堆積する。これは幾度かの投棄行為によっ

て形成されたと考えられる。4 ～ 9 層は、褐灰色シルト・灰白色シルト・砂質シルトのブロックが充填し、井戸廃絶後の埋戻し土と思われる。7 ～ 9 層の下はグライ化する砂質シルトである。湧水により、人力掘削を断念した。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、1 層から瀬戸美濃焼（76）・越前焼・羽口（187）・粘土塊・砥石・鉄滓、 2 ・ 3 層から羽口・鉄滓、4 層から越前焼、 6 層から珠洲焼・砥石、 8 層から白磁が出土している。

SE243（図版 6・26・87）

9R・S グリッドに位置する。1 ～ 5 層は、褐灰色シルト・黒色シルトを主体とし、層界に沿って土壌化が進んだ炭とシルトが互層をなして堆積する。これらは幾度かの投棄行為によって形成されたと考えられる。 6 層の下位には、扁平した褐灰色シルトブロックが含まれるが、壁の崩落によるものだろうか、立ち上がり付近には灰白色を呈したシルトブロックが目立つ。7 層以下はグライ化する。中世以前の埋没流路を掘り抜いて構築されており、この時、流路埋土内の流木も切断している。湧水により、人力掘削を断念した。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、 6 層から青磁、7 層から銭貨（176）、そのほか砥石が出土している。

SE244（図版 6・27・61・88）

9R グリッドに位置する。1 ～ 4 層は、褐灰色シルトを主体として灰白色シルトブロックを含む。4 層は、こんもりと盛られたように堆積する。5 層は、土壌化が進んだ炭がレンズ状に堆積する。6 ～ 10 層は、浅黄橙色シルトと灰白色シルトのブロックが目立つ。11 層はグライ化した緑灰色粘質土になる。断面は漏斗状を呈する。SE243 同様、埋没流路の埋土を掘り抜いているため、井戸下位の埋土は樹皮などの有機物と砂礫を多く含み、流路内の流木も切断している。遺物は、1 層から椀形滓（195）・珠洲焼、2 層から鉄滓、 9 層から青磁が出土している。

SE245（図版 6・28・88）

9R グリッドに位置する。SE245 は、SE246 と重複し、これに切られる。底面標高は、SE246 が SE245 よりも約 46cm 高く、前述（第Ⅳ章 3D 概要）の重複・隣接する井戸の新旧と底面標高の関係が一致しない例である。1 ～ 7 層は褐灰色シルトを主体としてレンズ状に堆積する。8 ～ 10 層の大部分がグライ化しているのに対し、同じレベルに堆積する 11 ～ 14 層は酸化鉄の沈着が顕著である。検出面からの深さ約 1.78m（標高約 4.9m）で底面を確認した。底部は、X 層に達しているものと推測される。遺物は、珠洲焼（77）、1 層から瀬戸美濃焼（78）、3 層から砥石（155）、15 層から陽物形木製品（241）・曲物柄杓（242）、そのほか 3 層から瓦器・羽口・鉄滓、 4 層から粘土塊、鉄滓が出土している。

SE246（図版 6・28・89）

9R グリッドに位置する。1 ～ 5 層は、酸化鉄の沈着が顕著で、6 層以下はグライ化する。検出面からの深さ約 1.32m（標高約 5.36m）で底面を確認した。底部は、Ⅸ層に達しているものと推測される。遺物は、1 層から出土した越前焼は SE263 埋土 7 層出土品と接合した。 6 層から砥石、 8 層からほぼ完形の漆器椀（243）、 9 層から越前焼（100）、そのほか羽口・粘土塊・鉄滓が出土した。

SE247（図版 6・27・89）

9R グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、レンズ状ないし斜位を呈する。3 層は、土壌化が進んだ多量の炭が層界に沿って堆積する。4 層以下は、グライ化したシルトとにぶい黄橙色シルトがおおむね交互に堆積しており、層界は明瞭に識別できる。断面は台形状を呈し、検出面からの深さ約 1.16m では平坦面を有する。径約 60cm・深さ約 18cm の規模で平坦面中央に水溜が掘られている。底部は、X 層に

達しているものと推測される。遺物は、1層から珠洲焼、3層から珠洲焼（79）・銭貨（記銘不明）、4層から珠洲焼・鉄滓、10層から曲物底板（244）が出土している。

SE249（図版6・28・90）

9Qグリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。2層から下位はグライ化し、粘性が強い。3層は崩落土と判断される。4層には、樹皮などの有機物が多く含まれている。検出面からの深さ約1.4m（標高約5.24m）で人力掘削を断念した。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、1層から青磁（80）・白磁（81）、2層から漆器椀（2層底面出土・247）・粘土塊、4層から桶側板（245・246）が出土している。なお、漆器椀（247）はSE580出土の漆器椀（266）と器形・文様が酷似する。

SE250（図版6・28・90）

9Sグリッドに位置する。埋土の堆積形状は、レンズ状ないしブロック状を呈し、7層に識別される。4層以下はグライ化し、粘性が強い。2層は、壁に沿って堆積していることから、崩落土と判断される。検出面からの深さ約1.36m（標高約5.36m）で底面を確認した。底部は、Ⅷ層に達しているものと推測される。遺物は出土していない。

SE251（図版6・29・90・91）

10Qグリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。9層から柄杓として用いられたと思われる曲物が出土しているが、遺存状態が悪く図化していない。検出面からの深さ約1.44m（標高約5.24m）で底面を確認した。底部は、Ⅸ層に達しているものと推測される。遺物は、2層から羽口（190）・鉄滓、3層から羽口、8層から珠洲焼（82）が出土している。

SE252（図版6・29・91）

9･10Qグリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。2層･6層下位･8層は、グライ化している。検出面からの深さ約1.54m（標高約5.16m）で底面を確認した。底部は、Ⅸ層に達しているものと推測される。8層から祭祀具と思われる木製品（248）がほぼ逆位で出土しているが、埋土から祭祀の痕跡を見いだすことはできなかった。そのほか、棒状木製品（249）、1層から珠洲焼・白磁が出土している。

SE253（図版6・29・91・92）

9Qグリッドに位置する。1・2層は、酸化鉄の沈着が顕著で、高師小僧が多量に含まれる。3・4層は、グライ化する。検出面からの深さ約1.28m（標高約5.32m）で底面を確認した。底部は、Ⅷ層に達しているものと推測される。遺物は出土していない。

SE254（図版6・29・92）

9Qグリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈するが、下部の層界は凹凸を有する。グライ化が断続的に見られ、湛水状態を保ちながら堆積した過程が推察される。断面を記録する前に土層観察面が崩落した。遺物は、1層から珠洲焼・青磁・粘土塊、7層から青白磁（83）、そのほか鉄滓が出土している。

SE256（図版6・29・92）

9Pグリッドに位置する。1～7層は、おおむねレンズ状に堆積するが、3層は腐植土を多量に含み、4・10層には土壌化が進んだ炭が幾層にも堆積している。井戸の多くは、祭祀行為の有無に関わらず、崩落などによる危険を回避するために廃絶後は埋め戻され、また窪みを利用して不用なものを投棄する様子が窺える。10層は、こうした井戸の埋め戻しに植物質や炭といった集落内の不用物を利用したと推察される。

検出面からの深さ約 1.12m（標高約 5.44m）で底面を確認した。底部は、Ⅷ層に達しているものと推測される。遺物は、1 層から青磁・粘土塊・鉄滓、 4 層から銭貨（177・178）、7 層から青磁、10 層から白磁（84）・青磁が出土している。

SE257（図版 6・30・92・93）

9P グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。2 層は、酸化鉄の沈着が顕著である。 4 ・6 層には土壌化が進んだ炭が充填する。また、1 層から 6 層で出土した遺物の年代に時期差が見られないことから、井戸廃絶後は短期的に埋没したものと考えられる。検出面からの深さ約 1.2m（標高約 5.4m）で底面を確認した。底部は、Ⅷ層に達しているものと推測される。遺物は、1・6 層から白磁（119 ～ 121）、 6 層から珠洲焼（118）・漆器皿（250）・箸（251）・折敷（252）・杭状木製品（253）、そのほか 1 ・6 層から白磁が出土している。なお、杭状木製品（253）の最大径は 12cm で、柱材に用いられたものかは不明であるが、同規模の柱痕をもつ掘立柱建物には、SB1・SB2・SB5・SB6・SB9 がある。

SE258（図版 6・30・93）

9P グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、水平レンズを呈する。2・3 層は、酸化鉄の沈着が顕著であり、上面には、炭化物を含む土壌化が進んだ炭が薄く堆積する。検出面からの深さ約 1.4m（標高約 5.2m）で底面を確認した。底部は、Ⅷ層に達しているものと推測される。遺物は、8 層から瓦器・曲物の側板が出土している。

SE259（図版 6・30・93）

8P グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、レンズ状を呈する。しかし、4・5 層と 6 層上位では、シルトブロックが扁平して水平に堆積している。井戸の埋戻し土と推測されるが、土圧により沈み込んでレンズ状となった可能性が高い。 4 層下部から下位の層はグライ化している。検出面からの深さ約 1.2m（標高約 5.5m）で底面を確認した。底部はⅣ層に達しているものと推測される。遺物は、 1 層から青磁（85）・白磁、 4 層から須恵器が出土している。

SE260（図版 6・30・93・94）

9P グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、レンズ状ないし斜位を呈する。断面は漏斗状であるが、南側には平坦面をもつ。検出面からの深さ約 60cm からは水溜となるように垂直に掘り込まれ、 7 層が堆積している。底面の標高は約 5.6m を測る。底部は、Ⅶ層に達しているものと推測される。遺物は、2 層から珠洲焼が出土している。

SE261（図版 6・30・94）

8P グリッドに位置する。1・2 層は、レンズ状に堆積する。4 層は、灰白色粘質土と黒色シルトのブロック土が充填しており、3 層との関係から、井戸側の裏込め土と考えられる。構築材は出土していないが、使用時には水溜施設が設置されていた可能性がある。 1 ～ 3 層は、井戸廃絶後の埋土である。 3 層は、粘質土が堆積することから、湛水状態を保ちながら堆積した過程が推察され、井戸廃絶直後の埋土と思われる。 3 層からは、長さ約 56cm、最大径が約 9cm の杭状木製品が逆茂木状に出土している。柱材に用いられたものかは不明であるが、同規模の柱痕をもつ掘立柱建物に SB9 がある。遺物は、 1 層から被熱した礫、 2 層から研磨具に転用された珠洲焼（138・139）・珠洲焼・越前焼・瓦器・瓷器系陶器・砥石・粉挽き臼・鉄滓・被熱礫、3 層から珠洲焼（86）・瓦器・羽口、 4 層から瓷器系陶器（87）・越前焼（88）・被熱礫・杭状木製品が出土している。各層から出土した遺物の年代に時期差が見られないことから、井戸の構築から埋没までは短期的であったと考えられる。検出面からの深さ約 1.1m（標高約 5.7m）で底面を

確認した。底部は、Ⅶ層に達している。

SE262（図版 6・31・94・95）

8・9R グリッドに位置する。1 ～ 4 層の堆積形状は、レンズ状を呈する。3 層中には、土壌化が進んだ炭が約 1cm の厚さで 2 条見られる。5・ 6 層はグライ化し、同じレベルの地山にはグライ化が見られないことから、湛水状態を保ちながら堆積したと推察される。湧水のため人力掘削を 4 ～ 6 層中（検出面からの深さ約 92cm・Ⅶ層）で断念し、重機による断ち割りを行った。遺構はさらに深く掘り込まれている。底部は確認していない。遺物は、 1 層から白磁、 2 層から珠洲焼、 3 層から珠洲焼（90）・瓷器系陶器・瓦器（92）・青磁（95）・朝鮮陶器（97）、 4 層から珠洲焼（91）・白磁・曲物の底板（256）、 5 層から珠洲焼・青磁（93・94・96）・ 2 個一対の下駄（254・255）・鉄滓、 6 層から珠洲焼（89）・越前焼・鉄滓が出土している。

SE263（図版 6・30・95）

8R・S、9R・S グリッドに位置する。1 ～ 4 層の堆積形状は、レンズ状を呈する。3 層以下はグライ化している。断面形は漏斗状である。検出面からの深さ約 1.54m で屈曲し、水溜と思われる円形の落ち込みへとつながる。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 2.26m（標高約 4.4m）で底面を確認した。底部は、ⅩⅣ層に達しているものと推測される。遺物は、7 層から出土した越前焼が SE246 埋土 1 層出土品と接合した。

SE264（図版 6・31・95）

7・8P グリッドに位置する。1 ～ 7 層は、おおむねレンズ状に堆積する。1 ～ 5 層には、土壌化が進んだ炭が堆積している。このうち 1 ・ 2 層には、炭が層界に沿って堆積するものと、ほぼ水平に堆積するものとがある。また、2・4 層では炭が褐灰色シルトや黒褐色シルトと互層をなし、かつ炭の中でも幾層かの堆積単位が識別できる。2・4 層の状況は自然のような堆積形状であっても、堆積土やその含有物等の様子から、投棄という人的要因についても考慮しなければならないことを示している。また、7 層は、腐植土が北側と南側に層界に沿って斜位に堆積している。これは不用となったものを投棄した当時の作業状況を窺い知る手がかりとなる。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 2.5m（標高約 4.1m）で底面を確認した。底部は、ⅩⅣ層に達しているものと推測される。底面のほぼ中央に水溜に用いられた曲物（259）が設置されている。遺物は、1 層から珠洲焼・青磁・白磁・粘土塊・鉄滓、2 層から珠洲焼・瀬戸天目・白磁・粘土塊・砥石、 6 層から箸（257）・折敷（258）・板状木製品、 7 層から珠洲焼（98）・瀬戸美濃焼（99）が出土している。

SE265（図版 6・31・95・96）

7P・Q グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、レンズ状を呈し、層界には凹凸が見られる。検出面からの深さ約 54cm（標高約 6.0m）を測る。底部は、Ⅳ層に達しているものと推測されることから、井戸と判断した。遺物は出土していない。

SE266（図版 6・31・96）

7P グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、レンズ状を呈する。検出面からの深さ約 74cm（標高約 5.9m）を測る。底部は、Ⅳ層に達しているものと推測されることから、井戸と判断した。遺物は出土していない。

SE267（図版 6・31・96）

7P グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。1・ 2 層は、酸化鉄の沈着が見られ、3 層以下はグライ化している。 6 層は崩落土と思われる。検出面からの深さ約 1.6m（標高約

5.06m）で底面となる。重機による断ち割りを行い、底部がⅦ層に達していることを確認した。遺物は、1層から鉄滓、7層から板状木製品・曲物の底板・折敷と思われる木製品、そのほか珠洲焼・青磁が出土している。

SE270（図版4・32・96）

7・8J グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。2層は、灰が多量に含まれ、炭は土壌化が進んでいる。また、炭は黒色シルトと明褐灰色シルトとの互層をなして水平に堆積しており、幾度かの投棄単位が窺える。湧水によって人力掘削を断念したが、遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、2層から瀬戸美濃焼（101）・粘土塊・鉄滓、そのほか青磁（102）・砥石が出土している。

SE271（図版4・32・96・97）

8J グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。3層は、土壌化が進んだ炭が多量に含まれる。不用となったものを西側から投棄、または東側から投げ込んだのだろうか、3・4層は流れ込むように堆積している。6層は崩落土と思られる。7層以下はグライ化している。検出面からの深さ約 64cm の壁面には酸化鉄が帯状に沈着し、これ以下はグライ化している。しかし、グライ化する壁面にも、水位の変動による幾本かの酸化鉄帯が横位で断続的に見られる。検出面からの深さ約 1.16m（標高約 5.52m）で底面を確認した。重機による断ち割りを行い、底面がⅧ層に達していることを確認した。遺物は、1層から青白磁（103）、5層から珠洲焼･曲物の底板（260）、7層から曲物の側板が出土している。

SE272（図版4・32・97）

8J グリッドに位置する。1 ～ 6 層の埋土の堆積形状は、おおむね水平を呈する。1 ～ 3 層は、扁平した明褐灰色シルトブロックが層界に沿って堆積する。4層には、土壌化が進んだ炭が多量に含まれる。7層は、裏込め土のようにも思えるが、1 ～ 6 層との層界には井戸側の痕跡は見られなかった。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.8m（標高約 4.88m）で底面を確認した。底部は、Ⅸ層に達しているものと推測される。遺物は、2層から砥石、3層から鉄滓、5層から白磁、6層から青磁・粘土塊が出土している。

SE273（図版4・32・61・97）

8I グリッドに位置する。1 ～ 4・8 ～ 11 層は、地山（Ⅱ～Ⅶ層）との識別が困難であったが、黒褐色シルトブロックの有無や質感の違いから埋土と認識した。おおむね5層を境に、1 ～ 3 層は北側から、6 ～ 11 層は南側から流れ込むように堆積している。検出面からの深さ約 90cm（標高約 5.8m）の壁面には「加弥」と思われる酸化鉄の帯が見られ、これより下位はグライ化している。「加弥」からの深さ約 10cm の南側には平坦面があり、水溜はここから長径約 90cm･深さ約 30cm の規模で掘り込まれている。底部は、Ⅶ層まで達している。遺物は､7 ～ 11 層出土のものと SE70 埋土 16 層の出土品が接合した珠洲焼(104)、11 層から珠洲焼（105）が出土している。

SE275（図版5・32・98）

6･7K グリッドに位置する。1 ～ 4 層は、レンズ状、5 ～ 7 層は、おおむね水平に堆積している。また、層界は凹凸を有し、層中には拳大のシルトブロックが充填している。検出面からの深さ約 1.0m（標高約 5.6m・Ⅶ層）で人力掘削を断念した。遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は出土していない。

SE276（図版 4・33・98）

6I グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。4 層及びこれより下位はグライ化し、同じレベルの地山にはグライ化が見られないことから、湛水状態を保ちながら堆積した過程が推察される。検出面からの深さ約 68cm（標高約 6.0m）の壁面には、幅約 40cm で酸化鉄が沈着しており、「加弥」と思われる。現地調査段階では完掘としたが、11 層下部がやや黒色をおびていることから、底面はさらに下部に位置すると思われる。断ち割りは行っていない。遺物は、8 層から青磁、9 層から珠洲焼、11 層から青磁・曲物の側板、そのほか瀬戸美濃焼が出土している。

SE277（図版 4・33・98）

6・7J グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむね水平レンズを呈する。3・5 層は、土壌化が進んだ炭と褐灰シルトを主体とするブロックが充填している。検出面からの深さ約 72cm（標高約 5.98m）で底面を確認した。重機による断ち割りを行い、底部がⅦ層に達していることを確認した。遺物は、5 層から粘土塊、10 層から珠洲焼、13 層から銭種不明の銭貨が出土している。

SE288（図版 4・33・99）

6J グリッドに位置する。1 ～ 5 層の埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。1・2 層には、浅黄橙色シルトを主体とするブロックが充填している。透水層のⅣ層は、検出面からの深さ約 1.0m 前後にある。1・2 層は、井戸掘削に際して発生した掘削土と判断した。当遺構の西側には、ⅩⅢ層までの掘り込みが推測される SE279 が位置しており、SE288 から SE279 への井戸の造り替えも考慮する必要がある。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.8m（標高約 4.85m）で底面を検出した。断面は階段状を呈し、長径約 84cm・深さ約 40cm の水溜を確認した。底面の掘り込みはⅩⅠ層に達しているものと推測される。遺物は出土していない。

SE279（図版 4・33・98）

5・6J グリッドに位置する。1 ～ 4 層の埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 2.0m（標高約 4.6m）で底面を検出した。底部は、ⅩⅢ層に達しているものと推測される。断面は階段状を呈し、長径約 1.36m・深さ約 70cm の水溜を確認した。水溜部も階段状となるが、底部は長径約 56cm で平らである。遺物は出土していない。

SE295（図版 4・33・99）

5I グリッドに位置する。1 ～ 4・7・8 層は、おおむね水平レンズ状を呈する。5・6 層は崩落土である。埋土は、黒色シルトを基調とし、灰白色シルトと明青灰色粘質シルトブロックが充填している。検出面からの深さ約 68cm（標高約 5.98m）の壁面には「加弥」と思われる酸化鉄の帯が見られ、これより下はグライ化している。検出面からの深さ約 1.78m（標高約 4.88m）で底面を確認した。重機による断ち割りを行い、底部がⅩ層に達していることを確認した。遺物は、8 層下部から、藁が遺存する草履の芯（261）・永楽通宝の融着痕がある折敷の底板（262）が出土している。

SE301（図版 3・34・99）

6G グリッドに位置する。1・2・4・7・9 層は、黒色系のシルトを主体とするブロックが充填している。3・6・6・8・10 ～ 12 層には黄色系・白色系のシルトを主体とするブロックが堆積し、黒色系のブロックは極端に少ない。1 ～ 12 層は、埋戻し土と判断される。検出面からの深さ約 1.14m（標高約 5.52m）で人力掘削を断念した。重機による断ち割りは行っていない。遺物は出土していない。

SE302（図版３・34・99・100）

7F・G グリッドに位置する。１～９層は、レンズ状に堆積する。６層は、層厚約 8cm の土壌化が進んだ炭が黒色シルトと互層をなして層界に沿って堆積しており、幾度かの投棄行為が窺える。10・12・13・15 層は、不用となったものを西側から投棄したのだろうか、流れ込むように堆積している。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 1.86m（標高約 4.8m）で、長径約 64cm・深さ約 28cm の水溜を検出した。底面標高は約 4.52m を測り、底部はⅦ層に達している。遺物は、１層から白磁、２層から青磁・粘土塊、５層から瓷器系陶器（106）・瓦器（107）、６層から装厳具ヵ（181）、８層から珠洲焼、14 層から包丁（161）、そのほか羽口が出土している。

SE303（図版３・34・99・100）

7F・G グリッドに位置する。半截中に土層観察面が崩落したため、長径からやや北西側で断面の観察・記録を行った。１・２層の堆積状況から、遺構上部の削平が著しいことが窺える。２～４層の層界は凸凹しているが、おおむね水平に堆積している。７層は、灰白色・灰色のシルトブロックが充填する。重機による断ち割りを行い長径約 24cm・深さ約 30cm の水溜を検出したが、図化していない。遺物は、２層から青磁、３層から瀬戸美濃焼（108）が出土している。

SE304（図版３・35・100・101）

7F グリッドに位置する。にぶい黄橙色シルトブロックを含む１層が、黄灰色シルトの SD327・SD328・SD329 を切っていることから、検出時に遺構と識別できたが、１層とⅡ層とでは土色・土質にほとんど差がない。１・４・５層は、黒色・黒褐色・褐灰色のシルトブロックが充填している。半截中に土層観察面が崩落したため、長径からやや西側で断面の観察・記録を行った。１・２・５～８層の層界は凸凹しているが、おおむね水平ないしレンズ状に堆積している。３層は土壌化した炭を多量に含み、３・４層は、不用となったものを南側から投棄したのだろうか、流れ込むように堆積している。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 2.2m（標高約 4.34m）で底面を確認した。断面は、階段状を呈し、検出面からの深さ約 2.0m（標高約 4.54m）では、長径約 40cm･深さ約 20cm の水溜を検出した。底部は、ⅩⅢ層に達しているものと推察される。９層以下はグライ化し、同じレベルの地山はグライ化していないことから、湛水状態を保ちながら堆積した過程が推察される。遺物は、１層から青磁・鉄滓、２層から白磁、３層から珠洲焼、６・９層から青磁が出土している。

SE305（図版４・35・101）

7G グリッドに位置する。検出時の長軸で半截した土層観察面が崩落したため、断面は見通し図を作成した。５層は、４層との関係から井戸側の裏込め土と考えられ、層界に井戸側が設置されていた可能性がある。１～４層は、シルトブロックが充填する埋戻し土である。また、２層のシルトブロックは扁平で、３層との層界に沿って中ほどから外側へ流れ込むように堆積している。不用となったもの投棄した状況が窺えよう。重機による断ち割りを行い、検出面からの深さ約 2.0m（標高約 4.68m）で径約 58cm・深さ約 50cm の水溜を検出した。水溜には曲物が設置されている。曲物内には細砂を多量に含む粘質シルトが充填している。底部は、ⅩⅤ層に達しているものと推測される。遺物は、５層から鉄滓、水溜に設置されていた曲物側板（263）、そのほか粘土塊が出土している。

SE306（図版４・34・101）

7G グリッドに位置する。１～３層はおおむねレンズ状、４～７層は斜位堆積を呈し、８層は９層との層界に凹凸を有するもののおおむね水平に堆積する。８層には、扁平な浅黄色シルトブロックが水平に堆

積している。1 ～ 6 層は、不用となったものを投棄したのだろうか、西側から流れ込むように堆積している。本遺構の東側には、SE305・SE307 が位置している。時期が分かる遺物が出土してないことから断定はできないが、井戸の造り替えを考慮する必要がある。埋土の上位には、黒色系のシルトが多量に含まれていることから、本遺構と直接的な切り合い関係にある SE307 ではなく、SE307 と新旧関係にある SE305 を掘削する際の SE307 埋土の可能性が考えられる。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、8 層から曲物の底板、そのほか瀬戸天目・粘土塊が出土している。

SE307（図版 4・35・101・102）

7G グリッドに位置する。3･6 層には､約 5cm 角の炭化物や灰･骨片が含まれている。5 層は､焼土ブロックと被熱土のブロックからなるが、遺構内には火を焚いた痕跡はない。炭化物・灰・骨片・焼土及び被熱土は遺構平面のほぼ中央から出土した。8 ～ 14 層には、拳大のシルトブロックが充填し、井戸の埋戻し土と思われる。重機による断ち割りを行い､検出面からの深さ約 1.9m（標高約 4.76m）で底面を確認した。底部は、Ⅸ層に達している。遺物は骨片のほか検出面からの深さ約 1.1m で漆器（264）が出土している。

SE315（図版 4・36・102・103）

7G グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむねレンズ状を呈する。重機による断ち割りを行い､検出面からの深さ約 1.16m（標高約 5.5m）で底面を確認した。底面の掘り込みはⅣ層に達しているが、底部は「加弥」の直上である。「加弥」から下の地山はグライ化している。遺物は、1 層から越前焼、3 層から粉挽き臼、4 層から瀬戸美濃焼･端部が炭化した板状木製品、5 層から珠洲焼の転用研磨具（140）･越前焼が出土している。また、5 層底面から漆器が出土しているが脆く、図化していない。

SE317（図版 4・36・102・103）

7G グリッドに位置する。堆積形状は、レンズ状ないし斜位を呈する。3 層には、土壌化が進んだ炭がブロック状に堆積していることから、投棄された土壌と考えられる。10 ～ 12 層は、灰色を基調とするシルトブロックが充填し、井戸廃絶後の埋戻し土と思われる。検出面からの深さ約 1.0m（標高約 5.7m・Ⅳ層）で人力掘削を断念した。遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、2 層から青磁、このほか粉挽き臼、鉄滓が出土している。

SE318（図版 4・36・102・103）

7G グリッドに位置する。埋土の堆積形状は、おおむね水平レンズ状を呈する。井戸の下位は崩落し、袋状になっている。5 層には、厚さ約 6cm で、土壌化が進んだ炭が堆積している。8 層は、木端などを含んだ腐植土からなり、7 層との層界には樹皮のようなものが平面のほぼ全体に認められた。9 層以下はグライ化し、黒色を呈した粘質シルトがラミナ状に堆積している箇所も見られる。9 ～ 16 層は埋戻し土と考えられる。重機による断ち割りを行い､検出面からの深さ約 1.86m（標高約 4.94m）で底面を確認した。遺物は、1 層から青磁、2 層から白磁・粘土塊・鉄滓、6 層から羽口・砥石、7 層から珠洲焼、10 層から曲物底板（265）、14 層から曲物の側板が出土している。なお、265 の底板は側板を伴うが、残りが悪く図化していない。

SE320（図版 4・36・103・104）

8G・H グリッドに位置する。本遺構の一部は調査区外へ延びている。埋土の堆積形状は、レンズ状を呈する。1 ～ 6 層は、褐灰色や灰白色などを基調としたシルトブロックが充填している。7・11・13 ～ 17 層は、投棄と考えられる土壌化が進んだ炭が堆積している。褐灰色シルト・灰白色シルト・暗褐色シルトブロックの含有量やわずかな彩度の違いで分層した。検出面からの深さ約 1.12m（標高約 5.56m･Ⅳ層）

で人力掘削を断念した。遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、18 層から鉄滓が出土している。

SE321（図版 4・37・104）

7･8H グリッドに位置する。1 ～ 6 層は、黒褐色や浅黄橙色を基調としたシルトブロックが充填し、5･6 層は、1 ～ 4 層に比べてブロックの径が大きい。おおむね水平堆積であるが、層界は凸凹がある。4・6 層には骨片が含まれている。検出面からの深さ約 92cm（標高約 5.76m・Ⅳ層）で人力掘削を断念した。遺構はさらに深く掘り込まれている。重機による断ち割りは行っていない。遺物は、1 層から銭貨（179）、4 層から羽口、5 層から白磁、7 層から珠洲焼、そのほか火付け木が出土している。

SE580（図版 6・37・104）

8Q グリッドに位置する。調査前の現況の水田に伴う溝に切られる。土層観察面の上端標高は 6.3m であるが、検出面は約 30cm 上方である。埋土の堆積形状は、レンズ状を呈する。1 ～ 3 層は、黒色を基調とした粘質シルトである。3 層底部から漆器椀（266）が逆位で出土している。266 は、SE249 埋土 2 層から出土した漆器椀（247）と器形・文様が酷似する。検出面からの深さ約 1.14m（標高約 5.46m）で底面を確認した。

SE599（図版 4・15・61・104・105）

5H グリッドに位置する。SE65 に切られ、SE65 の検出面からの深さ約 1.3m（標高約 5.3m）で検出した。SE65 の裏込め土を掘削中に、混入物が含まれない明青灰色粘質シルトが半円状に見えた。1 層から、曲物側板（218）が正位で出土したが、出土位置から投棄されたものと思われる。底部は、ＸⅠ層に達している。遺物は、1 層から瀬戸美濃焼（109）、2 層から瓦器（110）・灯明皿として使用された白磁（111）・木質柄部（267）が遺存する刀子（160）・十字形木製品（223）が出土している。

E　土　　坑（24 基）

1）概　　要

平面の長径が 50cm 以上で柱穴でないもの、また、底面が透水層に達していないものを土坑とした。検出面からの深さが最も浅いものは SK60 の 7cm で、最も深いものは SK134 の 66cm である。

分布は、O グリッドラインから北側である。掘立柱建物に近接しているものもあることから、建物に伴う可能性がある。ここでは、建物に伴う可能性のあるものと堆積物に特徴があるものを記す。

2）各　　説

SK60（図版 3・37・105）

4G グリッドに位置する。1 層は、径約 1cm のシルトブロックが充填する。径約 1cm の炭化物と焼土ブロックが含まれるが、被熱した痕跡は認められない。2 層は、炭化粒をわずかに含む。遺物は出土していない。

SK61（図版 3・38・106）

4G グリッドに位置する。埋土は 9 層に識別され、6 層は炭化した植物遺体、微量の灰が筋状に遺存する。8 層から被熱礫が出土している。

SK73（図版 4・38・107）

5H グリッド、SB8 の北側に位置する。底部は凸凹が著しい。埋土は、水平に堆積する。遺物は出土していない。

SK217（図版 3・40・109）・**SK221**（図版 2・40・110）

4E グリッド、4D グリッドにそれぞれ位置する。SK217 は SB3 の南側、SK221 は西側に配される。遺物は出土していない。

SK218（図版 3・40・109）

3E・F グリッド、SB4 の西側に位置する。断面は台形状を呈する。シルトブロックが充填し、レンズ状堆積を示す。遺物は、 3 層から鉄滓、6 層から青磁の椀（117）が出土している。

SK292（図版 4・40・110）

5H・I、6H・I グリッド、SB9 の西側に位置する。断面は台形状を呈する。シルトブロックが充填し、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

第Ⅴ章　遺　　物

1　概　　要

出土した遺物は、土器･陶磁器、土製品、金属製品、石製品、木製品がある。土器･陶磁器には、珠洲焼、瓷器系陶器、瀬戸美濃焼、中世土師器、瓦器、越前焼、青磁、白磁、青白磁、青花、朝鮮陶器、転用具がある。土製品には、坩堝、鋳型、羽口のほか炉壁、粘土塊などの鍛冶に関連する遺物がある。金属製品には、鍋、刀子、包丁、釘、装具、銭貨がある。石製品には、臼、鉢、砥石がある。掲載率（掲載遺物 / 不掲載遺物）は、土器・陶磁器が 23.5%、土製品 3.3%、石製品が 30.0%、金属製品は銭貨 47.2%・椀形滓 100%である。鉄滓は、総重量 23,285g が出土しているが、掲載していない。木製品は、伊東・山田［2012］の木器分類を参考にし、工具（刀子柄・柄）、容器（漆器椀・漆器皿・曲物・桶・手桶・柄杓）、食事具（折敷・箸）、服飾具（下駄・草履芯）、施設材・器具材（井戸側材）、祭祀具（神饌容器・陽物形木製品）、その他（棒状木製品・板状木製品・十字形木製品・杭状木製品）に分類し、さらに細分したものもある。

2　土器・陶磁器

1）記載の方針

土器は、消費地における珠洲焼から瓦質・越前焼への移行期にあたる。輸入陶磁器は青磁の椀が主体を占める。

年代観については、珠洲焼は吉岡［1994］、瓷器系陶器は鶴巻［1991］、瀬戸焼･美濃焼は藤沢［2008］、中世土師器は品田［1999］、水澤［2005・2006・2009a］、瓦器は水澤［2009b・2010a］、青磁は上田［1982］、水澤［2009a］、白磁は森田［1982］、水澤［2009a］、青花は小野［1982］、水澤［2009a］を参考にした。越前焼は、木村孝一郎氏に教示を得た。朝鮮陶器は、美術史家である高裕燮氏が命名した「粉粧灰青沙器」が略称されて「粉青沙器」と呼ばれることもあり［今井 2002］、「高麗茶椀」や「李朝陶器」、「雑釉」をこれに包括しているものも散見される。しかし、「粉粧灰青沙器」に一括りにはせず、施釉から「雑釉」と「粉青」に分け、これを陶胎質であることから「朝鮮陶器」として包括した。

珠洲焼は、Ⅴ～Ⅵ期が多く、Ⅲ・Ⅳ期が少量出土している。Ⅳ期以降の片口鉢には、体部外面に紐の痕跡が 1 ～ 2 条認められる。珠洲焼の品質低下と相まって、胎土には砂粒が多く含まれ、粘りが少なくなるようである。したがって、体部外面に紐をかけて口縁～体部上位を起こした痕跡と考えられる。本文中の「紐の痕」はすべてこの意である。瀬戸美濃焼は、古瀬戸後Ⅳ期新段階～大窯 1 期前半である。瓦器は、北陸産である。越前は、15 世紀末～ 16 世紀初頭である。青磁・白磁は、15 世紀後半が多く、14 世紀代のものが少量出土している。朝鮮陶器は李朝期のもので、共伴する珠洲焼・越前焼の年代から 15 世紀末～ 16 世紀初頭に位置付けた。

記述は、遺構内出土（遺構ごと）と遺構外出土とに分けて報告する。転用具は小目として扱った。

2）各　　説

A　遺構出土

SD101（図版 41・42・111・112）

1･2 は珠洲焼の壺である。1 は口縁部～頸部である。焼成は良好で、堅緻である。Ⅲ期の所産であろう。2 は肩部～体部である。焼成は良好で、堅緻である。Ⅲ期の所産と思われる。

3 は珠洲焼の甕である。外面は平行叩きで成形される。Ⅳ期の所産と思われる。

4 は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。口縁部はナデられ、端部がわずかに窪むが水平をとる。焼成は不良で、暖色系を呈する。Ⅳ期の所産である。

5 は珠洲焼の片口鉢の体部～底部である。底部の切り離しは静止糸切りである。底部に近い体部外面には指抜き痕が残る。体部と底部の内外面にはタール状の付着物が顕著に見られる。

6 は珠洲焼の片口鉢の体部～底部である。底部外面は切り離し後にナデられている。底部内外面は使用によって摩耗し、平滑である。

7 は瓦器の円形浅鉢である。体部に丸形紋が 8 個連続して押されている。乳頭状の脚が 1 か所確認できる。底部内外面はナデられ、体部外面は丁寧なミガキが施される。体部内面は煤けており、香炉として使用されたものと思われる。体部～底部外面は焼成時の黒斑が見られる。

8 ～ 12 は越前焼の擂鉢の口縁部～体部である。8 は口縁端部が水平にひき出される。10 条 1 単位の卸目が施され、卸目にはタール状のものが挟まっている。15 世紀末の所産である。9 は口縁端部が水平にひき出される。10 条 1 単位の卸目が施される。内面口縁部～体部にかけてタール状の付着物が観察される。破片断面には付着していない。15 世紀末の所産である。10 は口縁端部が水平にひき出される。8 条 1 単位の卸目が施される。16 世紀初頭に比定される。11 は口縁端部が丸みをもつ。焼成はやや不良である。16 世紀初頭に比定される。12 は口縁端部がわずかに水平に引き出されるが、端部はナデられ、丸みをもつ。口縁部外面には指頭痕が見られる。10 条 1 単位の卸目が施される。16 世紀初頭に比定される。

13 は越前焼の擂鉢の体部～底部である。12 条 1 単位の卸目が施される。ロクロの回転方向は、砂粒の動きから左である。内面と底部の外端部にのみ使用痕が顕著に見られ、平滑である。15 世紀末～ 16 世紀初頭に比定される。

14・15 は瀬戸美濃焼の折縁深皿の口縁部～体部である。14 の口縁端部は丸みをもつ。15 の外面の灰釉は白濁している。

16･17 は青磁の直口椀である。16 は口縁部内面に横位の線描がある。17 は体部外面に線描蓮弁を刻む。口縁はわずかに外反する。15 世紀後半に比定される。

18 ～ 23 は、青磁の椀である。18 は底部～高台部で、見込みに菊花のスタンプをもつ。高台内面の途中まで釉が掛かる。釉はくすんだ灰オリーブ色を呈する。断面には漆と思われる接合痕が見られる。19 は体部～底部で、見込みには圏線を巡らせて、先端に丸みをもつ工具で草花文が描かれる。高台内面の途中まで釉が掛かる。20 は体部～底部である。高台内面まで厚く釉が掛かり、底部外面の釉は剥ぎとられている。21 は全面が施釉される。22 は体部～底部で、高台内面まで釉が掛かり、底部外面は釉が剥ぎとられている。23 は底部で、畳付から底部外面は基本的に無釉であるが、釉が一部たれている。

24 は青花の端反り皿で、体部下位～底部片である。高台の釉を剥ぎ取っている。体部外面に界線と文様が描かれているが判然としない。内面には、二重の平行線がわずかに見られ、見込みに十字花文が描かれる。16 世紀前半と思われる。

25 は朝鮮陶器の雑釉の皿である。見込みと畳付に砂目跡が 4 か所ずつ残る。

SD102（図版 42・112）

26 は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。口縁部に櫛目波状文が加飾される。Ⅴ期後半～Ⅵ期の所産である。

27 は珠洲焼の甕である。体部～底部で、外面は平行叩きで成形される。底部は砂底で、外縁は摩耗して平滑である。内面にはタール状の付着物が見られる。

28 ～ 30 は瓦器の風炉である。29 は頸部と肩部に透孔を有し、県内でも珍しいタイプである。上面を水平にとる方頭で、頸部には木葉のような線刻が施される。口縁部～肩部にかけて二次焼成を受ける。28 は、上面を水平にとる方頭で、頸部には突線間に「×」を付けた方形紋（×入重画紋）［水澤 2009b］が押される。30 は円形深鉢である。体部片で凸帯が巡る。

31 ～ 33 は瀬戸美濃焼である。31･32 は折縁深皿である。31 は口縁部で、外面の灰釉が白濁している。32 は底部片で、体部外面はケズリが施され、底部外面はナデられる。ロクロの回転方向は砂粒の動きから左である。施釉は、漬掛けと思われる。脚貼り付け時の指頭痕が残る。33 は天目茶椀である。

34 ～ 40 は青磁の椀である。34 は体部内面にヘラ描きを刻む端反椀である。35 は外面に連弁文を、見込みには圏線を巡らせて草花文が刻まれ、全面に施釉される。36 は体部～底部である。見込みに圏線が巡らされている。器面には細かな凹凸がある。釉は高台内面の途中まで掛かるが、体部下位から高台内面まで白濁する。37 は体部～底部で、畳付から底部外面は無釉である。底部は焼成が不良である。38 は体部～底部である。見込みに草花と思われる文様が刻まれる。畳付から底部外面は無釉である。39 は体部～底部で、見込みに草花と思われる文様が刻まれる。釉は、体部から高台外面までは厚く掛かるが、底部外面は極めて薄い。40 は体部で、外面に線描連弁を刻む。15 世紀後半以降と思われる。

41・42 は青磁の皿である。41 は腰折稜花皿で、焼成は不良である。42 は直口する無文の皿である。

43 は青白磁の皿で、見込みの釉は輪剥ぎされる。

44 は灰白色を呈する多角杯である。小片のため明確でないが、八角杯と思われる。

45 は朝鮮陶器の雑釉の皿である。口縁は外反し、等間隔に 6 か所が削られ、輪花状につくる。見込みと畳付に砂目跡が 4 か所ずつ残る。完形である。

SD377（図版 42・112）

46 は珠洲焼の片口鉢の体部である。稠密な卸目が施される。

47 は朝鮮陶器の粉青の皿である。胎土に赤色粒子が含まれる。切り離しは、右回転のヘラ切りである。

SE63（図版 43・112）

48 は瓦器の円形深鉢である。体部片で凸帯が巡る。

49 は白磁の皿である。高台に弧状の抉り込みが入れられる。高台の抉り込みと内面の目跡は 2 か所ずつ確認できるが、位置関係から抉り込みと目跡が対応して 5 か所あったものと思われる。

SE65（図版 43・112・113）

50 は珠洲焼の片口鉢である。体部～底部で、底部の切り離しは静止糸切りである。底部に近い体部外面には右手の指抜き痕が残る。体部～底部内面と底部外面の外縁は摩耗が顕著で、平滑である。

51 は青磁の椀である。見込みに草花文が刻まれる。畳付から高台内面の途中まで釉が掛かり、底部外

面は無釉である。

52 は青磁の腰折稜花皿で、焼成は不良である。

53 は朝鮮陶器の雑釉の皿で、畳付にのみ砂目跡が残る。底部の切り離しは、右回転ヘラ切りである。

54 は青花の端反り椀で、口縁～体部片である。口縁部内外面には、二重界線の中に雷文帯が描かれる。体部外面には人物が描かれるが、題材は不明である。

SE66（図版 43・113）

55 は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。櫛目波状文が加飾され、稠密な卸目が施される。口縁部下の体部外面には、紐の痕が 1 条確認できる。Ⅵ期の所産と思われる。

SE68（図版 43・113）

56 は中世土師器の皿である。ロクロ成形である。灯明皿として使用され、口縁部内外面及び口縁端部にタールが付着する。

SE70（図版 43・113）

57 は瀬戸美濃焼の皿である。底部外面には糸切り痕が見られ、ロクロの回転方向は左である。施釉方法は刷毛掛けである。

SE72（図版 43・113）

58 は珠洲焼の片口鉢である。口縁～体部で、片口部が遺存する。口縁部に櫛目波状文が加飾され、稠密な卸目が施される。口縁部下の体部外面には、紐の痕が 2 条確認できる。Ⅴ期後半～Ⅵ期の所産である。

59 は青磁の直口椀である。体部外面に蓮弁文をもつ。

SE107（図版 43・113）

60 は珠洲焼の片口鉢である。口縁部に加飾は見られない。端部は水平に引き出される。Ⅴ期の所産と思われる。

SE111（図版 43・113）

61 は珠洲焼の壺の体部である。

SE114（図版 43・113）

62 は珠洲焼の甕である。体部で、外面は平行叩きで成形される。Ⅴ期の所産と思われる。

SE125（図版 43・113）

63 は珠洲焼の壺の体部で、内面のロクロ目は明瞭で、稜をつくる。焼成は良好で、堅緻である。内面にはタール状の付着物が見られる。Ⅲ期の所産と思われる。

SE148（図版 43・113）

64 は珠洲焼の壺の肩部である。焼成は良好で、堅緻である。

SE152（図版 43・113）

65 は越前焼の擂鉢である。口縁端部が強くナデられ、沈線状の窪みを有する。15 世紀末～ 16 世紀初頭に比定される。

SE155（図版 43・113）

66 は青磁の直口椀である。外面に雷文が描かれる。14 世紀後半に比定される。

SE157（図版 43・113）

67 は朝鮮陶器の雑釉の皿である。体部に稜をもち、口縁を輪花状につくる。畳付に砂目跡が残る。

SE170（図版 43・113）

68 は珠洲焼の壺 R 種である。二次焼成を受け、外面の一部が暖色系を呈する。内面に不明の付着物が見られる。

69 は瓦器の鉢である。体部外面に指頭痕が 2 か所見られ、深く窪む。底部の切り離しは、静止糸切りである。

70 は瀬戸美濃焼の折縁深皿である。上半は漬掛けによる灰釉が施され、体部内面下半は自然釉がつく。

71・72 は青磁の端反椀である。71 は無文である。畳付から高台内面まで釉が掛かり、底部外面は無釉である。72 は無文である。

SE196（図版 44・113）

73 は越前焼の擂鉢である。口縁部片で、口縁端部が強くナデられ、沈線状の窪みを有する。16 世紀初頭に比定される。

SE197（図版 44・113）

74 は瓦器の円形深鉢である。底部片で、燻されて黒色を呈する。

SE241（図版 44・113）

75 は白磁の端反皿で、体部と底部の屈曲部に圏線が巡らされる。やや黄色みをおびる。

SE242（図版 44・113）

76 は瀬戸美濃焼の折縁深皿である。底部片で、底部外面はナデられる。ロクロの回転方向は砂粒の動きから左である。体部内外面から底部にかけて灰釉が垂れており、一部が白濁している。施釉は、漬掛けと思われる。脚が貼り付けられ、指頭痕が残る。

SE245（図版 44・113）

77 は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。Ⅵ期の所産である。御目は 9 条 1 単位と思われる。

78 は瀬戸美濃焼の天目茶碗である。

SE247（図版 44・114）

79 は珠洲焼の壺 T 種である。撫で肩で、体部外面は平行叩きで成形される。肩部には縦位に紐の痕跡を留めている。Ⅳ期の所産と思われる。

SE249（図版 44・114）

80 は青磁の椀である。見込みには圏線を巡らせて、先端に丸みをもつ工具で草花文が描かれる。高台内面の途中まで釉が掛かる。焼成はやや不良である。

81 は黄色みをおびる「口禿げ」の小皿である。釉には細かい貫入を多く伴う。見込みの釉は剥ぎとられており、見込みと体部下位から底部外面にかけて煤けていることから灯明皿として使用されたと考えられ、口禿げの箇所から真下の釉と露胎の境目には黒色の付着物が見られる。口縁部を欠損しており、儀礼に関わる行為によるものだろうか、意図的に外面から圧力がかけられている。

SE251（図版 44・114）

82 は珠洲焼の片口鉢の口縁部～体部である。口縁部に櫛目波状文が加飾され、親指大の指頭痕で櫛目の一部が見えない。稠密な卸目が施される。口縁部下の体部外面には、紐の痕が 1 条確認できる。Ⅴ期後半～Ⅵ期の所産である。

SE254（図版 44・114）

83 は青白磁の皿である。見込みの釉は輪剥ぎされる。

SE256（図版 44・114）

84 は「口禿げ」の小皿である。釉には細かい貫入が多く伴う。灯明皿としての使用が考えられる。

SE259（図版 44・114）

85 は青磁の椀である。見込みには草花文のスタンプが押される。全面に施釉後、外面の釉は一部剥がされている。

SE261（図版 44・114）

86 は珠洲焼の片口鉢である。口縁部に櫛目波状文が加飾される。口縁部下の体部外面には、紐の痕が 1 条確認できる。体部内面にはタール状の付着物が見られる。Ⅴ期後半～Ⅵ期の所産である。

87 は瓷器系陶器の甕である。胎土には長石が多量に、石英が少量含まれ、粗い。外面は平行叩きで成形される。底部の切り離しは静止糸切りである。底部外面の外側は摩耗して平滑である。内面と断面にはタール状の付着物が顕著に見られる。北越窯産である。

88 は越前焼の擂鉢である。口縁端部は水平にひき出される。口縁部外面にタール状の付着物が観察されるが、破片断面には付着しない。15 世紀末に比定される。

SE262（図版 44・45・114）

89 は珠洲焼の甕である。外面は平行叩きで成形される。底部外面は砂底で、外側は摩耗が顕著で平滑である。

90・91 は、珠洲焼の片口鉢である。90 は、体部～底部である。稠密な卸目が施され、底部外面は切り離し後にナデられている。内面に比べて底部外面の摩耗は顕著である。Ⅴ期後半～Ⅵ期の所産である。

91 は体部片である。6 条 1 単位の卸目が施される。内面にはタール状の付着物が見られる。

92 は瓦器の擂鉢である。内面が煤けており、卸目にタール状の付着物が観察される。

93・94 は青磁の直口椀である。93 は、口縁部外面に雷文が描かれる。14 世紀後半に比定される。94 は、体部外面に 4 条、内面に 1 条の横位の線描を刻む。

95・96 は青磁の腰折稜花皿である。

97 は朝鮮陶器の雑釉の皿である。焼成がやや不良で赤みをおびる。見込みと畳付に砂目が 4 か所ずつ残る。ロクロの回転方向は右回転である。

SE264（図版 45・114）

98 は珠洲焼の片口鉢である。片口部が遺存する。

99 は瀬戸美濃焼の天目台である。高台の内外面は露胎である。

100 は越前焼の甕である。頸部～体部で、肩部外面と頸部内面に自然釉が掛かる。16 世紀初頭に比定される。

SE270（図版 45・115）

101 は瀬戸美濃焼の天目茶椀である。体部下位～高台が露胎となる。

102 は青磁の端反皿で、無文である。

SE271（図版 45・115）

103 は青白磁の皿である。見込みの釉は輪剥ぎされる。釉薬に鉄分が多いためか、露胎との境となる釉の端部は橙色を呈する。露胎となる部分は煤けており、灯明皿として使用された可能性がある。体部は意図的に欠損したものと思われる。

SE273（図版 45・115）

104・105 は珠洲焼の片口鉢である。104 は、口縁部に櫛目波状文が加飾され、稠密な卸目が施される。底部は切り離し後にナデられる。底部に近い体部外面には指抜き痕が残る。体部～底部内面の下位 3 分の 1 と底部内面の卸目は摩耗が顕著である。二次焼成を受け、内外面が暖色系を呈し、体部外面と底部外面は煤けている。Ⅴ期後半～Ⅵ期の所産と思われる。105 は片口部分の口縁部片である。焼成がやや不良で、部分的に暖色系を呈する。

SE302（図版 45・115）

106 は瓷器系陶器の甕である。胎土には長石が多量に含まれ、粗い。北越窯産である。

107 は瓦器の擂鉢である。燻されたことで器面は暗灰色を呈するが、素地は灰白色である。口縁端部は丸みをもつ。7 条 1 単位の卸目が施される。胎土には海綿骨針を多量に含む。

SE303（図版 45・115）

108 は瀬戸美濃焼の折縁深皿である。上半は漬掛けによる灰釉が施され、体部内面下半は自然釉がつく。断面に漆による接合痕がある。ロクロの回転方向は砂粒の動きから左である。

SE599（図版 45・46・115）

109 は瀬戸美濃焼の折縁深皿である。体部外面はケズリが施され、底部外面はナデられる。ロクロの回転方向は砂粒の動きから左である。

110 は瓦器である。把手付片口鍋の片口部の可能性がある。内外面は丁寧なミガキが施される。断面にはアスファルトのような付着物があり、継がれたものと思われる。

111 は灰白色を呈する完形の白磁の小皿である。体部下位から底部が露胎となる。片側半分の内外面が雨漏れのような灰色を呈する。見込みには 4 か所の重ね焼きの砂目が残る。

SK105（図版 46・115）

112 は珠洲焼の片口鉢である。Ⅵ期の所産と思われる。

SE130（図版 46・115）

113・114 は青磁の端反椀で、無文である。

SE132（図版 46・116）

115 は珠洲焼の片口鉢である。11 条 1 単位の卸目が稠密に施される。片口部の器厚の薄さを補うためだろうか、口縁部内外面には、成形時に粘土を貼りつけた痕跡が指頭痕とともに残る。口縁部下の体部外面には、紐の痕が 1 条確認できる。胎土に粘りが少ないため、底部外面には焼成前のひび割れが見られる。底部の切り離しは静止糸切りと思われるが、砂粒が動いた痕跡が見られることから、切り離し後ナデている可能性がある。底部に近い体部外面には指抜き痕が残る。体部内面下半は卸目がやや摩耗し平滑である。Ⅴ期の所産と思われる。

SK134（図版 46・115）

116 は瀬戸美濃焼の腰折皿である。体部内面～口縁部外面まで施釉される。

SK218（図版 46・115）

117 は青磁の直口椀で、無文である。釉は、かすんだ灰オリーブ色を呈する。

SE257（図版 46・116）

118 は珠洲焼の片口鉢である。口縁部に櫛目波状文が加飾され、８条１単位と思われる稠密な卸目が施される。焼成はやや不良で、黄褐色を呈する。口縁部下の体部外面には、紐の痕が 2 条確認できる。

Ⅴ期後半～Ⅵ期の所産と思われる。

119 ～ 121 は白磁の端反皿で、黄色みをおびる。体部と底部の屈曲部に圏線が巡らされる。見込みの釉は輪剥ぎされ、時計回りにヘラ状の工具痕が残る。119 は一部を欠損し、整理作業段階で接合した破片もあるが、漆継ぎされた状態で出土している。120・121 は体部と底部の屈曲部に圏線が巡らされる。片側半分の内外面の釉が白濁し、見込みの釉は輪剥ぎされる。

SB3-P228（図版 46・116）

122 は珠洲焼の片口鉢である。口縁部に櫛目波状文が加飾さる。外面の口縁部下の体部には、紐の痕が 1 条確認できる。Ⅴ期後半～Ⅵ期の所産である。

P255（図版 46・116）

123 は中世土師器で、ロクロ成形の皿である。底部の切り離しは右回転糸切りである。全面が二次焼成を受ける。15 世紀後半～ 16 世紀初頭の所産と思われる。

P364（図版 46・116）

124 は珠洲焼の壺Ｔ種の口縁部～肩部である。外面は平行叩きで成形される。頸部内面には成形時の接合痕が残り、肩部内外面にはタール状の付着物が見られる。Ⅳ期の所産である。

Ｂ　遺構外出土（図版 47・116・117）

125 は珠洲焼の甕の口縁部で、焼成はやや不良である。外面には自然釉が掛かる。

126・127 は珠洲焼の片口鉢である。126 は、口縁部～体部である。口縁内端は幅広く面をとる。口縁部に櫛目波状文が加飾されるが、簡素なもので、卸目も粗く施される。Ⅴ期後半～Ⅵ期の所産である。

127 は体部～底部である。稠密な卸目が施される。底部に近い体部外面には指抜き痕跡が残る。内面の摩耗は顕著で、卸目が確認できない部分もある。底部外面の摩耗も顕著である。Ⅴ期後半～Ⅵ期の所産である。

128 は越前焼の擂鉢である。口縁端部が水平にひき出される。縦位卸目の上位に弧状の卸目が施される。それぞれ 5 条 1 単位のものと 3 条 1 単位の卸目が観察される。縦位に施された卸目の上端まで擂り面の使用痕が明瞭で、平滑である。15 世紀末に比定される。

129 は朝鮮陶器の粉青の皿である。内外面に酸化鉄が沈着するが、これとは別に焼成がやや不良のため赤みをおびる。見込みに砂目跡が 3 か所ある。切り離しは右回転ヘラ切りである。

130 は瓦器で、燭台と思われる。体部片としたが、脚部の可能性もある。体部に丸形紋［水澤 2009b］のスタンプが 3 個連続して押されていることが確認できる。また、その下部に爪形のスタンプが押されている。

131 は瀬戸美濃焼の皿である。底部外面には糸切り痕が見られ、ロクロの回転方向は左である。体部外面に底部から延びるしっぴき痕（糸切り）が残る。

132 は瀬戸美濃焼の卸皿で、3 条の卸目が見られる。体部内外面上位まで施釉される。

133 は瀬戸美濃焼の天目茶椀である。体部下位～高台が露胎となる。

134 は青白磁の端反皿である。見込みの釉は輪剥ぎされる。

135 は朝鮮陶器の雑釉の皿である。体部に稜をもち、口縁端部は上方へ挽き上げられる。畳付にのみ砂目が残る。

136 は青花の端反皿である。高台の釉を剥ぎとっている。腰部外面は、二重平行線を薄く描き、高台

部との境に界線を描いている。内面には、二重平行線を薄く描き、その間に平行線を 1 条濃く描いている。見込みには唐草文が描かれる。15 世紀後半に比定される。

C　転　用　具（図版 47・117）

珠洲焼・白磁を研磨具として転用した「土器片利用の研削具」［鶴巻 1989］である。

137 ～ 140 は珠洲焼の甕片である。体部外面を砥面としている。140 は断面も砥面としている。

141 ～ 144 は白磁皿を円盤状に打ち欠いたもので、畳付を砥面としている。

141 は体部を意図的に欠き、体部下位から底部までを残しており、高台が厚いタイプを転用している。出土した 4 点の内で最も大きく、手の平サイズで持ちやすい。接地面が摩耗しており、均一に減る。142 ～ 144 は高台部のみを残して欠き、高台が抉られたタイプを転用している。142・144 は高台が弧状に 5 か所を抉るもので、内面の目跡と対応する。接地面は摩耗しており、均一に減る。抉られた箇所もまた摩耗している。143 は一度高台面に対して垂直に切れ目を入れて漉き取るように抉るものである。抉りは 3 か所に認められるが、位置関係から 4 か所あったものと思われる。

3　石　　製　　品（図版 48・117）

茶臼（145・146）・粉挽き臼（147 ～ 149）・石鉢（150）・砥石（151 ～ 159）がある。臼は、摺り目の状態からすべて左回り（手挽き臼）である。

145 は上臼で、石材は花崗岩である。146 は下臼で、石材は安山岩である。摺り面から受け皿及び底部にかけての破片である。

147 は上臼で、石材は安山岩質凝灰岩である。窪みは供給口に向かって緩やかに傾斜する。

148･149 は下臼で、石材は安山岩である。二次焼成を受ける。上面の膨らみは少なく、ほぼ平坦である。148 の中心には芯棒をとりつけるため径 2.8cm、深さ 3.0cm に穿孔され、貫通する。また、148･149 は、作業効率を上げるため下場の抉りは大きくラッパ状に開き、149 にはノミと思われる工具痕が放射状に残る。

150 は石鉢で、石材は砂岩である。外面は被熱し、体部～底部外面の一部は吹きこぼれたコゲが、体部内面には内容物と思われるコゲが付着する。

砥石の石材はすべて凝灰岩である。151 ～ 155・157 ～ 159 は灰白色を呈し、156 はにぶい黄橙色を呈する。

151・152 は裁断時の形状を留める。擦痕が認められることから砥石としたが、未成品（種類不明）の可能性もある。いずれも粒子はやや粗い。151 の正面は平滑で、全面に横方向と斜め方向の擦痕が認められる。152 は正面に楔痕が認められ、正面・裏面は欠損する。

153 は裁断時のものと思われる打ち欠いた痕が見られる。正面と両側面は平滑で、上面と裏面にはわずかに擦痕が認められる。粒子はやや粗い。

154 は上面を欠損する。上面以外に擦痕が認められ、点紋が観察される。中粒である。

155 ～ 158 は粒子がやや粗いが砥面は平滑である。155 は上・下面を欠損する。正裏面に擦痕が認められる。156 ～ 159 は上下面を欠損する。正裏面・両側面に擦痕が認められる。156・158 は被熱し、ススが吸着する。159 は中粒で、砥面は平滑である。

4　金属製品（図版 49・118）

刀子（160）・包丁（161）・釘（162・163）・銭貨（164 ～ 180）・装具（181 ～ 183）・鉄鍋（184 ～ 186）がある。

160 は平棟造りの長さ 25.8cm の鉄製刀子である。木質柄（267）を含めると 27.0cm になる。刀身部の長さは 17.9cm、茎部は 7.9cm である。先細りの切先で緩やかに湾曲する。身元幅は 2.5cm で、直角する方関である。茎尻は直線的で角は丸みをもつ。

161 は平棟造りの包丁である。中世後期には、道具としての「包丁」・「菜刀」の記載が見られることから［三浦 1993］、広義で包丁とした。形状は、現代の菜切り包丁のようである。茎尻が欠損し、全長は遺存値で 21.3cm を測る。木質柄は遺存しない。身元を基点にわずかに屈曲し、棟と刃は並行する。切先が欠損しており明瞭でないが、膨らみを有し鈍角となる。片側の撫関である。錆化が著しい。

162・163 は和釘で、建築用具である。頭部は潰されて平頭となる。

164 ～ 180 は銭貨である。36 点出土し、銘が判読できる 17 点を掲載した。初鋳年が最も古いものは北宋 995 年（至道元寶）で、最も新しいものは明 1408 年（永楽通寶）である。

181 ～ 183 は銅製の装具と思われる。181 は、緩やかに湾曲し、両端部の形状が異なる。やや丸みをもつ端の厚さは 0.2cm で、乳頭状の端の厚さは 0.15cm を測る。乳頭状の端部近くでは、低い段を有し、唐草文が施される。182 は器物の装飾に使われたものと思われる。両端が尖り、細い棒状の端部をもつ側が根元と思われる。根元の厚さは 0.1cm で、先端の厚さは 0.08cm である。薄い板状の素材を 3 か所で波状に加工されている。183 は把手とも思われる。欠損はしていない。平面が楕円形を呈する中心部と、雫状を呈する部分とで構成される。

鉄鍋は遺存状態が悪い。184 は口縁に近い部位だろうか、凸帯が巡る。185 は、口縁端部が丸みをもつ。186 は口縁端部が方形を呈する。いずれも酸化が顕著で、内面まで錆化しており、軽くて脆い。

5　鍛冶関連遺物（図版 49・50・118・119）

羽口（187 ～ 191）・坩堝（192・193）・椀形滓（194・195）・鉄滓・鋳型（196）・炉壁（197）がある。

187 ～ 189 は先端部から体部片である。187・188 は通風孔部の径が 2.8cm を測る。187 は胎土が砂質で、スサが微量に含まれるが緻密である。先端部には薄く滓が付着する。188・189 は先端部には厚くガラス質の滓が付着し、肩部が発泡する。189 は胎土に長石を多量に含む。190･191 は体部片である。190 は外形が 8.5cm、通風孔部の径が 2.5cm を測る。外面に簀巻き痕のような窪みが見られ、12 条が確認できる。筋状の窪みの間隔（窪みの中央部間の距離）は、1 ～ 3cm とバラつきがあり、粗い。「簀巻き技法」による成形痕かは不明であるが、羽口の製作技法に関わるものと考える。布目は認められない。

192・193 は、瓦器の坩堝である。胎土に粘土分が少なく砂粒が含まれるのは、焼成に耐えるためと思われる。口縁部内外面に滓が付着する。193 の身は浅く、1.1cm である。器厚によるものか用途の違いによるものかは不明だが、193 は全面が被熱し灰赤色を呈するのに対して、192 は口縁部外面が灰赤～赤灰色を呈するが、体部外面はにぶい黄橙色を呈し、色調の境界は水平をとる。

194・195 は表面に気泡を有し、錆化する。表面と内部には木炭片が付着し、195 の底部には粘土塊

が断続的に付着する。

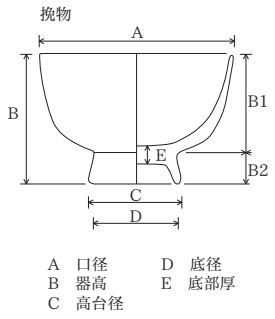
196 は中央に断面半円状の溝をもち、外面は平坦である。滓の付着は見られない。用途不明であるが、形状から破損した鋳型の可能性がある。

197 は、炉壁片である。外面は橙色で、内面はにぶい橙色を呈する。内面は、器面を調えるためか、ヘラ状工具でナデられる。

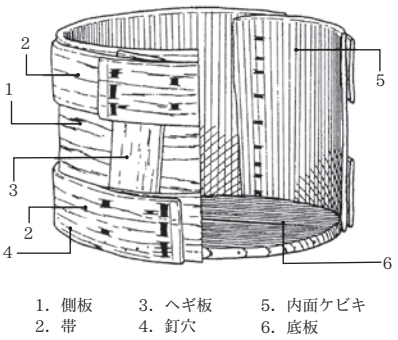
6　木　製　品

1）記載の方針

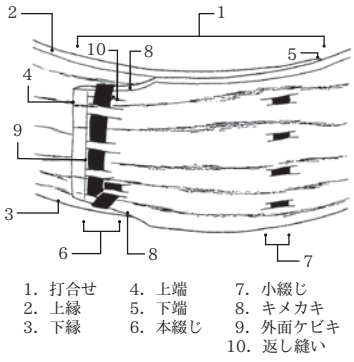
木製品は、すべて井戸から出土している。記載にあたり、木器分類は、伊東・山田［2012］を参考にした（本章 1 参照）。下駄･挽物（漆器）は水澤［2007］及び春日［2012］（第 16 図）、曲物は西村［1994］（第 17・18 図）の各部名称や分類を参考にした。用途が不明なものや欠損・腐食したことで元々の形状が不明なものは、その形状から棒状木製品、十字形木製品、板状木製品などに細分した。各木製品の記述は土器と同様に遺構順で行い、種別の判断基準や加工を中心に述べる。樹種や計測値などは観察表に記した。なお、木取りについては橋本［2003］（第 19 図）・猪狩［2004］（第 20 図）を参考とした。



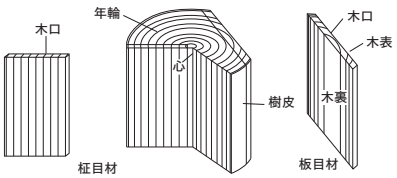
第 16 図　挽物の計測部位
（［春日 2012］から転載）



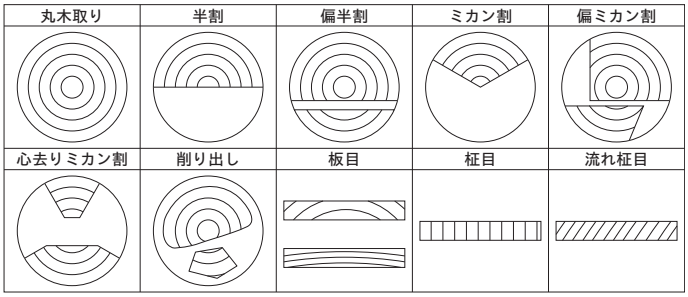
第 17 図　曲物の構造と各部名称
（［西村 1994］から転載）



第 18 図　曲物細部の各部名称
（［西村 1994］から転載）



第 19 図　木取り及び木材一般の部分名称 1
（［橋本 2003］から転載）



第 20 図　木取り及び木材一般の部分名称 2
（［猪狩 2004］から転載）

2）各　　説

SE65（図版 21 ～ 54・120 ～ 122・125）

198 ～ 217 は縦板組隅柱横桟留で組まれていた井戸の部材で、遺存状態の良好なもの 20 点を抽出して図示した。

198・199 は側板で、198 は高さ 185.0cm、幅 50.5cm、厚さ 4.5cm、199 は高さ 180.0cm、幅 49.0cm、厚さ 5.6cm で、共に木取りは板目、内面に桟木による圧痕が明瞭に観察される。

200 は板状木製品である。両側縁部に沿って、計 11 か所の孔が確認されるが、各孔は対になっていない。木取りは板目で、建築部材等を側板に転用したと考えられる。

201 ～ 213 は桟木である。目違い柄で組まれた桟木は、組接ぎ部の加工形態で凹加工と凸加工、材木別で丸木材と半割材に区別され、凹加工の丸木材（201 ～ 204）、凹加工の半割材（205・206）、凸加工の丸木材（207 ～ 212）、凸加工の半割材（213）の４種類に分けられる。丸木材の大半は樹皮が残る。また、隅柱等への加工途中で止めて、桟木にしたと思われるもの（210 ～ 212）もある。

214 ～ 217 は隅柱である。細い丸木材を切っただけのもの（214・215）、半割もしくは偏ミカン割材を使用したもの（216・217）がある。半割もしくは偏ミカン割材を使用したものは、桟木の端材もしくは余材を利用して加工したものと思われる。

218 は曲物側板である。高さ 11.0cm、長径 46.0cm、短径 39.0cm で、楕円形を呈する。側板は、厚みがある柾目板を二重～三重に巻く頑丈な作りで、側板下部４か所に樺綴じの小綴じが施される。底板はないが、側板には３か所の釘穴が確認される。

219 は曲物底板である。木取りは板目で、側縁部２か所に側板との樺結合部がある。

220 は手桶の側板である。木取りは柾目である。上部に持ち手部分を取り付ける長方形の孔が穿かれることから、曲物の外側に取り付けられていた可能性も考えられる。

221 は柄の持ち手部分である。

222 は漆器椀である。外面黒色漆、内面は黒色漆の上に赤色漆が施されている。外面には赤色漆で文様が描かれているが、上部を欠損しているため、そのモチーフは不明である。

223 は棒状のもの２本を組み合わせた十字形木製品である。中央の組み合わせ部を木釘で留めて楔で補強している。一部炭化した部分があり、用途は燭台もしくは曲物甑の底面に装着されるさし渡し棒の可能性が考えられる。

SE70（図版 54・122）

224 は井戸の水溜として設置されていた曲物側板である。高さ 18.1cm、径 34.5cm で、幅 6.0cm の帯が上下に２段巡っているが、上段の帯は元の位置から下がって下段の帯と接している。曲物下端及び下段の帯下端には釘穴が８か所確認される。

SE72（図版 54・122・125）

225 は漆器椀である。外面黒色漆、内面は赤色漆が施されている。外面には赤色漆で文様が描かれているが、上部を欠損しているため、そのモチーフは不明である。

226 は曲物底板である。木取りは流れ柾目で、側縁部の約 1/2 が著しく炭化する。側板との結合部は確認されない。表面に外形よりやや径の小さい円が線で引かれており、再加工途中の可能性もある。

227 はほぼ完形の曲物である。高さ 18.6cm、長径 22.8cm、短径 21.4cm で、楕円形を呈すると思われる。側板の綴じ合わせは樺綴じ合わせ。綴じ合わせ部分の上の縁と対面の縁に擦れて潰れた様な凹みがあり、棒状のものを装着して使用していた可能性がある。底板の木取りは柾目、側縁に釘穴が５か所確認される。

228 は小型の曲物である。高さ 5.6cm、径 5.0cm で、側板の綴じ合わせは樹皮綴じ合わせ、歪な円形の底板をはめ込んで側板で絞めている。底板の木取りは柾目。なお、装着位置が不明のため図示しなかっ

たが、幅 0.6cm の帯も出土している。

SE104（図版 54・122）

229 ～ 232 はいずれも両端を細く加工した両口箸である。長さ 19.0 ～ 20.6cm である。

SE114（図版 54・122）

233 は井戸の桟木である。芯去りミカン割材を使用した凸加工の桟木で、全体に腐食している。

SE130（図版 54・122）

234 は完形の曲物である。高さ 16.0cm、径 22.0cm で、幅 4.8cm の帯が上下 2 段巡っている。側板・帯ともに綴じ合わせは樺綴じ合わせで、側板内面には縦位のケビキが施される。底板の木取りは柾目。側板で絞めて底板を固定している。

SE156（図版 54・122）

235 は用途不明の棒状木製品である、上部を欠損し、残存長は 29.3cm、上端部はわずかに炭化している。

SE199（図版 54・122）

236 は井戸の水溜として設置されていた曲物側板である。径は 35.5cm で、上部を欠損する。下部に幅 8.0cm の帯が巡っている。

SE219（図版 55・122・123）

237 は完形の曲物である。高さ 20.6cm、径 19.2cm で、側板の綴じ合わせは樺綴じ合わせ。側板は厚みがあり、頑丈に作られているが、綴じ合わせ端部はキメカキ部分を断ち切った様な状態で、端部が薄く加工されていないため、外面に段差が生じている。あるいは補修品もしくは再加工品の可能性がある。底板の木取りは柾目。底板には釘穴等の接合痕がなく、側板で絞めて固定していたと思われる。

238 ～ 240 は井戸の水溜として設置されていた桶の側板である。幅 5.0 ～ 12.8cm、厚さ 1.5cm の側板 20 枚で作られていた桶本体は、高さ約 57.0cm、口径約 54.0cm、底径約 51.0cm で、ねじり編みに編んだ竹の箍で絞められていた。箍は上段と中段に 1 条ずつ、下段に 2 条の 3 段 4 条が巡っており、さらに、上段の箍の下位には設置時に巻かれたと思われる縄が 1 条巡る。箍及び縄は脆く、取り上げ時に原形を留めていなかったため、図示できなかった。側板は 20 枚のうち 3 枚を図示した。いずれも木取りは板目で、238・239 と 240 では木取りの表裏を逆にして加工されている。これは表裏逆のものを組み合わせることによって、側板の反りを防ぐための加工技術である。なお、側板内側の下端から約 6.3cm 上位には底板がはめ込まれていた痕跡がわずかに確認できる。

SE245（図版 55・123）

241 は陽物形木製品である。削り出し材を使用し、長さ 47.0cm の先端部 11.5cm が陽物形に加工されている。

242 は柄杓と思われる小型の曲物で、高さ 8.2cm、径 8.2cm、側板は樺綴じ合わせ。綴じ合わせ部分に柄の先端が貫通していたと思われる切込みが認められる。

SE246（図版 55・125）

243 はほぼ完形の漆器椀である。高台はわずかにハの字状に開く総高台で、体部は内湾気味に開いて半球状を呈する。外面黒色漆、内面赤色漆が施され、外面 3 か所に鶴丸文が赤色漆で描かれている。

SE247（図版 55・123）

244 は曲物底板である。木取りは板目で、腐食のため不明瞭だが、側縁部に 1 か所のみ釘穴が認められる。

SE249（図版 55・123・125）

245・246 は同一個体と思われる桶側板である。高さ 10.2cm、厚さ 0.9cm、共に下端から約 1.6cm より上部の内側が炭化している。木取りは 245 が柾目、246 が板目である。245 の内面には縦方向の明瞭な加工痕が観察される。

247 は漆器椀である。外面黒色漆、内面は赤色漆が施されている。外面及び外底面には赤色漆で草花様の文様が描かれている。SE580 出土の漆器椀（266）と文様が酷似する。

SE252（図版 56・123）

248 は長さ 9.0cm、幅 9.4cm、厚さ 0,3cm の薄板の上に、高さ 0.6cm、径 6.7cm の曲物側板が取り付けられたものである。薄板は隅丸方形を呈し、木取りは柾目。上にのる曲物側板は細い樹皮の紐で 3 か所を留めている。当初、蓋の可能性も考えたが、全体的に作りが簡素であり、常時使用するものではなく、折敷の一種と判断した。なお、折敷とした場合の計測基準として、薄板木口側の曲物側板との留めがない一辺を正面（前面）とした。248 に近似する形態のものとしては、板の上に曲物の側板だけをのせた京都の賀茂御祖神社（下鴨神社）の御供膳、同じく京都の賀茂別雷神社（上賀茂神社）で、葵祭りの際に庭積神饌を盛る「葉盤」（ひらで）等が挙げられる。「葉盤」は 1.0cm 弱の厚さで一辺 18.3cm の正方形の板の四隅を隅切りし、その上に口径 15.3cm の曲物の側板をのせたものである。248 とは大きさと四隅の形状が異なるが、形態的には非常に近似している。新潟県下の事例としては、「神の膳」と呼ばれ、長辺 10.0cm、短辺 5.0cm、厚さ 1.0cm ぐらいの長方形の板の上に、小さな丸い曲物の側板を一つないし二つのせただけのものが、神饌容器として用いられているようである［岩井・日和 2007］。また、東京都の西多摩や南多摩地方では、折敷に小さな二つの曲物の側板を取り付け、それを井戸神様の祭りに供える供物の容器にしている。これを俗に「目玉」といい、歳の市に売られる。これは新潟県下の「神の膳」とまったく同じ形式である。これらの事例から 248 も井戸祭祀に伴う神饌容器と思われ、「葉盤」もしくは新潟県下の事例である「神の膳」と考えられる。

249 は棒状木製品である。木取りは流れ柾目で、断面形状は長方形～蒲鉾形を呈する。両端部は穿孔されており、紐を通して使用したものと考えられる。

SE257（図版 56・123・125）

250 は漆器皿である。低い輪高台が挽き出される小皿で、外面黒色漆、内面赤色漆が施されている。

251 は箸である。長さ 20.2cm で、両端を細く加工した両口箸である。

252 は隅丸方形を呈すると思われる折敷である。木取りは柾目で、全体の約 1/3 が遺存する。側板との樺結合部が 3 か所確認され、うち 1 か所には樺が残存している。

253 は斜方向に刺さった様な状況で出土した杭状木製品である。下端部は丸頭状に整形され、上部は腐食により先細りになっている。

SE262（図版 56・123・124）

254・255 は一木作りの連歯下駄で、二個一対のものと思われる。高さ 5.5cm、台部の長さ 14.8cm、幅 8.0cm と小型で、子供用の下駄の可能性がある。255 は、台部後端が後歯と垂直になる形状を呈しているが、切り取られたものではないと判断した。

256 は曲物底板である。木取りは板目で、側縁部 3 か所に側板との樺結合部が残存している。

SE264（図版 56・57・124）

257 は箸である。長さ 21.4cm で、両端を細く加工した両口箸である。

258 は折敷である。平面形は隅丸方形を呈し、木取りは板目、各側縁部に二個一対で、計 8 か所の側板との結合孔がある。

259 は井戸の水溜として設置されていた曲物側板である。高さ 36.5cm、径 60.0cm で、綴じ合わせは樺綴じ合わせ。外面に斜格子状のケビキが施され、内面は縦位に密なケビキが施されている。外面綴じ合わせ部の左側は広範囲に炭化している。

SE271（図版 57・124）

260 は径 33.6cm と大型の曲物底板である。木取りは板目で、著しく腐食しており、側板との結合痕は確認されなかった。

SE295（図版 57・124）

261 は草履の芯である。側面の切込みは中央上部にあり、上端部はＶ字状に切り込まれるが、孔は穿かれていない。表面にわずかではあるが藁の痕跡が認められる。

262 の折敷片は、片面に永楽通寶の融着による痕跡が明瞭に残る。

SE305（図版 57・124）

263 は井戸の水溜として設置されていた曲物側板である。高さ 21.1cm、径 38.0cm、綴じ合わせは樺綴じ合わせ。外面に斜格子状のケビキが施される。

SE307（図版 57・125）

264 は漆器皿と思われる。内外面に黒色漆が施され、見込みに赤色漆で草花様の文様が描かれている。

SE318（図版 57・124）

265 は曲物底板である。木取りは柾目で、側板との結合痕は認められない。

SE580（図版 57・125）

266 は漆器椀である。外面黒色漆、内面は赤色漆が施されている。外面及び外底面には赤色漆で草花様の文様が描かれている。前記した SE249 出土の漆器椀（247）と文様が酷似する。

SE599（図版 57・124）

267 は刀の柄である。長さ 11.5cm、幅 2.9cm を測る。直径 4mm の目釘穴が穿孔される。

第Ⅵ章　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社
高橋　敦

1　目　　的

井戸側の構築材（井戸側材）や井戸から出土した木製品の樹種や木材利用の検討を目的として、樹種同定を実施した。また、木製品のうち、漆器椀については漆塗膜構造に関わる資料の作成を目的として、薄片作製観察を行った。

2　分　　析

A　樹種同定

1）試　　料

試料は、井戸部材や井戸から出土した木製品など（198 ～ 267）70 点である。樹種同定結果は観察表に記載した。

2）分析方法

試料の木取りを観察したのち、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本及び独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東［1982］、Wheeler ほか［1998］、Richter ほか［2006］を、日本産木材の組織配列は、林［1991］、伊東［1995 ～ 1999］を参考にする。

3）結　　果

出土した木製品は、針葉樹 4 分類群（マツ属単維管束亜属、トウヒ属、スギ、ヒノキ）と、広葉樹 5 分類群（ブナ属、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、トチノキ、トネリコ属）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

マツ属単維管束亜属（*Pinus subgen. Haploxylon*）　マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。垂直樹脂道は晩材部に近い場所に認められる。放射組織は、仮導管、柔組織、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁は滑らかで鋸歯は認められない。放射組織は単列、1-15 細胞高。

トウヒ属（*Picea*）　マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔組織、水平樹脂道、エピセリ

ウム細胞で構成される。放射柔組織の細胞壁は厚く、垂直壁、水平壁にはじゅず状の肥厚が認められる。放射仮道管の有縁壁孔のフチは主としてトウヒ型。分野壁孔はトウヒ型で、1 分野に 3-6 個。放射組織は単列、1-20 細胞高。

ブナ属（*Fagus*）　**ブナ科**

散孔材で、道管は単独または放射方向に 2-3 個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus subgen. Quercus sect. Prinus*）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

クリ（*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*）　**ブナ科クリ属**

環孔材で、孔圏部は 3-4 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

トチノキ（*Aesculus turbinata Blume*）　**トチノキ科トチノキ属**

散孔材で、道管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または 2-3 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高で層階状に配列する。

トネリコ属（*Fraxinus*）　**モクセイ科**

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または 2 個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3 細胞幅、1-20 細胞高。

B　漆塗膜構造観察（薄片作製観察）

1）試　　料

漆塗膜構造観察（薄片作製観察）の対象とした試料は、漆器椀（222・225・243・247・250・264・266）7 点である。

2）分 析 方 法

漆器椀の内面・外面の破損部等を対象として、漆塗膜片を可能な限り木地が付いた状態で採取する。水分を軽く拭き取ったのち、合成樹脂で包埋し、樹脂を固化させる。漆塗膜の断面が出るように、ダイヤモンドカッターで切断し、切断面を研磨する。研磨面をスライドグラスに接着し、反対側も切断と研磨を行ってプレパラートとする。プレパラートは、落射蛍光顕微鏡、偏光顕微鏡および反射顕微鏡を用いて塗りの回数や混和物等について観察する。

3）結　　果

漆塗膜の特徴はいずれも類似する。下地は、いずれも微細な粒子であるが、所々に組織構造が認められることから、炭粉を用いた下地と判断される。また、下地の上に認められる漆層は、いずれの試料も 1

層のみである。外観が黒色を呈する面では、下地の上に透明漆が塗布される。一方、赤色を呈する面は、赤色顔料を混ぜた赤漆が塗布される。なお、赤漆の顔料については、反射顕微鏡下における光沢や色調などの特徴より赤鉄鉱と判断されることから、ベンガラを混和したと推定される。

3　考　　察

試料の分類群と器種別の種類構成を示し（第２表）、分類群の木材の材質的特徴と器種や使用用途にみる樹種の選択性について考察する。木製品は、伊東･山田［2012］を参考に、工具（刀子柄･柄）、容器（漆器椀・曲物・桶・手桶・柄杓）、食事具（折敷・箸）、服飾具（下駄・草履芯）、施設材・器具材（井戸部材）、祭祀具（葉盤・神の膳・陽物形木製品）、その他（棒状木製品・板状木製品・十字形木製品・杭状木製品）に分類した。

樹種同定の結果、針葉樹のマツ属単維管束亜属、トウヒ属、スギ、ヒノキと、広葉樹のブナ属、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、トチノキ、トネリコ属などの計９分類群が確認された。このうち、針葉樹のマツ属単維管束亜属はいわゆる五葉松の仲間で、本州では標高の高い山地を中心に分布する常緑低木～高木であり、トウヒ属もマツ属単維管束亜属と同様に本州では標高の高い山地を中心に分布する常緑高木である。また、スギは谷沿いや扇状地扇端部等の適潤地に生育する常緑高木、ヒノキは山地・丘陵地の尾根筋を中心に生育する常緑高木である。一方、広葉樹のブナ属は、山地に生育する落葉高木であり、日本海側では山地の落葉広葉樹林の主要構成種として分布する。また、コナラ節は山地や二次林に生育する落葉高木であり、クリは二次林等に生育する落葉高木である。さらに、トチノキは渓畔等に生育する落葉高木、トネリコ属は河畔等に生育する落葉高木である。

分類	工具			容器					食事具		服飾具		施設材・器具材				祭祀具			その他			合計
器種	刀子	柄持手		漆器	曲物			桶	折敷	箸	下駄	草履	井戸部材				陽物	葉盤		杭状	十字	棒状	
分類群	柄	持手	柄	椀	側板	底板	箍	側板	底板	－	連歯	芯	隅柱	側板	桟木	板状	－	側板	底板	－	－	－	
針葉樹																							
マツ属単維管束亜属		1						2															3
トウヒ属												1											1
スギ					10	9	1	4	3	6			4		14	1					2	2	56
ヒノキ					1	1												1	1				4
広葉樹																							
ブナ属			1	6										2									9
コナラ属コナラ亜属コナラ節																	1						1
クリ											2									1			3
トチノキ				1																			1
トネリコ属	1																						1
合計	1	1	1	7	11	10	1	6	3	6	2	1	4	2	14	1	1	1	1	1	2	2	79

＊柄杓は曲物、手桶は桶に含めている。

第２表　器種分類別の種類構成

A　材質的特徴

確認された分類群の木材の材質的特徴についてみると、針葉樹のマツ属単維管束亜属は軽軟で強度と保存性は中程度とされ、トウヒ属は軽軟で保存性は低いものの、強度は高い。スギやヒノキは、木理が通直で割裂性や耐水性が比較的高く、とくにヒノキは防虫性が高い。広葉樹のブナ属は比較的重硬で強度は高いが、保存性が低い一方、コナラ節、クリ及びトネリコ属は重硬で強度が高く、とくにクリは耐朽性が高く、トネリコ属は靱性が高い。また、トチノキは軽軟で強度と保存性が低い。

B　樹種の選択性

1）工　　具

工具は、刀子の柄（267）と柄持手（221）とがある。刀子の柄は、板目板状を呈し、内面には刀子の茎

を納めるための抉りや目釘を通すための穿孔が認められ、抉り内には鉄錆が付着する。柄はトネリコ属であったことから、比較的重硬な木材を利用したことが推定される。221 は、中央に四角の穿孔がある資料（持手）と分割角棒状の資料（柄）からなる。本資料は持手がマツ属単維管束亜属、柄がブナ属であったことから、部材により樹種や強度の異なる木材が利用されることが明らかとなった。

2）容　　器

容器は、漆器椀（222・225・243・247・250・264・266）、曲物（218・219・224・226 ～ 228・234・236・237・244・256・259・260・263・265、柄杓：242）、桶（238 ～ 240・245・246、手桶：220）がある。

漆器椀は、すべて横木地であり、かつ木取りは、264 を除いて柾目であった。これらの漆器椀は 264 を除いて、外面が黒色、内面が赤色を呈する。また、このうち 250 を除いては、外面には赤漆絵が施される。木地は 7 点中 6 点がブナ属、1 点（243）がトチノキであった。ブナ属やトチノキは、漆器の木地としてよく利用される樹種であり、遺跡からの出土例も多く［伊東・山田前掲］、既存の調査事例では 13 世紀以前はケヤキの利用が多いが、14 世紀以降にブナ属やトチノキの利用が増える傾向にある。本分析結果から、このような木材利用の傾向を反映する可能性がある。また、漆器椀の漆塗膜構造観察では、すべての資料で炭粉を用いた下地が認められ、黒色部には透明漆、赤色部にはベンガラを混和したと推定される赤漆がそれぞれ 1 層塗られていることが明らかとなった。

曲物は、小径の資料（228・248）や大径の資料などがある。曲物の各部材について着目すると、側板は板目となる 2 点（219・259）を除く 9 点が柾目である。一方、底板は板目が 3 点（244・256・260）、柾目が 2 点（226･265）であり、底板は側板と比較して板目を利用する比率がやや高いという特徴を示した。板目材は、細胞の密度が高い晩材部が層状に配置するため、柾目材に比べて保水性が高いとされることから、このような特徴は容器としての用途の違いを示している可能性がある。また、樹種構成についてみると、小径の資料（228）の側板・底板にヒノキが認められた他は、すべてスギであった。スギやヒノキは、いずれも板状加工が容易な針葉樹材として共通する木材利用と言える。なお、これまでの調査事例では、本地域はスギの利用が多い傾向が確認されているが、ヒノキは分布しないことから利用量も少ない［伊東･山田前掲］。そのため、ヒノキが確認された小径の曲物については、他地域からの搬入品の可能性も考えられる。

桶は、いずれも側板であり、手桶とされる 1 点（220）には、側板に持手を通す穿孔が認められる。また、側板 2 点（245・246）は、内面に黒色の塗布物が認められ、防水などを目的として柿渋が塗られている可能性がある。これらの桶は、2 点がマツ属単維管束亜属、残る 4 点がスギであったことから、保存性や加工性などを考慮した木材利用が考えられる。

3）食　事　具

食事具は、折敷底板（252・258・262）と箸（229 ～ 232・251・257）とがある。折敷底板 3 点は、いずれもスギの柾目板が利用される。このことから、板状加工が容易なスギの利用や製作方法（木取り）が一様であった可能性などが考えられる。また、箸 6 点はすべて削出棒状を呈し、いずれもスギであった。伊東・山田［前掲］のデータベースを参考とすると、箸に利用される木材は対象地域の建築部材・施設材や木製品に多く認められる針葉樹材が多用される傾向がある。箸は、大きさや形状から木っ端などから製作可能であると考えられ、木製品の製作過程で生じた木っ端などの残材を利用していることなどが想定され

る。本遺跡では、井戸部材や容器（特に、曲物、桶）などを中心にスギが多く確認されているが、箸に認められた樹種と共通することから、上記したような木材の利用背景があった可能性がある。

4）服　飾　具

服飾具は、いずれも履物であり、下駄（254・255）と草履芯（261）とがある。下駄２点は、いずれも台と歯を一木で作る連歯下駄である。ともに後歯が台の縁に作られ、歯の中央付近に樹芯が通るなど、特徴が類似する。いずれもクリであったことから、強度や耐朽性の高い木材の利用が推定される。草履芯は、薄い柾目板状で針葉樹のトウヒ属が利用される。トウヒ属は、軽軟な割には強度が高いことから、草履芯としては適材と言える。

5）施設材・器具材

井戸部材は、側板（198・199）、板状木製品（200）、桟木（201 ～ 213・233）、隅柱（214 ～ 217）で構成されており、桟木には端部が凸状（207 ～ 213・233）と凹状（201 ～ 206）とがある。隅柱は、芯持丸木２点（214・215）、半裁状（216）と削出多角形（217）各１点からなり、半裁状の資料にも一部に面取りが認められる。木取りの状況から、建築部材としての柱が転用されている可能性もある。桟木は、芯持丸木が多いが、半裁状（205・206・213）や分割角材（233）もある。また、板状を呈する側板２点と板状木製品１点は、いずれも板目となる木取りである。これらの井戸部材は、側板２点（198・199）にブナ属が認められたほかは、すべてスギであった。スギは、加工性や耐水性が高いという点から井戸部材として選択されたと推定されるが、ブナ属は保存性が低いためスギとは異なる利用背景があったと考えられる。また、転用材の可能性がある隅柱（200）も認められたが、樹種が同一であることなどを踏まえると、転用の際に材質的な点による選択があった可能性がある。

6）祭　祀　具

祭祀具は、陽物形木製品（241）と葉盤・神の膳（248）がある。陽物形木製品は、芯持丸木を利用し、端部が有頭状に削り出される。本資料には、コナラ節が利用されており、強度の高い木材の利用が窺える。一方、葉盤・神の膳は、折敷底板に似た多角形の底板と細い側板からなり、いずれもヒノキの柾目板であることが確認された。本資料は、前述した小径の曲物と同様にヒノキが利用されている点から、他地域から搬入された可能性が考えられる。

7）そ　の　他

そのほかでは、十字形木製品（223）、棒状木製品（235・249）、杭状木製品（253）がある。十字形木製品は、中央に抉りのある同じ形状の角棒を十字に組んだ資料であり、棒状木製品は分割角棒状と柾目（249）の２点からなり、いずれもスギに同定された。杭状木製品は、芯持丸木を呈する資料であり、クリであった。杭とすれば、強度が高く、腐りにくい木材を利用したことが推定される。これらの木製品は、用途等の詳細は不明であるが、スギ材の広汎な利用の一端を示していると考えられる。

引 用 文 献

林　昭三 ,1991, 日本産木材　顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .

伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ . 木材研究･資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.

伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ . 木材研究･資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66-176.

伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ . 木材研究･資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.

伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ . 木材研究･資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.

伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ . 木材研究･資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.

伊東隆夫・山田昌久（編）,2012, 木の考古学　出土木製品用材データベース . 海青社 ,449p.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）, 海青社 ,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.,2004,IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

島地　謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.,1989,IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

第Ⅶ章　ま　と　め

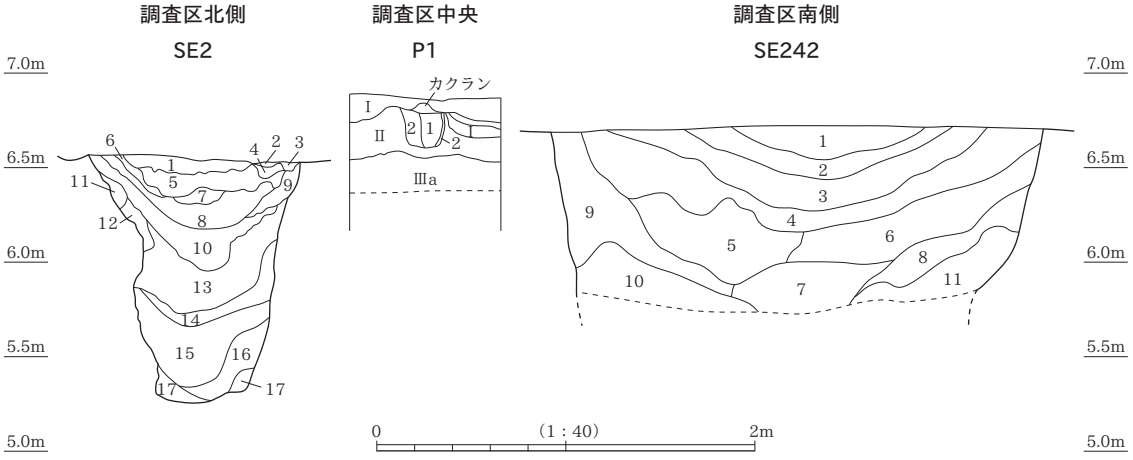
1　遺跡の性格

掘立柱建物と溝、道状遺構の配置状況から当時の景観を想定し、出土遺物の年代と組成から遺跡の存続時期と階層をまとめる。

A　遺構の検出状況

中世の頃、調査区周辺の地形は、南から北西へ傾斜していたが（遺跡周辺の地形傾斜等からの推測）、福島潟西部幹線用水路の築堤工事に伴う土取り等によって中世包含層もろとも地表面が著しく削平された（第Ⅲ章2参照）。削平状況について6Jグリッド（P1）、6Dグリッド（SE2）と10Rグリッド（SE242）を第21図に示した。

P1（図版59）は、上記した削平後に造営された水田の畦畔上にあり、周辺に比べて耕作撹拌が少ないところである。P1の検出標高は約6.82m、底部標高は約6.61mで、これに対し、耕作による撹拌の影響を受けた範囲での遺構検出標高は6.5～6.7mであることから、減失した遺構が多いことが窺える。事実、検出遺構は本来標高が高かった南側に少ない。南側での検出遺構は深度のある遺構のみが辛うじて残ったもので、北側で検出したものと同様の遺構が南側にも展開して集落を形成していたものと考えられる。

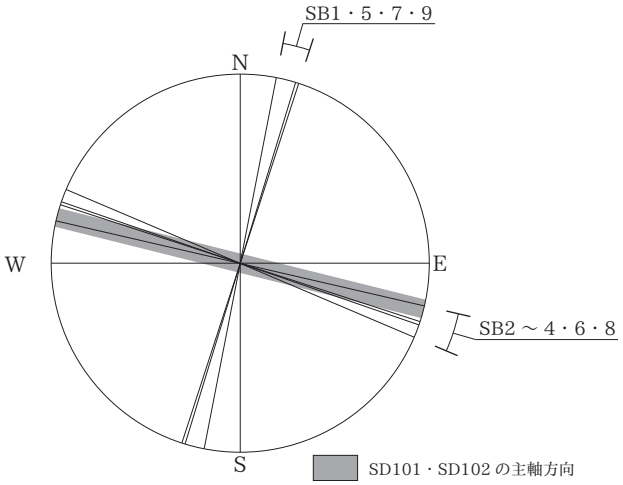


第21図　遺構の検出標高

B　区画された掘立柱建物

検出した溝は、SD13を除くすべてが、その配置状況から建物域を取り囲むように巡る区画溝である。区画された空間はSD101以北、かつSD327以西の約2,970㎡に及ぶ。このうち、建物の面積は約234㎡で、空間の7.8%を占める。掘立柱建物は、総柱型1棟、梁間一間型4棟（含、四面廂付建物）、側柱建物2棟、竪穴構造式2棟で、主軸方向は区画されただけあって画一的である（第22図）。四面廂付梁間一間型（SB1）と総柱型（SB8）は主屋と推定され、これらは住居となり得る中心的建物である。これ以外の建物は、この2棟の間に配されている。SB1の東西には梁間一間型（SB2）と側柱建物（SB3・6）が、SB8の西には梁間一間型（SB9）が位置する。SB2・3・6・9は建物の規模や形態から副屋・雑舎的性格

を有すると推測される。特にSB2・3は、それぞれ配された位置から主屋に対して付属的な様相がある。また、SB1の南には、塀（SA1）によって遮られた竪穴構造型（SB5）と同型の建物（SB4）がその西側に位置する。SB4・5には中柱が存在しない（総柱型にならない）ことから、「蔵」のような構造は想定していないが、収納・貯蔵を目的とする独立した建物で、「倉」・「庫」・「納屋」などの活用が推測される。この想定の上に立って、SB7は、梁間一間型建物でありながら、竪穴構造型と同様に倉庫という性格が考えられる。SB7は、当遺跡で唯一角材が用いられたと推量され、かつ構築時に規格性のある梁間一間型建物である。建物の規模と構築材の相関からは、住居とは判断しがたいが、「階層的に上位の建物には角材が多く用いられることが多い」［春日 2008］ことを考慮し、SB4・5よりも重視された倉庫と考える。しかし、建物の形態から「倉庫」・「納屋」としたが、直接的にそれを示す資料は出土しておらず、機能の位置付けと役割については不明といわざるを得ない。ほかに貯蔵としての機能が推測される施設としては、土坑としたものなども含まれる可能性がある。



第22図　SD101・SD102と掘立柱建物の主軸方向

C　出土遺物

当遺跡から出土した遺物は15世紀後半が主体である（第Ⅴ章遺物参照）。青磁椀が多く、珠洲焼、瓦質・越前の年代に加えて、土師器皿の出土が1点であること、青花の出土が少ない（主体となる16世紀後半よりも1世紀近く早い）ことからも、15世紀後半～16世紀初頭の特徴を示していると考える。

ここでは、輸入陶磁器や風炉・香炉・茶臼など日用品ではない、いわゆる「威信財」［小野 2003］が出土していることから、当遺跡に存在した階層について、「船載の天目茶椀を取り上げ、遺跡の性格と場での使われ方を検討した」水澤幸一氏の論考［水澤 2009a・2014a］に拠って検討したい。抽出した遺物は、瀬戸天目・風炉・茶臼で、青磁・白磁・朝鮮陶器・青花、円形浅鉢（香炉）・燭台ヵを加えた（第3表）。遺物のほとんどは遺構から出土したもので、遺構密度が調査面積に比べて低いこと、遺物の復元率が低いことから組成の比率ではなく、各種の出土点数（含、破片数）とした。

種類	点数
瀬戸天目	13
風炉	2
茶臼	2
青磁	141
白磁	78
青花	3
朝鮮陶器	22
円形浅鉢	2
燭台ヵ	1

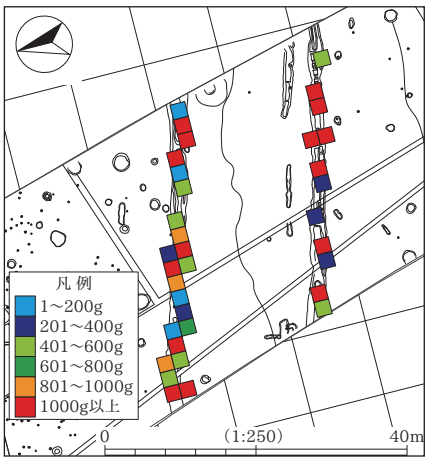
第3表　抽出遺物の出土点数

天目茶椀を中心とした出土傾向から、有勢な遺跡［水澤 2009a］に位置付けされる。また、輸入陶磁器と瓦器、とりわけ青花を「威信財」とするならば、有力者の存在が示唆され、有力村落が形成されていたと考える。

D　道状遺構

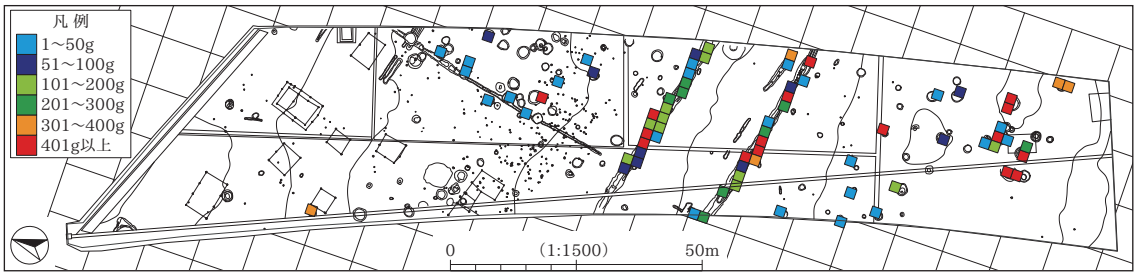
道状遺構は、道の側溝（SD101・102）と両者に挟まれた空間（区間）を想定している。しかし、前述のように路面・路床は遺存していない。側溝からは、埋土上位から底面までに珠洲・輸入陶磁器が出土しており、このほか総重量約36,948gの拳大の礫が出土している（第23図）。礫の出土状況から、石敷

の可能性は極めて低いが［村上 2012］、路面の構築材に礫が用いられた可能性がある［村上前掲・山岸 2003］。また、総重量約 9,890g の鉄滓も出土している（第 24 図）。寺前遺跡（出雲崎町）では、鉄滓が木道の下に敷かれており［高橋 2008］、粗朶敷きの道の基礎に排滓が利用されている［村木 2014］。道状遺構と区画された掘立柱建物との相関を考えると、両者の時期差が顕著ではないことから、破損した土器と同様に礫や鉄滓は溝内に廃棄されたものと考えたい。



第 23 図　SD101 と SD102 の礫の重量分布

室町から戦国期にかけては、関東街道の通路が確定し、整備が進んでいる。醍醐寺（京都）の僧侶は、既に永禄 6（1563）年に府中から三国峠に向かって上州に越えるルートを通っている［桑原 1993］。醍醐寺の僧侶が東日本各地の関係寺院を巡行した際に記した出納記録である『永禄六年北国下り遣足帳』は、主要な交通路と中心的な宿場が分かるもので、陸路や水路の交通路を考えるときの重要な手がかりとなる［坂井 1995］。「永禄六癸亥年九月廿日北国下リノ遣足」［新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994］（史料）によれば、永禄 7（1564）年 6 月 24 日に津川着、25 日に馬下（五泉市）着、26 日に村松・横越を経由し「対馬屋」（津島屋）に着いている［阿部 1995］。その後、1 ヵ月以上にわたり日付の記載がないが、乙法寺（乙宝寺・胎内市）から池ノ端（新発田市）、安田（保田）を経過して山上（三条ヵ）へ向かっている［坂井前掲］。近世初頭になると、佐渡の金を運ぶルートとして高田（上越市）から出雲崎間の道路が整備され、信濃から出雲崎までを北国街道と呼ぶようになる。さらに越後から江戸へ通じる幹線道路となる三国街道・会津街道が整備される。北国街道は、幕府の交通政策の上で最も重視された五街道に準ずる脇街道となる［小林 1995］。しかし、史料にみる「北国下り」は京都から見て北国であって、北国街道ではない。北国はある程度の範囲を示したものであろう。したがって、当遺跡で検出した道状遺構を北国街道などの街道とするには蓋然性がない。



第 24 図　鉄滓の重量分布

『越後過去名簿清浄心院』は、高野山清浄心院（和歌山県）の僧（高野聖）が死者供養・逆修供養の依頼を受け、供養・法会などを行い、長亨 2（1488）年から文禄 5（1596）年の長期にわたり、被供養者・供養者が記載された史料である。「南北朝時代から室町時代にかけて遠隔地荘園が崩壊する中で寺檀関係・宿坊契約を地方の大名や有力者と結び、参詣者を勧誘してその収入源を土地から人へと転換して」行っている［和多 1985］。山本隆志・皆川義孝両氏によって史料紹介がなされ（第 4 表）［山本・皆川 2004、山本 2008］、水澤幸一氏によって、阿賀北を中心に整理されている（第 5 表）［水澤 2010b］。これによると、全供養者数 1208 人中、白川荘では 71 人が記載されている。白川荘における 71 人の内訳は、「水原 38 人（下条 12 人を含む）、堀越 9 人、安田 19 人、山浦 2 人、不明 3 人となる。天文 10 年頃を境に水

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
宝山	浄角貴室	等巖成公	頁松尼	権大僧都弘泉	鑒清生厨尼	銀叟金公	正春	明永	芳莫	妙栄	道宣	呵庭正玄	燐順大法	権少僧都理蔵	昌山繁公	住林澤山比浜（ママ）	理帝宗郭	花清林公	妙清	雲高居士	道本
越後白川堀越内太田新兵衛 大永七　五月七日	越後水原下条長田入道 享禄四　五月十日	水原トノ 天文五　五月廿三日　霊	水原殿内上 天文六　八月十五日　逆	安田大聖院	白河庄堀越蔵五父母タメ	白河ヤスタノ内渡辺 天文十三　十二月十七日　大聖院次	白河庄ウチタケン物 天文十四　五月十五日　逆	越後国白河之庄安田郷渡辺六郎左衛門尉内方逆修 永禄元年十二月十三日 カンハラ白河庄安田タナヘ トリツキ大聖院	天文十三　六月一日　清左衛門内方	逆　白河庄ホリコシ住大田将監内方 天文十三　六月一日　大正院トリ次	白河庄　洲走小野トノ立之 天文十三　六月一日	白河ノホリコシ住大田将監 天文十一　四月八日	逆修　安田内覚仙坊立之 天文十一　二月四日	安田ホリコシ山之坊立之 天文十一　三月廿一日	安田　石間弾正立之 天文十三　二月五日　霊	逆　安田之内石間ヨリ立之 天文十四　三月廿一日	蒲原水原八条与四良殿 天文十一　十月廿三日	白河庄安田高山平衛門内 天文十四　九月廿七日	白河堀コシ内里蔵鵜 天文十四　五月廿一日	白河庄八条憲繁 天文十一　八月三日	白河安田　ソメや新兵衛 天文十八　五月三日
23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
明永	渓泉音公	田岸道泉	常信	祐績	理芳	明僧	道円	妙清	妙忠	妙栄	妙西	道慶	道清	喜慶	高龍	道恵	紫春浄琳	妙心	普仙　妙香	明壽	妙高
白川ヤスタ　ハタナヘ 八良左衛門　逆	白川ヤスタ之内神田彦兵衛 天文十七　十月四日	白川ヤスタ箕幡（ミノハタ）田左京亮 天文十八　五月三日	白川庄安田之内善寿院トリ次　逆 天文廿　八月日	白川庄安田善寿院 天文廿　六月吉日　圓藤豊兵衛内方　逆	白川庄下条山口ノ村長楽寺タンナ 永正十四　三月十八日　長田左近将ケン	山浦　巖勝寺 永正十四　六月廿日	白川庄水原吉澤孫四郎 永正十六年七月五日	水原七良右衛門家中立 大永八　四月六日	水原松村三良左衛門家中立 大永八　四月六日　逆	水原フナイタツワカ立之 大永八　卯月六日　逆	下条山口四良左衛門立 大永八　卯月六日	下条山口　同内方 同	水原松村三良左衛門立之 大永八　卯月六日　逆	水原口村惣左衛門家中立 大永八　卯月十六日	水原クス川源右衛門内義立 永正六　卯月廿九日	水原下条タケ田左衛門立 大永八　卯月六日	水原クス川源右衛門立 永正十四　二月十八日	水原孫右衛門内義立之 大永八　卯月六日	蒲原郡下条山口長田将監 永正十七年十月廿三日	白川庄堀越太田内義 大永七年五月七日　逆	水原小使弥藤兵衛家中 大永四　八月十五日
45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66
道円	重薫	弘秀	院中	寶山	性玉	妙性	善真	心月　花林	貴室	妙宣	善仙	権大僧都晃海和尚位	家綱　新左衛門尉	道円 天四（天文）　道祐　水原内　切尾 天四　十月二日	玉芳	徳厳	和叟閒公　常閒	呵庭正玄	浄安禅定門	妙善禅定尼	妙春禅尼
白川庄水原下条長田将監親志 永正十七　八月十二日	白川新町惣衛門法花寺 永正十八　二月十九日	下条　本澤　西林坊 永正十八　八月廿一日	水原下条長田庄源内方 大永ニ　十二月八日	ホリコシ清吽ウチ 大永五（八）　五月十七日	水原中町　孫左衛門 大永五　十一月廿一日	水原トノ上ノ御服タメ立之 天文ニ　八月十七日	水原　大マチ　片山七良左衛門 大永五　十一月廿一日	白川庄山口長田入道立之 享禄三　二月廿四日	白川山口長田入道トノ立之 享禄（ママ）　七月十五日	白川水原内　小嶋二郎兵衛内方 永正十五　年七月六日	下条山口長田将監 永正十七年十月廿三日	水原北野宮寺 享禄四　九月九日　晃栄	水原木野 同　五月三日	水原内切尾 天四（天文）　道祐　水原内　切尾 天文四　十月二日	白川庄安田西ノ上サマ 天文十　六月二日　大聖院トリ　逆	白川安田弥大良殿 天文十　六月四日　取大聖院	白川水原山上玄番立之 天文十五月十四日（八）	ホリコシ 天文十一　六月廿九日	越後白河安田渡辺源左衛門タメ 永禄元年五月二日　取次大聖院	エチコ安田渡辺源左衛門 大聖院　内方立之 永禄元年十二月十三日	エチコ白河安田窪石塚五郎左衛門尉立 永禄三年三月十三日

第４表　高野山清浄心院越後過去名簿１［山本・皆川 2004、山本 2008］

原が減り、安田が主体となる」［水澤 2010b］。供養者住所の水原の初見は、永正６（1509）年４月 29 日である。そして同 18（1521）年２月 19 日には「白川新町」、取次に「法花寺」との記載がある［山本前掲］。「新町」は地名に残るが、「法花寺」は明治 16（1883）年以降に記された『新潟県神社寺院仏堂明細帳（複製）』には記載されておらず、これ以前に廃寺となったのだろうか。

高野聖の勧進は越後国を廻っているが［水澤 2010b］、その経路は不明である。新町遺跡の道状遺構は、中世の道が整備され、やがて経路となる点において注目されるが、側溝から出土した遺物の年代から 16 世紀初頭には埋没していたと考えられる。

E　鍛冶関連遺物の出土状況

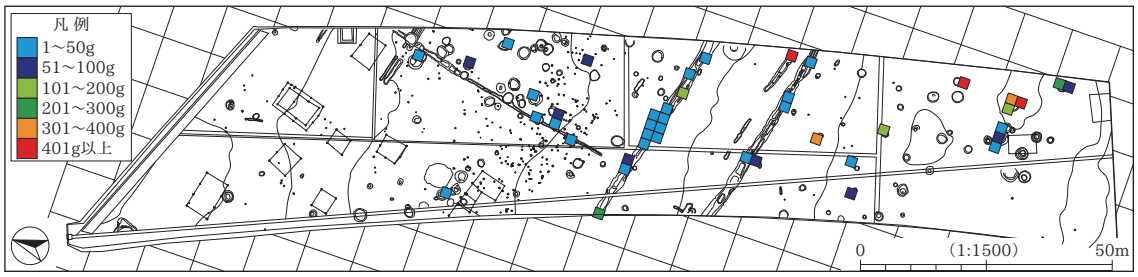
竪穴構造型とした建物が鍛冶工房に関連する可能性も考えられたが、掘り込みが検出されないことや出土遺物もないため工房とは断定できない。また、平成 20 年の試掘調査で鍛冶関連の遺構の存在が想定されたことから、鍛造剥片や粒状滓の有無を確認する目的で、炭化物を多量に含む層を中心に採取したが、

※掲載頁は山本［2008］

番号	戒名・法名	供養	供養者住所・目的・取次	年　月　日	掲載頁
38	高龍		水原クス川源右衛門内義立	永正6（1509）年4月29日	110上
40	紫春浄琳		水原クス川源右衛門内	永正14（1517）年2月18日	110上
28	理芳		白川庄下条山口ノ村長楽寺タンナ　長田左近将ケン	永正14（1517）年3月18日	112下
29	明僧		山浦　巌勝寺	永正14（1517）年6月20日	112下
55	妙宣		白川水原内　小嶋二郎兵衛内方	永正15（1518）年7月6日	105上
30	道円		白川庄水原吉澤孫四郎	永正16（1519）年7月5日	112下
45	道円		白川庄水原下条長田将監親志	永正17（1520）年8月12日	109下
42	普仙		蒲原郡下条山口長田将監	永正17（1520）年10月23日	109上
42	妙香		蒲原郡下条山口長田将監	永正17（1520）年10月23日	109上
56	善仙		下条山口長田将監	永正17（1520）年10月23日	105中
46	重薫		白川新町惣衛門法花寺	永正18（1521）年2月19日	109下
47	弘秀		下条　本澤　西林坊	永正18（1521）年8月21日	109下
48	院中		水原下条長田庄源内方	大永2（1522）年12月8日	108上
44	妙高		水原小使弥藤兵衛家中	大永4（1524）年8月15日	109中
50	性玉		水原中町　孫左衛門	大永5（1525）年11月21日	107上
52	善真		水原　大マチ　片山七良左衛門	大永5（1525）年11月21日	107下
49	寶山		ホリコシ清吽ウチ	大永6（1526）年5月17日	107上
1	宝山		越後白川堀越内太田新兵衛	大永7（1527）年5月7日	122下
43	明壽	逆	白川庄堀越太田内義	大永7（1527）年5月7日	109上
31	妙清		水原七良右衛門家中立	大永8（1528）年4月6日	111下
32	妙忠	逆	水原松村三良左衛門家中立	大永8（1528）年4月6日	111下
33	妙栄	逆	水原フナイタツワカ立之	大永8（1528）年4月6日	111下
34	妙西		下条山口四良左衛門立	大永8（1528）年4月6日	110上
35	道慶		下条山口四良左衛門内方	大永8（1528）年4月6日	110上
36	道清	逆	水原松村三良左衛門立之	大永8（1528）年4月6日	110上
39	道恵		水原下条タケ田左衛門立	大永8（1528）年4月6日	110上
41	妙心		水原孫右衛門内義立之	大永8（1528）年4月6日	110上
37	喜慶		水原口村惣左衛門家中立	大永8（1528）年4月16日	110上
53	心月		白川庄山口長田入道立之	享禄3（1530）年2月24日	106下
53	花林		白川庄山口長田入道立之	享禄3（1530）年2月24日	106下
58	家綱	逆	水原木野	享禄4（1531）年5月3日	105下
58	新左衛門尉	逆	水原木野	享禄4（1531）年5月3日	105下
2	浄角貴室		越後水原下条長田入道	享禄4（1531）年5月10日	121上
57	権大僧都晃海和尚位		水原北野宮寺　晃栄	享禄4（1531）年9月9日	105中
54	貴室		白川山口長田入道トノ立之	享禄（ママ）年7月15日	105上
51	妙性		水原トノヽ上ノ御服タメ立之	天文2（1532）年8月17日	107中
59	道祐		水原内　切尾	天文4（1535）年10月2日	103下
59	道円		水原之内切尾	天文4（1535）年	103下
3	等巌成公	霊	水原トノ	天文5（1536）年5月23日	120上
4	頁松尼	逆	水原殿内上	天文6（1537）年8月15日	120上
60	玉芳		白川庄安田西ノ上サマ　大聖院トリ	天文10（1541）年6月2日	102中
61	徳厳		白川安田弥大良殿　取大聖院	天文10（1541）年6月4日	102中
62	常閏		白川水原山上玄番立之	天文10（1541）年6月14日	102中
62	和叟閏公		白川水原山上玄番立之	天文10（1541）年6月14日	102中
14	燐順大法	逆	安田内覚仙坊立之	天文11（1542）年2月4日	118下
15	権少僧都理蔵		安田ホリコシ山之坊立之	天文11（1542）年3月21日	118下
13	呵庭正玄		白河ノホリコシ住大田将監	天文11（1542）年4月8日	118中
63	呵庭正玄		ホリコシ	天文11（1542）年6月29日	101中
21	雲高居士		白河庄八条憲繁	天文11（1542）年8月3日	117中
18	理帝宗郭		蒲原水原八条与四良殿	天文11（1542）年10月23日	117上
16	昌山繁公	霊	安田　石間弾正立之	天文13（1544）年2月5日	117上
10	芳莫		カンハラ白河庄安田タナへ清左衛門内方	天文13（1544）年6月1日	118中
11	妙栄	逆	白河庄ホリコシ住大田将監内方　大正院トリ次	天文13（1544）年6月1日	118中
12	道宣	逆	白河庄　洲走小野トノ立之	天文13（1544）年6月1日	118中
7	銀叟金公		白河ヤスタノ内渡辺　大聖院次	天文13（1544）年12月17日	119上
17	住林澤山比浜（ママ）	逆	安田之内石間ヨリ立之	天文14（1545）年3月21日	117上
8	正春	逆	白河庄ウチタケン物	天文14（1545）年5月15日	119上
20	妙清		白河堀コシ内里蔵嶋	天文14（1545）年5月21日	117上
19	花清林公		白河庄安田高山平衛門内	天文14（1545）年9月27日	117上
24	渓泉音公		白川ヤスタ之内神田彦兵衛	天文17（1548）年10月4日	115下
22	道本		白河安田　ソメや新兵衛	天文18（1549）年5月3日	115下
25	田岸道泉		白川ヤスタ箕幡田（ミノハタ）左京亮	天文18（1549）年5月3日	115下
23	明永	逆	白川ヤスタ　ハタナへ　八良左衛門	天文18（1549）年5月6日	115下
27	祐績	逆	白川庄安田善寿院　圓藤豊兵衛内方	天文20（1551）年6月吉日	114下
26	常信	逆	白川庄安田之内善寿院トリ次	天文20（1551）年8月日	114下
9	明永	逆	越後国白河之庄安田郷渡辺六郎左衛門尉内方 トリツキ大聖院	永禄1（1558）年12月13日	119下
65	妙善禅定尼	逆	エチコ安田渡辺源左衛門内方立之　大聖院	永禄1（1558）年12月13日	101下
64	浄安禅定門		越後白河安田渡辺源左衛門タメ　取次大聖院	永禄1（1558）年5月2日	101下
66	妙春禅尼		エチコ白河安田窪石塚五郎左衛門尉立	永禄3（1560）年3月13日	100中
5	権大僧都弘泉		安田大聖院		120下
6	鑒清生厨尼		白河庄堀越藏五父母タメ		120下

第５表　高野山清浄心院越後過去名簿２［水澤 2010b］

成果は得られなかった。なお、土壌を採取した遺構は観察表に記載し、備考の欄に「試（試料の意）－１（埋土１層の意）」のように表記した。出土した鍛冶関連遺物は井戸や溝へ廃棄されたものがほとんどで、鍛冶炉などは検出していない。羽口・坩堝・炉壁・鉄滓・椀形滓・鋳型が出土していることから、小鍛冶が行われたと考えられ、鉄鍋の出土は鋳物師の存在が想起される。土坑や井戸の堆積状況の観察と土壌水洗の結果、鍛造剥片や粒状滓などは検出されなかった。区画された空間内で鍛冶が行われたかは明らかでないが、検出された建物群からの鉄滓の出土は極めて少なく（第 24 図）、羽口もまた同様である（第 25 図）。調査区内の分布状況からは、建物域の外に多く出土する傾向にある。



第 25 図　羽口の重量分布

F　遺跡の評価

道状遺構の奥から主屋や雑舎、最も近くに倉庫が配される状況から、集落の中でも流通機能に深く関与した場所であると考える。また、鍛冶関連の遺物が出土していることから、集落内で鍛冶が行われていたと推量される。

出土遺物の年代から 15 世紀前半～ 16 世紀初頭にかけて存続し、遺構の配置状況や輸入陶磁器などが出土したことから、人々が行き交う空間であったと推察される。また、青花や風炉は「威信財」［小野前掲］の可能性があり、神饌の調進に用いられたと思われる神饌容器（248）は、神饌を調製し、神事・祭事などのハレの行事を催すことができる階層の存在を想起させる。248 は普段使いのものではなく、当然のように使用痕は認められない。なお、折敷に見られる四方を裁ち落とし台板（底板）を隅切り角（八角）とする形態は、木葉（柏カ）を折り敷いたものや葉盤の形式を引き継いだものと考えられるが、248 は八角ではなく、角を持たず丸みを有する。台板と側板との留めが３か所（辺）に認められることから、留めがない１辺及び側板の綴部の対辺を神前に向けたものと推測される。なお、神饌容器は、新潟地方で「神の膳」と呼ばれる［岩井・日和 2007］。遺跡出土の祭祀具には、ほかに陽物形木製品（註１）や、「端（橋）は異界とを繋ぐもの」という意味で用いられたと推測される箸［三浦 2002］などあるが、SE252 から出土した神饌容器（248）は、その最後の登場場面として、前記の祭祀具同様、井戸祭祀の場で用いられたものと考えられる。また、SE72 で出土した曲物（228）もその形態から、こうした催事に用いられたのかもしれない。228・248 の素材がヒノキであることは注目される。なお、248 の形態上の類例としては、江ヶ崎館跡（埼玉県）［岩井・日和前掲］出土品が挙げられる。径 11cm、厚さ 0.5cm の台板に口径 5.6cm の側板を紐で固定したようなものである。新潟県内での報告例は未見であるが、中田原遺跡（上越市）出土の曲物がこれに類似する［大谷 2010］。

新町遺跡の時期は 15 世紀後半を中心とするもので、調査区内で検出した建物は林立することなく、建

１）241 は、端部付近が抉られ、端部が有頭形を呈する。機の綜絖に似る形状であるが、紡織具の中でも比較的出土例の多い紡錘車（紡輪）・糸枠・飛び杼が出土していないことから、有頭棒を陽物形と判断した。

て替えもしていない。ここでは、溝で区画された屋敷地が道状遺構を基線に展開し、集落を形成していた当時の景観が見えてくる。当時の農村には通常、小字に「町」の付く地名は少ない［坂井前掲］ことから、新町遺跡で検出された遺構群は、単に農業を基盤とした生産集落のものではなく、多数の鍛冶関連遺物や輸入陶磁器、そして神饌容器などの出土や整然とした建物軸と区画から、網野［2002］がいう「庭」(註1)に近い性格を有した空間内に所在した遺構群と想定される。集落が営まれた15世紀後半の越後は、守護上杉房定の時代に相当し、一定の安定期を迎える。当遺跡から出土した遺物が示すように営みの水準は高かったものと考えられる。そして、集落が終焉を迎える16世紀初頭の永正４（1507）年には、守護代長尾為景が上杉定実を擁立し、房定の子である守護房能を滅したことにより、越後の戦国時代が始まる。新町遺跡の中世集落は、堀越館が主に使用された15世紀前半から守護上杉房定の時代に形成され、戦乱のはじまりとともに消滅したとみられる。

1）『古代から中世にかけて、「庭」は人々が共同で何かの作業や生産、あるいは芸能を行う場所を意味し（中略）、共同作業をする組織そのものを指すこともあり（中略）、庭は本来、私的な空間を超えた、特異な空間を表現する言葉だったと考えられ（中略）、交易の行われる場所を示す言葉だった（後略）』［網野 2002］

要　約

1．新潟県阿賀野市大字百津字新町に所在する新町遺跡は、阿賀野川右岸の自然堤防上に立地する。遺構検出面の標高は 6.5 m前後であるが、地表は、昭和初期の用水路工事やその後の水田造営によって削平及び撹拌されている。

2．発掘調査は一般国道 49 号阿賀野バイパス建設に伴うもので、2014 年に実施した。調査面積は 6,750 ㎡である。

3．調査では平安時代･中世の遺物が出土したが、平安時代のものは極わずかで、遺構は検出していない。中世は出土土器から 15 世紀後半～ 16 世紀初頭の幅があるが、中心は 15 世紀後半である。

4．検出遺構には、掘立柱建物・道状遺構・井戸・土坑・溝・ピットがあるが、道状遺構を基線として、その両脇に溝で区画された屋敷地が展開する様子が窺える。

5．道状遺構は幅 2.5 m前後の側溝が並行し、溝間には遺構がほとんどない。路面は幅 16 m前後と推定されるが、路床も含め削平されている。側溝からは土器のほか多量の礫や鉄滓が出土した。

6．建物は規模や形態から主屋とこれに付属すると思われるものがあり、これらは建物と同軸の溝で区画された空間内に配置する。また、建物には重複関係がなく、建て替えも認められない。

7．井戸は調査区全域に分布している。井戸側をもつ大型のものと素掘りの小型井戸があるが、底部の形状・施設・堆積状況などを記録していないものが多い。

8．遺物は、14 世紀代～ 16 世紀前葉のものであるが、15 世紀後半～ 16 世紀初頭にほぼ限定される。青磁や白磁などの輸入陶磁器が多く出土している。威信財と思われる青花、風炉・香炉・燭台と思われる瓦器や茶道具として利用される天目や茶臼が出土していることから、有力者の存在が窺える。また、木製品には神饌容器も出土していることから、神事を催すことができる階層の存在が想起される。

9．多量の鍛冶関連遺物が出土している。地表面が削平されているため、鍛冶炉等は検出していないが、調査区内及びその周辺に鍛冶工房が存在した可能性が高い。

10．遺構群の時期は、応永の乱のあとの越後が安定した時代にあたる。この頃は、都などから多くの僧侶･文人・商人が越後を往来しており、遺跡が所在する「新町」は、高野山清浄心院越後過去帳名簿（第 5 表 46）に見られる「白川新町」と考えられる。新町遺跡出土の多量な輸入陶磁器も人や物の交流を物語るものであろう。

11．遺構の配置状況や出土遺物の種類からは、農業を基盤とした集落ではなく、人や物の行き交った空間（庭）が想定される。

引用・参考文献

浅川滋男・箱崎和久　2001 『埋もれた中近世の住まい』同成社
阿部洋輔　1995 「第 4 章 鎌倉から戦国時代の新潟 第 3 節 蒲原津の時代」『新潟市史 通史編 1 原始古代中世近世（上)』新潟市
網野善彦　2002 『歴史を考えるヒント』新潮社
荒川隆史　2004 「第Ⅳ章　遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 133 集　青田遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
荒川隆史　2006 「第Ⅳ章　遺構　2 遺構の分類」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 153 集　大坪遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
荒川隆史ほか　2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 232 集　境塚遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
荒木繁雄　1970 「別篇 1 水原郷の地形・地質について」『新潟県文化財調査年報第十　水原郷』新潟県教育委員会
荒木　隆　2000 「古代会津郡東半部（会津若松市域）における奈良・平安時代掘立柱建物跡の特質」『会津若松市文化財調査報告書　第 66 号　若松北部地区県営ほ場整備発掘調査報告書Ⅱ』福島県会津若松市教育委員会
荒谷伸郎ほか　2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 215 集　山口遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
猪狩俊哉　2004 「第Ⅴ章 5　木製品」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 133 集　青田遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
伊藤隆夫・山田昌久　2012 『木の考古学　出土木製品用材データベース』海青社
伊東　崇・水澤幸一　2010 『胎内市埋蔵文化財調査報告　第 19 集　黒川氏城館遺跡群Ⅳ』新潟県胎内市教育委員会
石村貞吉　2010 『有職故実（下)』講談社
石村貞吉　2011 『有職故実（上)』講談社
井上鋭夫　1968 『色部史料集』新潟史学会
井上慶隆・高橋　実　1970 『校註 北越雪譜』野島出版
今井　敦　2002 「4. 朝鮮陶磁」『韓国の名宝』NHK
岩井宏實　1987 『地域社会の民俗学的研究』財団法人法政大学出版局
岩井宏實・日和祐樹　2007 『神饌　神と人との饗宴』ものと人間の文化史 140　財団法人法政大学出版局
上田秀夫　1982 「14 ～ 16 世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』第 2 号　日本貿易陶磁研究会
宇野隆夫　1982 「井戸考」『史杯』第 65 巻第 5 号　史学研究会
宇野隆夫　2001 『荘園の考古学』青木書店
浦部頼之　2001 「第Ⅱ章 遺跡の位置と環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 99 集　堀越館跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
大家　健　2003 『中世越後の旅 － 永禄六年北国下リノ遣足 － 』野島出版
大石直正　1993 「地域性と交通」『岩波講座 日本通史 第 7 巻 中世 1』岩波書店
大谷祐司　2010 「第Ⅶ章　中田原遺跡Ⅱ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 212 集　北前田遺跡Ⅱ・野畦遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
大野　亨　2009 「竪穴建物とはなにか」『掘立と竪穴　中世遺構論の課題』東北中世考古学叢書 2　東北中世考古学会
小田由美子ほか　1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 63 集　関川関所跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
小田由美子ほか　2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 99 集　堀越館跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野正敏　1982　「15 ～ 16 世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』第 2 号　日本貿易陶磁研究会
小野正敏　1995　「中世の考古資料」『岩波講座 日本通史 別巻 3 史料論』岩波書店
小野正敏　2003　「威信財としての貿易陶磁と場 － 戦国期東国を例に － 」『戦国時代の考古学』高志書院
小野正敏　2004　「中世武士の館、その建物系譜と景観 － 東国の事例を中心として － 」『中世の系譜』高志書院
小野正敏・五味文彦・萩原三雄　2011　『中世人のたからもの － 蔵があらわす権力と富 － 』考古学と中世史研究 8　高志書院
春日真実　1999　「第 4 章古代 第 2 節土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
春日真実　2008　「越後における古墳時代～中世の柱材について」『新潟考古』第 19 号　新潟考古学会
春日真実　2009　「越後における古代掘立柱建物」『新潟県の考古学Ⅱ』
春日真実　2012　「第Ⅴ章遺物」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 228 集　山岸遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学　1999　「第Ⅴ章上層の調査」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 39 集　和泉 A 遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか　2003　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 128 集　仲田遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか　2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 223 集　村前東 A 遺跡・村前東 B 遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか　2013　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 237 集　柄目木遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
金内　元・秋山泰利ほか　2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 212 集　北前田遺跡Ⅱ・野畦遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
鎌倉考古学研究所　1994　『中世都市鎌倉を掘る』日本エディタースクール出版部
河野眞知郎　1995　『中世都市鎌倉』講談社
川畑　誠　1995　「石川県内の古代建物に関する基礎的考察 － 掘立柱建物の平面プランを中心にして － 」『社団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報 6』社団法人石川県埋蔵文化財保存協会
姜　敬淑　1987　『韓国の粉青沙器』韓国美術シリーズ 11　近藤出版社
神田勝郎　1997　『「中世」横越の風景 － 阿賀の舟旅をよむ － 』
金田章裕　1993　『微地形と中世村落』吉川弘文館
金田章裕　2011　『古代・中世遺跡と歴史地理学』吉川弘文館
久々忠義　1984　「Ⅰ木製品」『北陸自動車道遺跡発掘調査報告 上市町木製品（本文）・総括編』上市町教育委員会
桑原　孝　1993　「三国街道Ⅰ 第Ⅰ章 三国街道の概説」『新潟県歴史の道調査報告書 第 4 集』新潟県教育委員会
小池義人ほか　1994　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 59 集　細池遺跡・寺道上遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
小島道裕　2004　「中世後期の旅と消費 －「永禄六年北国下り遣足帳」の支出と場 － 」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 113 集 国立歴史民俗博物館
小林昌二　1995　「第Ⅲ章 近世の交通」『新潟市史 通史編 1 原始古代中世（上）』新潟市
小林　存　1976　『水原郷土史』歴史図書社
小松　彰　1996　「北国街道Ⅲ」『新潟県歴史の道調査報告書 第 9 集 三国街道Ⅱ・北国街道Ⅲ』新潟県教育委員会
五来　重　1985　「高野聖」『国史大辞典』第 5 巻　吉川弘文館
財団法人瀬戸市文化財センター　2002　『財団法人瀬戸市文化財センター研究紀要』第 10 輯
斎野裕彦　2005　「水田跡の調査方法及び構造の理解について」『シンポジウム 山形県の水田遺構 資料集』山形考古学会
坂井秀弥　1995　「越後の道・町・村 － 中世から近世へ － 」『中世の風景を読む 4 日本海交通の展開』新人物往来社

佐久間貴士　1994　「発掘された中世の村と町」『岩波講座 日本通史 第 9 巻 中世 3』岩波書店
笹神村　2002　『笹神村史　資料編四　民俗』新潟県笹神村
佐々木銀弥　1963　「中世都市と商品流通」『岩波講座 日本歴史 8 中世 4』岩波書店
笹本正治　1994　「市・宿・町」『岩波講座 日本通史 第 9 巻 中世 3』岩波書店
佐藤友子ほか　2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 216 集　柄目木遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
佐藤博信　2006　『越後中世史の世界』岩田書院
品田高志　1999　「越後における中世後期の土師器皿 － 京都系土師器第 2 波の流入と展開」『中世土器の基礎研究ⅩⅥ』日本中世土器研究会
水藤　真　1989　「村や町を囲うこと」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 19 集 国立歴史民俗博物館
鈴木郁夫　1997　『続・新潟のすぐれた自然　地形・地質編』新潟県環境保健部　環境保全課
鈴木弘太　2006　「中世「竪穴建物」の検討」『日本考古学』第 21 号　有限責任中間法人 日本考古学協会
鈴木康之　2010　「結物の普及と木材加工技術」『歴博』第 160 号　財団法人歴史民俗博物館振興会
水原町史編さん委員会　1978　『水原町編年史』第一巻　水原町役場
水原町史編さん委員会　1980　『水原町編年史』第二巻　水原町役場
水原町史編さん委員会　1982　『水原町編年史』第三巻　水原町役場
水原町史編さん委員会　1984　『水原町編年史』第四巻　水原町役場
水原町教育委員会　1991　『水原の歴史風土』新潟県水原町
仙台市史編さん委員会　2000　『仙台市史 通史編 2 古代中世』仙台市
仙台農耕文化勉強会　1990　「水田跡の基礎的理解 - 仙台市における水田跡の検出と認定 -」『第 3 回東日本の水田跡を考える会 資料集』東日本の水田跡を考える会
高橋　保　2008　「第Ⅳ章遺跡 3 遺物」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 189 集　寺前遺跡　本文編』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
高橋　均・真壁鈴子・石垣義則　2013　「第Ⅳ章　遺構」『新潟県埋蔵文化調査報告書　第 237 集　柄目木遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
高橋　学　1989　「竪穴住居と掘立柱建物が併列して構築される遺構について － 能代市福田遺跡・十二林遺跡を端緒として － 」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第 4 号　秋田県埋蔵文化財センター
高橋義彦　1971　『越佐史料（巻三）』名著出版
谷川健一　1981　『日本庶民生活史料集成』第 23 巻 年中行事　三一書房
田村　裕　1999　「越後における南北朝の動乱」『中世の越後と佐渡』環日本海歴史民俗学叢書 7 高志書院
田村　裕　2004　「中世第 3 章南北朝・室町前期の白河荘」『笹神村史　通史編』笹神村
中世都市研究会　2010　『都市を区切る』中世都市研究 15 号　山川出版社
中世都市研究会　2012　『都市的な場』中世都市研究 17 号　山川出版社
鶴巻康志　1989　「土器片円盤について」『新潟考古学談話会会報』第 3 号　新潟考古学談話会
鶴巻康志　1991　「瓷器系笹神窯製品について」『新潟県考古学談話会会報』第 7 号　新潟考古学談話会
鶴巻康志　1999　「越後・佐渡の中世手工業民」『中世の越後と佐渡』環日本海歴史民俗学叢書 7 高志書院
鶴巻康志　2009　「越後・佐渡地方の中世竪穴状遺構」『掘立と竪穴　中世遺構論の課題』東北中世考古学叢書 2 東北中世考古学会
田海義正　2009　「Ⅱ発掘調査受託事業の概要 4 試掘・確認調査　阿賀野市百津地区試掘調査」『平成 20 年度財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所　2010　『発掘調査のてびき － 集落遺跡発掘編』同成社
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所　2013　『発掘調査のてびき － 各種遺跡調査編』同成社
豊田　武　1963　「座と土倉」『岩波講座 日本歴史 6 中世 2』岩波書店
中野豈任　1967　「白川庄について」『社会科研究』第 12 集　新潟県高等学校教育研究会・社会科部会
中野豈任　1968　「五頭山周辺の中世鉱業」『水原郷土誌料』第二集　水原町教育委員会・水原博物館友の会
中野豈任　1976　「北蒲原郡の荘園と荘域」『かみくひむし』第 21 号　かみくひむしの会
中山　晋　2001　「道路遺跡の調査方法」『古代交通研究』第 10 号　古代交通研究会

新潟県　1982　『新潟県史 資料編 3 中世一 文書編Ⅰ』新潟県
新潟県　1987　『新潟県史 通史編 2 中世』新潟県
新潟県教育委員会　1981　『越後の民家　下越編　新潟県民家緊急調査報告Ⅲ』
新潟市史編さん原始古代中世史部会　1994　『新潟市史 資料編 1 原始古代中世』新潟市
西村　歩　1994　「曲物の細部技法－綴じ方を中心として－」『文化財学論集』文化財学論刊行会
羽柴直人　2009　「柱間寸法が語るもの」『掘立と竪穴　中世遺構論の課題』東北中世考古学叢書 2　東北中世考古学会
橋本正博　2003　「第Ⅶ章 木製品」『八日市地方遺跡Ⅰ（第 2 分冊遺物報告書）』石川県小松市教育委員会
早川　泉　1997　「道路遺構の虚像と実像」『古代交通研究』第 6 号　古代交通研究会
早川　圭　2014　「礎石建物」『中世城館の考古学』高志書院
日色四郎　1967　『日本上代井の研究 』日色四郎先生遺稿出版会
廣田康也　2004　「北蒲原郡南部郷の「湊（港）と船着き場」の地名」『越佐の地名』第 4 号　新潟県地名研究会
藤澤良祐　2008　『中世瀬戸窯の研究』高志書院
藤原良章　2004　『中世のみちを探る』高志書院
藤原良章・村井章介　1999　『中世のみちと物流』山川出版社
藤原良章・飯村　均　2007　『中世の宿と町』高志書院
古澤妥史　2001　「京ヶ瀬村の遺跡について（一）」『五頭郷土文化』第 47 号　五頭郷土文化研究会
古澤妥史　2002　『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書　第 1 集　町道上遺跡発掘調査報告書』新潟県京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史ほか　2003　『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書　第 2 集　大割遺跡・猫山遺跡・大曲川遺跡』新潟県京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史　2002　『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書　第 1 集　町道上遺跡』新潟県京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史　2008　「京ヶ瀬の遺跡について（二）」『五頭郷土文化』第 60 号　五頭郷土文化研究会
古澤妥史　2011　「第Ⅱ章 遺跡の環境と歴史」『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書　第 4 集　境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稲荷遺跡』新潟県阿賀野市教育委員会
北陸中世考古学研究会　2004　『掘立柱建物から礎石建物へ』第 17 回 北陸中世考古学研究会 資料集
北陸中世考古学研究会　2008　『北陸中世のみち』第 21 回 北陸中世考古学研究会 資料集
三浦佑之　2002　『口語訳　古事記［完全版］』文藝春秋
三浦純夫　1993　「まな板と包丁 - 切り刻む調理具の歴史」『食生活と民具』日本民具学会論集 7　雄山閣出版
水澤幸一　1993　「越後における中世村落の諸相」『中世北陸の家・屋敷・暮らしぶり』北陸中世土器研究会
水澤幸一　1996　『中条町埋蔵文化財調査報告 第 10 集・奥山荘城館遺跡調査報告 第 4 集 江上館跡Ⅳ』新潟県中条町教育委員会
水澤幸一　1996　『中条町埋蔵文化財調査報告 第 13 集・奥山荘城館遺跡調査報告 第 5 集 江上館跡Ⅴ』新潟県中条町教育委員会
水澤幸一　1999a　「瓦器、その城館的なるもの - 北東日本の事例から - 」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第 9 集　帝京大学山梨文化財研究所
水澤幸一　1999b　「中世越後の城館」『中世の越後と佐渡』環日本海歴史民俗学叢書 7 高志書院
水澤幸一　2005　「越後の中世土器」『新潟考古』第 16 号　新潟県考古学会
水澤幸一　2006　『奥山荘城館遺跡 - 中世越後の荘園と館群』日本の遺跡 15　同成社
水澤幸一　2007　「越後の中世漆器 - 椀・皿を中心に - 」『新潟考古』第 18 号　新潟県考古学会
水澤幸一　2009a　『日本海流通の考古学 - 中世武士団の消費生活 - 』高志書院
水澤幸一　2009b　「瓦器の相貌」『中近世土器の基礎研究』22　日本中世土器研究会
水澤幸一　2010a　「中世越後の瓦器紋様」『新潟考古』第 21 号　新潟県考古学会
水澤幸一　2010b　「付編『高野山清浄心院「越後過去名簿」第 1 冊』からみた戦国期の越後」『胎内市埋蔵文化財調査報告　第 19 集　黒川氏城館遺跡群Ⅳ』新潟県胎内市教育委員会
水澤幸一　2014a　「戦国期武家の日常使いの貿易陶磁の実像」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 182 集 国立歴史民俗博物館

水澤幸一　2014b　「平地の方形館」『中世城館の考古学』高志書院
宮田進一・河西健二　1994　「第Ⅳ章 まとめ」『富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告書 第５集 梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告書（遺構編）』財団法人 富山県文化振興財団
宮本長二郎　1986　「５ 住居」『岩波講座　日本考古学４　集落と祭祀』
宮本長二郎　1999　「日本中世住居の形成と発展」『建築史の空間　関口欣也先生退官記念論文集』関口欣也先生退官記念論文集刊行会
宮本長二郎　2001　「中世集落遺跡 建築遺構のまとめ方」『東北中世考古学叢書２　掘立と竪穴　中世遺構論の課題』東北中世考古学会
宮本長二郎　2002　「古代末から中世の住居建築」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第 16 号　秋田県埋蔵文化財センター
村上章久　2012　「第Ⅷ章 調査のまとめ 2D 区について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 232 集　境塚遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
村川三男　1968　「阿賀野川右岸地域における微地形と水田分布の地域的変化 － 沖積平野の地理的研究 － 」『社会科研究』第 13 集　新潟県高等学校教育研究会社会科部会
村木二郎　2014　「中世鋳造遺跡からみた鉄鍋生産」『金属の中世 － 資源と流通 － 』考古学と中世史研究 11　高志書院
森田真一　2004　「中世 第四章 戦国の動乱」『笹神村史　通史編』笹神村
森田　勉　1982　「14 ～ 16 世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』第２号　日本貿易陶磁研究会
森田　勉　1985　「北部九州出土の高麗陶磁器 － 編年試案 － 」『貿易陶磁研究』第５号　日本貿易陶磁研究会
安田町　1997　『安田町史　民俗編』新潟県安田町
矢田俊文　1999　「戦国期越後の守護と守護代 － 上杉房定と長尾為景」『中世の越後と佐渡』環日本海歴史民俗学叢書７高志書院
矢田俊文　2013　「中世・近世初期越後における地域と遺跡」『越後国域確定 1300 年記念事業　記録集』新潟県教育委員会
山上雅弘　2014　「掘立柱建物」『中世城館の考古学』高志書院
山岸洋一　2003　『鉄砲町遺跡発掘調査報告書』新潟県糸魚川市教育委員会
山崎光子　1985　「新潟県綿織物の盛衰」『日本家政学会民俗服飾部会研究報告書』第 60 巻　日本家政学会民俗服飾部会
山村信榮　2001　「古代道路の構造」『古代交通研究』第 10 号　古代交通研究会
山本隆志・皆川義孝　2004　「高野山清浄心院蔵「越後国供養帳」」『上越市史研究』第９号　上越市史専門委員会
山本隆志　2008　「高野山清浄心院「越後過去名簿」（写本）」『新潟県立歴史博物館　研究紀要』第９号　新潟県立歴史博物館
山本幸俊　1991　「第Ⅰ章 北国街道の概説」『新潟県歴史の道調査報告書 第２集 北国街道Ⅰ』新潟県教育委員会
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』吉川弘文館
立正大学考古学会　1999　『考古学論究』第５号〈特集　出土仏具の世界〉
脇田晴子　1994　「中世土器の流通」『岩波講座 日本通史 第９巻 中世３』岩波書店
和多秀乗　1985　「高野山」『国史大辞典』第５巻　吉川弘文館

掘立柱建物(SB1～3)

観察表全般:[推定値]、(遺存値)

遺構番号	位置	桁行(m) [身舎桁行]	間	梁行(m) [身舎梁行]	間	面積(㎡)	桁行方向		柱設置位置 (A・B)	柱抜取痕
SB1	5D・E	8.73[7.08]	3	5.79[4.42]	1	29.2	N－17°－E		A	無
平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	柱間寸法 標準偏差 (3σ)
P30-P31	2.29	P35-P36	2.32	P41-P43	3.2	P46-P47	1.73	P31-P38	1.78	身舎桁行 2.31±0.22m
P31-P32	2.21	P36-P37	2.27	P43-P44	2.25	P47-P48	2.07	P38-P36	2.26	
P32-P33	2.44	P39-P40	1.56	P44-P45	2.94	P48-P49	3.19			廂平 2.54±1.14m
P34-P35	2.37	P40-P41	1.7	P45-P46	2.02	P49-P50	2.23			
柱穴名	グリッド	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	堆積形状	柱根遺存	柱痕長径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
P30	5D20	円形	台形状	26	22	柱痕A	柱痕・柱アタリ	12	6.32	22
P31	5D24・25	楕円形	台形状	29	24	柱痕A	柱痕	15	6.4	21
P32	5E4	円形	台形状	27	26	柱痕A	柱痕	15	6.47	12
P33	5E9	円形	台形状	25	(23)	単層柱痕A	柱アタリ	15	6.2	35
P34	5E7	円形	台形状	20	20	レンズ状 柱痕Aカ	柱痕？	(14)	6.44	6
P35	5D22・5E2	円形	台形状	34	30	柱痕A	柱痕	15	6.34	19
P36	5D18	楕円形	台形状	24	18	レンズ状 柱痕Aカ	柱痕？	(13)	6.48	11
P37	5D13	円形	U字状	24	22	柱痕A	柱痕	17	6.22	36
P38	5D24	円形	U字状	24	21	柱痕A	柱痕	8	6.22	30
P39	5D14	円形	U字状	24	21	柱痕A	柱痕	12	6.4	18
P40	5D14	円形	U字状	22	19	柱痕A	柱痕	14	6.36	18
P41	5D20	楕円形	台形状	33	26	柱痕A	柱痕	10	6.4	16
P43	5D25	円形	U字状	26	24	柱痕A	柱痕	16	6.43	17
P44	5E5	円形	台形状	25	25	柱痕A	柱痕	14	6.43	14
P45	5E14	円形	台形状	34	33	柱痕A	柱痕	14	6.16	38
P46	5E13	円形	U字状	23	21	柱痕A	柱痕	12	6.32	20
P47	5E7	円形	U字状	26	22	柱痕A	柱痕	15	6.22	26
P48	5E6	円形	半円状	20	19	レンズ状柱 痕Aカ	柱痕？	(8)	6.4	12
P49	5D22	円形	U字状	28	26	柱痕A	柱痕	12	6.32	20
P50	5D17	円形	台形状	23	20	柱痕A	柱痕	14	6.36	12
最大値	－	－	－	34	33	－	－	17	6.48	38
最小値	－	－	－	20	18	－	－	8	6.16	6
平均	－	－	－	25.85	23.11	－	－	13.53	6.34	20.15
大小/高低差	－	－	－	14	15	－	－	9	0.32	32
標準偏差	－	－	－	－	－	－	－	0.02	0.09	8.62
標準偏(3σ)	－	－	－	－	－	－	－	0.07	0.28	25.85

遺構番号	位置	桁行(m)	間	梁行(m)	間	面積(㎡)	桁行方向		柱設置位置 (A・B)	柱抜取痕
SB2	2C・D/3C・D	7.82	3	4.88	1	38.1	N－103°－E		A	無
平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)			柱間寸法 標準偏差 (3σ)
P204-P206	2.6	P207-P208	2.59	P210-P211	2.55	P204-P213	4.89			桁行 2.58±0.21m
P206-P207	2.48	P209-P210	2.56	P211-P213	2.72	P208-P209	4.81			
柱穴名	グリッド	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	堆積形状	柱根遺存	柱痕長径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
P204	2C15・3C11	円形	台形状	25	24	柱痕A	柱痕	14	6.33	17
P206	3C12	円形	台形状	32	28	柱痕A	柱痕	15	6.16	25
P207	3C18	円形	台形状	24	22	柱痕A	柱痕	14	6.19	22
P208	3C19	楕円形	U字状	36	29	柱痕A	柱痕	18	6.06	38
P209	3D4	楕円形	台形状	30	24	柱痕A	柱痕	20	6.27	27
P210	3D2・3	円形	台形状	34	27	柱痕A？	柱痕？	12	6.26	29
P211	3D1	円形	台形状	29	28	柱痕A	柱痕	19	6.18	19
P213	2C25・2D5	円形	U字状	42	39	単層	無	－	6.17	33
最大値	－	－	－	42	39	－	－	20	6.33	38
最小値	－	－	－	24	22	－	－	12	6.06	17
平均	－	－	－	31.50	27.63	－	－	16.00	6.20	26.25
大小/高低差	－	－	－	18	17	－	－	8	0.27	21
標準偏差	－	－	－	－	－	－	－	2.78	0.08	6.61
標準偏(3σ)	－	－	－	－	－	－	－	8.33	0.23	19.83

遺構番号	位置	桁行(m)	間	梁行(m)	間	面積(㎡)	桁行方向		柱設置位置 (A・B)	柱抜取痕
SB3	4D・E	4.68	1	4.32	1	19.8	N－113°－E		A？	無
平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	柱間寸法 標準偏差 (3σ)
P223-P225	2.28	P225-P226	2.26	P226-P228	4.28	P228-P229	4.67	P229-P223	4.32	4.45±0.47m
柱穴名	グリッド	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	堆積形状	柱根遺存	柱痕長径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
P223	4D17	楕円形	箱状	36	29	単層	無	－	6.05	52
P225	4D23	楕円形	U字状	24	19	単層	無	－	6.36	23
P226	4D24	楕円形	箱状	23	19	単層	無	－	6.38	23
P228	4E8・9	円形	U字状	29	26	単層	無	－	6.31	20
P229	4E1	円形	半円状	24	23	柱痕？	有？	13？	6.34	29
最大値	－	－	－	36	29	－	－	－	6.38	52
最小値	－	－	－	23	19	－	－	－	6.05	20
平均	－	－	－	27.20	23.20	－	－	－	6.29	29.40
大小/高低差	－	－	－	13	10	－	－	－	0.33	32
標準偏差	－	－	－	4.87	3.92	－	－	－	0.12	11.67
標準偏(3σ)	－	－	－	14.62	11.76	－	－	－	0.36	35.02

掘立柱建物(SB4～7)

遺構番号	位置	桁行(m)	間	梁行(m)	間	面積(㎡)	桁行方向		柱設置位置(A･B)	柱抜取痕
SB4	3E･F/4E･F	3.73	1	3.41	1	12.4	N－103°－E		A･B	無
平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)			柱間寸法標準偏差(3σ)
P234-P235	3.73	P235-P236	3.41	P236-P575	3.63	P575-P234	3.35			3.35±0.45m
柱穴名	グリッド	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	堆積形状	柱根遺存	柱痕長径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
P234	3E24･25	円形	台形状	26	23	柱痕A	柱痕	14	6.26	29
P235	4E21	円形	台形状	31	26	柱痕A	柱痕？	10？	6.36	22
P236	4F6	円形	箱状	29	26	柱痕B	柱痕	17	6.34	25
P575	3F4	楕円形	箱状	47	33	－	－	－	6.34	24
最大値	－	－	－	47	33	－	－	17	6.36	29
最小値	－	－	－	26	23	－	－	14	6.26	22
平均	－	－	－	33.25	27.00	－	－	13.60	6.33	25.00
大小/高低差	－	－	－	21	10	－	－	3	0.1	7
標準偏差	－	－	－	8.14	3.67	－	－	2.87	0.04	2.55
標準偏(3σ)	－	－	－	24.41	11.02	－	－	8.60	0.12	7.65

遺構番号	位置	桁行(m)	間	梁行(m)	間	面積(㎡)	桁行方向		柱設置位置(A･B)	柱抜取痕
SB5	4E･F/5E･F	3.74	1	3.34	1	11.8	N－18°－E		A	無
平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)			柱間寸法標準偏差(3σ)
P237-P238	3.74	P238-P240	3.38	P240-P602	3.54	P602-P237	3.14			3.45±0.65m
柱穴名	グリッド	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	堆積形状	柱根遺存	柱痕長径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
P237	5E16	楕円形	U字状	31	25	単層 柱痕Aヵ	柱痕？	(12)	6.29	26
P238	4F5	円形	半円状	33	30	柱痕A	礎盤石	11？	6.28	26
P240	5F2	円形	台形状	32	29	斜位 柱痕Aヵ	柱痕？	10？	6.3	24
P602	5E22	円形	U字状	33	32	単層 柱痕A	有	14	6.31	28
最大値	－	－	－	33	32	－	－	14	6.31	28
最小値	－	－	－	31	25	－	－	10	6.28	24
平均	－	－	－	32.25	29.00	－	－	11.80	6.30	26.00
大小/高低差	－	－	－	2	7	－	－	4	0.03	4
標準偏差	－	－	－	0.83	2.55	－	－	1.47	0.01	1.41
標準偏(3σ)	－	－	－	2.49	7.65	－	－	4.43	0.03	4.24

遺構番号	位置	桁行(m)	間	梁行(m)	間	面積(㎡)	桁行方向		柱設置位置(A･B)	柱抜取痕
SB6	6E･F/7E･F	5.85	2	4.48	1	24.4	N－109°－E		A	無
平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	柱間寸法標準偏差(3σ)
P54-P55	4.47	P55-P56	2.81	P56-P57	2.84	P57-P58	4.04	P58-P54	5.82	－
柱穴名	グリッド	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	堆積形状	柱根遺存	柱痕長径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
P54	6E4	円形	U字状	20	18	柱痕A	柱痕	11	6.37	19
P55	6E20	円形	台形状	32	27	柱痕A	柱痕	16	6.29	26
P56	7E16	円形	台形状	26	25	柱痕A	柱痕	13	6.38	9
P57	7E22･23	円形	U字状	27	24	柱痕A	柱痕	16	6.2	31
P58	7F17	円形	U字状	24	23	柱痕A	柱痕	12	6.41	20
最大値	－	－	－	32	27	－	－	16	6.41	31
最小値	－	－	－	20	18	－	－	11	6.2	9
平均	－	－	－	25.80	23.40	－	－	13.60	6.33	21.00
大小/高低差	－	－	－	12	9	－	－	5	0.21	22
標準偏差	－	－	－	3.92	3.01	－	－	2.06	0.08	7.40
標準偏(3σ)	－	－	－	11.76	9.02	－	－	6.18	0.23	22.21

遺構番号	位置	桁行(m)	間	梁行(m)	間	面積(㎡)	桁行方向		柱設置位置(A･B)	柱抜取痕
SB7	5F･G	4.8	2	4.24	2	18.3	N－11°－E		A	無
平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	柱間寸法標準偏差(3σ)
P335-P336	2.53	P337-P338	2.12	P339-P340	1.39	P340-P341	2.43	P341-P335	4.59	2.41±0.96m
P336-P337	1.7	P338-P339	2.1							
柱穴名	グリッド	平面形	断面形	長辺(cm)	短辺(cm)	堆積形状	柱根遺存	柱痕長径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
P335	5G8	方形	台形状	32	28	単層	－	－	6.45	18
P336	5G7	方形	台形状	19	18	レンズ状	－	－	6.54	9
P337	5G1	方形	U字状	22	21	柱痕A	柱痕	8	6.47	2
P338	5F21	方形	箱状	25	21	単層	－	－	6.48	11
P339	5F17	方形	台形状	27	23	単層 柱痕A	柱アタリ	14	6.49	16
P340	5F17	方形	台形状	28	26	レンズ状	－	－	6.51	11
P341	5F18･19･23･24	方形	箱状	28	24	レンズ状	－	－	6.18	37
最大値	－	－	－	32	28	－	－	14	6.54	37
最小値	－	－	－	19	18	－	－	8	6.18	2
平均	－	－	－	25.86	23.00	－	－	11.00	6.45	14.86
大小/高低差	－	－	－	13	10	－	－	6	0.36	35
標準偏差	－	－	－	3.98	3.12	－	－	－	0.11	10.22
標準偏(3σ)	－	－	－	11.94	9.35	－	－	－	0.34	30.65

掘立柱建物(SB8･9･SA1)

遺構番号	位置	桁行(m)	間	梁行(m)	間	面積(㎡)	桁行方向		柱設置位置(A･B)	柱抜取痕
SB8	4H･I/5H･I	11.05	4	5.77	2	[62.4]	N－108°－E		A･B	P503?
平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	柱間寸法標準偏差(3σ)
P501-P502	2.99	P504-P505	3.11	P502-P509	2.86	P504-P511	2.63	P509-P510	2.45	桁行 2.74±1.27m 梁行 2.83±0.66m
P502-P503	2.49	P505-P507	5.28	P503-P510	2.65	P511-P508	3.18	P510-P511	2.16	
P503-P504	2.52	P507-P508	3.47							
柱穴名	グリッド	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	堆積形状	柱根遺存	柱痕長径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
P501	4H13	円形	箱状	34	30	柱痕A	柱痕	13	6.24	40
P502	4H14･19	長方形	箱状	46	34	レンズ状	－	－	6.33	30
P503	4H20･5H16	楕円形	台形状	64	41	柱痕A	柱痕	17	6.36	27
P504	5H17	円形	台形状	32	30	レンズ状	－	－	6.52	12
P505	5H23	円形	箱状	23	21	柱痕A	柱痕	16	6.44	21
P507	5I8	円形	箱状	(14)	12	レンズ状	－	－	6.34	31
P508	5I6	円形	箱状	25	22	柱痕B	柱痕	17	6.15	46
P509	4H24	円形	台形状	37	32	柱痕A	柱痕･柱アタリ	14	6.55	8
P510	4H25	円形ヵ	箱状	35	(14)	レンズ状	－	－	6.35	26
P511	5H21	円形	箱状	24	24	レンズ状	－	－	6.46	21
最大値	－	－	－	64	41	－	－	17	6.55	46
最小値	－	－	－	(14)	12	－	－	13	6.15	8
平均	－	－	－	36.00	27.00	－	－	15.40	6.37	26.20
大小/高低差	－	－	－	50	29	－	－	4	0.4	38
標準偏差	－	－	－	12.19	8.04	－	－	1.62	0.12	10.99
標準偏差(3σ)	－	－	－	36.57	24.12	－	－	4.86	0.35	32.97

遺構番号	位置	桁行(m)	間	梁行(m)	間	面積(㎡)	桁行方向		柱設置位置(A･B)	柱抜取痕
SB9	6H･I	5.61	3	3.11	1	[17.3]	N－11°－E		A	－
平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	平面	柱間(m)	柱間寸法標準偏差(3σ)
P330-P331	1.41	P331-P332	1.87	P332-P333	2.34	P334-P329	3.1	P329-P330	3.11	2.36±2.01m
柱穴名	グリッド	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	堆積形状	柱根遺存	柱痕長径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
P329	6H12	円形	台形状	25	22	柱痕A	柱痕	9	6.36	22
P330	6H13	円形	台形状	24	22	柱痕A	柱痕	12	6.46	17
P331	6H18	円形	台形状	21	19	柱痕A	柱痕	12	6.44	18
P332	6H23	円形	台形状	24	21	柱痕A	柱痕	11	6.52	14
P333	6I3	円形	台形状	26	22	柱痕A	柱痕	12	6.48	16
P334	6H21	円形	台形状	23	22	柱痕A	柱痕	11	6.52	14
最大値	－	－	－	26	22	－	－	12	6.52	22
最小値	－	－	－	21	19	－	－	9	6.36	14
平均	－	－	－	23.83	21.33	－	－	11.17	6.46	16.83
大小/高低差	－	－	－	5	3	－	－	3	0.16	8
標準偏差	－	－	－	1.57	1.11	－	－	1.07	0.05	2.73
標準偏差(3σ)	－	－	－	4.72	3.32	－	－	3.20	0.16	8.20

遺構番号	位置	長さ(m)	間	梁行(m)	間	面積(㎡)	長軸方向		柱設置位置(A･B)	柱抜取痕
SA1	5E	3.06	－	－	－	－	N－108°－E		A	－
平面	柱間(m)	平面	柱間(m)							柱間寸法標準偏差(3σ)
P28-P27	1.66	P27-P29	1.4							－
柱穴名	グリッド	平面形	断面形	長径(cm)	短径(cm)	堆積形状	柱根遺存	柱痕長径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
P27	5E11	円形	台形状	23	21	－	－	－	6.4	21
P28	5E17	円形	箱状	22	22	－	－	－	6.34	20
P39	5E18	円形	台形状	22	19	柱B？	柱痕？	14	6.4	16
最大値	－	－	－	23	22	－	－	14	6.4	21
最小値	－	－	－	22	19	－	－	14	6.34	16
平均	－	－	－	22.33	20.67	－	－	14.00	6.38	19.00
大小/高低差	－	－	－	1	3	－	－	0	0.06	5
標準偏差	－	－	－	0.47	1.25	－	－	0.00	0.03	2.16
標準偏差(3σ)	－	－	－	1.41	3.74	－	－	0.00	0.08	6.48

溝･道状遺構

遺構番号	グリッド	長さ（m）	最長上幅（cm）	最短上幅（cm）	最長下幅（cm）	最短下幅（cm）	断面	長軸方向	傾斜高→低	出土遺物	切り合い
SD3	6D25、7D21、7E1	（3.28）	69	48	45	18	台形状	N-104°-E	北西→南東	1 層青磁	－
SD13	4D5、5D1・6・11	3.55	46	27	31	15	台形状	N-167°-E	南→北	－	－
SD101	5 ～ 7K、7 ～ 9L	（41.38）	278	119	136	30	階段状	N-104°-E	西→東	－	－
SD102	6 ～ 8M、8 ～ 9N	（39.92）	234	104	147	27	階段状	N-105°-E	東→西	－	－
SD108	8K1・2・6・7	2.88	84	67	76	57	台形状	N-108°-E	東→西	1 層珠洲焼	SE111 ＞
SD149	5J17・18・22・23	（2.71）	71	37	48	24	台形状	N-107°-E	西→東	－	－
SD202	2B6・7、11・12、16・17	（6.92）	201	61	161	21	台形状	N-17°-E N-107°-E	北→南 西→東	－	－
SD327	6H ～ J、7F ～ H	（48.45）	140	42	86	22	台形状 半円状	N-13°-E	南→北	1 層須恵器 2 層珠洲焼	SE304 ＞、 SD327 ＝
SD328	6F13 ～ 15・20、7F11・16・17 ～ 19・24	（11.26）	103	78	76	27	台形状	N-106°-E	西→東	6 層茶臼（146）	
SD329	6F8 ～ 10、14・15、7F11・12・13・17 ～ 19	（10.53）	63	44	42	21	台形状 弧状	N-106°-E	西→東	－	SE304 ＞、 SD327 ＝
SD377	8M15・20、9M16 ～ 18、21 ～ 23	（10.51）	144	75	87	35	台形状	N-109°-E	西→東	2 層珠洲焼（46） 朝鮮陶器（47） 瓷器系陶器・青磁・鉄滓	－
SD378	7M7 ～ 10、14・15、8M11・12	（7.58）	75	41	65	22	半円状弧状	N-104°-E	東→西	1 層青磁	－

井戸

遺構番号	断ち割り有無	グリッド	平面形	断面形	堆積形状	長径（cm）	短径（cm）	深さ（m）	底面標高（m）	切り合い
SE2	無	6D4・5	楕円形	台形状	レンズ状	124	98	1.3	5.28	
SE63	無	4G17・18・22	円形		（レンズ状）	222	188			
SE65	有	4G25/5G16・17・21・22・23/ 4H5・10/5H1・2・3・6・7	円形	台形状	水平レンズ	504	470	3.1	2.98	＞SE599
SE66	有	4G23/4H3	楕円形	U字状	レンズ状・斜位	（128）	（74）	1.88	4.4	
SE68	無	4H4・5・9・10	円形		水平レンズ	216	202			＜SK67
SE69	有	4H9・10・14・15	楕円形		レンズ状	154	114			
SE70	有	4H15/5H6	楕円形		レンズ状	212	154			＞ SE71
SE71	無	4H15/5H20	楕円形	（箱状）	水平レンズ	（190）	（112）	1.14	5.52	＜SE70
SE72	無	5H7・11・12・17	円形		水平レンズ	250	240			
SE74	無	4H19・20	円形		レンズ状	140	120			
SE75	無	5H19・24	楕円形		水平レンズ	160	124			
SE103	有	6K18・19	円形	U 字状	レンズ状	78	72	1.14	5.53	不明
SE104	有	8K16・21	円形	階段状	水平レンズ	80	78	1.2	5.4	
SE107	有	8K9・10・14・15	円形	箱状	水平	220	204	2	4.1	
SE109	有	8J20･25/9J16・21	円形		水平レンズ	（200）	188			
SE111	有	7K5・10/8K1・2	円形	台形状	レンズ状	102	94	1.3	5.4	
SE114	無	9L12・13・17・18・22・23	楕円形		水平レンズ	440	（3.32）			
SE124	有	6N18・23	円形	箱状	水平レンズ	178	（162）	1.4	5.3	
SE125	有	7N22/7O2	円形	（U 字状）	レンズ状	118	102	1.56	5.2	
SE126	無	6O15・20/7O11・16	円形		レンズ状	78	70			
SE127	有	6O25/7O21	円形	台形状	レンズ状・斜位	112	（102）	1.3	5.4	
SE128	有	7P6	円形	U字状	レンズ状	82	72	0.85	5.8	
SE129	有	7O23・24	円形		レンズ状	78	70			
SE130	有	7025/8021	円形		水平レンズ	90	88			
SE132	有	8N22・23/8O2・3	円形	箱状	レンズ状・斜位	112	98	1.38	5.28	
SE148	無	8O6	円形		レンズ状	112	98			
SE152	無	8I8・13	円形			（204）	172			
SE153	無	6I14・15・19・20	円形		レンズ状	222	214			
SE154	有	7H17・18・22・23	円形	階段状	水平	250	228	2.24	4.24	
SE155	有	7H11・12・16・17	円形		レンズ状	182	166	2.1	4.6	
SE156	有	7I10・15	円形	U字状	水平レンズ	160	142	2.48	4.32	
SE157	有	7H20・25/8H16・21	円形	階段状	レンズ状	250	250	1.7	5.0	
SE158	有	8H21・22/ 8I1・2	楕円形	漏斗状	水平レンズ	234	（138）	1.84	4.86	＜ SE159
SE159	無	8I1・2・6・7	楕円形		レンズ状	234	192			＞ SE158・SE196
SE167	無	6H14・15・20	円形		水平レンズ	220	184			
SE168	無	6H20・25/7H16・21・22	円形		水平レンズ	236	204			
SE169	無	6H19・20	円形	台形状	レンズ状	138	132	0.78	5.88	
SE170	無	7I6・7・11・12	円形		レンズ状	292	292			＜ P282・＞ P188
SE190	無	6I4・5・9・10	円形		レンズ状	104	96			
SE191	有	7I15・20	円形	袋状	水平レンズ	122	116	1.8	4.9	
SE194	無	7I16・17・21・22	円形		レンズ状	194	178			
SE195	有	6I5/7I1・6	円形	U字状	水平レンズ	164	152	2.46	4.18	＞ SE199
SE196	無	8I2・6・7	楕円形		水平	234	（160）			＜ SE159
SE197	無	8H7・12	楕円形		レンズ状	172	（130）			＞ SE198、調査区外に延びる
SE198	無	8H12	楕円形		レンズ状・斜位	（84）	（60）			＜ SE197、調査区外に延びる
SE199	有	7H21/7I1・2	楕円形	U字状	斜位	156	（124）	2.32	4.34	＜ SE195・P268
SE201	有	3D2・3・7・8	円形		レンズ状	236	218			
SE219	有	3F20・25/4F16・21	円形	階段状	レンズ状・斜位	276	262	2.92	3.66	
SE241	無	10S4・5・9・10	円形		レンズ状	232	212			
SE242	無	10R6・7・11・12	円形		レンズ状	292	254			
SE243	無	9R24・25/9S4・5	円形		レンズ状	190	184			
SE244	有	9R17・18・22・23	円形	箱状	レンズ状	240	226	1.69	5.01	
SE245	無	9R7・8・9・12・13・14	円形	階段状	レンズ状	（342）	290	1.78	4.9	＜ SE246
SE246	無	9R9・10・14・15	円形	箱状	レンズ状	204	188	1.32	5.36	＞ SE245・SK248
SE247	無	9R2・3・7・8	円形	階段状	レンズ状・斜位	154	152	1.38	5.31	
SE249	無	9Q16・21	円形		レンズ状	152	142			
SE250	無	9S9・10	円形	箱状	レンズ状・ブロック	130	116	1.36	5.36	
SE251	無	10Q2・7	円形	箱状	レンズ状	138	126	1.44	5.24	
SE252	無	9Q5・10/10Q1・6	円形	箱状	レンズ状	240	240	1.54	5.16	
SE253	無	9Q7・12	円形	箱状	レンズ状	98	92	1.28	5.32	
SE254	無	9Q1・2・6・7	円形		レンズ状	214	198			

井戸

遺構番号	断ち割り有無	グリッド	平面形	断面形	堆積形状	長径(cm)	短径(cm)	深さ(m)	底面標高(m)	切り合い
SE256	無	9P19・20・24・25	円形	台形状	レンズ状	198	174	1.12	5.44	
SE257	無	9P4・5	円形	箱状	レンズ状	96	92	1.2	5.4	
SE258	無	9P7・8	円形	箱状	水平レンズ	116	106	1.4	5.2	
SE259	無	8P18・19	円形	箱状	レンズ状	150	130	1.2	5.5	
SE260	無	9P16・17	円形	台形状	レンズ状	180	174	0.96	5.6	
SE261	無	8P5・10	円形	台形状	レンズ状	140	124	1.1	5.7	
SE262	有	8R15・19・20・24・25	円形		レンズ状	340	290			
SE263	有	8R25/8S5/9R21/9S1	円形	台形状	レンズ状	240	230	2.26	4.4	
SE264	有	7P19・20・24・25/8P16・21	円形	台形状	レンズ状	248	224	2.5	4.1	
SE265	無	7P22・23/7Q2・3	円形	箱状	レンズ状	186	180	0.54	6	
SE266	無	7P20	円形	台形状	レンズ状	80	76	0.74	5.9	
SE267	有	7P11・12・16・17	円形	U字状	レンズ状	184	170	1.6	5.06	
SE270	無	7J10・15/8J6・11	楕円形		レンズ状	214	(170)			
SE271	有	8J8・9	円形	台形状	レンズ状	122	110	1.16	5.52	＜P600
SE272	有	8J2	円形	箱状	水平	94	84	1.8	4.88	
SE273	無	8I13・18	円形	階段状	レンズ状	162	144	1.3	5.12	
SE275	無	6K5・10/7K1・6	楕円形		水平レンズ	268	206			
SE276	無	6I17・18・22・23	楕円形		レンズ状	130	102			
SE277	有	6J10・15/7J6	円形	箱状	水平レンズ	88	82	0.72	5.98	
SE279	有	5J15/6J16・21	円形	階段状	レンズ状	200	182	2	4.6	
SE288	有	6J12・17	円形	階段状	レンズ状	234	198	1.8	4.85	＜P293
SE295	有	5I12・17・18	円形	箱状	水平レンズ	128	126	1.78	4.88	
SE301	無	6G1・6	円形		水平レンズ	174	158			
SE302	有	7F21・22/7G1・2	円形	U字状	レンズ状	184	166	2.14	4.52	＞SE303
SE303	有	7F16・17・21・22/7G1・2	円形		レンズ状	294	290			＜SE302
SE304	有	7F13・14・18・19	円形	階段状	水平・レンズ状	276	252	2.2	4.34	
SE305	有	7G7・8・9・13	円形	U字状	水平	266	232	2.5	4.18	＞SE307
SE306	無	7G9・10・14	円形		レンズ状・斜位・水平	162	156			＞SE307
SE307	有	7G3・8・12・13	楕円形	U字状	レンズ状	200	(142)	1.9	4.76	＜SE305・SE306
SE315	有	7G17・18	円形	U字状	レンズ状	98	92	1.16	5.5	
SE317	無	7G21・22	円形		レンズ状・斜位	160	148			
SE318	有	7G22・23	円形	袋状	水平レンズ	192	162	1.86	4.94	
SE320	無	8G21・22/8H1・2	円形		レンズ状	212	200			
SE321	無	7H10・15/8H6・7	円形		水平レンズ	234	196			
SE580	無	8Q2・3・5・6	円形	台形状	レンズ状	180	162	1.14	5.46	
SE599	有	5H2・7	(楕円形)	－	レンズ状	(94)	(58)	1.3	5.3	＜SE65

土坑

遺構番号	グリッド	平面形	断面形	堆積形状	長径(cm)	短径(m)	深さ(cm)	出土遺物	切り合い	備考
SK1	6D10・15/7 D 6・11	楕円形	台形状	レンズ状	(148)	(56)	58			
SK14	5D1・6	楕円形	弧状	水平	138	106	9			
SK60	4G8	楕円形	弧状	レンズ状	70	48	7			
SK61	4G9・10・14・15	楕円形	台形状	レンズ状	126	98	47	8 礫		試-6・8
SK62	4G22・23	円形	台形状	レンズ状	96	88	13			試-1
SK67	4H4	楕円形	台形状	レンズ状	84	60	14		＞SE68	
SK73	5H13・18	円形	台形状	水平	104	98	16			
SK105	5H13・18	楕円形	階段状	レンズ状	150	122	38			
SK106	8K12・13・17・18	楕円形	台形状	レンズ状	94	76	11			
SK110	8K19・24	円形	弧状	レンズ状	88	76	14			
SK112	8K2	円形	箱状	レンズ状	90	84	34			
SK131	8O9	円形	箱状	水平	68	64	47		＜P142	
SK133	8O16・17	楕円形	箱状	水平レンズ	148	108	55	鉄滓		
SK134	9O9・10・14・15	円形	台形状	レンズ状	162	150	66			
SK135	9N18	円形	台形状	水平	114	114	12			
SK136	8N8・9	楕円形	台形状	レンズ状	120	88	24			
SK193	7I19・24	円形	弧状	単層	92	84	39		＜P192	
SK217	4E12	楕円形	台形状	単層	86	56	14			
SK218	3E23・24/3F-3・4	円形	台形状	斜位	146	138	52	3 鉄滓、6 青磁(117)		
SK220	4F18・23	楕円形	台形状	レンズ状	120	100	30			
SK221	4D21	楕円形	弧状	単層	118	92	8			
SK248	9R14	円形	箱状	レンズ状	124	112	48		＜SE246	
SK274	6K2・3	円形	弧状	レンズ状	108	106	16			
SK292	5H25/6H21/5I5/6I1	円形	台形状	レンズ状	76	72	42		＜P289	

土器・陶磁器1

※胎土：石=石英、白=白色粒子、長=長石、雲=雲母、骨=海綿骨針、礫=砂礫、黒=黒色粒子、赤=赤色粒子

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	器種	遺存部位	法量			色調	胎土	成形・調整	備考
							口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）				
1	SD101	1	7K16	珠洲焼	壺	口縁～頸部	9.2	（3.8）	－	外：灰（N4/） 内：灰白（5Y6/1）	骨・白・礫	－	
2	SD101	4	6K12	珠洲焼	壺	肩～体部	－	（7.2）	－	外：灰（7.5Y5/1） 内：灰白（5Y6/1）	骨・白・礫	－	
3	SD101	2	8K21	珠洲焼	甕	胴部	－	－	－	外：灰（7.5Y5/1） 内：灰白（N7/）	骨・長・白・礫	外：平行叩き 内：無文あて具	
4	SD101	2	9L1	珠洲焼	片口鉢	口縁	－	（4.7）	－	外：灰白（2.5Y8/1） 内：にぶい黄橙（10YR7/2）	骨・白・礫	ロクロナデ	
5	SD101	2	9L7	珠洲焼	片口鉢	体部～底部	－	（5.2）	15.0	外内：灰（7.5Y5/1）	長・白・礫	ロクロナデ 底外：静止糸切り 体部内外：タール状の付着物 体外：指抜き痕	
6	SD101	3	8L4	珠洲焼	片口鉢	体部～底部	－	（6.3）	16.0	外体：灰（7.5Y5/1） 内・底部外面：灰白（5Y6/1）	骨・雲・白・礫	ロクロナデ 卸目 底外：切り離し後ナデ	体内：タール状の付着物
7	SD101	3	6K20	瓦器	円形浅鉢	体部～底部	－	（4.1）	10.6	外内：灰白（5Y8/1）	石・長・白	体外：ミガキ、底内外：ナデ体外：丸形紋	香炉
8	SD101	1	7K16/8M22	越前焼	擂鉢	口縁～体部	39.0	（12.3）	－	外：褐灰（7.5YR6/1・7.5YR5/1） 内：褐灰（10YR5/1）	石・白・黒・礫	ロクロナデ 卸目：10条1単位	体内：タール状の付着物
9	SD101	1	7M18	越前焼	擂鉢	口縁～体部	41.0	（5.3）	－	外：灰褐（7.5YR6/2） 内：明褐灰（7.5YR7/2）	白・黒・礫	ロクロナデ 卸目：10条1単位	口～体内：タール状の付着物
10	SD101	1	6K13	越前焼	擂鉢	口縁～体部	30.8	（4.7）	－	外：灰褐（7.5YR6/2） 内：灰白（10YR7/1）	長・白・黒・礫	ロクロナデ 卸目：8条1単位	
11	SD101	1	7K17	越前焼	擂鉢	口縁～体部	30.6	（2.8）	－	外：褐灰（10YR6/1） 内：褐灰（7.5YR6/1）	雲・長・白・礫	ロクロナデ 卸目	
12	SD101	1a	8N2	越前焼	擂鉢	口縁～体部	－	（7.1）	－	外内：褐灰（7.5YR6/1）	石・長・白・黒・礫	ロクロナデ 卸目：10条1単位	
13	SD101	1	7K24	越前焼	擂鉢	体部～底部	－	（6.9）	17.8	外：浅黄（2.5Y7/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/2）	長・白・黒・赤	12条1単位の卸目 ロクロ回転方向：左	
14	SD101	1	6K20	瀬戸美濃焼	折縁深皿	口縁～体部	28.8	（3.5）	－	外内：オリーブ（5Y5/4）	白・黒	口～体外：釉白濁	
15	SD101	1	8K22	瀬戸美濃焼	折縁深皿	口縁～体部	－	（3.2）	－	外内：オリーブ黄（7.5Y6/3）	白・黒	口～体外：釉白濁	
16	SD101	1	7K23	青磁	直口椀	口縁～体部	12.4	（2.6）	－	外内：オリーブ灰（10Y4/2）	黒	口外：横位の線描文	
17	SD101	4	7K25	青磁	直口椀	口縁～体部	14.2	（5.0）	－	外内：明緑灰（10GY8/1）	白・黒	連弁文	
18	SD101	2	8L4	青磁	椀	底部～高台部	－	（2.2）	5.8	外：オリーブ黄（5Y6/3） 内：灰オリーブ（5Y5/3）	黒・礫	底外：露胎 見込み：菊花文	
19	SD101	埋土	9L8	青磁	椀	体部～底部	－	（3.7）	5.2	外内：灰オリーブ（7.5Y5/2）	黒・礫	底外：露胎 見込み：圏線・草花文	
20	SD101	1	9L1	青磁	椀	体部～底部	－	（3.3）	7.0	外内：オリーブ灰（10Y5/2）	黒	底外：露胎	
21	SD101	2	6K6	青磁	椀	体部～底部	－	（3.1）	5.6	外内：明オリーブ灰（5GY7/1）	白・黒	全面：釉	
22	SD101	1	7K16	青磁	椀	底部	－	（3.1）	6.0	外内：オリーブ灰（10Y5/2）	黒	底外：露胎	
23	SD101	2	6K20	青磁	椀	体部～底部	－	（1.4）	4.6	外内：オリーブ灰（2.5GY6/1）	白・黒・礫	畳付～底外：露胎	
24	SD101	2	6K11	青花	端反皿	底部	－	（1.2）	5.0	外内：灰白（7.5Y8/1）	白・黒	見込み：十字花文	
25	SD101	1	5K10	朝鮮陶器（雑釉）	皿	底部	－	（2.2）	4.5	外内：灰（7.5Y6/1）	白・黒	全面：釉 見込み・畳付：砂目跡4か所	
26	SD102	2	7M25	珠洲焼	片口鉢	口縁	31.8	（3.9）	－	外内：灰（N4/）	骨・白・礫	ロクロナデ 櫛目波状文	
27	SD102	1a	7M16	珠洲焼	甕	胴部	－	（3.8）	11.6	外：灰（5Y6/1） 内：灰（5Y4/1）	骨・白・礫	胴外：平行叩き 底体：砂底	内面：タール状の付着物
28	SD102	1b	8N5	瓦器	風炉	口縁部	35.8	（2.1）	－	外：灰白（10YR8/2） 内：灰白（10YR8/2）、 にぶい橙（7.5YR7/4）	石・長・礫	頸部：×入重画紋	
29	SD102	1b	6M14	瓦器	風炉	口縁～肩部	26.3	（5.9）	－	外内：灰白（10YR8/1）	石・長・礫	頸部・肩部：透孔	
30	SD102	埋土	6M14	瓦器	円形深鉢	体部	－	－	－	外内：黒褐（2.5Y3/1）	石・長・礫	体部：凸帯	
31	SD102	1a	7M18	瀬戸美濃焼	折縁深皿	口縁～体部	24.0	（4.1）	－	外内：灰白（5Y8/2）	黒	内外：釉白濁	
32	SD102	1b	6M14	瀬戸美濃焼	折縁深皿	底～高台部	－	（2.5）	－	外内：浅黄（2.5Y7/4）	黒	貼り付け高台 ロクロ回転方向：左	二次焼成を受ける

土器・陶磁器2

※胎土：石=石英、白=白色粒子、長=長石、雲=雲母、骨=海綿骨針、礫=砂礫、黒=黒色粒子、赤=赤色粒子

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	器種	遺存部位	法量			色調	胎土	成形・調整	備考
							口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）				
33	SD102	1b	7M23	瀬戸美濃焼	天目	口縁～体部	10.9	（3.5）	－	外内：暗赤褐（2.5YR3/2）	黒	－	
34	SD102	2a	7M16	青磁	端反椀	口縁～体部	14.4	（4.2）	－	外内：オリーブ灰（10Y6/2）	黒	体内：ヘラ描き	
35	SD102	2a	8M22	青磁	椀	体部～底部	－	（3.1）	6.5	外内：オリーブ灰（2.5GY6/1）	白・黒	全面：釉 体外：連弁文 見込み：圏線・草花文	
36	SD102	4	8M23	青磁	椀	体部～底部	－	（5.0）	6.4	外：灰白（10Y7/1） 内：灰オリーブ（7.5Y6/2）	白・黒	底外：露胎	釉白濁
37	SD102	2a	6M14	青磁	椀	体部～底部	－	（3.6）	5.6	外内：オリーブ灰（10Y6/2）	黒	畳付～底外：露胎	
38	SD102	1b	6M19	青磁	椀	体部～底部	－	（3.6）	5.6	外内：灰オリーブ（7.5Y6/2）	白・黒	畳付～底外：露胎 見込み：草花文	
39	SD102	1b	6M14	青磁	椀	体部～底部	－	（2.0）	5.0	外内：オリーブ灰（10Y6/2）	白・黒	畳付～底外：露胎 見込み：草花文	
40	SD102	埋土	6M14	青磁	直口椀	体部	－	－	－	外内：オリーブ灰（10Y6/2）	白・黒	体外：連弁文	
41	SD102	1b	7M24	青磁	腰折稜花皿	口縁～底部	16.0	（2.3）	－	外内：灰オリーブ（5Y5/3）	黒	－	
42	SD102	1b	7M18	青磁	直口皿	口縁～体部	10.4	（2.6）	－	外内：オリーブ灰（10Y6/2）	白・黒	－	
43	SD102	2a	8N22	青白磁	皿	底部	－	（1.7）	5.8	外内：灰白（7.5Y7/2）	黒	見込み：輪剥ぎ 底部～畳付：露胎	
44	SD102	埋土	7M16	白磁	多角杯	体～底部	－	（1.9）	－	外内：灰白（7.5Y8/1）	黒	体外下位：露胎	
45	SD102	3	8M21	朝鮮陶器（雑釉）	皿	完形	11.8	3.3	4.5	外：灰（7.5Y4/1） 内：灰（7.5Y5/1）	白・黒	全面：釉 見込み・畳付：砂目跡4か所	
46	SD377	2	9M24	珠洲焼	片口鉢	体部	－	－	－	外内：灰白（5Y6/1）	骨・白・礫	ロクロナデ卸目	
47	SD377	2	9M23	朝鮮陶器（粉青）	皿	体～底部	－	（2.1）	4.4	外内：灰白（5Y8/1）	白・黒・赤	全面：釉 底部：右回転ヘラ切り	
48	SE63	4	4G22	瓦器	円形深鉢	体部	－	（7.0）	－	外：黄灰（2.5Y4/1） 内：黒褐（2.5Y3/1）	石・長・礫	体部：凸帯	
49	SE63	4	4G22	白磁	皿	体～底部	－	（1.8）	2.3	外内：灰白（7.5Y8/1）	黒	見込み：目跡2か所遺存	畳付：重ね焼き痕 底外：スス
50	SE65	25	5G16	珠洲焼	片口鉢	体部～底部	－	（7.1）	15.8	外内体：灰（7.5Y6/1） 外内底：灰白（7.5Y7/1）	長・白・赤・礫	ロクロナデ 底外：静止糸切り	体外：指抜き痕
51	SE65	22	5H1	青磁	椀	体部～底部	－	（2.7）	5.0	外内：オリーブ灰（2.5GY6/1）	白・黒	底外：露胎 見込み：草花文	
52	SE65	22	5G21	青磁	腰折稜花皿	口縁～底部	13.0	（1.8）	－	外内：オリーブ灰（5GY6/1）	白・黒・礫	－	
53	SE65	10	5H1	朝鮮陶器（雑釉）	皿	体～底部	－	（1.5）	4.0	外：灰オリーブ（7.5Y4/2） 内：灰（7.5Y4/1）	白・黒	全面：釉 畳付：砂目 底部：右回転ヘラ切り	
54	SE65	22	5H1	青花	端反椀	口縁～体部	15.8	（4.8）	－	外内：灰白（2.5GY8/1）	黒	口内外：雷文帯 体外：人物画	
55	SE66	埋土	4G23	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	－	（5.8）	－	外：灰（N4/） 内：灰白（5Y6/1）	骨・長・雲・白・礫	ロクロナデ 櫛目波状文 卸目	体外：紐痕1条
56	SE68	6	4H10	中世土師器	皿	口縁～体部	5.0	（1.6 ）	－	外内：にぶい黄橙（10YR7/4）	礫	ロクロ成形	灯明皿、口内外：タール
57	SE70	1	4H15	瀬戸美濃焼	皿	口縁～底部	10.4	2.2	4.6	外内：オリーブ黄（7.5Y6/3）	黒	刷毛掛け 底外：左回転糸切り	
58	SE72	15	5H12	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	－	（5.9）	－	外：灰（7.5Y5/1） 内：灰（5Y5/1）	骨・白・礫	ロクロナデ 櫛目波状文 卸目	体外：紐痕2条
59	SE72	8	5H12	青磁	直口椀	口縁～体部	16.4	（3.5）	－	外内：オリーブ灰（10Y5/2）	白・黒	連弁文	
60	SE107	3	8K15	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	36.0	（3.9）	－	外内：灰（N5/）	骨・白・礫	ロクロナデ	
61	SE111	1	7K10	珠洲焼	壺	体部	－	（6.1）	－	外内：灰白（5Y6/1）	骨・雲・白・礫	－	
62	SE114	2	9L18	珠洲焼	甕	胴部	－	－	－	外：灰白（7.5Y7/1） 内：灰（7.5Y6/1）	骨・白・黒・赤・礫	外：平行叩き 内：無文あて具	
63	SE125	埋土	7N22	珠洲焼	壺	体部	－	（5.2）	－	外：灰（N4/）内：灰（7.5Y5/1）	長・白・黒・礫	－	内：タール状の付着物
64	SE148	4	8O6	珠洲焼	壺	肩部	－	（3.9）	－	外内：灰（7.5Y5/1）	長・白・礫	－	
65	SE152	5	8I13	越前焼	擂鉢	口縁～体部	－	（7.8）	－	外：褐灰（5YR4/1）、灰褐（5YR4/2） 内：にぶい赤褐（5YR4/3）	長・白・礫	ロクロナデ卸目	

土器・陶磁器3

※胎土：石=石英、白=白色粒子、長=長石、雲=雲母、骨=海綿骨針、礫=砂礫、黒=黒色粒子、赤=赤色粒子

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	器種	遺存部位	法量			色調	胎土	成形・調整	備考
							口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）				
66	SE155	5	7H17	青磁	直口椀	口縁～体部	13.3	(3.6)	－	外内：オリーブ灰（10Y5/2）	白・黒	体外：雷文帯	
67	SE157	1	8H16	朝鮮陶器（雑釉）	皿	口縁～底部	(11.8)	(2.1)	(7.2)	外内：灰（7.5Y5/1）	白	全面：釉 畳付：砂目	
68	SE170	4	7I6	珠洲焼	壺R種	肩部	－	(3.6)	－	外：暗灰（N3/）、 灰赤（2.5Y5/2）内：暗灰（N3/）	長・白・礫	－	内：不明の付着物
69	SE170	1	7I7	瓦器	鉢	体～底部	－	(6.7)	15.5	外：にぶい赤褐（5YR5/4）、 明褐灰（7.5YR7/1） にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい赤褐（2.5YR5/4）、 にぶい橙（7.5YR7/4）	骨・長・白・黒・礫	底部：静止糸切り	体外：指頭痕2か所
70	SE170	4	7I7	瀬戸美濃焼	折縁深皿	体部	－	－	－	外内：灰オリーブ（5Y5/3）	白・黒	漬掛け	体内下位：自然釉
71	SE170	6	7I12	青磁	端反椀	口縁～底部	14.8	6.9	5.9	外内：オリーブ灰（10Y6/2）	黒	底外：露胎	
72	SE170	3	7I7	青磁	端反椀	口縁～体部	16.4	(3.7)	－	外内：灰オリーブ（7.5Y6/2）	白・黒	－	
73	SE196	3・4	8I7	越前焼	擂鉢	口縁	－	(4.2)	－	外：褐灰（5YR4/1）・灰褐（5YR4/2）	長・白・礫	ロクロナデ 卸目	
74	SE197	5	8H7	瓦器	円形深鉢	底部	－	(1.1)	(9.4)	外：黄灰（2.5Y5/1） 内：黄灰（2.5Y5/1）、黒褐（2.5Y3/1）	石・長・赤・礫	－	
75	SE241	5	10S5	白磁	端反皿	口縁～底部	12.0	(2.1)	－	外内：灰白（7.5Y8/1）	黒	見込み：圏線	
76	SE242	1	10R6	瀬戸美濃焼	折縁深皿	体～高台部	－	(2.0)	15.0	外内：灰白（N8/）	黒	漬掛けヵ 体外下位：ヘラケズリ 底外：切り離し後ナデ 貼り付け高台 ロクロ回転方向：左	
77	SE245	埋土	9R8	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	28.6	(4.5)	－	外：灰（7.5Y6/1） 内：灰（N6/）	骨・白・礫	ロクロナデ 卸目：9条1単位ヵ	
78	SE245	1	9R13	瀬戸美濃焼	天目	口縁～体部	11.8	(3.8)	－	外内：暗赤褐（2.5YR3/2）	黒	－	
79	SE247	3	9R3	珠洲焼	壺T種	肩～体部	－	－	－	外：暗灰（N3/） 内：灰（N4/）	骨・白・黒・礫	体外：平行叩き	縦位の紐痕
80	SE249	1	9Q21	青磁	椀	底部	－	(2.3)	5.8	外内：灰オリーブ（7.5Y5/2）	白・黒	底外：露胎 見込み：圏線・草花文	
81	SE249	1	9Q21	白磁	小皿	完形	2.4	2.4	4.0	外内：灰白（7.5Y8/1）、灰白（5Y7/1）	黒	底内外：釉剥ぎ 口禿げ灯明皿、露胎部：スス 見込み：目跡4か所	
82	SE251	8	10Q2	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	－	(6.8)	－	外内：灰（N4/）	骨・長・白・礫	ロクロナデ 櫛目波状文 卸目	体外：紐痕1条
83	SE254	7	9Q6	青白磁	皿	底部	－	(1.7)	5.1	外内：灰（10Y6/1）	黒	見込み：輪剥ぎ 外：露胎	
84	SE256	10	9P20	白磁	小皿	口縁～体部	9.2	(1.6)	－	外内：灰（5Y5/1）	黒	－	灯明皿ヵ
85	SE259	1	8P18	青磁	椀	体部～底部	－	(2.6)	6.0	外内：灰オリーブ（7.5Y5/2）	黒	見込み：草花文	
86	SE261	3	8P5	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	－	(4.8)	－	外：灰白（5Y6/1）内：灰（7.5Y5/1）	骨・長・雲・白・礫	ロクロナデ 櫛目波状文 卸目	体外：紐痕1条 体内：タール状の付着物
87	SE261	4	8P5	瓷器系陶器	甕	底部	－	(3.1)	－	内外：灰（N5/）	長・白・礫	外：平行叩き 底部：静止糸切り	
88	SE261	4	8P5	越前焼	擂鉢	口縁～体部	38.0	(3.6)	－	外：にぶい黄橙（10YR7/4）、 褐灰（10YR6/1） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）、 浅黄（2.5Y7/4）	白・黒・礫	ロクロナデ	口外：タール状の付着物
89	SE262	6	8R25	珠洲焼	甕	胴部～底部	－	(4.1)	－	外：灰（N4/）内：灰白（5Y6/1）	骨・長・白・礫	外：平行叩き 底外：砂底	
90	SE262	3	8R20	珠洲焼	片口鉢	体部～底部	－	(9.8)	16.4	外体・内：灰（N4/） 外底：灰白（5Y6/1）	骨・長・白・礫	ロクロナデ 卸目 底外：切り離し後ナデ	
91	SE262	4	8R25	珠洲焼	片口鉢	体部	－	－	－	外内：灰（7.5Y6/1）	骨・白・礫	ロクロナデ 卸目：6条1単位	体内外：タール状の付着物

土器・陶磁器４

※胎土：石=石英、白=白色粒子、長=長石、雲=雲母、骨=海綿骨針、礫=砂礫、黒=黒色粒子、赤=赤色粒子

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	器種	遺存部位	法量			色調	胎土	成形・調整	備考
							口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）				
92	SE262	3	8R20	瓦器	擂鉢	体部	－	－	－	外：暗灰（N3/） 内：淡黄（2.5Y8/3）	石・白・黒・礫	卸目	内面：タール状の付着物
93	SE262	5	8R25	青磁	直口椀	口縁～体部	16.2	（4.7）	－	外内：オリーブ灰（10Y5/2）	白・黒	体外：雷文	
94	SE262	5	8R25	青磁	直口椀	口縁～体部	16.0	（4.7）	－	外内：オリーブ灰（10Y6/2）	白・黒	体内外：横位の線描	
95	SE262	3	8R20	青磁	腰折稜花皿	口縁～底部	12.4	（2.1）	－	外内：灰オリーブ（7.5Y5/2）	黒	口内：波状の線描文 体内：横位の線描	
96	SE262	5	8R20	青磁	腰折稜花皿	口縁～底部	13.2	（2.1）	－	外内：オリーブ灰（5GY6/1）	白・黒	口内：波状の線描	
97	SE262	3	8R20	朝鮮陶器（雑釉）	皿	体～底部	－	（1.7）	4.8	外内：灰（7.5Y5/1）、 灰褐（7.5YR5/2）	白・黒	ロクロの回転方向：右 全面：釉 見込み・畳付：砂目跡4か所	
98	SE264	7	7P25	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	－	（7.5）	－	外内：灰（5Y6/1）	骨・白・礫	ロクロナデ 卸目	
99	SE264	7	7P25	瀬戸美濃焼	天目台	高台部	－	（2.4）	5.1	外内：赤黒（2.5YR2/1）	黒	高台内外：露胎	
100	SE246/ SE263	9/3	9R9/8R20	越前焼	甕	頸～胴部	－	（13.9）	－	外：暗赤褐（5YR3/2） 内：にぶい赤褐（5YR4/4）	石・白・黒	ロクロナデ	肩外・頸内：自然釉
101	SE270	2	8J6	瀬戸美濃焼	天目	口縁～底部	12.0	（4.8）	－	外内：黒（10YR2/1）	黒	体下位～高台部外：露胎	
102	SE270	埋土	7J10・8J6	青磁	端反皿	口縁～底部	13.0	（2.4）	－	外内：オリーブ灰（10Y6/2）	白・黒	－	
103	SE271	1	8J9	青白磁	皿	体～底部	－	（2.0）	5.4	外内：灰（7.5Y5/1）	黒	見込み：輪剥ぎ 体下位～底外：露胎	露胎部：ス ス 灯明皿ヵ
104	SE273/ SE70	7～ 11/16	8I13・ 18/5H11	珠洲焼	片口鉢	口縁～底部	42.0	16.7	13.0	外口：暗灰（N3/） 外底：灰（N5/） 外体・内口縁～底部：灰（N5/）、 橙（5YR6/6）、 にぶい赤褐（5YR5/4）	骨・白・赤・礫	ロクロナデ 口：櫛目波状文 卸目 体外：指抜き痕 底外：切り離し後ナデ	二次焼成を受ける
105	SE273	11	8I13	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	－	（4.7）	－	外：灰（7.5Y5/1） 内：灰（5Y5/1）	骨・白・黒・礫	ロクロナデ 卸目	
106	SE302	5	7G2	瓷器系陶器	甕	胴部	－		－	外：灰（N5/） 内：灰（N6/）	長・白・礫	－	体外：焼成時の融着痕
107	SE302	5	7G2	瓦器	擂鉢	口縁～体部	35.4	（11.4）	－	外内：暗灰（N3/）	石・骨・白・赤・礫	ロクロナデ 卸目：7条1単位	
108	SE303	3	7F21	瀬戸美濃焼	折縁深皿	口縁～体部	31.0	（8.7）	－	内外：オリーブ黄（5Y7/3）	黒	漬掛け 体内下位：自然釉 ロクロ回転方向：左	断面：漆継ぎ 二次焼成を受ける
109	SE599	1	5H2	瀬戸美濃焼	折縁深皿	体～底部	－	（1.9）	14.6	外内：灰白（5Y7/1）	黒	体外下位：ヘラケズリ 底外：切り離し後ナデ	
110	SE599	2	5H7	瓦器	把手付片口鍋ヵ	片口部ヵ	－	（2.5）	－	外内：褐灰（10YR4/1）、 にぶい黄橙（10YR7/4）	石・白・礫	内外：ミガキ	断面：アスファルト継ぎヵ
111	SE599	2	5H2・7	白磁	小皿	口縁～底部	9.8	2.8	3.5	外内：灰白（7.5Y8/2）、 灰（5Y6/1）	黒	見込み・体下位～底外：露胎 見込み：目跡4か所	灯明皿、露胎部ス ス
112	SK105	3	8K17	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	32.0	（3.2）	－	外内：灰白（5Y6/1）	骨・白・礫	ロクロナデ 卸目	
113	SE130	4	7O25	青磁	端反椀	口縁～体部	14.6	（3.8）	－	外内：灰（10Y6/1）	黒・礫	－	
114	SE130	4	7O25	青磁	端反椀	口縁～体部	14.3	（4.3）	－	外内：灰（10Y6/1）	白・黒	－	
115	SE132	7	8N23	珠洲焼	片口鉢	口縁～底部	29.6	11.8	12.8	外：灰（N4/） 内：灰（N5/）	骨・白・礫	ロクロナデ 卸目：11条1単位 口内外：粘土貼り付け 底外：静止糸切り後ナデヵ	体外：紐痕1条 指抜き痕
116	SK134	1	9O10	瀬戸美濃焼	腰折皿	口縁～体部	9.8	（1.2）	－	外内：オリーブ黄（7.5Y6/3）	黒	体内～口外：刷毛掛け	
117	SK218	6	3E24	青磁	直口椀	口縁～体部	11.1	（5.0）	－	外内：灰オリーブ（5Y5/2）	黒	－	
118	SE257	6	9P5	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	38.2	（6.7）	－	外内：黄褐（2.5Y5/3）	骨・長・白・礫	ロクロナデ 口：櫛目波状文 卸目：8条1単位ヵ	体外：紐痕2条
119	SE257	1	9P4	白磁	端反皿	完形	13.0	3.1	4.8	外内：灰白（7.5Y8/2）	黒	見込み：輪剥ぎ 底外：ヘラナデ	
120	SE257	6	9P4	白磁	端反皿	口縁～底部	12.8	3.1	4.4	外内：灰白（7.5Y8/2）	黒	見込み：輪剥ぎ 底外：ヘラナデ	

土器・陶磁器5

※胎土：石=石英、白=白色粒子、長=長石、雲=雲母、骨=海綿骨針、礫=砂礫、黒=黒色粒子、赤=赤色粒子

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	器種	遺存部位	法量			色調	胎土	成形・調整	備考
							口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）				
121	SE257	1	9P4	白磁	端反皿	口縁～底部	13.0	3.5	5.0	外内：灰白（7.5Y8/1）	黒	見込み：輪剥ぎ 片半：釉白濁	
122	SB3-P228	3	4E9	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	－	（5.3）	－	外：灰（N4/） 内：灰（5Y5/1）	骨・白・礫	ロクロナデ 櫛目波状文 卸目 体外：紐痕1条	
123	P255	1	9O25	中世土師器	皿	ほぼ完形	7.2	1.6	4.0	外内：黄灰（2.5Y6/1）	雲・白・礫	ロクロ成形 底外：右回転糸切り	
124	P364	2	6I17	珠洲焼	壺T種	口縁～肩部	18.6	（7.4）	－	外：灰（N4/） 内口：灰白（5Y6/1）、 肩：灰（N4/）	骨・白・礫	肩外：平行叩き	肩内外：タール状の付着物
125	－	I	7P	珠洲焼	甕	口縁部	－	（8.1）	－	外体・口：オリーブ黒（5/1） 内：灰白（5Y6/1）	白・長・礫	ロクロナデ 外：平行叩き 口～肩部：自然釉	
126	－	I	4B	珠洲焼	片口鉢	口縁～体部	－	（8.5）	－	外：灰（7.5Y5/1） 内：灰白（5Y6/1）	骨・白・礫	ロクロナデ 櫛目波状文 卸目	
127	－	I	9N9	珠洲焼	片口鉢	体部～底部	－	（6.9）	16.4	外内：灰（7.5Y5/1）	骨・白・赤・礫	ロクロナデ 卸目 指抜き痕	
128	－	I	7O3	越前焼	擂鉢	口縁～体部	33.2	7.1	－	外：にぶい赤褐（5YR5/4） 内：褐灰（10YR6/1）、 にぶい黄橙（10YR7/4）	石・白・赤・礫	ロクロナデ 卸目：5条1単位、3条1単位	
129	－	I	7M23	朝鮮陶器 （粉青）	皿	口縁～底部	（9.7）	2.8	4.0	外内：灰白（7.5Y7/1）、 赤褐（5YR4/6）	白・黒	全面：釉 見込み：砂目3か所 底部：右回転ヘラ切り	
130	－	I	6I	瓦器	燭台ヵ	体部 （脚部ヵ）	－	（3.9）	－	外内：にぶい橙（5YR7/4）、 灰白（10YR8/2）	石・長・礫	丸形紋・爪形スタンプ	
131	－	I	8K	瀬戸美濃焼	皿	体～底部	－	（0.9）	4.6	内：オリーブ黄（7.5YR6/3）	白・黒	体外：しっぴき痕 底外：左回転糸切り	
132	－	I	6I	瀬戸美濃焼	卸皿	体部	－	（2.0）	－	外：オリーブ黄（7.5YR6/3）	黒	体内：卸目3条遺存	
133	－	I	7P	瀬戸美濃焼	天目	体～高台部	－	（3.2）	4.3	外内：黒褐（10YR3/1）	白・黒	体下位～高台部外：露胎	
134	－	I	6I	青白磁	端反皿	口縁～底部	11.7	2.7	4.8	外内：灰オリーブ（7.5Y6/2）	黒	見込み：輪剥ぎ 底部～畳付：露胎	
135	－	I	6M	朝鮮陶器 （雑釉）	皿	口縁～底部	14.2	2.6	8.8	外：灰オリーブ（7.5Y6/2） 内：灰（7.5Y5/1）	白・黒	全面：釉 畳付：砂目	
136	－	I	4H	青花	端反皿	底部	－	（2.0）	21.4	外内：灰白（N8/）	黒	内面：二重平行線 外面：二重平行線 見込み：唐草文	
137	SD101	2	6K12	珠洲焼	甕	胴部	－	－	－	外：灰（N4/） 内：灰白（5Y6/1）	骨・白・赤・礫	外：平行叩き	研磨具転用
138	SE261	2	8P5	珠洲焼	甕	胴部	－	－	－	外：灰（7.5Y5/1） 内：灰白（5Y6/1）	骨・石・白・礫	外：平行叩き 内：無文あて具	研磨具転用
139	SE261	2	8P5	珠洲焼	甕	胴部	－	－	－	外：灰（N4/） 内：灰（7.5Y5/1）	骨・石・白・礫	外：平行叩き	研磨具転用
140	SE315	5	7G18	珠洲焼	甕	胴部	－	－	－	外：灰（N4/） 内：灰（7.5Y5/1）	骨・白・礫	外：平行叩き 内：無文あて具	研磨具転用
141	SD101	1	7K25	白磁	皿	底部	－	（1.6）	4.2	外内：灰白（5Y8/2）	黒・赤	底外～畳付：露胎	研磨具転用
142	SD101	3	6K20	白磁	皿	底部	－	（1.3）	4.3	内：灰白（5Y7/1）	白・黒	高台～底外：露胎	研磨具転用
143	SD101	1	7K16	白磁	皿	底部	－	（1.0）	3.6	外内：灰白（5Y8/1）	黒	高台～底外：露胎	研磨具転用
144	SD102	埋土	9N1	白磁	皿	底部	－	（1.1）	3.8	外内：灰白（5Y8/1）	白・黒	高台～底外：露胎	研磨具転用

石製品

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	石材	計測値（cm、g）			質量	備考
						長さ	幅	高さ・厚さ		
145	SD101	2	8L4	茶臼（上臼）	花崗岩	径：19.4		(7.0)	673.4	芯棒孔径：3.6
146	SD328	6	7F19	茶臼（下臼）	安山岩	(9.2)	(8.3)	(7.2)	1499.1	摺り面径：16.2cm
147	SD102	1a	9N1	粉挽き臼（上臼）	安山岩質凝灰岩	径：27.2		(11.2)	－	
148	SE157	2	7H20	粉挽き臼（下臼）	安山岩	径：30		8.9	2850	
149	SD102	1b	6M14	粉挽き臼（下臼）	安山岩	径：32		11.1	3360	
150	SE194	3	7I16	石鉢ヵ	砂岩	口径：不明	底径：18.0	(8.1)	－	
151	SE107	4	8K14	砥石	凝灰岩	13.0	6.0	5.8	526.8	未成品ヵ
152	SK136	2	8N9	砥石	凝灰岩	(7.1)	(7.3)	(4.1)	156.3	未成品ヵ
153	SD101	3	6K20	砥石	凝灰岩	(8.9)	5.4	4.9	372.5	
154	SD101	2	5K9	砥石	凝灰岩	(8.6)	3.6	2.5	88.2	
155	SE245	3	9R8	砥石	凝灰岩	(8.4)	3.7	3.3	90.9	
156	SD101	2	7K16	砥石	凝灰岩	(8.5)	3.4	2.6	96.7	
157	SD102	1a	9N9	砥石	凝灰岩	(5.2)	3.3	2.4	32.5	
158	SE170	4	7I7	砥石	凝灰岩	(4.2)	2.8	1.8	25.6	
159	SE130	1	7O25	砥石	凝灰岩	(4.0)	2.4	0.9	12.1	スス付着

金属製品 1

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	計測値（cm、g）								備考
					全長（含、柄部）	刀身部長	茎部長	刃部幅	身元幅	棟厚	茎厚	質量	
160	SE599	2	5H2	刀子	25.8（27.0）	17.9	7.9	2.1	2.5	0.2	0.3	42.1	柄（267）
161	SE302	14	7F22	包丁	21.3	14.6	6.7	3.6	3.2	0.4	0.3	113.2	錆化顕著

金属製品 2

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	計測値（cm、g）				備考
					長さ	幅	厚さ	質量	
162	SD101	1	6K16	釘	6.4	1.1	1.5	17.9	
163	－	I	6L8	釘	7.2	1.6	1.9	25.3	

金属製品 3

報告番号	遺構	層位	出土位置	銭種	初鋳年	計測値（cm、g）				備考
						外径	内径	厚さ	質量（量目）	
164	SD101	埋土	6K13	景徳元寶	北宋・1004	2.4	0.6	0.1	2.0	
165	SD101	2	6K13	元豊通寶	北宋・1078	2.4	0.7	0.1	2.1	
166	SD101	2	7K23	紹聖元寶	北宋・1094	2.5	0.7	0.1（0.2）	2.9	2点が銹着 うち1点不明
167	SD101	1	8L10	至大通寶	元・1310	2.4	0.6	0.1	1.9	
168	SD102	1b	6M19	皇宋通寶	北宋・1038	2.5	0.7	0.1	1.8	
169	SD102	1b	6M13	熙寧元寶	北宋・1068	2.4	0.6	0.1	2.7	2点が銹着 うち1点不明
170	SD102	1b	6M13	熙寧元寶	北宋・1068	2.4	0.7	0.1（0.2）	4.3	
171	SE72	2	5H12	至道元寶	北宋・995	2.5	0.6	0.1	1.8	
172	SE72	埋土	5H12	熙寧元寶	北宋・1068	2.4	0.6	0.1	1.7	篆書
173	SE72	1	5H12	元□□寶（元豊通寶ヵ）	北宋・1078	2.5	-	0.1	1.0	篆書
174	SE72	4	5H12	元祐通寶	北宋・1086	2.4	0.7	0.1	2.2	
175	SE72	8	5H12	洪武通寶	明・1368	2.3	0.5	0.1	2.2	
176	SE243	7	9R24	元祐通寶	北宋・1086	2.5	0.5	0.2	3.5	
177	SE256	4	9P25	天禧通寶	北宋・1017	2.4	0.6	0.1	2.4	
178	SE256	4	9P25	永楽通寶	明・1408	2.5	0.5	0.1	2.2	
179	SE321	1	7H15	元豊通寶	北宋・1078	2.3	0.6	0.1	1.5	
180	P346	2	7J11	至大通寶	元・1310	2.3	0.6	0.2	1.7	

金属製品 4

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	種類	計測値（cm、g）				備考
						長さ	幅	厚さ	質量	
181	SE302	6	7G2	銅製品	荘厳具ヵ	7.3	1.2	0.2 ～ 0.15	6.3	密教法具ヵ
182	SD102	2a	8M21	銅製品	荘厳具ヵ	10.6	1.1	0.08 ～ 0.1	5.2	密教法具ヵ
183	SE65	26	5G21	銅製品	装具	4.7	1.5	0.2 ～ 0.4	6.3	仏具ヵ、把手ヵ

金属製品 5

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	器種	遺存部位	計測値（cm、g）			質量	備考
							口径	器高	底径		
184	SE153	1	6I15	鉄製品	鍋	体部	－		－	－	口内ヵ：凸帯
185	SE194	1	7I21	鉄製品	鍋	口縁部	－		－	－	－
186	SE104	1	8K21	鉄製品	鍋	口縁部	－		－	－	－

鍛冶関連遺物

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	計測値（cm、g）				備考
					長さ	最大幅	最大厚	質量	
187	SE242	1	10R7	羽口	(10.5)	9.7	3.2	593.7	
188	SD377	2	9M17	羽口	(9.4)	9.2	2.9	596.7	
189	SD101	1	5K8	羽口	(6.6)	(7.6)	(3.1)	156.7	
190	SE251	2	10Q2	羽口	(8.5)	8.5	3.3	441.9	
191	SE132	7	8N22	羽口	(7.3)	(8.1)	(3.3)	205.4	

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	器種	遺存部位	計測値（cm、g）			質量	備考
							口径	器高	底径		
192	SE194	2	7I16	瓦器	坩堝	口縁～体部	10.8	(3.3)	－	石・長・礫	滓付着
193	－	I	7D	瓦器	坩堝	口縁～底部	8.4	2.0	4.6	白・黒・礫	滓付着

報告番号	遺構	層位	出土位置	種類	計測値（cm、g）			質量	備考
					長さ	幅	厚さ		
194	SE170	2	7I7	椀形滓	9.2	7.6	3.4	246.7	
195	SE244	1	9R23	椀形滓	11.1	8.7	5.0	254.9	
196	SE191	3	7I20	鋳型	8.7	3.6	3.9	135.3	穿孔あり
197	SD101	4	5K9	炉壁	10.7	6.9	4.7	220.3	内面：ヘラナデ

木製品1

報告番号	遺構	グリッド	層位	分　類	器　種		木取り	樹種（分類群）同定結果	法量			備考
									高さ・長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	
198	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	側板	板目	ブナ属	185.0	50.5	4.5	内面：桟木の圧痕。
199	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	側板	板目	ブナ属	180.0	49.0	5.6	内面：桟木の圧痕。
200	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	板状木製品	板目	スギ	104.1	12.6	6.1	縁部に沿って11か所の穿孔あり。 建築部材等転用ヵ。
201	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凹加工桟木	丸木材	スギ	94.8	8.2	9.3	樹皮残存。
202	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凹加工桟木	丸木材	スギ	94.3	8.4	9.0	樹皮残存。
203	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凹加工桟木	丸木材	スギ	94.4	8.6	9.5	両端部上面：隅柱圧痕。樹皮残存。
204	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凹加工桟木	丸木材	スギ	94.5	8.6	8.9	樹皮残存。
205	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凹加工桟木	半割材	スギ	94.0	9.7	6.0	
206	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凹加工桟木	半割材	スギ	90.6	9.8	6.1	
207	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凸加工桟木	丸木材	スギ	94.4	8.6	8.6	樹皮残存。
208	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凸加工桟木	丸木材	スギ	93.6	6.8	7.6	樹皮残存。
209	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凸加工桟木	丸木材	スギ	93.8	7.2	7.7	樹皮残存。
210	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凸加工桟木	丸木材	スギ	94.0	9.4	8.8	樹皮残存。
211	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凸加工桟木	丸木材	スギ	94.6	10.9	9.7	樹皮残存。
212	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凸加工桟木	丸木材	スギ	94.2	9.5	8.7	樹皮残存。
213	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	凸加工桟木	半割材	スギ	94.4	10.0	5.8	
214	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	隅柱	丸木材	スギ	36.3	4.3	4.0	樹皮残存。
215	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	隅柱	丸木材	スギ	36.2	5.0	4.8	樹皮残存。
216	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	隅柱	半割材	スギ	47.4	9.1	5.5	一部面取り。
217	SE65	5G24		施設材・器具材	井戸側部材	隅柱	削り出し	スギ	52.2	7.4	7.5	
218	SE599	5H6	1	容器	曲物	側板	柾目	スギ	11.0	長46.0 短39.0	—	側板底部：３か所に釘穴あり。 水溜転用。
219	SE65	5G24	22	容器	曲物	底板	板目	スギ	22.3	21.6	1.0	樺結合２か所あり。
220	SE65	5G24	22	容器	手桶	側板	柾目	スギ	34.6	7.0	1.3	上部に方形孔（持ち手をとおす穴）あり。
221	SE65	5G24	22	工具	柄持ち手	柄	削り出し	ブナ属	(19.8)	4.4	3.3	
						持ち手	削り出し	マツ属単維管束亜属	16.2	2.8	2.0	
223	SE599	5H2	2	その他	加工材	十字形木製品	柾目	スギ	19.2	19.2	2.7	組み合わせ部：木釘あり。楔で補強。 曲物などの運搬具ヵ。燭台ヵ。一部炭化。
224	SE70	5H20	底部	容器	曲物	側板	柾目	スギ	18.1	34.5	—	幅6㎝の帯が上下２段に巡る。 曲物下端・下段帯下端に釘穴８か所あり。 水溜転用。
226	SE72	5H12	23	容器	曲物	底板	柾目	スギ	19.6	19.6	0.9	径17.4㎝の円を線刻。 側縁部炭化。
227	SE72	5H12	23	容器	曲物	側板	柾目	スギ	18.6	長22.8 短21.4	—	
						底板	柾目	スギ				
228	SE72	5H12	23	容器	曲物	側板	柾目	ヒノキ	5.6	5.0	—	
						底板	柾目	ヒノキ				
229	SE104	8K16	埋土	食事具	箸	両口箸	削り出し	スギ	20.0	0.6	0.5	
230	SE104	8K16	埋土	食事具	箸	両口箸	削り出し	スギ	20.6	0.6	0.4	
231	SE104	8K16	埋土	食事具	箸	両口箸	削り出し	スギ	19.0	0.8	0.5	
232	SE104	8K16	埋土	食事具	箸	両口箸	削り出し	スギ	20.4	0.5	0.4	
233	SE114	9L22		施設材・器具材	井戸側部材	凸加工桟木	芯去りミカン割材	スギ	95.0	5.2	4.7	
234	SE130	7O25	埋土	容器	曲物	側板	柾目	スギ	16.0	22.0	—	
						底板	柾目	スギ				完形。幅4.8㎝の帯が上下に巡る。
						箍	柾目	スギ				

木製品２

報告番号	遺構	グリッド	層位	分　類	器　種		木取り	樹種（分類群）同定結果	法量			備考
									高さ・長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	
235	SE156	7I10	9	その他	加工材	棒状木製品	削り出し	スギ	29.3	1.5	1.4	上端部炭化。
236	SE199	7I12	底部	容器	曲物	側板	柾目	スギ	(19.3)	35.5	—	水溜転用。
237	SE219	3F20	11	容器	曲物	側板	柾目	スギ	20.6	19.2	—	
						底板	柾目	スギ				
238	SE219	3F20	14	容器	桶	側板	板目	スギ	57.1	14.6	1.5	水溜転用の桶。 桶本体は高さ約57.0㎝、口径約54.0㎝、底径約51.0㎝。上段と中段：各１条の竹籠、 下段：２条の竹籠。 上段の籠直下：縄巻き。
239	SE219	3F20	14	容器	桶	側板	板目	スギ	57.2	6.7	1.5	
240	SE219	3F20	14	容器	桶	側板	板目	スギ	57.1	8.2	1.5	
241	SE245	9R13	15	祭祀具	陽物形木製品	-	削り出し	コナラ属コナラ亜属コナラ節	47.0	3.7	3.5	
242	SE245	9R13	15	容器	曲物	側板	柾目	スギ	8.2	8.2	—	綴じ合わせ部に孔あり。
						底板	板目	スギ				
244	SE247	9R7	10	容器	曲物	底板	板目	スギ	22.4	22.0	1.2	
245	SE249	9Q16	4	容器	桶	側板	柾目	マツ属単維管束亜属	10.2	3.8	0.9	内面一部炭化。
246	SE249	9Q16	4	容器	桶	側板	板目	マツ属単維管束亜属	10.2	5.2	0.9	内面一部炭化。
248	SE252	9Q10	8	祭祀具	神饌容器	側板	柾目	ヒノキ	9.0	9.4 曲物径6.7	0.3 曲物厚さ0.6	
						底板	柾目	ヒノキ				
249	SE252	9Q10	8	その他	加工材	棒状木製品	柾目	スギ	21.8	2.8	2.0	両端部穿孔。
251	SE257	9P4	6	食事具	箸	両口箸	削り出し	スギ	20.2	0.6	0.5	
252	SE257	9P4	6	食事具	折敷	底板	柾目	スギ	33.0	(12.0)	0.8	約1/3遺存。樺結合３か所あり。
253	SE257	9P4	6	その他	加工材	杭状木製品	丸木材	クリ	130.4	12.0	10.0	下端部丸頭状整形。上半部腐食。
254	SE262	8R19	5	服飾具	履物	連歯下駄	芯持材	クリ	14.5	8.0	1.1	255と二個一対ヵ。歯高5.5㎝。 台部後端が後歯と垂直になる。 歯の中央に樹芯。 腐食顕著。
255	SE262	8R19	5	服飾具	履物	連歯下駄	芯持材	クリ	14.8	7.9	1.1	254と二個一対ヵ。歯高5.5㎝。 台部後端が後歯と垂直になる。 歯の中央に樹芯。 腐食顕著。
256	SE262	8R19	4	容器	曲物	底板	板目	スギ	20.3	20.7	0.7	樺結合部３か所
257	SE264	7R24	6	食事具	箸	両口箸	削り出し	スギ	21.4	0.9	0.5	
258	SE264	7R24	6	食事具	折敷	底板	板目	スギ	20.0	19.0	0.7	縁辺部に2個一対の穿孔、８か所あり。
259	SE264	7R24	底部	容器	曲物	側板	板目	スギ	36.5	60.0	—	外面斜格子、内面縦位のケビキ痕あり。 外面一部炭化。 水溜転用。
260	SE271	8J8	5	容器	曲物	底板	板目	スギ	33.6	33.6	1.0	腐食著顕著。
261	SE295	5I12	8	服飾具	履物	草履芯	柾目	トウヒ属	24.6	(9.8)	0.3	
262	SE295	5I12	8	食事具	折敷	底板	柾目	スギ	19.5	(4.6)	0.3	「永楽通寶」の融着痕あり。
263	SE305	7G8	底部	容器	曲物	側板	柾目	スギ	21.1	38.0	—	水溜転用。
265	SE318	7G22	10	容器	曲物	底板	柾目	スギ	23.4	23.4	0.9	
267	SE599	5M2	2	工具	刀子	柄	柾目	ブナ属	11.5	2.9	0.0.4	直径4㎜の目釘穴あり。

漆器

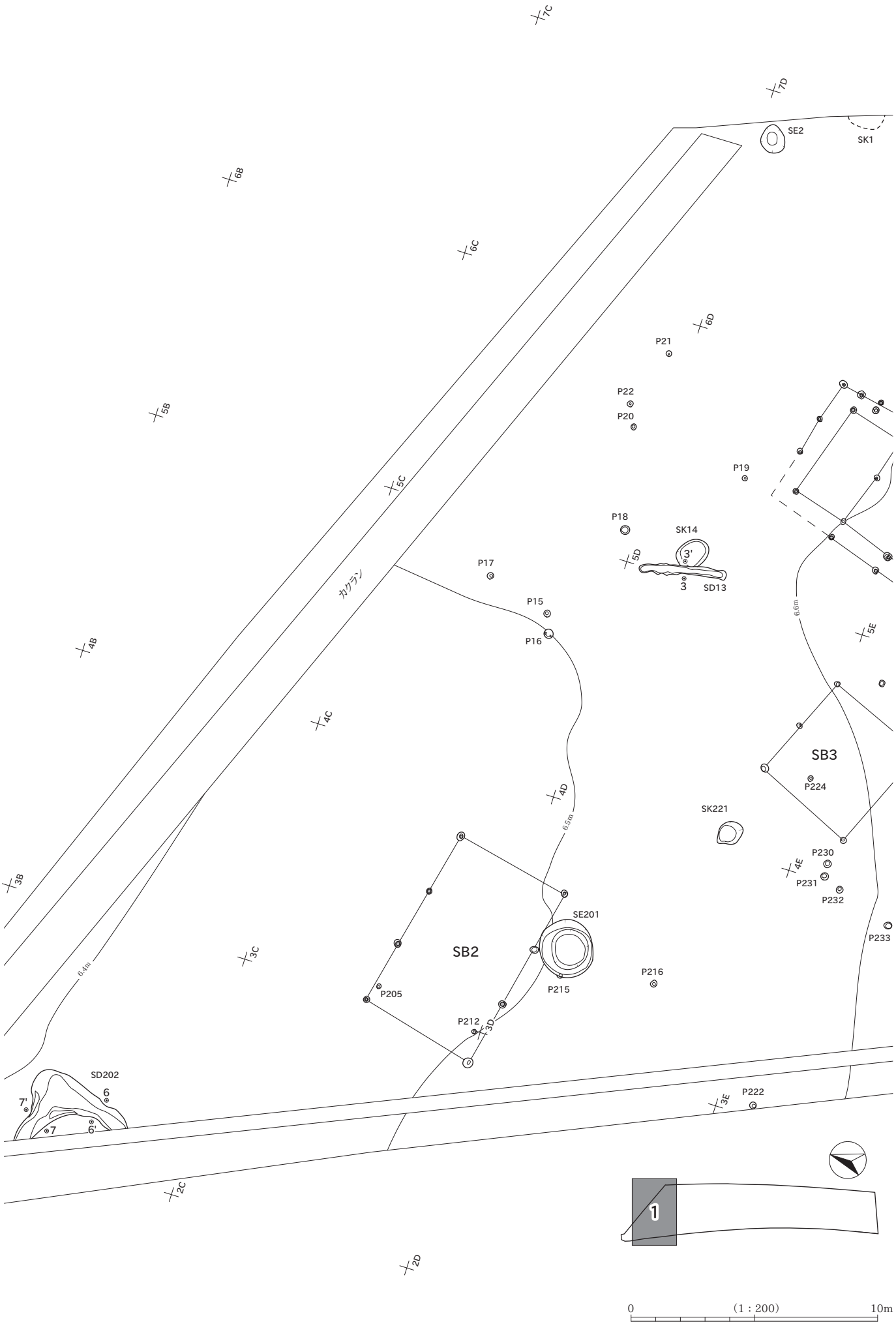
報告番号	遺構	グリッド	層位	分類	器種	木取り	樹種	部位	上塗色	下地	漆塗り	計測値（cm）							備考
												A	B	B1	B2	C	D	E	
222	SE65	5G24	27	容器	漆器椀	横木地柾目	ブナ属	内面	赤	炭粉	赤漆（鉄系朱）	－	（3.0）	（2.4）	0.6	6.7	5.8	0.7	
								外面	黒（赤漆絵）	炭粉	透明漆								
225	SE72	5H12	18	容器	漆器椀	横木地柾目	ブナ属	内面	赤	炭粉	赤漆（鉄系朱）	－	（3.5）	（2.5）	1.0	8.3	6.0	0.9	
								外面	黒（赤漆絵）	炭粉	透明漆								
243	SE246	9R10	8	容器	漆器椀	横木地柾目	トチノキ	内面	赤	炭粉	赤漆（鉄系朱）	15.4	7.4	5.9	1.5	7.8	6.6	1.4	体部外面：３か所に鶴丸文。
								外面	黒（赤漆絵）	炭粉	透明漆								
247	SE249	9Q16	2	容器	漆器椀	横木地柾目	ブナ属	内面	赤	炭粉	赤漆（鉄系朱）	－	（2.4）	（1.8）	0.6	6.5	5.4	0.7	体部外面：草花文。266と器形・文様が酷似する。
								外面	黒（赤漆絵）	炭粉	透明漆								
250	SE257	9P4	6	容器	漆器皿	横木地柾目	ブナ属	内面	赤	炭粉	赤漆（鉄系朱）	（8.4）	2.2	2.0	0.2	（5.8）	（5.0）	0.9	約1/2欠損。
								外面	黒	炭粉	透明漆								
264	SE307	7G17	埋土	容器	漆器皿	横木地板目	ブナ属	内面	黒（赤漆絵）	炭粉	透明漆	－	（1.4）	（1.0）	0.4	5.4	4.3	0.4	見込み：草花文。
								外面	黒	炭粉	透明漆								
266	SE580	8Q7	3	容器	漆器椀	横木地柾目	ブナ属	内面	赤	炭粉	赤漆（鉄系朱）	－	（2.5）	（2.0）	0.4	7.1	5.5	0.7	体部外面：草花文。247と器形・文様が酷似する。
								外面	黒（赤漆絵）	炭粉	透明漆								

図　　版

全体図

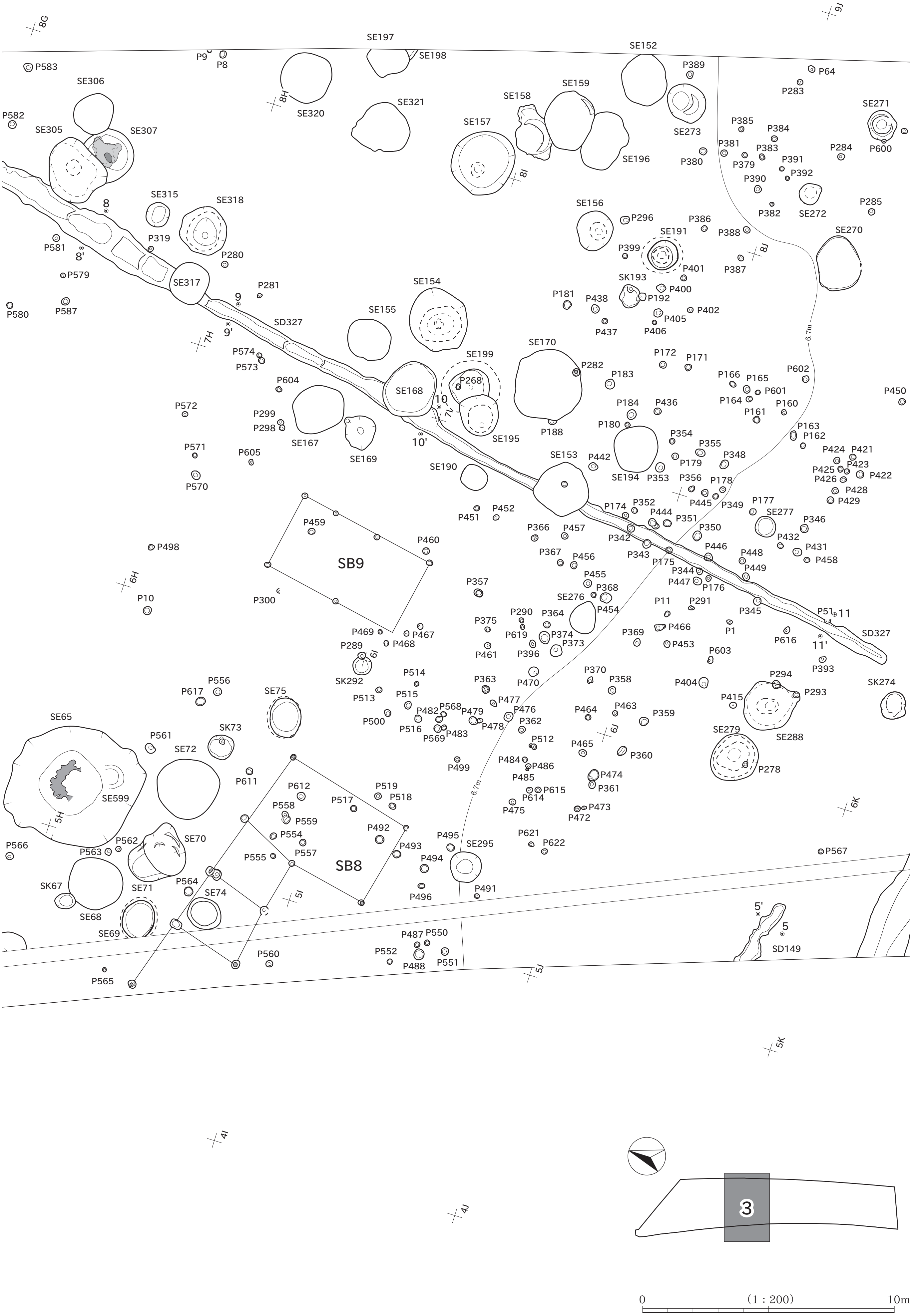
図 版 1

SD327
SD101
福島潟西部幹線用水路
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U
0 (1 : 600) 30m

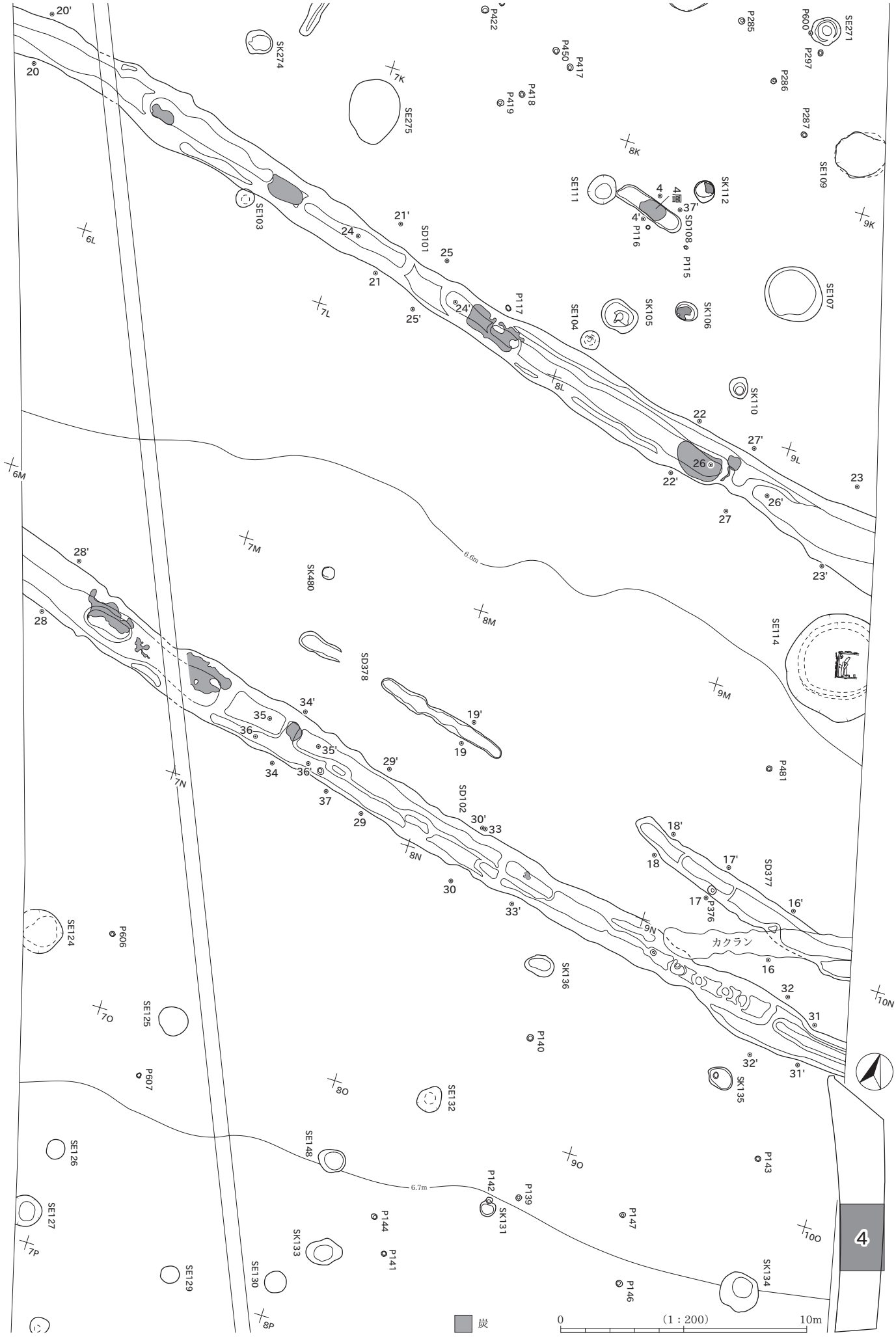

7C
7D
SE2
SK1
6B
6C
6D
P21
5B
P22
P20
5C
P19
P18
SK14
5D
3'
P17
3
SD13
カクラン
P15
P16
6.6m
5E
4B
4C
SB3
P224
4D
6.5m
SK221
P230
4E
P231
P232
P233
3B
SE201
SB2
3C
6.4m
P216
P205
P215
P212
3D
SD202
6
7'
7
6'
3E
P222
2C
2D
1
0
(1 : 200)
10m

遺構分割図(2)

0 (1 : 200) 10m

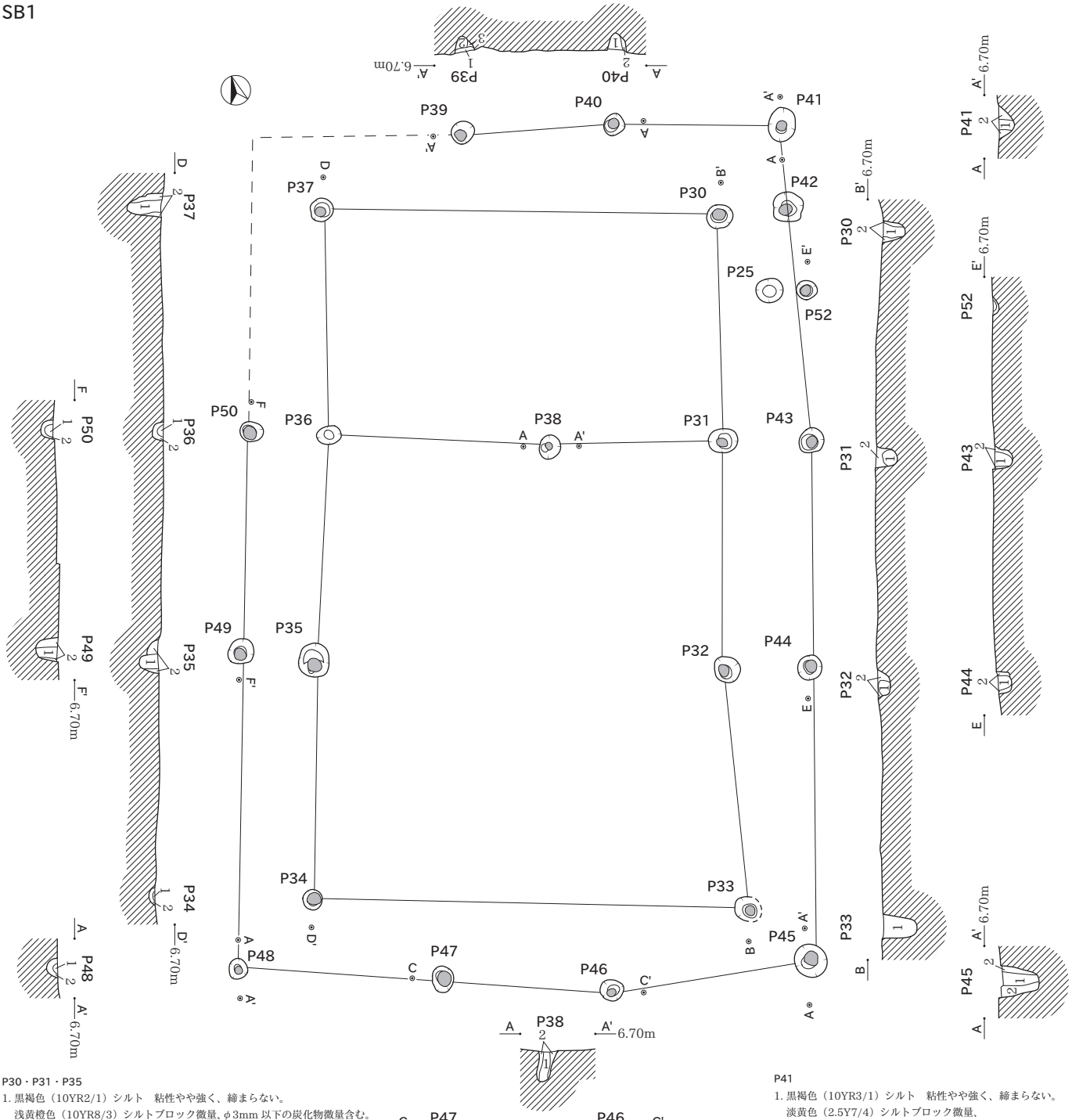


8G
9J
SE197
SE198
SE152
P9
P8
P583
P389
P64
P283
SE306
SE320
SE321
SE158
SE159
SE271
P582
SE305
SE307
SE157
SE273
P385
P384
P381
P383
P284
P600
SE196
P380
P379
P391
P392
P390
8I
SE315
SE318
8
SE156
P296
P386
P382
SE272
P285
SE191
P388
SE270
P581
P319
8'
P280
P399
8J
P387
P401
P579
SE317
P281
SE154
SK193
P400
P181
P438
P192
9
P580
P587
SE155
P405
P402
SD327
9'
P437
P406
7H
P574
P573
SE170
SE199
P172
P171
P282
P166
P165
P602
P604
P268
P183
P601
P450
P572
SE168
10
7I
P184
P436
P164
P160
P299
P298
P180
P161
SE195
P188
P163
P162
SE167
10'
P354
P355
P571
SE169
P424
P421
P605
SE153
P442
P348
P179
P425
P423
SE190
SE194
P353
P356
P178
P426
P422
P570
P428
P445
P429
P349
P177
P459
P451
P452
P174
P352
P444
SE277
P460
P366
P457
P351
P346
P350
P498
SB9
P342
P432
P367
P456
P446
P448
P431
P343
P175
P458
P344
P449
6H
P455
P447
P176
P357
P368
P300
P10
SE276
P11
P291
P51
11
P454
P345
P290
P364
P375
P466
P1
SD327
P469
P467
P619
P374
P369
P616
P468
P373
P453
11'
P289
P461
P396
P603
6I
P393
P470
P370
P514
P358
SK292
P363
P404
P294
SK274
P617
P556
P513
P515
P477
P293
SE75
P415
P568
P476
P464
P463
P482
P479
P359
SE65
P362
P500
P478
SE288
P516
P483
SE279
SK73
P569
P512
P561
6J
SE72
P465
P360
P484
P486
P278
P499
P611
P612
P474
P485
P519
P361
SE599
P558
P517
P518
P615
P614
P559
6K
5H
P475
P473
P472
P492
SE70
P554
P562
P621
P495
P566
P622
P563
P493
SE295
P555
P557
P567
P494
SB8
SK67
P564
SE71
SE74
5I
P491
P496
SE68
5'
5
SE69
P487
P550
SD149
P552
P560
P488
P551
5J
P565
5K
6.7m
4I
4J
3
0
(1 : 200)
10m


SK274
SE275
SE103
SD101
SE111
SK112
SD108
SE104
SK105
SK106
SE107
SE109
SK110
SK480
SD378
SE114
SD102
SD377
SK136
SK135
SE124
SE125
SE126
SE127
SE129
SE130
SK133
SK131
SK134
SE132
SE148
P422
P450
P417
P418
P419
P285
P600
SE271
P297
P286
P287
P116
P115
P117
P481
P376
P606
P607
P140
P142
P139
P144
P141
P147
P146
P143
カクラン
6.6m
6.7m
炭
0
(1：200)
10m
4

SE128
SE267
SE265
SE266
SE264
SE261
P255
SE257
SE258
SE259
SE260
SE256
SE580
SE254
SE253
SE252
SE251
SE249
SE247
SE245
SE246
SK248
SE242
SE262
P608
SE263
SE244
SE243
SE250
SE241
P609
P610
6.8m
6.7m
6.6m
7Q
8P
8Q
8R
8S
8T
8U
9P
9Q
9R
9S
9T
9U
10P
10Q
10R
10S
10T
11S
11T
0
(1 : 200)
10m
5

SB1



P30・P31・P35
1. 黒褐色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。
　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルトとにぶい黄橙（10YR7/4）シルトブロック充填。
　良く締まる。

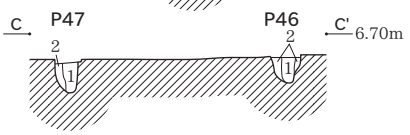
P32
1. 黒褐色（10YR3/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブロック充填。
　粘性やや強く、よく締まる。
2. 黒褐色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。
　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。

P33
1. 黒褐色（10YR3/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブロック充填。
　粘性やや強く、よく締まる。
2. 黒褐色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、よく締まる。
　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量含む。

P34
1. 黄灰色（2.5Y4/1）粘質シルトと灰黄色（2.5Y6/2）粘質シルトブロック充填
　粘性やや強く、締まらない。
2. 1 層同様だが、灰黄色粘質シルトブロックの割合が高い。1 層よりも締まる。

P36
1. 黒褐色（10YR4/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトブロック充填。
　粘性やや強く、締まらない。
2. 黒褐色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、1 層に比して締まる。
　灰白色（10YR8/1）粘質シルトブロック微量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。

P37
1. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブロック充填。
　上部にはにぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロックが入るが、裏込土として
　一括した。



P38・P45 ～ P49
1. 灰黄褐色（10YR6/2）粘質シルトと
　にぶい黄褐色（10YR7/4）粘質シルトブロック充填。
　灰黄褐色シルトの割合が高い。粘性やや強く、やや締まる。
　炭化物粒微量含む。
2. 1 層同様だが、にぶい黄褐色粘質シルトの割合が高い。

P39
1. 黒褐色（10YR3/2）シルトと淡黄色（2.5Y8/4）シルトブロック充填。
　粘性やや弱く、やや締まる。平面でφ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや強く、締まらない。
　淡黄色（2.5Y8/4）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物微量、
　マンガン粒微量含む。
3. 明黄褐色（2.5Y7/6）シルト　粘性やや弱く、締まる。
　炭化粒微量、マンガン粒微量含む。

P40・P50
1. 黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや強く、締まらない。
　淡黄色（2.5Y8/4）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物微量、
　マンガン粒微量含む。
2. 明黄褐色（2.5Y7/6）シルト　粘性やや弱く、締まる。
　炭化粒微量、マンガン粒微量含む。

P41
1. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。
　淡黄色（2.5Y7/4）シルトブロック微量、
　10mm 角の炭化物少量、　マンガン粒多量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルトと明黄褐色（2.5Y6/6）シルト
　ブロック充填。
　粘性やや弱い、しまる。φ5mm 以下の炭化物微量、
　マンガン粒多量含む。

P43
1. 褐灰色（10YR5/1）シルトと
　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトブロック充填。
　粘性弱く、やや締まる。φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 1 層と同様だが、にぶい黄橙色シルトの割合が高い。
　掘形底面で柱のあたりを検出。

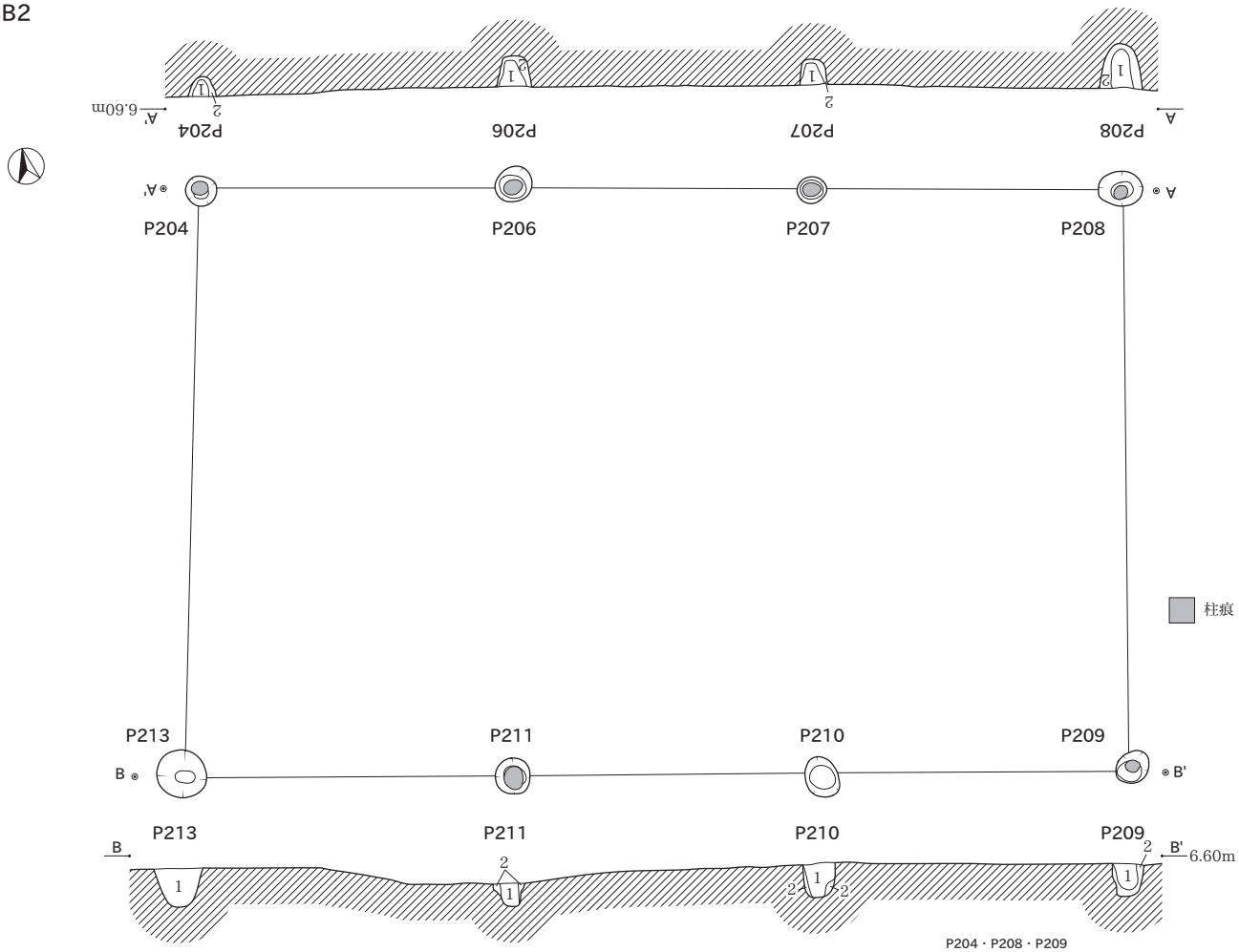
P44
1. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。
　にぶい黄橙色（10YR6/4）シルトブロック微量、
　φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. にぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブロック状充填。

P46・47
共通：上半にφ5mm 以下の炭化物微量含む。
1. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。
　淡黄色（2.5Y8/4）シルトブロック少量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルトと
　明黄褐色（2.5Y6/6）シルトブロック充填。
　明黄褐色シルトが大半を占める。

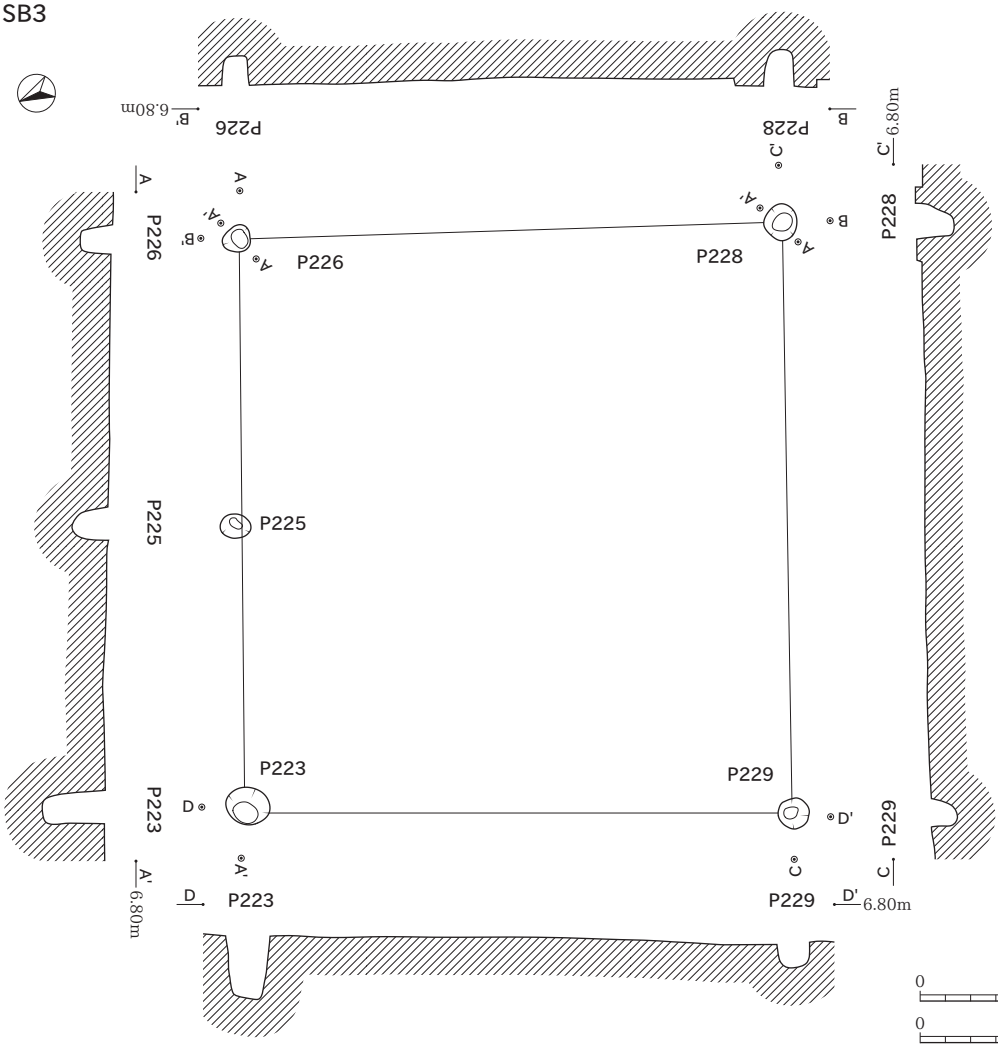
柱痕

0　3m　(1:60)

SB2



SB3



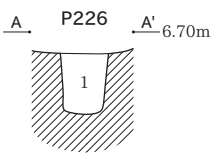
P204・P208・P209
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。
2. 灰白色（10YR 7/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。

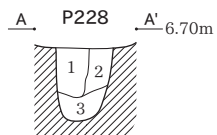
P206・P207
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。
　灰白色（10YR7/1）シルトブロック多量含む。
2. 灰白色（10YR 7/1）シルト　粘性やや弱く、締まる

P210
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。
2. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。
　褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量含む。

P211
1. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。
　炭化粒少量含む。
2. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。
　褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量含む。

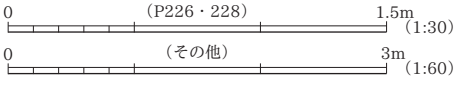
P213
1 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。



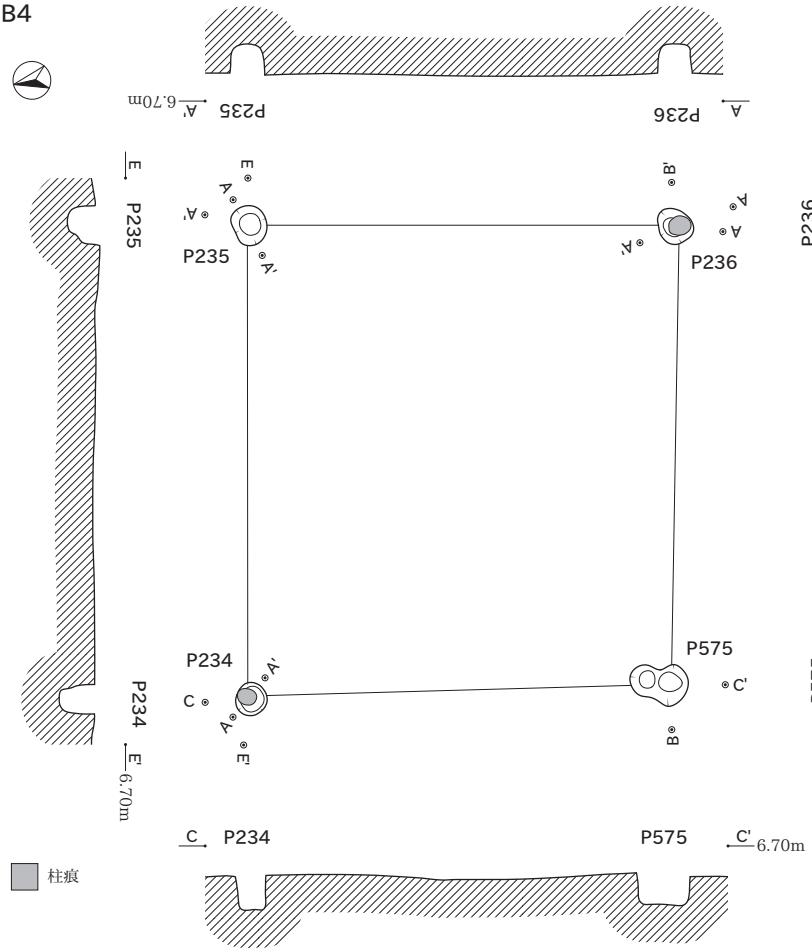


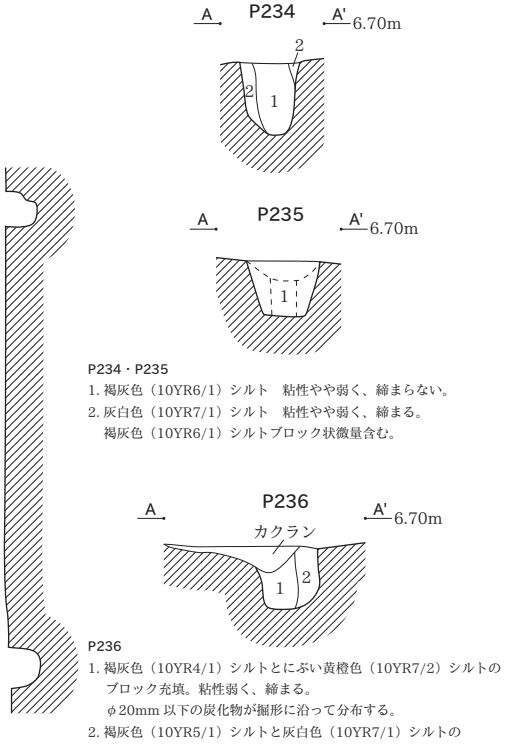
P226
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。
　灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。

P228
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。
2. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。
3. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。
　褐灰色（10YR6/1）シルトブロック状微量含む。



SB4

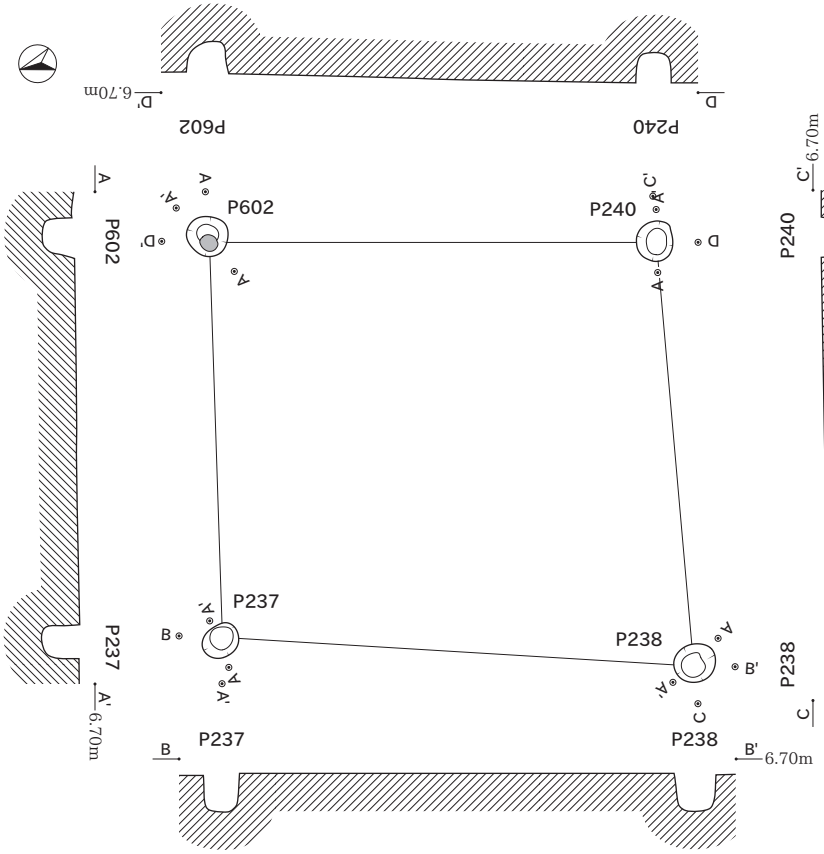


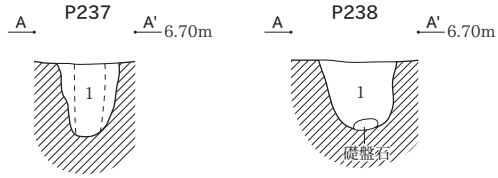


P234・P235
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。
2. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。
　褐灰色（10YR6/1）シルトブロック状微量含む。

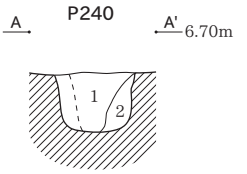
P236
1. 褐灰色（10YR4/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/2）シルトのブロック充填。粘性弱く、締まる。
　φ20mm 以下の炭化物が掘形に沿って分布する。
2. 褐灰色（10YR5/1）シルトと灰白色（10YR7/1）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。炭化粒微量含む。

SB5

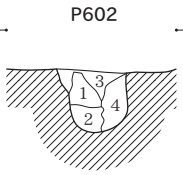




P237・P238
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。

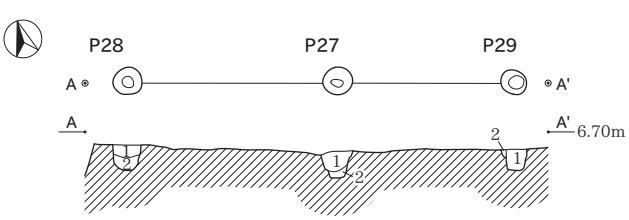


P240
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。
　灰白色（10YR7/1）シルトブロック多量含む。
2. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや弱く、締まらない。



P602
1. 黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　粘性やや強い、締まらない。
　φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 黒褐色（10YR3-1）粘質シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブロック充填。粘性やや強く、締まらない。
3. 褐灰色（10YR4/1）粘質シルト　粘性やや弱く、締まらない。
　にぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブロック微量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。
4. 2 層と同様だが、粘性弱く、締まる。

SA1



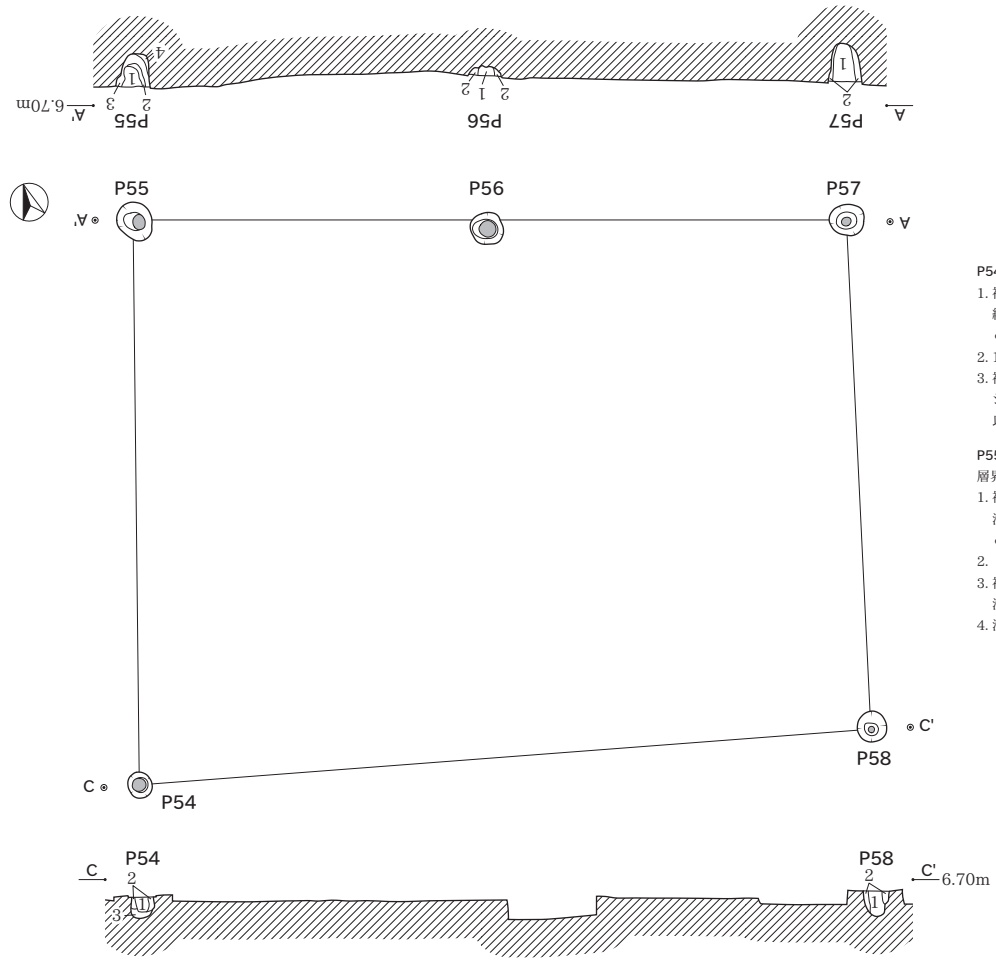
P27
1. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質シルト　粘性やや強く、締まる。
　φ15mm 以下の炭化物少量含む。
2. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質シルトと、浅黄橙色 (10YR8/4) シルトのブロック充填土。
　粘性弱く、締まらない。
　褐灰色粘質シルトは微量で、浅黄橙色シルトブロックの割合いが高い。

P28・P29
1. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質シルト　粘性やや強く、締まる。
　灰白 (10YR8/1) シルトブロック少量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 1 層同様だが、1 層に比べて粘性強く、締まらない。
　灰白シルトブロックは少量ながら 1 層よりも多く含む。

0　（P234～238・240・602）　1.5m　(1:30)

0　（その他）　3m　(1:60)

SB6

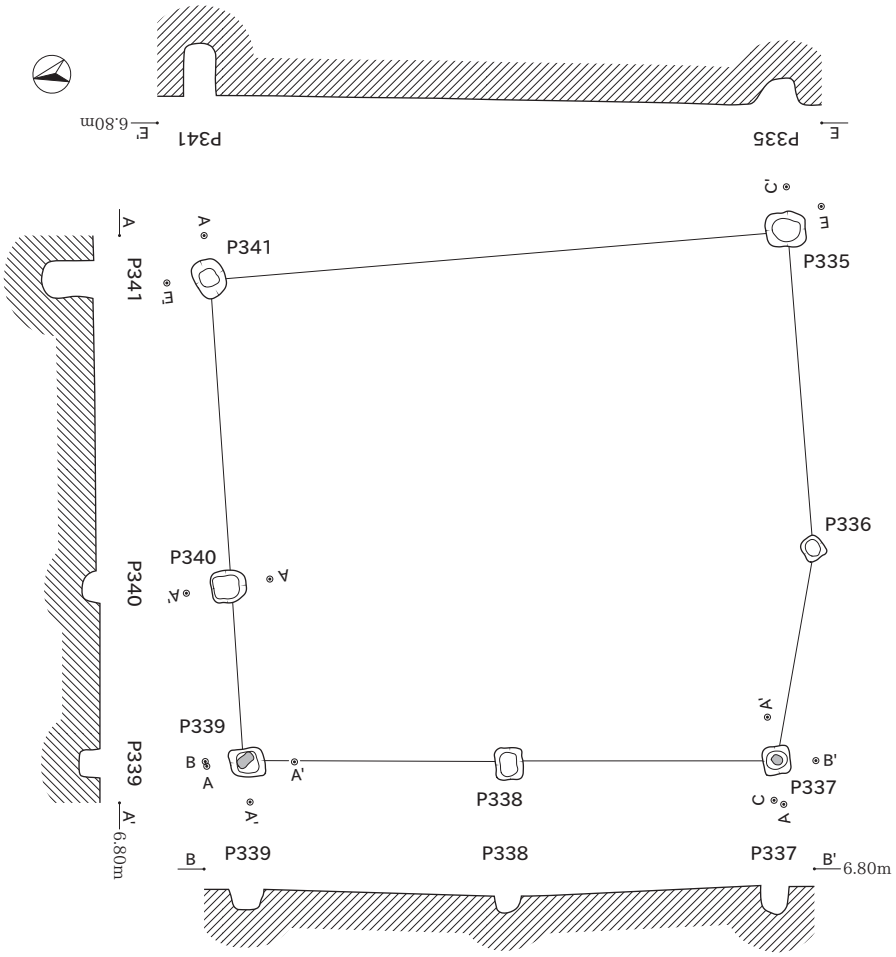


P54・P56 ～ 58
1. 褐灰色（10YR4/1）粘質シルト　粘性やや強く、締まらない。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 1 層同様だが、1 層に比して締まる。
3. 褐灰色（10YR4/1）粘質シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロックの充填。浅黄橙色の割合が高い。φ3mm 以下の炭化物微量、マンガン粒微量含む。

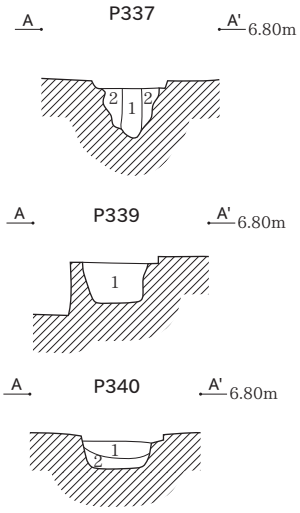
P55
層界は明瞭
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性弱く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性弱く、締まる。
3. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
4. 浅黄橙色（10YR8/3）粘質シルト　粘性やや強く、締まる。

柱痕

SB7



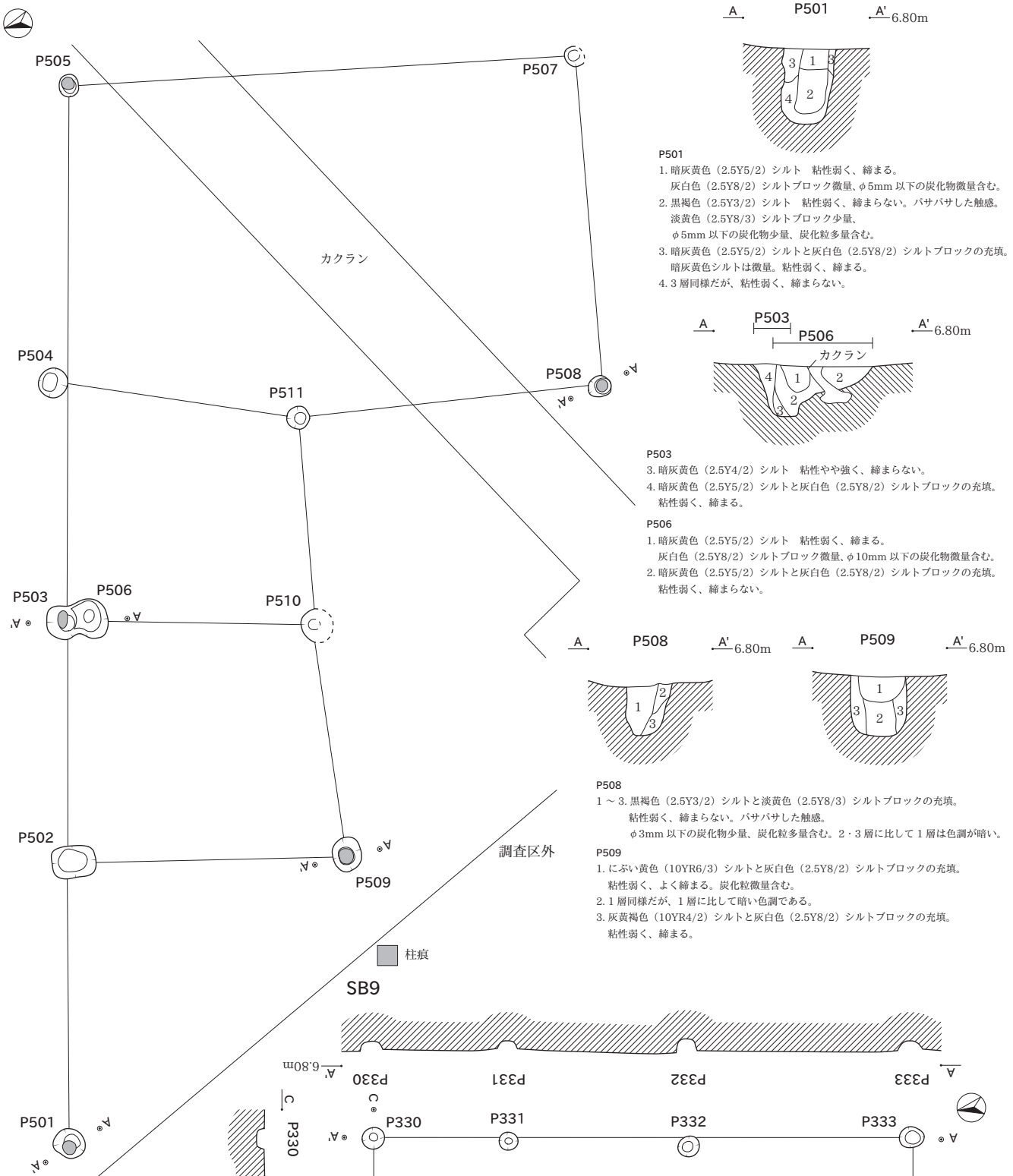
P337
1. 黄灰色（2.5Y4/1）シルトと浅黄色（2.5Y7/3）シルトのブロック充填。黄灰色シルトの割合が高い。粘性弱く、締まらない。φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。褐灰色シルトは微量。粘性弱く、1 層よりも締まる。



P339・P340
1. 黄灰色（2.5Y4/1）シルトと浅黄色（2.5Y7/3）シルトブロックの充填。黄灰色シルトの割合が高い。粘性弱く、締まらない。φ5mm 以下の炭化物微量含む。
2. 黄灰色（2.5Y4/1）シルトと浅黄色（2.5Y7/3）シルトブロックの充填。黄灰色シルトは微量。粘性弱く、1 層より締まる。φ3mm 以下の炭化物微量含む。

0　（P337・339・340）　1.5m　(1:30)
0　（その他）　3m　(1:60)

SB8



P501
1. 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　粘性弱く、締まる。
　灰白色（2.5Y8/2）シルトブロック微量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
2. 黒褐色（2.5Y3/2）シルト　粘性弱く、締まらない。パサパサした触感。
　淡黄色（2.5Y8/3）シルトブロック少量、
　φ5mm 以下の炭化物少量、炭化粒多量含む。
3. 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルトと灰白色（2.5Y8/2）シルトブロックの充填。
　暗灰黄色シルトは微量。粘性弱く、締まる。
4. 3 層同様だが、粘性弱く、締まらない。

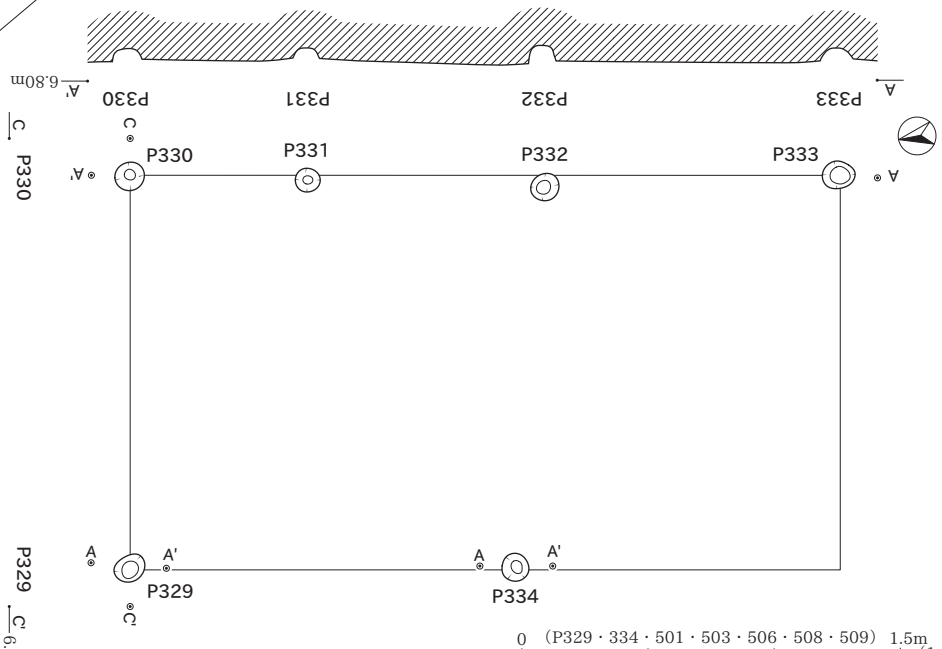
P503
3. 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト　粘性やや強く、締まらない。
4. 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルトと灰白色（2.5Y8/2）シルトブロックの充填。
　粘性弱く、締まる。

P506
1. 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　粘性弱く、締まる。
　灰白色（2.5Y8/2）シルトブロック微量、φ10mm 以下の炭化物微量含む。
2. 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルトと灰白色（2.5Y8/2）シルトブロックの充填。
　粘性弱く、締まらない。

P508
1 ～ 3. 黒褐色（2.5Y3/2）シルトと淡黄色（2.5Y8/3）シルトブロックの充填。
　粘性弱く、締まらない。パサパサした触感。
　φ3mm 以下の炭化物少量、炭化粒多量含む。2・3 層に比して 1 層は色調が暗い。

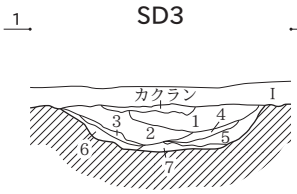
P509
1. にぶい黄色（10YR6/3）シルトと灰白色（2.5Y8/2）シルトブロックの充填。
　粘性弱く、よく締まる。炭化粒微量含む。
2. 1 層同様だが、1 層に比して暗い色調である。
3. 灰黄褐色（10YR4/2）シルトと灰白色（2.5Y8/2）シルトブロックの充填。
　粘性弱く、締まる。

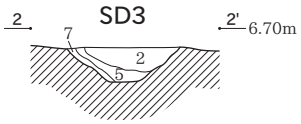
SB9

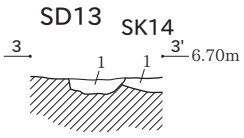


P329・P334
1. 褐灰色（10YR4/1）粘質シルト
　粘性やや強く、締まらない。
　灰白色（10YR8/2）シルトブロック微量、
　φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 褐色（10YR4/1）粘質シルトと
　灰白色（10YR8/2）シルトブロックの充填。
　粘性やや強く、締まる。
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。

0　（P329・334・501・503・506・508・509）　1.5m　（1:30）
0　（その他）　3m　（1:60）

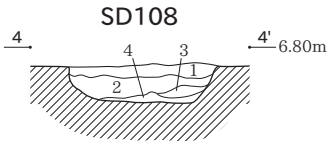




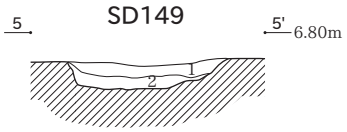


SD3
1. 黒褐色（2.5Y3/1）シルト　粘性やや強く、よく締まる。灰白色（2.5Y8/1）シルトブロック少量、φ7mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒褐色（2.5Y3/1）シルト　粘性やや強く、よく締まる。1 層に比して明るい色調。灰白色（2.5Y8/1）シルトブロック微量、φ3mm 以下の炭化物少量含む。
3. 黒褐色（2.5Y3/1）シルト　粘性やや強く、締まる。偏平した灰白色（2.5Y8/1）シルトブロックを 4 層との境に斜位に微量含む。
4. 黄灰色（2.5Y6/1）シルトブロックと灰白色（2.5Y8/1）シルトブロックの充填。粘性やや強く、締まる。φ3mm 以下の炭化物微量含む。
5. 4 層と同様だが、黄灰色（2.5Y6/1）シルトブロックの割合が高い。
6. 灰白色（2.5Y8/1）シルトと淡黄色（2.5Y8/4）シルトブロックの充填。粘性やや強く、締まる。
7. 6 層同様だが、締まらない。細砂微量含む。

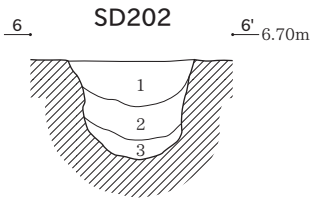
SD13
1. 黒褐色（10YR2/2）シルト　明黄褐色（10YR7/6）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物微量、取上げができない土師器細片微量含む。粘性やや強く、締まりやや弱い。
※SK14 との層界は、ブロックの状況から明瞭に分層できる。

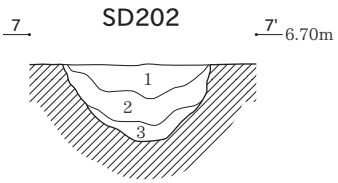


SD108
1. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。粘性強く、締まる。
2. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。φ2mm 以下の焼土ブロック微量含む。粘性強く、締まる。
3. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。2 層よりも明るい色調。φ2mm 以下の焼土ブロック微量含む。粘性強く、締まる。
4. 黒色（7.5YR1.7/1）シルト　粘性強く、締まらない。焼土ブロック微量含む。

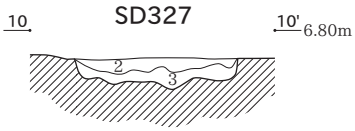


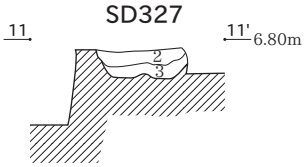
SD149
1. 黄灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。灰白色（2.5Y8/1）シルトブロック微量、炭化粒少量含む。
2. 1 層同様だが、灰白色（2.5Y8/1）シルトブロック少量含む。

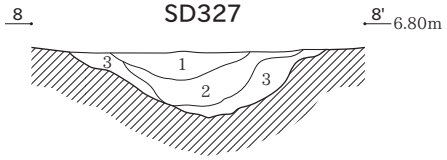




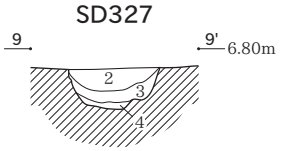
SD202
1. 灰黄褐色 (10YR4/2) シルトと灰白色 (10YR7/1) 粘質シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。
2 浅黄橙色 (10YR8/3) シルトと灰白色 (10YR7/1) シルトのブロック充填。粘性やや弱く、よく締まる。
3 褐灰色 (10YR6/1) 粘質シルト　粘性やや強く、締まる。灰白色 (10YR7/1) シルトブロック微量含む。

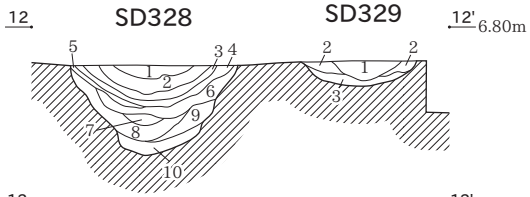


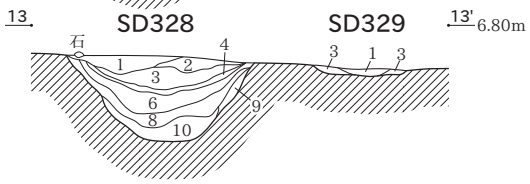


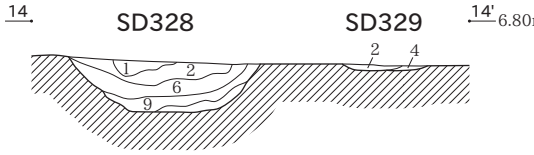


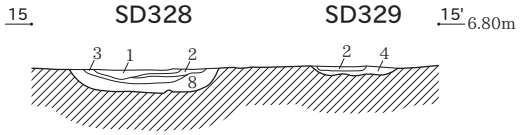
SD327
1. 黄灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。灰白色（2.5Y8/1）シルトブロック微量、φ10mm 以下の炭化物少量含む。
2. 浅黄色（2.5Y7/3）粘質シルト　粘性やや強く、締まる。
3. 2 層同様だが、2 層に比して締まらない。
4 黄灰色（2.5Y6/1）粘質シルト　粘性やや強く、締まらない。細砂微量含む。





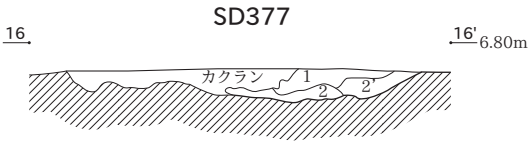


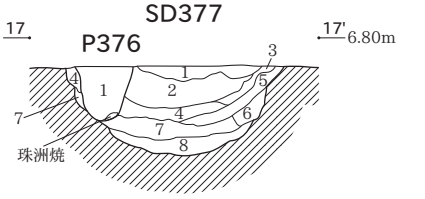


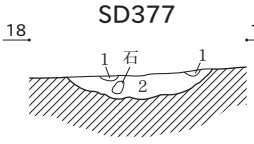


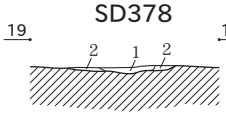
SD328
1. 黄灰色（2.5Y6/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。にぶい黄色（2.5Y6/3）シルトブロック少量、φ10mm 前後の砂礫を微量含む。
2. 黄灰色（2.5Y6/1）シルトとにぶい黄色（2.5Y6/3）シルトブロックの充填。粘性弱く、よく締まる。にぶい黄色シルトブロックの割合が高い。水田の影響によるマンガン粒を含み、酸化鉄によって赤みをおびる。
3. 黄灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。炭化粒微量含む。
4. 浅黄色（2.5Y7/4）シルトブロックが含まれ、3 層よりも明るい色調である。粘性やや強く、締まる。
5. 黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭。粘性やや強く、締まらない。
6. 4 層同様だが、浅黄色シルトの割合が高い。
7. 淡黄色（2.5Y8/4）シルト　粘性弱く、締まる。
8. 浅黄色（2..5Y7/4）シルト　粘性やや強く、締まる。6 層との層界は明瞭でない。
9. 淡黄色（2.5Y8/4）シルト　粘性弱く、締まる。
10. 浅黄色（2..5Y7/4）粘質シルト　8 層よりも粘性強く、締まらない。細砂微量含む。8 層とは土質の相違から識別できる。

SD329
1. 黄灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭を少量含むが、断続的であり、3 層との層界が不明瞭なため分層は避けた。
2. 灰黄色（2.5Y7/2）シルトと浅黄色（2.5Y7/4）シルトと黄灰色（2.5Y4/1）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まる。
3. 黄灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。φ3mm 以下の炭化物微量含む。





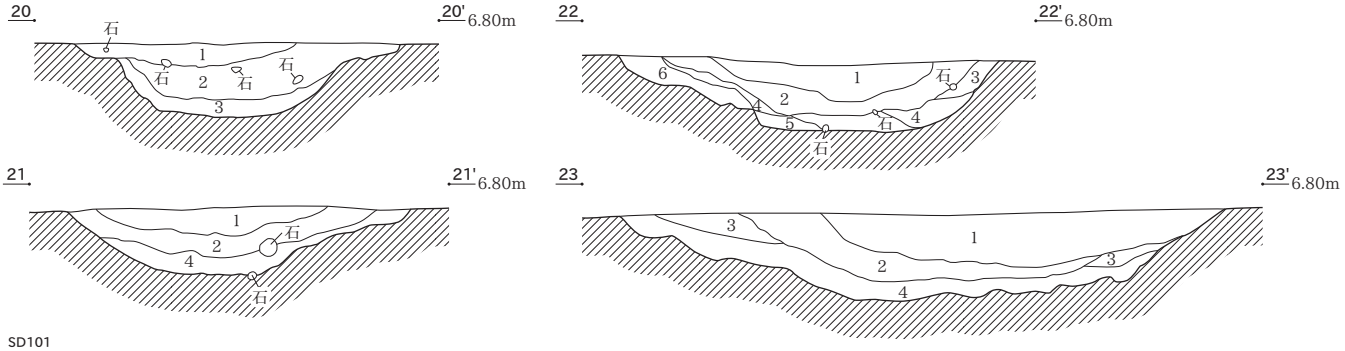




SD377・SD378
1 ～ 6. 褐灰色（10YR6/1）シルト　1 層から 6 層へ次第に色調が黄色味をおび、色調が明るくなる。粘性弱く、よく締まる。
7. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトをまだらに少量含む。
8. 灰白色（10YR7/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトがまだらに堆積する。粘性やや強く、やや締まる。下部には細砂を微量含む。

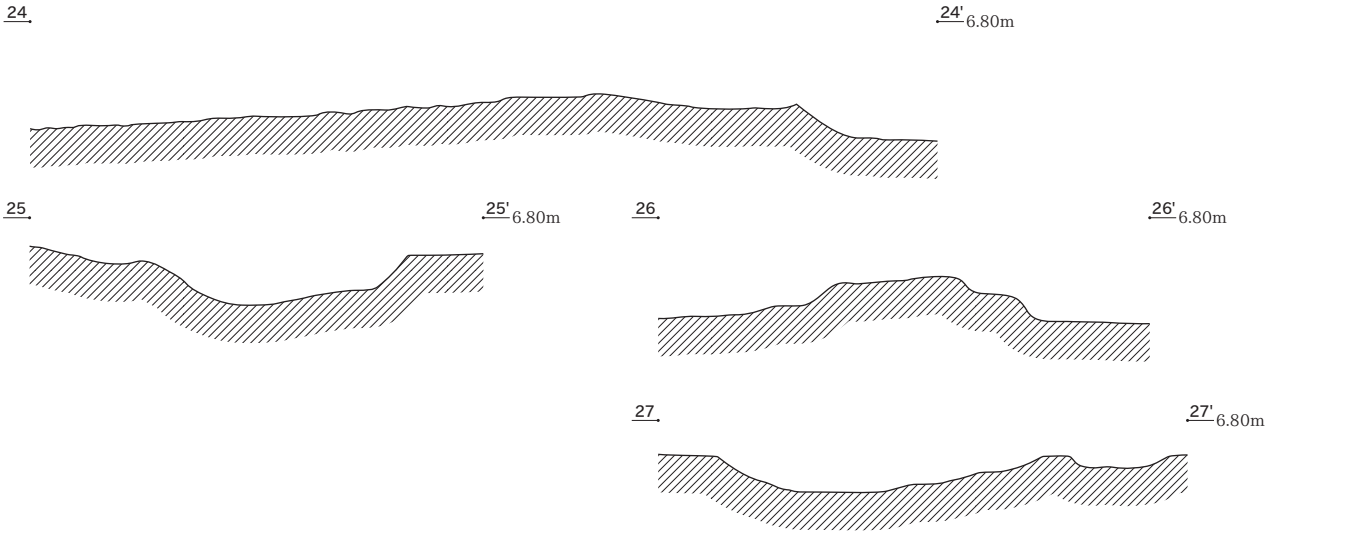
0　（1：40）　2m

SD101

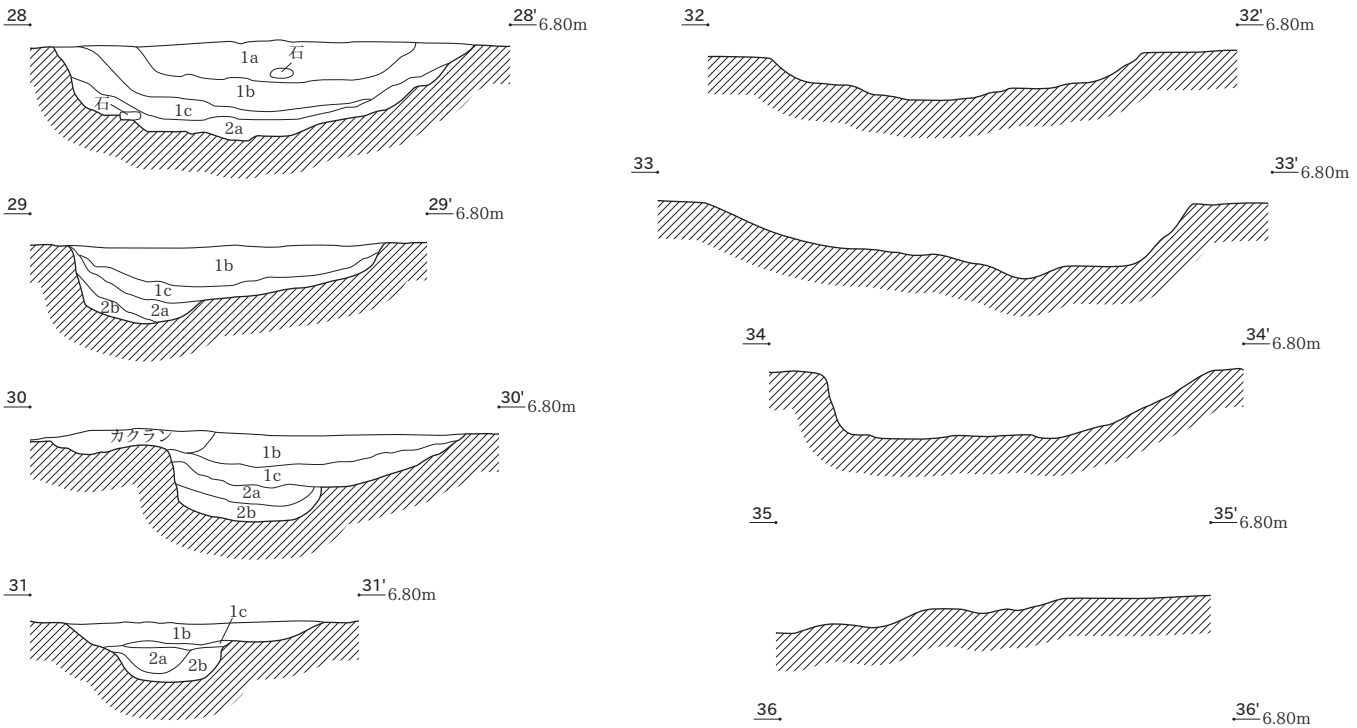


SD101

1. 褐灰色（7.5YR4/1）シルト。明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 灰褐色（7.5YR4/2）シルト。明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。
3. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト。黄褐色（10YR5/6）シルトブロック多量含む。
4. にぶい褐色（7.5YR6/3）シルト。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
5. 黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。炭化した植物遺体多量含む。
6. 黄褐色（10YR5/6）シルトと明褐灰色（7.5YR7/2）シルトと黒色（7.5YR2/1）シルトのブロック充填。黄褐色シルトの割合が高い。

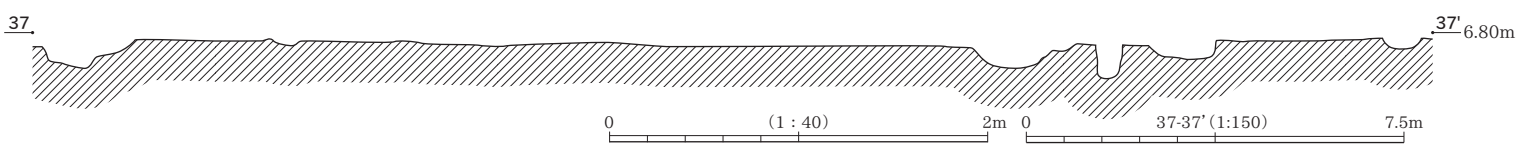


SD102

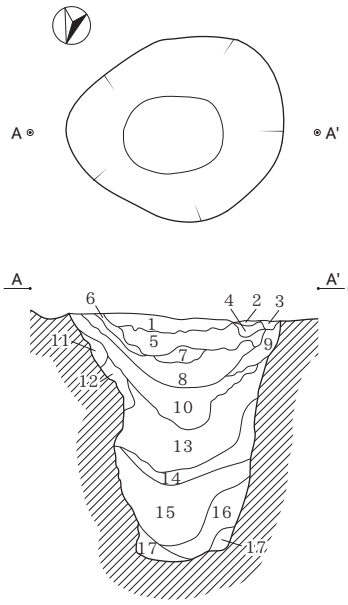


SD102

1a. 褐灰色（7.5YR4/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトブロック多量含む。
1b. 灰褐色（7.5YR4/2）シルト　粘性弱く、締まる。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
1c. 灰褐色（7.5YR4/2）シルト　粘性やや弱く、締まる。
2a. 褐灰色（7.5YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。φ2 ～ 10mm の炭化物少量含む。
2b. 褐灰色（7.5YR4/1）シルト　粘性強く、締まらない。φ2 ～ 5mm の炭化物少量含む。

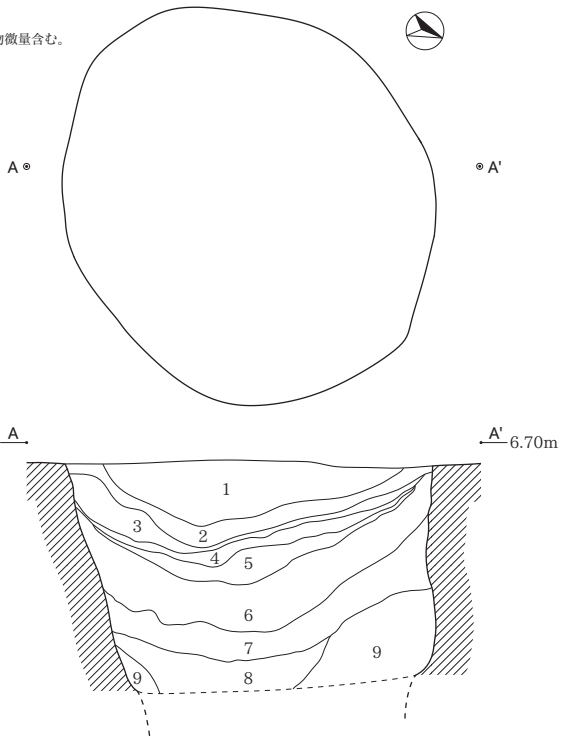


SE2



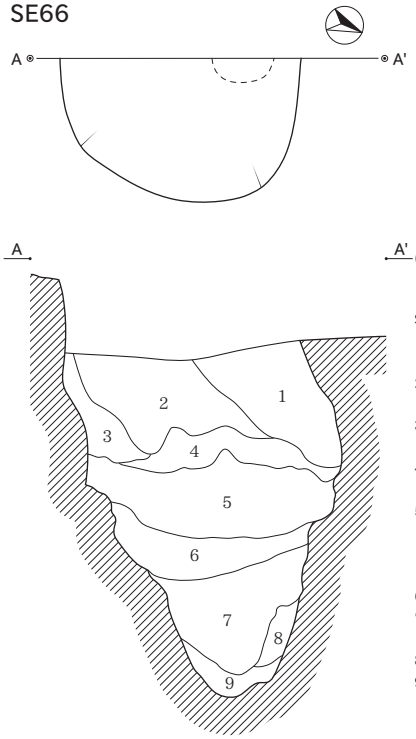
SE2
1. にぶい褐色（10YR4/3）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
灰白色（10YR8/2）シルトブロック微量、φ10mm 以下の炭化物微量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。
にぶい褐色（10YR6/4）シルトブロック少量、
φ1mm 以下の炭化物微量含む。
3. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
にぶい褐色（10YR6/4）シルトブロック微量含む。
4. にぶい褐色（10YR4/3）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
φ10mm 以下の炭化物微量含む。
5. 暗褐色（10YR3/3）シルトと明黄褐色（10YR6/6）シルトと褐灰色（10YR5/1）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、よく締まる。10mm 角以下の炭化物少量含む。
6. 黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱く、締まる。
褐灰色（10YR5/1）シルトブロック少量、
φ10mm 以下の炭化物微量含む。
7. 黒褐色（10YR 2/3）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
褐灰色（10YR5/1）シルトブロック微量含む。
φ5mm 以下の炭化物微量含む。
8. 暗褐色（10YR3/3）シルトと明黄褐色（10YR6/6）シルトと褐灰色（10YR5/1）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、よく締まる。φ5mm 以下の炭化物微量含む。
9. 暗褐色（10YR3/3）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトのブロック充填。粘性やや強く、よく締まる。
φ3mm 以下の炭化物微量含む。
10. 黒色（10YR2/1）シルトと灰黄褐色（10YR4/2）シルトと灰白色（10YR7/1）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、よく締まる。
11. 暗褐色（10YR3/3）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
12. 黒褐色（10YR2/3）シルト　粘性やや強く、締まる。にぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブロック少量含む。
13. 黒褐色（10YR3/2）シルトと褐色（10YR4/4）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトのブロック充填。粘性強く、やや締まらない。
14. 黒褐色（10YR2/2）シルトと灰黄褐色（10YR6/2）シルトのブロック充填。φ3mm 以下の炭化物微量含む。
15. 黒色（10YR2/1）粘質シルトと灰色（7.5Y5/1）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、締まらない。
16. 黒色（10YR2/1）粘質シルトと灰色（7.5Y5/1）粘質シルトと明青灰色（107/1）粘質シルトのブロック充填。
灰色（7.5Y5/1）粘質シルトの割合高い。粘性強く、締まらない。
17. 明青灰色（107/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。まだらに灰色（7.5Y5/1）粘質シルト微量含む。

SE63



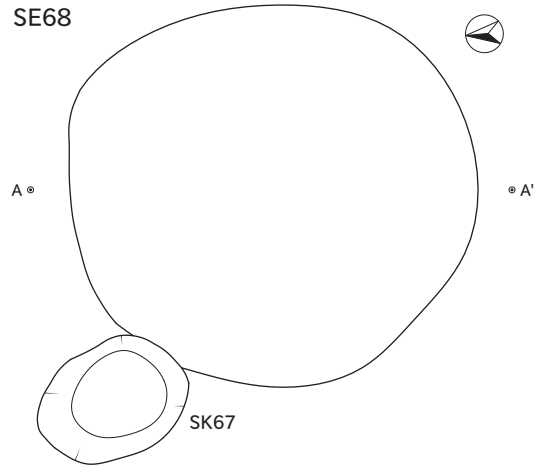
SE63
1. 黒色（10YR2/1）シルト。粘性やや強く、締まる。
浅黄橙色（10YR8/3）　シルトブロック、φ20mm 以下の炭化物多量含む。
2. 黒色（10YR1.7/1）シルト。粘性やや強く、締まる。
浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
3. 黒色（10YR2/1）シルト。粘性やや強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。
4. 黒色（10YR1.7/1）シルト。粘性やや強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量、φ2mm 以下の炭化物多量含む。
5. 黒色（10YR2/1）シルト。粘性やや強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量含む。
6. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性やや強く、締まる。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
7. 褐灰色（10YR4/1）シルト。粘性やや強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、灰白色粘質シルトブロック微量含む。
8. 明緑灰色砂質（7GY7/1）シルト。粘性強く、締まらない。褐灰色（10YR6/1）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。
9. 明緑灰色砂質（7GY7/1）シルト。粘性強く、締まらない。灰白色（10YR8/1）粘質シルトブロック少量含む。

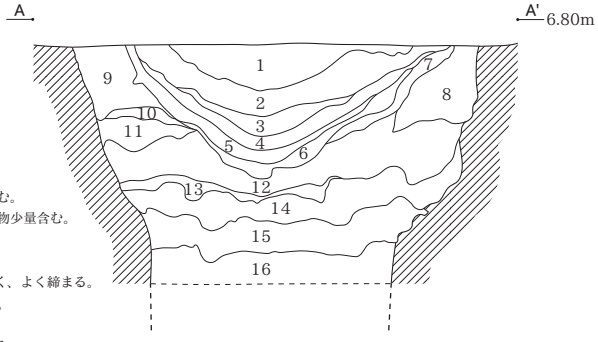
SE66



SE66
1. 浅黄橙色（10YR8/4）粘質シルトと暗青灰色（5PB3/1）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、締まらない。
2. 浅黄橙色（10YR8/4）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
まだらに灰白色（10YR8/1）粘質シルト多量含む。
3. 浅黄橙色（10YR8/4）粘質シルト。粘性強く、締まらない。
灰白色（10YR8/1）粘質シルトブロック多量含む。
4. 浅黄橙色（10YR8/4）粘質シルト。粘性強く、締まらない。
灰白色（10YR8/1）粘質シルトブロック多量、細砂多量含む。
5. 浅黄橙色（10YR8/4）粘質シルト。粘性強く、締まらない。
灰白色（10YR8/1）粘質シルトブロック多量、細砂多量含む。
上部と下部はグライ化が顕著で青灰色（5PB6/1）粘質シルトを呈する。
6. 青灰色（5PB6/1）粘質シルト。粘性強く、締まらない。
7. 青灰色（5PB6/1）粘質シルト。粘性強く、締まらない。
細砂少量含む。
8. 青灰色（5PB6/1）粘質シルト。粘性強く、締まらない。
9. 青灰色（5PB6/1）粘質シルト。粘性強く、締まらない。
暗青灰色（5PB3/1）粘質シルトブロック多量含む。

SE68

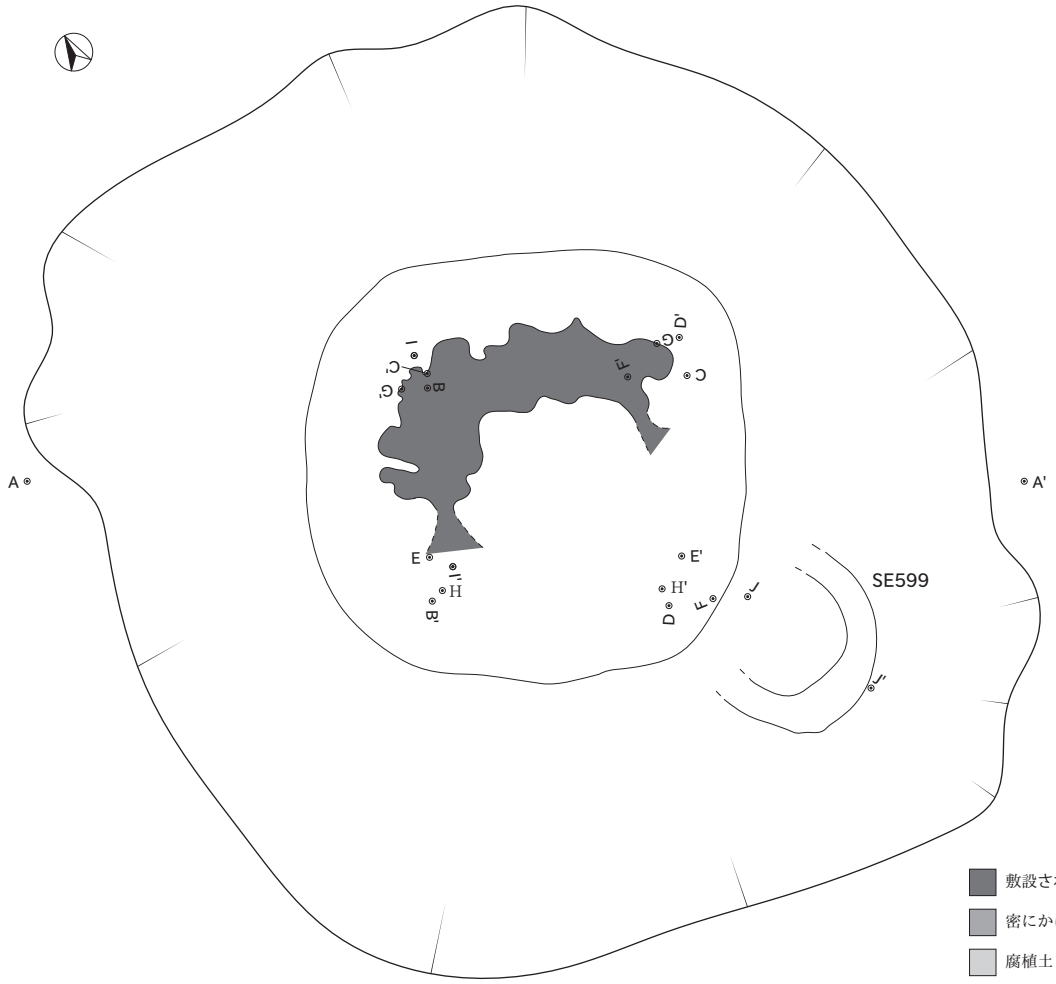


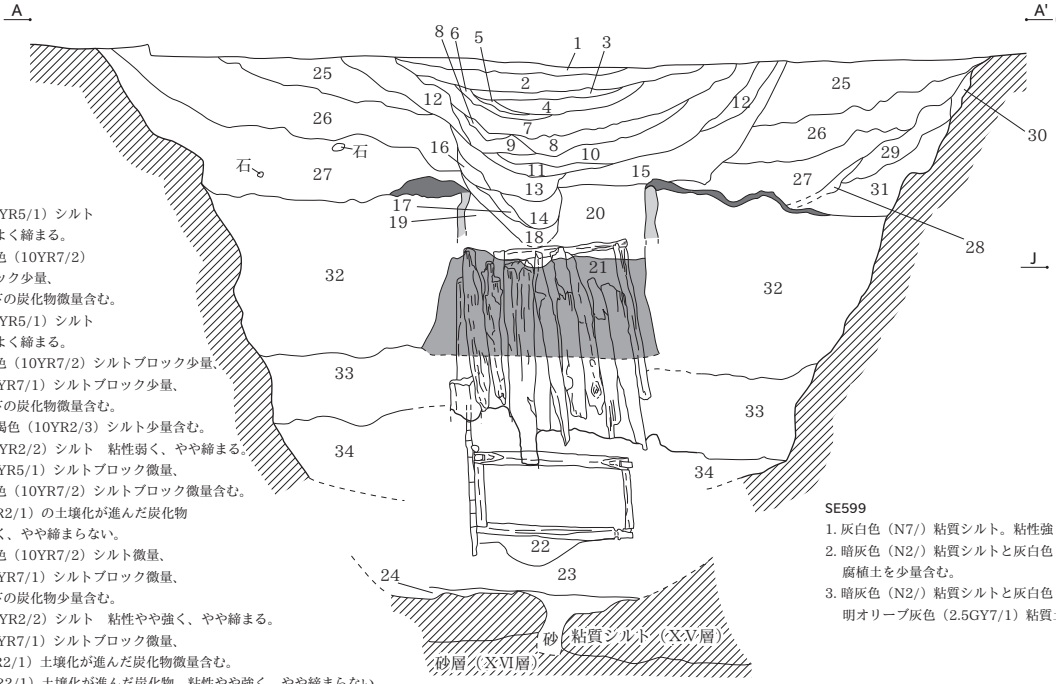


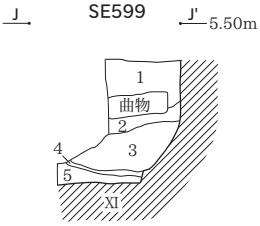
SE68
1. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。
浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量、砂礫微量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
3. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性やや弱く、締まる。帯状に褐灰色（10YR4/1）シルト多量含む。
4. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性やや弱く、締まる。φ10mm 以下の炭化物少量含む。
5. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性やや弱く、締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック多量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
6. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性やや強く、やや締まらない。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック多量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
7. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性やや強く、やや締まらない。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
8. 黒褐色（10YR3/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR8/4）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、よく締まる。
9. 黒褐色（10YR3/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR8/4）シルトのブロック充填。にぶい黄橙色シルトの割合高い。粘性やや弱く、よく締まる。
10. 黒色（10YR2/1）シルト。粘性やや強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
11. 黒色（10YR2/1）シルト。粘性やや強く、締まる。にぶい黄橙色（10YR8/4）シルトブロック多量含む。
12. 浅黄橙色（10YR8/3）シルトと黒褐色（10YR3/1）シルトのブロック充填。浅黄橙色シルトの割合高い。粘性やや強く、締まる。
13. 黒褐色（10YR3/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトが互層を成す。粘性やや強く、やや締まらない。
14. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト。粘性やや強く、締まる。黒褐色（10YR3/1）シルトブロック少量含む。
15. 浅黄橙色（10YR8/3）粘質シルト。粘性強く、締まる。まだらに褐灰色（10YR3/1）シルト少量、酸化鉄多量に沈着。
16. 明緑灰色（7.5GY7/1）粘質シルト。粘性強く、締まらない。灰白色（10YR8/1）粘質シルトブロック微量含む。

0　（1：40）　2m

SE65







SE65

1. 褐灰色（10YR5/1）シルト
粘性弱く、よく締まる。
にぶい黄橙色（10YR7/2）
シルトブロック少量、
φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 褐灰色（10YR5/1）シルト
粘性弱く、よく締まる。
にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロック少量、
灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量、
φ5mm 以下の炭化物微量含む。
まだらに黒褐色（10YR2/3）シルト少量含む。
3. 黒褐色（10YR2/2）シルト　粘性弱く、やや締まる。
褐灰色（10YR5/1）シルトブロック微量、
にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロック微量含む。
4. 黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭化物
粘性やや強く、やや締まらない。
にぶい黄橙色（10YR7/2）シルト微量、
灰白色（10YR7/1）シルトブロック微量、
φ5mm 以下の炭化物少量含む。
5. 黒褐色（10YR2/2）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
灰白色（10YR7/1）シルトブロック微量、
黒色（10YR2/1）土壌化が進んだ炭化物微量含む。
6. 黒色（10YR2/1）土壌化が進んだ炭化物　粘性やや強く、やや締まらない。
にぶい黄橙色（10YR7/2）シルト微量含む。
7. 褐灰色（7.5YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
褐灰色（7.5YR5/1）粘質シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
8. 黒褐色（7.5YR3/1）シルトと褐灰色（7.5YR4/1）粘質シルトのブロック充填。
φ5mm 以下の炭化物微量含む。
9. 褐灰色（7.5YR4/1）粘質シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、やや締まる。
10. 褐灰色（7.5YR4/1）粘質シルト　粘性やや強く、やや締まる。
灰白色（10YR8/2）シルトブロック微量含む。
11. 黒褐色（7.5YR3/1）シルトと褐灰色（7.5YR4/1）粘質シルトのブロック充填。
粘性やや強く、やや締まらない。
12. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。
にぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブロック少量含む。
13. 褐灰色（10YR5/1）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。
灰白色（10YR8/2）シルトブロック微量、明青灰色（5B7/1）粘質シルトブロック微量含む。
14. 暗灰色（N3/）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。
明青灰色（5B7/1）粘質シルトブロック微量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。

SE599

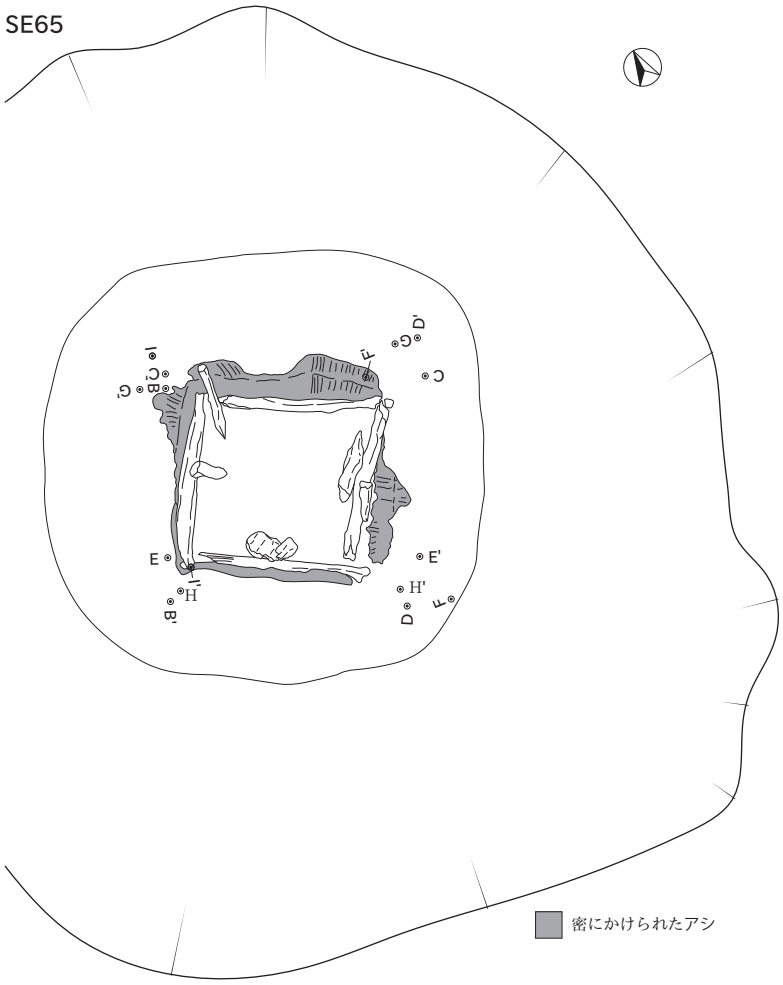
1. 灰白色（N7/）粘質シルト。粘性強く、締まらない。
2. 暗灰色（N2/）粘質シルトと灰白色（N7/）粘質シルトブロック充填。
腐植土を少量含む。
3. 暗灰色（N2/）粘質シルトと灰白色（N7/）粘質シルトと
明オリーブ灰色（2.5GY7/1）粘質土ブロック充填。腐植土を微量含む。

15. 黄灰色（2.5Y5/1）粘質シルトと浅黄色（2.5Y7/3）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
16. 灰色（N5/）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。明青灰色（5B7/1）粘質シルトブロック少量含む。
17. 灰色（N5/）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、やや締まらない。
18. 褐灰色（10YR5/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。明青灰色（5B7/1）粘質シルトブロック微量含む。
19. 灰色（N5/）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、やや締まらない。
20. 褐灰色（10YR5/1）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。
粘性強く、やや締まらない。
21. 褐灰色（10YR5/1）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。
20 層に比して、明青灰色（5B7/1）粘質シルトの割合高い。粘性強く、やや締まらない。
22. 暗青灰色（5B4/1）粘質土と明青灰色（5B7/1）粘質土のブロック充填。
粘性強く、締まらない。
23. 暗青灰色（5B4/1）粘質土と明青灰色（5B7/1）粘質土のブロック充填。
腐植土多量含む。粘性強く、締まらない。
24. 青黒色（5B1.7/1）砂　粘性やや弱く、締まらない。
青灰色（5B6/1）粘質土ブロック微量含む。
25. 褐灰色（10YR6/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。
粘性弱く、よく締まる。
26 層以下は図版 16 に記した。

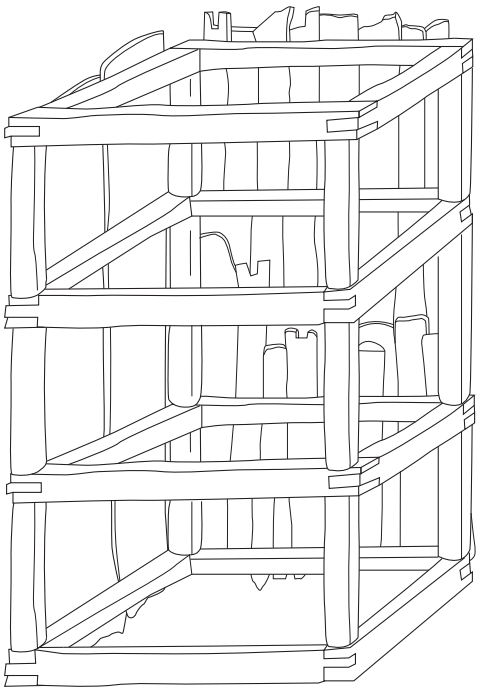
0　（1：40）　2m

SE65
26. 褐灰色（10YR6/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。25 層に比して、灰白色（10YR8/1）シルトの割合高い。粘性弱く、よく締まる。
27. 黒褐色（10YR3/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。自然礫微量含む。
28. 褐灰色（10YR6/1）シルトと灰白色（10YR7/1）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まる。
29. 褐灰色（10YR6/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。灰白色（10YR8/1）シルトの割合高い。粘性やや強く、よく締まる。
30. 黒褐色（10YR3/1）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、よく締まる。
31. 黒褐色（10YR3/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。
32. 暗灰色（N2/）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、やや締まる。
33. 暗灰色（N2/）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。明青灰色（5B7/1）粘質シルトの割合高い。粘性強く、やや締まらない。
34. 暗灰色（N2/）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。明青灰色（5B7/1）粘質シルトの割合高い。粘性強く、やや締まらない。細砂少量含む。

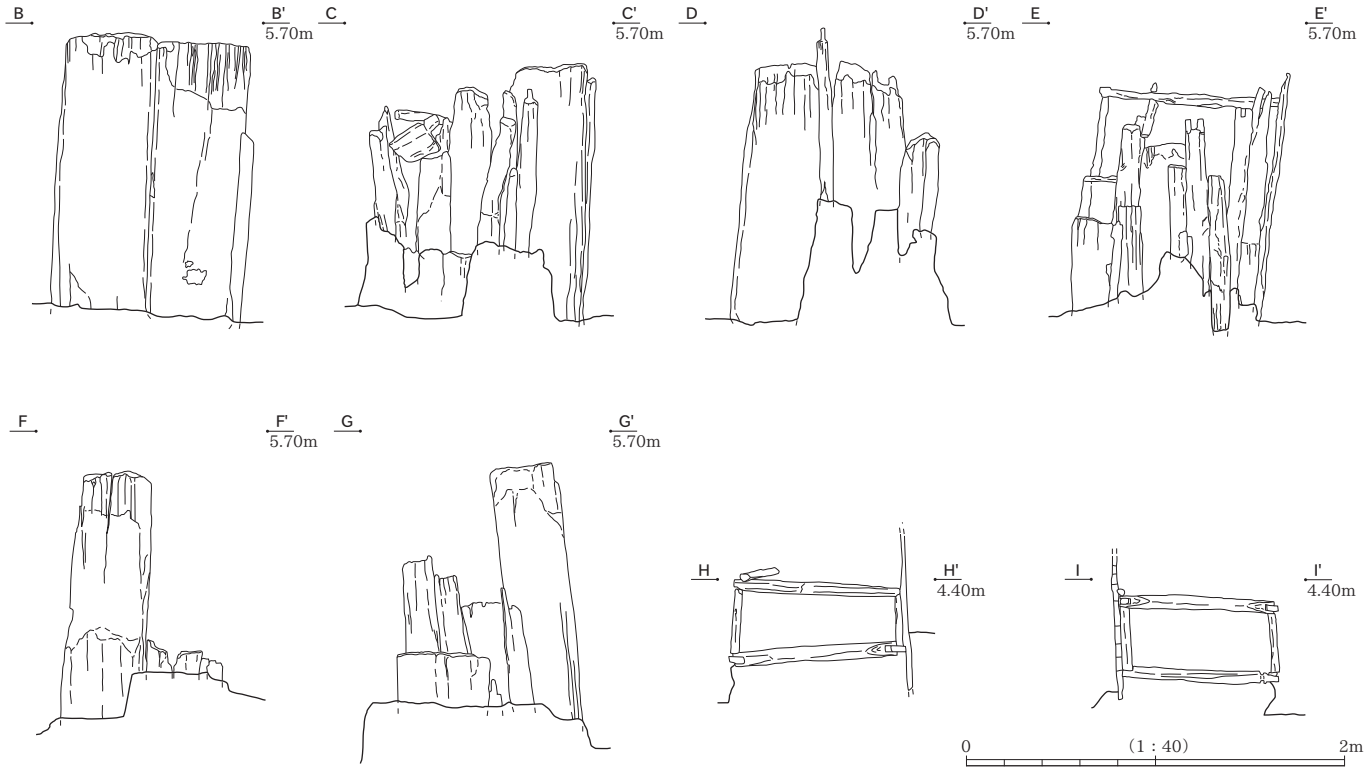
SE65



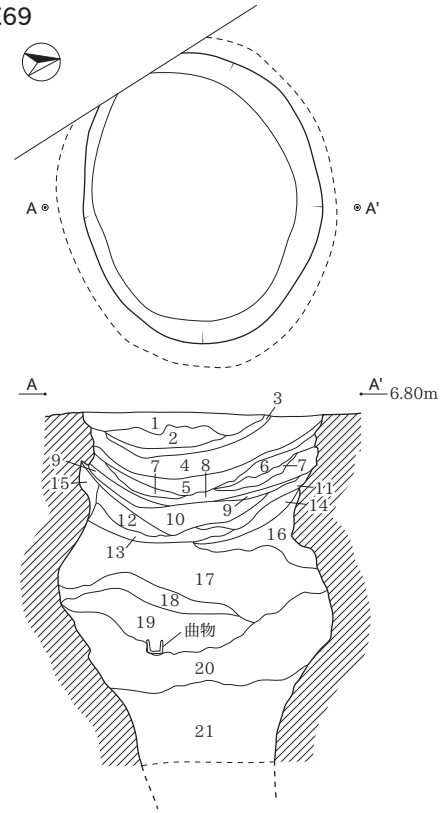
密にかけられたアシ



井戸側模式図（※縮尺任意）

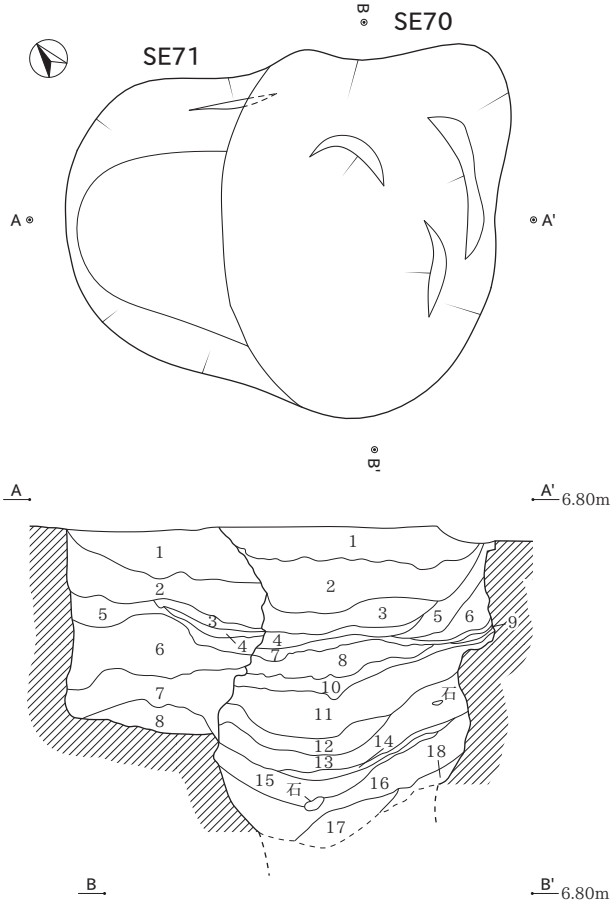


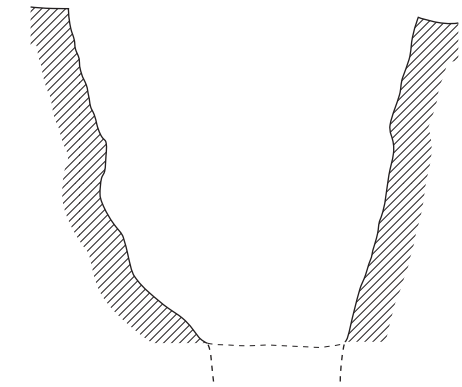
SE69



SE70

SE71





SE69

1. 灰黄褐色（10YR4/2）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトのブロック充填。
褐灰色（10YR4/1）シルトの割合高い。粘性弱く、締まる。
浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
2. 灰黄褐色（10YR4/2）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトのブロック充填。
灰黄褐色（10YR4/2）シルトの割合高い。粘性弱く、締まる。
黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭少量、浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量、
φ5mm 以下の炭化物少量含む。
3. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭　粘性やや強く、締まらない。
黒褐色（10YR2/3）シルトブロック多量、浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量、
φ7mm 以下の炭化物少量含む。
4. 暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性やや強く、締まる。
灰白色（10YR8/1）シルトブロック少量、まだらに褐灰色（10YR4/1）シルト少量、
φ3mm 以下の炭化物少量含む。
5. 暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性やや強く、締まる。
黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭少量、灰白色（10YR8/1）シルトブロック少量、
褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量、
10mm 角以下の炭化物少量含む。
6. 暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
黄褐色（10YR4/4）シルトブロック少量含む。
7. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭　粘性やや強く、締まらない。
20mm 角以下の炭化物少量含む。
8. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性強く、やや締まらない。
にぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブロック微量、φ10mm 以下の炭化物少量含む。
9. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭　粘性やや強く、締まらない。
10mm 角以下の炭化物多量含む。
10. 黄灰色（2.5Y4/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
灰白色（2.5Y7/1）粘質シルトブロック少量、浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量、
黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭多量、φ10mm 以下の炭化物少量含む。
11. 黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。
灰白色（2.5Y8/2）粘質シルトブロック微量、まだらに黄灰色（10YR5/1）粘質シルト少量含む。
12. 黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。
灰白色（2.5Y8/2）粘質シルトブロック微量含む。
13. 浅黄橙色（10YR8/4）粘質シルト　粘性やや強く、締まる。
褐灰色（2.5Y4/1）粘質シルトブロック少量含む。
14. 黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。
灰白色（2.5Y8/2）粘質シルトブロック微量含む。
15. 浅黄橙色（10YR8/3）粘質シルト　粘性やや強く、やや締まる。
まだらに褐灰色（7.5YR5/1）粘質シルト　粘性やや強く、やや締まる。
16. 浅黄橙色（10YR8/3）粘質シルト　粘性やや強く、やや締まる。
まだらに灰白色（2.5Y8/1）粘質シルト　粘性やや強く、やや締まる。
17. 灰（N5/）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
明青灰色（5B7/1）粘質土ブロック多量、φ1mm 以下の炭化物多量含む。
18. 明青灰色（5B7/1）粘質土　粘性強く、締まらない。
明青灰色（5B7/1）粘質土と灰（N5/）粘質シルトが断続的に互層を成す。
19. 明青灰色（5B7/1）粘質土　粘性強く、締まらない。
灰（N5/）粘質シルトブロック少量、
灰（N5/）粘質シルトが明青灰色（5B7/1）粘質土と断続的に互層を成す。
20. 明青灰色（5B7/1）粘質土　粘性強く、締まらない。
まだらに灰（N5/）粘質シルト少量含む。
21. 灰（N5/）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
明青灰色（5B7/1）粘質土ブロック多量含む。

SE71

1. 黒褐色（10YR3/2）シルトと灰白色（10YR7/1）シルトのブロック充填。
粘性弱く、よく締まる。φ10mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロック微量、φ10mm 以下の炭化物微量含む。

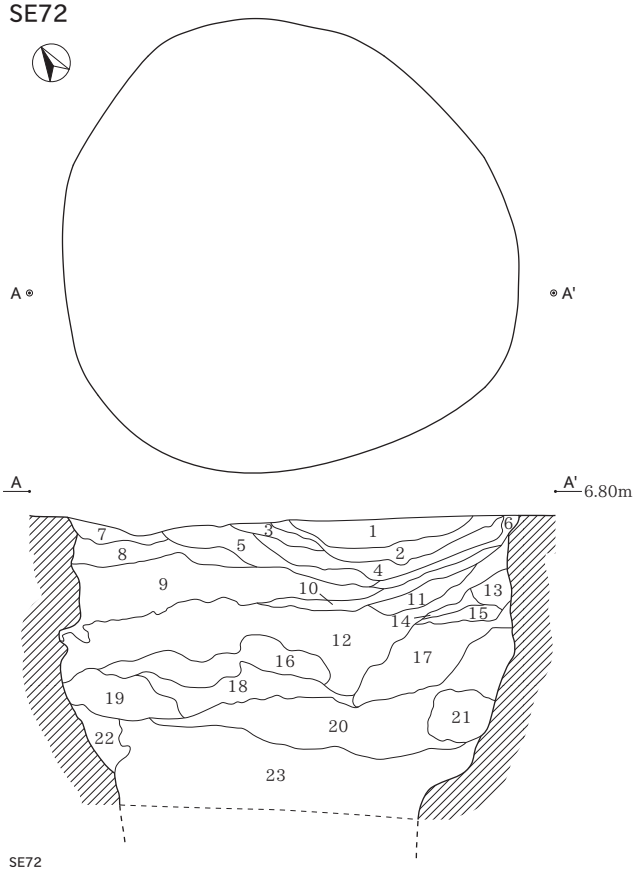
SE70

1. 暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性弱く、よく締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量、
φ10mm 以下の炭化物微量含む。
2. 暗褐色（10YR3/3）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトと灰白色（10YR7/1）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、やや締まる。黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭少量、φ10mm 以下の炭化物微量含む。
3. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭少量、灰黄褐色（10YR6/2）シルトブロック微量含む。
4. 褐灰色（10YR4.5/1）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。灰色（10YR7/1）粘質シルトブロック微量、
腐植土少量含む。
5. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや弱く、やや締まる。
にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロック多量含む。φ3mm 以下の炭化物微量含む。
6. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや弱く、やや締まる。にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトが層界にそって多量含む。
7. 褐灰色（10YR5/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
8. 灰白色（2.5Y8/2）粘質シルト　粘性やや強く、やや締まる。
9. 灰白色（2.5Y8/2）粘質シルト　粘性やや弱く、締まる。φ1mm 以下の炭化物微量含む。
10. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。15mm 角以下の炭化物微量含む。
11. 明青灰色（5B7/1）粘質土　粘性強く、やや締まらない。まだらに暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土少量含む。
12. 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土　粘性強く、やや締まらない。明青灰色（5B7/1）粘質土ブロック多量含む。
13. 黒色（2.5Y2/1）粘質土と黄灰色（2.5Y4/1）粘質土と明青灰色（5B7/1）粘質土のブロック充填。
粘性強く、締まらない。φ5mm 以下の炭化物微量含む。
14. 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土　粘性強く、締まらない。
15. オリーブ灰色（2.5GY6/1）粘質土　粘性強く、締まらない。
16. 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土　粘性強く、締まらない。明青灰色（5B7/1）粘質土ブロック多量含む。
17. 明青灰色（5B7/1）粘質土　粘性強く、締まらない。暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土ブロック微量含む。

3. 黒色（10YR1.7/1）シルトと黒色（10YR2/1）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、やや締まらない。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
4. 黒褐色（10YR3/2）シルトと灰黄褐色（10YR5/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。
5. 黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱く、やや締まる。明黄褐色（10YR7/6）シルトブロック少量含む。
6. 黒色（10YR1.7/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
まだらに黒褐色（10YR3/2）シルトブロック多量、浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。
7. オリーブ黒色（5Y3/1）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトブロック少量、浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。
8. 明青灰色（5B7/1）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。
まだらにオリーブ黒色（5Y3/1）粘質シルト微量含む。

0　（1：40）　2m

SE72

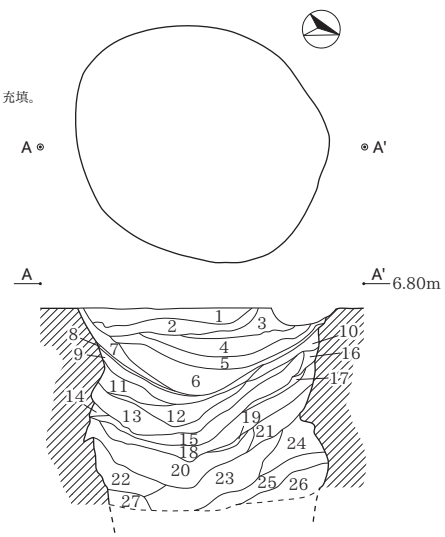


SE72
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。
　灰白（10YR8/2）シルトブロック少量、
　φ10mm 以下の炭化物微量、
　焼土ブロック少量、スサ状の植物遺体少量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。
　灰白（10YR8/2）シルトブロック多量、
　φ10mm 以下の炭化物少量、
　焼土ブロック微量、スサ状の植物遺体微量含む。
3. 灰白（10YR8/2）シルト　粘性弱く、よく締まる。
　まだらに褐灰色（10YR5/1）シルト少量含む。
4. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
　黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭少量、
　灰白（10YR8/2）シルトブロック少量、
　φ3mm 以下の炭化物少量、灰少量含む。
5. 灰白（10YR8/2）シルト　粘性弱く、よく締まる。
　まだらに褐灰色（10YR5/1）シルト少量、
　φ5mm 以下の炭化物微量含む。
6. 灰白（10YR8/2）シルト　粘性弱く、よく締まる。
　まだらに褐灰色（10YR5/1）シルト微量、
　スサ状の植物遺体微量含む。
7. 灰白（10YR8/2）シルト　粘性弱く、よく締まる。
8. 灰白（10YR7/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。
　まだらに褐灰色（10YR4/1）シルト少量、
　φ3mm 以下の炭化物微量含む。
9. 褐灰色（10YR4/1）シルトと灰白（10YR8/2）シルトのブロック充填。
　粘性やや強く、締まる。
10. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
　灰白（10YR8/1）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
11. 灰白（10YR8/2）シルト　粘性弱く、よく締まる。
　褐灰色（10YR5/1）シルトブロック微量含む。
12. 黒色（10YR2/1）シルトと褐灰色（10YR5/1）シルトと
　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトと灰白（10YR8/1）シルトの
　ブロック充填。 粘性やや弱く、よく締まる。
13. 灰白（10YR8/2）シルト　粘性弱く、よく締まる。
14. 黒色（10YR2/1）シルトと灰白（10YR8/1）シルトのブロック充填。
　粘性弱く、よく締まる。
15. 灰白（10YR8/2）シルト　粘性弱く、よく締まる。
16. 暗灰色（N3/）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。
　灰白色（N8/）粘質シルトブロック微量、
　灰色（N6/）粘質シルトブロック少量含む。
17. 灰白（10YR8/2）シルト　粘性やや弱く、締まる。
　暗灰色（N3/）粘質シルトブロック多量含む。
18. 暗灰色（N3/）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトの
　ブロック充填。粘性強く、締まらない。
　φ3mm 以下の炭化物微量含む。
19. 明青灰色（5B7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
　まだらに灰黄色（2.5Y6/2）粘質シルトブロック多量含む。
20. 明青灰色（5B7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
　黒褐色（2.5Y3/1）粘質シルトブロック微量含む。
21. 明青灰色（5B7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
　黒褐色（2.5Y3/1）粘質シルトブロック微量、細砂少量含む。
22. 明青灰色（5B7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
23. 明青灰色（5B7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
　黒褐色（2.5Y3/1）粘質シルトブロック微量、
　まだらに灰黄色（2.5Y6/2）粘質シルトブロック少量含む。

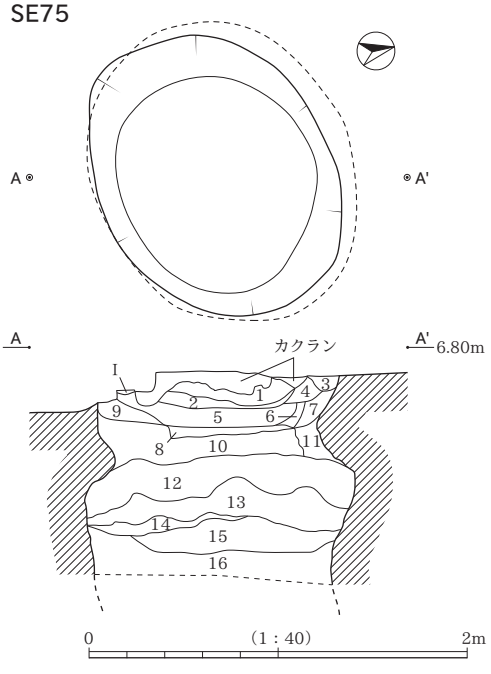
SE74
1. 褐灰色（10YR4/1）シルトと灰白色（10YR7/1）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
　φ5mm 以下の炭化物微量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。 暗褐色（7.5YR3/3）シルトブロック少量、
　灰白色（10YR8/1）シルトブロック微量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
3. 褐灰色（10YR4/1）シルトと灰白色（10YR7/1）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
　φ3mm 以下の炭化物微量、土壌化が進んだ炭少量含む。
4. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。暗褐色（7.5YR3/3）シルトブロック少量、
　灰白色（10YR8/1）シルトブロック少量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。
5. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。灰白色（10YR8/1）シルトブロック多量、
　φ1mm 以下の炭化物微量含む。
6. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。灰褐色（7.5YR4/2）シルトブロック少量、
　φ3mm 以下の炭化物微量含む。
7. 黒褐色（7.5YR3/2）シルト　粘性やや強く、やや締まる。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトブロック少量、
　φ3mm 以下の炭化物微量、土壌化が進んだ炭少量含む。
8. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭　粘性やや強く、締まらない。
9. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。黒褐色（7.5YR3/2）シルトブロック少量、
　φ5mm 以下の炭化物微量含む。
10. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト　粘性やや強く、締まる。
11. 褐色（10YR4/6）シルトと灰褐色（7.5YR4/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
12. 褐灰色（7.5YR4/1）粘質シルト　粘性やや強く、やや締まらない。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量含む。
13. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）粘質シルトブロック少量、
　φ1mm 以下の炭化物微量含む。
14. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、締まらない。
15. にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトと灰黄褐色（10YR6/2）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。
　10mm 角以下の炭化物少量、土壌化が進んだ炭少量含む。
16. 灰黄褐色（10YR6/2）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。
17. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
18. 褐灰色（10YR6/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
19. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
20. 黒褐色（10YR3/1）シルトと黒褐色（7.5YR3/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/2）シルトのブロック充填。
　粘性やや強く、やや締まる。
21. 灰黄褐色（10YR6/2）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。
22. 黒褐色（10YR3/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
23. 褐灰色（7.5YR4/1）シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。
　粘性強く、締まらない。φ5mm 以下の炭化物少量含む。
24. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、締まる。
25. 灰褐色（7.5YR5/2）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。
　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。
26. 灰褐色（7.5YR5/2）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトのブロック状充填。
　粘性強く、やや締まらない。
27. 黒色（N2/0）シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。
粘性強く、やや締まらない。φ1mm 以下の炭化物微量含む。

SE75
1. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭　粘性やや強く、締まらないφ20mm 以下の炭化物多量、浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量、
　褐色（7.5YR4/4）シルトブロック少量、土師器の細片を微量含む。
2. 黒色（10YR1.7/1）粘性やや強く、締まらない。φ20mm 以下の炭化物少量扁平した浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
3. 浅黄橙色（10YR8/4）シルトと褐灰色（10YR6/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトの割合が高い。
4. 褐灰色（10YR6/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/4）シルトのブロック充填。粘性やや強く、3 層よりも締まらない。
　褐灰色（10YR6/1）シルトの割合が高い。
5. 黒色（10YR1.7/1）粘性やや強く、締まらない。φ20mm 以下の炭化物少量、扁平した浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
6. 灰黄褐色（10YR5/2）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、やや締まる。
7. 浅黄橙色（10YR8/4）シルトと褐灰色（10YR6/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトの割合が高い。
8. 黒色（10YR1.7/1）粘性やや強く、締まらない。φ20mm 以下の炭化物少量、扁平した浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、灰多量含む。
9. 浅黄橙色（10YR8/4）シルトと褐灰色（10YR6/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。
10. 浅黄橙色（10YR8/4）シルトと褐灰色（10YR6/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）砂質シルトブロック充填。
　粘性やや弱く、締まるが、砂質シルトブロックはよく締まり、周囲には酸化鉄が沈着する。
11. 浅黄橙色（10YR8/4）シルトと褐灰色（10YR6/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。
12. 黄橙色（10YR8/4）シルトと褐灰色（10YR6/1）シルトと灰黄褐色（10YR4/2）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。
13. 黄橙色（10YR8/4）シルトと褐灰色（10YR6/1）シルトと灰黄褐色（10YR4/2）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。細砂少量含む。
14. 黒色（10YR1.7/1）粘性やや強く、締まらない。
15. 黄橙（10YR8/6）シルトブロックと褐灰色粘質シルトと浅黄橙色（10YR8/3）砂質シルトブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
　砂質シルトブロックはよく締まる。16 層との層界は酸化鉄の沈着が顕著である。
16. 明青灰（5B7/1）粘質シルトブロックと黒褐色（10YR2/2）粘質シルトブロック充填。粘性強く、締まらない。φ10mm 以下の炭化物微量含む。

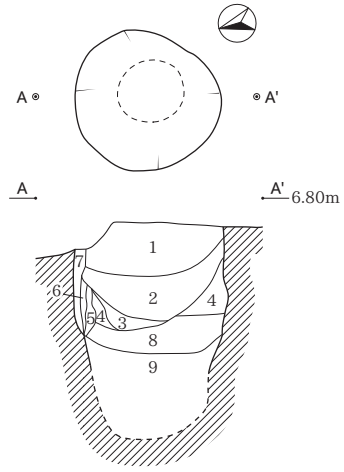
SE74



SE75

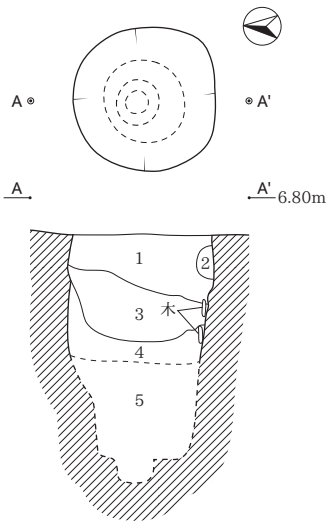


SE103



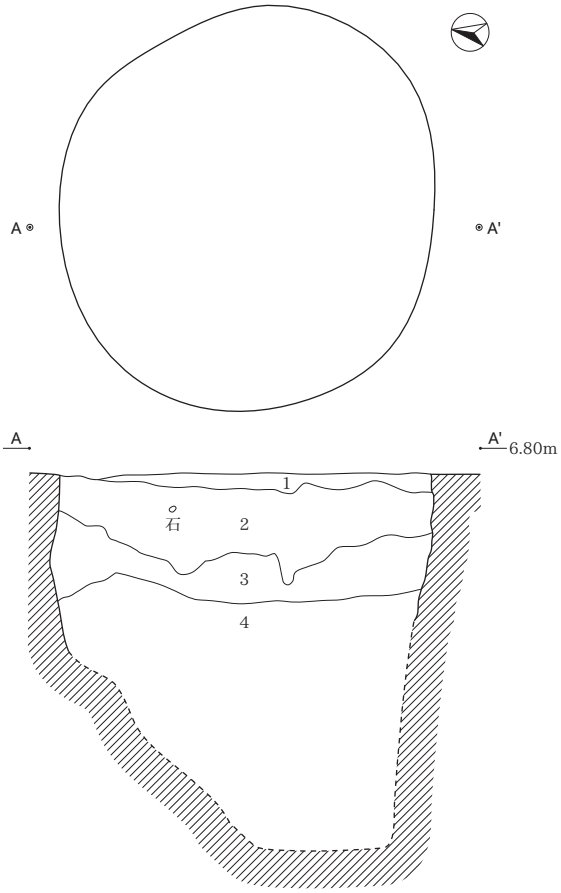
SE103
1. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（10YR7/1）シルトブロック多量、
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 極暗褐色（7.5YR）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（10YR7/1）シルト少量、
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（10YR7/1）シルト少量、
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
5. 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
6. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
7. 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、締まる。
8. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
9. 黒色（7.5YR1.7/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。

SE104



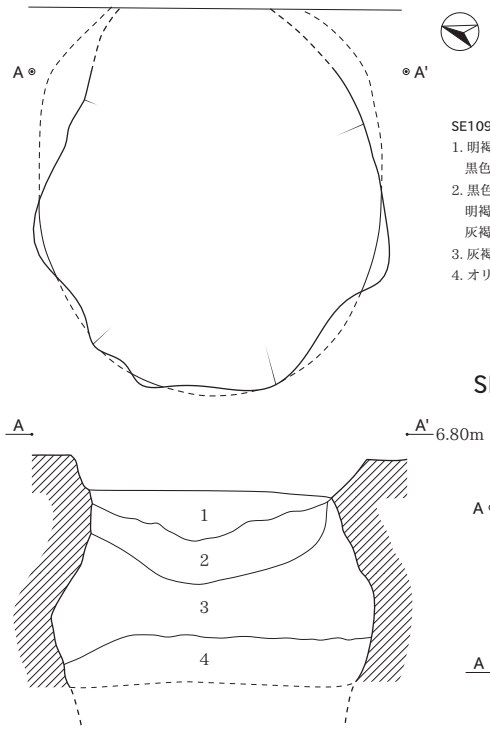
SE104
1. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性強く、よく締まる。
　明褐灰色（10YR7/1）シルトブロック多量。
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、よく締まる。
　明褐灰色（10YR7/1）シルトブロック多量、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
3. 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、よく締まる。
　明褐灰色（10YR7/1）シルトブロック多量、
　まだらに黒色（7.5YR2/1）シルト多量含む。
4. 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、締まる。
5. 黒色（7.5YR2/1）腐植土多量含む。

SE107



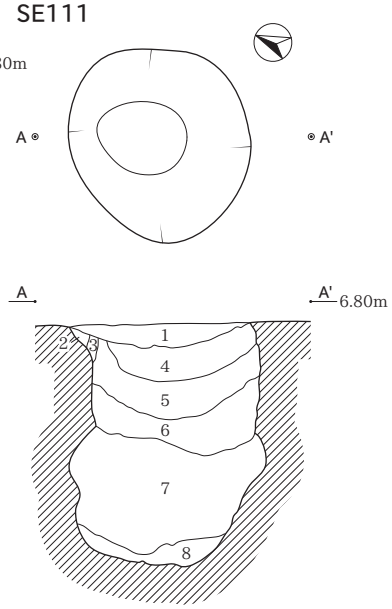
SE107
1. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量、
　オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト少量。
2. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトブロック少量含む。
3. オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト　粘性強く、締まる。
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。
4. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。

SE109



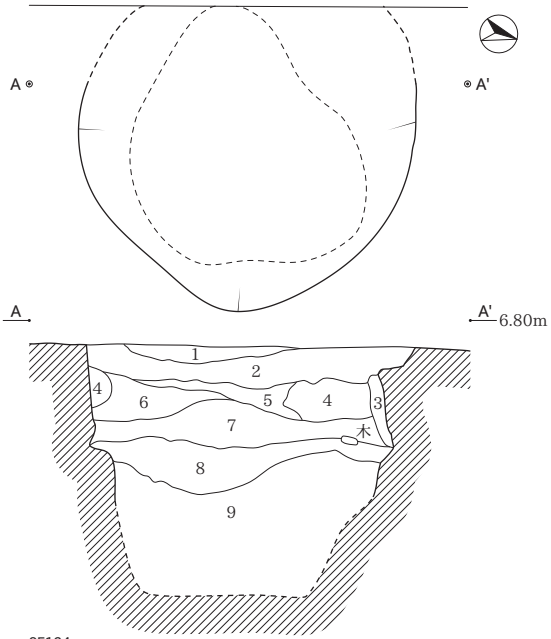
SE109
1. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
2. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック少量含む。
3. 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、締まる。
4. オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト　粘性強く、締まる。

SE111



SE111
1. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　明褐灰色シルトブロック少量含む。
2. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト
3. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　極暗褐色シルトブロック少量含む。
　酸化鉄中量。
4. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　極暗褐色シルトブロック少量含む。
5. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　極暗褐色シルトブロック少量含む。
6. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　明褐灰色シルトブロック少量含む。
7. 黒色（7.5YR1.7/1）の腐植土。樹皮多量含む。
8. 黒色（7.5YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭。

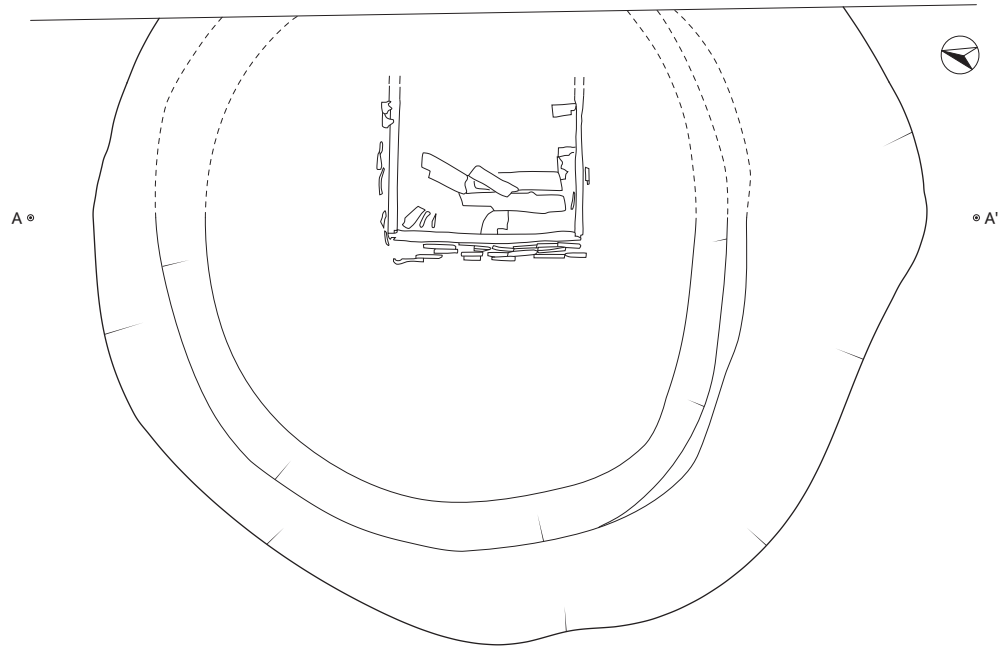
SE124

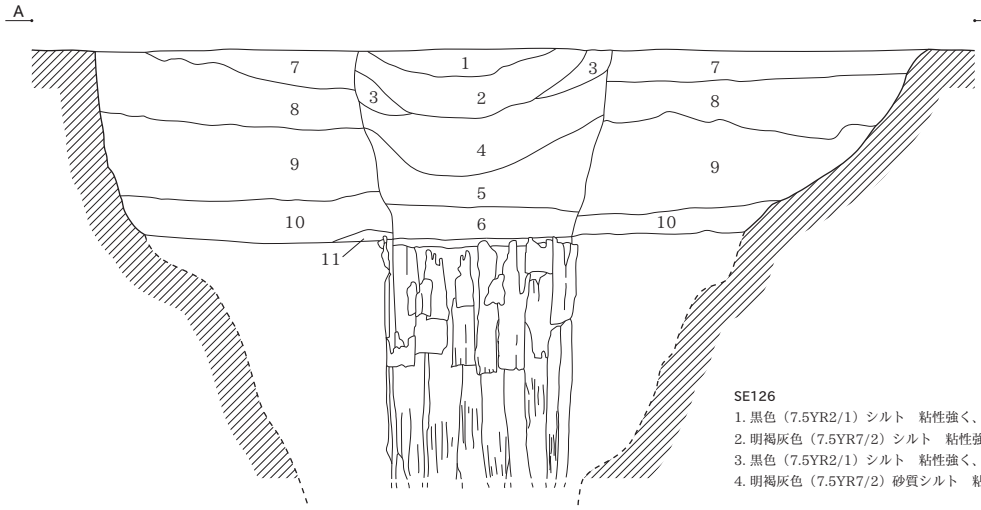


SE124
1. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
3. 明褐色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
4. 明褐色（7.5YR7/2）砂質シルト　粘性弱く、締まる。
5. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
6. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
7. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
8. 黒色（7.5YR1.7/1）シルト　粘性強く、締まらない。
　φ2mm 以下の炭化物多量、木端多量含む。
9. オリーブ灰色（2.5G6/1）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。

0　（1：40）　2m

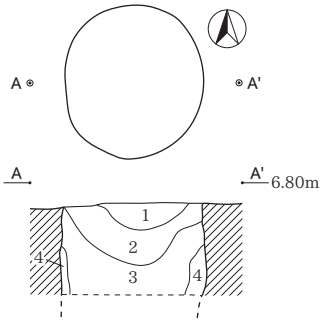
SE114





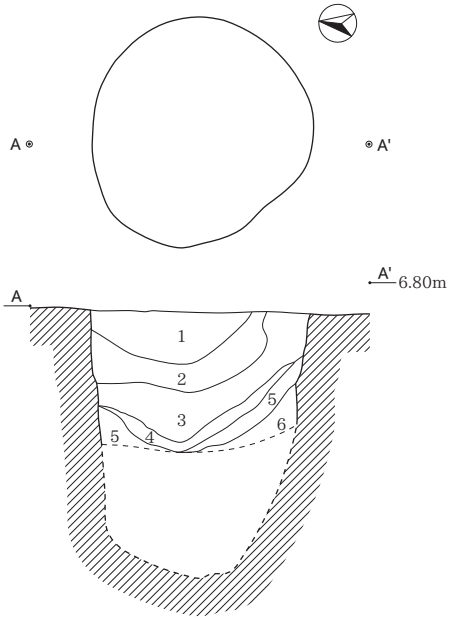
SE114
1. 暗褐灰色（7.5YR3/4）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
2. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性やや強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　灰褐色（7.5YR5/2）シルトブロック多量含む。
4. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量含む。
5. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性やや強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトブロック少量含む。
6. オリーブ灰色（2.5GY6/1）粘質シルト
　粘性強く、締まらない。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
7. 明褐灰色シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
8. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
9. 明褐灰色（7.5YR2/3）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
10. 明褐灰色（7.5YR2/3）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
11. 明褐灰色（7.5YR2/3）シルト　粘性強く、締まる。

SE126



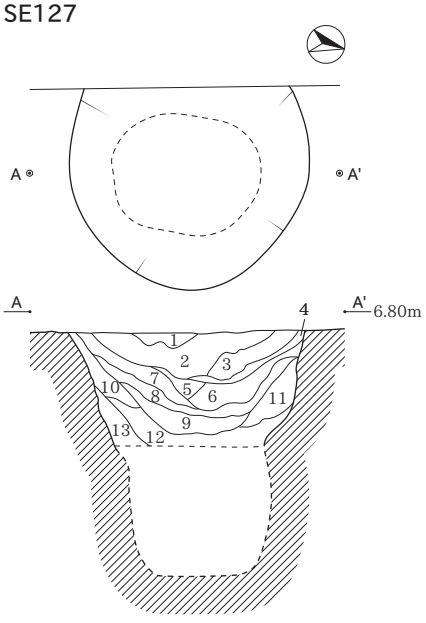
SE126
1. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
2. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。黒色（7.5YR2/1）シルト帯状に多量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
4. 明褐灰色（7.5YR7/2）砂質シルト　粘性弱く、締まる。黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。

SE125



SE125
1. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量、φ20mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、φ20mm 以下の炭化物多量含む。
3. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量、φ20mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒色（7.5YR2/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性やや強く、締まらない。
5. 黒色（7.5YR1.7/1）シルト　粘性強く、締まる。φ5mm 以下の炭化物多量含む。
6. オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト　粘性強く、締まる。黒色（7.5YR1.7/1）シルトブロック少量含む。

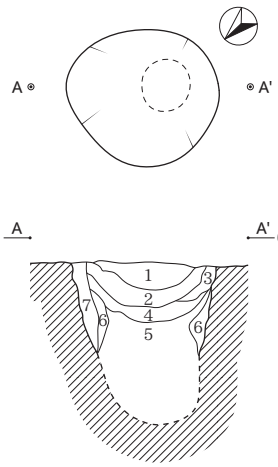
SE127



SE127
1. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
4. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
5. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量、
　炭化物少量含む。
6. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
7. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　φ10mm 以下の炭化物少量含む。
8. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
9. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
10. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
11. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
12. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
13. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　φ10mm 以下の炭化物少量含む。

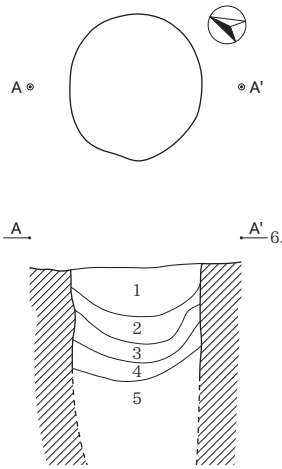
0　（1：40）　2m

SE128



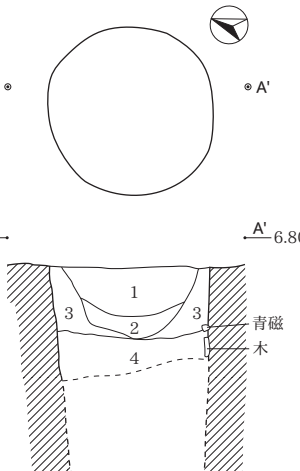
SE128
1. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量含む。
2. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　オリーブ灰色（2.5GY5/1）ブロック多量、
　φ10mm 以下の砂礫多量含む。
4. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　オリーブ灰色（2.5GY5/1）シルト含む少量含む。
5. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量、
　オリーブ灰色シルトブロック多量含む。
6. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　オリーブ灰色シルトブロック少量含む。
7. オリーブ灰色（2.5GY5/1）シルト　粘性強く、締まる。
　オリーブ灰色（2.5GY5/1）シルトブロック多量含む。

SE129



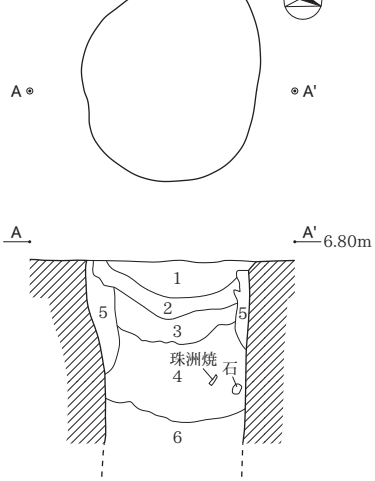
SE129
1. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 明褐色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
4. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シシルトブロック少量含む。
5. オリーブ灰色（2.5G6/1）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。

SE130



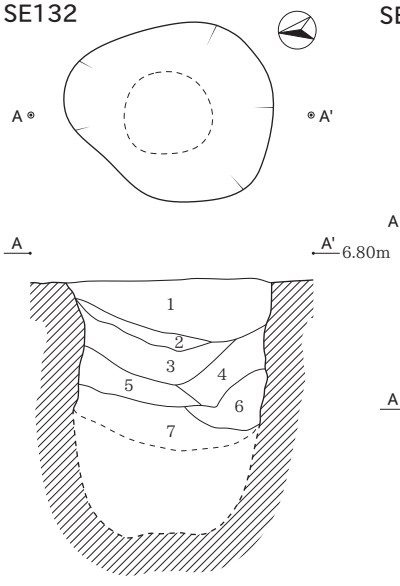
SE130
1. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量、
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。
3. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
　黒色（7.5YR2/1）シルトブロック多量含む。
4. 黒色（7.5YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭充填。
　粘性弱く、締まらない。φ2mm 以下の炭化物多量、
　木端多量含む。

SE148



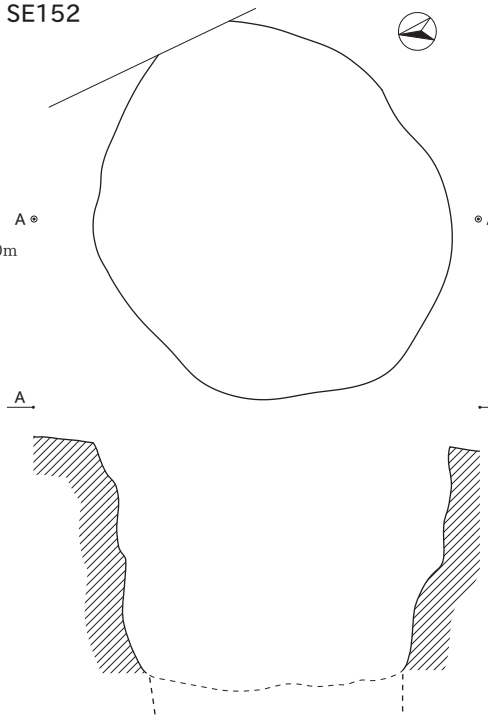
SE148
1. 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐色（7.5YR5/6）シルトブロック少量、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、締まる。
　明褐色（7.5YR5/6）シルトブロック多量、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
3. 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、締まる。
　オリーブ灰色（10Y6/2）シルトブロック多量、
　φ5mm 以下の炭化物多量含む。
4. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック多量、
　φ5mm 以下の炭化物多量含む。
5. 明褐灰色（7.5YR7/2）砂質シルト　粘性強く、締まらない。
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック多量含む。
6. 暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）シルト　粘性強く、締まらない。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量、
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック多量含む。

SE132

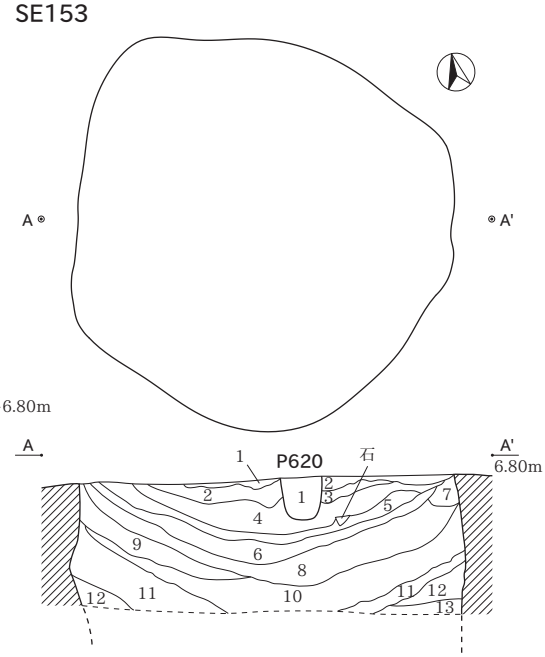


SE132
1. 黒色（7.5YR2/1）　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
　φ2mm 以下の炭化物少量、灰少量含む。
2. 褐灰色（7.5YR5/1）　粘性強く、締まる。
　φ30mm 以下の炭化物多量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）　粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒色（7.5YR2/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性強く、締まらない。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
5. 黒色（7.5YR2/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性強く、締まらない。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
6. 黒色（7.5YR2/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。
7. 黒色（7.5YR2/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性強く、やや締まらない。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。

SE152



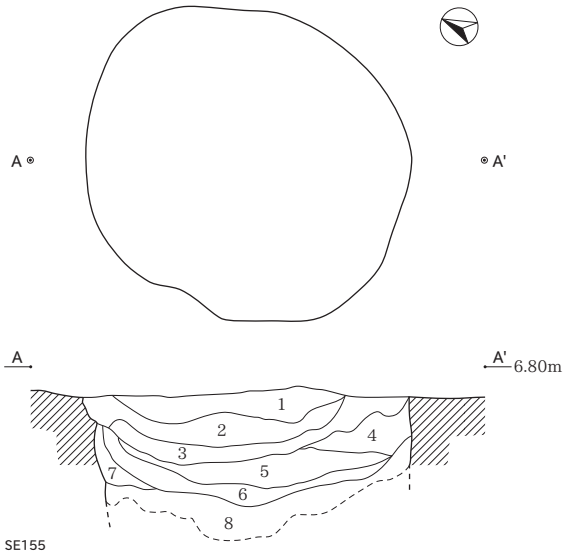
SE153



SE153
1. 灰褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性強く、締まる。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 灰褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量含む。
3. 灰褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性強く、締まる。極暗褐色（7.5YR2/3）シルトブロック少量含む。
4. 極暗褐色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、
　下部にφ2mm 以下の炭化物が帯状に少量含む。
5. 極暗褐色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量含む。
6. 極暗褐色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
7. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
8. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトが帯状に少量含む。
9. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量含む。
10. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性強く、締まる。オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルトブロック多量、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
11. オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト　粘性強く、締まらない。極暗褐色（7.5YR2/3）シルトが帯状に多量、
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。
12. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まらない。極暗褐色（7.5YR2/3）シルトブロック少量含む。
13. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性強く、締まらない。オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルトブロック少量含む。

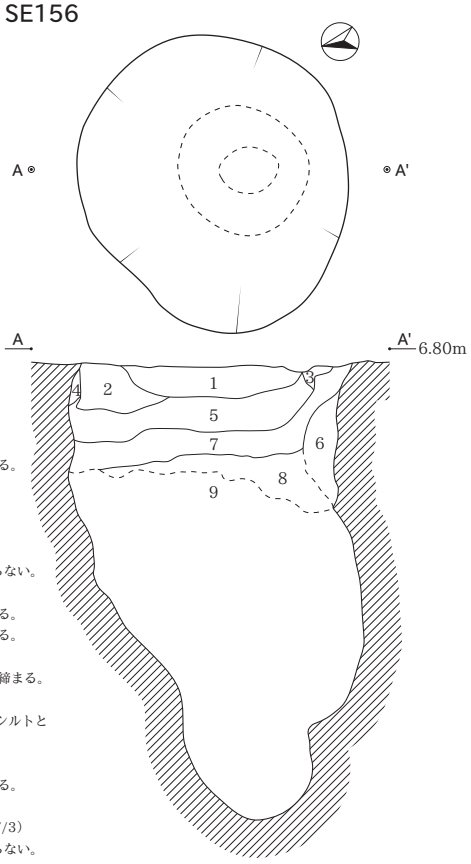
0　（1：40）　2m

SE155



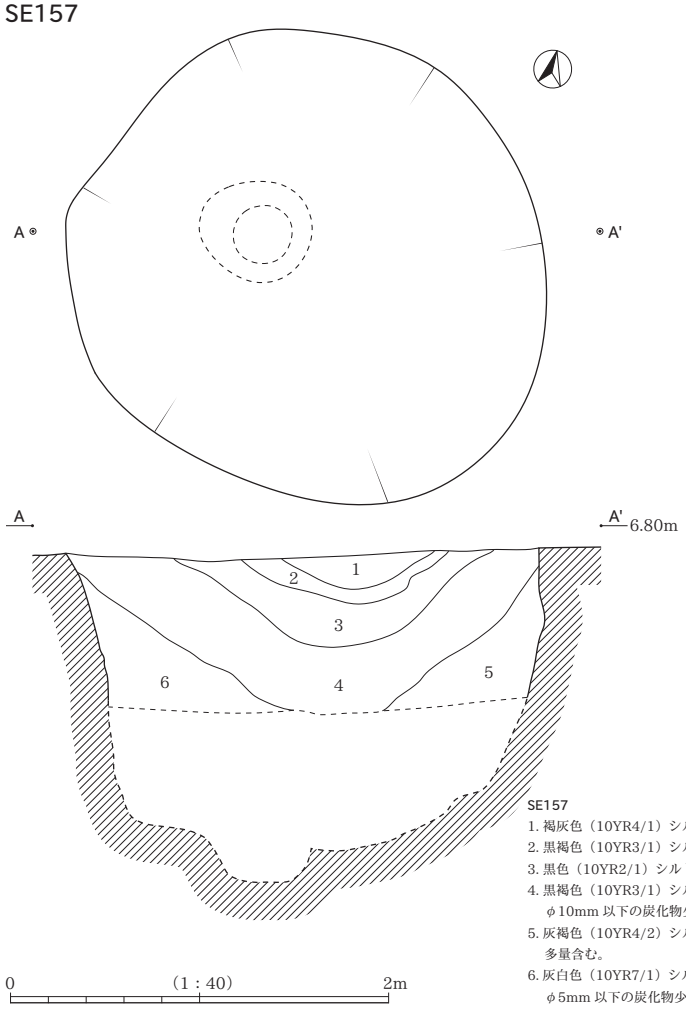
SE155
1. 褐灰色（10YR5/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）シルトのブロック充填。
粘性弱く、よく締まる。φ5mm 以下の炭化物微量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルトと褐灰色（10YR5/1）シルトと
灰白色（10YR7/1）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
φ5mm 以下の炭化物微量含む。
3. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
褐灰色（10YR6/1）粘質シルトブロック微量、
にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロック微量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。
4. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
褐灰色（10YR6/1）シルト少量、灰白色（10YR8/1）シルト少量、
φ3mm 以下の炭化物微量含む。
5. 黒褐色（10YR3/1）シルトと褐灰色（10YR6/1）シルトと
灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、締まる。
6. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。
灰白色（10YR7/1）シルトブロック微量、φ10mm 以下の炭化物少量含む。
7. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。
灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
8. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。
灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量、土壌化が進んだ炭多量、
φ10mm 以下の炭化物少量含む。

SE156



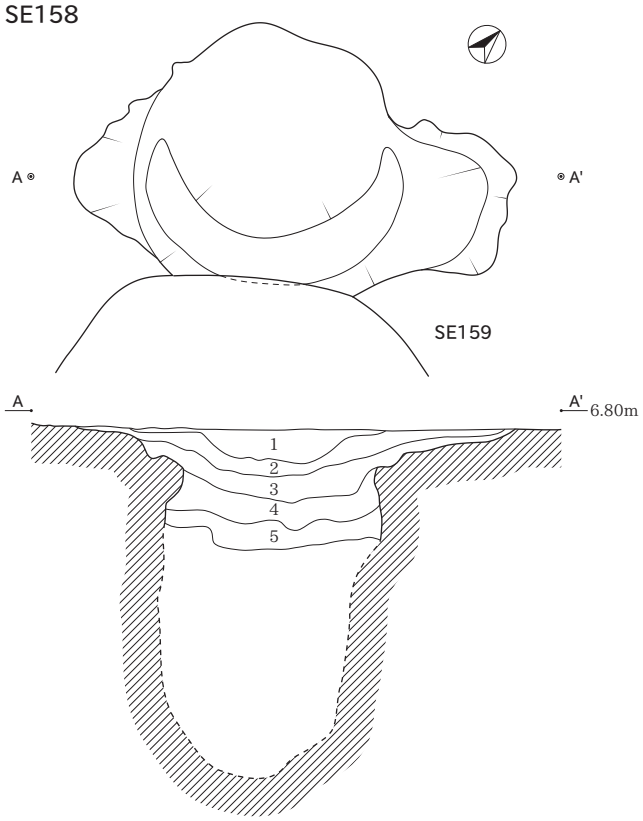
SE156
1. 灰白色（10YR8/2）シルト
粘性やや強く、やや締まらない。
褐灰色（10YR5/1）シルトブロック少量、
φ3mm 以下の炭化物微量、細砂少量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。
黒褐色（10YR3/2）シルトブロック少量、
灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量、
φ5mm 以下の炭化物微量含む。
3. 褐灰色（10YR5/1）シルトと灰白色（10YR8/2）
シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。
φ5mm 以下の炭化物微量含む。
4. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
5. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
灰白色（10YR7/1）シルトブロック微量含む。
6. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
細砂微量含む。
7. 黒色（10YR2/1）シルトと暗赤褐色（5YR3/2）シルトと
灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、やや締まる。
8. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
灰白色（10YR7/1）シルトブロック微量含む。
9. 黒色（10YR2/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/3）
シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。

SE157

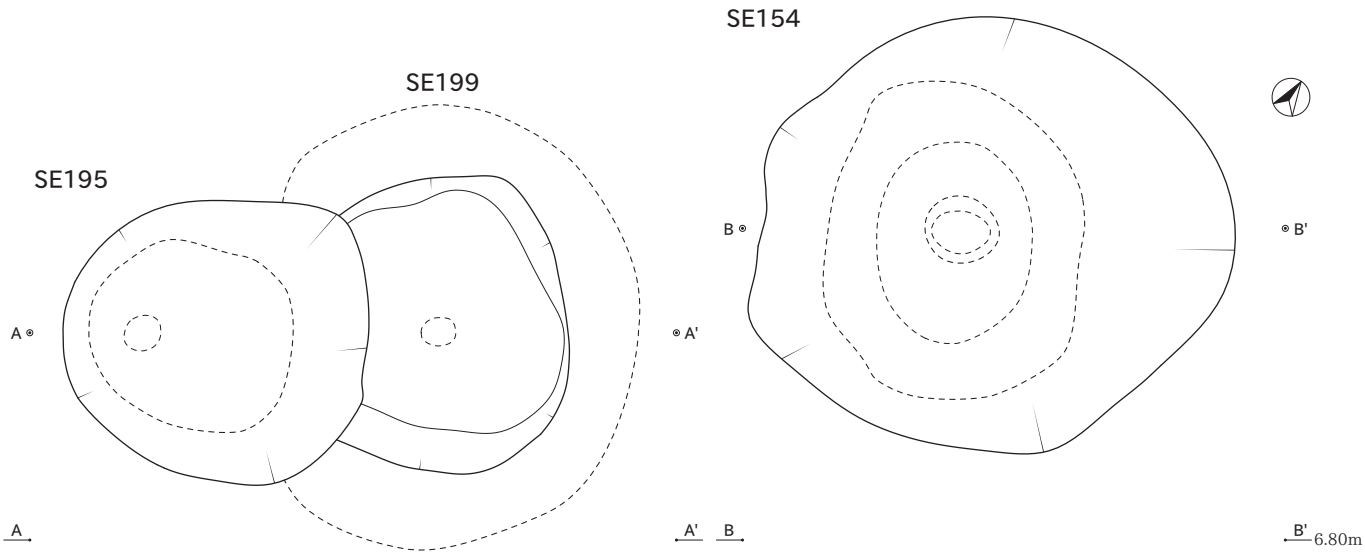


SE157
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
3. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量、
φ10mm 以下の炭化物少量含む。
5. 灰褐色（10YR4/2）シルト　粘性やや強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量、灰白色（10YR7/1）シルトブロック
多量含む。
6. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性強く、締まる。まだらに黒色（10YR1.7/1）シルト微量、
φ5mm 以下の炭化物少量含む。

SE158



SE158
1. にぶい褐色（2.5YR5/4）シルト。明褐色（10YR8/4）シルトブロック多量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒色（7.5YR2/1）シルト。明褐色（10YR8/4）シルトブロック微量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）シルト。明褐色（10YR8/4）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒色（7.5YR2/1）シルト　明褐色（10YR8/4）シルトブロック少量含む
5. 黒色（7.5YR2/1）シルト　明褐色（10YR8/4）シルトブロック少量含む。



SE195

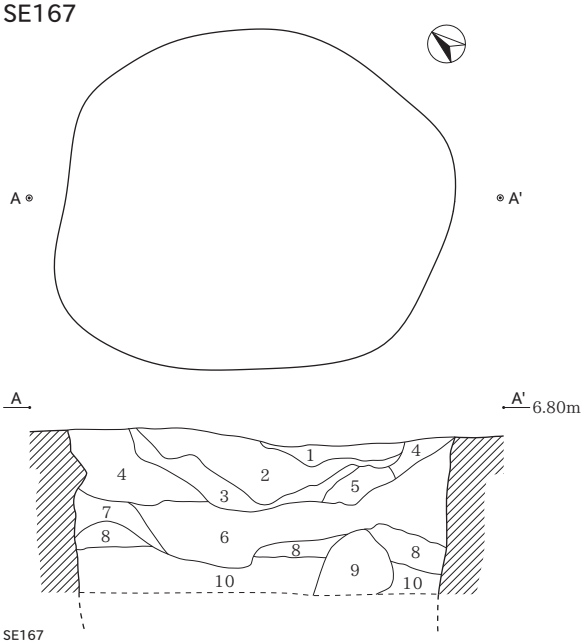
1. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。にぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブロック少量、
φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. にぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブ　粘性弱く、よく締まる。褐灰色（10YR5/1）シルトブロック少量、
φ3mm 以下の炭化物微量含む。
3. にぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブ　粘性弱く、よく締まる。黒色（10YR2/1）シルトブロック微量、
褐灰色（10YR5/1）シルトブロック少量、
φ3mm 以下の炭化物微量含む。
4. 黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭充填。　粘性やや強く、締まらない。
5. 黒褐色（10YT3/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロック少量、
φ5mm 以下の炭化物少量含む。
6. 黒褐色（7.5YR2/2）シルト　粘性やや強く、締まる。にぶい黄褐色（10YR5/4）シルトブロック微量含む。
7. 灰褐色（7.5YR4/2）シルトと浅黄橙色（10YR8/4）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まる。
8. 黒褐色（7.5YR2/2）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
にぶい黄褐色（10YR5/4）シルトブロック微量含む。
9. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
10. 明黄褐色（10YR6/6）シルト　粘性弱く、よく締まる。
黒褐色（10YR2/2）シルトブロック少量含む。酸化鉄の沈着が顕著でジャリジャリする。
11. 明黄褐色（10YR6/6）シルト　粘性弱く、よく締まる。酸化鉄の沈着が顕著でジャリジャリする。
12. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。まだらに灰白色（10YR7/1）シルト少量含む。
13. 明黄褐色（10YR6/6）シルト　粘性弱く、よく締まる。
14. 黒褐色（7.5YR2/2）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
にぶい黄褐色（10YR5/4）シルトブロック微量含む。
15. 明青灰色（10BG7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。灰色（N4/）粘質シルトブロック少量含む。
16. 明青灰色（10BG7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
17. 明青灰色（10BG7/1）粘質土　粘性強く、締まらない。

SE199

1. 明黄褐色（10YR6/6）シルト　粘性弱く、よく締まる。
2. 明黄褐色（10YR6/6）シルト　粘性弱く、よく締まる。1 層に比してやや明るい色調。
3. にぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブ　粘性弱く、よく締まる。褐灰色（10YR5/1）シルトブロック少量含む。
4. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
5. 灰白色（2.5Y8/2）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
6. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
7. 黒褐色（7.5YR2/2）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。明青灰色（5B7/1）粘質シルトブロック少量含む。
8. 黒褐色（7.5YR2/2）シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、締まらない。
土壌化が進んだ炭多量含む。
9. 明青灰色（10BG7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
10. 明青灰色（10BG7/1）粘質土　粘性強く、締まらない。
11. 明青灰色（10BG7/1）粘質土　粘性強く、締まらない。まだらに暗灰色（N3/）粘質シルト少量含む。

SE154

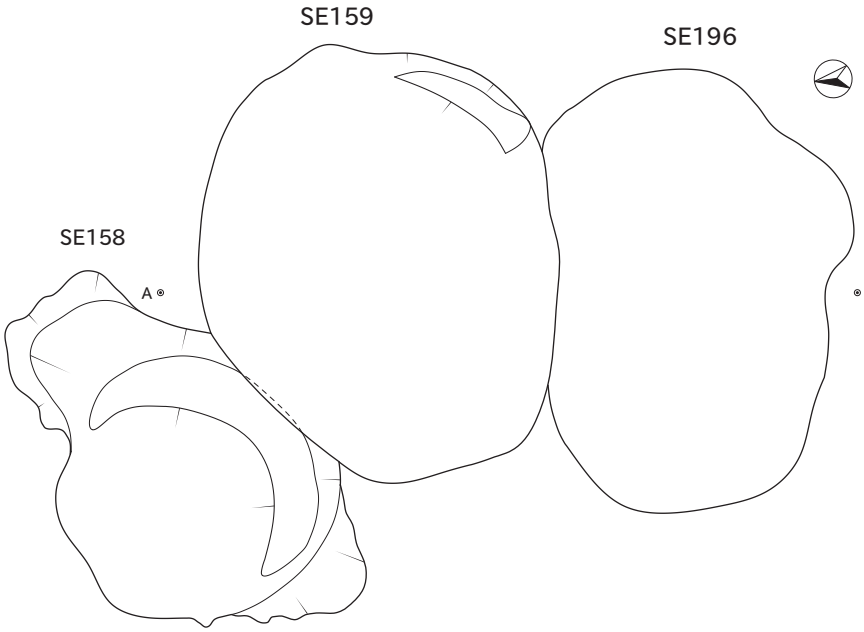
1. 黒褐色（2.5Y3/1）シルトと灰白色（2.5Y8/1）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
灰白色（2.5Y8/1）シルト 30mm 角以下の炭化物少量含む。
2. 灰白色（2.5Y8/1）砂質シルト　粘性弱く、よく締まる。
黒褐色（2.5Y3/1）シルトブロック少量含む。3 層との層界は、黒褐色（2.5Y3/1）シルトブロックの堆積状況から識別。
3. 灰白色（2.5Y8/1）砂質シルト　粘性弱く、よく締まる。
黒褐色（2.5Y3/1）シルトブロック少量含む。4 層との層界は、粘性と締まりから識別。
4. 灰白色（2.5Y8/1）砂質シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
黒褐色（2.5Y3/1）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。5 層との層界は、粘性と締まりから識別。
5. 灰白色（2.5Y8/1）砂質シルト　粘性強く、締まらない。黒褐色（2.5Y3/1）シルトブロック少量含む。



SE167

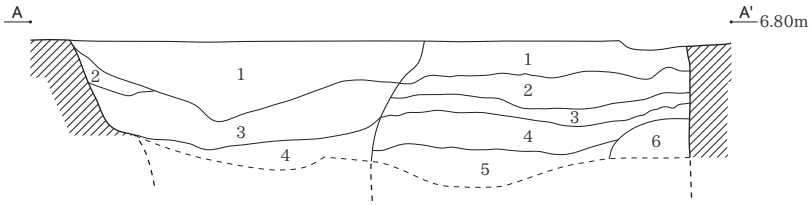
1. 黒色（10YR2/1）シルトと黒褐色（10YR3/2）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）
シルトのブロック充填。粘性やや弱く、よく締まる。
2. にぶい黄橙色（10YR7/4）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
黒褐色（10YR3/2）シルトブロック少量含む。
3. にぶい黄橙色（10YR7/4）シルト　粘性やや弱く、締まる。
黒褐色（10YR3/2）シルトブロック微量含む。
4. 黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
灰白色（10YR8/1）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
5. 黒褐色（10YR3/2）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、締まる。
6. 黒褐色（10YR3/2）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、やや締まらない。φ10mm 以下の炭化物少量含む。
7. にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
8. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
9. にぶい黄橙色（10YR7/4）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
10. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性強く、やや締まらない。
黒褐色（10YR3/1）シルトブロック微量含む。

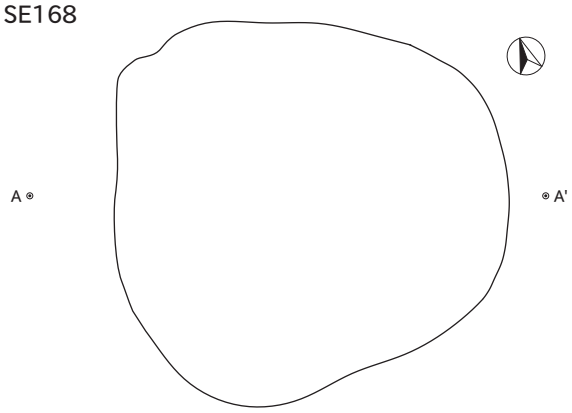
0　（1：40）　2m

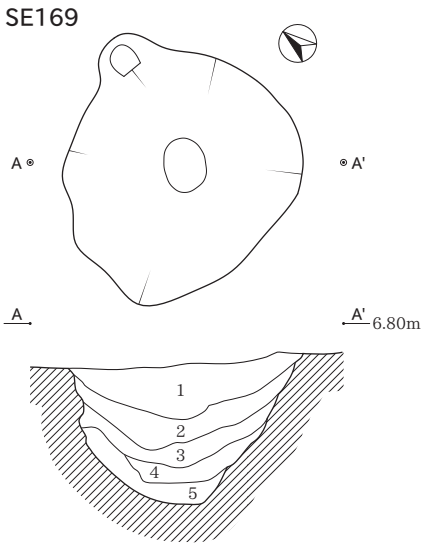


SE159
1. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性弱く、よく締まる。
明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
にぶい褐色（7.5YR5/4）シルトブロック少量含む。
3. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、締まる。
にぶい褐色（7.5YR5/4）シルトブロック多量含む。
4. オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト　粘性強く、よく締まる。
にぶい褐色（7.5YR5/4）シルトブロック少量含む。

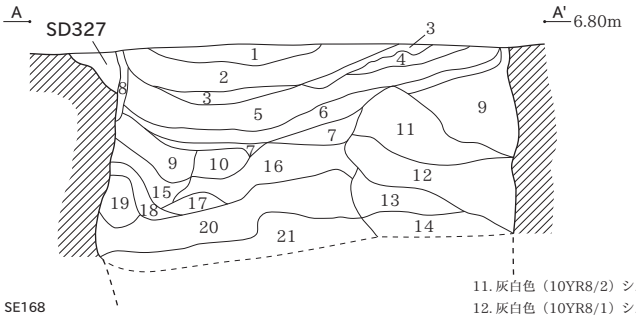
SE196
1. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性強く、よく締まる。
にぶい褐色（7.5YR5/4）シルトブロック少量、
φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性強く、よく締まる。
黒色（7.5YR2/1）シルト多量含む。
3. 黒色（7.5YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性弱く、締まらない。
オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルトブロック微量、木端多量含む。
4. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量、オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト多量、
φ2mm 以下の炭化物多量含む。
5. 黒色（7.5YR2/1）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。
浅黄橙色（10YR8/3）シルト少量、オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト少量、φ2mm 以下の炭化物多量含む。
6. オリーブ灰色シルト（2.5GY6/1）　粘性強く、締まる。
黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量、5 層との層界に酸化鉄多量含む。

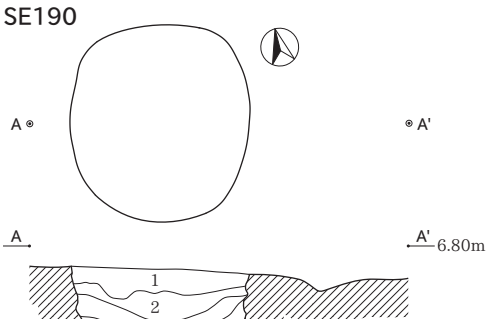






SE169
1. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。
浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、
灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
2. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
黒色（10YR2/1）シルトブロック少量、
浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
3. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性弱く、締まらない。
浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、
灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
4. 灰白色（10YR7/1）砂質シルト　粘性弱く、締まらない。
黒色（10YR2/1）シルトブロック少量、
浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
5. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト。粘性弱く、締まらない。



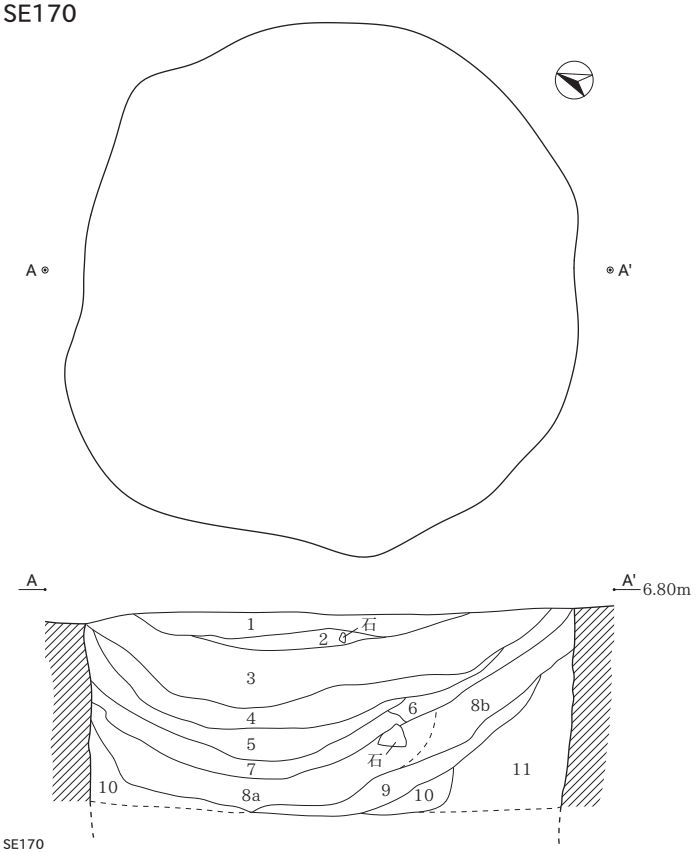


SE168
1. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
褐灰色（10YR6/1）シルトブロック微量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/2）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、よく締まる。
3. 黒褐色（10YR3/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。
4. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
褐灰色（10YR6/1）シルトブロック微量含む。
5. 黒褐色（10YR3/2）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/2）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、やや締まる。
φ10mm 以下の炭化物微量含む。
6. 黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭と黒褐色（10YR2/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まらない。
7. 褐灰色（10YR4/1）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
8. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや弱く、やや締まる。
灰白色（10YR8/1）シルトブロック多量含む。
9. 黒褐色（10YR3/2）シルトと白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
10. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
灰白色（10YR8/2）シルトブロック微量含む。
11. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
12. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
13. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
まだらに褐灰色（10YR6/1）シルト少量含む。
14. 灰白色（2.5GY8/1）粘質シルト　粘性強く、締まる。
15. 暗褐色（10YR3/3）シルト
粘性やや強く、やや締まらない。
黒色（101.7/1）シルトブロック少量含む。
16. 黒褐色（10YR3/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、よく締まる。
細砂少量含む。
17. 褐灰色（10YR4/1）シルト
粘性やや強く、やや締まらない。
灰白色（10YR8/2）シルトブロック微量含む。
18. 黒色（101.7/1）シルト
粘性やや強く、やや締まらない。
19. 黒褐色（10YR3/2）シルト
粘性やや強く、やや締まらない。
にぶい黄橙色（10YR6/4）シルトブロック微量含む。
20. 黒色（N2/）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。
明青灰色（5B7/1）粘質シルトブロック微量含む。
21. 黒色（N2/）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、やや締まらない。

SE190
1. 極暗褐色（7.5YR2/3）　粘性やや強く、やや締まる。
明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 極暗褐色（7.5YR2/3）　粘性やや強く、やや締まる。
1 層に比して明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック多く含む。
φ5mm 以下の炭化物少量含む。
3. 極暗褐色（7.5YR2/3）　粘性やや強く、やや締まる。
明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒色（7.5YR2/1）　粘性やや強く、やや締まる。
明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
5. 黒色（7.5YR2/1）　粘性やや強く、やや締まる。
明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック多量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
6. 黒色（7.5YR2/1）　粘性強く、やや締まる。
明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック多量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。

0　（1：40）　2m

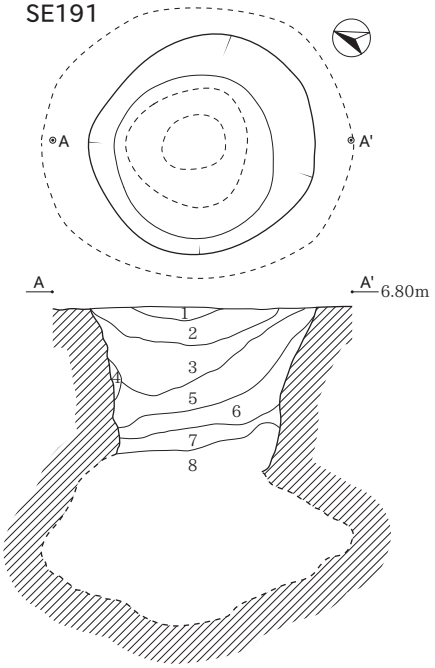
SE170



SE170

1. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック少量含む。
2. 黒色（7.5YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭主体。粘性やや強く、やや締まる。スサ状の植物遺体、灰、明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック少量含む。
3. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック少量含む。
4. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR2/2）シルトと黒色（7.5YR2/1）シルトの φ10mm 以下の炭化物を含む土壌化が進んだ炭化物が互層を成す。
5. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルトφ20 ㎜が少量含む。
6. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック少量含む。
7. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。木端多量含む。
8a. オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック多量含む。
8b. 明褐灰色（7.5YR2/2）シルトと明褐灰色（7.5YR2/2）シルトが互層を成す。粘性強く、締まる。
9. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR2/2）シルトブロック少量含む。
10. オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト　粘性強く、締まる。黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
11. 明褐灰色（7.5YR2/2）シルト　粘性やや強く、やや締まる。黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。

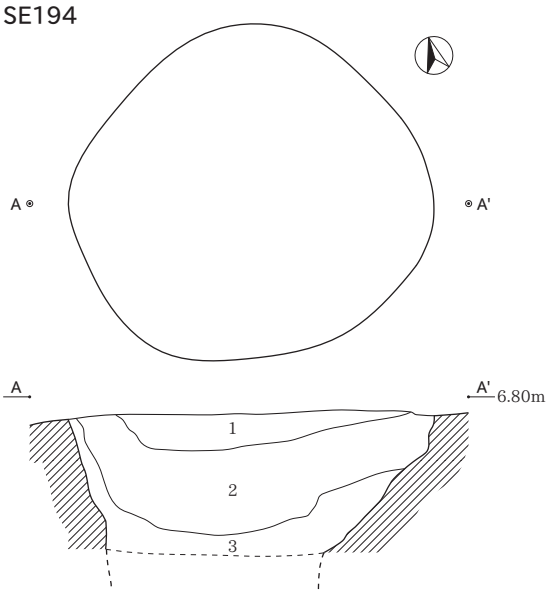
SE191



SE191

1. 褐灰色（10YR6/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトと黒褐色（10YR3/1）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック多量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。
3. 黒褐色（2.5Y3/2）シルト　粘性やや弱く、締まる。灰黄色（2.5Y7/2）シルトブロック多量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒褐色（2.5Y3/2）シルトと灰黄色（2.5Y7/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。
5. 黒色（10YR2/1）シルトと黒褐色（7.5YR3/2）シルトと黄褐色（10YR5/6）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まる。φ10mm 以下の炭化物少量含む。上面に土壌化が進んだ炭が層界に沿って堆積。
6. 黒褐色（7.5YR3/2）シルトと黄褐色（10YR5/6）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。φ5mm 以下の炭化物少量含む。
7. 黒色（10YR2/1）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。
8. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。炭化物多量、腐植土微量含む。

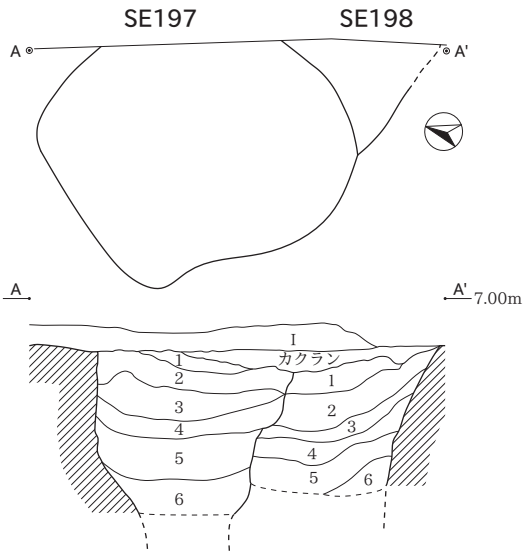
SE194



SE194

1. 明褐灰色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量。
2. 明褐灰色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、やや締まらない。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量、オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルトブロック多量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量含む。

SE197　SE198



SE197

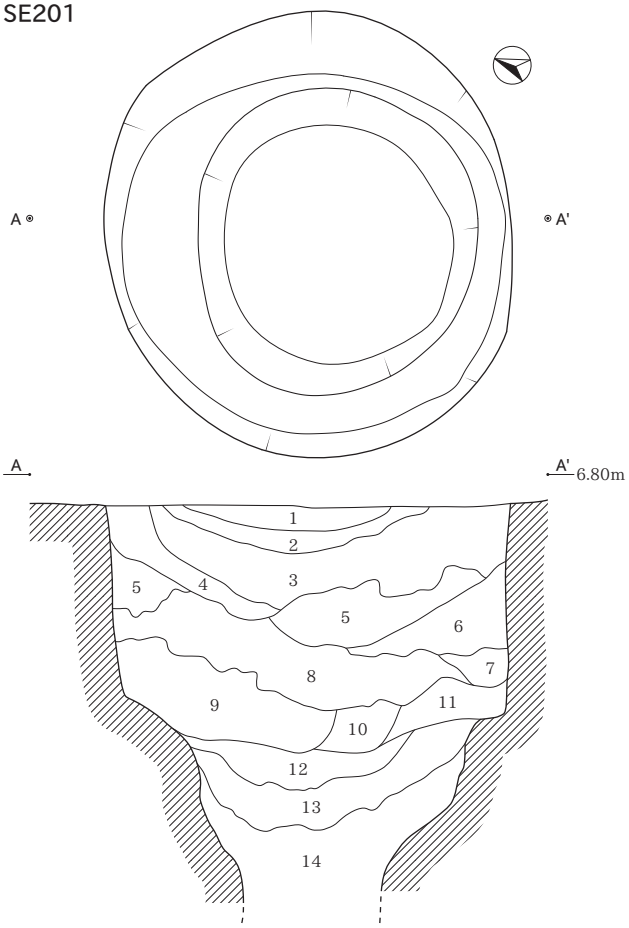
1. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。炭化物多量含む。
2. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。
3. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性強く、締まる。明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量、灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック少量含む。
4. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性強く、締まる。にぶい褐色（7.5YR5/4）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物多量含む。
5. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性強く、締まる。にぶい褐色（7.5YR5/4）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物多量含む。
6. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性強く、締まる。にぶい黄橙色（10YR5/3）シルトブロック少量、オリーブ灰色（10Y6/2）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物多量含む。

SE198

1. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性強く、締まる。黒色（7.5YR2/1）シルトブロック多量、灰褐色（10YR7/1）シルトブロック多量、炭化物多量含む。
2. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。オリーブ灰色（10Y6/2）シルトブロック多量、炭化物多量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや弱く、やや締まらない。オリーブ灰色（10Y6/2）シルトブロック多量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒色（7.5YR2/1）シルトとオリーブ灰色（10Y6/2）シルトが互層を成す。粘性やや強く、やや締まる。
5. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。にぶい黄橙色（10YR5/3）シルトブロック少量含む。
6. にぶい黄橙色（10YR5/3）シルト　粘性強く、締まる。黒色（7.5YR2/1）シルトブロック多量含む。

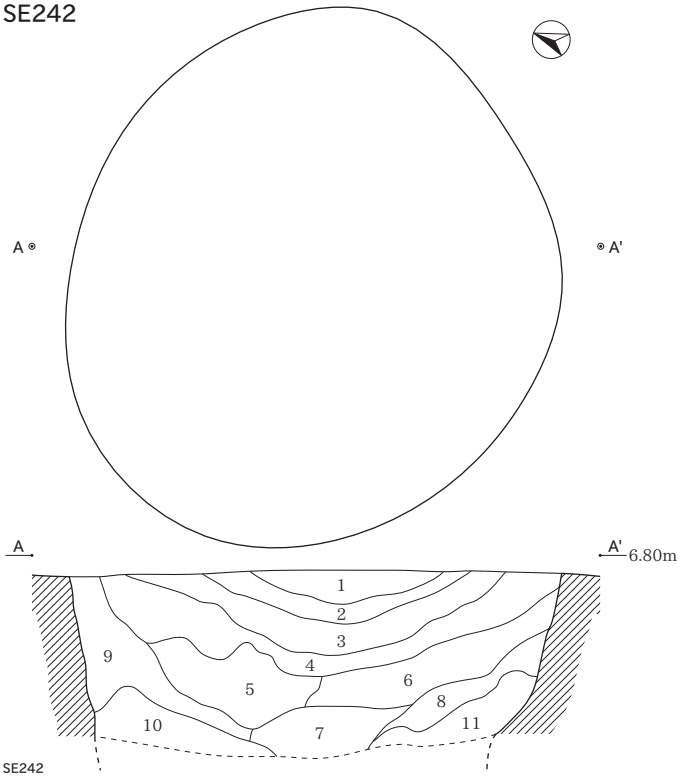
0　（1：40）　2m

SE201



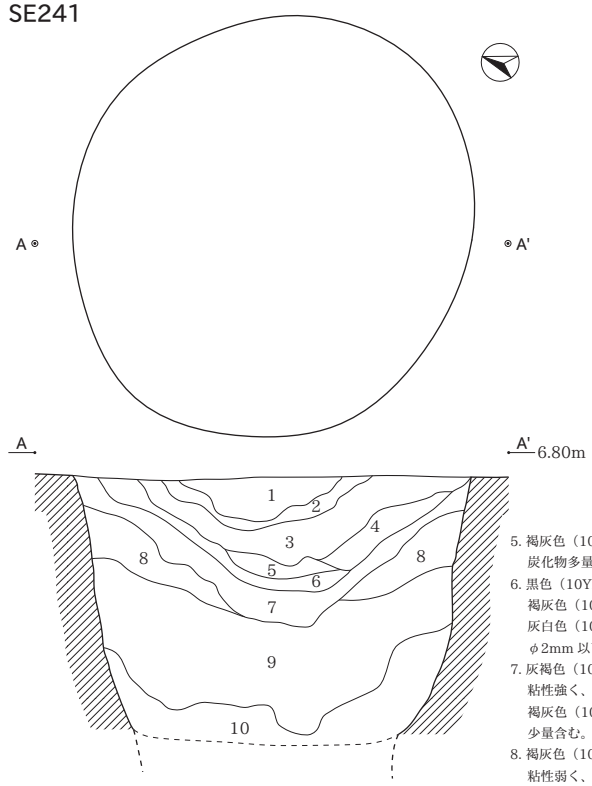
SE201
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。φ2mm 以下の砂礫多量、土壌化が進んだ炭少量含む。
2. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。φ2mm 以下の砂礫多量、土壌化が進んだ炭少量含む。
3. 浅黄橙色（10YR3/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
4. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。白色（10YR7/1）シルトブロック多量含む。
5. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック多量含む。
6. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや強く、やや締まる。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック多量含む。
7. 黄橙色（10YR8/6）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
8. 緑灰色（10YR5/7）シルト　粘性強く、締まる。φ2mm 以下の炭化物多量含む。
9. 黄橙色（10YR8/6）シルト　粘性強く、締まる。緑灰色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
10. 緑灰色（10YR6/1）シルト　粘性強く、締まる。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック多量含む。
11. 明灰色（10YR7/1）シルト　粘性強く、締まらない。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
12. 明緑灰色（10G7/1）砂質シルト　粘性やや弱く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
13. 明緑灰色（10G7/1）砂。 粘性弱く、締まらない。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
14. 明緑灰色（10G7/1）砂。 粘性弱く、締まらない。

SE242



SE242
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、締まる。灰白色（10YR8/3）シルト少量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。炭化物帯状に多量含む。
3. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。炭化物帯状に多量含む。
4. 灰白色（10YR7/1）砂質シルト　粘性弱く、やや締まる。褐灰色（10YR5/1）シルトブロック少量含む。
5. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性強く、やや締まる。褐灰色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
6. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性強く、やや締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
7. 褐灰色（10YR6/1）砂質シルト　粘性強く、やや締まる。灰白色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
8. 灰白色（10YR8/2）砂質シルト　粘性強く、やや締まる。褐灰色（10YR6/1）シルトブロック多量含む。
9. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性強く、やや締まる。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量含む。
10. 黒色（10YR2/1）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトと灰色（10YR7/1）シルトのブロック充填。
粘性強く、やや締まる。
11. 褐灰色（10YR6/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。粘性強く、やや締まる。

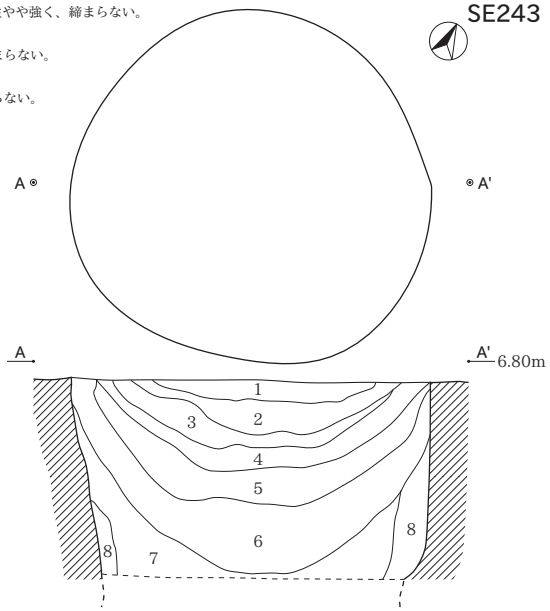
SE241



SE241
1. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量、
灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック少量含む。
3. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
4. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、やや締まる。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量含む。
5. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性やや強く、締まる。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量含む。
6. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック多量含む。
7. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック多量、
浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック少量含む。
8. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、締まらない。緑灰色（10G6/1）シルトブロック多量含む。
9. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、締まらない。褐灰色（10G6/1）シルトブロック多量含む。
10. 緑灰（10G6/1）砂質シルト　粘性やや弱く、締まらない。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。

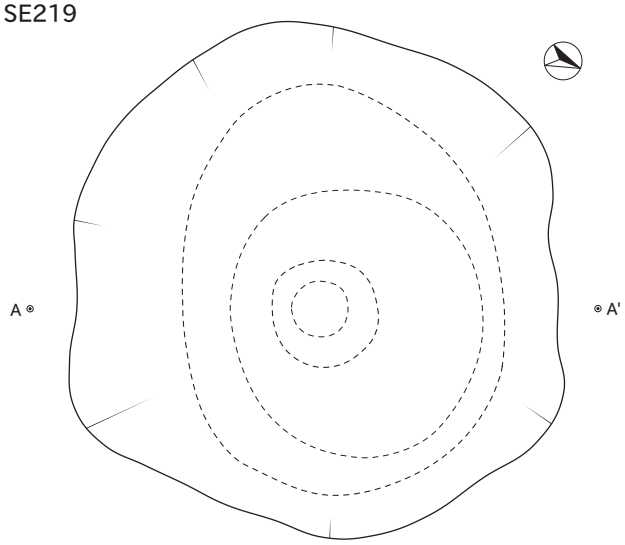
SE243
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト。粘性やや強く、締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック多量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト。粘性やや強く、締まらない。炭化物少量含む。
3. 黒色（10YR2/1）シルト。粘性やや強く、締まらない。炭化物多量含む。
4. 褐灰色（10YR4/1）シルト。粘性やや強く、締まらない。
φ2mm 以下の炭化物少量含む。
5. 褐灰色（10YR4/1）シルト。粘性やや強く、締まらない。
炭化物多量含む。
6. 黒色（10YR2/1）シルト。粘性やや強く、締まらない。
褐灰色（10YR5/1）シルトブロック少量、
灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量、
φ2mm 以下の炭化物少量含む。
7. 灰褐色（10YR7/1）シルト。
粘性強く、締まる。
褐灰色（10YR7/1）シルトブロック
少量含む。
8. 褐灰色（10YR7/1）シルト。
粘性弱く、締まらない。

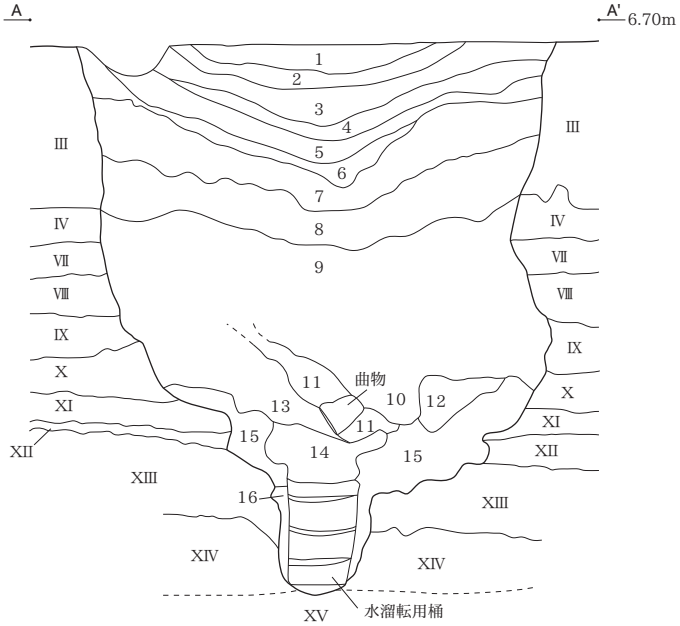
SE243



0　（1：40）　2m

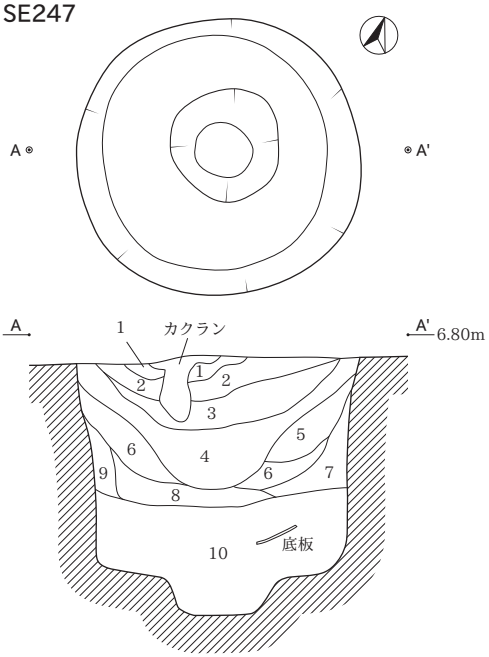
SE219





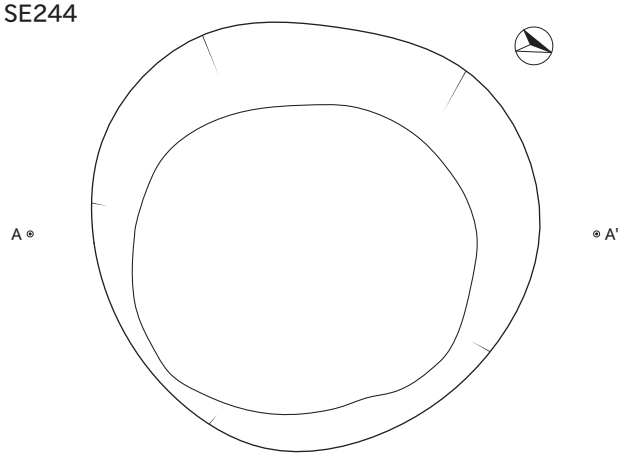
SE219
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。炭化物少量含む。
3. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。φ2mm 以下の炭化物多量含む。
4. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
5. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性強く、やや締まる。φ2mm 以下の炭化物多量含む。
6. 灰白色（10YR7/1）砂質シルト　粘性やや強く、締まらない。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
7. 灰白色（10YR8/2）砂質シルト　粘性やや強く、締まらない。黒色（10YR2/1）シルトブロック少量、浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
8. 浅黄橙色（10YR8/3）砂質シルト　粘性やや強く、締まらない。緑灰色（5G6/1）シルト少量含む。
9. 緑灰白色（10G6/1）砂質シルト　粘性やや強く、締まらない。灰白色（10YR7/1）シルト少量含む。
10. 明青灰色（5B7/1）粘質土　粘性強く、やや締まらない。
11. 明青灰色（5B7/1）粘質土　粘性強く、10 層に比してやや締まる。。
12. 明青灰色（5B7/1）粘質土　粘性強く、やや締まらない。まだらに灰色（N5/）粘質土少量含む。
13. 青灰色（5PB6/1）粘質土　粘性強く、やや締まらない。
14. 青灰色（5PB6/1）粘質土　粘性強く、13 層に比してやや締まらない。
15. 明青灰色（5B7/1）粘質土　粘性強く、やや締まる。
16. 明青灰色（5B7/1）粘質土　粘性強く、締まらない。細砂微量含む。

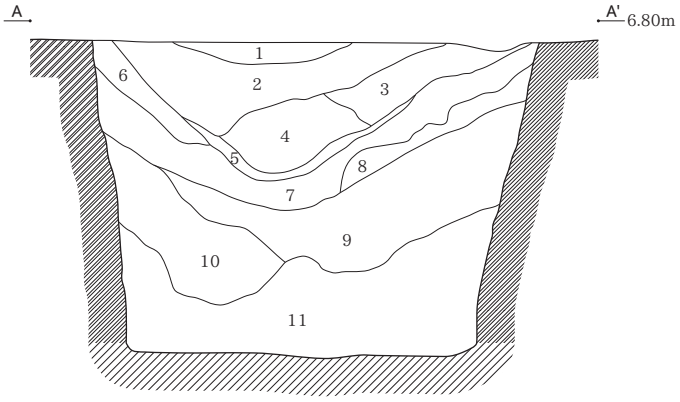
SE247



SE247
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック多量含む。
3. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。φ2mm 以下の炭化物多量含む。
4. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性強く、やや締まる。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトブロック少量、砂礫少量含む。
5. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性強く、やや締まる。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト少量含む。
6. にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　粘性強く、やや締まる。
7. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性強く、締まらない。
8. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性強く、やや締まらない。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
9. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性強く、締まらない。
10. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性強く、やや締まらない。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。

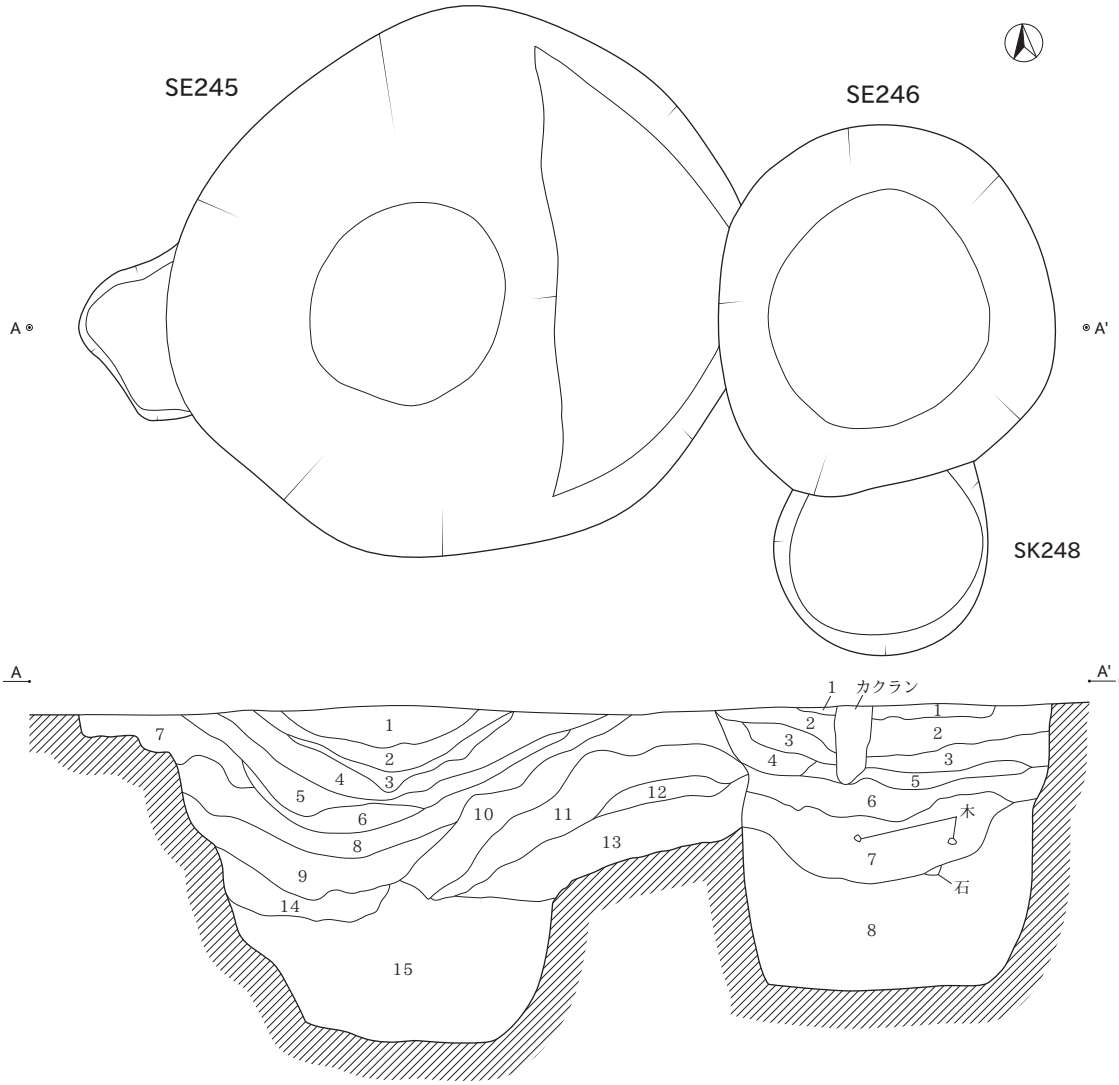
SE244





SE244
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、締まる。灰白色（10YR6/2）シルトブロック少量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。灰白色（10YR6/2）シルトブロック多量含む。
3. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、締まる。灰白色（10YR6/2）シルトブロック少量含む。
4. 灰色（N5/）シルト　粘性やや強く、締まる。灰白色（10YR6/2）シルトブロック少量含む。
5. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。φ2mm 以下の炭化物多量含む含む。
6. 灰白色（10YR6/2）シルト　粘性やや強く、締まる。褐灰色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
7. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや強く、締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック少量含む。
8. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト　粘性やや強く、締まる。褐灰色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
9. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。灰白色（10YR6/2）シルトブロック多量含む。
10. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。灰白色（10YR6/2）シルトブロック多量含む。
11. 緑灰色（10G6/1）粘質土　粘性やや強く、締まらない。灰白色（10YR6/2）シルトブロック少量含む。

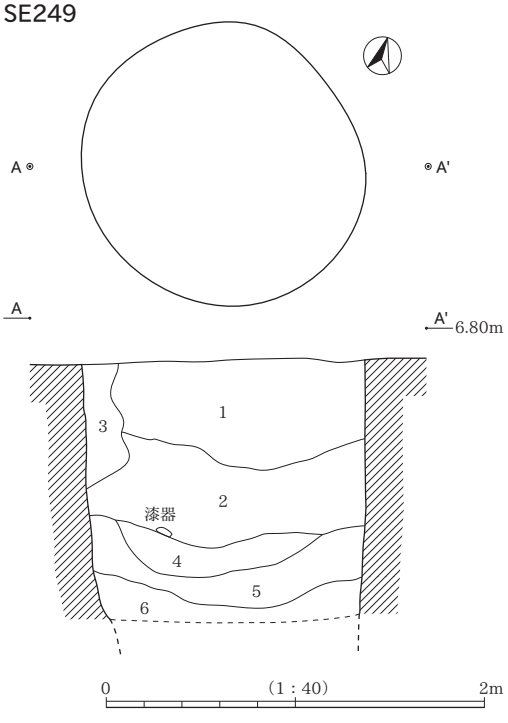
0　（1：40）　2m



SE245
1. 褐灰色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
2. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性強く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
3. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まる。φ2mm 以下の炭化物多量含む。
4. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック多量含む。
5. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
　灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量、黄橙色（10YR8/6）シルトブロック少量含む。
6. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性強く、締まる。褐灰色（10YR5/1）シルトブロック少量含む。
7. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
8. 灰色（7.5Y5/1）シルト　粘性やや強く、締まる。緑灰色（10G6/1）シルトブロック少量含む。
9. 緑灰色（10G6/1）シルト　粘性やや強く、締まる。黒褐色（10YR3/1）シルトブロック含む。
10. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。黄橙色（10YR8/6）シルトブロック少量含む。
11. 黄橙色（10YR8/6）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰色（7.5Y5/1）シルトブロック少量含む。
12. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
13. 黄橙色（10YR8/6）シルト　粘性強く、締まる。黒褐色（10YR3/1）シルトブロック少量含む。
14. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや弱く、やや締まる。緑灰色（10G6/1）シルトブロック少量含む。
15. 緑灰色（10G6/1）砂質シルト　粘性やや強く、やや締まらない。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。

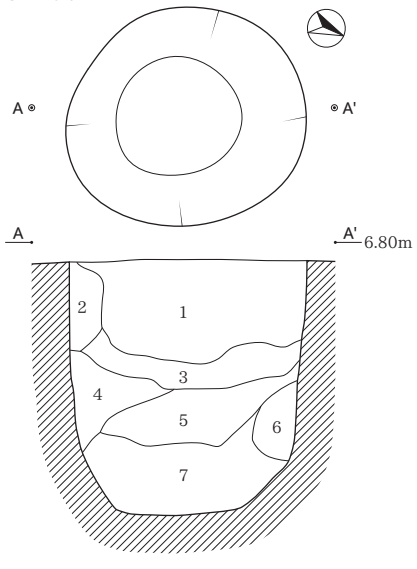
SE246
1. 灰白色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。黄橙色（10YR8/6）シルトブロック少量含む。
2. 灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
3. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック多量含む。
4. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量含む。
5. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
6. 黒色（10YR2/1）粘質土　粘性強く、締まる。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
7. 黄橙色（10YR8/6）粘質土　粘性強く、締まらない。緑灰色（10G6/1）シルトブロック少量含む。
8. 緑灰色（10G6/1）粘質土　粘性強く、締まらない。黄橙色（10YR8/6）シルトブロック少量含む。

SE249



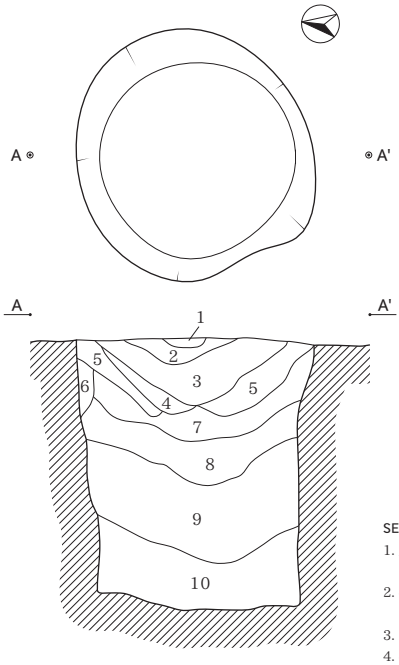
SE249
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、
　灰白色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。
3. にぶい黄橙色（10Y7/4）シルト　粘性強く、やや締まる。
4. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性強く、やや締まる。木端多量含む。
5. 暗緑灰色（10G4/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
　緑灰色（10G5/1）シルトブロック少量含む。
6. 緑灰色（10G5/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
　灰白色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。

SE250



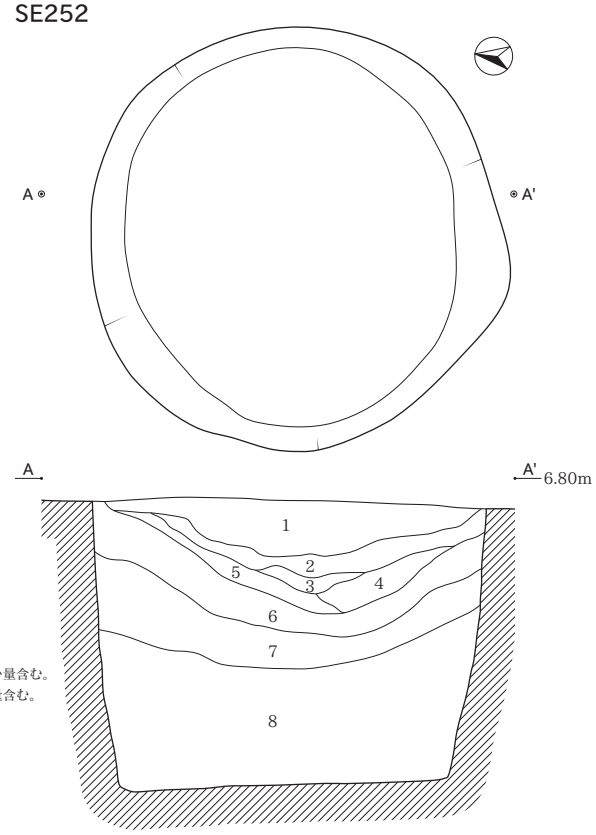
SE250
1. 褐灰色（10Y6/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　灰白色（10YR6/2）シルトブロック多量含む。
2. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、締まる。
3. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　灰白色（10YR6/2）シルトブロック多量含む。
4. にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　粘性強く、やや締まる。
5. 緑灰色（10G5/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
6. 明緑灰色（10G7/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
7. 暗緑灰色（10YR4/1）シルト　粘性強く、やや締まる。

SE251



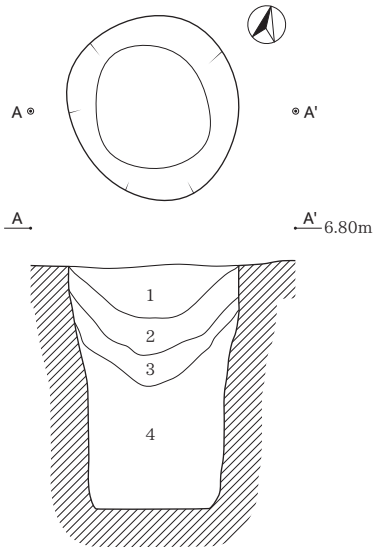
SE251
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト
　粘性やや強く、やや締まる。
2. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト
　粘性強く、やや締まる。
3. 褐灰色（10YR4/1）シルト
　粘性強く、やや締まる。
　灰白色（10YR6/2）シルトブロック多量含む。
4. 褐灰色（10YR6/1）シルト
　粘性強く、締まらない。
5. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト
　粘性強く、やや締まる。
　灰白色（10YR6/2）シルトブロック多量含む。
6. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト
　粘性やや強く、やや締まる。
7. にぶい黄橙色（10YR7/2）シルト
　粘性強く、やや締まる。
8. にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト
　粘性強く、締まらない。
9. にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト
　粘性強く、やや締まる。
10. 暗緑灰色（10G4/1）シルト
　粘性強く、やや締まる。

SE252



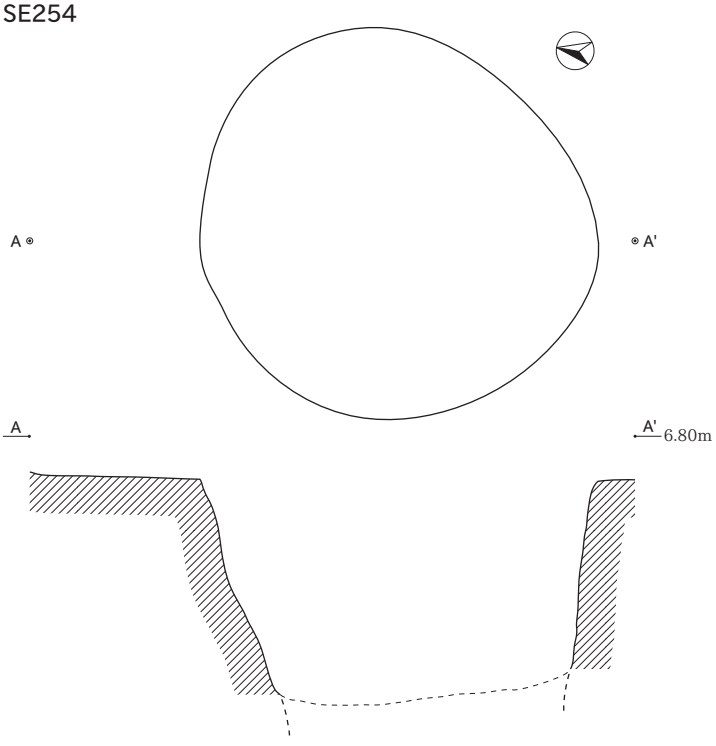
SE252
1. 灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　灰白色（10YR8/2）シルトブロック多量含む。
3. 明黄褐色（10YR7/6）シルト　粘性強く、やや締まる。砂礫少量含む。
4. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性強く、やや締まる。砂礫少量含む。
5. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性強く、しまり弱。
6. にぶい黄橙色（10YR7/2）シルト　粘性強く、やや締まる。
7. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性強く、やや締まる。
8. オリーブ灰色（2.5GY5/1）シルト　粘性強く、やや締まる。

SE253

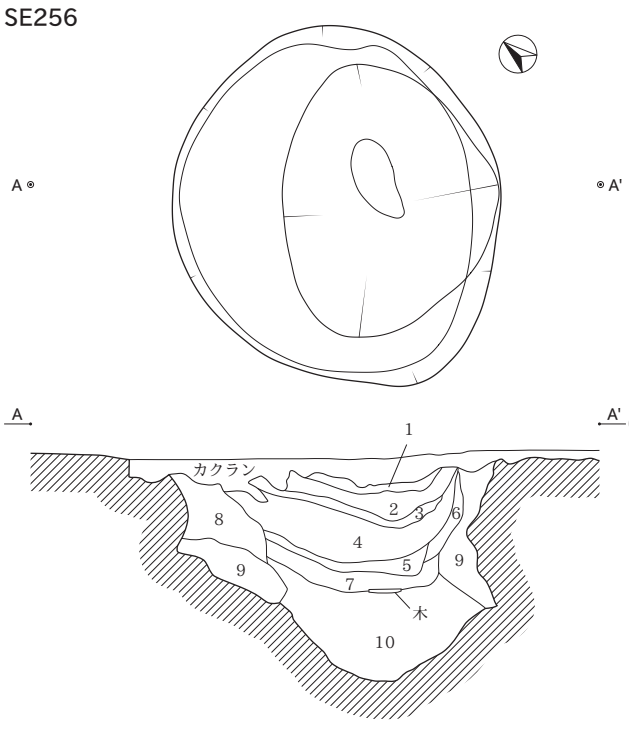


SE253
1. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（10YR6/2）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。φ2mm 以下の炭化物多量含む。
3. 緑灰色（10G5/1）シルト　粘性強く、やや締まる。灰白色（10YR6/2）シルトブロック少量含む。
4. 暗緑灰色（10G6/1）シルト　粘性強く、やや締まる。灰白色（10YR6/2）シルトブロック少量含む。

SE254



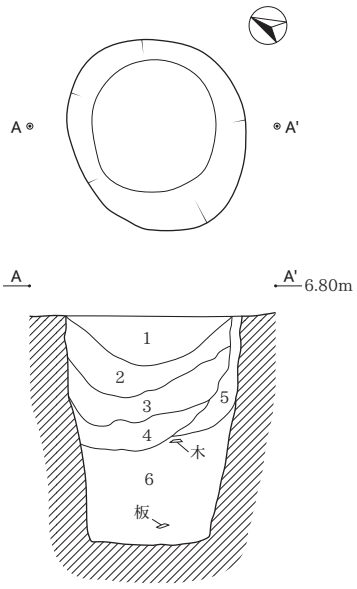
SE256



SE256
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
2. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック少量含む。
3. にぶい黄橙色（10YR4/3）シルト　粘性やや強く、締まる。黒褐色（10YR3/1）シルトブロック少量、
　腐植土多量含む。
4. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。φ2mm 以下の炭化物多量含む。
5. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。褐灰色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
6. 褐灰色（10YR7/1）シルト　粘性強く、締まる。灰色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
7. 灰褐色（10YR7/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。黒色（10YR2/1）シルトブロック少量含む。
8. 灰色（10YR8/2）粘質土　粘性強く、やや締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック少量含む。
9. 浅黄橙色（10YR8/4）粘質土　粘性強く、やや締まる。灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量含む。
10. 黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭　粘性強く、締まらない。φ2mm 以下の炭化物多量含む。

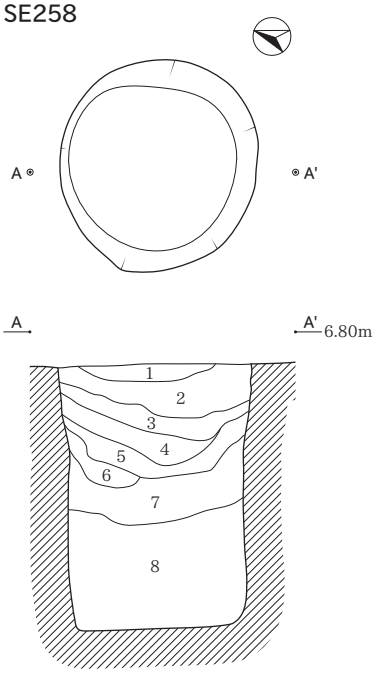
0　（1：40）　2m

SE257



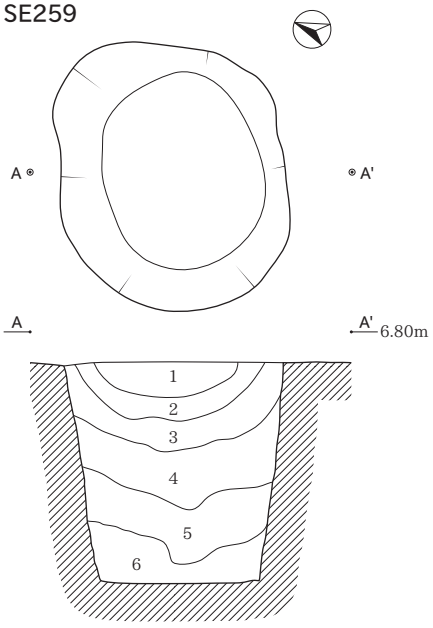
SE257
1. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。炭化粒少量含む。
2. 灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　灰白色（10YR8/2）シルトブロック多量含む。
3. 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強く、やや締まらない。炭化粒少量含む。
4. 黒色（2.5Y2/1）シルト　粘性やや弱く、締まらない。炭化粒多量含む。
5. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、やや締まる
6. 黒褐色（10YR3/2）の土壌化が進んだ炭　粘性強く、締まらない。

SE258



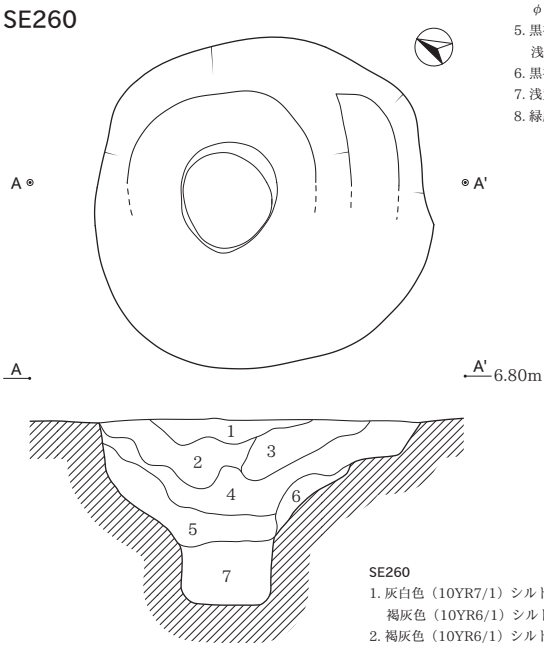
SE258
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
2. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
3. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　灰白色（10YR8/2）シルトブロック多量含む。
4. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　φ2mm 以下の炭化物多量含む。
5. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。
6. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
7. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性強く、やや締まる。
8. 緑灰色（10YR5/1）シルト　粘性強く、やや締まる。

SE259



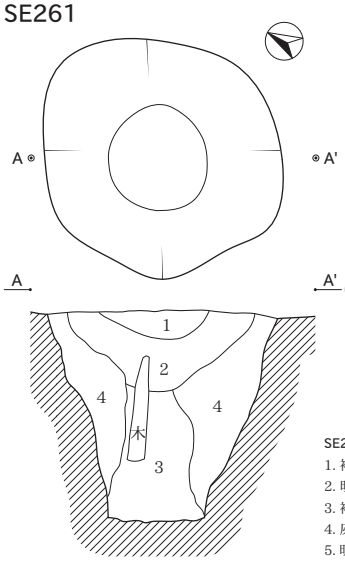
SE259
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
　φ2mm 以下の炭化物多量含む。
2. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。
3. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
　オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルトブロック少量含む。
4. 明褐灰色（10YR6/6）　粘性やや強く、やや締まる。
5. 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）粘質土　粘性強く、締まらない。
　褐灰色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
6. オリーブ灰色（2.5GY6/1）粘質土　粘性強く、締まらない。
　明褐灰色（10YR6/6）シルトブロック少量含む。

SE260



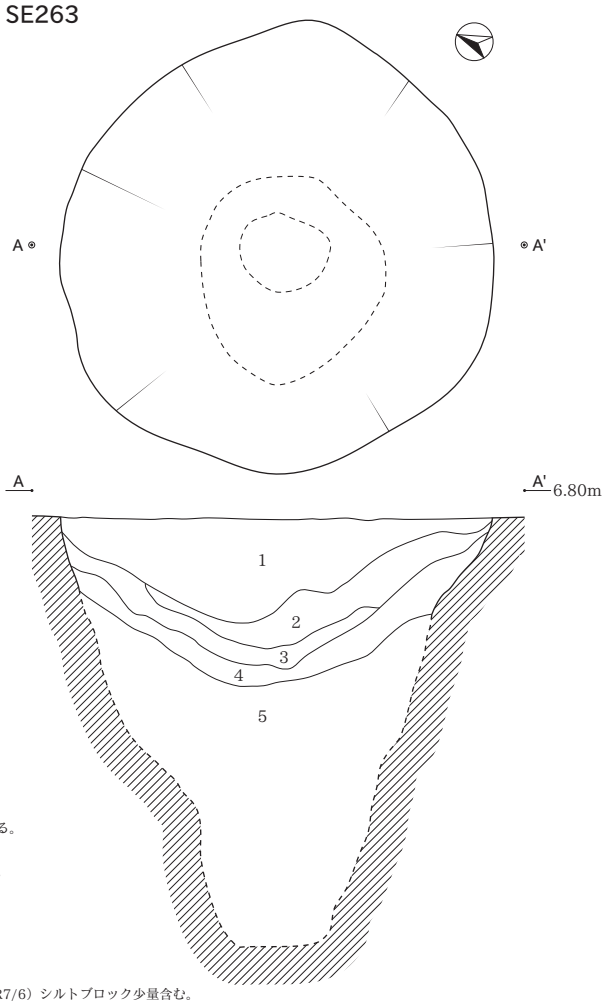
SE260
1. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性弱く、締まる。
　褐灰色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
2. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性弱く、締まる。
　浅黄橙色（10YR3/3）シルトブロック多量含む。
3. 浅黄橙色（10YR3/3）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　褐灰色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
4. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性弱く、やや締まる。
　浅黄橙色（10YR3/3）シルトブロック多量含む。
5. 浅黄橙色（10YR3/3）シルト　粘性弱く、やや締まる。
　灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
6. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性弱く、やや締まる。
　浅黄橙色（10YR3/3）シルトブロック多量含む。
7 層は記録なし。

SE261



SE261
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性強く、締まる。
　灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　φ2mm 以下の炭化物多量含む。
3. 黒色（10YR2/1）粘質土　粘性やや強く、やや締まる。
　木杭が逆茂木状に入る。
4. 灰白色（10YR7/1）粘質土　粘性強く、やや締まる。
　黒色（10YR2/1）シルトブロック少量含む。

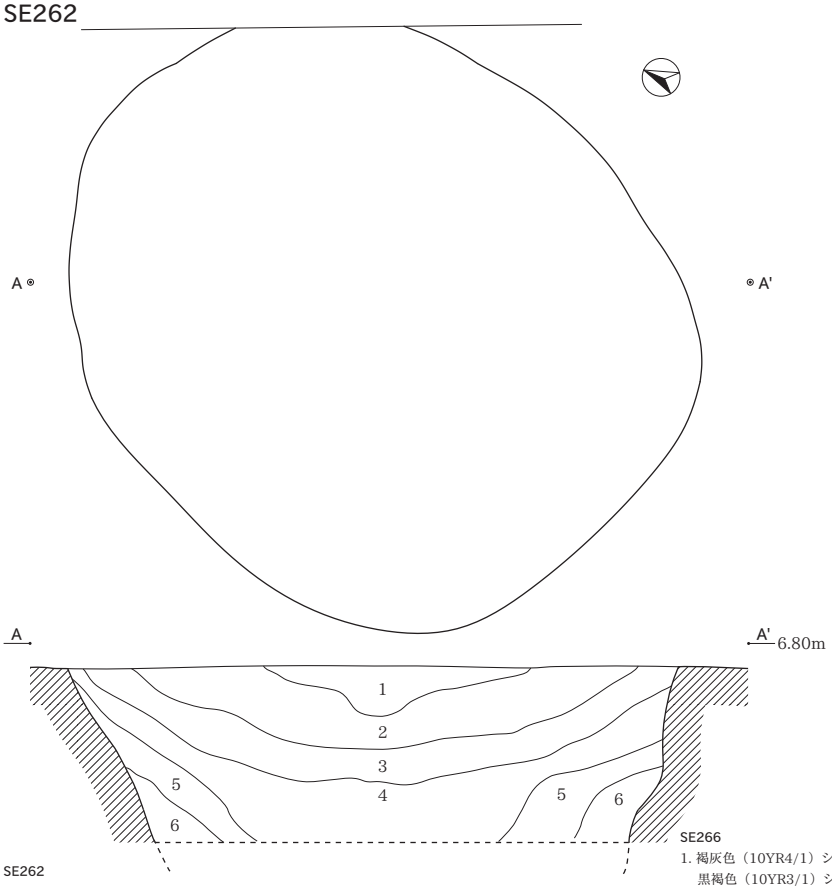
SE263



SE263
1. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや強く、締まる。明黄褐色（10YR7/6）シルトブロック少量含む。
2. 明黄褐色（10YR7/6）シルト　粘性強く、締まる。灰白色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
3. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性強く、締まる。灰白色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
4. 灰白色（10YR6/1）シルト　粘性強く、締まる。褐灰色（10YR5/1）シルトブロック少量含む。
5. 明青灰色（10BG7/1）粘質シルト　粘性強く、やや締まらない。

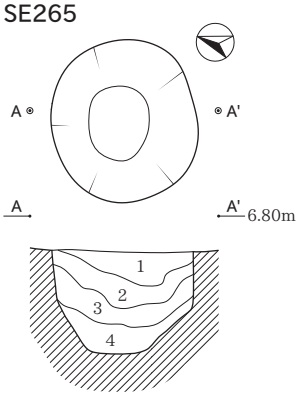
0　(1：40)　2m

SE262



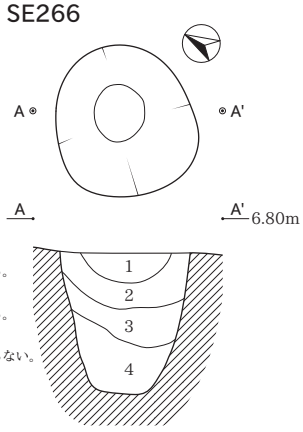
SE262
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
2. 灰黄褐色（10YR6/2）シルト　粘性やや強く、締まる。灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
3. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。炭化物帯状に少量含む。
4. 黒色（10Y2/1）シルト　粘性やや強く、締まる。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
5. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。灰褐色（7.5YR5/2）シルトブロック少量含む。
6. 灰白色（10YR7/1）シルト　粘性強く、締まらない。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量含む。

SE265



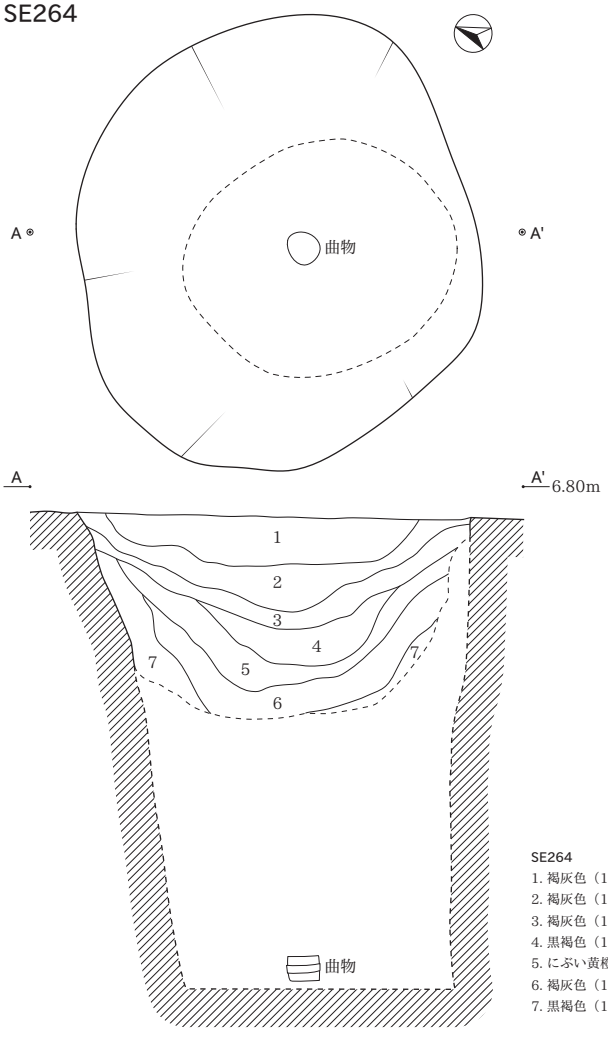
SE265
1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性強く、締まる。
φ2mm 以下の炭化物少量含む。
2. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性強く、締まる。
灰白色（10YR7/1）シルトブロック多量含む。
3. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性強く、締まる。
灰白色（10YR7/1）シルトブロック少量含む。
4. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性強く、締まる。
緑灰色（5G6/1）シルトブロック少量含む。

SE266



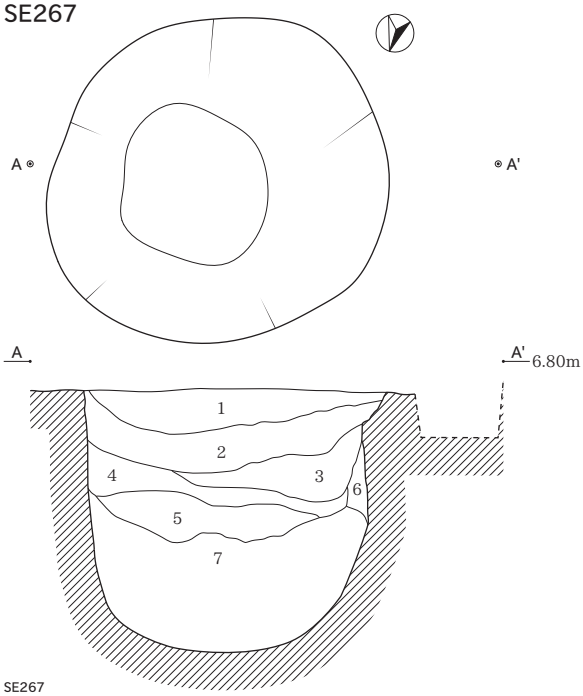
SE266
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性強く、締まる。
黒褐色（10YR3/1）シルトブロック少量含む。
2. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性強く、締まる。
黒褐色（10YR3/1）シルトブロック少量含む。
3. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性弱く、締まらない。
φ2mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性強く、締まる。
φ2mm 以下の炭化物少量含む。

SE264



SE264
1. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや強く、締まる。黄橙色（10YR8/6）シルトブロック少量含む。
2. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや強く、締まる。炭化物帯状に多量含む。
3. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性強く、やや締まる。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒褐色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まる。φ2mm 以下の炭化物多量含む。
5. にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト　粘性やや強く、締まる。灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量含む。
6. 褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強く、やや締まる。灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量含む。
7. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性強く、締まる。樹皮多量含む。

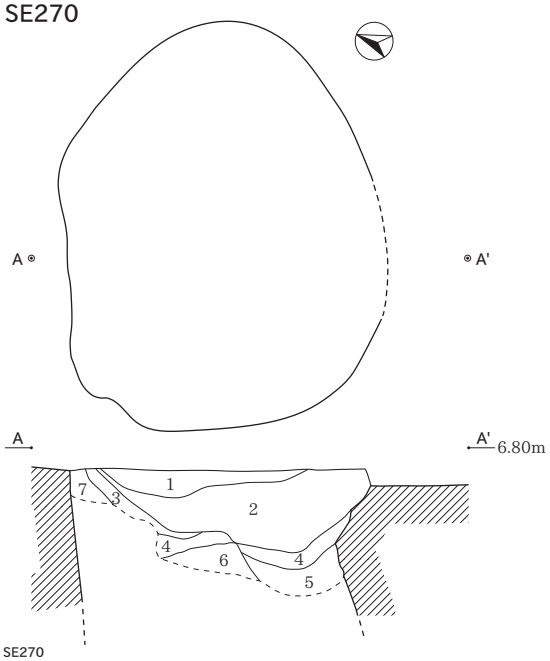
SE267



SE267
1. 灰黄褐色（10YR6/2）シルト　粘性やや強く、やや締まる。φ2mm 以下の炭化物多量含む。
2. にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　粘性強く、やや締まる。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量含む。
3. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。黒褐色（10YR3/1）シルトブロック少量含む。
4. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
5. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。φ2mm 以下の炭化物多量含む。
6. にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　粘性強く、やや締まる。φ2mm 以下の炭化物少量含む。
7. 褐灰色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まらない。灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量含む。

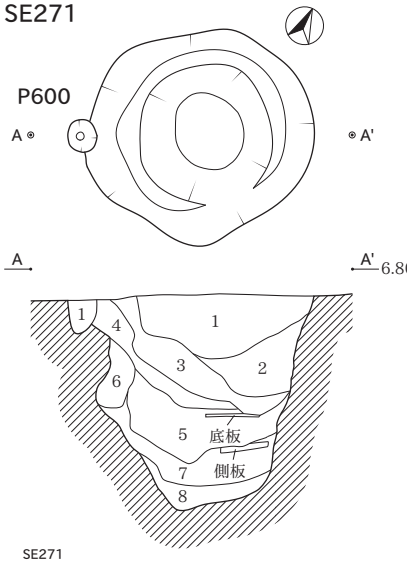
0　(1：40)　2m

SE270



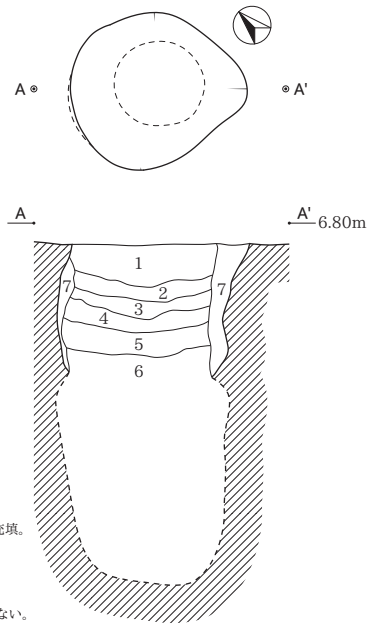
SE270
1. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量、炭化物多量含む。
2. 黒色（7.5YR2/1）シルトと明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロックと炭化物が互層を成す。
　粘性やや強く、やや締まる。灰多量含む。
3. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。
　粘性・しまり中。
4. 極暗褐色（7.5YR2/3）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量。φ2mm 以下の炭化物少量含む。粘性・しまり中。
5. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量、
　φ2mm 以下の炭化物少量含む。粘性・しまり中。
6. 極暗褐色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量、φ2mm 以下の炭化物少量含む。粘性・しまり中。
7. 極暗褐色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック微量含む。粘性・しまり中。

SE271



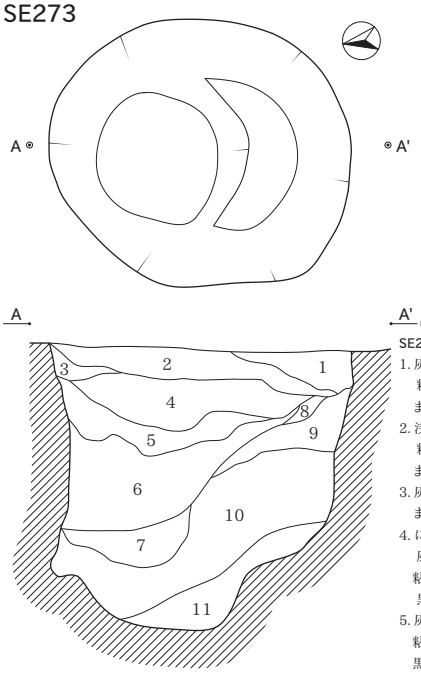
SE271
1. 黒色（5Y2/1）シルトとオリーブ黒色（5Y3/1）シルトのブロック充填。
　粘性やや強く、やや締まる。灰白色（5Y8/1）シルトブロック、
　φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒色（2.5Y2/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
3. 黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性やや強く、締まらない。
　断続的にフカフカする。黒色（5Y2/1）シルトブロック少量、φ10mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒色（2.5Y2/1）シルト　粘性強く、やや締まる。
5. 黒色（2.5Y2/1）シルト　粘性強く、やや締まらない。
6. 黄灰色（2.5Y6/1）シルトと浅黄色（2.5Y7/3）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
7. 暗灰色（N3/）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、締まらない。
8. 暗灰色（N3/）粘質シルト　粘性強く、締まらない。まだらに明青灰色（5B7/1）粘質シルト多量含む。

SE272



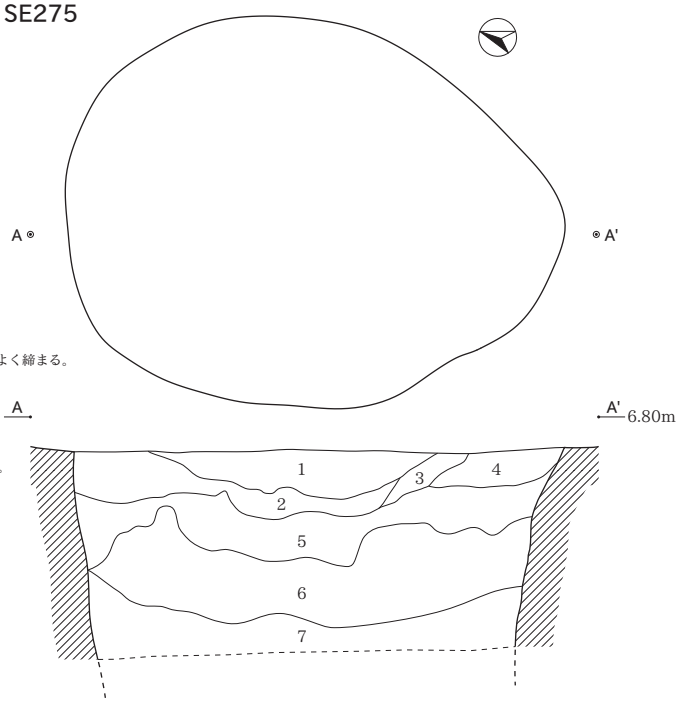
SE272
1. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック多量、
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック多量、φ50mm 以下の炭化物少量含む。
2. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量、
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック少量、φ50mm 以下の炭化物少量含む。
3. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック多量、
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック多量、φ50mm 以下の炭化物少量含む。
4. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量、
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック少量、φ50mm 以下の炭化物多量含む。
5. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量、
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック少量、φ50mm 以下の炭化物多量含む。
6. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック少量、
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック少量、φ50mm 以下の炭化物多量含む。
7. にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト　粘性やや強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR7/1）シルトブロック多量、
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック多量、φ50mm 以下の炭化物少量含む。

SE273



SE273
1. 灰白色（10YR8/2）シルト
　粘性やや強く、よく締まる。
　まだらに灰白色（10YR7/1）シルト微量含む。
2. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト
　粘性やや強く、よく締まる。
　まだらに灰白色（10YR7/1）シルト微量含む。
3. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや強く、よく締まる。
　まだらに灰白色（10YR7/1）シルト微量含む。
4. にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトと
　灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。
　粘性やや弱く、締まる。
　黒褐色（10YR3/2）シルトブロック微量含む。
5. 灰白色（10YR8/2）シルト
　粘性やや強く、よく締まる。
　黒褐色（10YR3/1）シルトブロック少量含む。
6. 黒色（10YR2/1）シルトと褐灰色（10YR6/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。
　粘性やや強く、やや締まらない。
7. 黒色（10YR1.7/1）シルト　粘性強く、締まらない。明青灰色（5B7/1）シルトブロック微量、
　30mm 角以下の炭化物少量、腐植土多量含む。
8. にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト　粘性弱く、よく締まる。
9. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや強く、よく締まる。黒褐色（10YR3/1）シルトブロック微量含む。
10. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや強く、締まる。下半部は還元し、明青灰色（5B7/1）を呈する。
11. 明青灰色（5B7/1）　粘性やや強く、やや締まる。まだらに暗青灰色（5PB3/1）シルト少量含む。

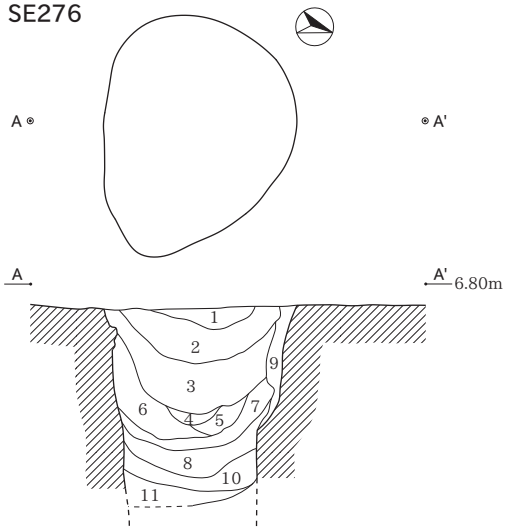
SE275



SE275
1. 明褐色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、やや締まる。灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック多量、黒色（7.5YR2/1）シルトブロック多量、オリーブ灰色（5GY6/1）シルトブロック多量含む。
2. 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック少量、オリーブ灰色（5GY6/1）シルトブロック少量含む。
3. 明褐灰色（7.5YR7/2）シルト　粘性強く、やや締まる。オリーブ灰色（5GY6/1）シルトブロック少量含む。
4. 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、やや締まる。明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、にぶい黄橙色（10YR6/4）シルトブロック少量含む。
5. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まらない。灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック多量、明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック多量、にぶい黄橙色シルト（10YR6/4）ブロック多量含む。
6. 灰褐色（7.5YR6/2）シルト　粘性強く、やや締まる。黒色（7.5YR2/1）シルトブロック少量含む。
7. にぶい黄橙色（10YR6/4）シルト　粘性強く、やや締まる。

0　（1：40）　2m

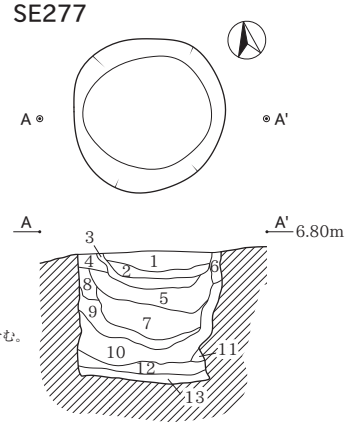
SE276



SE276

1. 黒色（7.5YR2/1）シルトと褐灰色（7.5YR4/1）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まる。にぶい黄橙色（7.5YR7/3）シルトブロック微量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 1 層同様だが、浅黄橙色（10YR7/3）シルトブロックを多量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）シルトと褐灰色（7.5YR4/1）シルトのブロック充填。粘性強く、締まらない。
4. 褐灰色（10YR4/1）粘質シルト。粘性強く、締まらない。
5. 黒色（7.5YR2/1）粘質シルトと褐灰色（7.5YR4/1）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、締まらない。
6. 褐灰色（7.5YR5/1）粘質シルトとにぶい黄褐色（7.5YR5/4）シルトのブロック充填。粘性強く、締まる。
7. 6 層同様だが、粘性強く、締まらない。
8. 褐灰色（7.5YR5/1）粘質シルトと灰（N5/）粘質シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まらない。浅黄橙色シルト（10YR8/3）シルトブロック微量含む。
9. 浅黄橙色（10YR7/3）シルトブロック状充填。粘性弱く、よく締まる。斑状に褐灰色（10YR5/1）シルト少量含む。
10. 褐灰色（7.5YR5/1）粘質シルトと灰（N5/）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、締まらない。
11. 暗灰色（N3/）粘質シルト。粘性強く、締まらない。φ1mm 以下の炭化物微量含む。

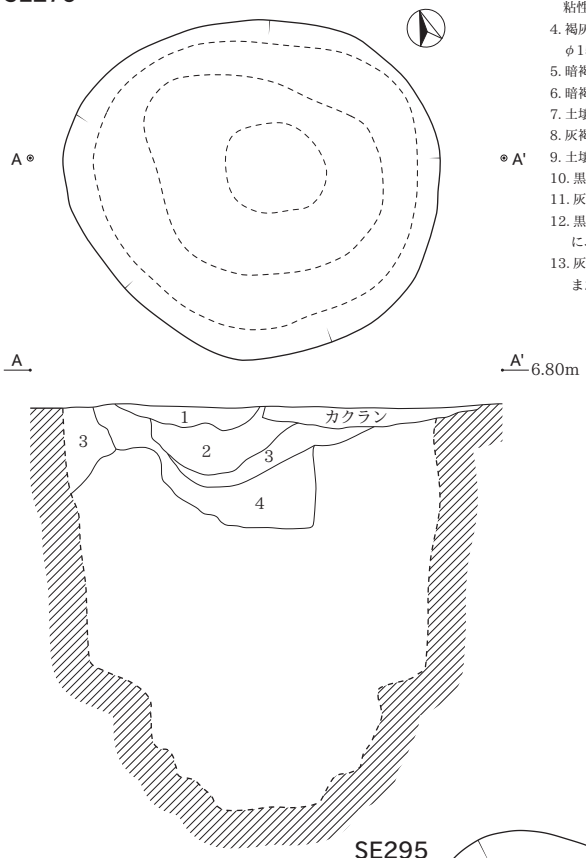
SE277



SE277

1. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。φ10mm 以下の炭化物多量含む。
2. 褐灰色（10YR6/1）シルトと灰黄褐色（10YR4/2）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。φ5mm 以下の炭化物微量含む。
3. 褐灰色（10YR6/1）シルトと灰黄褐色（10YR4/2）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。土壌化が進んだ炭多量含む。
4. 褐灰色（10YR6/1）シルトと灰黄褐色（10YR4/2）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。φ15mm 以下の炭化物微量含む。
5. 暗褐色（10YR3/4）シルトと褐色（10YR4/4）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。土壌化が進んだ炭多量含む。
6. 暗褐色（10YR3/4）シルトと褐色（10YR4/4）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。土壌化が進んだ炭多量含む。
7. 土壌化が進んだ炭主体。粘性強く、締まらない。暗褐色（10YR3/4）シルトブロック少量含む。
8. 灰褐色（7.5YR4/2）シルト　粘性やや弱く、締まる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量含む。
9. 土壌化が進んだ炭と浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロックの充填。粘性やや強く、やや締まる。
10. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロック少量含む。
11. 灰白色（10YR8/1）砂質シルト　粘性やや弱く、締まる。
12. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトブロック少量、土壌化が進んだ炭少量含む。
13. 灰白色（10Y7/1）粘質シルト　粘性やや強く、やや締まる。まだらに黄灰色（2.5Y4/1）粘質シルト多量、φ3mm 以下の炭化物微量含む。

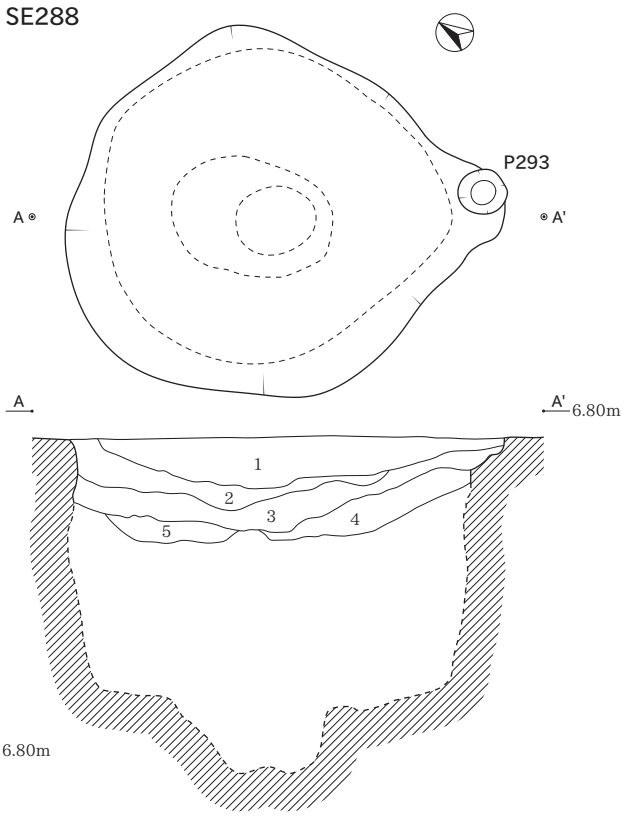
SE279



SE279

1. 暗褐色（10YR3/3）シルトと黒色（10YR2/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/2）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
2. 1 層同様だが、にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトと浅黄橙色（10YR8/4）シルトのブロックの割合が高い。
3. 暗褐色（10YR3/3）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
4. 灰白色（10YR8/1）シルトのブロック状充填。粘性やや強く、締まらない。斑状に灰白（10YR7/1）粘質シルト少量含む。

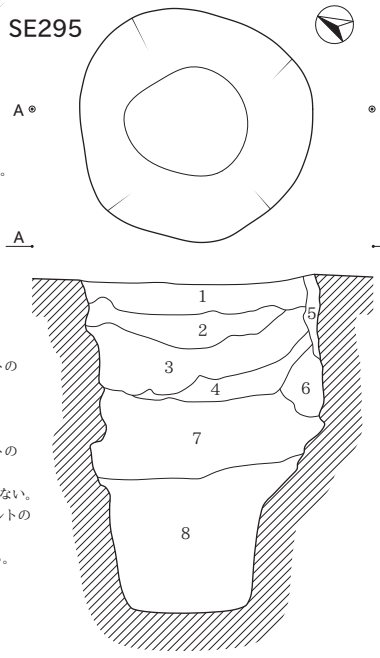
SE288



SE288

1. 浅黄橙色（10YR8/3）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）シルトと扁平した灰白色（10YR7/1）シルトブロック充填。浅黄橙色（10YR8/3）シルトの割合が高い。粘性やや弱く、よく締まる。2 層との層界には褐灰色（10YR4/1）シルトブロックが堆積する。
2. 浅黄橙色（10YR8/3）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトブロック充填。粘性やや弱く、よく締まる。φ5mm 以下の炭化物少量含む。
3. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性やや弱く、締まる。にぶい黄橙色（10YR7/4）シルトブロック微量、φ10mm 以下の炭化物少量含む。
4. 浅黄橙色（10YR8/3）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）シルトと黒褐色（10YR3/1）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まる。φ10mm 以下の炭化物微量含む。
4. 灰白色（10YR8/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）シルトと黒褐色（10YR3/1）シルトのブロック充填。灰白色（10YR8/1）シルトの割合が高い。粘性やや強く、締まらない。
5. 明青灰色（10BG7/1）粘質土。粘性強く、締まらない。

SE295

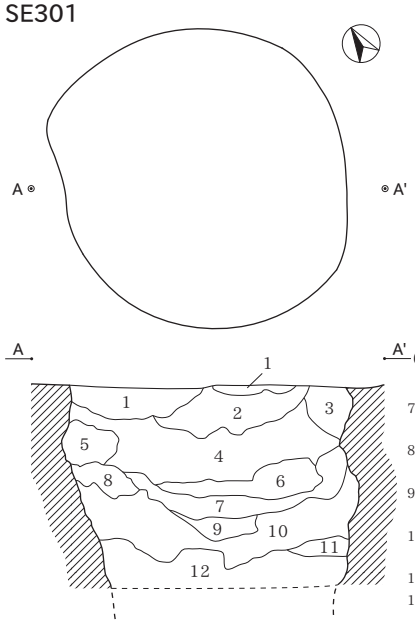


SE295

1. 黒色（10YR2/1）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。
2. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。灰白色（10YR8/1）シルトブロック少量含む。
3. 黒色（10YR2/1）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。
4. 黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
5. 灰白色（10YR8/1）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
6. 灰白色（10Y7/2）粘質シルト　粘性強く、やや締まる。
7. 黒色（N1.5）粘質シルト　粘性強く、締まらない。明青灰色（5B7/1）粘質シルトブロック多量含む。
8. 黒色（N1.5）粘質シルト　粘性強く、締まらない。

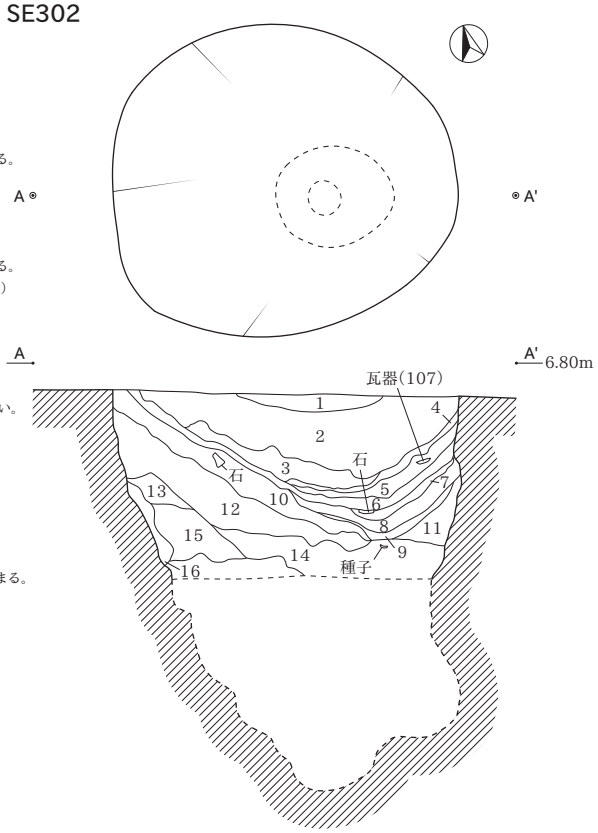
0　（1：40）　2m

SE301



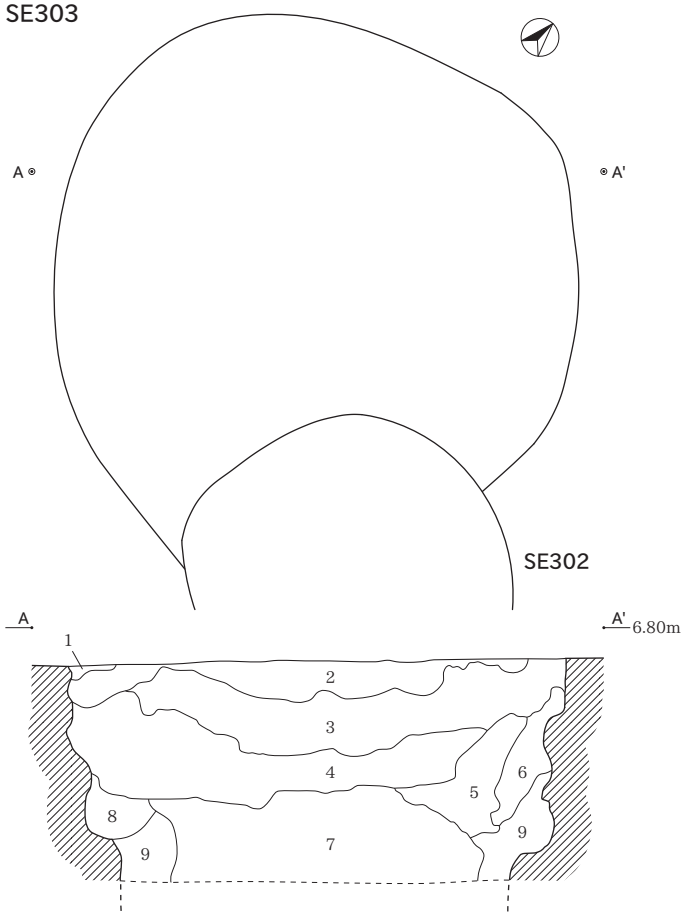
SE301
1. 褐灰色（10YR6/1）シルトと灰白色（10YR8/2）
　シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
2. 褐灰色（10YR5/1）シルトと灰白色（10YR8/2）
　シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
　φ3mm 以下の炭化物微量含む。
3. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
4. 黒褐色（10YR2/2）シルト　粘性やや強く、締まる。
　黒色（10YR1.7/1）シルトブロック微量、
　浅黄橙色（10YR8/3）シルト風呂億多量、
　φ1mm 以下の炭化物微量含む。
5. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
6. 黒褐色（10YR2/2）シルトとにぶい黄褐色（10YR5/4）
　シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。
　φ5mm 以下の炭化物微量含む。
7. 黒色（10YR1.7/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルトブロック微量含む。
8. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
　5 層に比してやや粘性強い。
9. 黒色（10YR1.7/1）シルトとにぶい黄褐色（10YR5/4）
　シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まらない。
10. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。
　8 層に比してやや粘性強く、締まる。
11. 灰白色（10YR8/1）砂質シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
12. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性強く、やや締まらない。

SE302



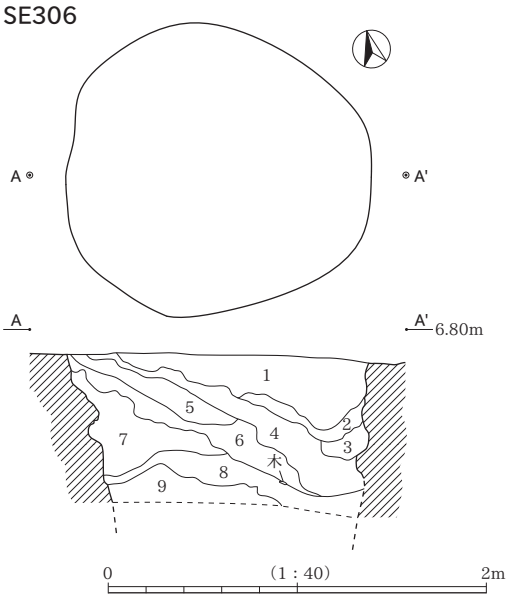
SE302
1. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。扁平した灰白色（10YR8/1）シルトブロック少量、
　φ3mm 以下の炭化物微量、マンガン粒多量含む。
2. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。灰白色（10YR8/1）シルトブロック少量、
　φ3mm 以下の炭化物微量、マンガン粒多量含む。
3. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量、
　φ5mm 以下の炭化物微量含む。
4. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、よく締まる。
5. 褐灰色（10YR4/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/4）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まる。
6. 黒色（10YR1.7/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。土壌化が進んだ炭多量、
　黒褐色（10YR3/2）シルトブロック微量含む。
7. 褐灰色（10YR4/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/4）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まる。
8. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
　浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量含む。
9. 黒色（10YR1.7/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
10. 褐灰色（7.5YR5/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量、
　φ5mm 以下の炭化物微量含む。
11. 黒褐色（7.5YR2/2）シルトとにぶい黄褐色（10YR5/4）シルトのブロック充填。粘性やや強く、
　やや締まらない。
12. 黒褐色（7.5YR2/2）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルトブロック少量、φ10mm 以下の炭化物微量含む。
13. 黒褐色（7.5YR2/2）シルト　粘性やや弱く、やや締まる。
14. 黒褐色（7.5YR2/2）シルト　粘性やや弱く、やや締まらない。
　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック少量含む。
15. 黒褐色（7.5YR2/2）シルトと黄褐色（10YR5/6）シルトのブロック充填。
　粘性やや弱く、やや締まる。
16. 灰黄褐色（10YR5/2）シルト　粘性やや弱く、やや締まる。
　にぶい黄橙色（10YR6/4）シルトブロック少量含む。

SE303



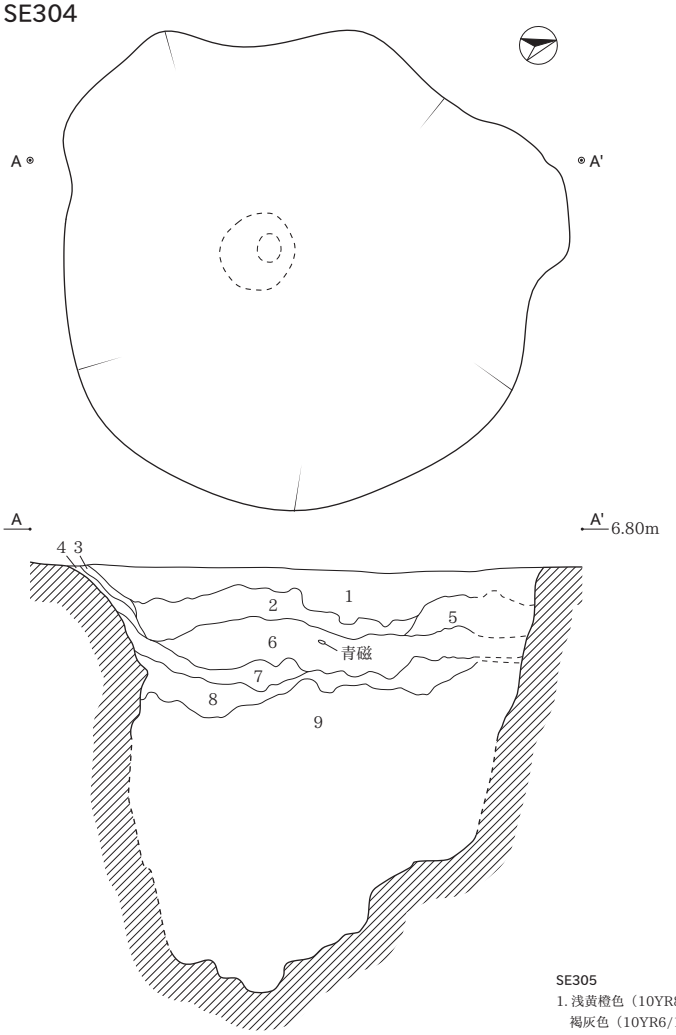
SE303
1. 褐灰色（10YR6/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。粘性弱く、よく締まる。
2. 黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性弱く、よく締まる。灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量、φ10mm 以下の炭化物少量含む。
3. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性弱く、よく締まる。褐灰色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
4. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや強く、締まる。まだらに褐灰色（10YR6/1）シルト微量含む。
5. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや弱く、締まる。まだらに褐灰色（10YR6/1）シルト微量含む。
6. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや強く、締まる。まだらに褐灰色（10YR6/1）シルト微量含む。
7. 灰白色（10YR8/2）シルトと灰色（N4/）粘質シルトのブロック充填。シルトは還元し、明青灰色（5B7/1）を呈する。
8. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性強く、やや締まる。まだらに褐灰色（10YR6/1）シルト微量含む。
9. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性強く、やや締まらない。まだらに褐灰色（10YR6/1）シルト微量含む。

SE306



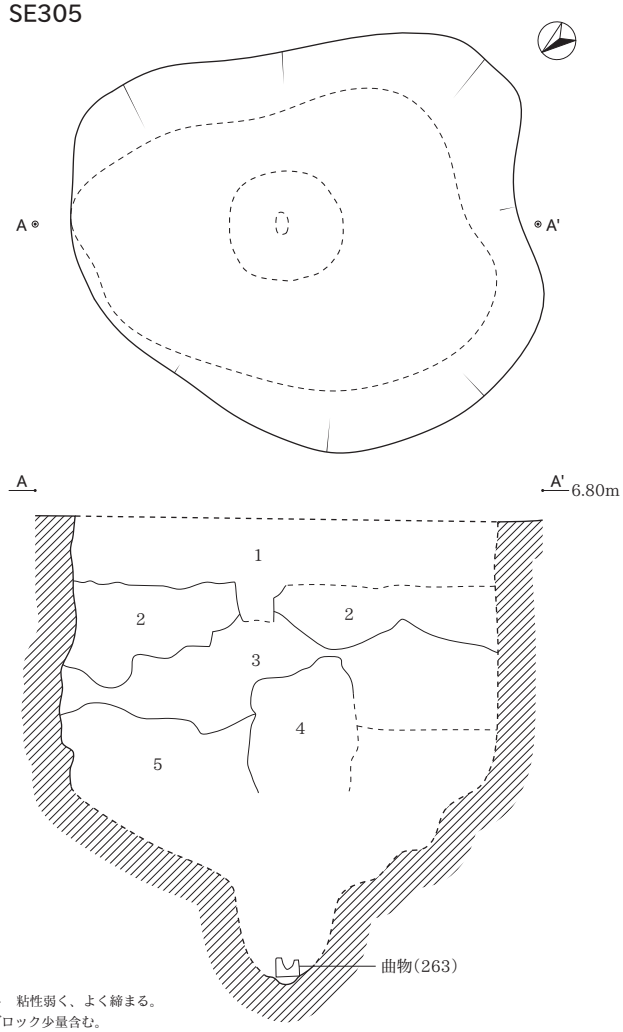
SE306
1. 黒褐色（10YR3/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック充填。粘性やや強く、締まる。
　シルトブロックは層界に沿って堆積する。φ10mm 以下の炭化物、マンガン粒を少量含む。
2. 黒色（10YR2/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック充填。粘性やや強く、締まらない。
3. 黒色（10YR2/1）シルト。粘性やや強く、締まらない。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量含む。
4. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト。粘性やや強く、締まる。褐灰色シルトブロック微量、マンガン粒を多量含む。
5. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性やや弱く、締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量。マンガン粒を多量含む。
6. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性やや弱く、締まる。浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック少量、上部にマンガン粒を少量含む。
7. 黒褐色（10YR3/2）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトブロック充填。粘性やや強く、締まる。
　灰白色（10YR8/2）シルトの割合が高い。上部にマンガン粒を少量含む。
8. オリーブ黒色（5Y3/1）シルト。粘性強く、締まる。浅黄色（2.5Y7/4）シルトブロック少量含む。
9. 灰白色（10YR8/2）シルト。粘性やや強く、締まる。黒褐色（10YR3/2）シルトブロック微量含む。

SE304



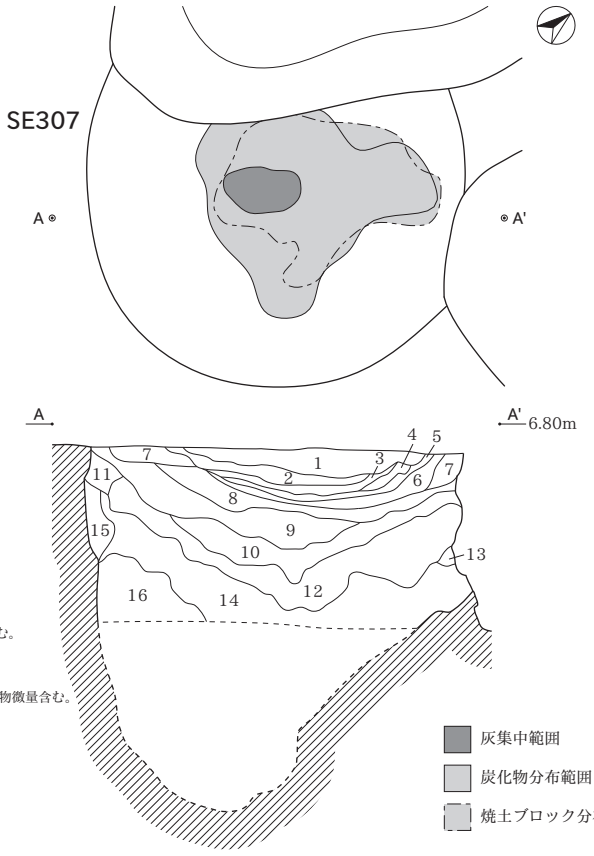
SE304
1. 黒褐色（10YR3/1）シルトとにぶい黄橙（10YR7/4）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、締まる。φ5mm 以下の炭化物微量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
にぶい黄橙（10YR7/4）シルトブロック微量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
3. 黒色（10YR1.7/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
土壌化が進んだ炭多量含む。
4. 褐灰色（7.5YR4/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。
5. 褐灰色（7.5YR5/1）シルトとにぶい褐色（10YR5/4）シルトのブロック充填。
粘性強く、締まらない。
6. 黒褐色（7.5YR3/2）シルト　粘性やや強く、締まる。
φ5mm 以下の炭化物微量含む。
7. 褐灰色（7.5YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
にぶい褐色（10YR5/4）シルトブロック少量含む。
8. 褐灰色（7.5YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
にぶい褐色（10YR5/4）シルトブロック少量、まだらに明褐灰色（5YR7/2）シルト少量含む。
9. にぶい橙（7.5YR7/4）シルト　粘性強く、やや締まる。
褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量含む。

SE305



SE305
1. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性弱く、よく締まる。
褐灰色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
2. 黒色（10YR2/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、やや締まらない。
3. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
黒色（10YR2/1）シルトブロック多量含む。
4. 黒色（10YR2/1）シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、締まらない。φ20mm 以下の炭化物少量含む。
5. 明青灰色（5B7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。まだらに暗青灰色（5PB4/1）粘質シルト少量含む。

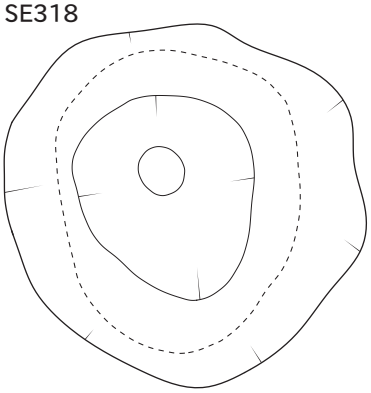
SE307



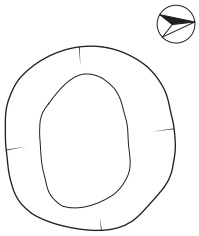
SE307
1. 黒褐色（10YR3/1）シルトと褐灰色（7.5YR4/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/2）シルトのブロック充填。
粘性弱く、締まる。φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性弱く、締まる。にぶい黄橙色（10YR6/3）シルトブロック少量、
φ10mm 以下の炭化物少量含む。
3. 黒色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや弱く、やや締まらない。褐灰色（10YR5/1）シルトブロック多量、
50mm 角の炭化物多量、灰多量、骨片微量含む。
4. 黒褐色（10YR3/1）シルトと褐灰色（7.5YR4/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/2）シルトのブロック充填。
粘性弱く、締まる。φ5mm 以下の炭化物多量含む。
5. 橙色（5YR6/6）の焼土ブロック、暗赤灰色（10R4/1）の被熱土ブロック充填。
粘性弱く、締まる。土壌化が進んだ炭少量、灰少量含む。
6. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや弱く、やや締まらない。土壌化が進んだ炭多量、灰多量、骨片微量含む。
7. 黒色（10YR2/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/2）シルトのブロック充填。粘性弱く、締まる。
8. 黒褐色（10YR3/1）シルトと褐灰色（10YR5/1）とにぶい黄橙色（10YR6/4）シルトのブロック充填。
粘性弱く、締まる。
9. 黒褐色（10YR3/1）シルトと褐灰色（10YR5/1）とにぶい黄橙色（10YR6/4）シルトのブロック充填。
にぶい黄橙色（10YR6/4）シルトの割合高い。粘性弱く、締まる。
10. 黒褐色（10YR3/1）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。細砂少量含む。
11. 褐灰色（7.5YR4/1）と灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性弱く、締まる。
12. 褐灰色（7.5YR4/1）と灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、やや締まらない。
13. 褐灰色（10YR5/1）と灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まる。φ5mm 以下の炭化物微量含む。
14. 褐灰色（10YR5/1）と灰白色（10YR8/1）シルトとにぶい黄褐色（10YR4/3）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、やや締まらない。
15. 灰白色（10YR8/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。褐灰色（10YR5/1）シルトブロック少量含む。
16. 灰白色（10YR8/1）シルトがブロック状に堆積。粘性強く、やや締まらない。

0　（1：40）　2m

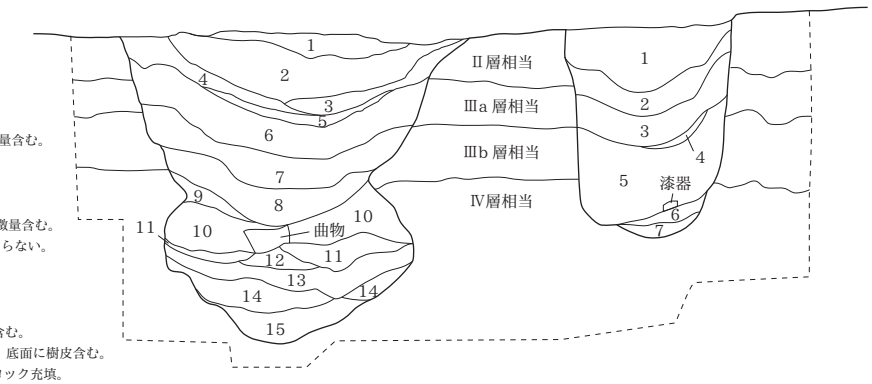
SE318



SE315

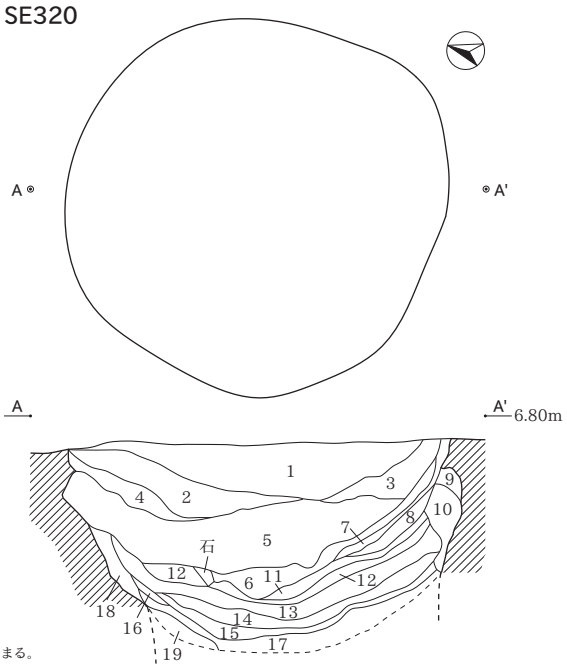


SE315
1. 褐灰色（10YR4/1）シルトと黒褐色（7.5YR3/1）シルトのブロック充填。
粘性やや弱く、よく締まる。灰白色（10YR8/1）シルトブロック微量、
φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
灰白色（10YR8/1）シルトブロック微量、
φ5mm 以下の炭化物微量含む。
3. 黒褐色（7.5YR3/1）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトの
ブロック充填。粘性やや強く、締まる。φ5mm 以下の炭化物微量含む。
4. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性やや強く、締まらない。
5. 淡黄橙色（10YR8/3）シルトと黒褐色（2.5Y3/1）シルトのブロック充填。
粘性強く、締まらない。
6. 緑灰色（7.5GY6/1）シルト　粘性強く、締まらない。
7. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、締まらない。
まだらに黒褐色（10YR3/1）シルト微量含む。



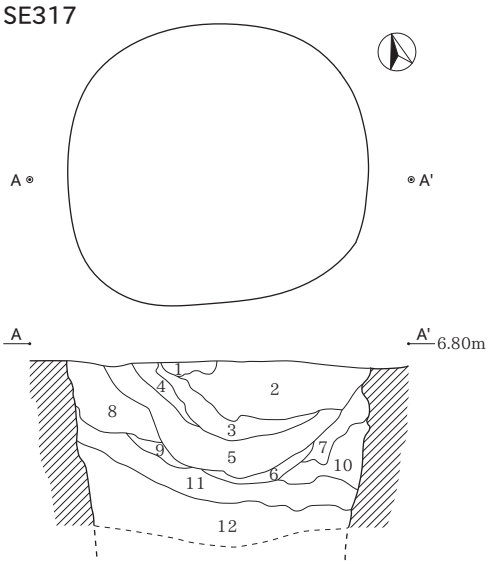
SE318
1. 黒褐色（5YR3/1）シルト　粘性やや強く、よく締まる。
まだらに暗褐色（7.5YR3/3）シルト多量含む。
2. 黒褐色（5YR3/1）シルト　粘性やや強く、よく締まる。
にぶい黄橙色（10YR6/4）シルトブロック少量、
まだらに暗褐色（7.5YR3/3）シルト多量、φ3mm 以下の炭化物少量含む。
3. 黒褐色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
土壌化が進んだ炭少量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
4. 黒褐色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
5. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性やや強く、締まらない。
6. 暗赤灰色（2.5YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
φ15mm 以下の炭化物少量含む。
7. 黒褐色（7.5YR2/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量、底面に樹皮・腐植土含む。
8. 黒褐色（7.5YR2/1）シルト　粘性強く、締まらない。腐植土多量、底面に樹皮含む。
9. 灰色（N4/）粘質シルトと明青灰色（10BG7/1）粘質シルトのブロック充填。
粘性強く、締まらない。
10. 灰色（N4/）粘質シルトと明青灰色（10BG7/1）粘質シルトが互層を成す。粘性強く、締まらない。
黒色（N2/）粘質シルトブロック微量含む。
11. 明青灰色（10BG7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。灰色（N4/）粘質シルトブロック多量含む。
12. 明青灰色（10BG7/1）粘質シルトと灰色（N4/）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、締まらない。
13. 明青灰色（10BG7/1）粘質シルトとオリーブ黒色（5Y3/2）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、締まらない。
14. 明青灰色（10BG7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。まだらにオリーブ黒色（5Y3/2）粘質シルト微量含む。
15. 明青灰色（10BG7/1）粘質シルトと暗灰色（N3/）粘質シルトと灰色（N4/）粘質シルトのブロック充填。
粘性強く、締まらない。

SE320



SE320
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。
浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、
φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。酸化鉄少量含み赤みを帯びる。浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック少量、
φ1mm 以下の炭化物微量含む。
3. 灰黄色（2.5Y6/2）シルトと淡黄色（2.5Y7/3）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
4. 灰黄色（2.5Y6/2）シルトと灰白色（2.5Y8/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
5. 灰黄色（2.5Y6/2）シルトと灰白色（2.5Y8/2）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。土壌化が進んだ炭少量含む。
6. 褐灰色（7.5YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。淡黄色（2.5Y7/3）シルトブロック少量含む。
7. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性やや強く、締まらない。
8. 灰白色（2..5Y8/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
9. 灰白色（2..5Y8/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
10. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
淡黄色（2.5Y7/3）シルトブロック少量、黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭少量含む。
11. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性やや強く、締まらない。
淡黄色（2.5Y7/3）シルトブロック少量含む。
12. 褐灰色（5YR4/1）シルト　粘性強く、やや締まる。土壌化が進んだ炭少量含む。
13. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性やや強く、締まらない。
淡黄色（2.5Y7/3）シルトブロック微量含む。
14. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性やや強く、締まらない。13 層に比してやや色調が明るい。
15. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性やや強く、締まらない。
灰白色（10Y8/1）シルトブロック微量含む。13 層に色調が似る。
16. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性やや強く、締まらない。14 層に色調が似る。
17. 黒色（10YR1.7/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性やや強く、締まらない。
13 層に色調が似る。灰白色（10Y8/1）シルトブロック微量含む。
18. 褐灰色（7.5YR4/1）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
19. 灰色（N5/）粘質シルトと明青灰色（5B7/1）粘質シルトのブロック充填。粘性強く、締まらない。

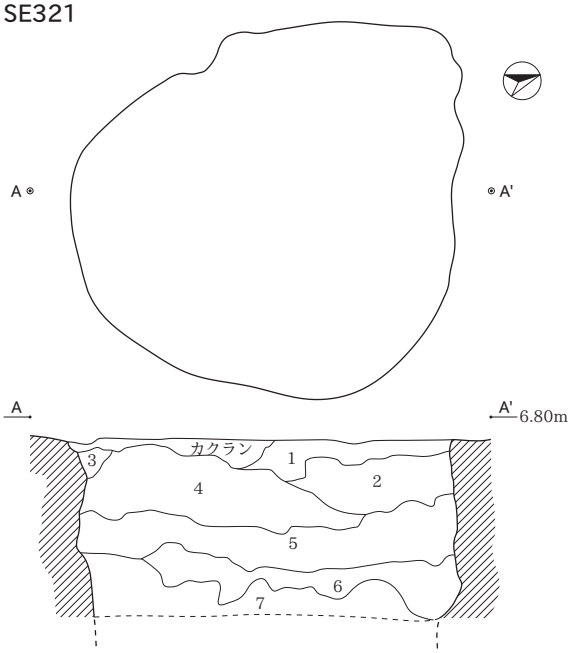
SE317



SE317
1. 灰黄褐色（10YR6/2）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。
粘性弱く、締まる。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルトと暗褐色（10YR3/3）シルトのブロック充填。
粘性やや弱く、やや締まる。φ5mm 以下の炭化物微量含む。
3. 黒褐色シルト（10YR3/1）シルト　粘性強く、締まらない。土壌化が進んだ炭多量含む。
4. 灰黄褐色（10YR6/2）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。粘性弱く、締まる。
5. 褐灰色（10YR4/1）シルトと暗褐色（10YR3/3）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、やや締まらない。φ5mm 以下の炭化物少量含む。
6. 褐灰色（10YR4/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
7. 褐灰色（7.5YR4/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/4）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。
8. 黒褐色（7.5YR3/2）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトのブロック充填。粘性弱く、締まる。
15mm 角以下の炭化物微量含む。
9. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや強く、締まる。
10. にぶい黄橙色（10YR7/4）シルト　粘性やや強く、締まる。褐灰色（10YR4/1）シルトブロック微量含む。
11. 黒色（10YR2/1）シルトと褐灰色（7.5YR4/1）シルトと褐灰色（10YR6/1）シルトと
灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。
12. 黒色（10YR2/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。
粘性強く、やや締まらない。

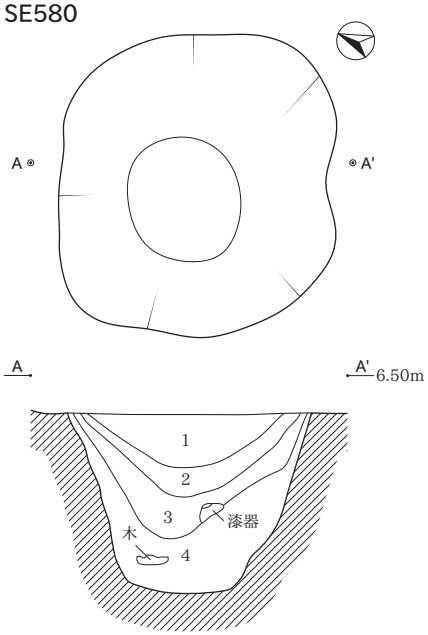
0　（1：40）　2m

SE321



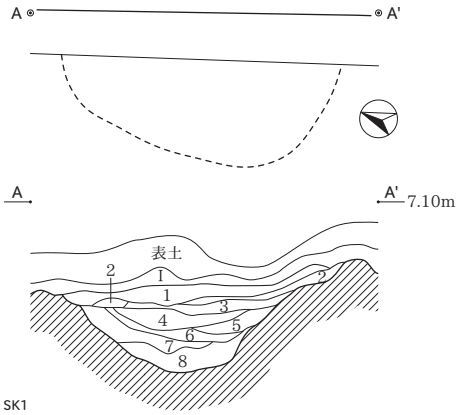
SE321
1. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性やや弱く、よく締まる。
　灰白色（10YR8/1）シルトブロック少量、にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトブロック微量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
2. 褐灰色（10YR6/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。灰白色（10YR8/2）シルトブロック少量含む。
3. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト　粘性やや強く、締まる。褐灰色（10YR6/1）シルトブロック少量含む。
4. 黒褐色（7.5YR3/1）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトと浅黄橙色（10UR8/3）シルトのブロック充填。
　黒褐色（7.5YR3/1）シルトの割合高い。粘性やや弱く、よく締まる。骨片微量含む。
5. 黒褐色（7.5YR3/1）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトと浅黄橙色（10UR8/3）シルトのブロック充填。
　浅黄橙色（10UR8/3）シルトの割合高い。粘性やや弱く、よく締まる。
6. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。
　にぶい黄橙色（10YR6/4）シルトブロック多量、灰白色（10YR8/1）シルトブロック微量、15mm 角以下の炭化物微量、骨片微量含む。
7. 灰白色（10YR8/2）シルト　粘性やや強く、やや締まらない。まだらに褐灰色（7.5YR4/1）シルト微量含む。

SE580



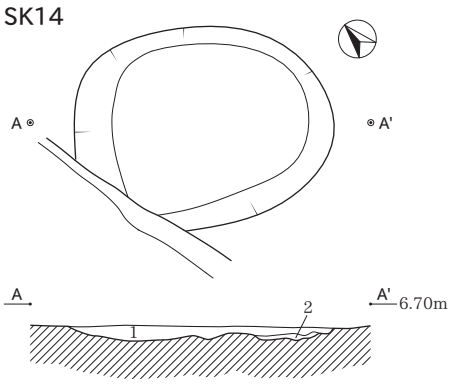
SE580
1. 黒色（7.5YR2/1）粘質シルト　粘性強く、やや締まる。φ20mm 以下の炭化物多量含む。
2. 黒色（7.5YR2/1）粘質シルト　粘性強く、やや締まる。木端少量含む。
3. 黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト　粘性強く、締まらない。
　オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルトブロック少量、木端多量含む。
4. オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト　粘性強く、やや締まる。木端少量含む。

SK1



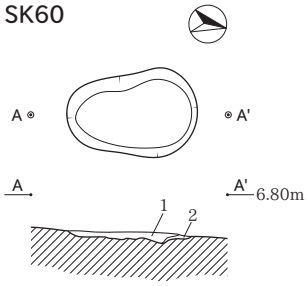
SK1
1. 褐灰色（10YR5/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。
　灰白色（2.5Y8/1）シルトブロック少量、φ10mm 以下の炭化物微量含む。
　マンガン粒多量、酸化鉄多量含む。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性弱く、よく締まる。
　褐灰色（10YR5/1）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
3. 淡黄色（2.5Y8/4）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトのブロック充填。
　粘性弱く、よく締まる。φ5mm 以下の炭化物少量含む。
4. 暗褐色（10YR3/4）シルトと灰黄褐色（10YR5/2）シルトのブロック充填。
　粘性やや強く、締まる。φ3mm 以下の炭化物微量含む。
5. 淡黄色（2.5Y8/4）シルトと褐灰色（10YR4/1）シルトのブロック充填。
　粘性やや強く、締まる。φ5mm 以下の炭化物少量含む。
6. 黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
　褐灰色（10YR4/1）シルトブロック微量含む。
7. 黒褐色（10YR3/1）シルトと浅黄色（2.5Y7/4）シルトのブロック充填。
　粘性やや強く、やや締まる。10×5mm 角の炭化物、
　φ3mm 以下の炭化物微量含む。
8. 浅黄橙色（10YR8/4）砂質シルト　粘性やや弱く、締まる。
　黒褐色（10YR3/1）シルトブロック微量含む。

SK14



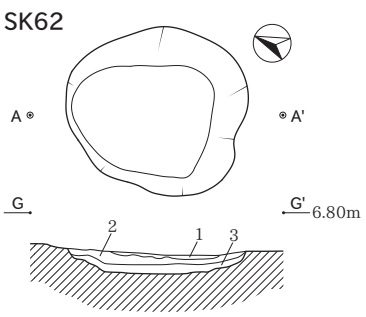
SK14
1. 黒褐色（10YR3/1）シルトと
　淡黄色（2.5Y8/4）シルトのブロック充填。
　粘性弱く、締まる。
　φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 灰白色（2.5Y8/2）砂質シルト。
　粘性弱く、締まる。

SK60



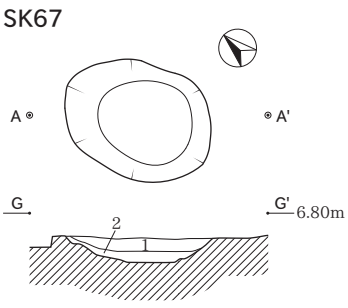
SK60
1. 黒色（10YR2/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/4）
　シルトのブロック充填。粘性やや強く、やや締まる。
　φ10mm 以下の炭化物微量、焼土ブロック微量含む。
2層　にぶい黄橙色（10YR7/4）シルト
　粘性やや強く、締まる。まだらに褐灰色（10YR4/1）
　シルト微量、φ1mm 以下の炭化物微量含む。

SK62



SK62
1. 黒褐色（10YR3/2）シルトと黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭のブロック充填。
　粘性やや強く、締まらない。φ10mm 以下の炭化物多量含む。
2. 暗褐色（10YR3/3）シルトと灰白色（5Y8/2）シルトブロック充填。粘性やや強く、やや締まらない。
3. 灰白色（5Y8/2）シルト　粘性やや弱く、締まる。まだらに黒褐色（10YR3/2）シルト微量含む。

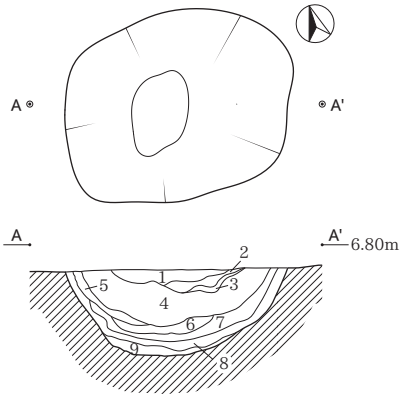
SK67



SK67
1. 黒褐色（7.5YR3/2）シルト　粘性弱く、よく締まる。
　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒褐色（7.5YR3/2）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）シルトの
　ブロック充填。粘性弱く、よく締まる。φ3mm 以下の炭化物微量含む。

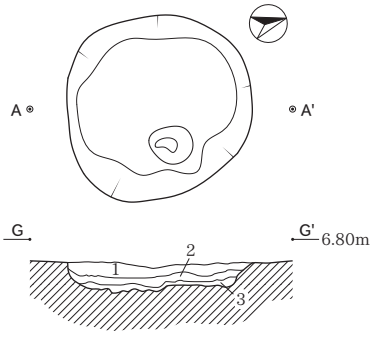
0　（1：40）　2m

SK61



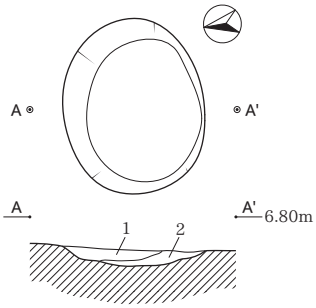
SK61
1. 暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性やや弱く、締まる。
　浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。
2. 暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性やや強く、締まる。
　φ5mm 以下の炭化物少量、炭化粒多量含む。
3. 暗褐色（10YR3/3）シルトと灰白色（10YR8/）シルトのブロック充填。
　粘性やや強く、締まる。
4. 暗褐色（10YR3/3）シルトと灰白色（10YR8/）シルトのブロック充填。
　粘性やや強く、締まらない。φ5mm 以下の炭化物少量含む。
5. 黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや強く、やや締まる。
　10mm 角以下の炭化物少量含む。
6. 黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや強く、締まらない。
　黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭多量、
　φ10mm 以下の炭化物多量、炭化した植物遺体微量、灰微量含む。
7. にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）シルト
　粘性やや強く、締まらない。黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭微量、
　φ10mm 以下の炭化物微量、腐植土多量含む。
8. 黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや強く、締まる。
　扁平した黒色（10YR2/1）シルトブロック少量、
　明黄褐色（10YR6/6）シルトブロック少量、
　まだらに焼土微量含む。
9. 灰白色（5Y8/2）シルト　粘性やや弱く、締まる。
　黒褐色（10YR3/2）シルトブロック微量含む。

SK73



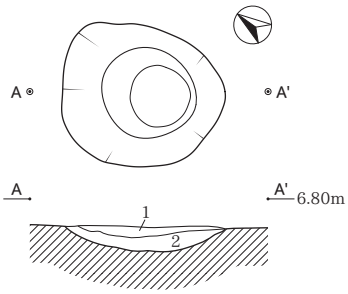
SK73
1. 黒褐色（7.5YR3/2）シルト。粘性弱く、よく締まる。
　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量、
　φ5mm 以下の炭化物微量含む。
2. 暗褐色（7.5YR3/3）シルト。粘性弱く、締まる。
　黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭微量、
　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量、
　φ1mm 以下の炭化物少量含む。
3. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
　にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトブロック少量含む。

SK106



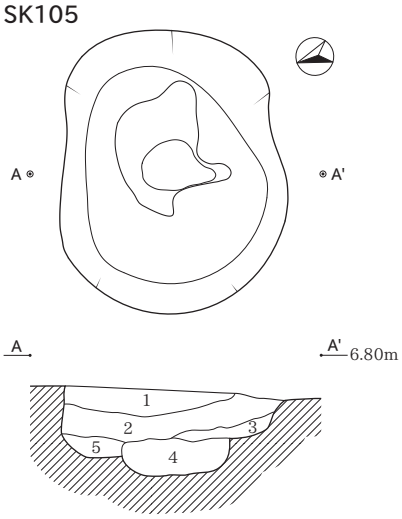
SK106
1. 黒褐色（7.5YR2/1）シルト。粘性強く、よく締まる。φ2mm 以下の炭化物微量含む。
2. 黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性強く、締まらない。φ20mm 以下の炭化物少量含む。

SK110



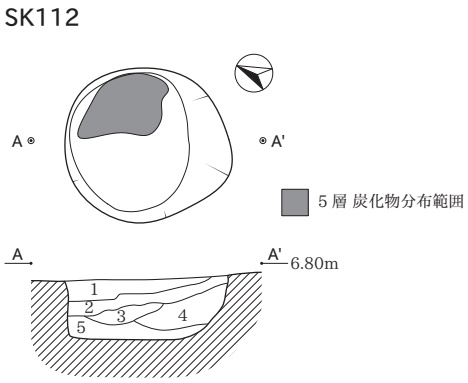
SK110
1. 極暗褐色（7.5YR2/）シルト　粘性強く、よく締まる。灰白色（2.5Y8/1）シルトブロック微量含む。
2. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　粘性強く、よく締まる。灰白色（2.5Y8/1）シルトブロック微量含む。

SK105



SK105
1. 極暗褐色（7.5YR 2/3）シルト。 粘性強く、よく締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック微量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
2. 黒色（7.5YR2/1）シルト。粘性強く、よく締まる。
　明褐灰色（7.5YR7/2）シルトブロック少量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
3. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト。粘性強く、よく締まる。
4. 黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭充填。粘性強く、締まらない。
　灰褐色（7.5YR6/2）シルトブロック微量含む。
5. 黒褐色（7.5YR3/1）シル。粘性強く、よく締まる。

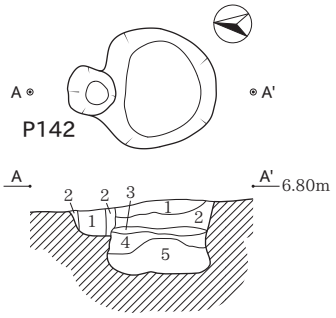
SK112



SK112
1. 浅黄橙色（10YR8/3）シルトと褐灰色（10YR6/1）シルトのブロック充填。
　粘性弱く、よく締まる。
2. 褐灰色（10YR4/1）シルト 。粘性弱く、よく締まる。
　浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック多量含む。
3. 褐灰色（10YR4/1）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。
　粘性弱く、よく締まる。
4. 浅黄橙色（10YR8/3）シルト。粘性弱く、よく締まる。
　褐灰色（10YR4/1）シルトブロック少量含む。
5. 黒褐色（10YR3/1）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。
　粘性やや弱く、締まる。黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭少量含む。

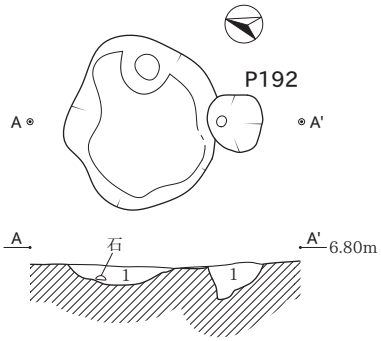
0　（1：40）　2m

SK131



SK131
1. 褐灰色（10YR4/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR6/3）と
黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭充填。
粘性やや強く、締まる。φ10mm 以下の炭化物少量、
φ15mm 以下の焼土微量含む。
2. 褐灰色（10YR5/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、締まる。
3. 褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強く、締まる。
4. 褐灰色（10YR5/1）シルトと灰白色（10YR8/2）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、締まる。
5. 灰白色（2.5Y8/1）シルト　粘性やや弱く、締まる。
まだたに褐灰色（10YR5/1）シルトブロック微量含む。

SK193

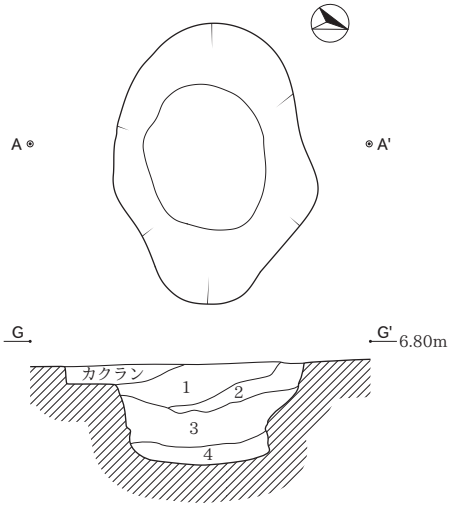


P142
1. 黒褐色（10YR2/2）シルト。粘性やや強く、締まる。
灰白色（5Y8/1）シルトブロック少量含む。
2. オリーブ黒色（5Y3/1）シルト。粘性やや強く、締まる。
灰白色（5Y8/1）シルトブロック少量含む。

SK193
1. 黒褐色（7.5YR3/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。扁平した灰白色（2.5Y8/2）シルトブロック少量、
φ10mm 以下の炭化物少量含む。

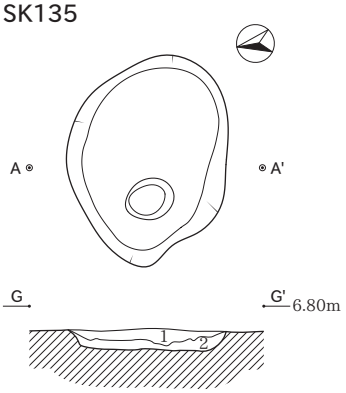
P192
1. 黒色（2.5Y2/1）シルトと黒褐色（7.5YR3/1）シルトと扁平した灰白色（2.5Y8/2）シルトのブロック充填。
粘性弱く、締まる。φ20mm 以下の炭化物微量含む。

SK133



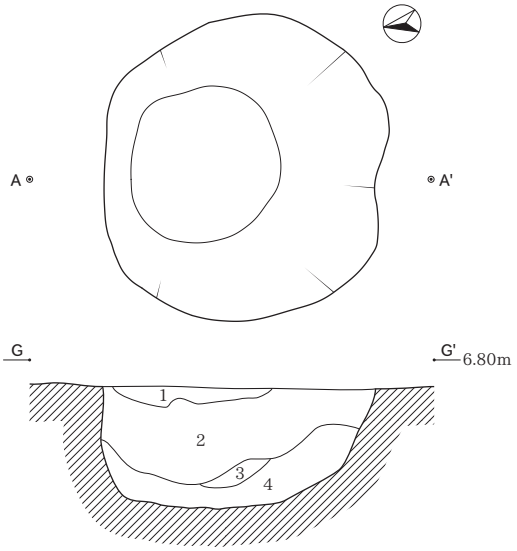
SK133
1. オリーブ黒色（5Y3/1）シルトと灰色（5Y4/1）シルトと
灰白色（5Y8/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まる。
2. 灰色（5Y4/1）シルトと灰白色（5Y8/2）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、締まる。
3. オリーブ黒色（5Y3/1）シルトと灰色（5Y4/1）シルトと
灰白色（5Y8/2）シルトのブロック充填。
粘性強く、やや締まらない。
4. 淡黄色（2.5Y8/4）シルト。粘性強く、締まらない。
まだらに灰色（5Y4/1）シルトブロック微量含む。

SK135



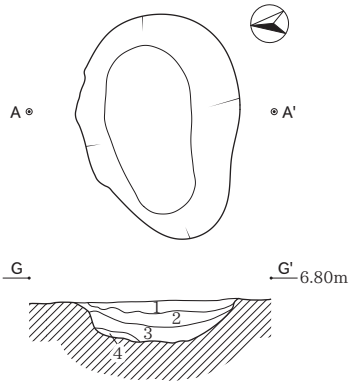
SK135
1. 黒色（5Y2/1）シルト。粘性やや強く、締まる。淡黄色（2.5Y8/3）シルトブロック少量含む。
2. 灰色（5Y7/1）シルトと灰白色（5Y8/2）シルトのブロック充填。粘性やや強く、締まる。

SK134



SK134
1. オリ ーブ黒色（5Y3/1）シルト。
粘性強く、締まらない。
φ3mm 以下の炭化物微量、灰少量含む。
2. 灰色（5Y4/1）シルト。粘性強く、締まる。
淡黄色（2.5Y8/3）シルトブロック少量、
φ5mm 以下の炭化物少量含む。
3. 灰白色（2.5Y8/1）シルト。粘性強く、締まらない。
淡黄色（2.5Y8/3）シルトブロック多量含む。
4. 淡黄色（2.5Y8/3）シルト。粘性強く、締まる。
灰白色（2.5Y8/1）シルトブロック微量含む。

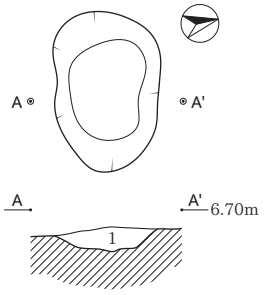
SK136



SK136
1. オリーブ黒（5Y3/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。φ1mm 以下の炭化物微量含む。
2. 灰色（5Y4/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。
3. オリーブ黒（5Y3/1）シルトと灰色（5Y4/1）シルトのブロック充填。粘性やや弱く、締まる。
4. 淡黄色（5Y8/3）シルト。粘性やや弱く、締まる。まだらに灰色（5Y4/1）シルト微量含む。

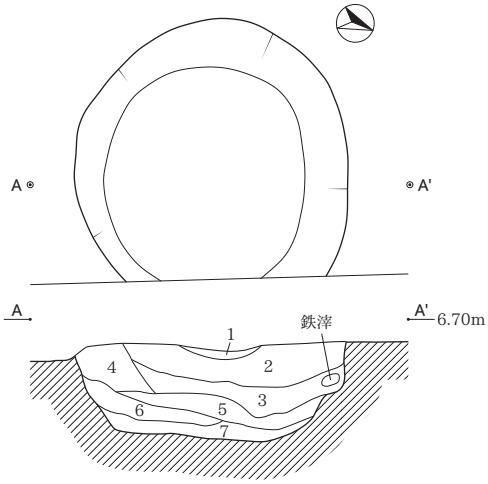
0　（1：40）　2m

SK217



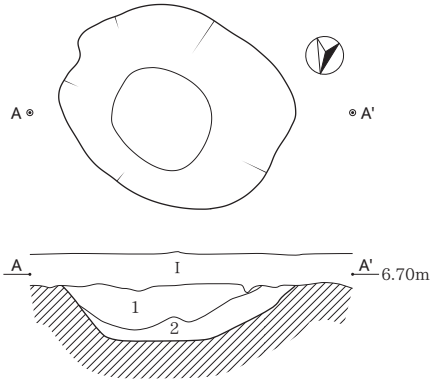
SK217
1. 黒色（2.5Y2/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。
灰白色（2.5Y8/2）シルトブロック微量、
φ3mm 以下の炭化物微量含む。

SK218



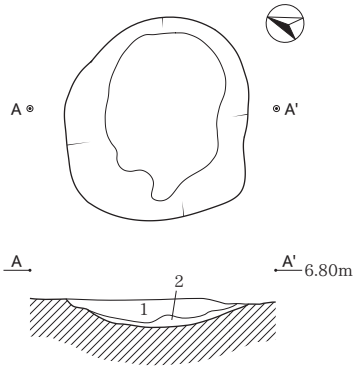
SK218
1. 黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭と
淡黄色（5Y8/3）シルトブロック充填。
粘性やや強く、締まらない。
2. 黒褐色（7.5YR3/2）シルト。粘性やや強く、やや締まる。
淡黄色（5Y8/3）シルトブロック少量、
まだらに黒色（10YR2/1）少量含む。
3. 黒褐色（7.5YR3/2）シルト。粘性やや強く、やや締まる。
淡黄色（5Y8/3）シルトブロック少量、
まだらに黒色（10YR2/1）少量含む。
２層との層界に黒色（10YR2/1）の土壌化が進んだ炭が
薄く堆積する。
4. 黒褐色（7.5YR3/2）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）
シルトのブロック充填。粘性やや弱く、よく締まる。
5. 黒褐色（2.5Y3/1）シルト。粘性やや強く、締まる。
6. 黒褐色（2.5Y3/1）シルト。粘性強く、締まらない。
7. 黒色（10YR2/1）シルト。粘性強く、締まらない。

SK220



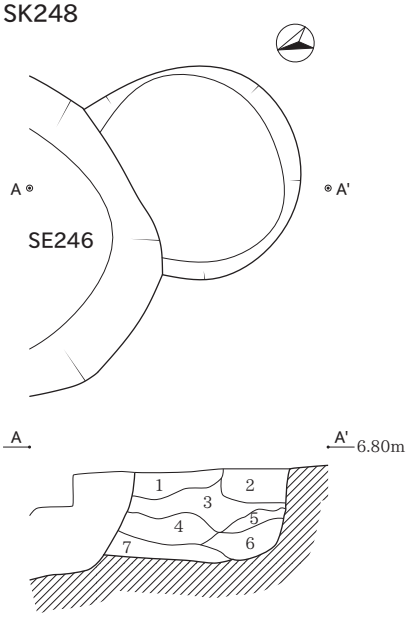
SK220
1. 褐灰色（10YR4/1）シルト。粘性強く、締まる。
黄橙色（10YR8/6）シルトブロック多量、
φ10mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒色（10YR2/1）シルト。粘性強く、やや締まらない。
黄橙色（10YR8/6）シルトブロック少量含む。

SK274



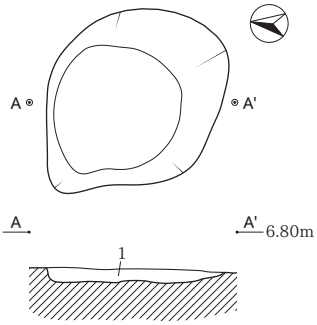
SK274
1. 黒褐色（7.5YR3/2）シルト。粘性弱く、よく締まる。
浅黄橙色（10YR8/3）シルトブロック微量、
φ10mm 以下の炭化物少量含む。
2. 黒褐色（7.5YR3/2）シルトと浅黄橙色（10YR8/3）
シルトのブロック充填。
粘性弱く、よく締まる。φ3mm 以下の炭化物微量含む。

SK248



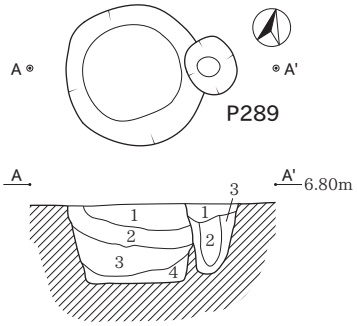
SK248
1. 褐灰色（7.5YR4/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。
にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトのブロック少量、
φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト。粘性弱く、よく締まる。
褐灰色（10Y7/1）シルトブロック微量含む。
3. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。
にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトのブロック少量、
灰白色（10YR8/1）シルトブロック微量、
φ3mm 以下の炭化物微量含む。
4. 黒色（10YR2/1）シルトと黒褐色（10YR3/1）シルトと
灰白色（10YR8/1）シルトのブロック充填。
粘性やや強く、締まる。φ5mm 以下の炭化物微量含む。
5. 浅黄橙色（10YR8/4）シルト。粘性やや強く、締まる。
灰白色（10YR8/1）シルトブロック少量含む。
6. 褐灰色（10YR5/1）シルトと灰白色（10YR8/1）シルトの
ブロック充填。
粘性やや強く、やや締まらない。
7. 褐灰色（10YR5/1）シルトとにぶい黄橙色（10YR6/4）
シルトブロック充填。
粘性やや強く、やや締まらない。φ1mm 以下の炭化物微量含む。

SK221



SK221
1. 黒色（10YR2/1）シルトと暗褐色（10YR3/3）シルトのブロック充填。粘性弱く、締まる。
明黄褐色（10YR6/6）シルトブロック微量、φ5mm 以下の炭化物少量含む。

SK292

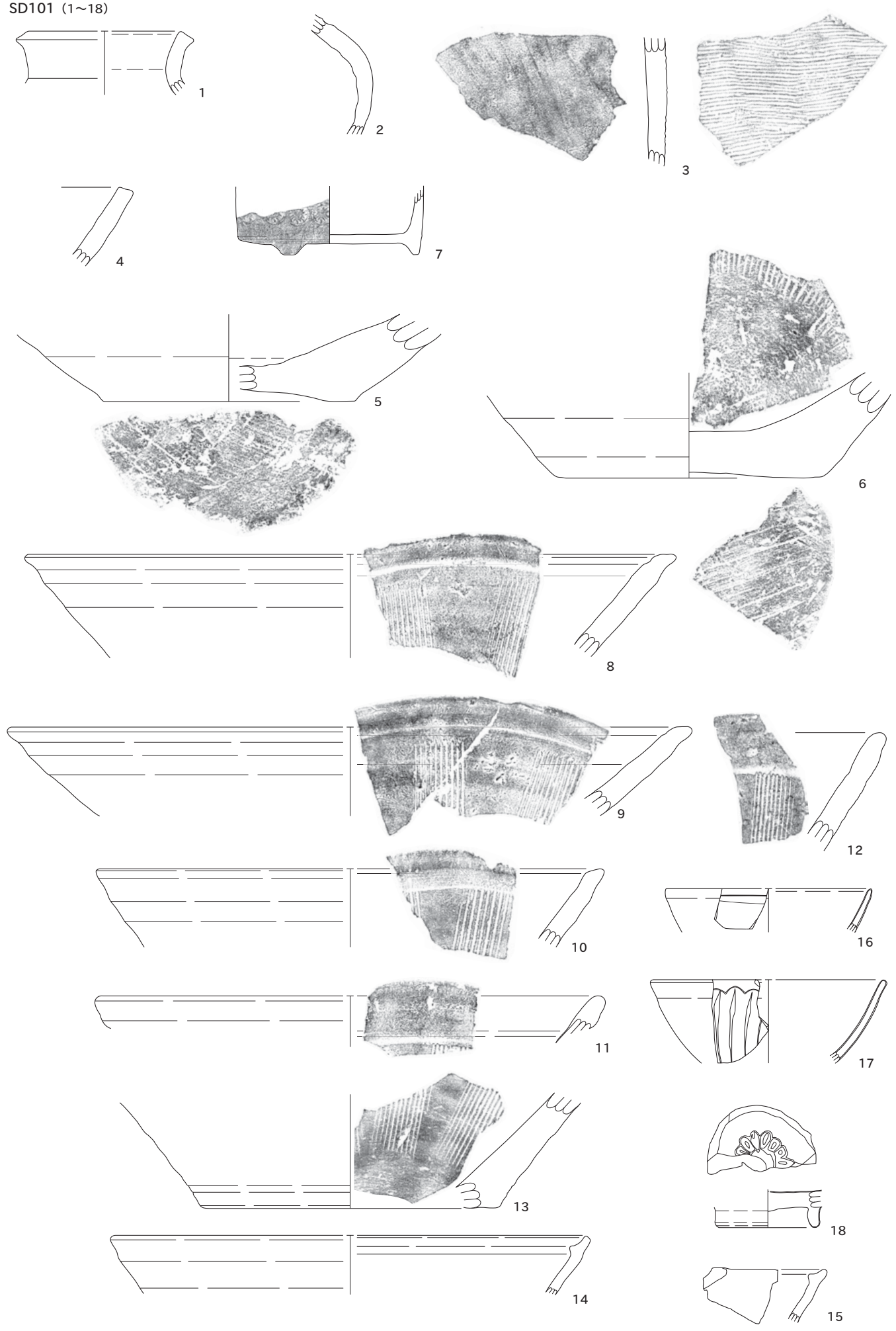


SK292
1. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。
浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量、φ5mm 以下の炭化物微量含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/4）シルトのブロック充填。
粘性弱く、よく締まる。φ10mm 以下の炭化物微量含む。層界に沿って斜めに堆積する。
3. 黒褐色（10YR3/1）シルトと浅黄橙色（10YR8/4）シルトのブロック充填。
粘性弱く、よく締まる。φ5mm 以下の炭化物微量含む。
4. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。
浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック微量含む。

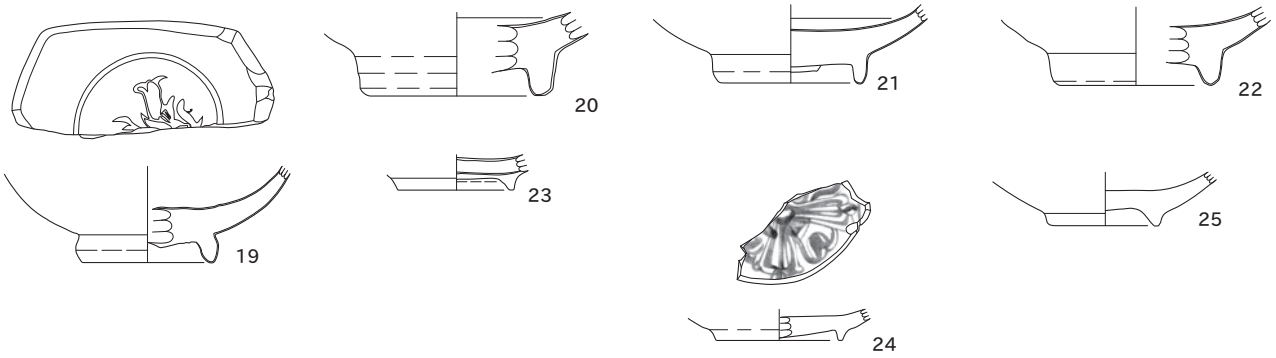
P289
1. 黒褐色（10YR3/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。φ3mm 以下の炭化物微量含む。
2. 褐色（10YR3/1）シルト。粘性弱く、よく締まる。
浅黄橙色（10YR8/4）シルトのブロック少量、φ15mm 以下の炭化物微量含む。
3. 浅黄橙色（10YR8/4）シルトブロック状充填。粘性やや強く、締まる。
斑状に褐灰色シルト少量含む。

0　（1：40）　2m

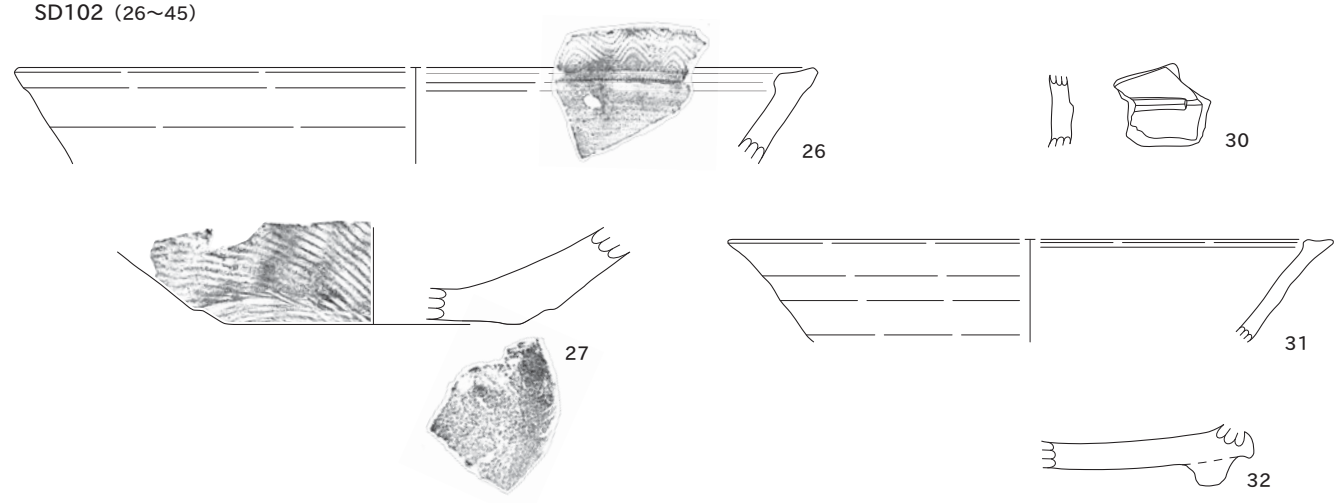
SD101（1～18）

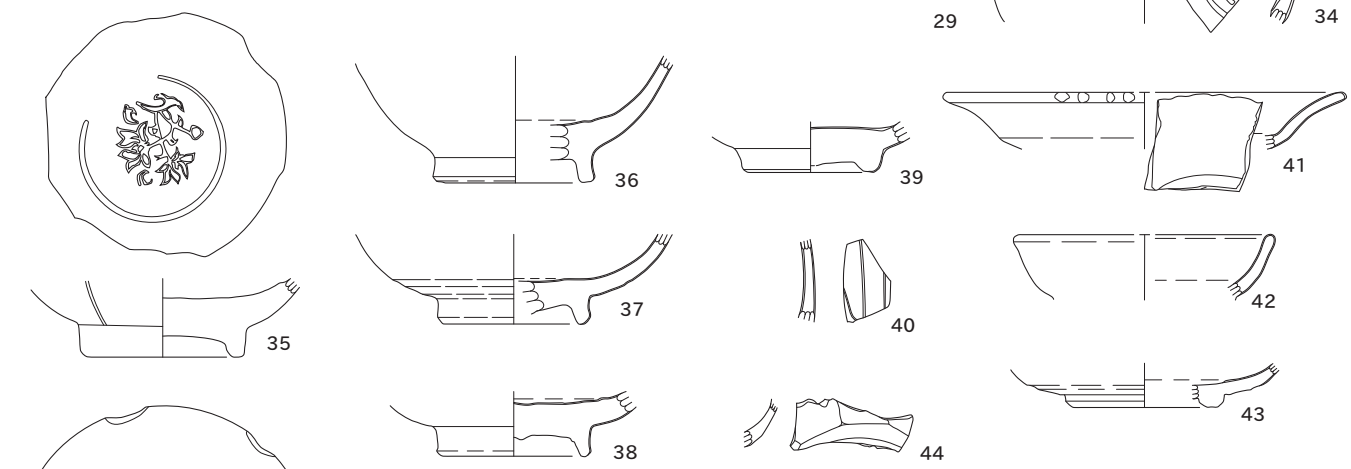


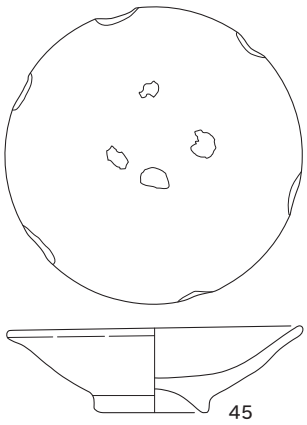
SD101 (19～25)



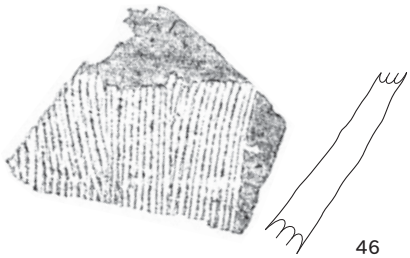
SD102 (26～45)

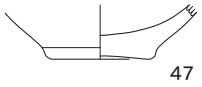


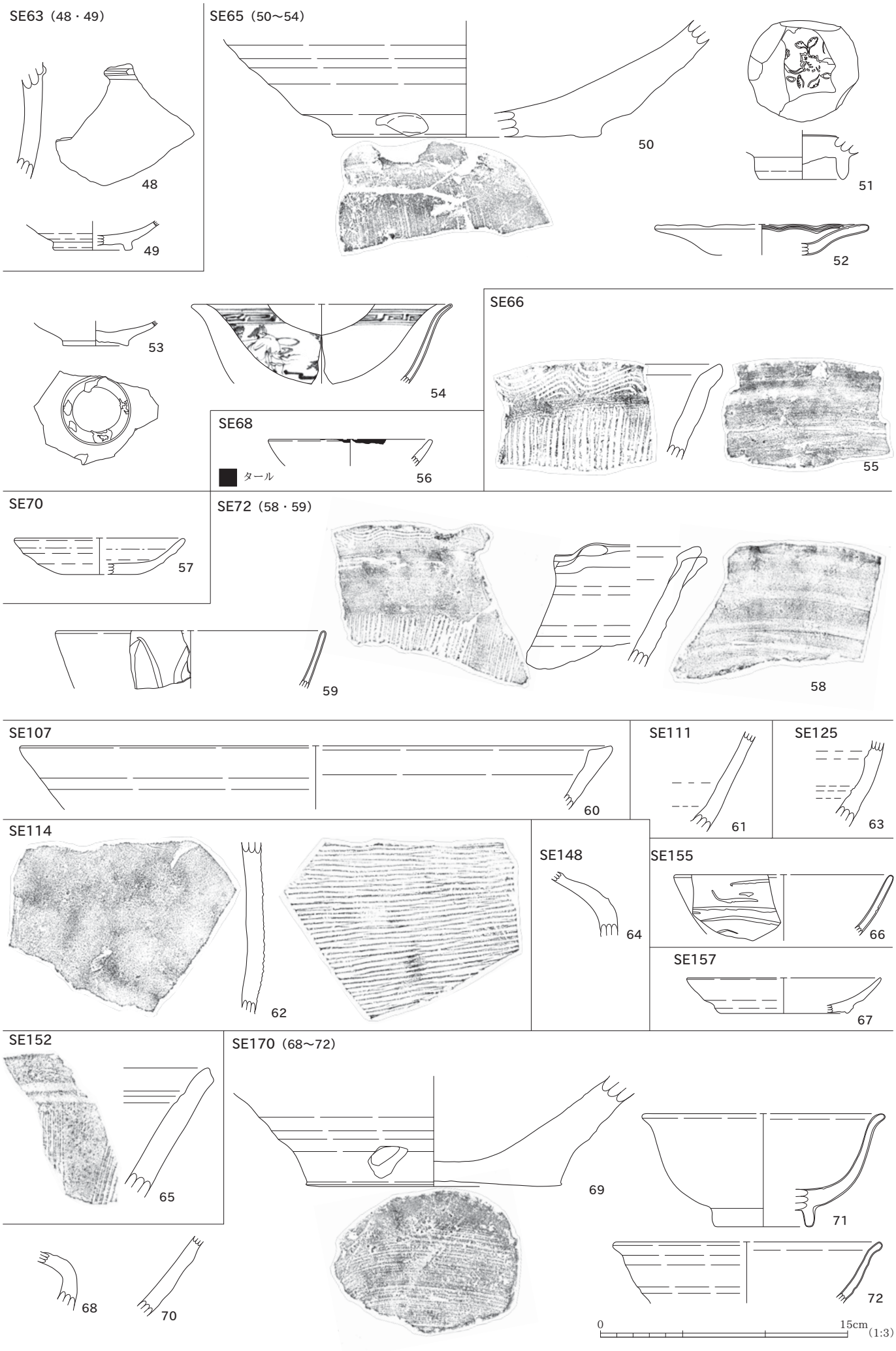




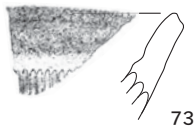
SD377 (46・47)



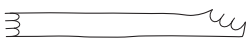



SE63（48・49）
48
49
SE65（50～54）
50
51
52
53
54
SE66
55
SE68
タール
56
SE70
57
SE72（58・59）
58
59
SE107
60
SE111
61
SE125
63
SE114
62
SE148
64
SE155
66
SE157
67
SE152
65
68
70
SE170（68～72）
69
71
72
0
15cm
(1:3)

SE196



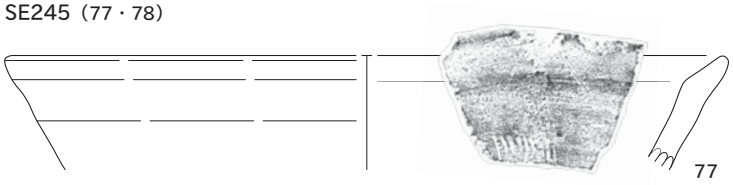
SE197

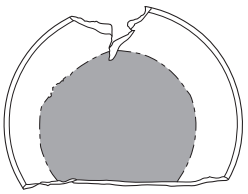


SE241

SE242

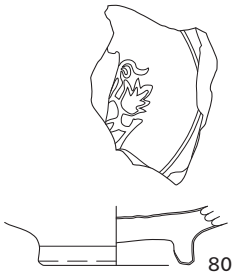
SE245 (77・78)

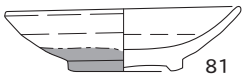


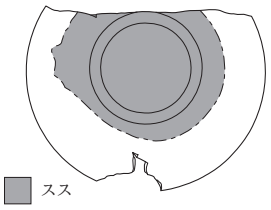


SE247

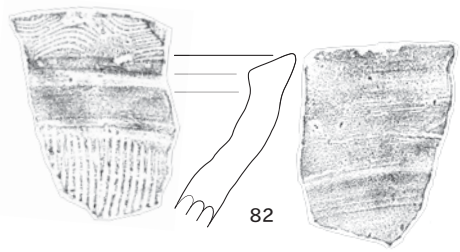
SE249 (80・81)



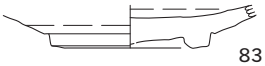




SE251

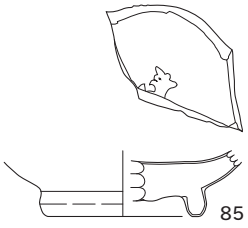


SE254

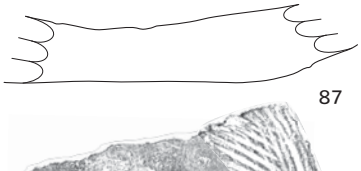


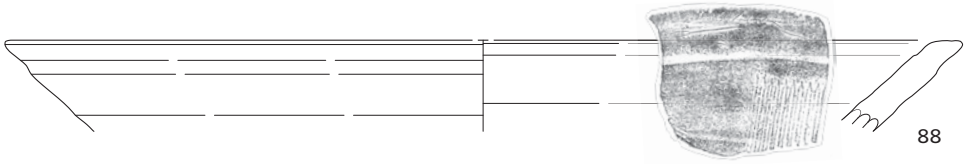
SE256

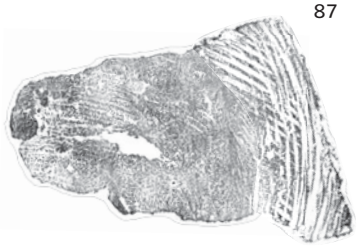
SE259



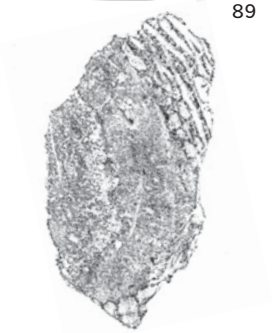
SE261 (86～88)

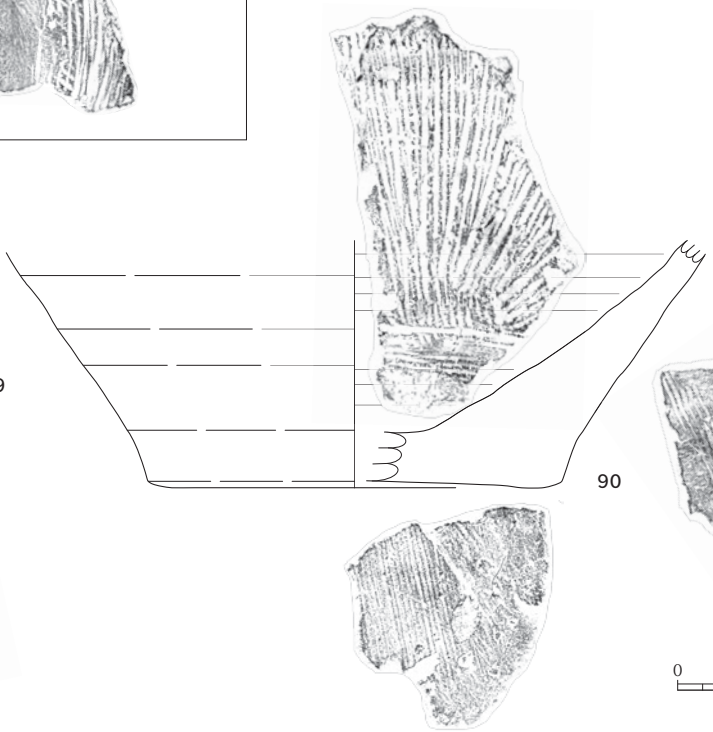




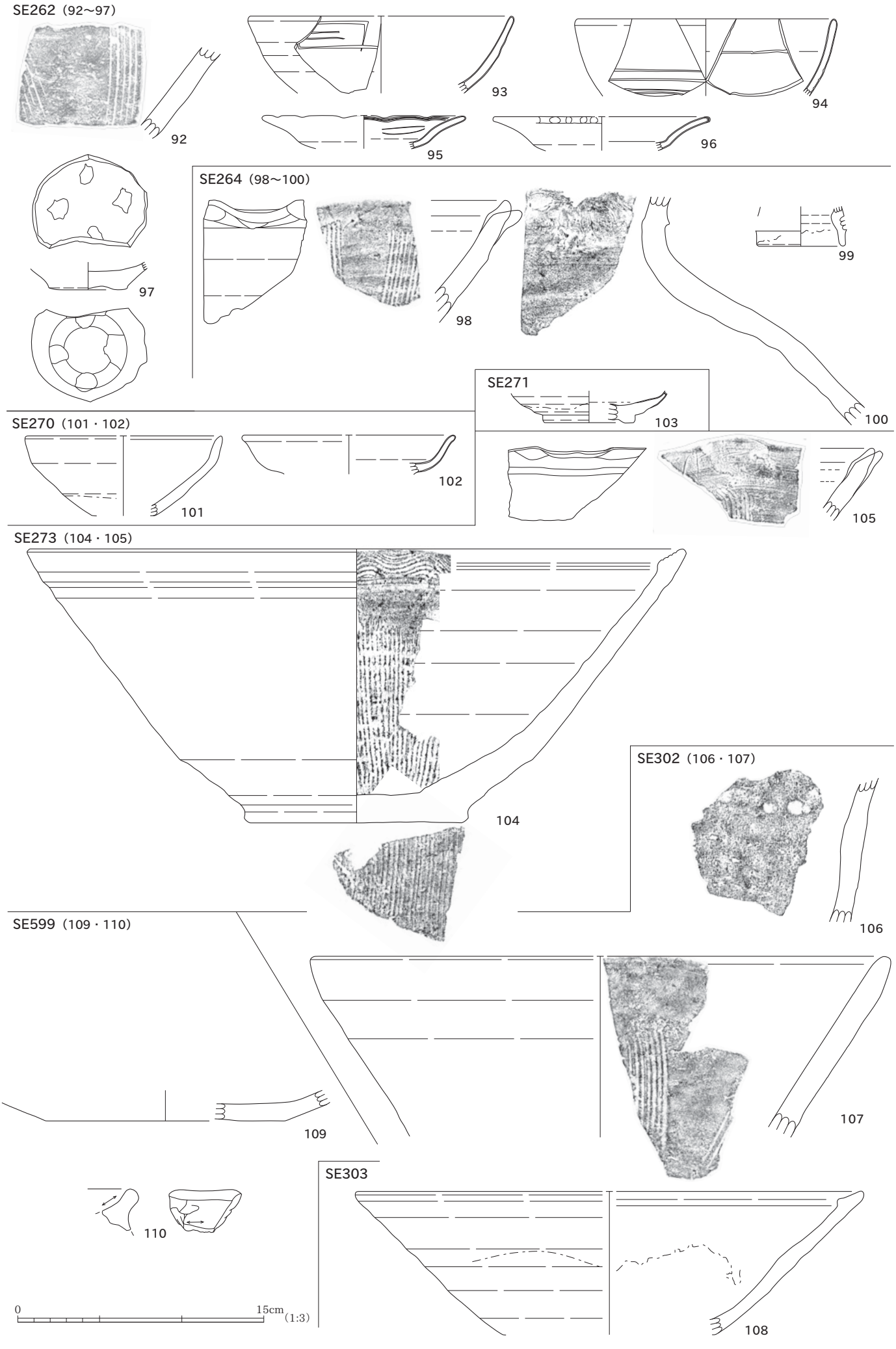


SE262 (89～91)

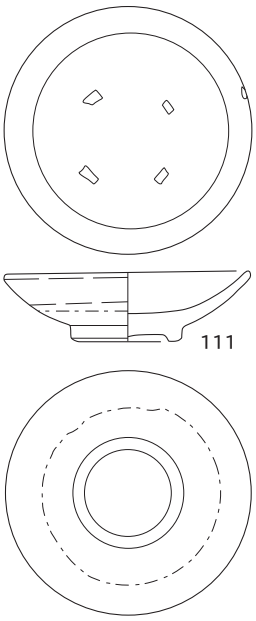




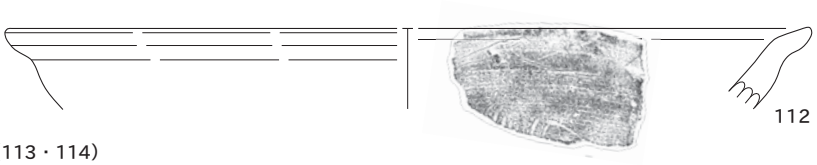
0　15cm (1:3)


SE262 (92～97)
92
93
94
95
96
97
SE264 (98～100)
98
99
100
SE271
103
SE270 (101・102)
101
102
105
SE273 (104・105)
104
SE302 (106・107)
106
SE599 (109・110)
107
109
110
SE303
108
0
15cm
(1:3)

SE599

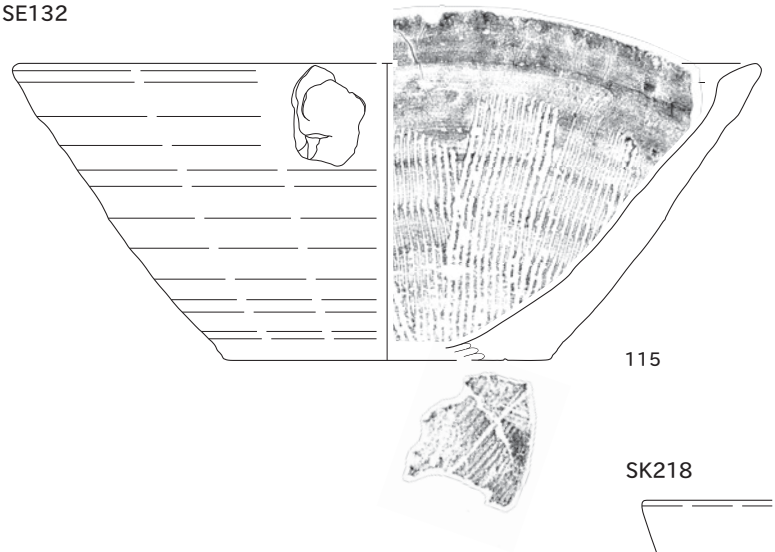


SK105



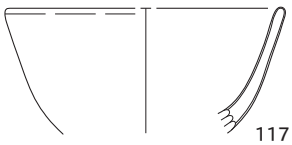
SE130 (113・114)

SE132

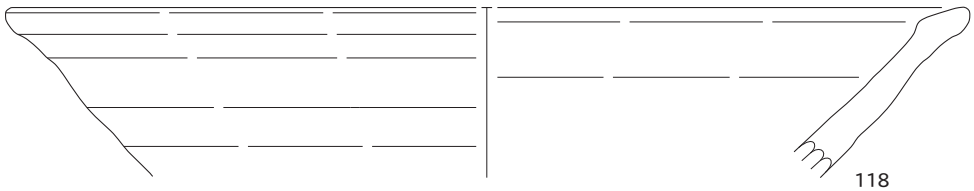


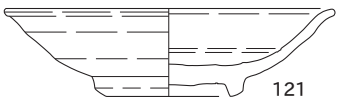
SK134

SK218

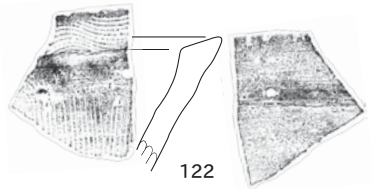


SE257 (118～121)

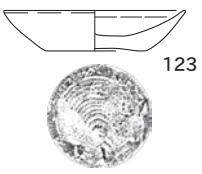




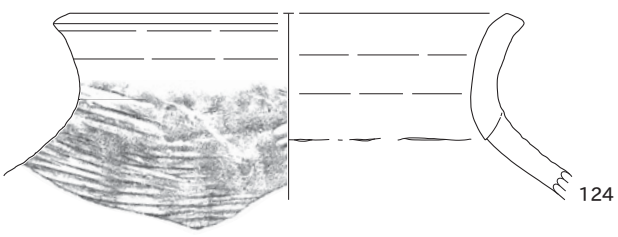
SB3-P228

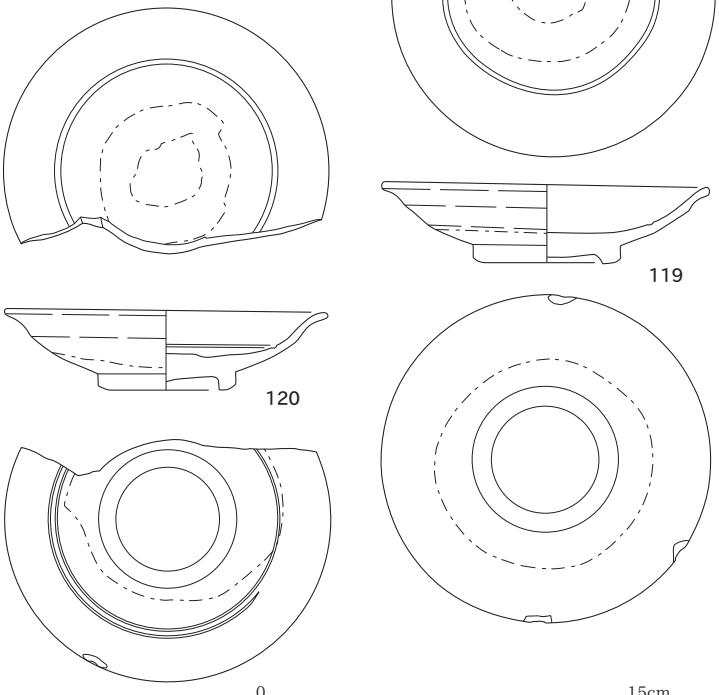


P255



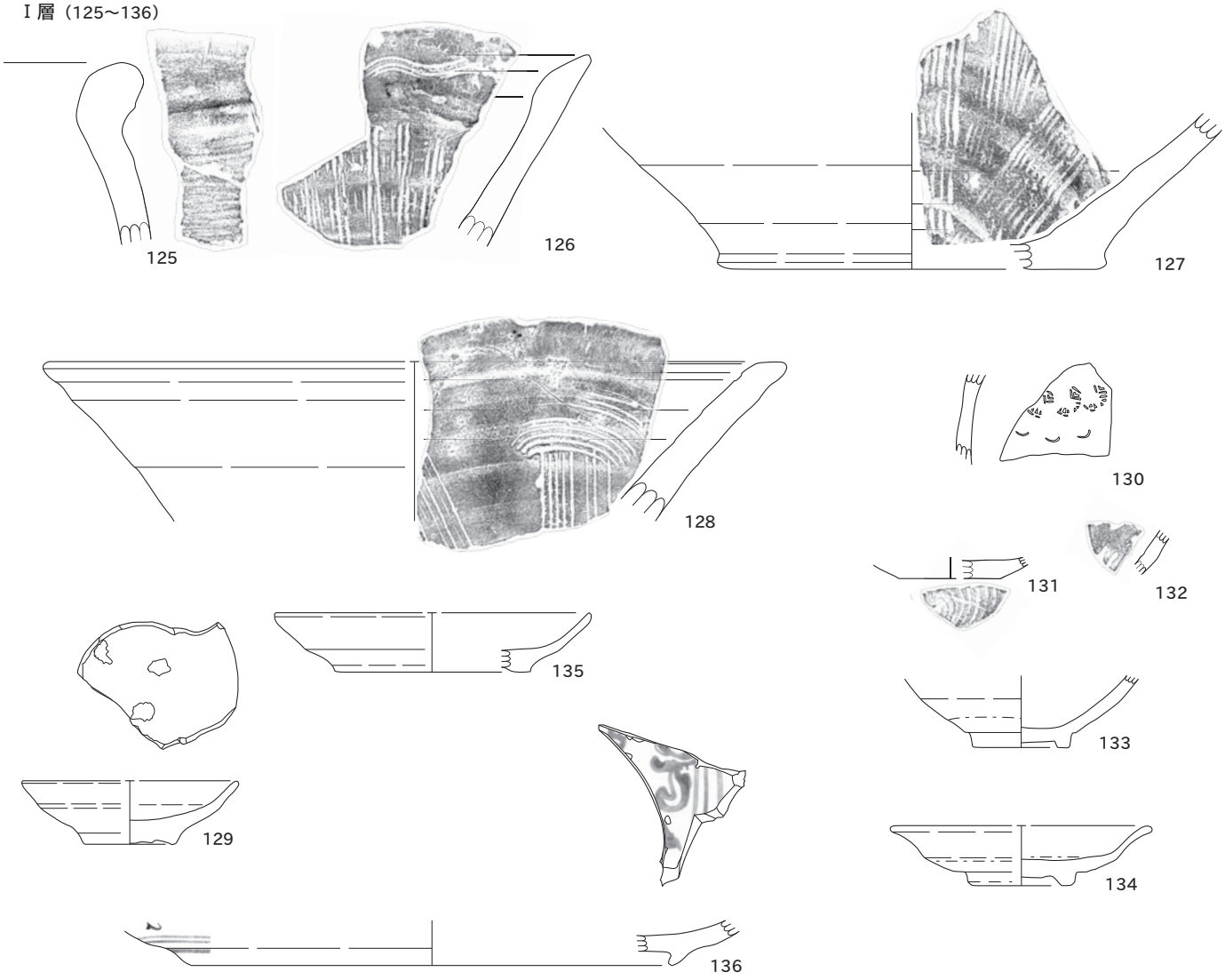
P364



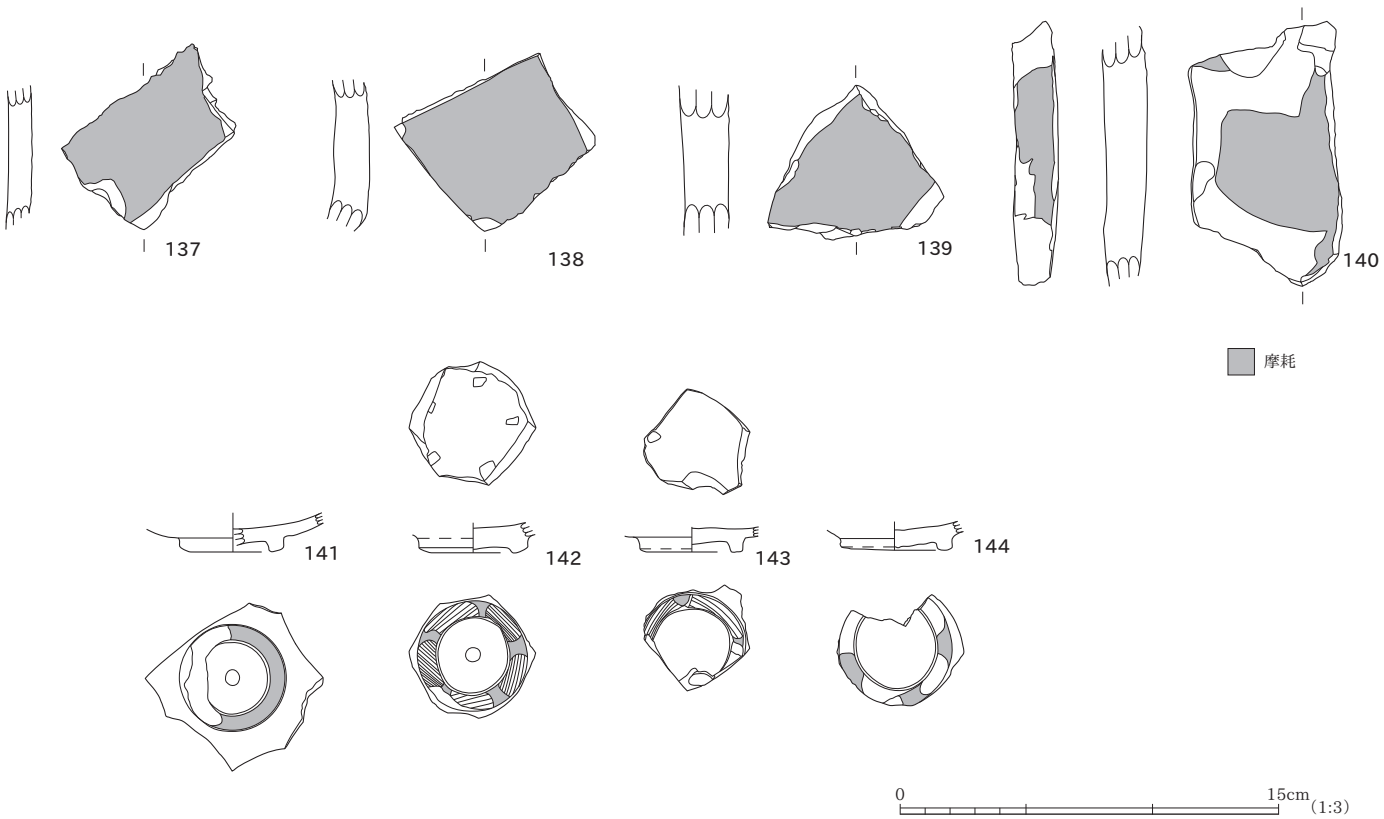


0　15cm (1:3)

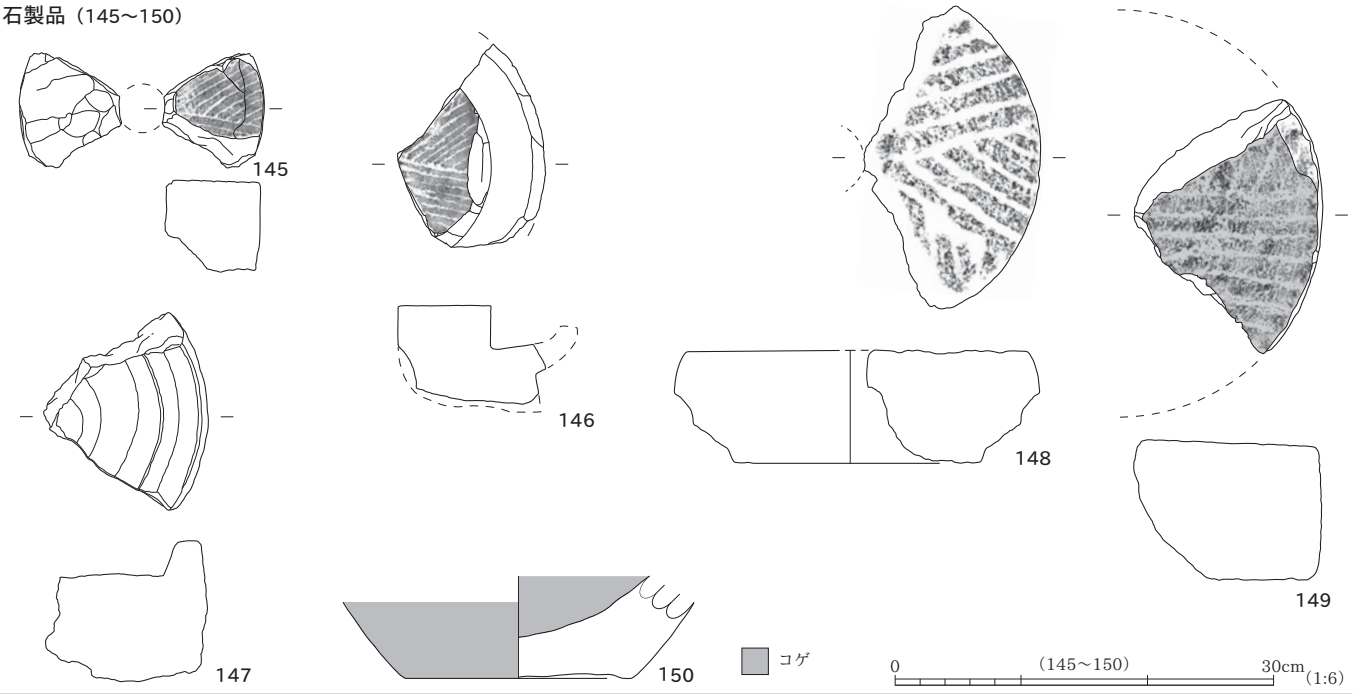
Ⅰ層（125～136）



転用具（137～144）

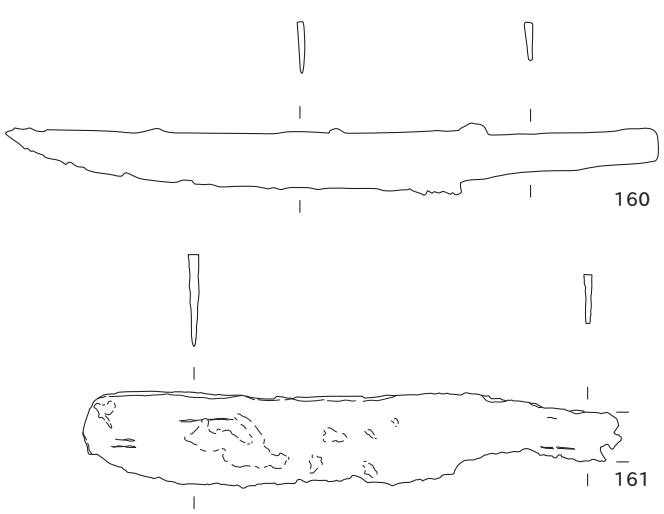


石製品（145～150）

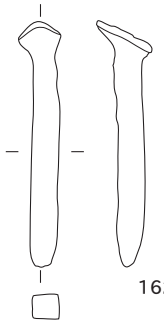


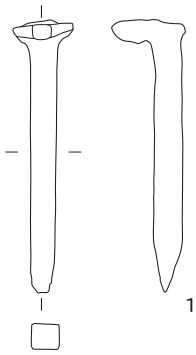
砥石（151～159）

金属製品（160～163）

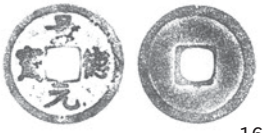

160

161


162


163

銭貨（164～180）


164 景徳元寶

165 元豊通寶

166 紹聖元寶

167 至大通寶

168 皇宋通寶

169 熙寧元寶

170 熙寧元寶

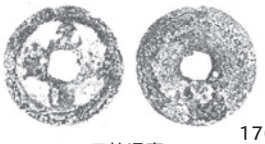
171 至道元寶

172 熙寧元寶

173 元口口寶（元豊通寶ヵ）

174 元祐通寶

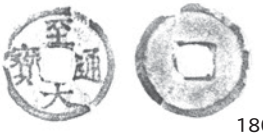
175 洪武通寶


176 元祐通寶

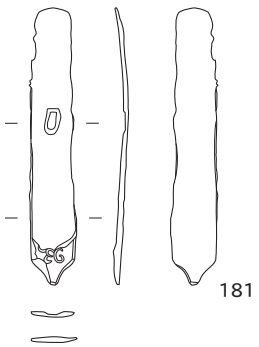
177 天禧通寶

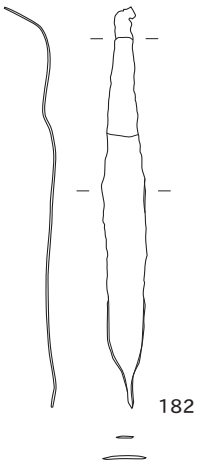
178 永樂通寶

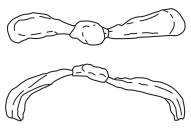
179 元豊通寶


180 至大通寶

金属製品（181～186）


181


182

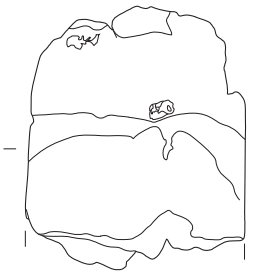

183

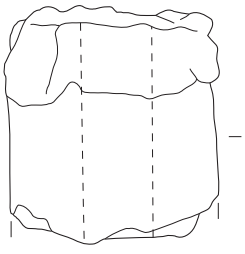
184

185

186

羽口（187・188）

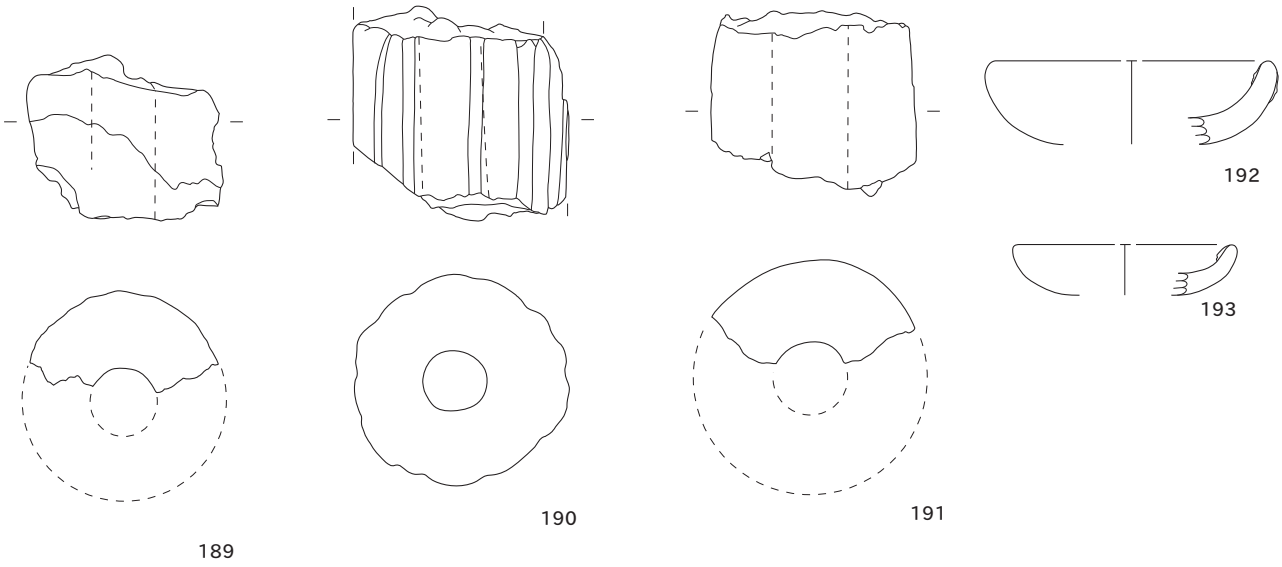

187

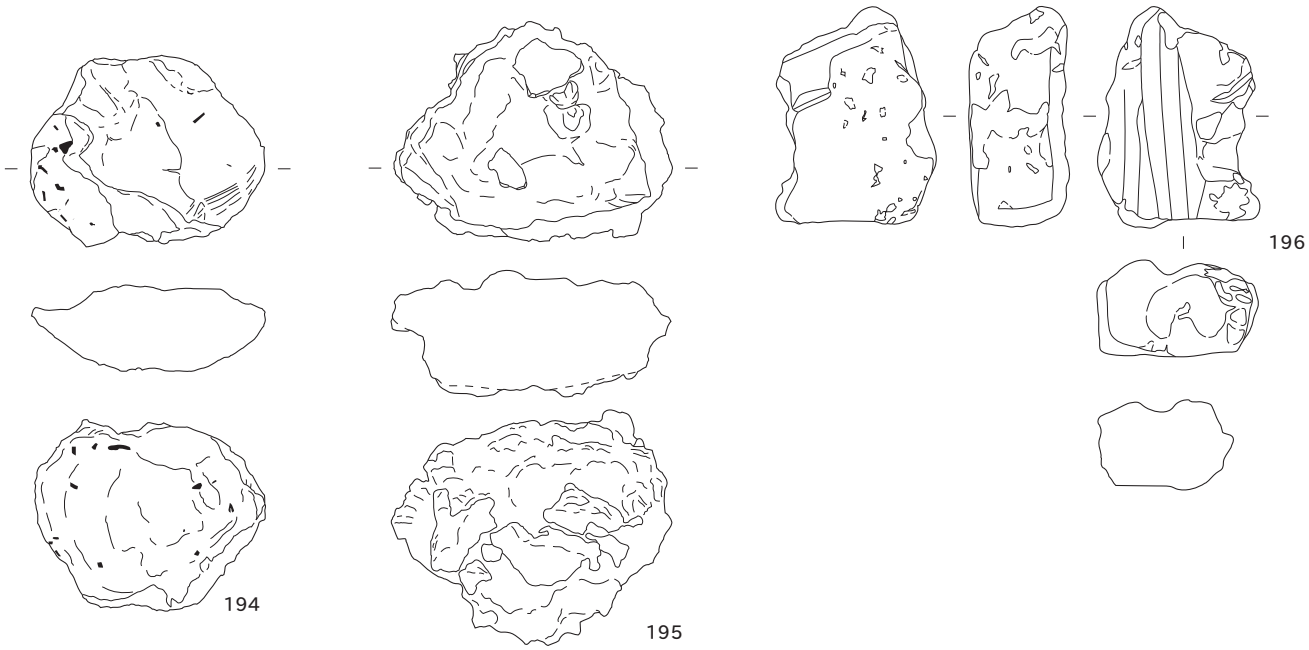

188

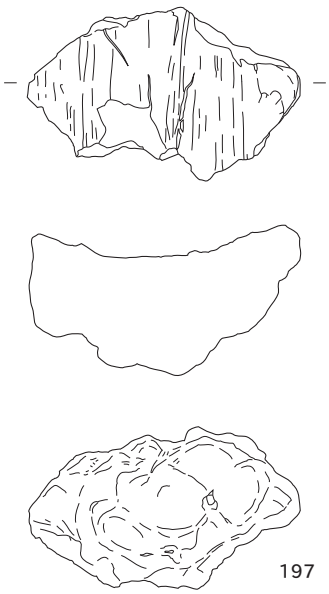
0 (164～180) 10cm (2:3)

0 (162·163·181～183) 10cm (1:2)

0 (その他) 15cm (1:3)

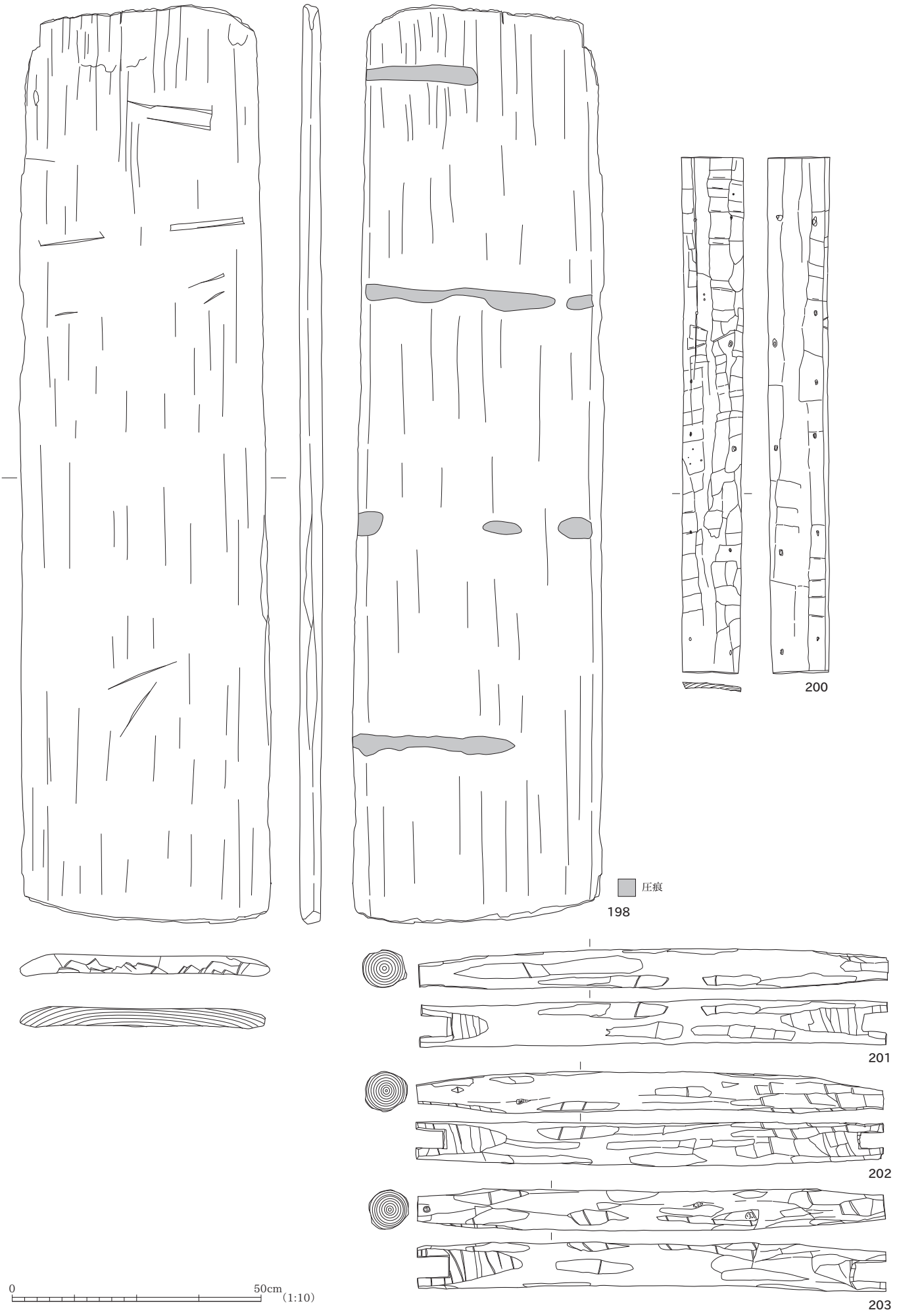




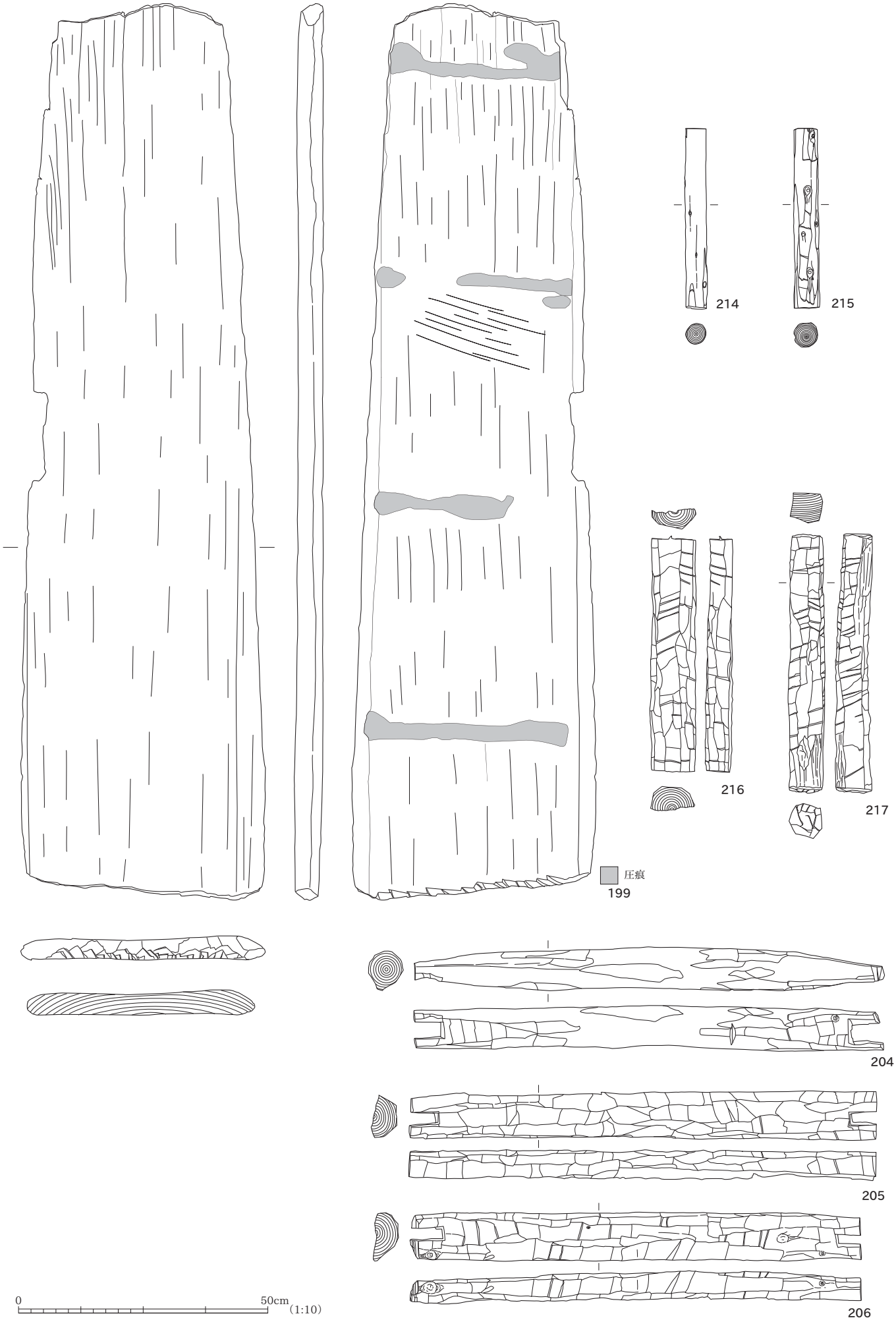


0　15cm (1:3)

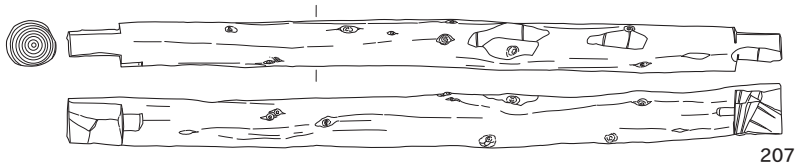
木製品
SE65（198・200～203）



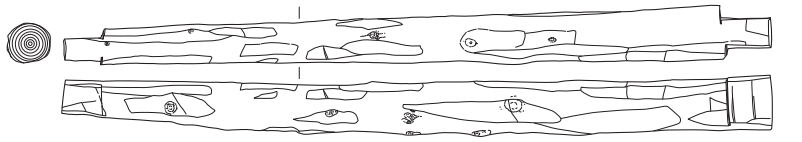
SE65（199・204～206・214～217）

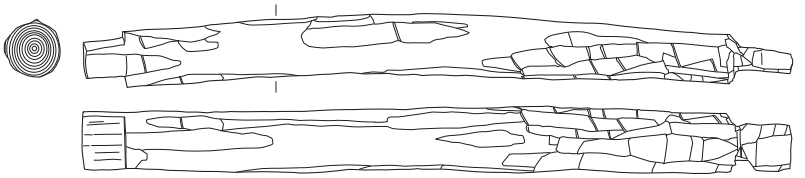


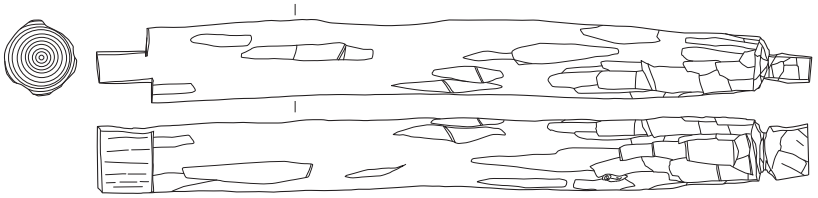
SE65（207～213・219～222）

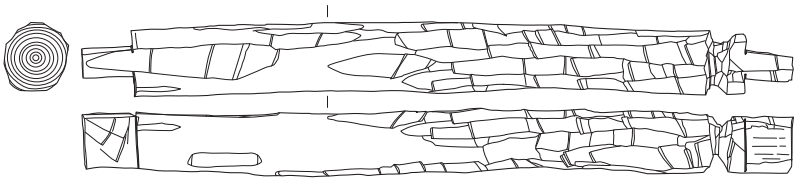

207

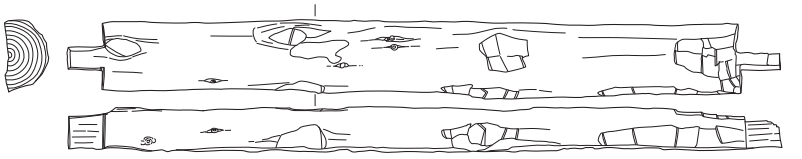
208


209

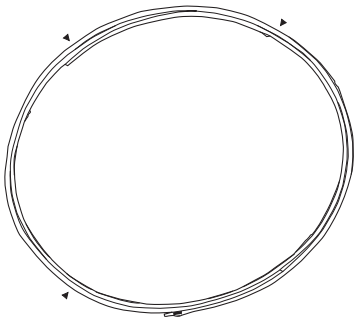

210

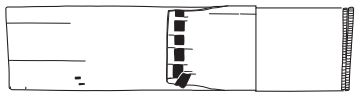

211

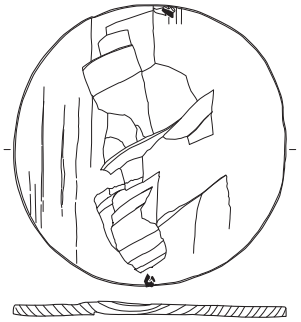

212

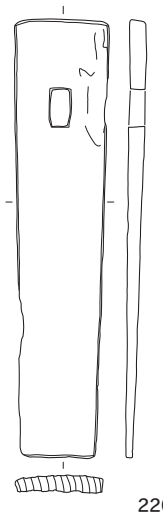

213

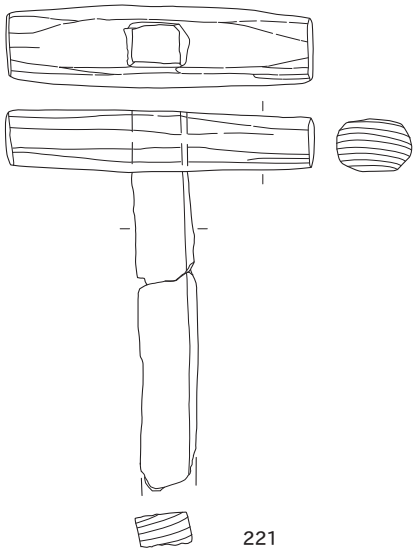
SE599

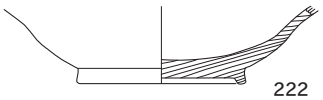

▲ 目釘穴

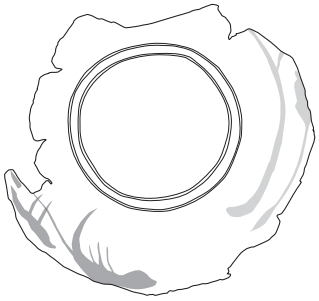

218


219


220


221


222



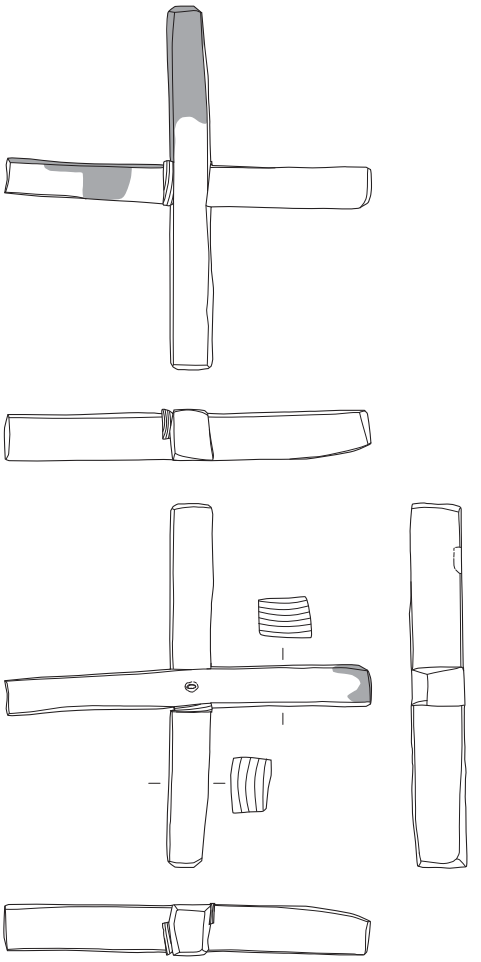
0　（222）　15cm（1:3）

0　（221）　20cm（1:4）

0　（219・220）　30cm（1:6）

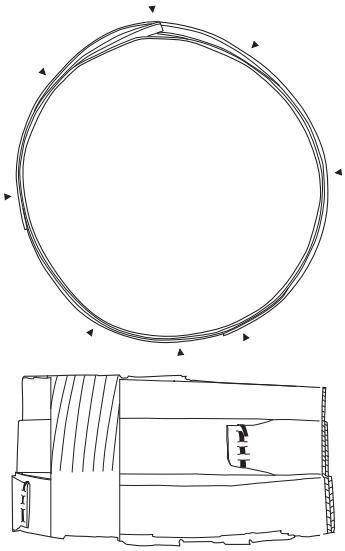
0　（その他）　50cm（1:10）

SE65



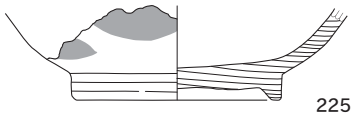
炭化　223

SE70

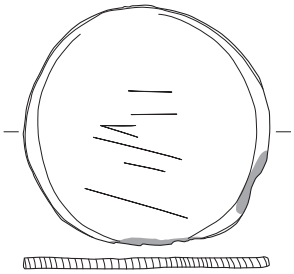


224
▲目釘穴

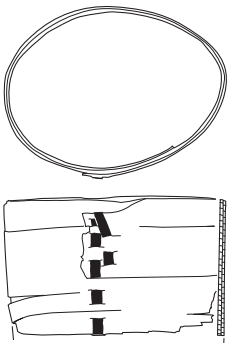
SE72（225～228）



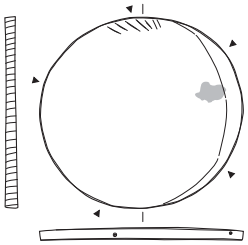
225



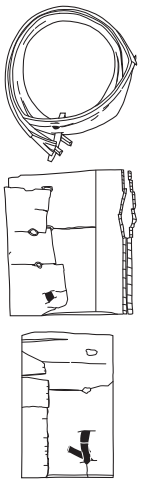
226



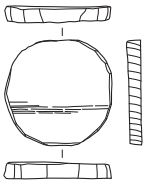
227



227 底板
▲目釘穴

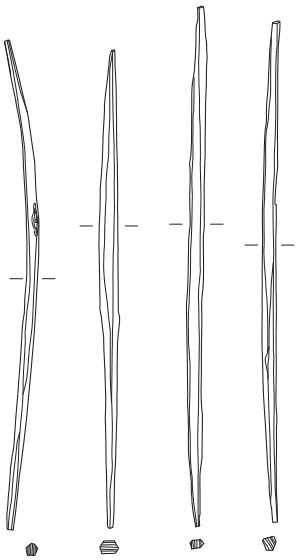


228



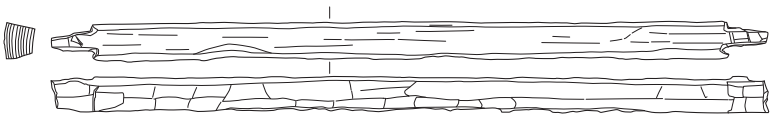
228 底板

SE104（229～232）



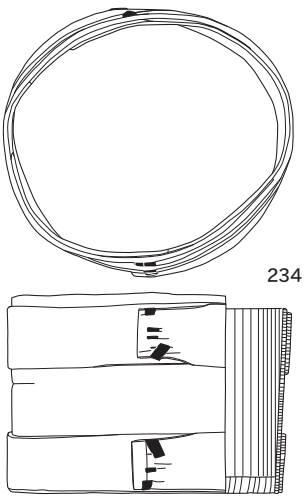
229　230　231　232

SE114



233

SE130

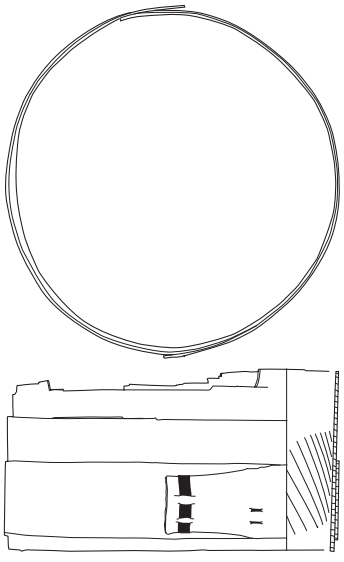


234

SE156

235
炭化

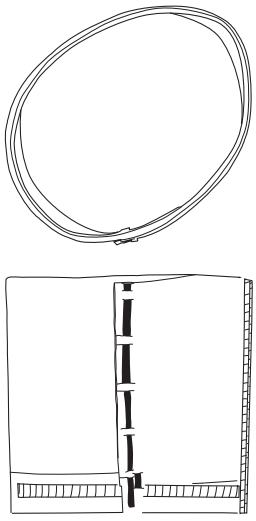
SE199



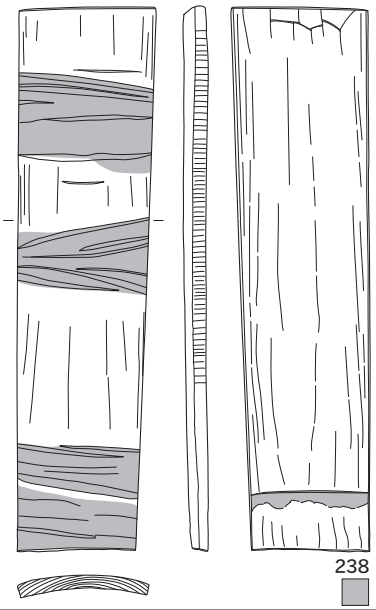
236

0　（その他）　15cm　(1:3)
0　（223・235）　20cm　(1:4)
0　（226・234）　30cm　(1:6)
0　（224・227・236）　40cm　(1:8)
0　（233）　50cm　(1:10)

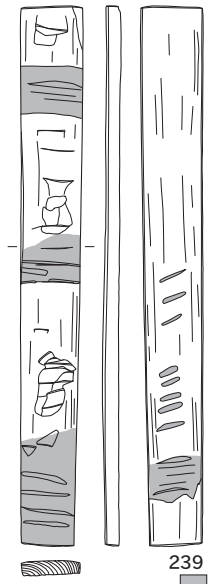
SE219（237～240）



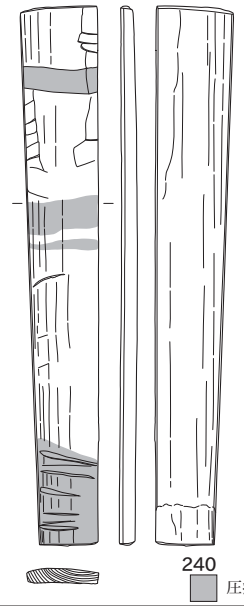
237



238　圧痕

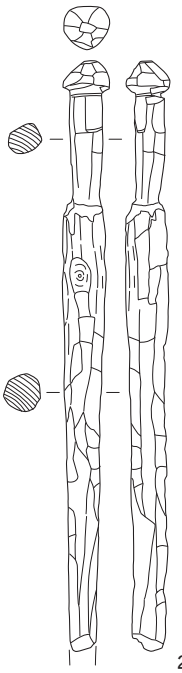


239　圧痕

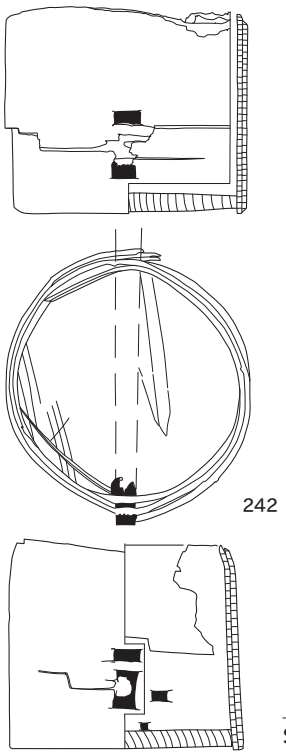


240　圧痕

SE245（241・242）

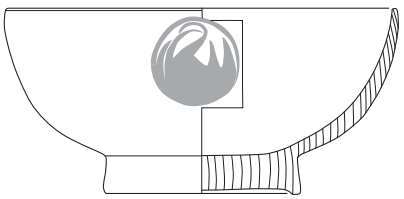


241

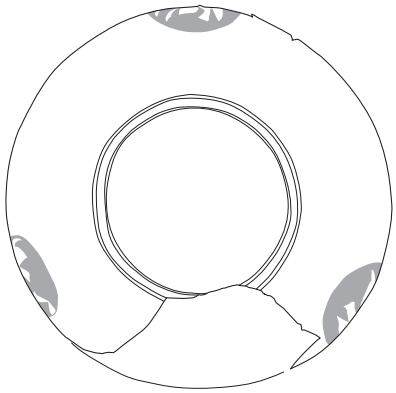


242

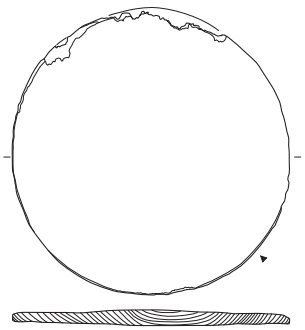
SE246



243

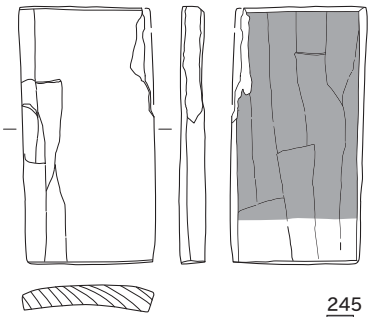


SE247

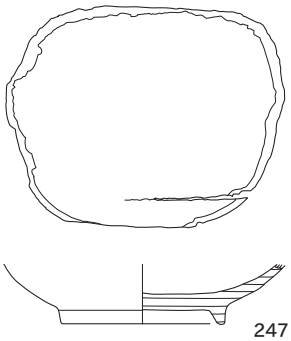


244
▲目釘穴

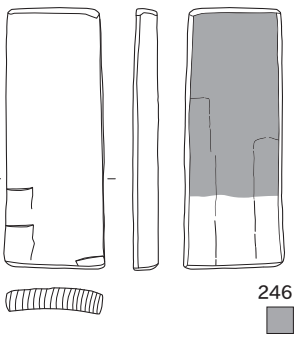
SE249（245～247）



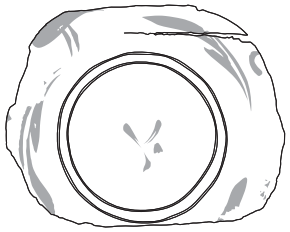
245　炭化



247



246　炭化

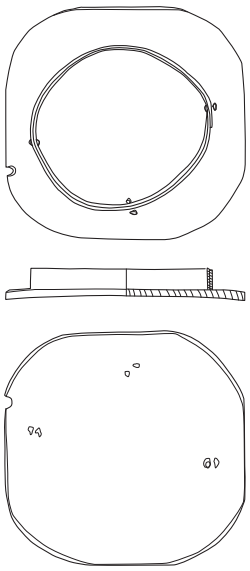


0　（その他）　15cm　(1:3)

0　（237・241・244）　30cm　(1:6)

0　（238～240）　40cm　(1:8)

SE252（248・249）

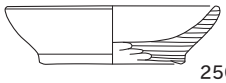


248

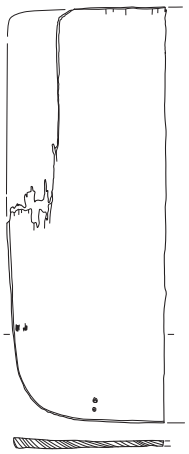
249

SE257（250～253）

251



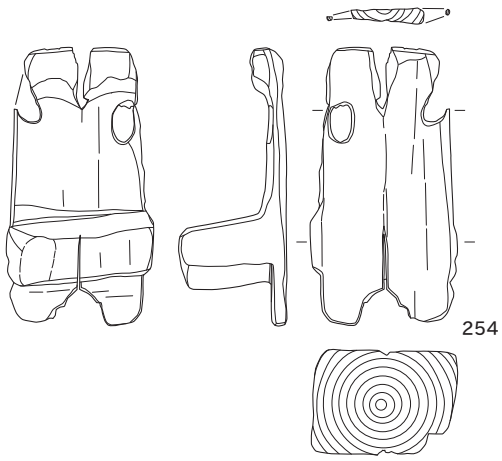
250



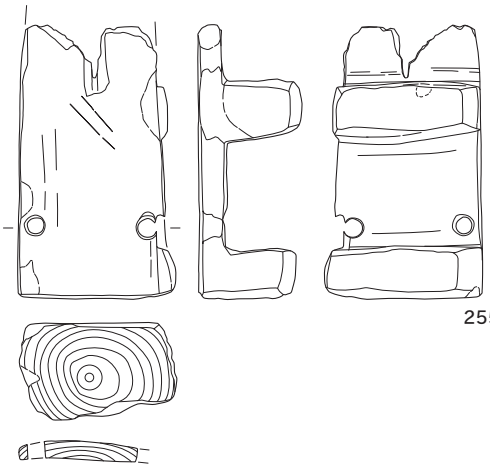
252

253

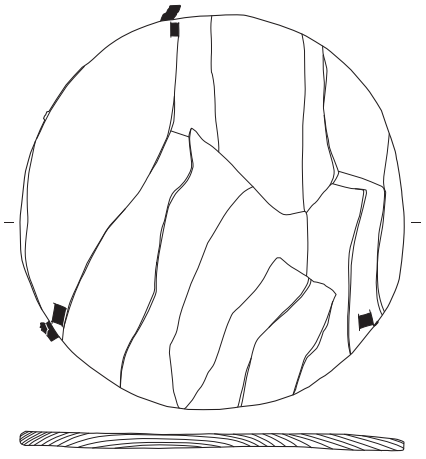
SE262（254～256）



254



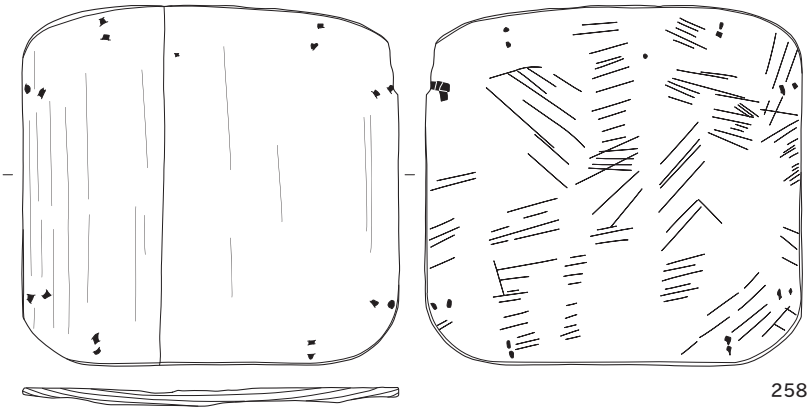
255



256

SE264（257・258）

257



258

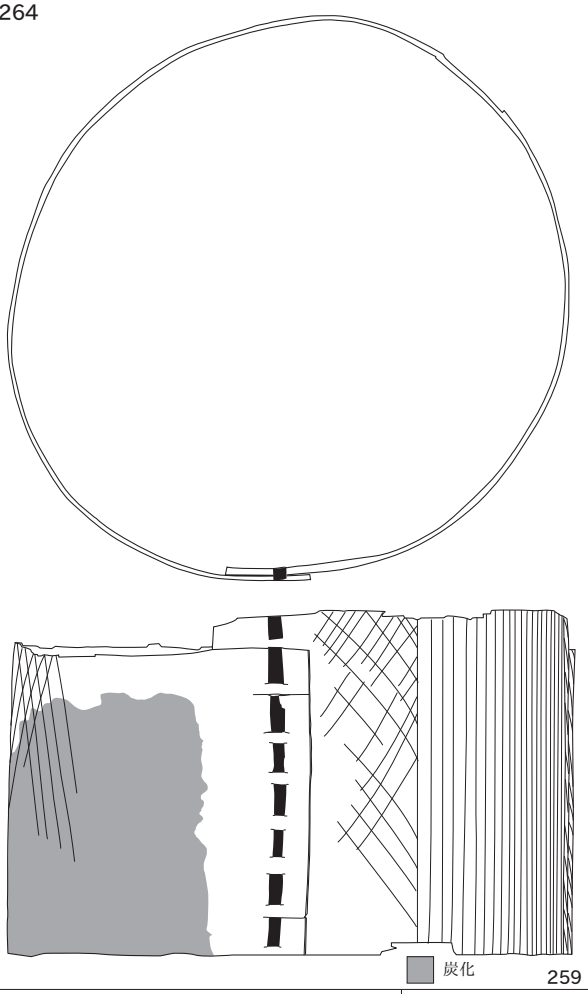
0　(248・250・251・257)　15cm　(1:3)

0　(その他)　20cm　(1:4)

0　(252)　30cm　(1:6)

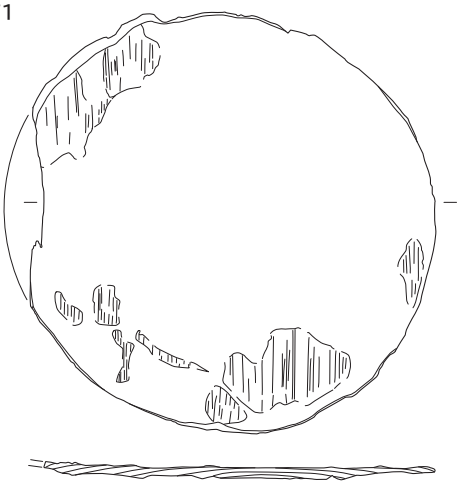
0　(253)　50cm　(1:10)

SE264



259

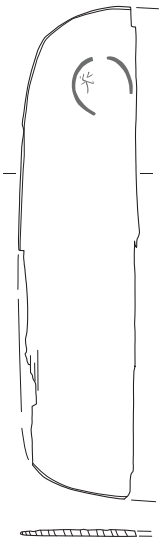
SE271



260

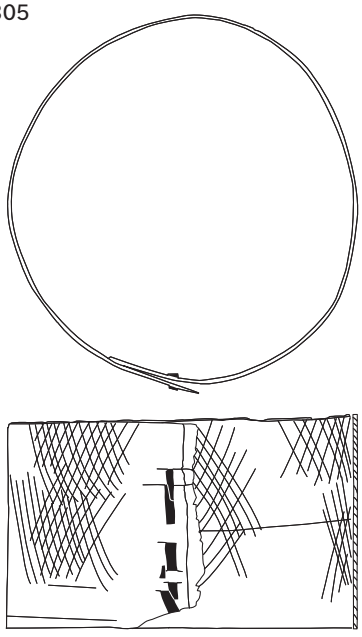
SE295（261・262）

261



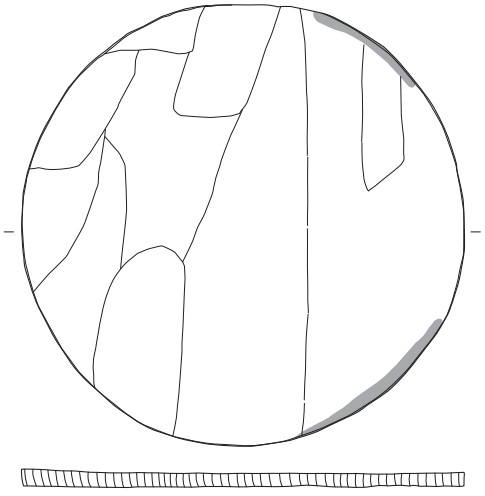
262

SE305



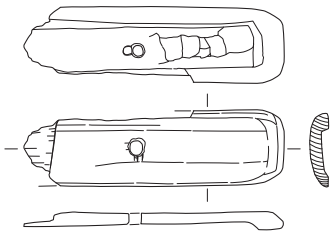
263

SE318

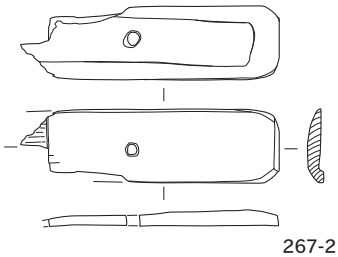


265

SE599

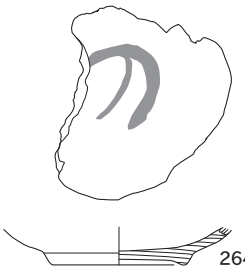


267-1



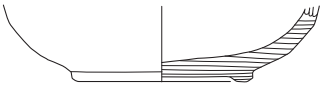
267-2

SE307

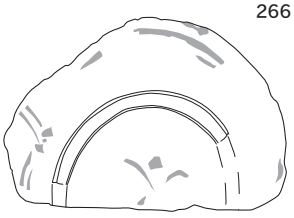


264

SE580



266



0　（その他）　15cm　(1:3)

0　（261・265）　20cm　(1:4)

0　（260）　30cm　(1:6)

0　（259・263）　40cm　(1:8)

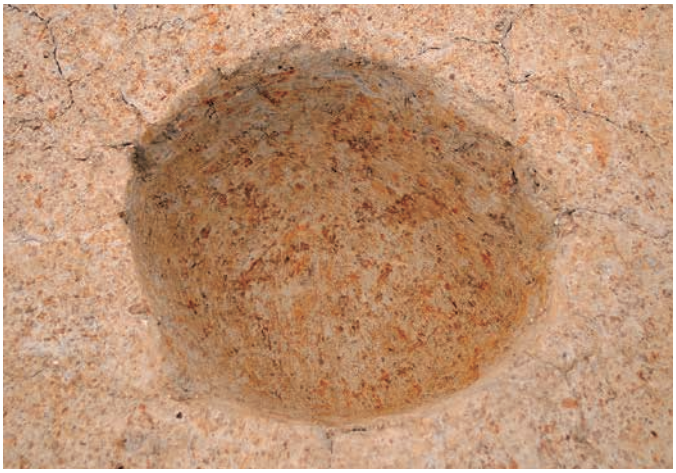
遺跡全景（西から）

基本層序（10T、北西から）

調査前現況の疑似畦畔（東から）

最も高い標高（6.82m）で検出したP1　断面（東から）

SB6 - P56　断面・外周酸化帯（北東から）



SB6 - P56　完掘（北東から）

SB6 - P57　断面・外周酸化帯（北東から）

SB6 - P57　柱のアタリ（北東から）

SB7 - P339　断面（西から）

SB7 - P339　角材の柱のアタリ（西から）

SE65　検出（南東から）

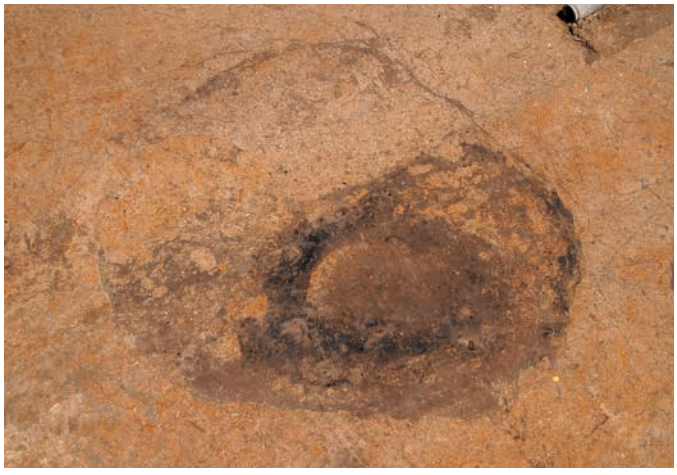
SE65　放射状に敷設されたアシ（南西から）

SE65　密にかけられたアシ（北東から）

SE65　密にかけられたアシのアップ（北から）

SE65　井戸側　検出（北東から）

SE65　断面・井戸底部と湧水点（南東から）

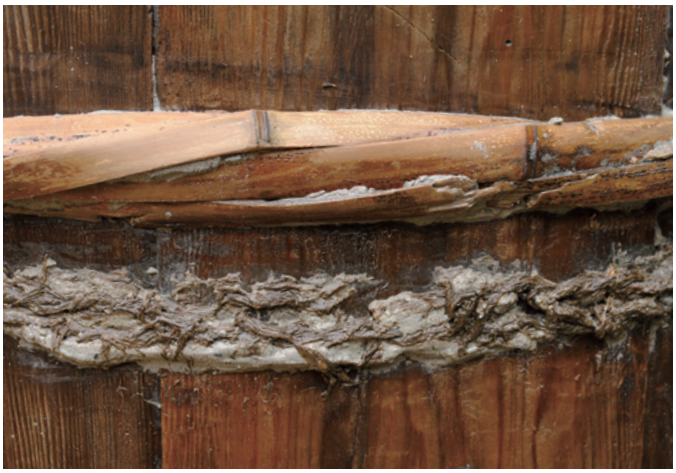


SE72　目玉状に検出される井戸（東から）

SE72　断面（1～23層）（南東から）

SE199　断面（1～8層）（北東から）

SE219　桶（238～240）出土状況（北東から）


SE219　桶（238～340）箍・縄検出（北東から）

SE244　流木検出（東から）

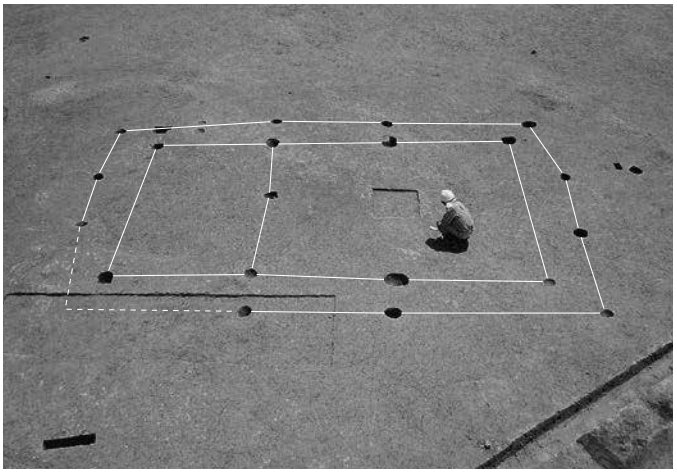
SE244　流木断面（東から）

SE273　検出（西から）

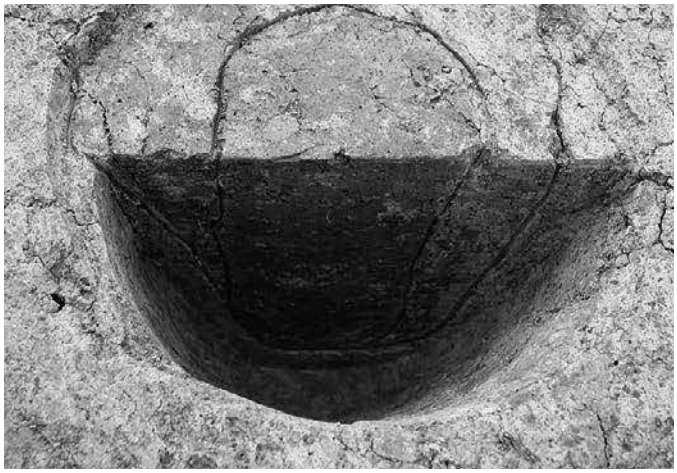
SE273　断面（1～10層）（東から）

SE599　遺物出土状況（西から）

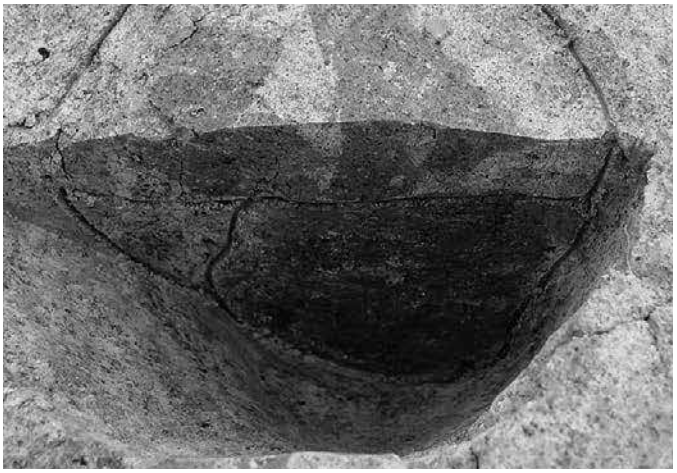
SB1　検出（南西から）



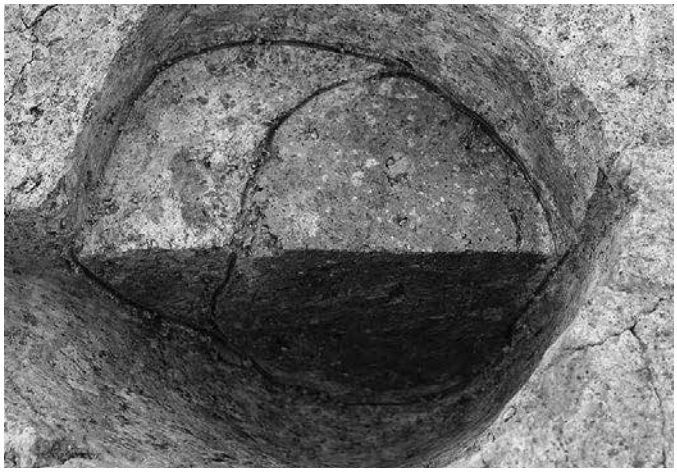
SB1　完掘（北西から）



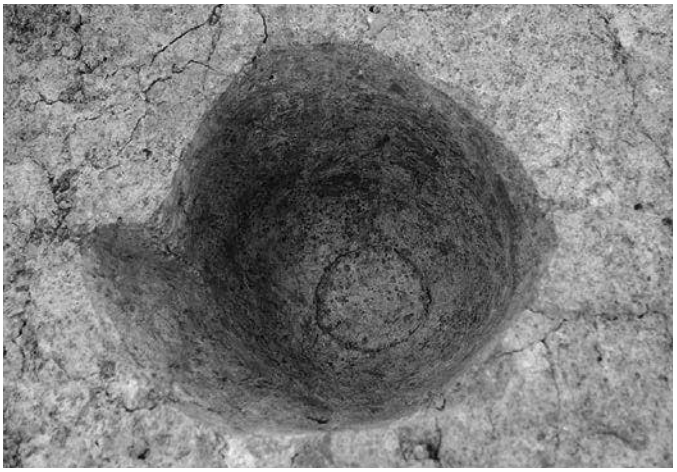
SB1 - P30　断面（東から）



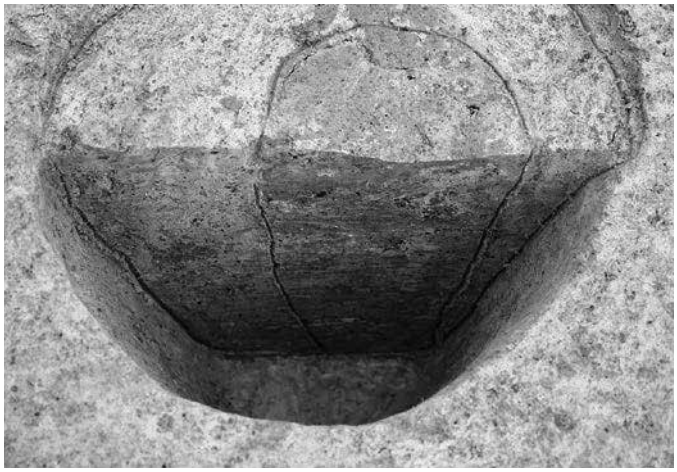
SB1 - P39　断面（北から）



SB1 - P39　柱痕検出（北から）

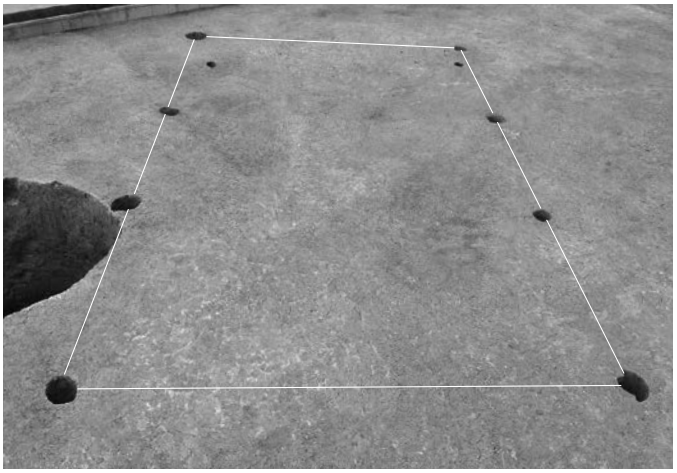


SB1 - P39　完掘（北から）

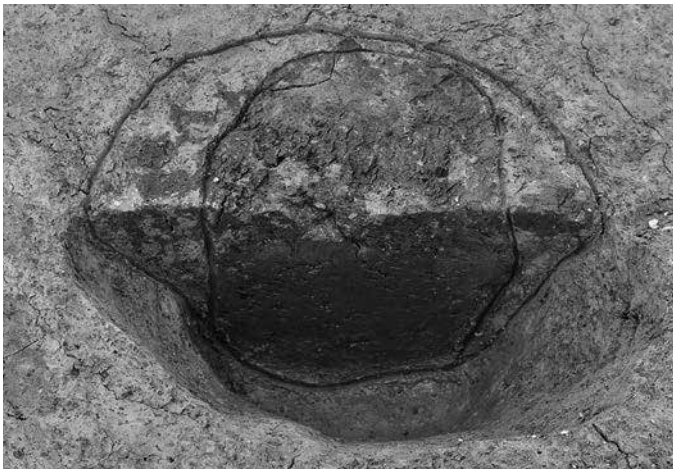


SB1 - P45　断面（東から）

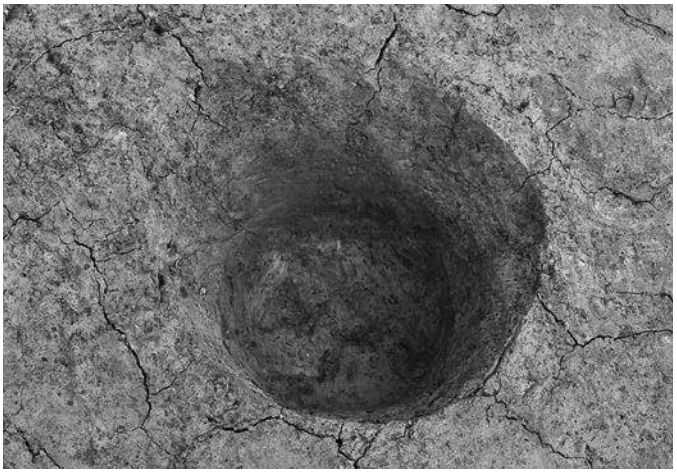
SB1 - P45　柱のアタリ検出（東から）



SB2　完掘（南東から）



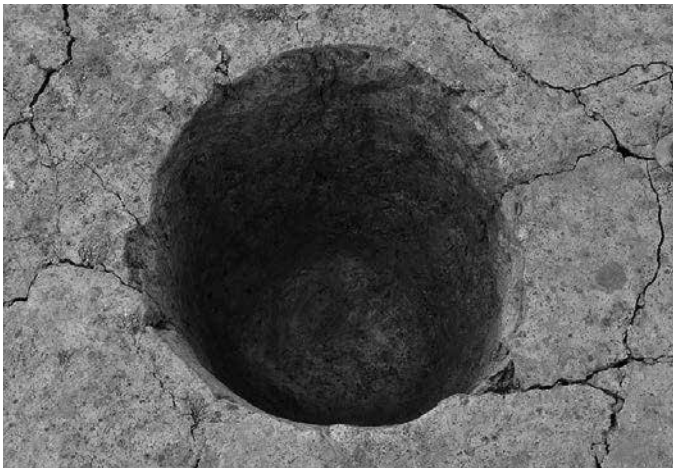
SB2 - P211　断面（西から）



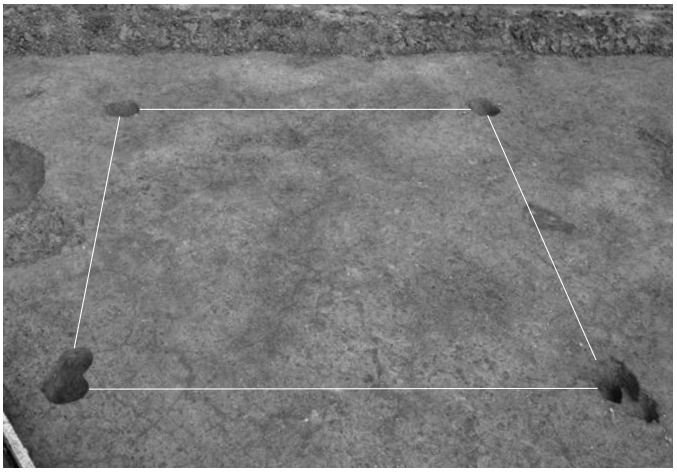
SB2 - P211　完掘（西から）

SB3　完掘（南から）

SB3 - P229　断面（南から）

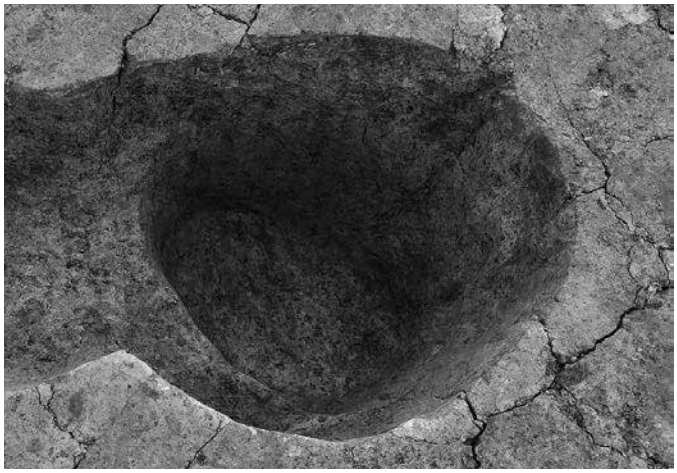


SB3 - P229　完掘（南から）

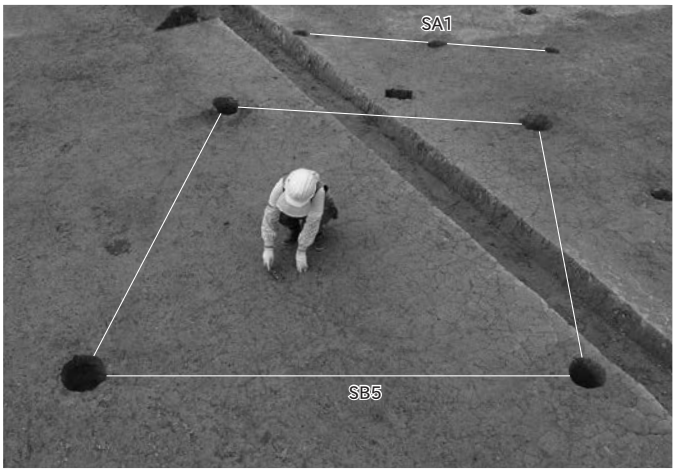


SB4　完掘（南から）

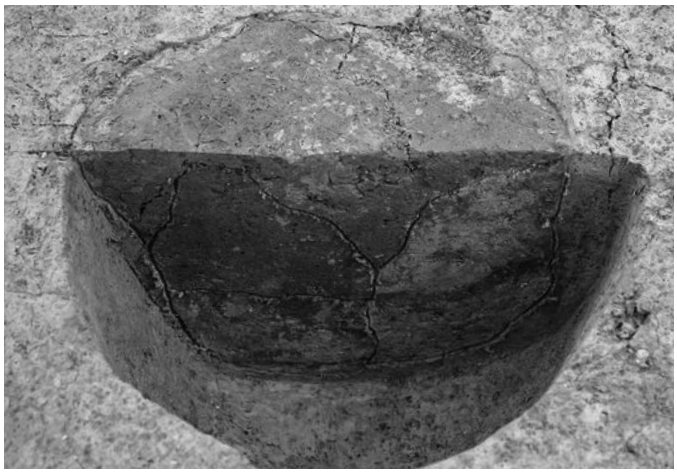
SB4 - P236　断面（東から）



SB4 - P236　完掘（東から）

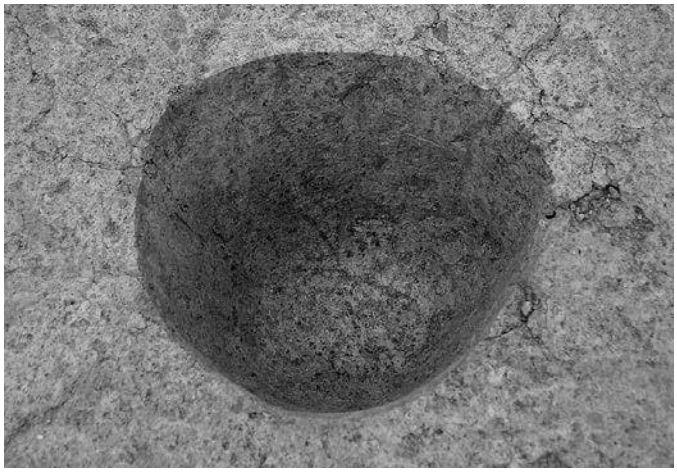


SB5・SA1　完掘（南西から）

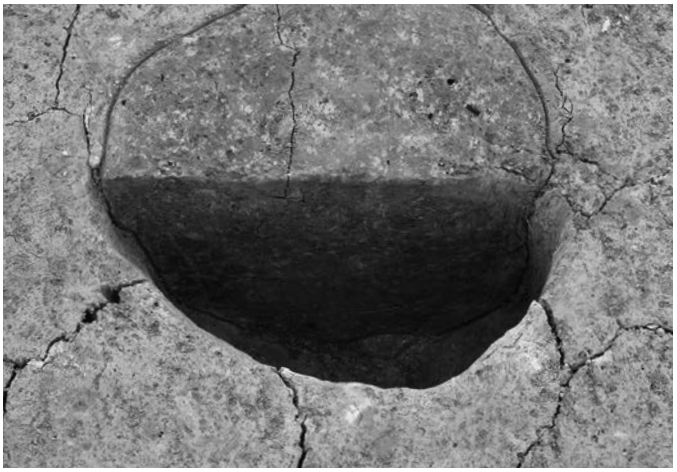


SB5 - P602　断面（南から）

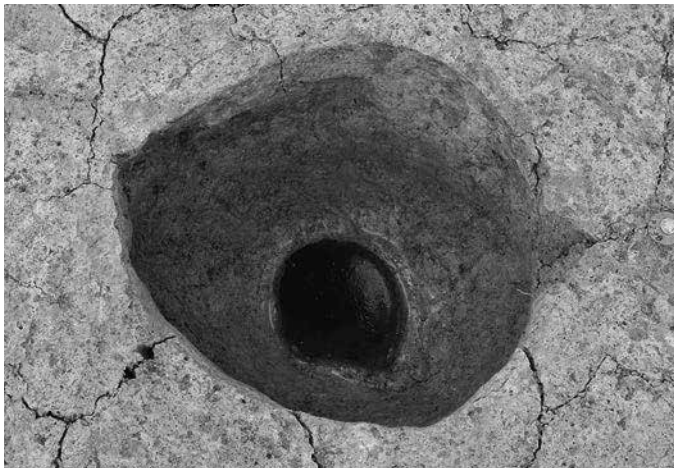
SB5 - P602　柱痕検出（南から）



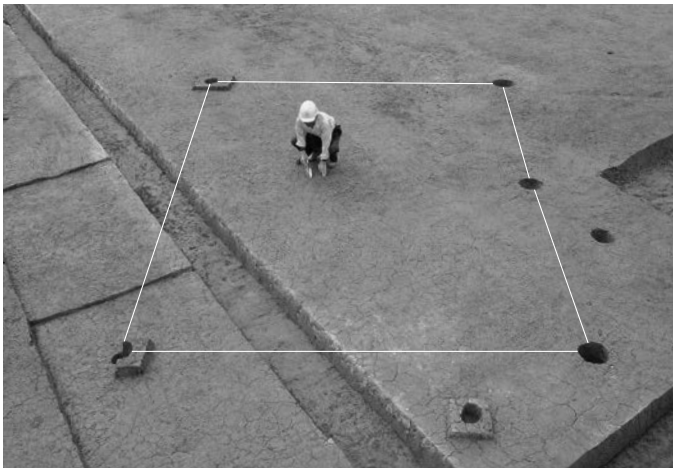
SB5 - P602　完掘（南から）



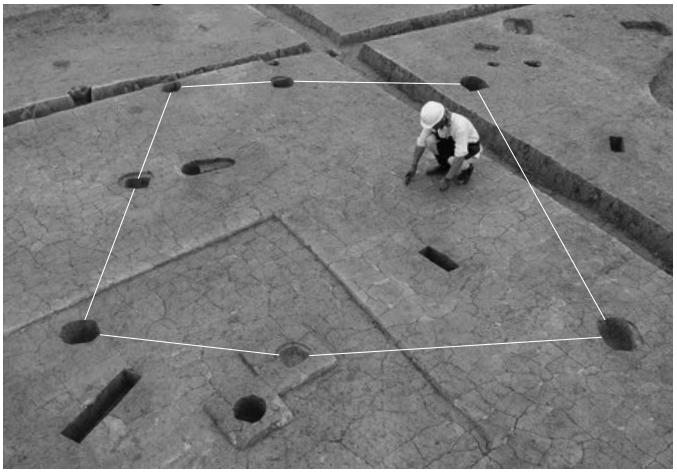
SB5 - P238　断面（東から）



SB5 - P238　礎盤石出土状況（東から）

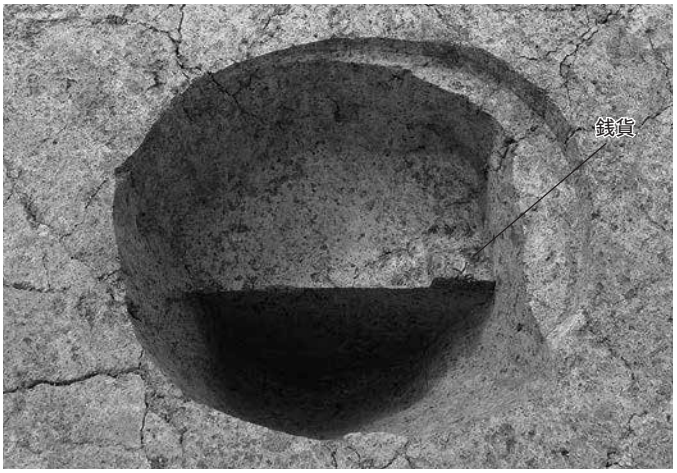


SB6　完掘（南東から）



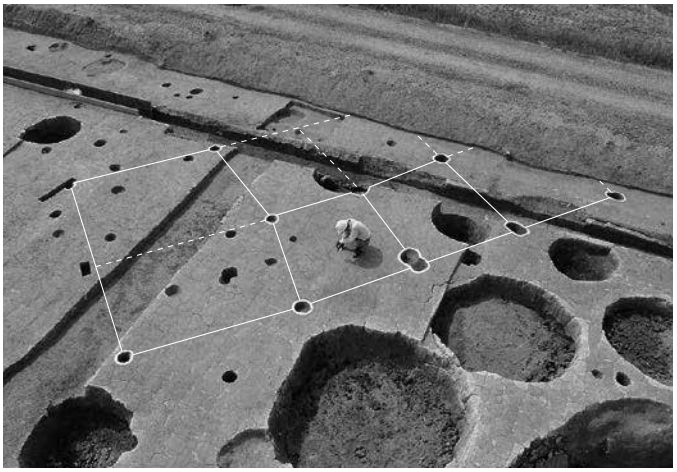
SB7　完掘（南西から）

SB7 - P340　断面（南から）

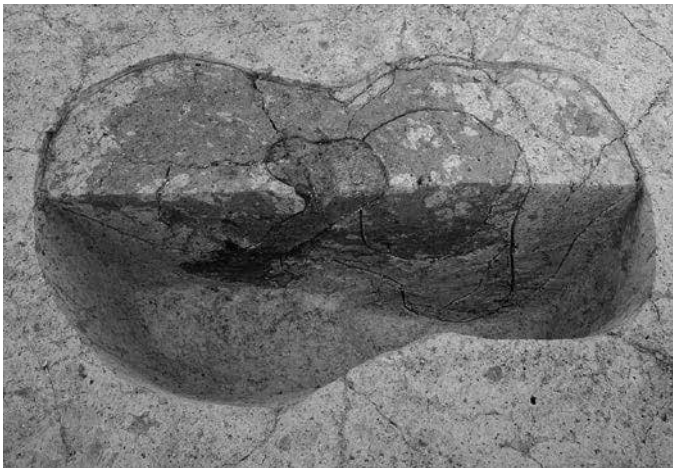


SB7 - P340　銭貨「□□□寶」出土状況（南から）

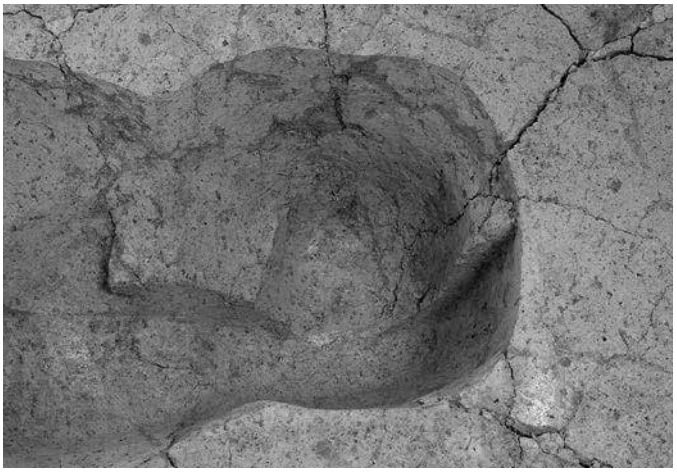
SB8　検出（南東から）



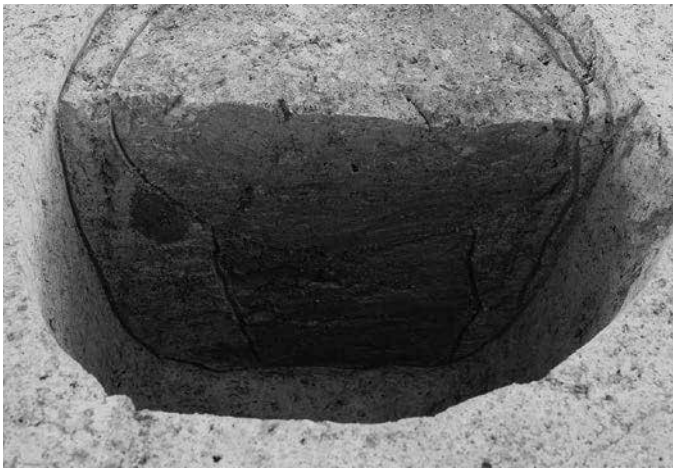
SB8　完掘（北東から）



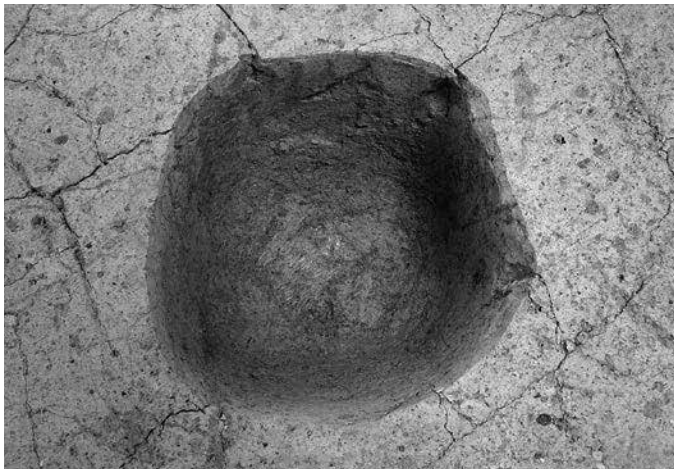
SB8 - P503（右）・P506（左）　断面（北東から）



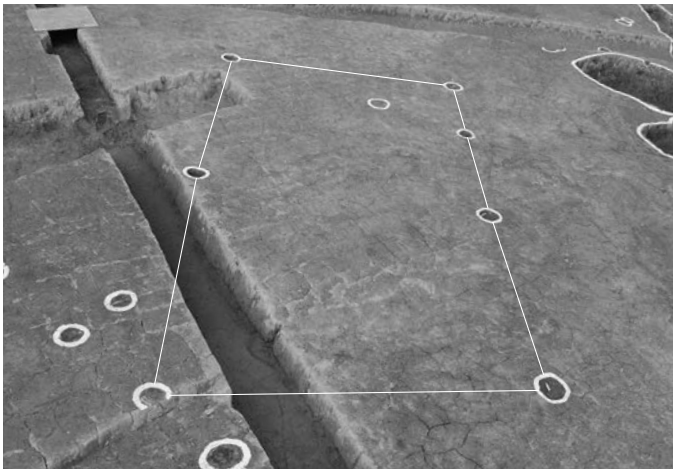
SB8 - P503　完掘（北東から）



SB8 - P509　断面（北から）

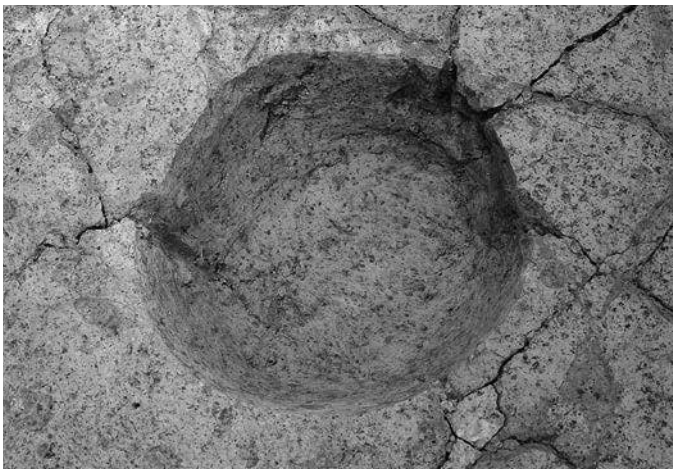


SB8 - P509　柱のアタリ（北から）

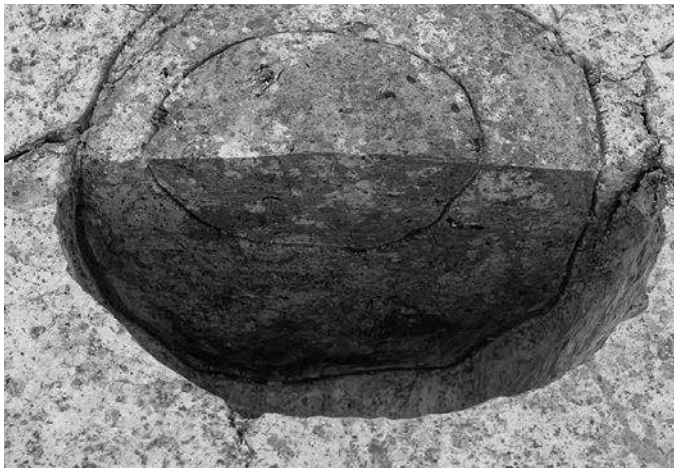


SB9　完掘（南西から）

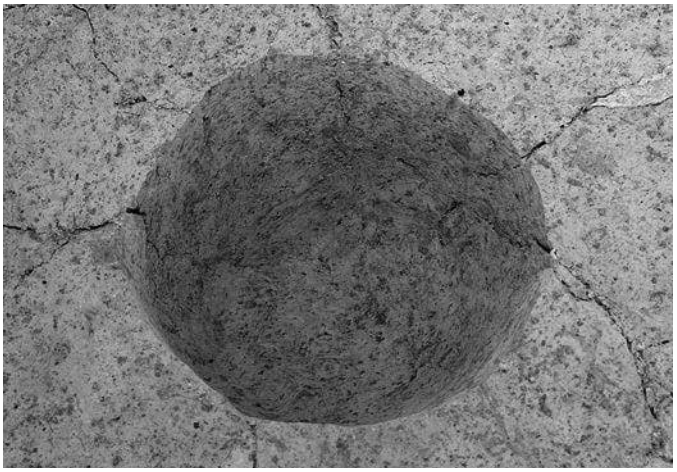
SB9 - P329　断面（北西から）



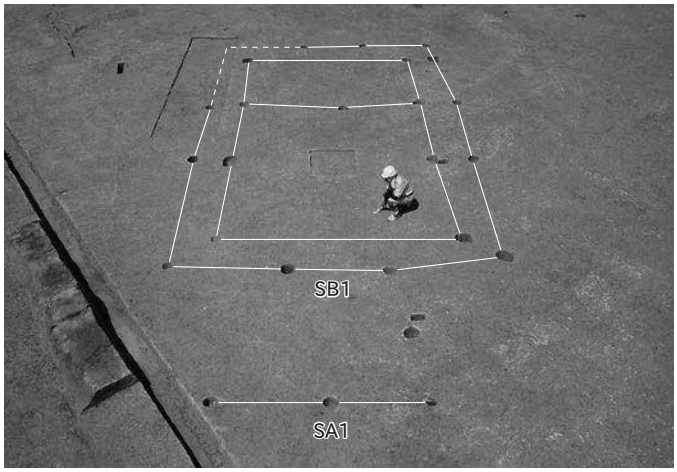
SB9 - P329　完掘（北西から）



SB9 - P334　断面（北西から）



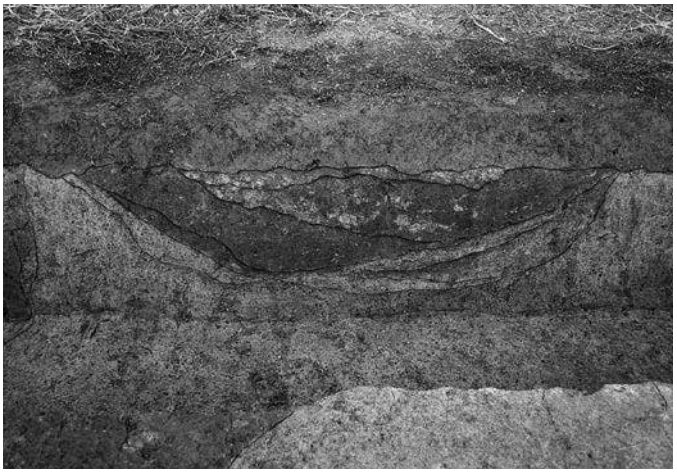
SB9 - P334　完掘（北西から）



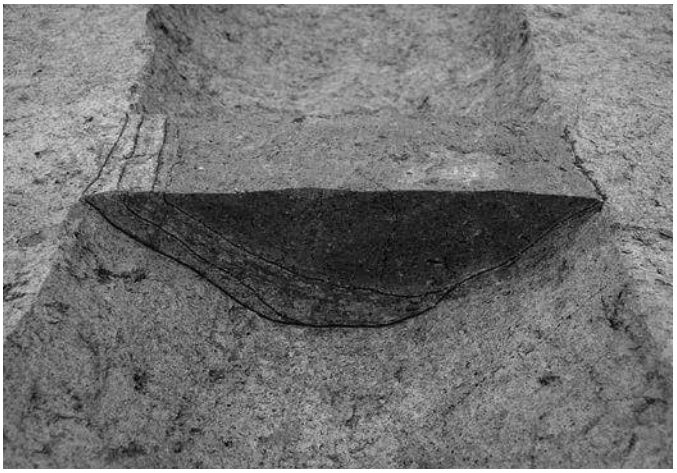
SA1・SB1　完掘（南西から）

SA1 - P29　断面（南西から）

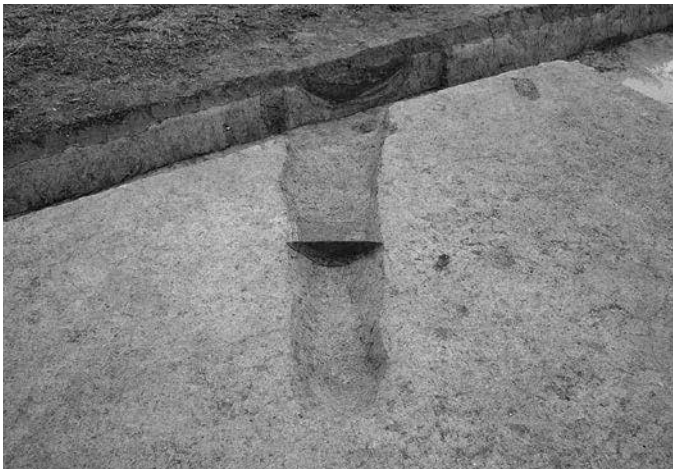
SA1 - P29　完掘（南西から）



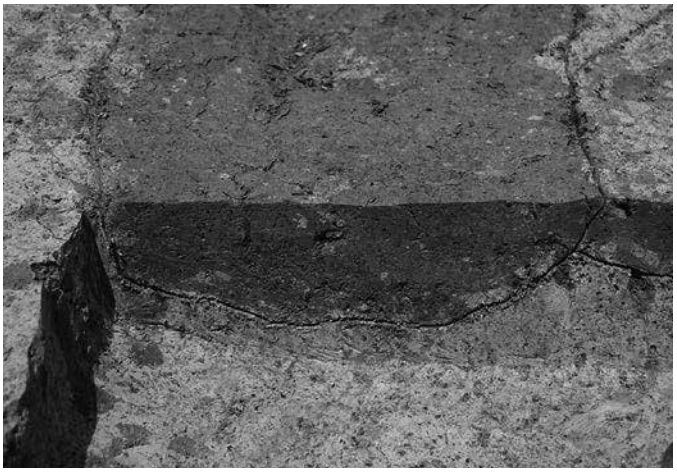
SD3　1-1’断面（北西から）



SD3　2-2’断面（北西から）

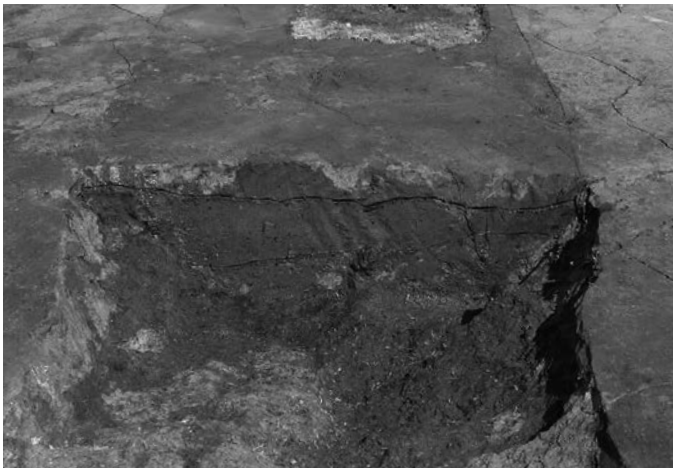


SD3　全景（北西から）

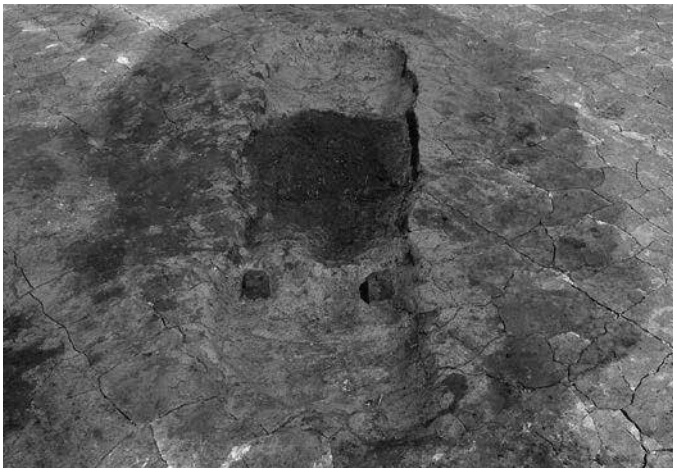


SD13　断面（南から）

SD13（左）・SK14（右）　完掘（南から）



SD108　断面（北西から）



SD108　全景・4層検出（北西から）

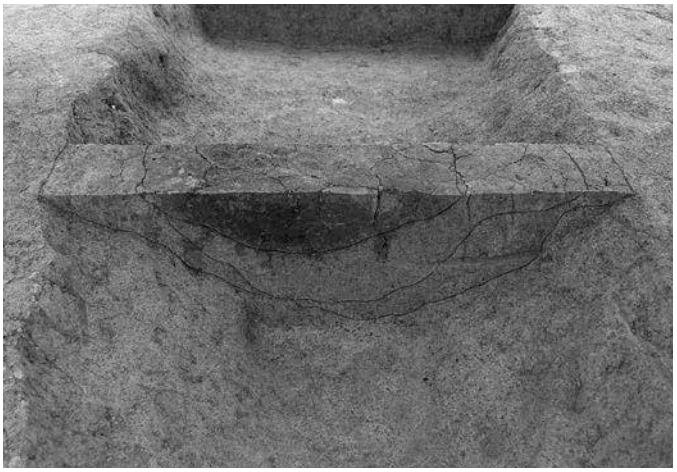
SD149　断面（南東から）

SD149　全景（南西から）

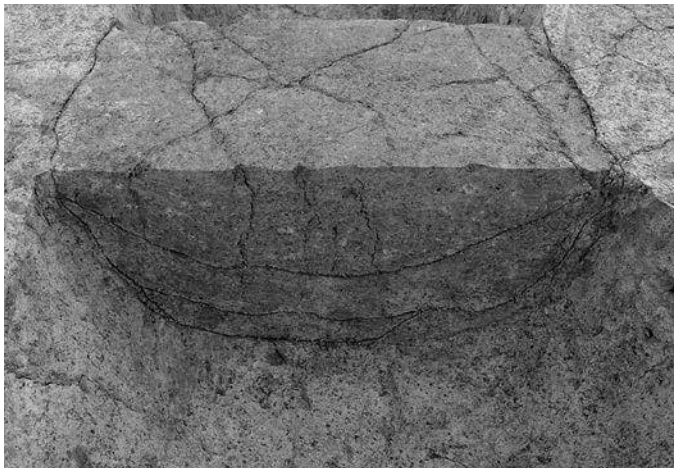
SD202　6-6’断面（南西から）

SD202　7-7’断面（北東から）

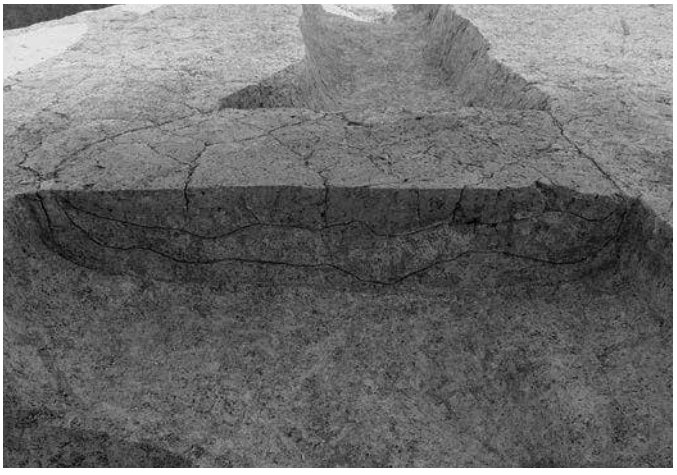
SD202　完掘（南西から）



SD327　8-8’断面（北東から）

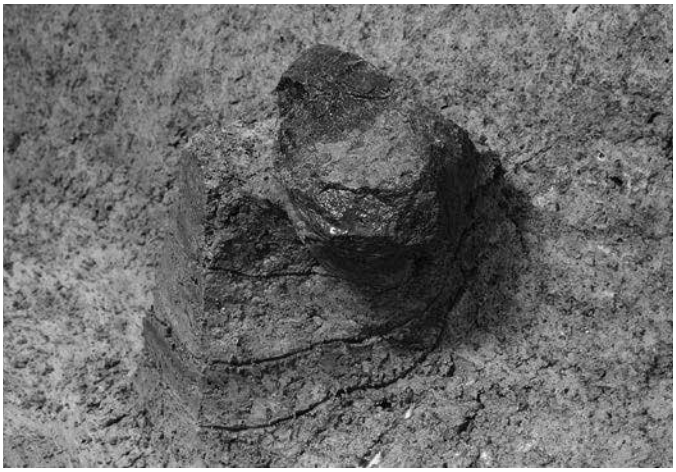


SD327　9-9’断面（北東から）



SD327　10-10’断面（北東から）

SD327　11-11’断面（北東から）

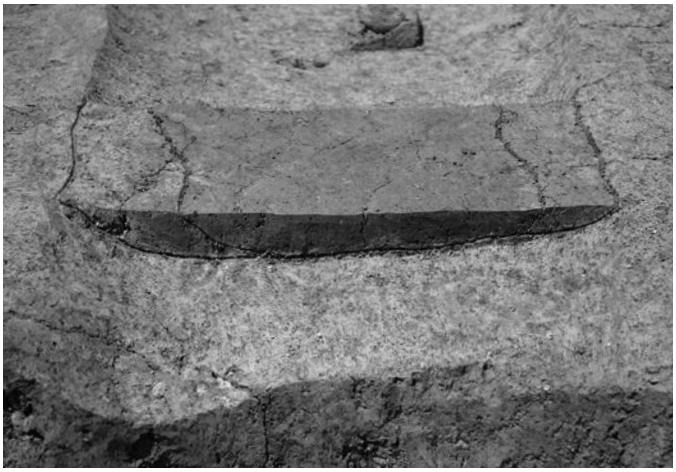


SD328　茶臼（146）出土状況（北西から）

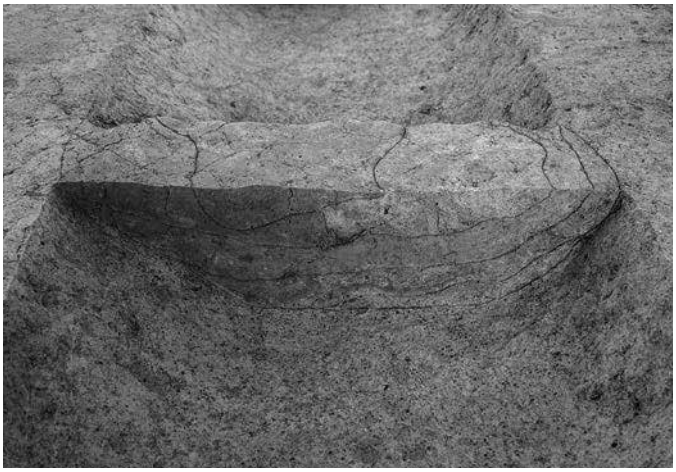
SD328　12-12’断面（南東から）

SD329　12-12’断面（南東から）

SD328　13-13’断面（南東から）

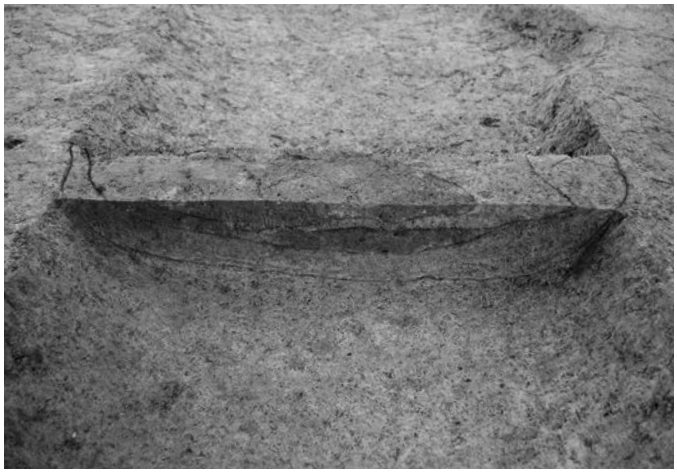


SD329　13-13’断面（南東から）



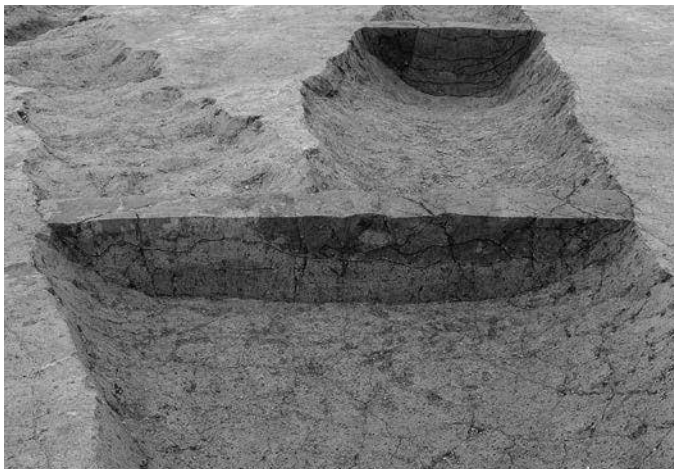
SD328　14-14’断面（南東から）

SD329　14-14’断面（南東から）

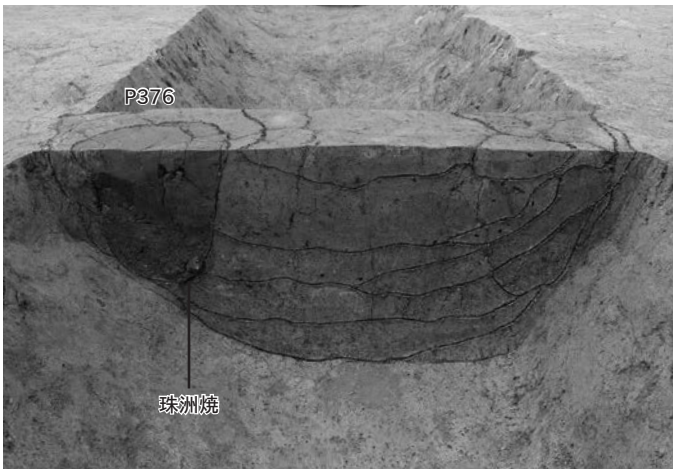


SD328　15-15’断面（南東から）

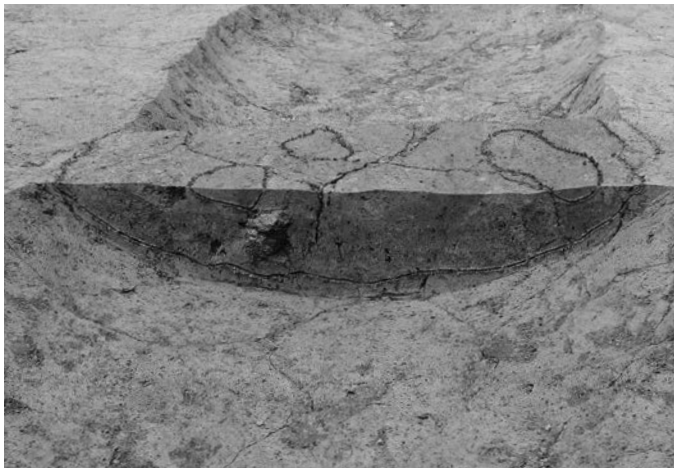
SD329　15-15’断面（南東から）



SD377　16-16’断面（南東から）

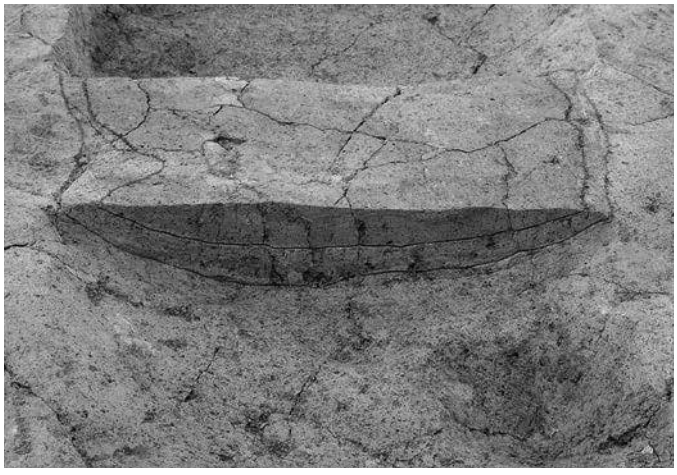


SD377・P376　17-17’断面（南東から）

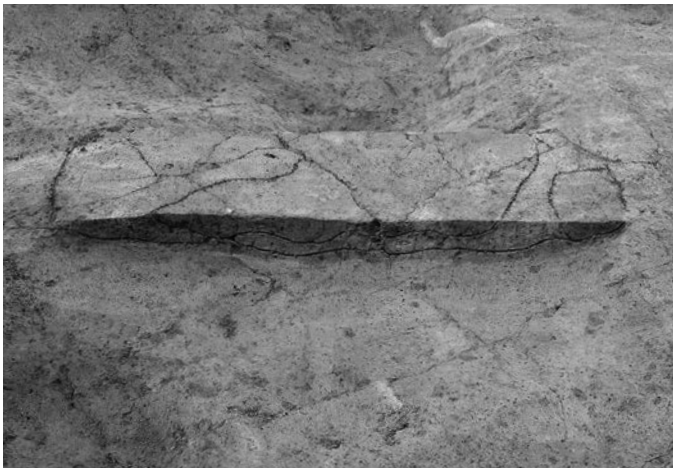


SD377　18-18’断面（南東から）

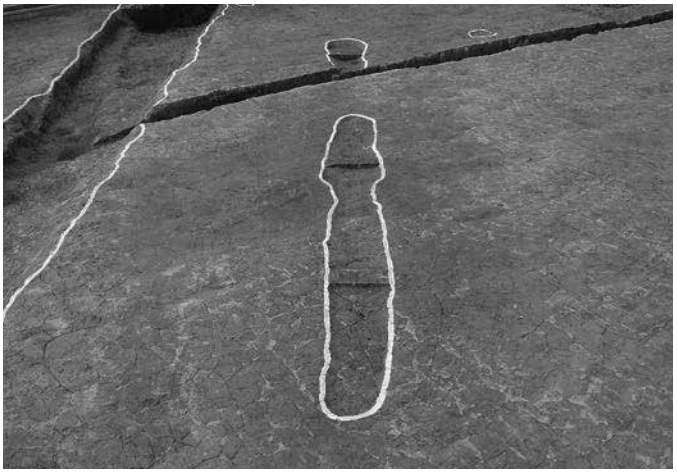
SD377　全景（南東から）



SD378　7M15グリッド位置の断面（南東から）



SD378　19-19’断面（南東から）



SD377・SD378　全景（南東から）

SD101・SD102　完掘（南東から）

SD101・SD102　完掘（北西から）

SD101　23-23’断面（北西から）

SD101　22-22’断面（北西から）

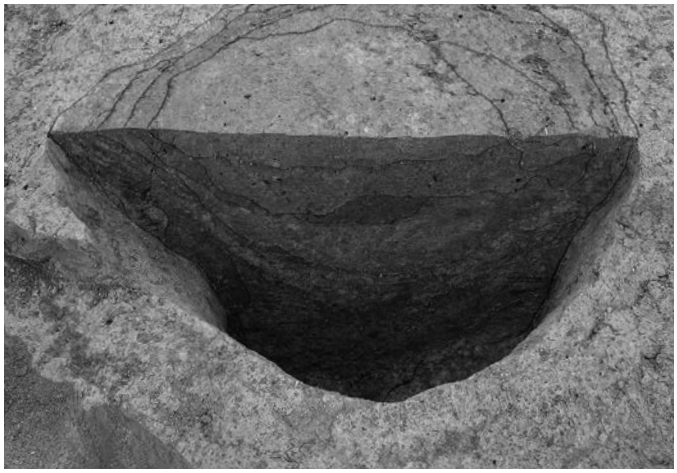
SD102　31-31’断面（北西から）

SD102　30-30’断面（南東から）

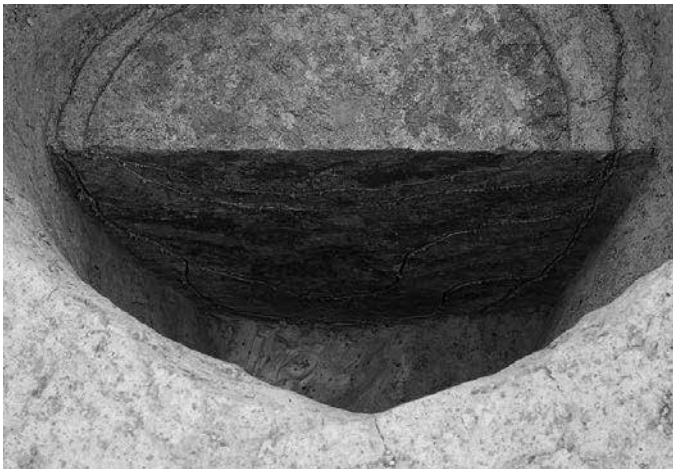
SD102　28-28’断面（南東から）

SD102　青磁（35）出土状況（東から）

SD102　朝鮮陶器（45）出土状況（西から）



SE2　断面（1～13層）（北西から）

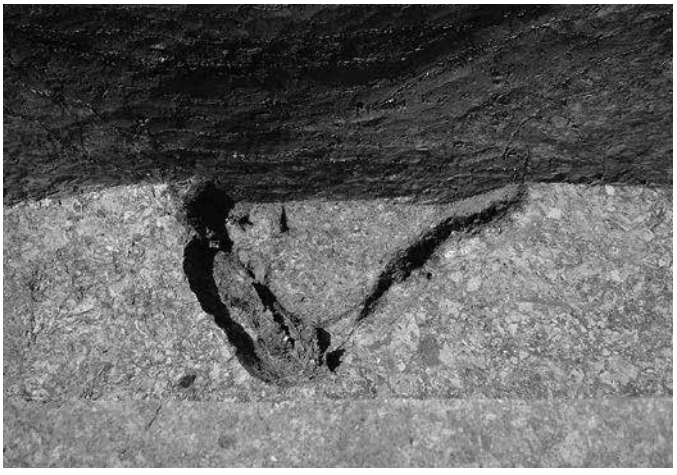


SE2　断面（14～17層）（北西から）

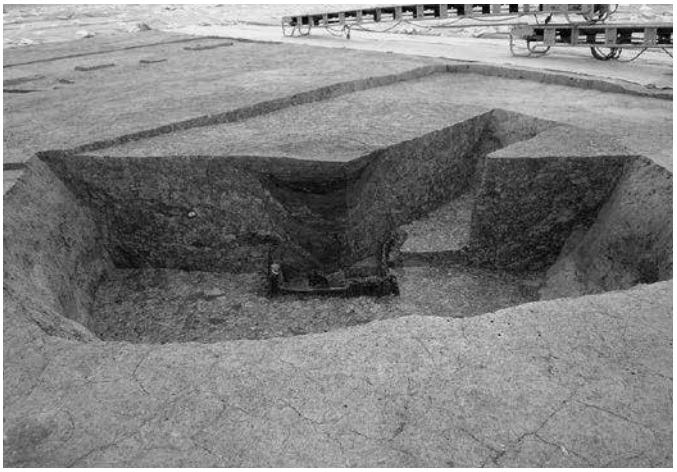
SE2　完掘（北西から）

SE63　断面（1～9層）（北東から）

SE63　9層まで掘削（北東から）



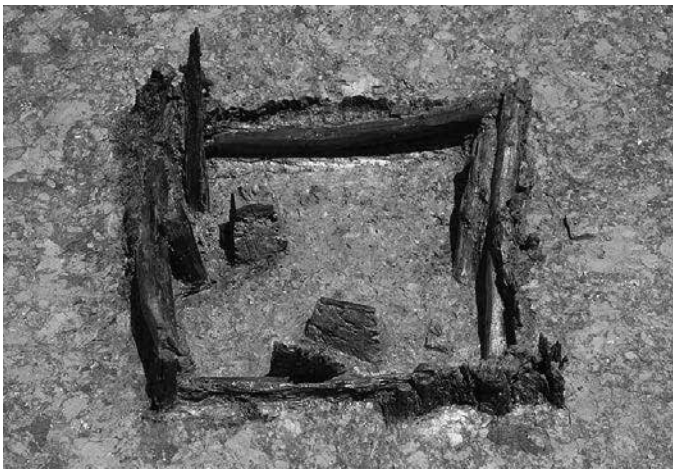
SE65　井戸側検出（南東から）



SE65　断面（1～20・23～29層）（南東から）

SE65　断面（放射状に敷設されたアシ）（南東から）

SE65　井戸側検出（南西から）



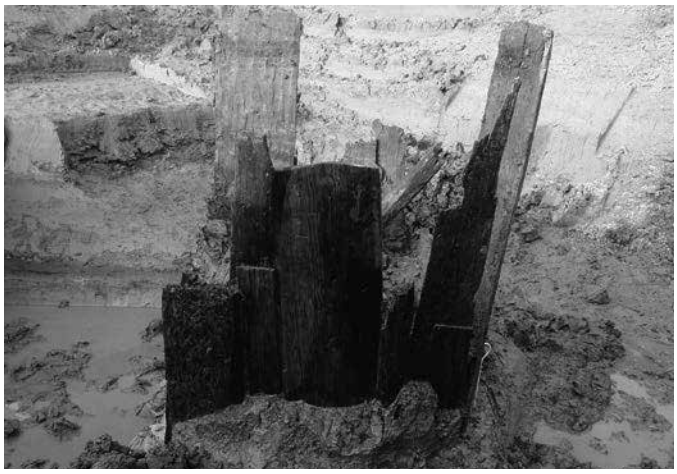
SE65　井戸側検出（南西から）

SE65　断面（30～32層）・井戸側出土状況（西から）

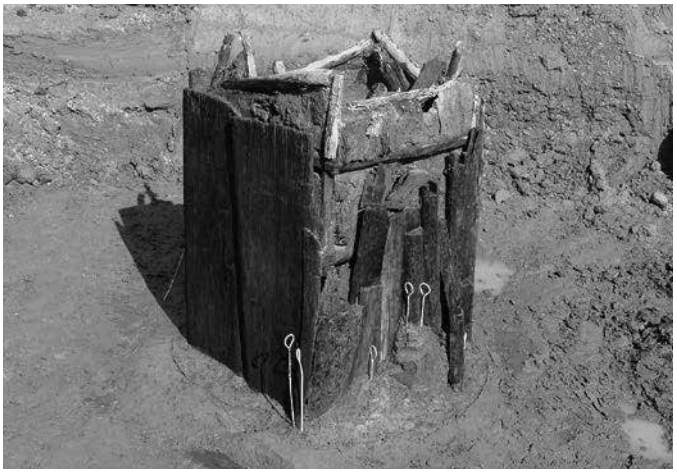
SE65　密にかけられたアシ　検出（北から）

SE65　井戸側（1段目）出土状況（南東から）

SE65　側板（1段目）出土状況（北西から）



SE65　側板（2段目）出土状況（北東から）



SE65　井戸側（2段目）出土状況（西から）

SE65　桟木（2段目）・手桶の側板（220）出土状況（南東から）

SE65　桟木（2段目）出土状況・隅柱圧痕検出（南東から）

SE65　桟木・隅柱（3段目）出土状況（南から）

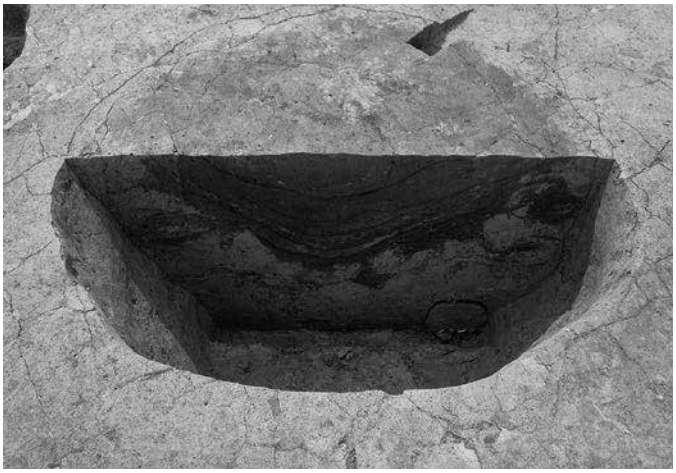
SE65　漆器（222）出土状況（南東から）

SE65　装具ヵ（183）出土状況（東から）

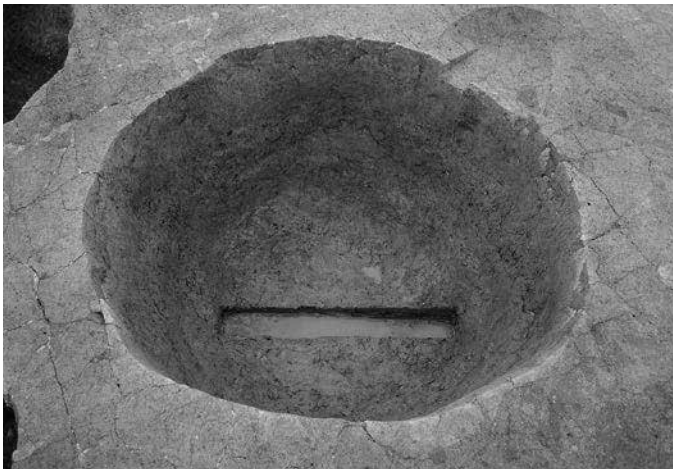
SE65　柄の持ち手（221）出土状況（南東から）

SE65 青磁（51）・青花（54）・曲物底板（219）出土状況（南西から）

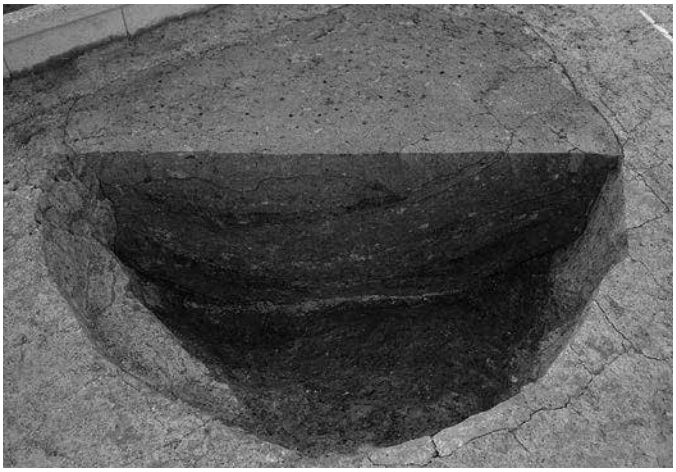
SE66　断面（北東から）



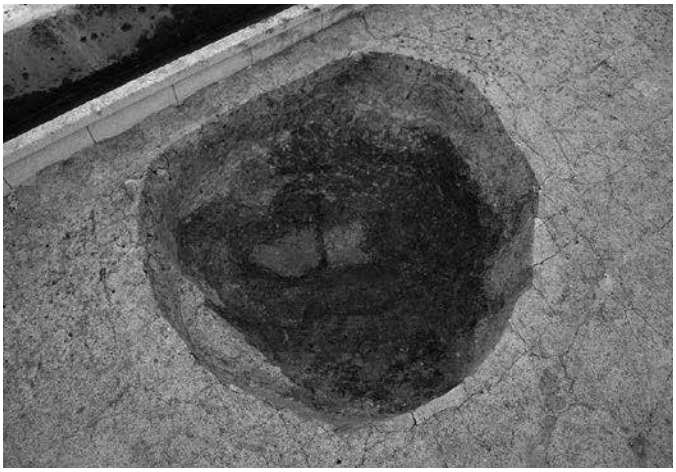
SE68　断面（1～16層）（東から）



SE68　16層まで掘削（東から）

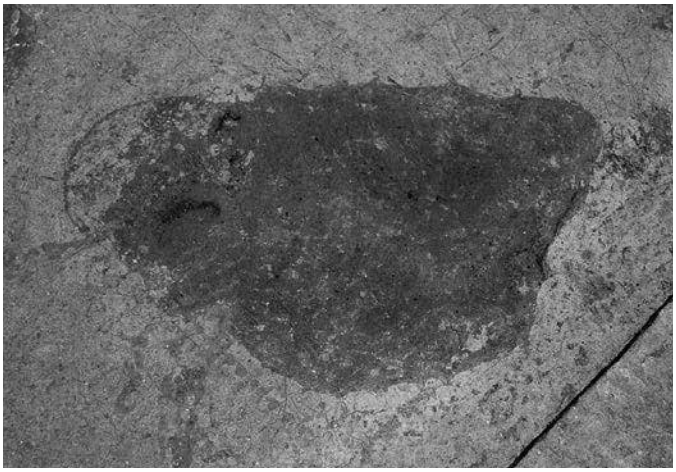


SE69　断面（1～12層）（東から）



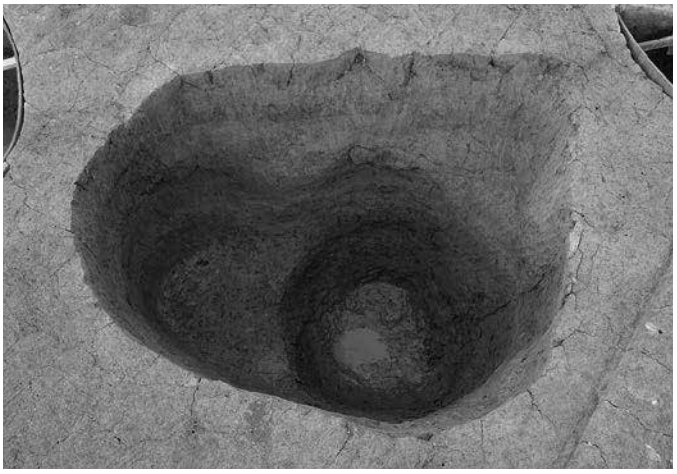
SE69　13層検出（東から）

SE69　断面（13～21層）（東から）



SE70・71　検出（南西から）

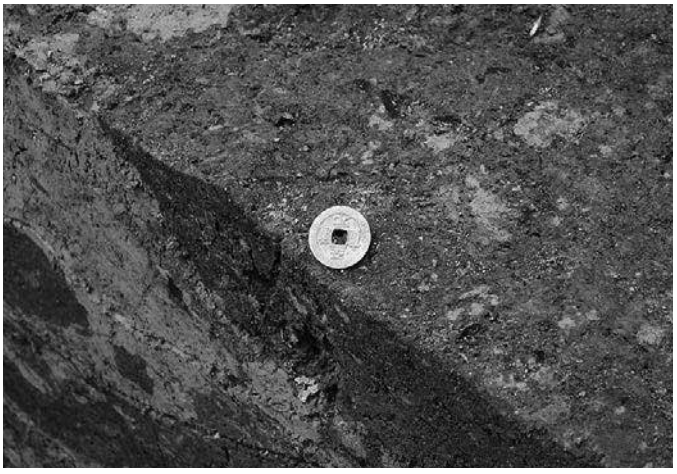
（左から）SE71・SE70　断面（SE70は1～18層）（南西から）



SE70（右）・SE71（左）　完掘（SE70は18層まで掘削）（南西から）

SE70　曲物（224）出土状況（南東から）

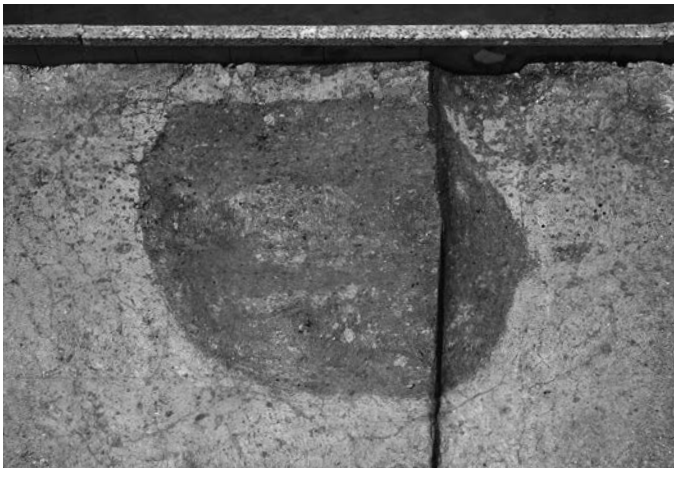
SE72　珠洲焼（58）・銭貨・種子・火付け木出土状況（南から）



SE72　銭貨（171）出土状況（南から）

SE72　漆器（225）出土状況（南から）

SE72　23層まで掘削（北東から）



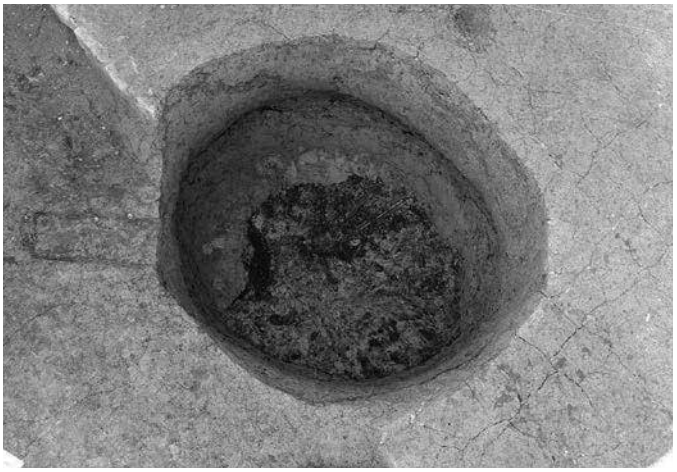
SE74　検出（北東から）

SE74　断面（1～11層）（北東から）

SE74　断面（12～26層）（北東から）

SE74　26層まで掘削（北東から）

SE75　断面（1～16層）（南東から）



SE75　16層まで掘削（南東から）

SE103　7層まで掘削（南から）

SE104　断面（1～4層）（西から）

SE107　断面（1～4層）（西から）

SE107　4層まで掘削（西から）

SE109　断面（1～4層）（南西から）

SE111　断面（1～7層）（南西から）

SE111　炭化木出土状況（南西から）

SE114　検出（南西から）

SE114　断面（1～6層）（西から）

SE114　井戸側検出（北東から）

SE114　断面（1～11層）（南西から）

SE124　断面（1～9層）（北東から）

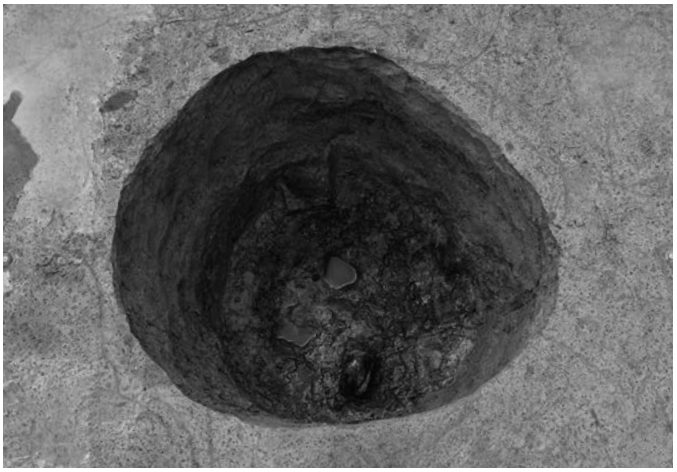
SE125　断面（1～6層）（西から）

SE125　6層まで掘削（西から）

SE126　断面（1～3・4層）（南から）

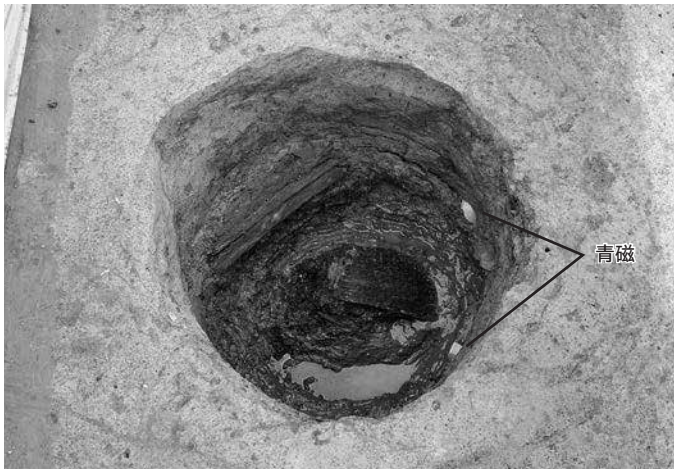
SE126　3・4層まで掘削（南から）

SE128　断面（1～5層）（南東から）

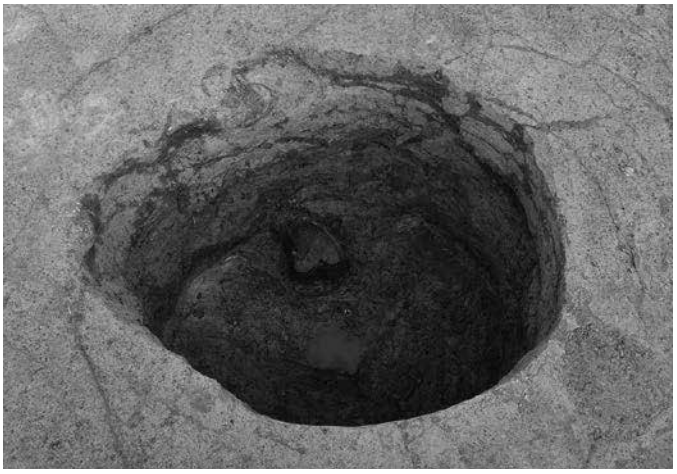


SE128　5層まで掘削（南東から）

SE129　断面（1～5層）（南西から）



SE130　青磁（113・114）・曲物底板出土状況（北西から）



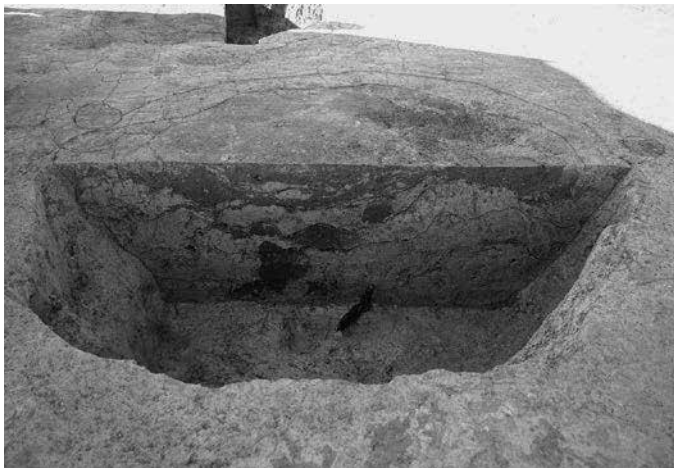
SE132　7層まで掘削、珠洲焼（115）出土状況（北西から）

SE148　断面（1～6層）（北東から）

SE152　５層まで掘削（北西から）

SE153　断面（１～13層）（南西から）

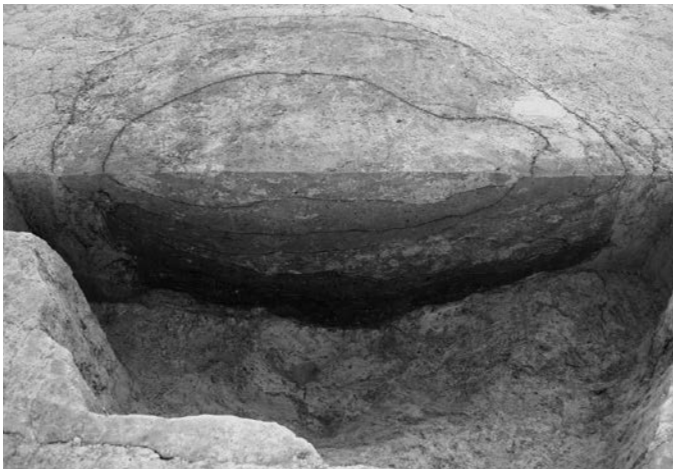
SE153　13層まで掘削（南西から）



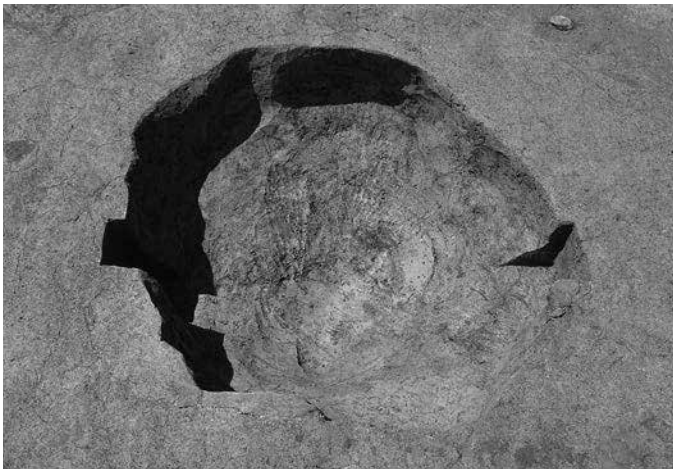
SE154　断面（1～4層）（南東から）

SE154　４層まで掘削（南東から）

SE154　断面（５層）・板状木製品出土状況（南東から）

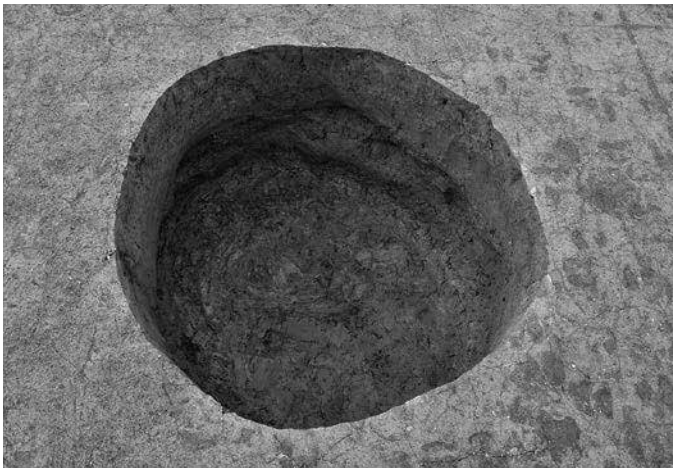


SE155　断面（1～8層）（南西から）



SE155　８層まで掘削（南西から）

SE156　断面（1～9層）（北西から）

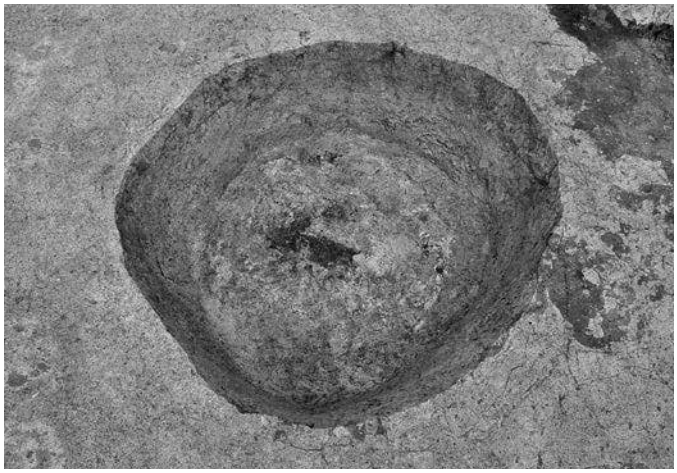


SE156　9層まで掘削（北西から）

SE156　断面（９層以下）（南から）

SE157　断面（1～６層）（南東から）

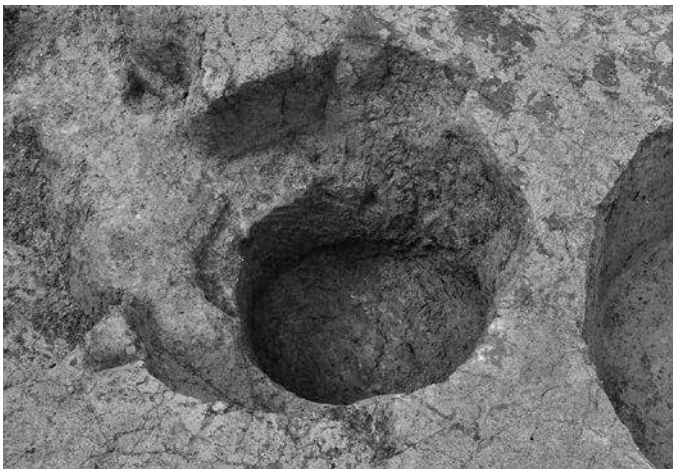
SE157　粉挽き臼（148）出土状況（南から）



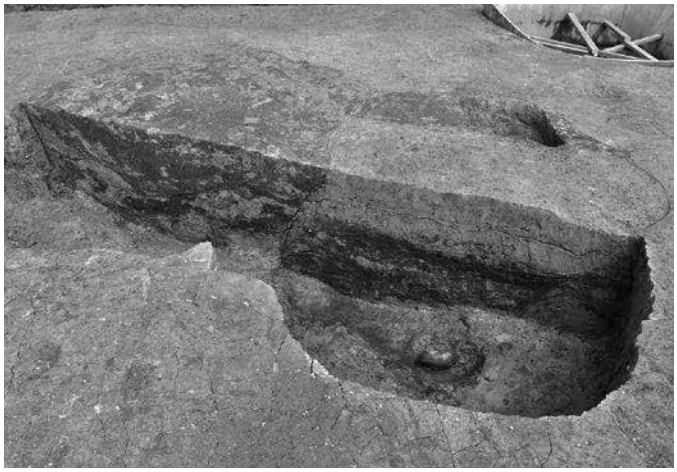
SE157　6層まで掘削（南東から）

SE157　断面（6層以下）（南西から）

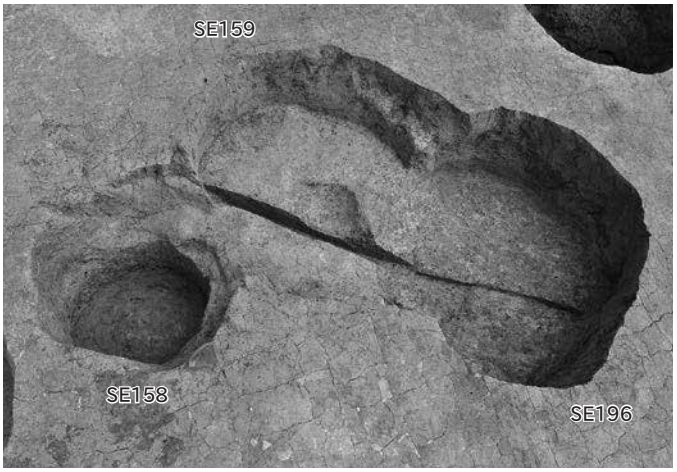
SE158　断面（1～5層）（南東から）



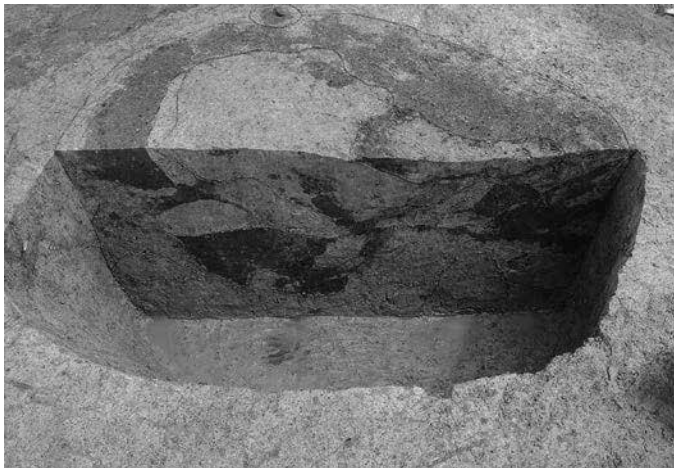
SE158　5層まで掘削（北東から）



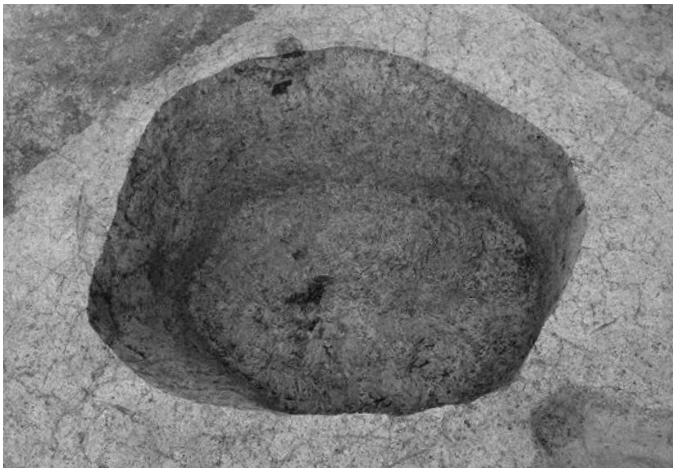
（左から）SE159（1～4層）・SE196（1～6層）　断面（南西から）



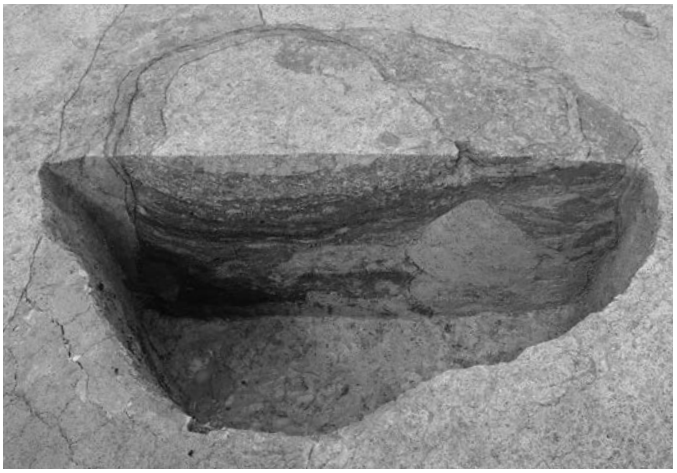
SE159　1～4層まで掘削・SE196　1～6層まで掘削（南西から）



SE167　断面（1～10層）（南西から）



SE167　10層まで掘削（南西から）



SE168　断面（1～21層）（南西から）

SE168　21層まで掘削・曲物底板出土状況（南西から）

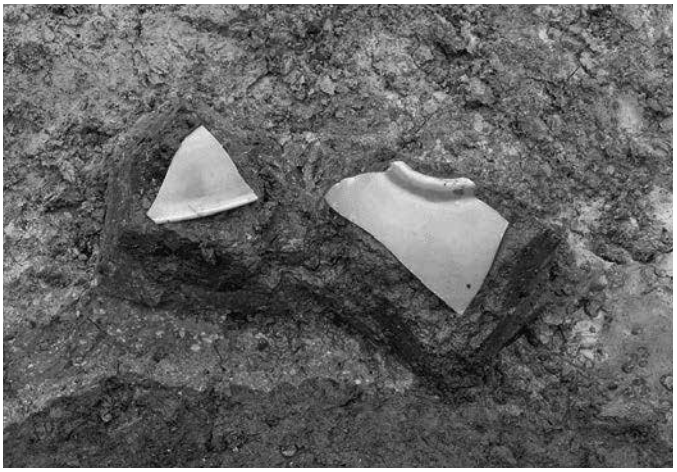
SE169　断面（南西から）

SE169　完掘（南西から）

SE170　断面（1～11層）（南西から）

SE170　椀形滓（189）出土状況（北東から）

SE170　樺出土状況（東から）



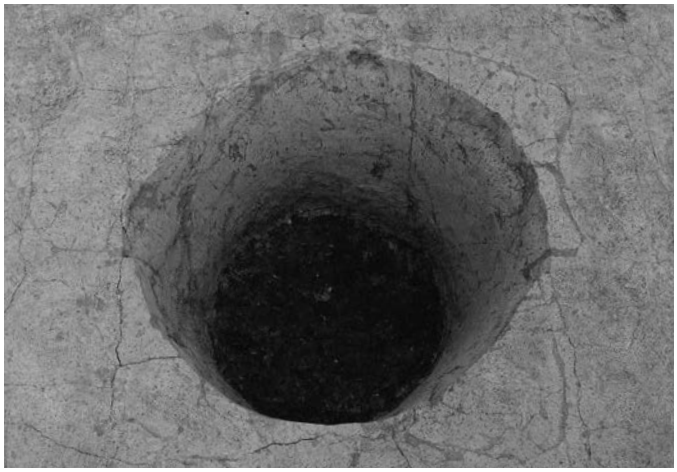
SE170　青磁（71）出土状況（北から）

SE170　11層まで掘削・遺物出土状況（北西から）

SE190　断面（1～6層）（南西から）

SE190　6層まで掘削（南西から）

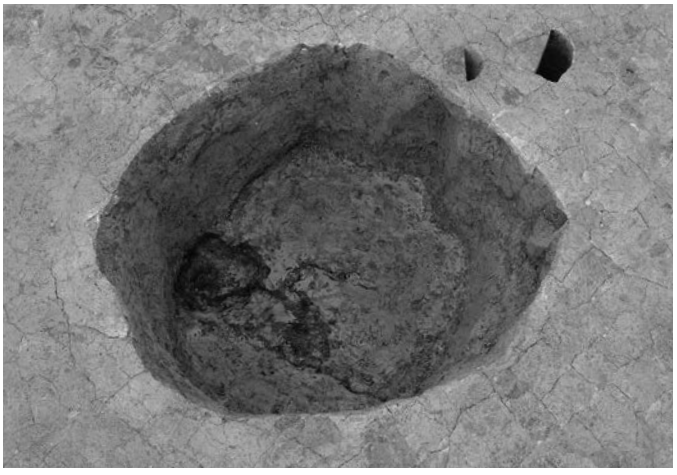
SE191　断面（1～8層）（南西から）



SE191　８層まで掘削（南西から）

SE191　断面（８層以下）（南西から）

SE194　断面（1～3層）（南西から）

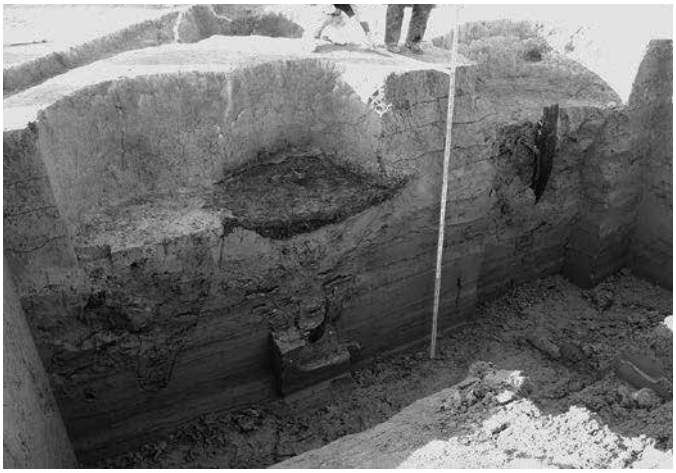


SE194　3層まで掘削（南西から）

SE195　断面（1～13層）（南東から）

SE199　検出（南西から）

（左から）SE195　13層まで掘削・SE199　8層まで掘削（南西から）



（左から）SE195・SE199・SE154　断面（南から）

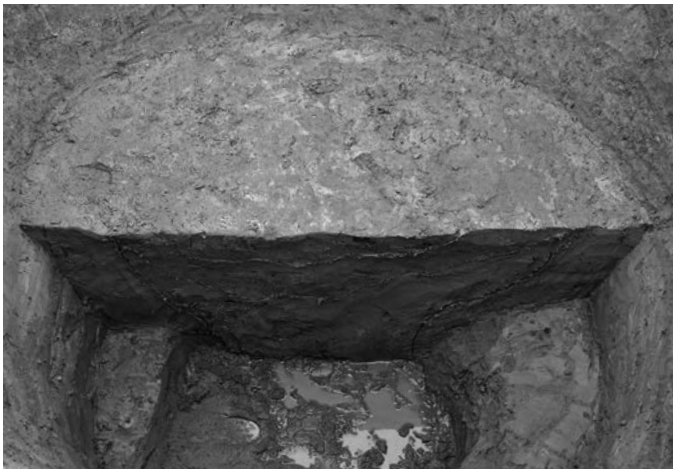
SE195（左）・SE199（右）　断面（14～17・8～11層）（南東から）

SE199　曲物（236）出土状況（南東から）

（左から）SE197（1～6層）・SE198（1～6層）断面（北東から）

（左から）SE197　6層まで掘削・SE198　6層まで掘削（南西から）

SE201　断面（1～10層）（南西から）



SE201　断面（11～13層）（南西から）

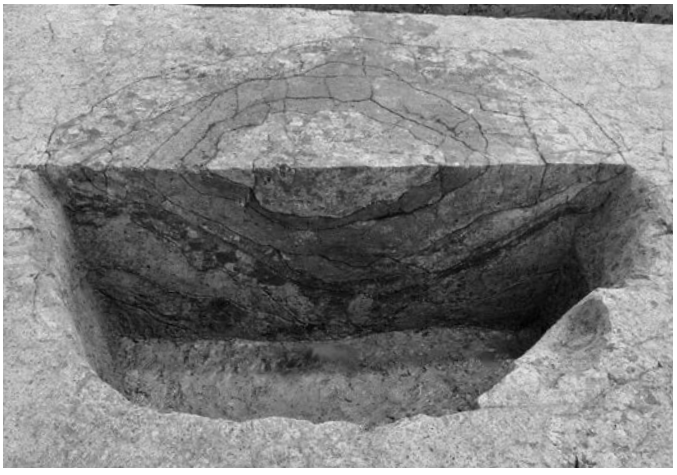
SE201　14層まで掘削（南西から）

SE219　断面（1～9層）（北東から）

SE219　9層まで掘削（北東から）

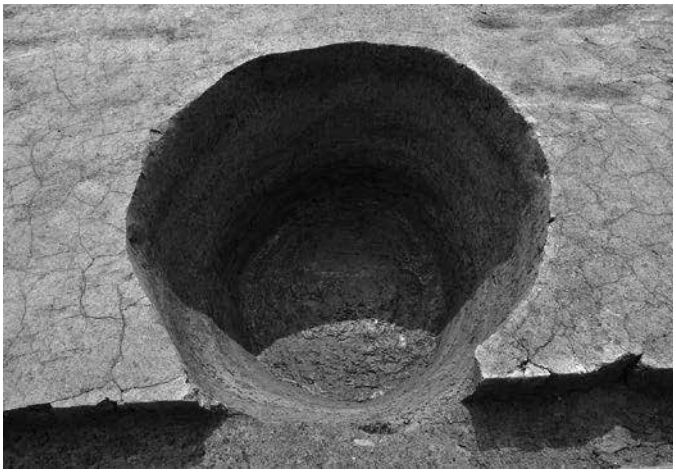
SE219　断面（断ち割り、9～16層）（北東から）

SE219　曲物（237）・桶（238～240）出土状況（北東から）



SE241　断面（1～9層）（南西から）

SE241　白磁（75）・鉄滓出土状況（北東から）



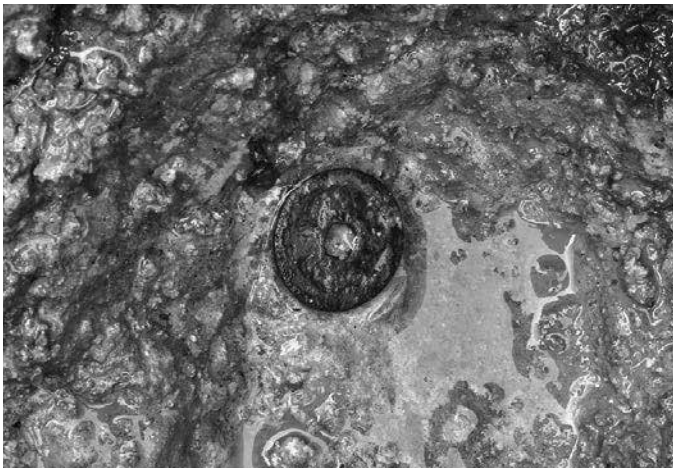
SE241　10層まで掘削（東から）

SE242　断面（1～11層）（南西から）

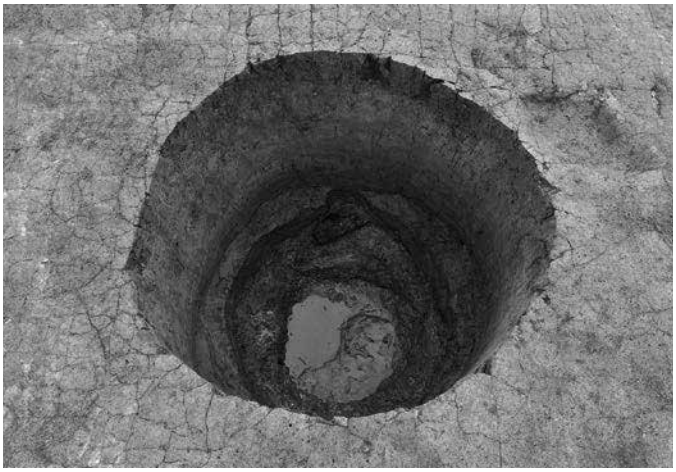
SE242　羽口・鉄滓出土状況（南西から）

SE242　11層まで掘削（北西から）

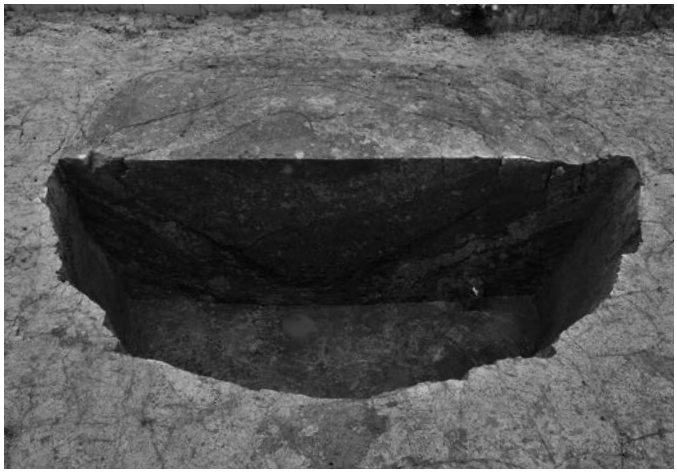
SE243　断面（1～8層）（南東から）



SE243　銭貨（176）出土状況（南西から）



SE243　7・8層まで掘削（南西から）



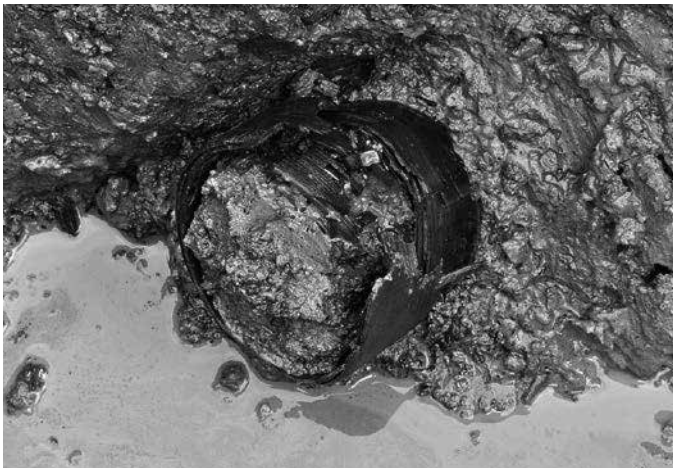
SE244　断面（北東から）

SE244　椀形滓（190）出土状況（東から）

SE244　完掘（南から）

SE244　流木検出（南東から）

SE245　断面（1～14層）（南東から）



SE245　曲物（242）出土状況（南から）

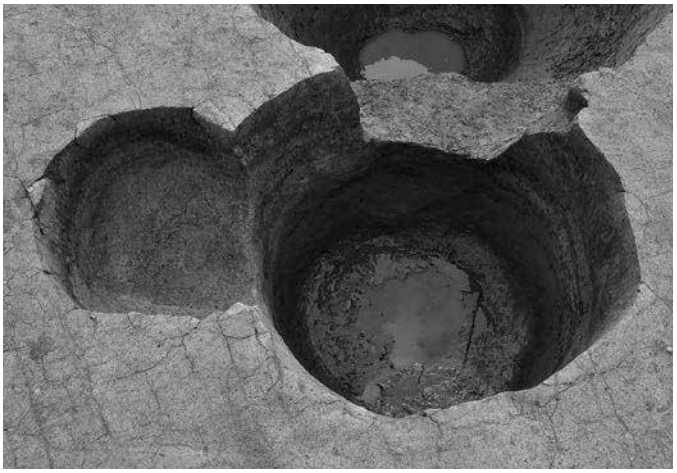
SE245　陽物形木製品（241）出土状況（北東から）

SE245　完掘（北東から）

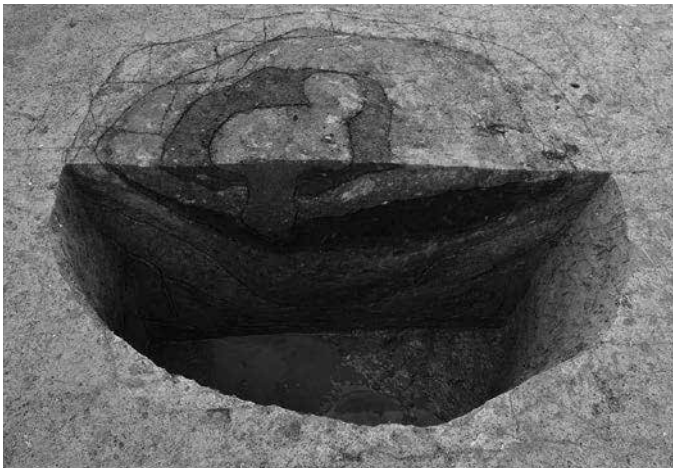
SE246　断面（1～8層）（南から）

SE246　越前焼（100）出土状況（西から）

SE246　漆器（243）出土状況（南から）

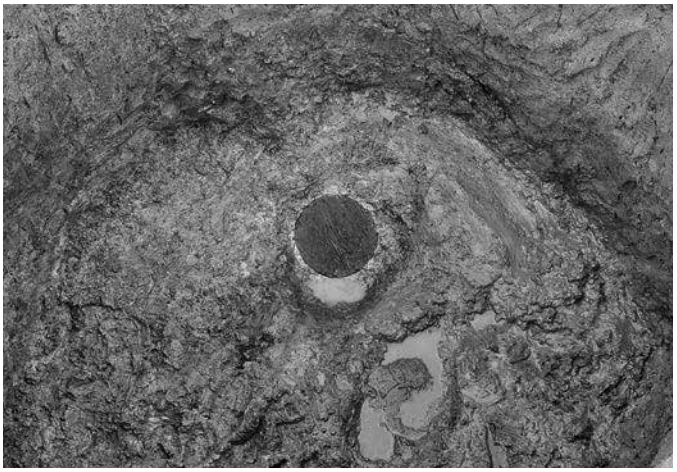


SE246（右）・SK248（左）　完掘（東から）

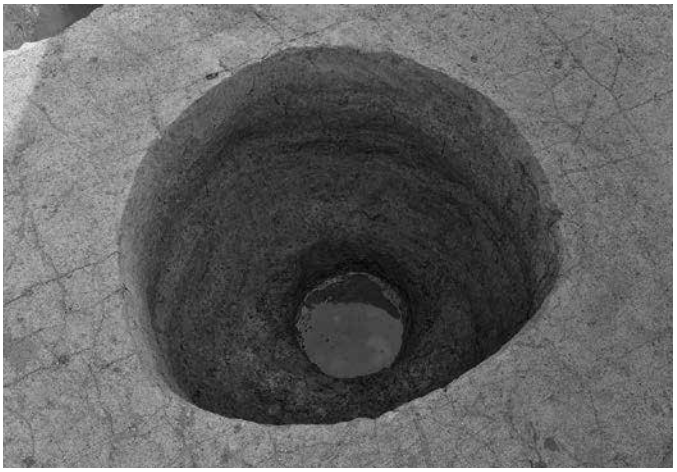


SE247　断面（1～9層）（南東から）

SE247　珠洲焼（79）出土状況（南東から）

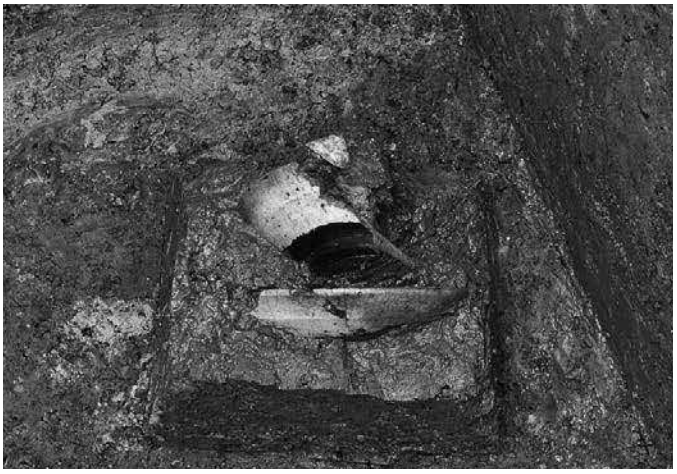


SE247　曲物底板（244）出土状況（南西から）



SE247　完掘（北から）

SE249　断面（1～3層）（南東から）



SE249　白磁（81）出土状況（東から）

SE249　漆器（247）出土状況（南東から）

SE249　断面（4～6層）（南東から）

SE249　6層まで掘削（北東から）

SE250　断面（北東から）

SE250　完掘（北東から）

SE251　断面（1～9層）（西から）

SE251　羽口出土状況（北から）

SE251　珠洲焼（82）出土状況（南西から）

SE251　断面（9・10層）（西から）

SE251　完掘（西から）

SE252　断面（1～8層）（西から）

SE252　神饌容器（248）・棒状木製品（249）出土状況（北東から）

SE252　完掘（西から）

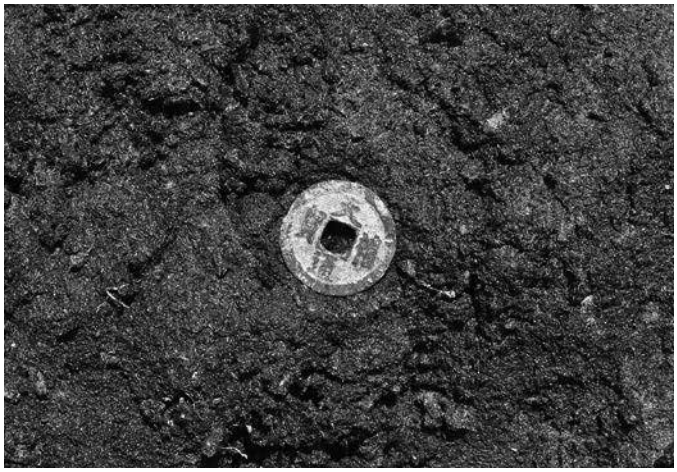
SE253　断面（1～4層）（南東から）

SE253　完掘（北西から）

SE254　断面（1～15層）（北東から）

SE254　15層まで掘削（東から）

SE256　断面（1～9層）（南西から）



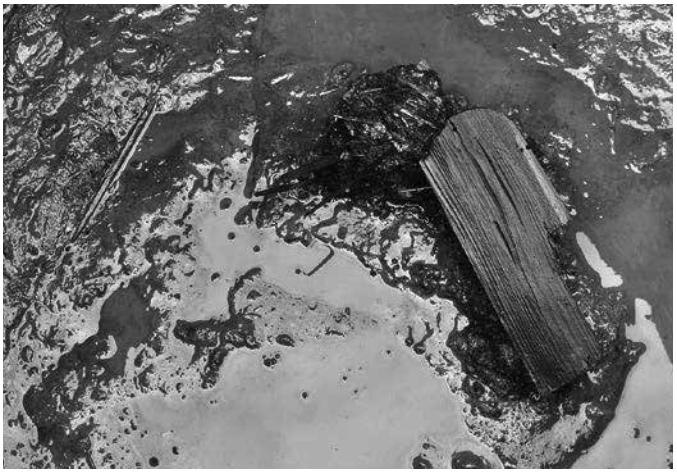
SE256　銭貨（177）出土状況（北東から）

SE256　断面（10層）（南西から）

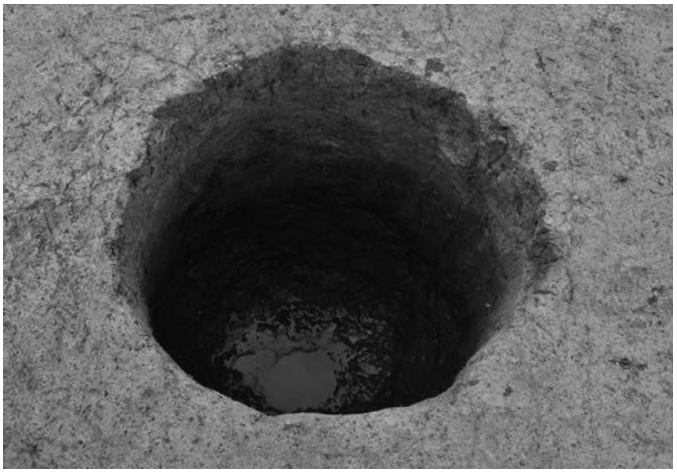
SE257　断面（1～3層）（南西から）

SE257　白磁（119・121）出土状況（東から）

SE257 白磁（120）・漆器（250）・杭状木製品（253）出土状況（西から）



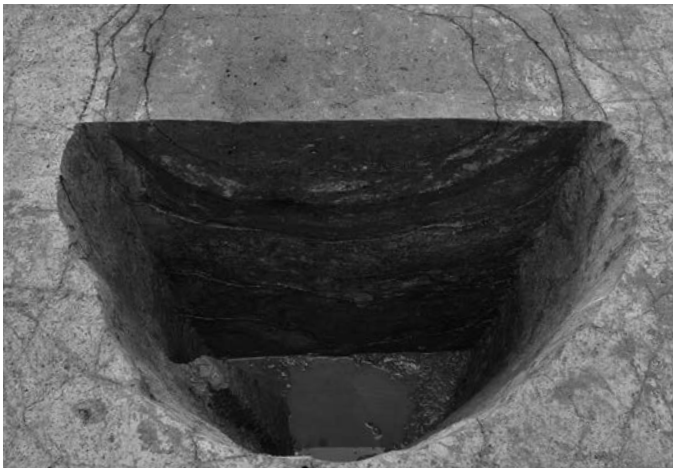
SE257　箸（251）・折敷（252）出土状況（北西から）



SE257　完掘（南西から）

SE258　断面（1～6層）（南西から）

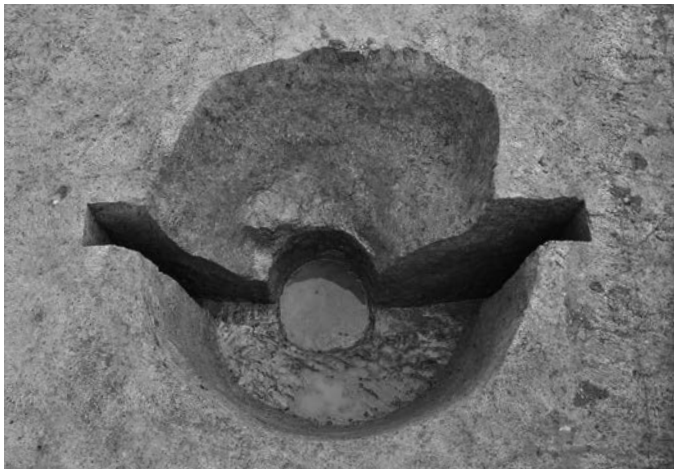
SE258　完掘（南西から）



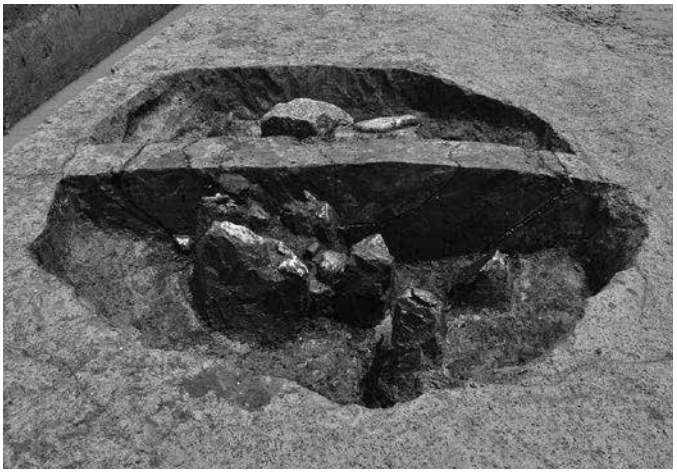
SE259　断面（南西から）

SE259　完掘（南西から）

SE260　断面（1～6層）（南西から）



SE260　完掘（南西から）



SE261　断面（1・2層）（南西から）

SE261　礫出土状況　（南西から）

SE261　断面（2～4層）（南西から）

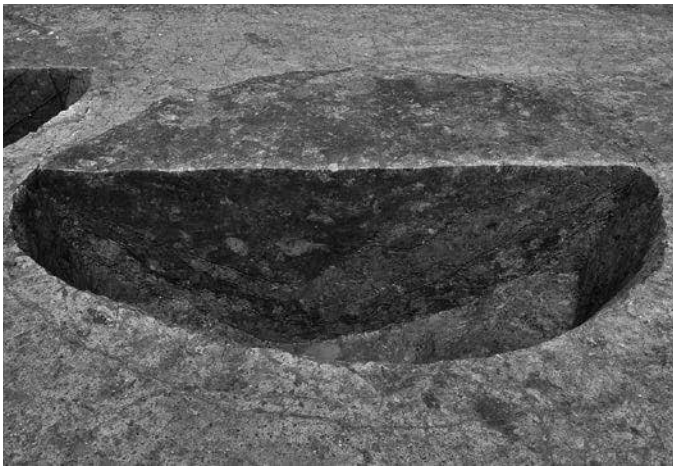
SE261　珠洲焼（86）・粉挽き臼・礫出土状況（南西から）

SE261　完掘（南から）

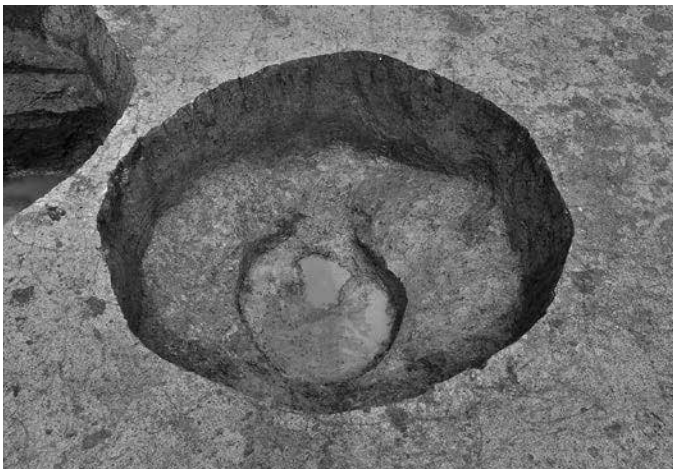
SE262　断面（1～6層）（南西から）

SE262　下駄（254）出土状況（南東から）

SE262　下駄（255）出土状況（南から）

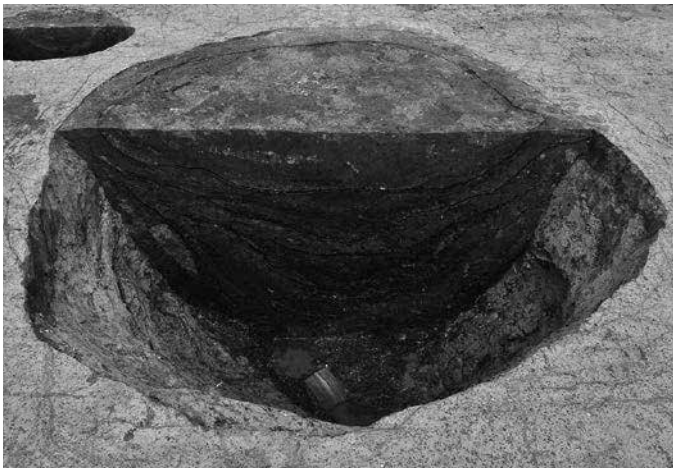


SE263　断面（1～4層）（南西から）

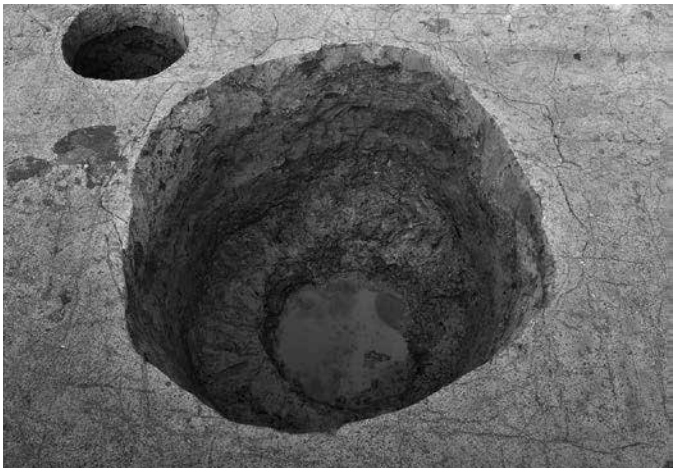


SE263　4層まで掘削（南西から）

SE263　断面（断ち割り、5層以下）（南西から）



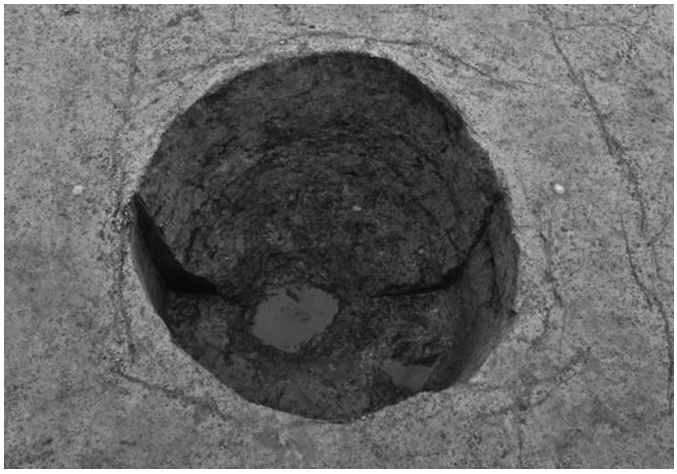
SE264　断面（1～7層）（南西から）



SE264　7層まで掘削（南西から）

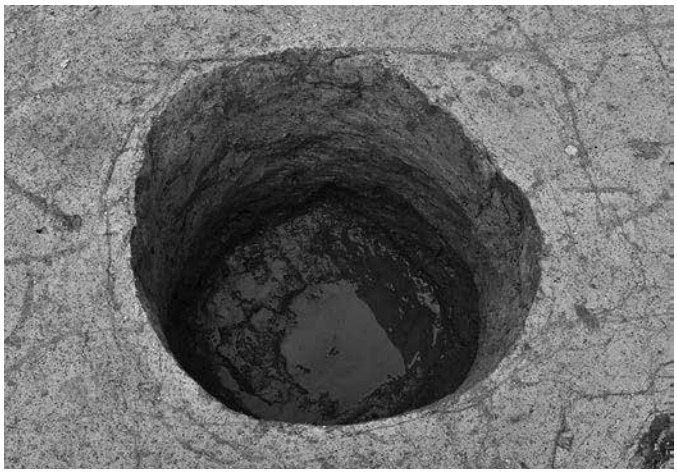
SE264　曲物（259）出土状況（南西から）

SE265　断面（南西から）

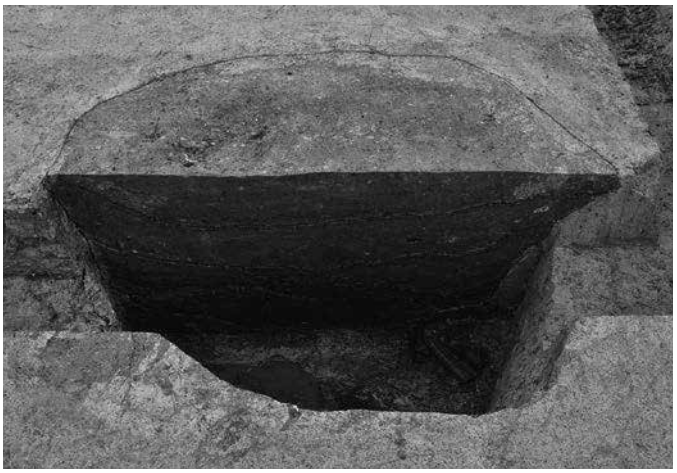


SE265　完掘（南西から）

SE266　断面（南西から）



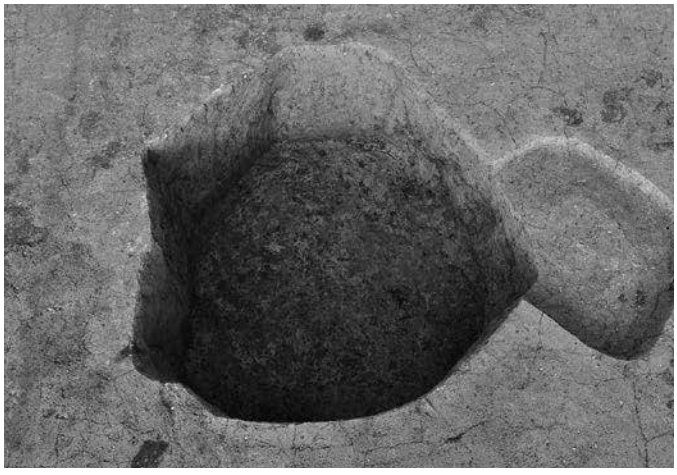
SE266　完掘（南西から）



SE267　断面（1～7層）（南東から）

SE267　完掘（北東から）

SE270　断面（1～7層）（南西から）

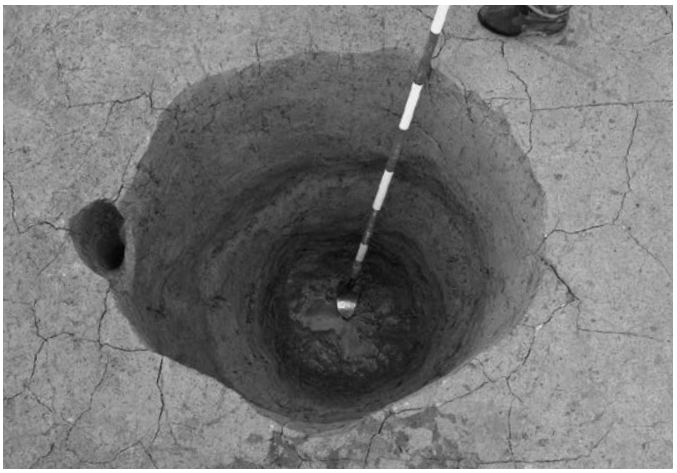


SE270　7層まで掘削（南西から）

SE271　断面（1～4層）（南東から）

SE271　曲物底板（260）出土状況（南西から）

SE271　断面（5～8層）・曲物側板出土状況（南東から）



SE271　完掘（南東から）

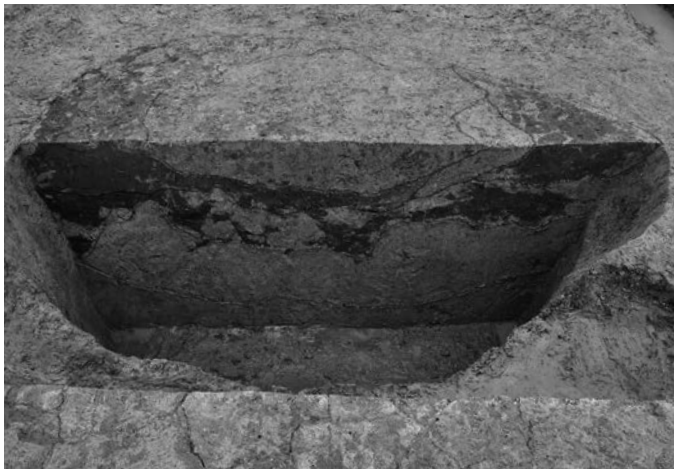
SE272　断面（1～7層）（南西から）

SE272　7層まで掘削（南西から）

SE273　珠洲焼（104）出土状況（北から）

SE273　断面（7・10・11層）（南西から）

SE273　完掘（北西から）

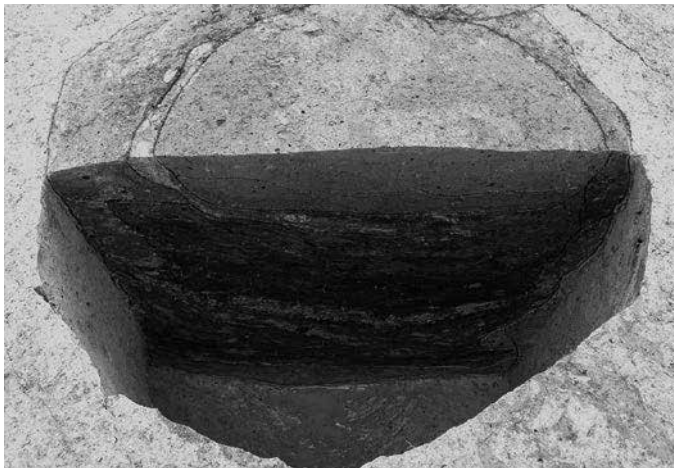


SE275　断面（1～7層）（南西から）

SE275　7層まで掘削（南西から）

SE276　断面（1～11層）（北東から）

SE276　11層まで掘削（北東から）



SE277　断面（南西から）

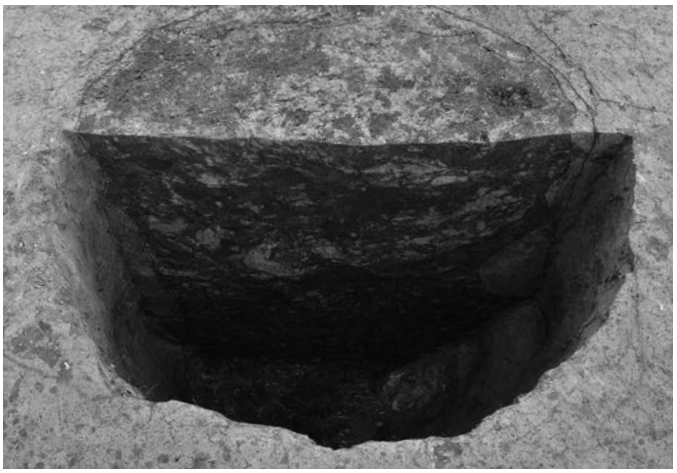
SE277　完掘（南西から）

SE279　断面（1～4層）（南西から）

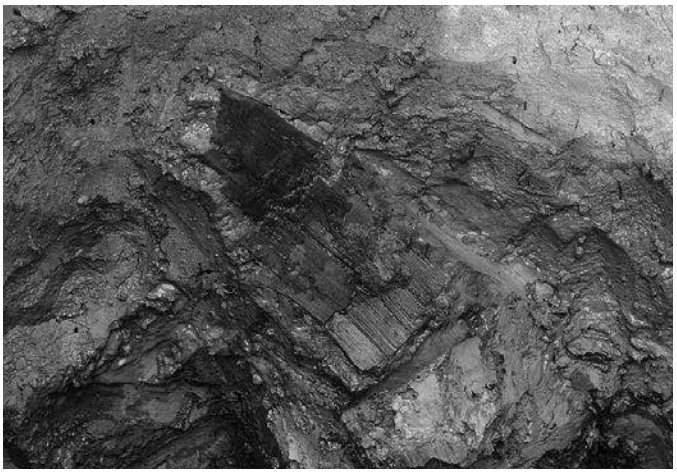
SE279　4層まで掘削（南西から）

SE288　断面（1～5層）（南西から）

SE288　5層まで掘削（南から）



SE295　断面（1～8層）（南西から）

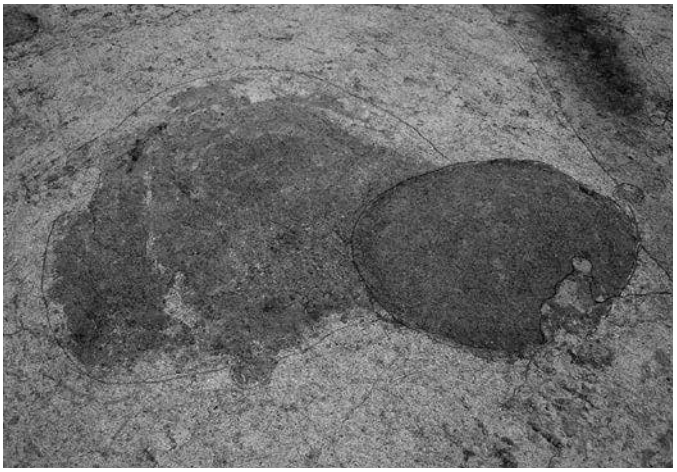


SE295　草履の芯（261）出土状況（西から）

SE295　完掘（南西から）

SE301　断面（1～12層）（南西から）

SE301　12層まで掘削（南西から）



SE302（右）・SE303（左）　検出（南西から）

SE302　断面（1～16層）（南西から）

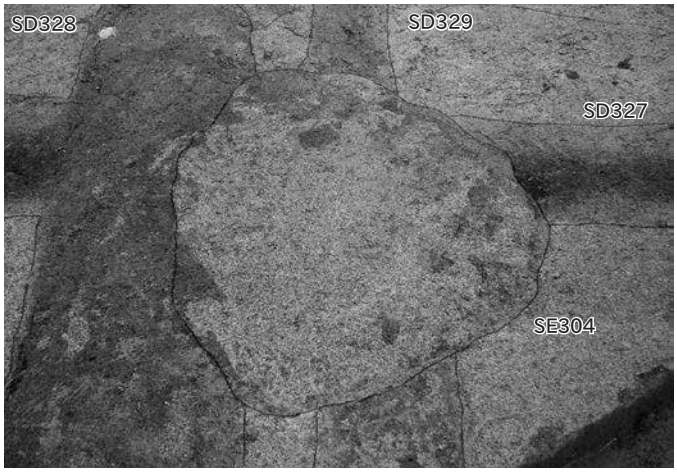
SE302　瓷器系陶器（106）・瓦器（107）出土状況（南西から）

SE302　装具ヵ（182）出土状況（南西から）

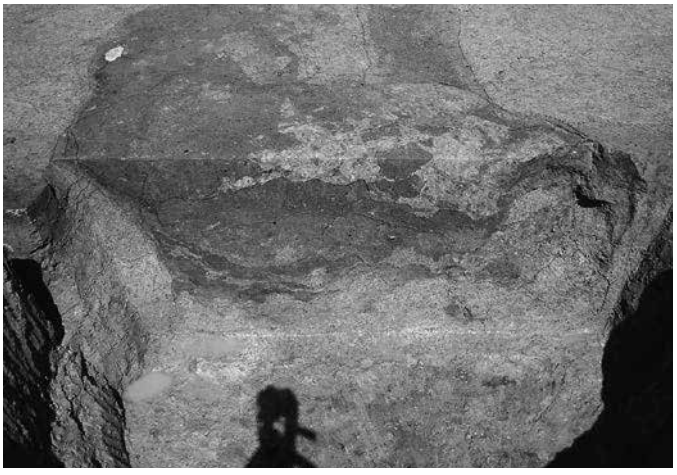
SE302　包丁（161）出土状況（南西から）

SE302　16層まで掘削（南西から）

SE303　断面（1～7・8層）（北西から）

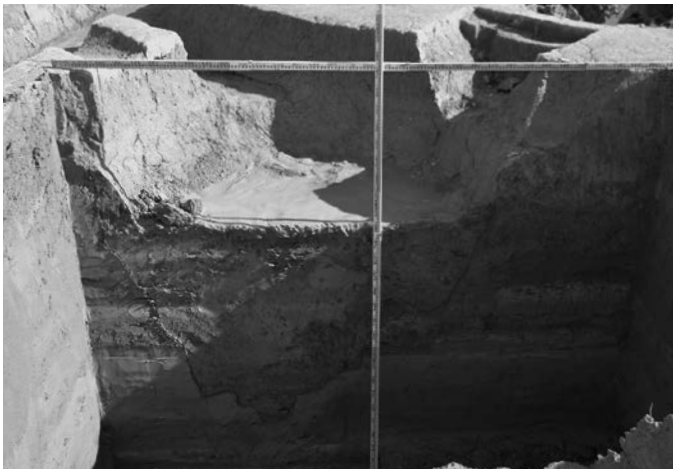


SE304・SD327～329　検出（南東から）

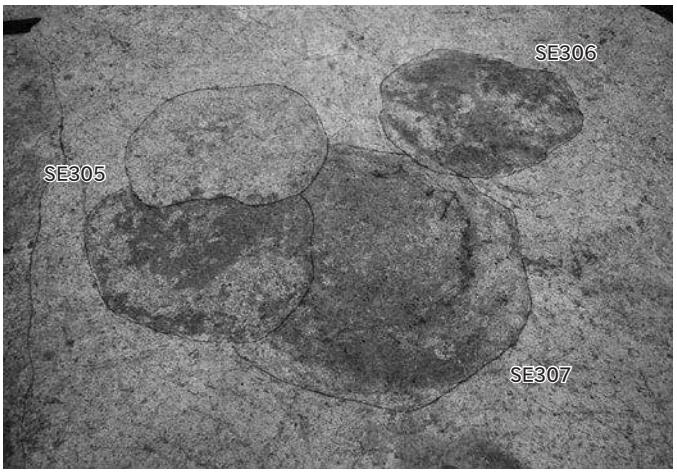


SE304　断面（1～9層）（南東から）

SE304　9層まで掘削（南東から）

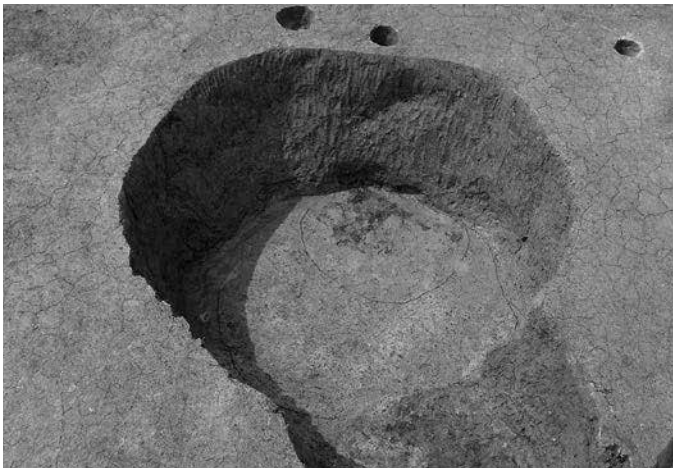


SE304　断面（断ち割り、9層以下）（北西から）

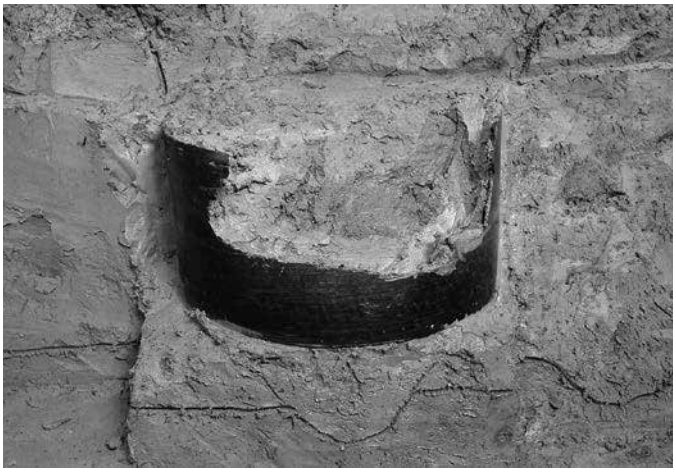


SE305・SE306・SE307　検出（南西から）

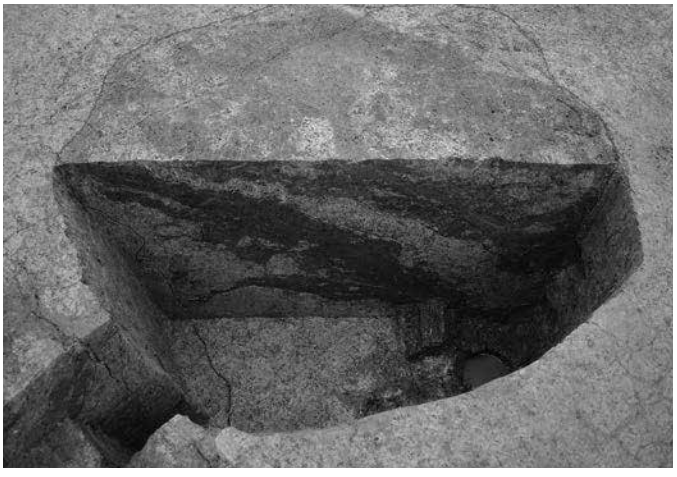
SE305　断面（1～4・5層）（北西から）



SE305　4・5層まで掘削（南東から）



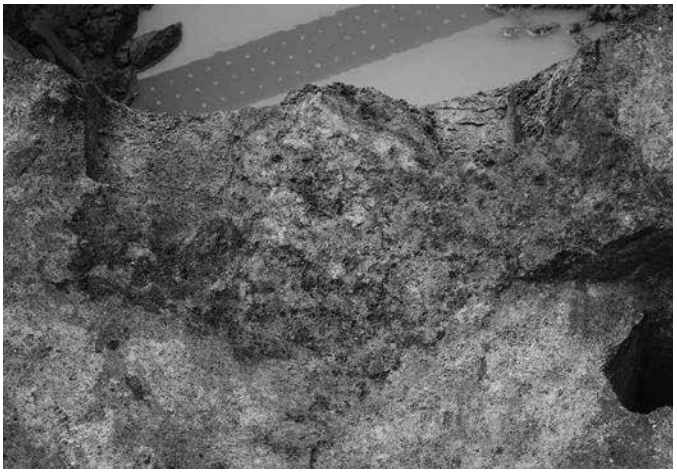
SE305　水溜に設置された曲物（263）出土状況（南東から）



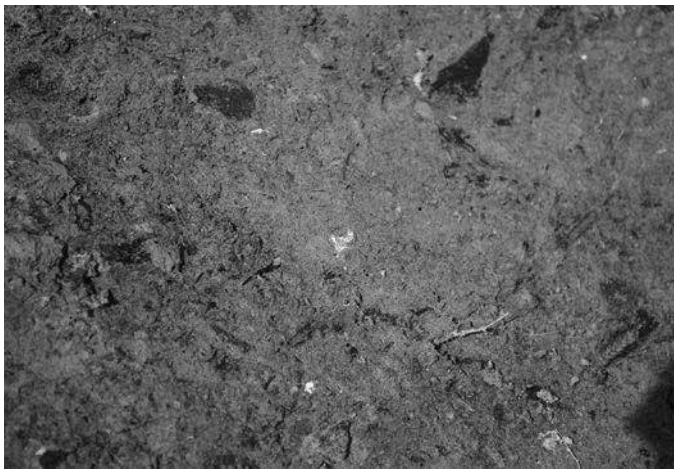
SE306　断面（1～9層）（南西から）

SE306　9層まで掘削（南西から）

SE307　断面（1～7層）（南東から）



SE307　5層（焼土・被熱土ブロック）検出（南東から）

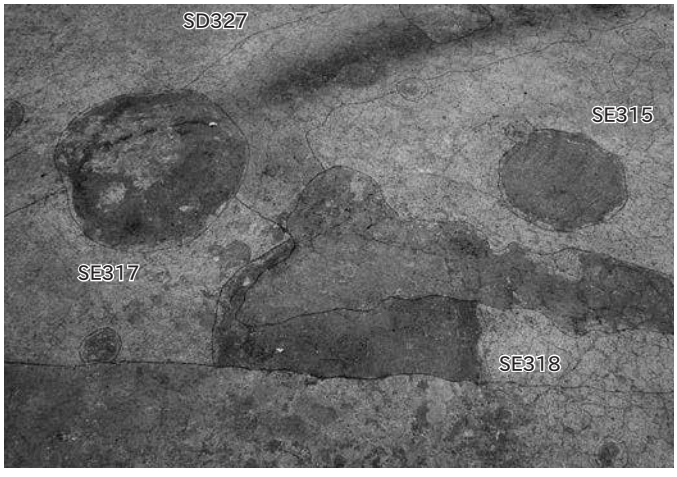


SE307　6層（灰・骨片）検出（南東から）

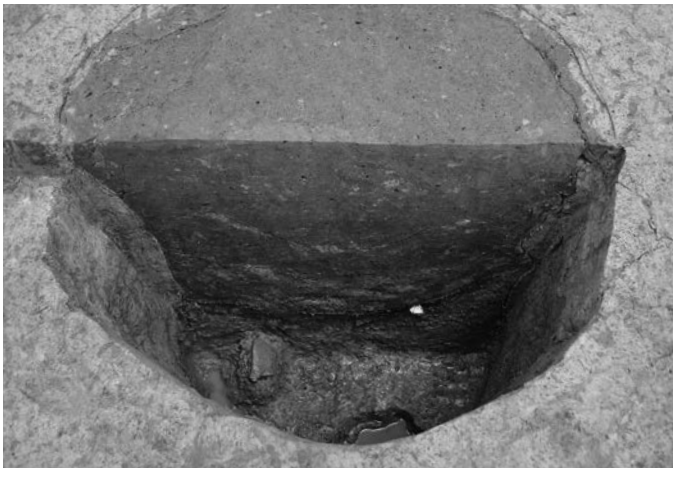
SE307　断面（1～6層）（西から）

SE307　断面（7～14・16層）（南東から）

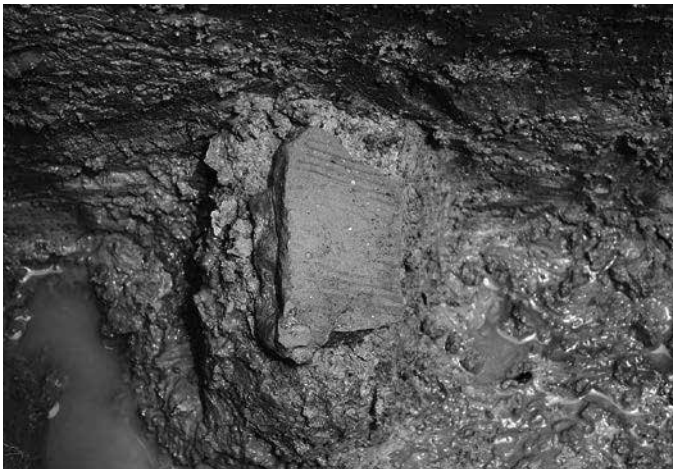
SE307　14・16層まで掘削（南東から）



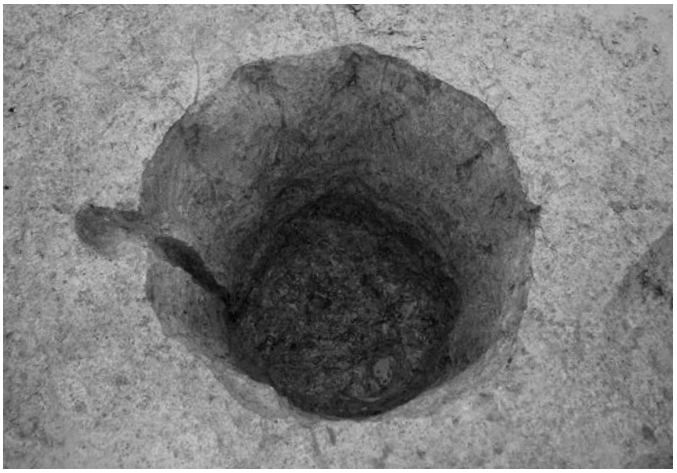
SE315・SE317・SE318・SD327　検出（南東から）



SE315　断面（1～5層）（南西から）



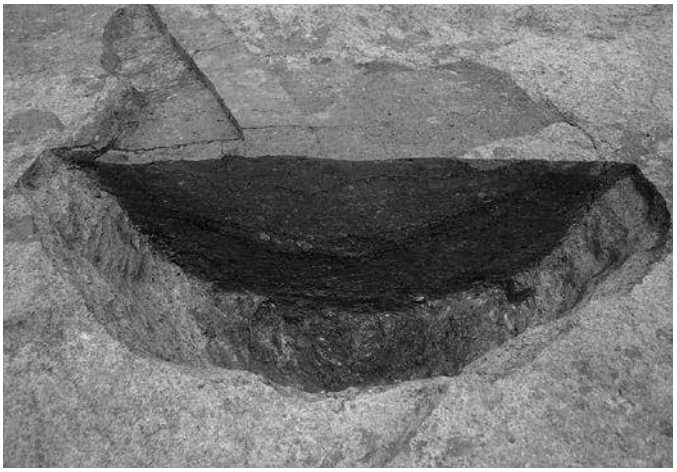
SE315　転用研磨具（140）（南西から）



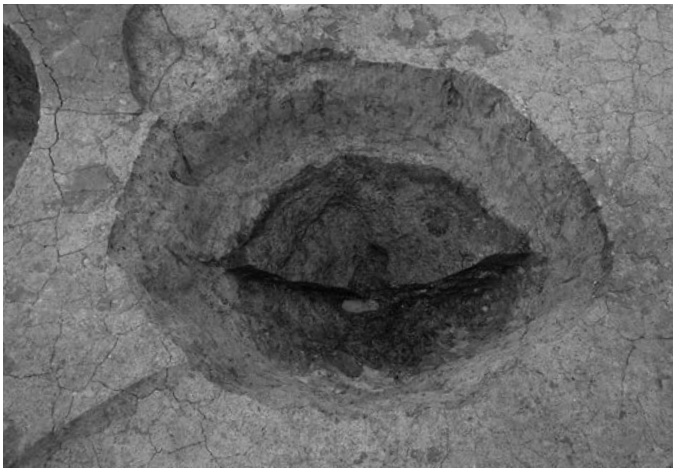
SE315　5層まで掘削（南西から）

SE317　断面（1～12層）（南西から）

SE317　12層まで掘削（南西から）

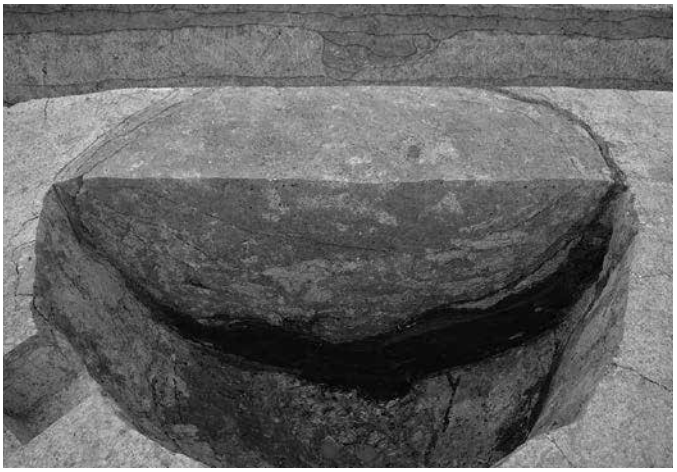


SE318　断面（1～7層）（南東から）



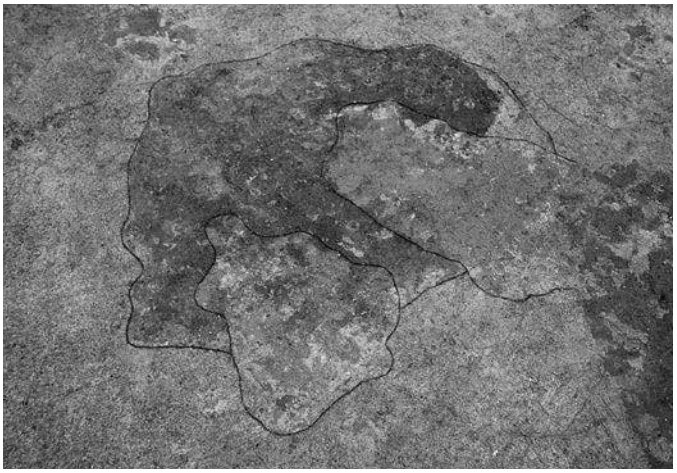
SE318　7層まで掘削（南東から）

SE318　断面（断ち割り、8～15層）（北東から）



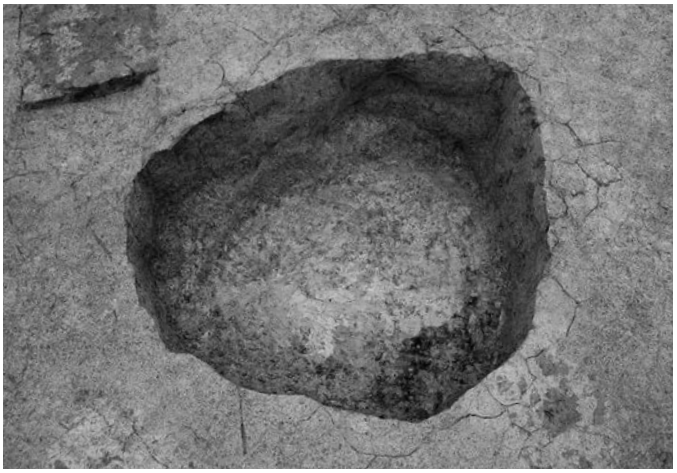
SE320　断面（1～19層）（南西から）

SE320　19層まで掘削（北東から）



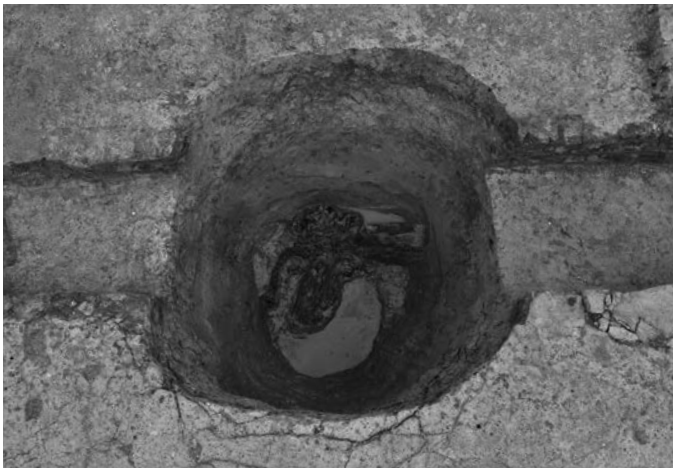
SE321　検出（南西から）

SE321　断面（1～7層）（北東から）



SE321　7層まで掘削（北東から）

SE580　断面（南西から）



SE580　4層まで掘削（南西から）

SE65（左）・SE599（右）　断面・遺物出土状況（西から）

SE599　刀子（160・267）・十字形木製品（223）出土状況（北東から）

SE599　把手付片口鍋ヵ（110）出土状況（北西から）

SE599　断面（3～5層）（西から）

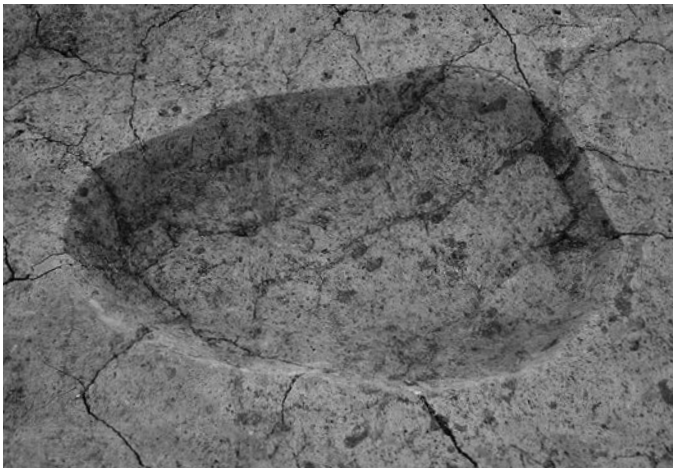
SK1　検出（南西から）

SK1　断面（南西から）

SK14　断面（南西から）

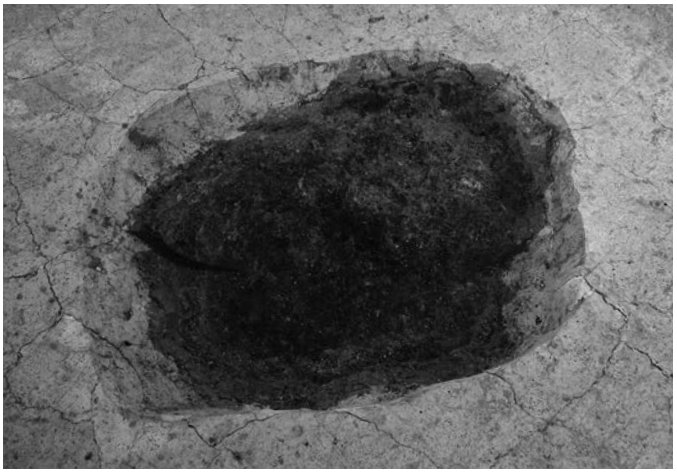
SK14　完掘（南西から）

SK60　断面（北東から）



SK60　完掘（北東から）

SK61　断面（1～5層）（南西から）



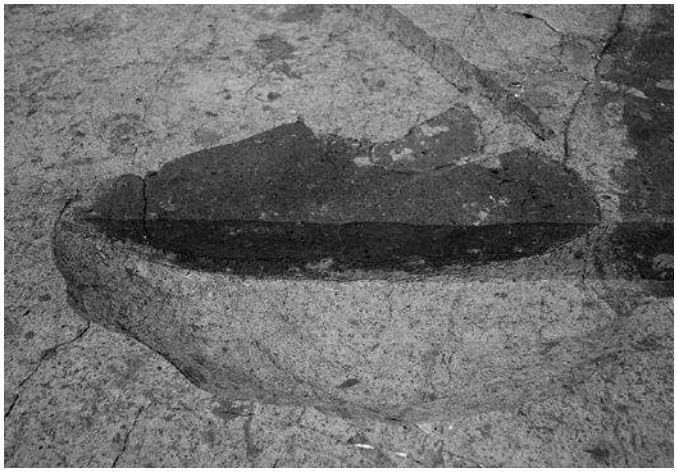
SK61　6層検出（南西から）

SK61　断面（6～9層）（南西から）

SK61　礫出土状況（南西から）

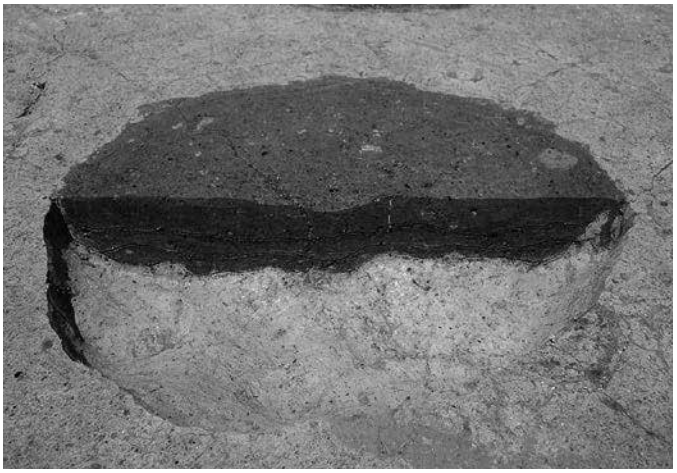
SK62　断面（北東から）

SK62　完掘（北東から）



SK67　断面（南西から）

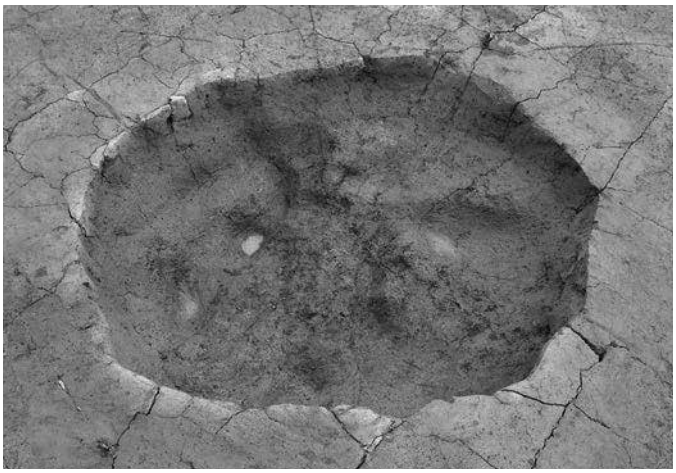
SK67　完掘（北西から）



SK73　断面（南東から）

SK73　完掘（南東から）

SK105　断面（北西から）

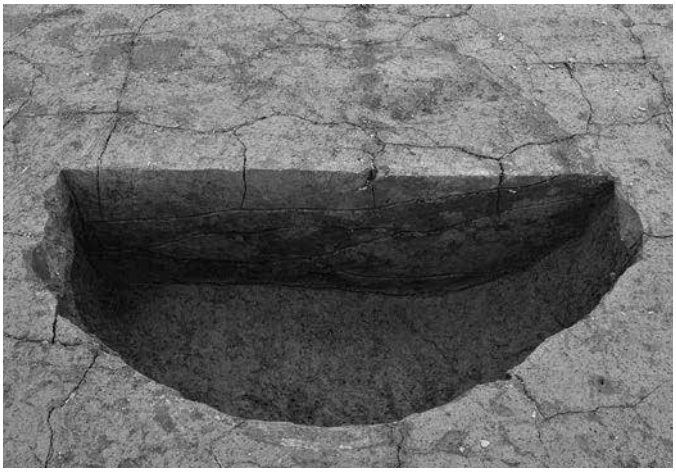


SK105　完掘（北西から）

SK106　断面（1層）（北西から）

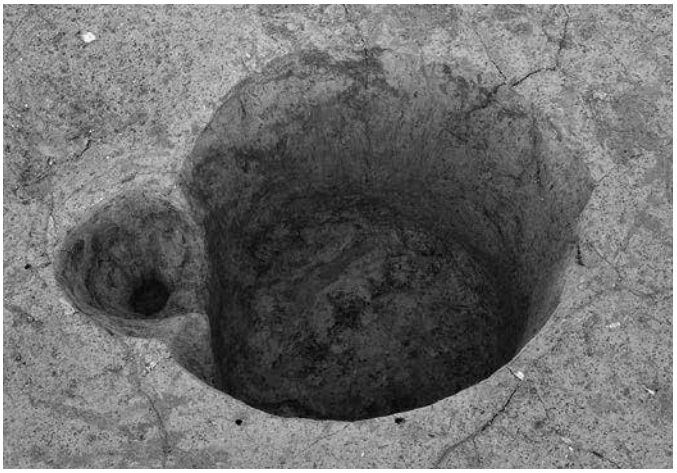
SK110　断面（南西から）

SK110　完掘（南西から）



SK112　断面（南東から）

SK131・P142　断面（西から）



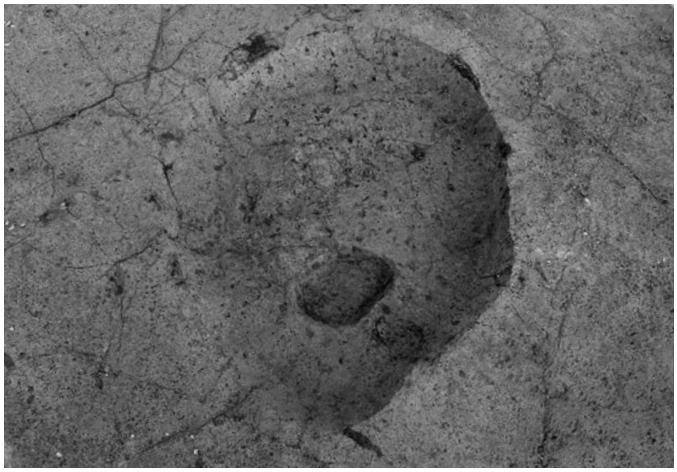
SK131・P142　完掘（南東から）

SK133　完掘（北東から）

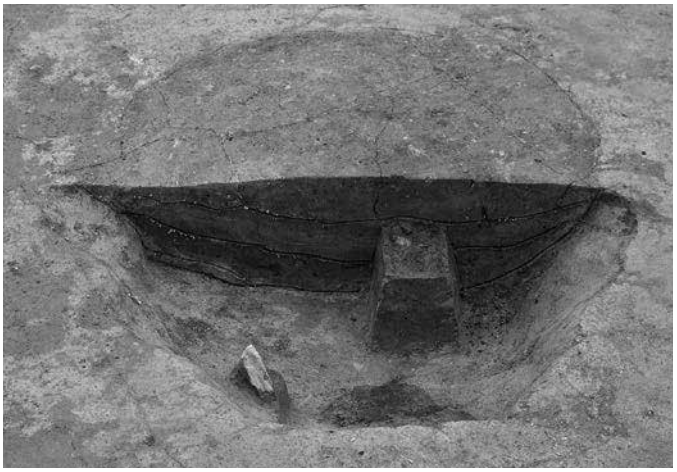
SK134　断面（北西から）

SK134　完掘（北東から）

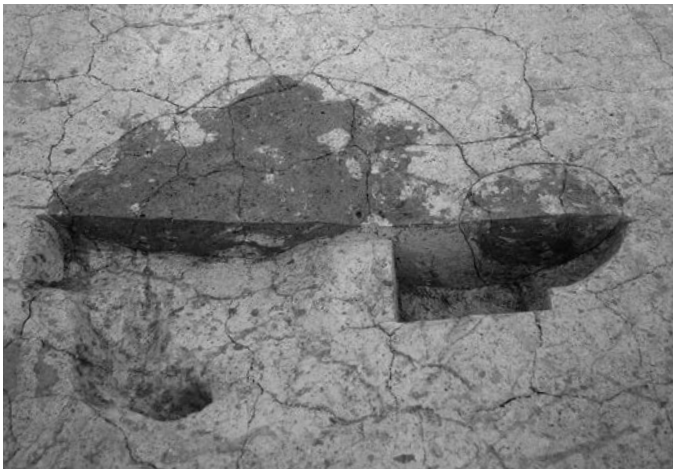
SK135　断面（西から）



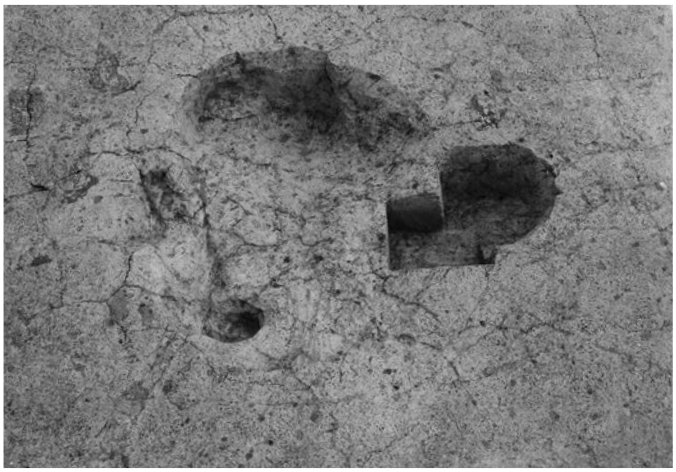
SK135　完掘（北西から）



SK136　断面（西から）

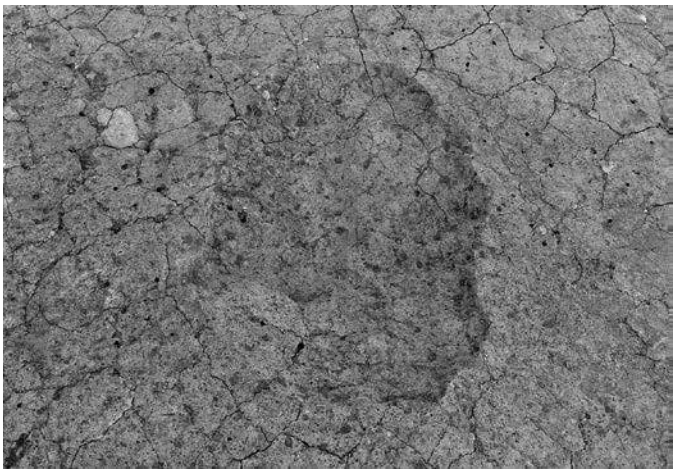


SK193・P192　断面（南西から）



SK193・P192　完掘（南西から）

SK217　断面（南東から）



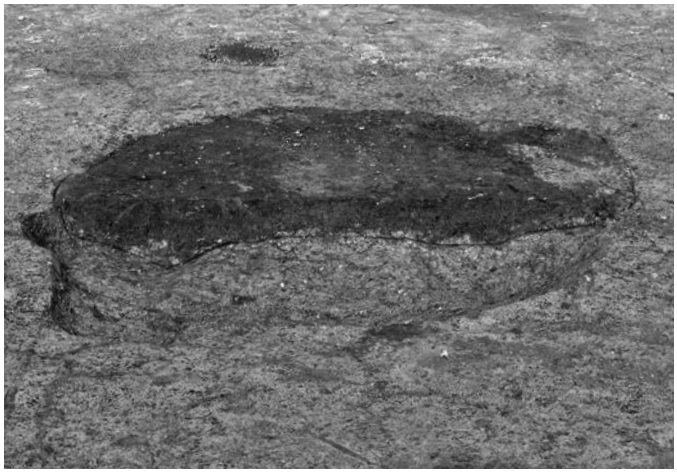
SK217　完掘（南東から）

SK218　断面（北東から）

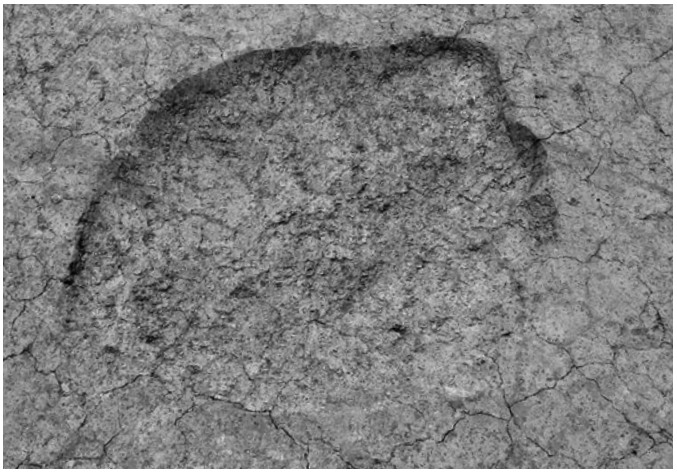
SK218　完掘（北東から）

SK220　断面（北西から）

SK220　完掘（北西から）



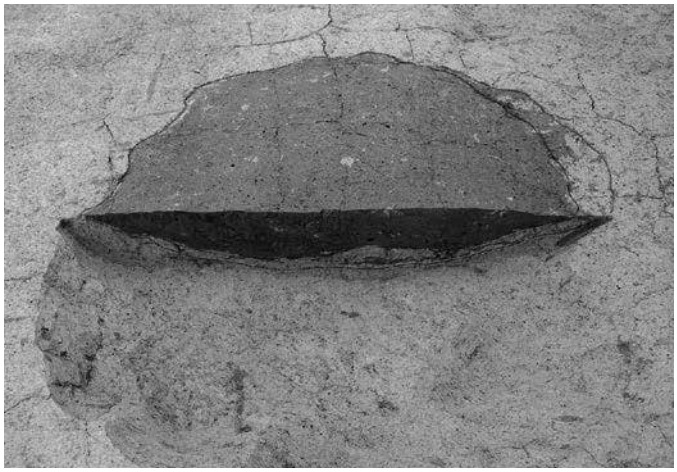
SK221　断面（西から）



SK221　完掘（西から）

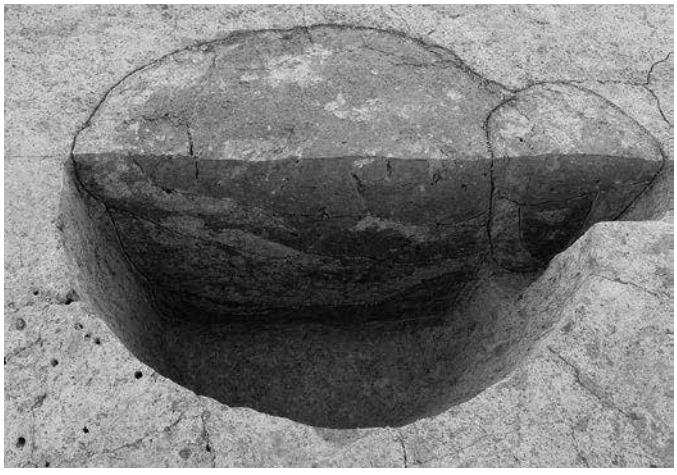
SK248　断面（北西から）

SK248　完掘（北から）

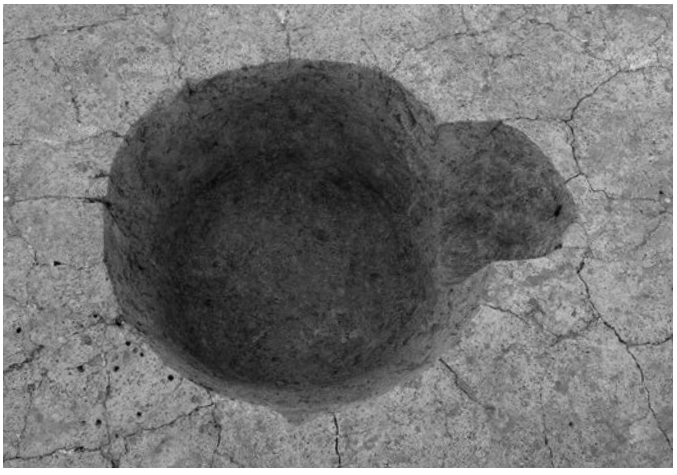


SK274　断面（南西から）

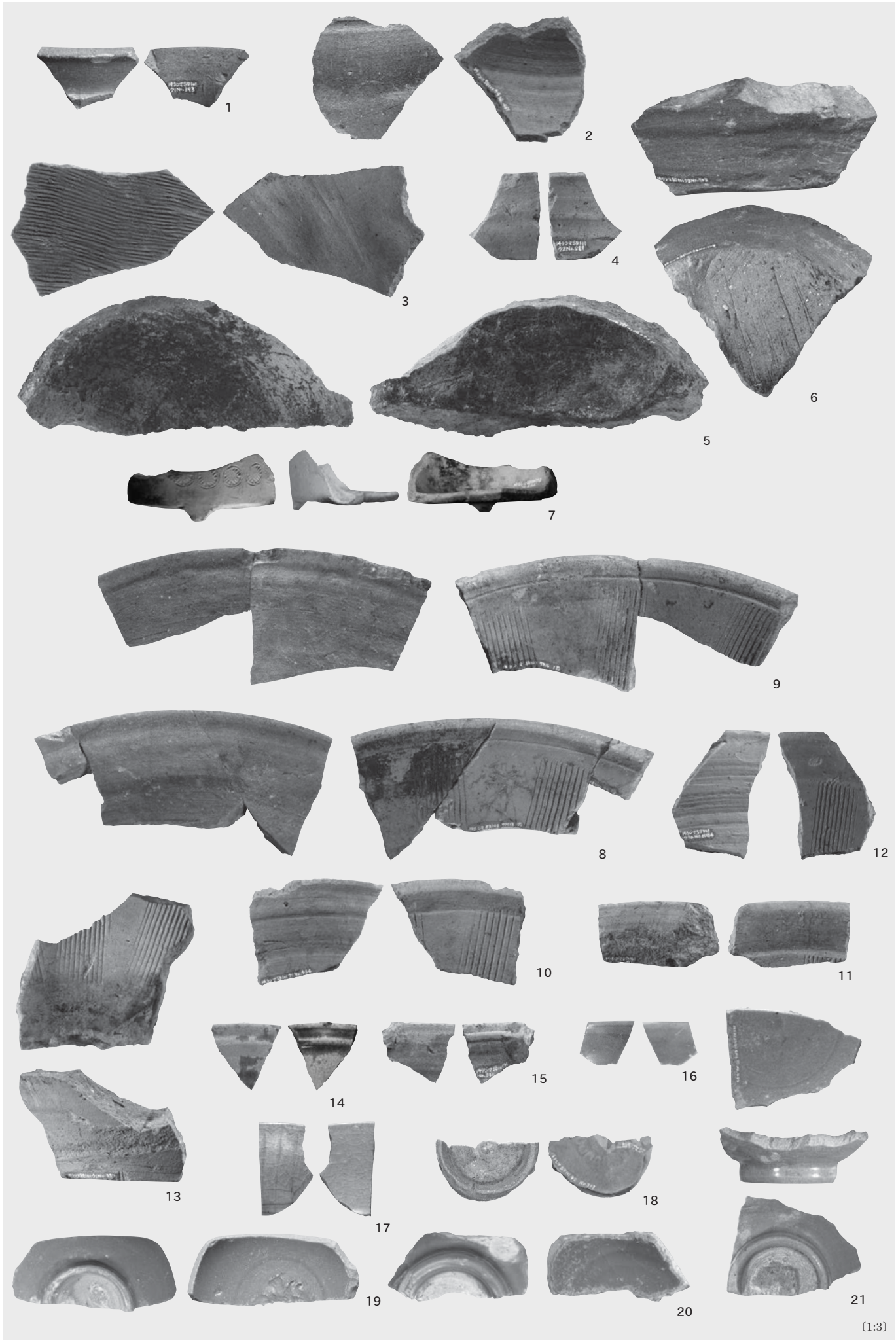
SK274　完掘（南西から）

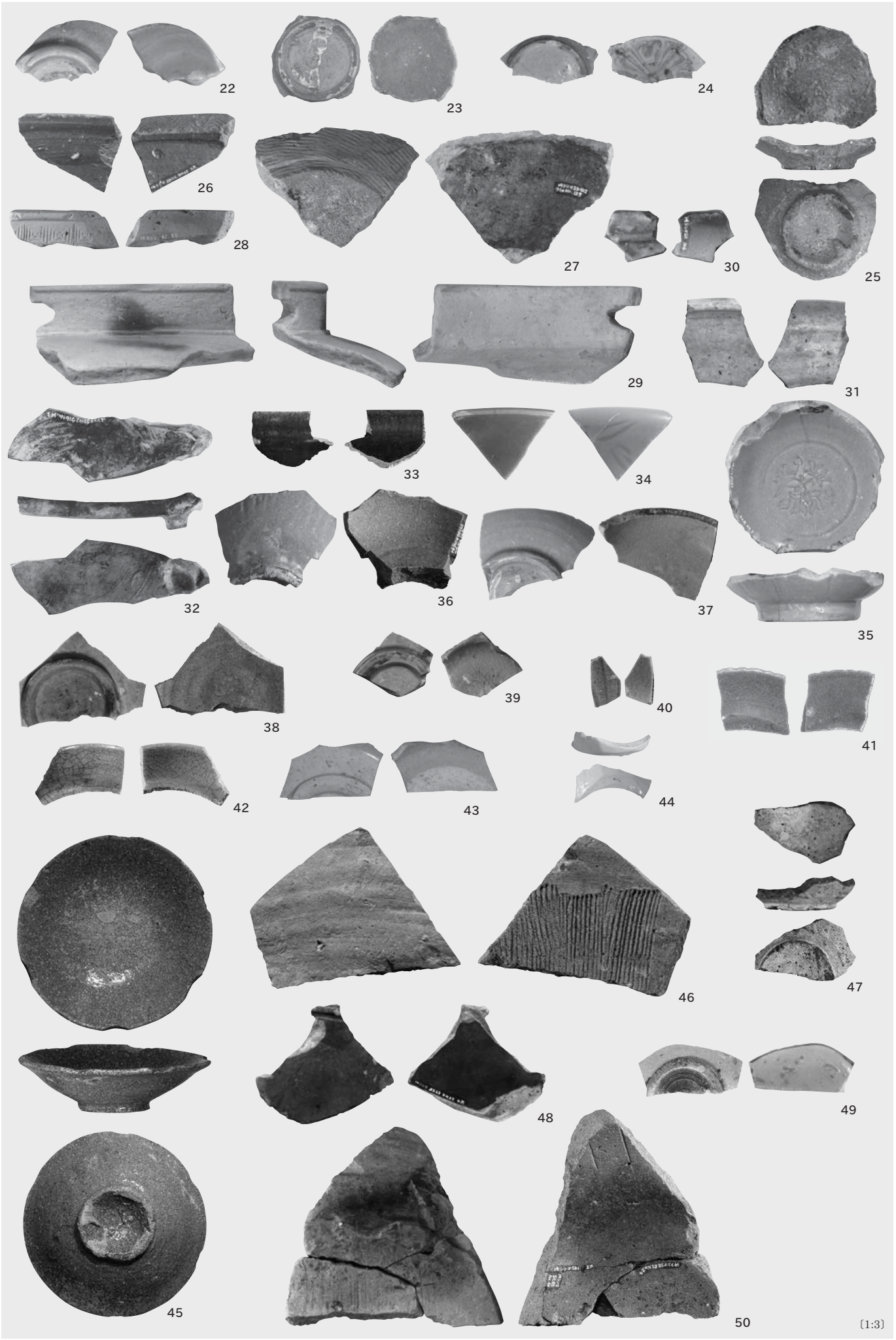


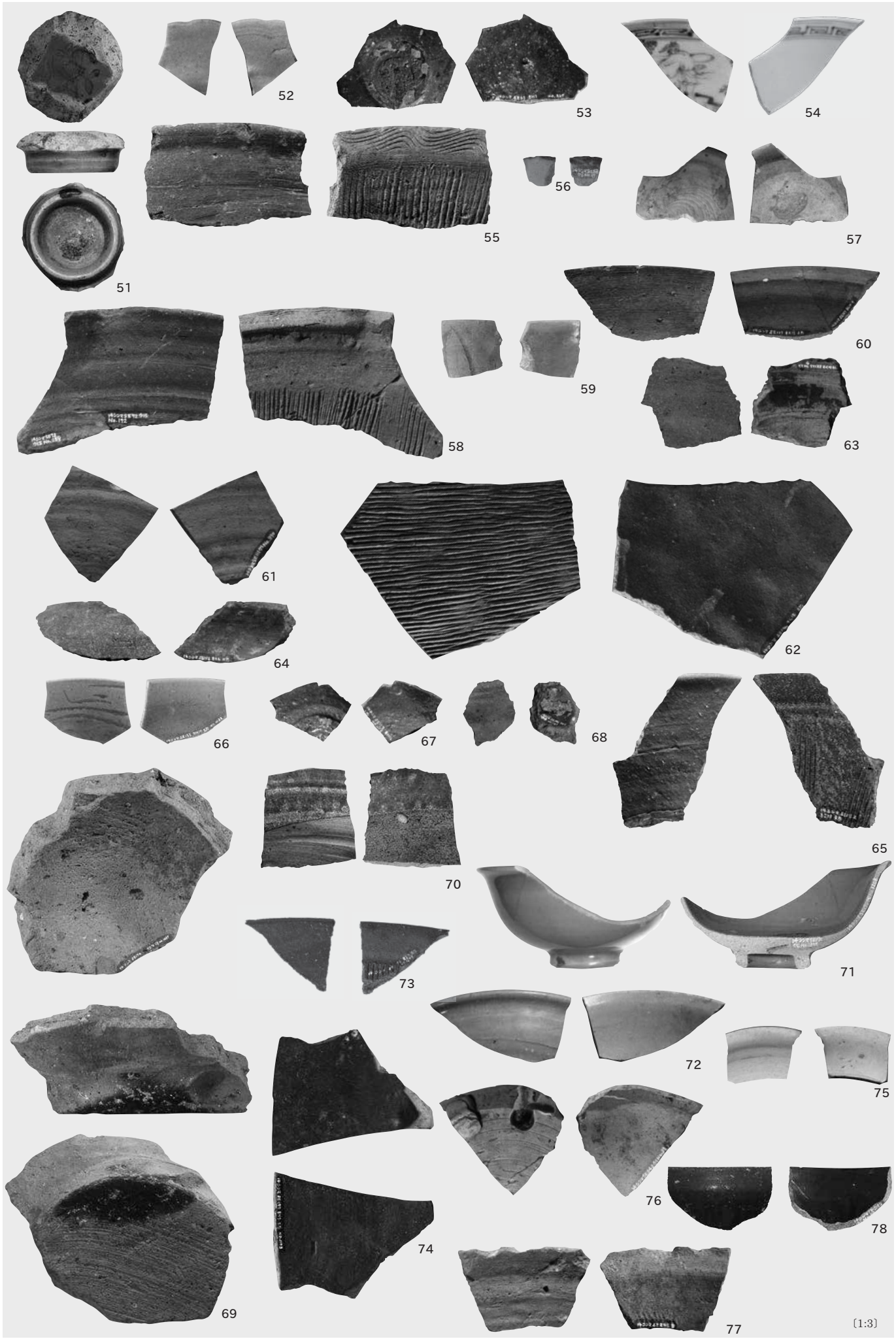
SK292・P289　断面（南東から）

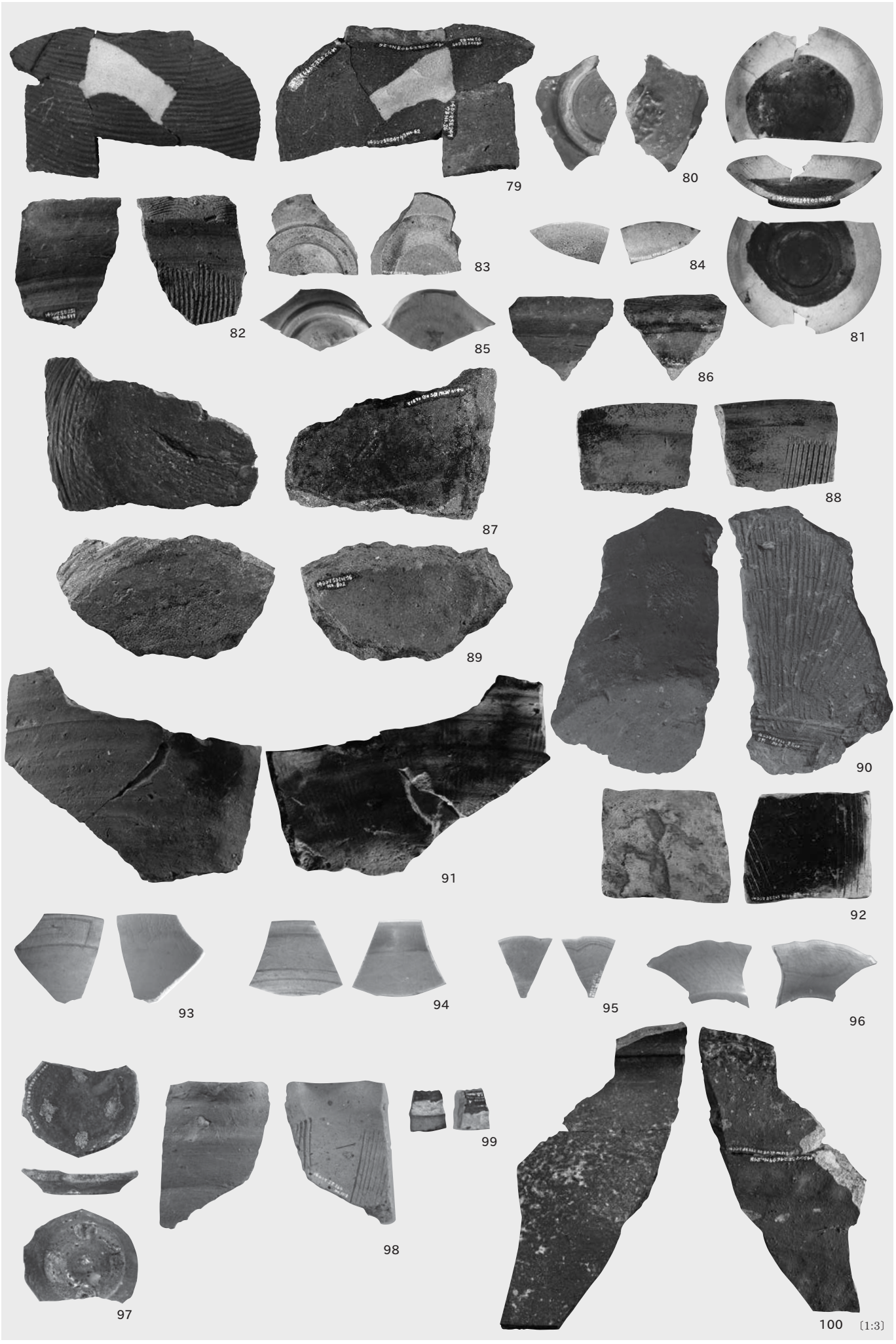


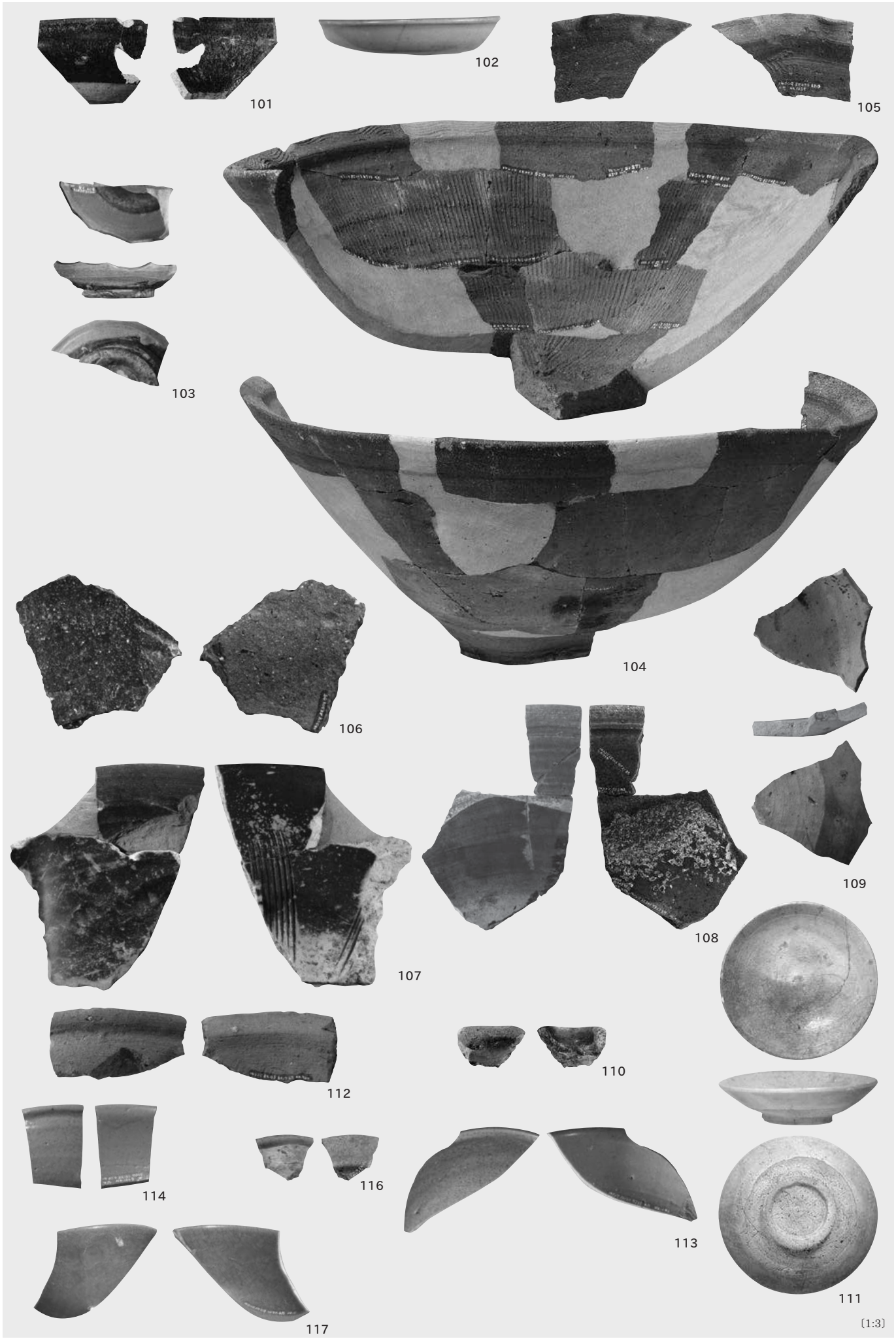
SK292・P289　完掘（南東から）

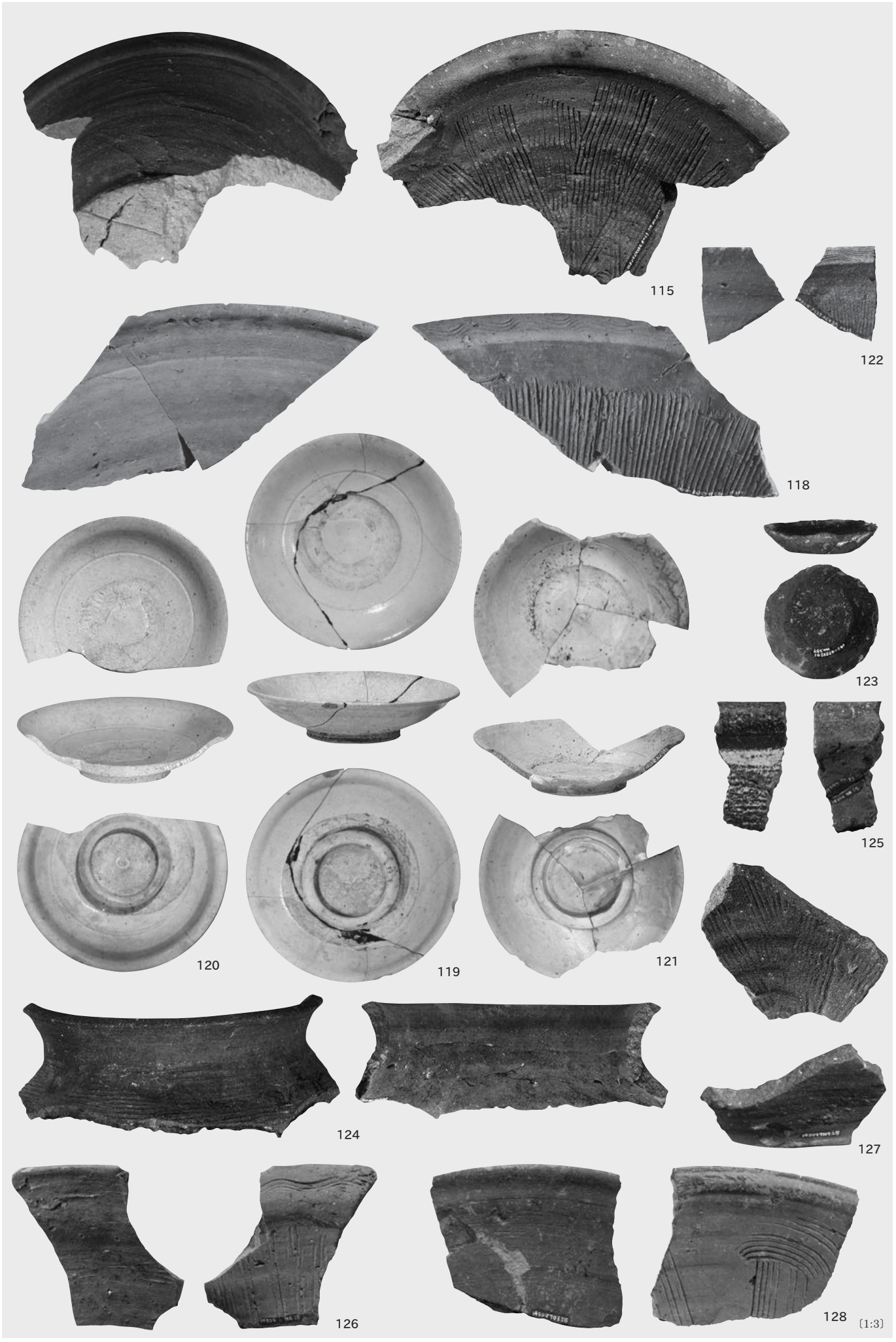

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
〔1:3〕

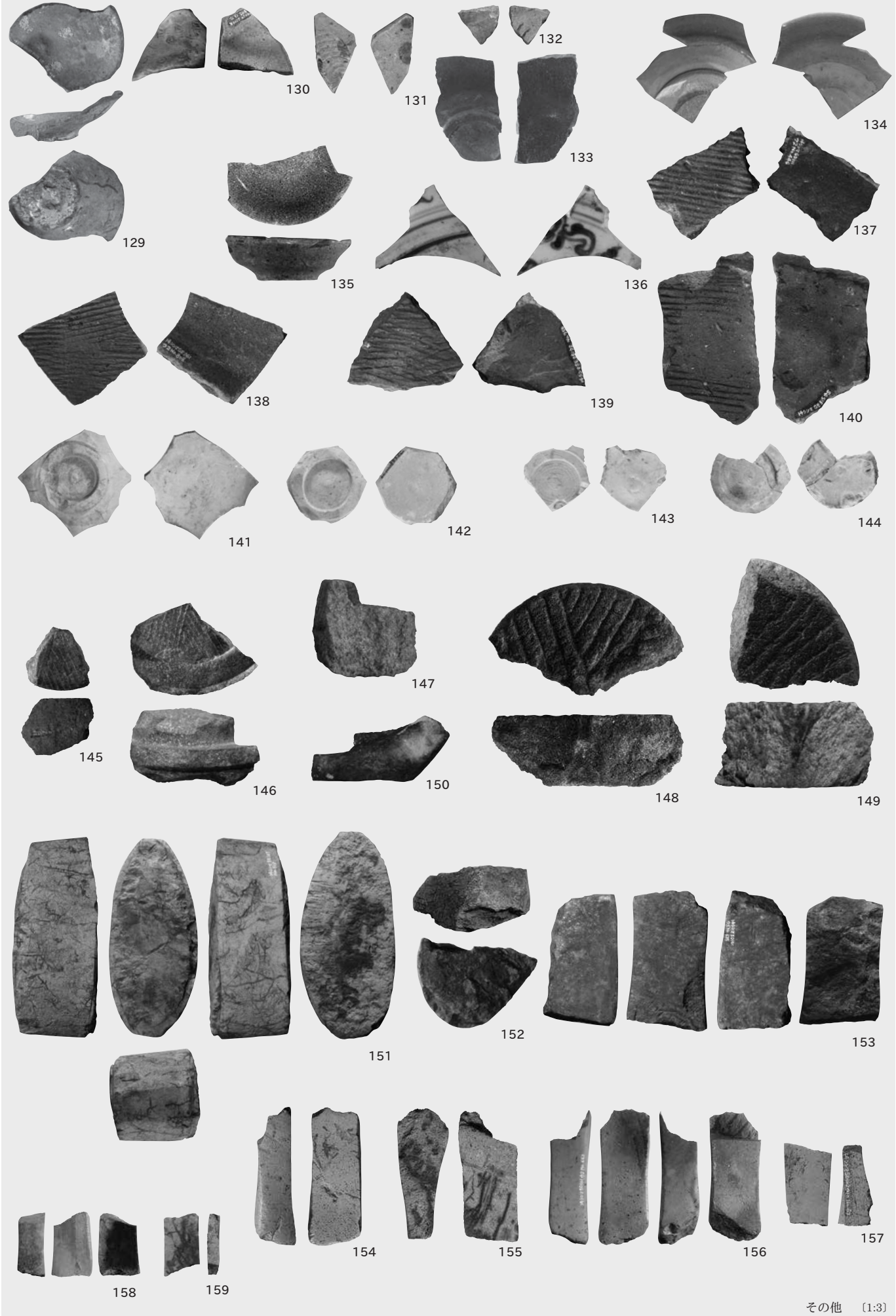

22
23
24
26
28
27
30
25
29
31
33
34
32
36
37
35
38
39
40
41
42
43
44
47
46
48
49
45
50
〔1:3〕


51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
〔1:3〕


79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100 〔1:3〕


101
102
105
103
104
106
107
108
109
110
112
114
116
113
111
117
〔1:3〕


115
122
118
123
120
119
121
125
124
127
126
128
〔1:3〕



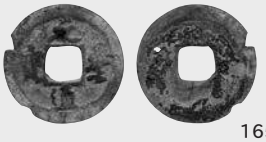
その他　〔1:3〕
145～150　〔1:6〕

160

161

162 163

164


165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

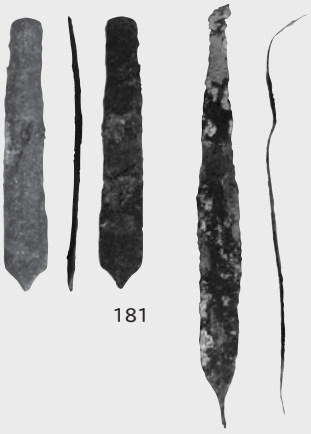
176

177

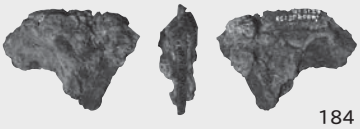
178

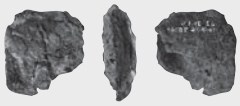
179

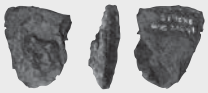
180


181 182

183

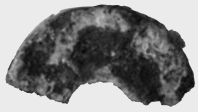

184

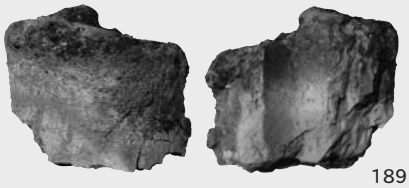

185


186

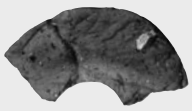
187

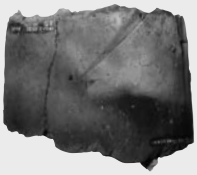
188




189

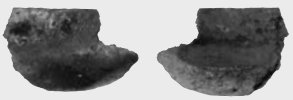
190





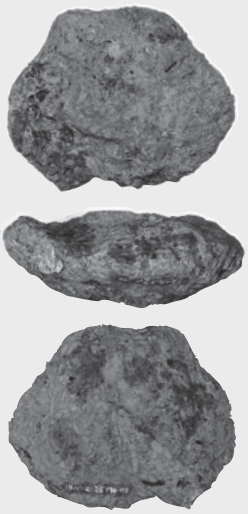
191

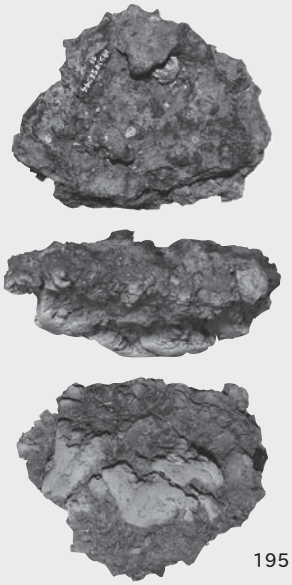
164～180　〔2:3〕
162・163・181～183　〔1:2〕
その他　〔1:3〕

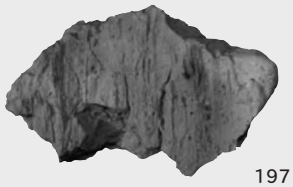

192

193

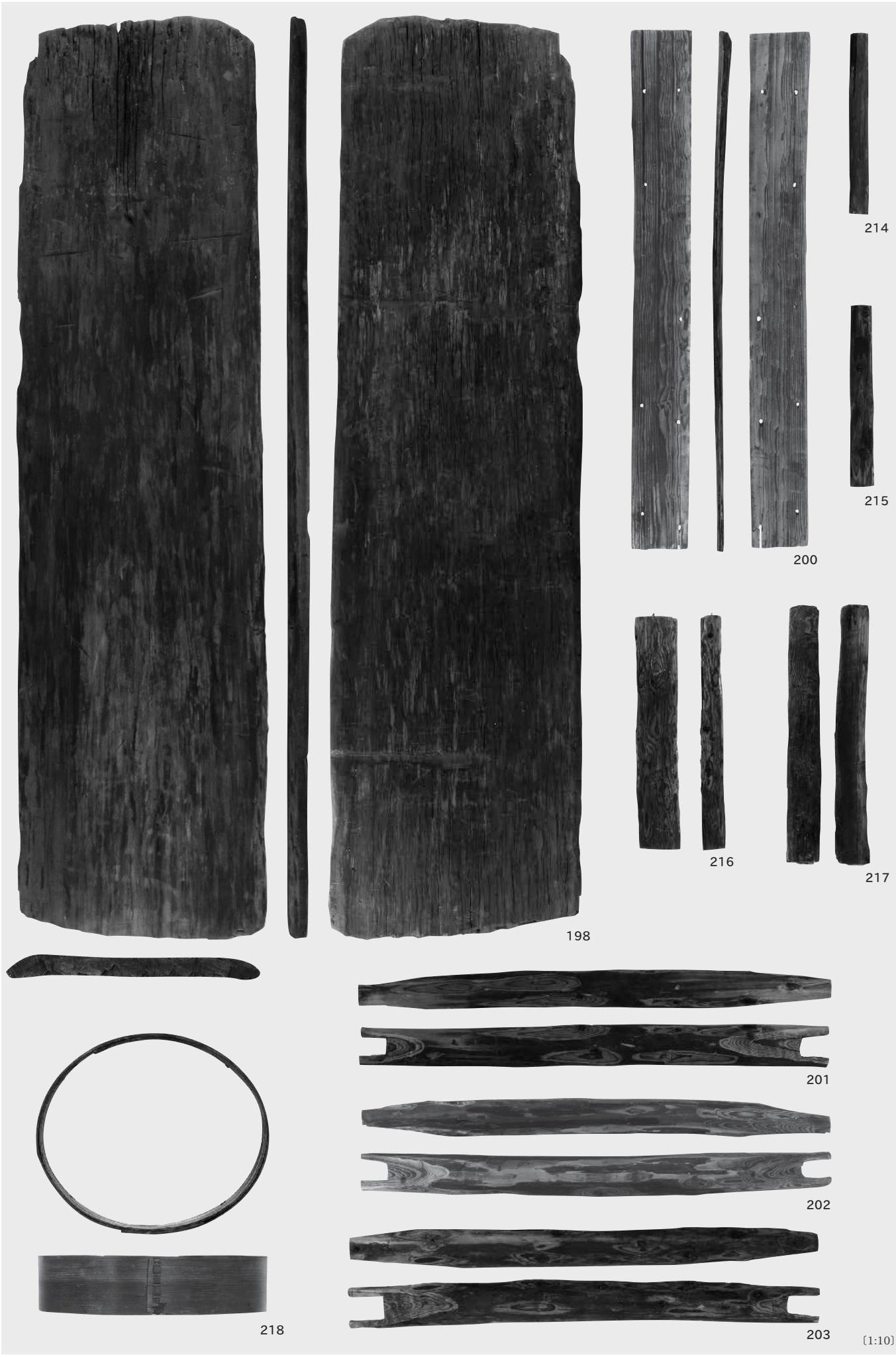
196

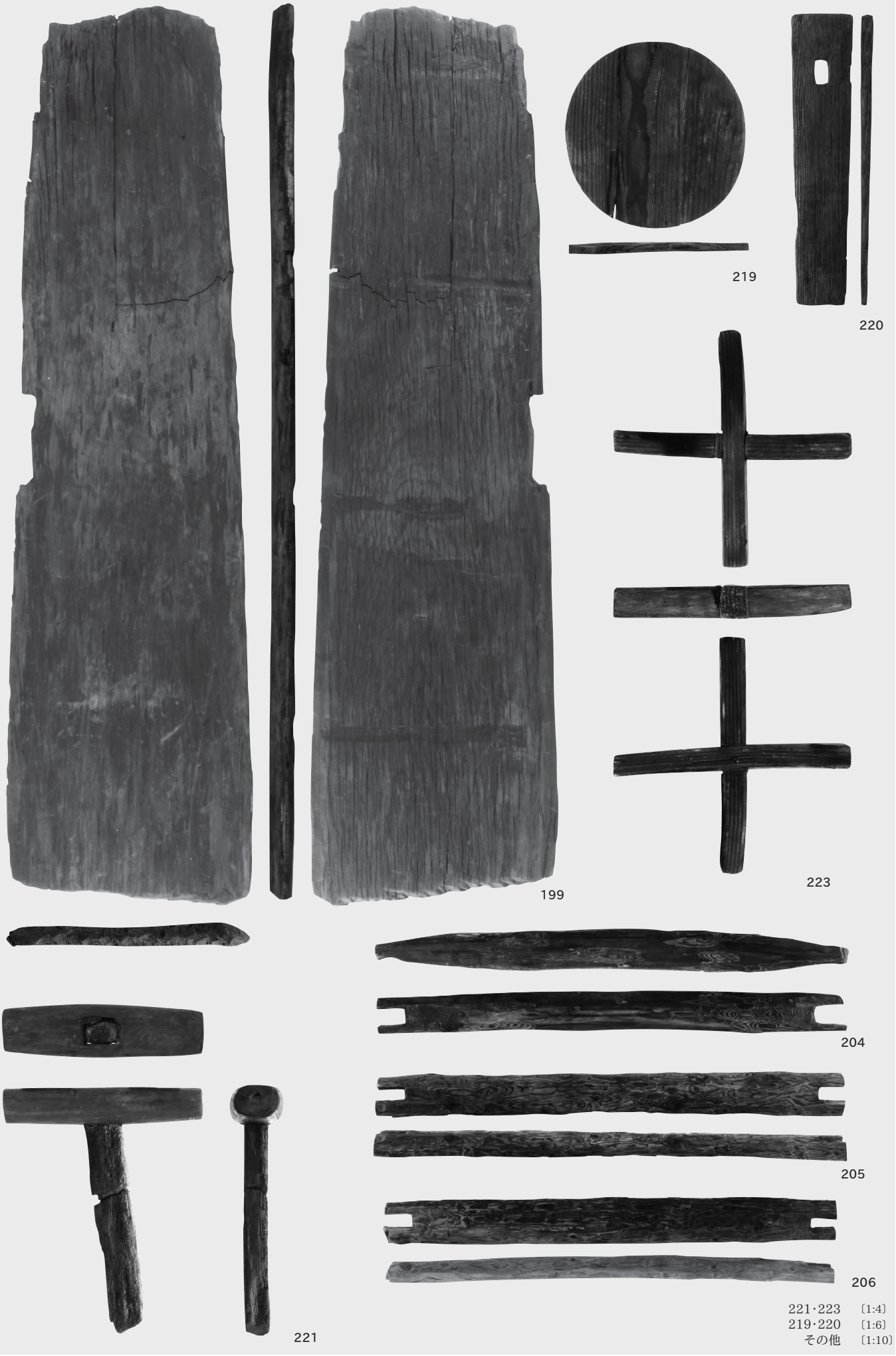

194


195


197

〔1:3〕


198
214
215
200
216
217
218
201
202
203
〔1:10〕



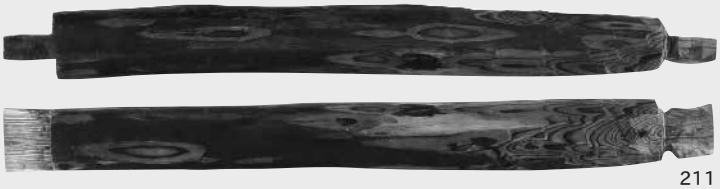
221・223　〔1:4〕
219・220　〔1:6〕
その他　〔1:10〕

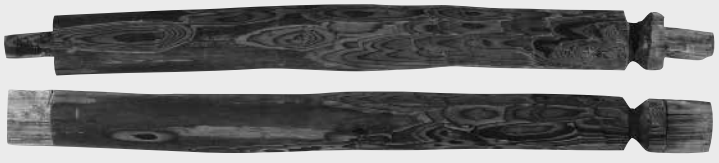
207

208

209

210

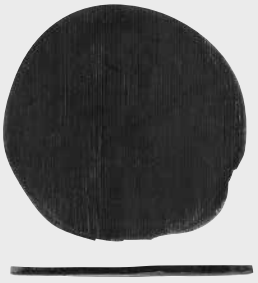

211


212

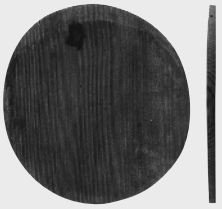
213

233

224


226

227


227 底板

228

228 底板

237

229 230 231 232

234 235

236

228～232　〔1:3〕
235　〔1:4〕
226･234･237　〔1:6〕
224･227･236　〔1:8〕
その他　〔1:10〕

238～240

外面

内面

238

239

240

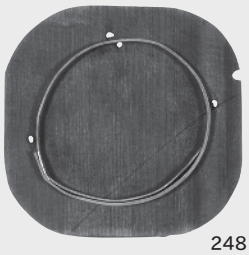
241

242

244

245

246


248

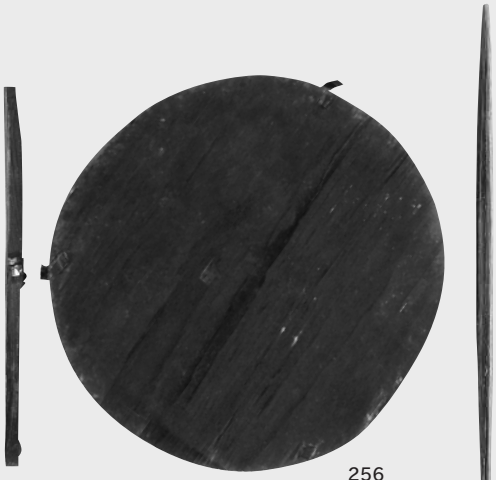
249 251 252

253

254

255

その他　〔1:3〕
249･254･255　〔1:4〕
241･244･252　〔1:6〕
238～240　〔1:8〕
253　〔1:10〕

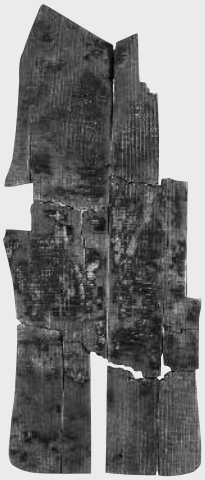

256

257

258

259

260


261

拡大図〔2:3〕

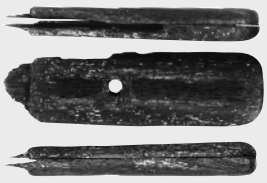
262

263

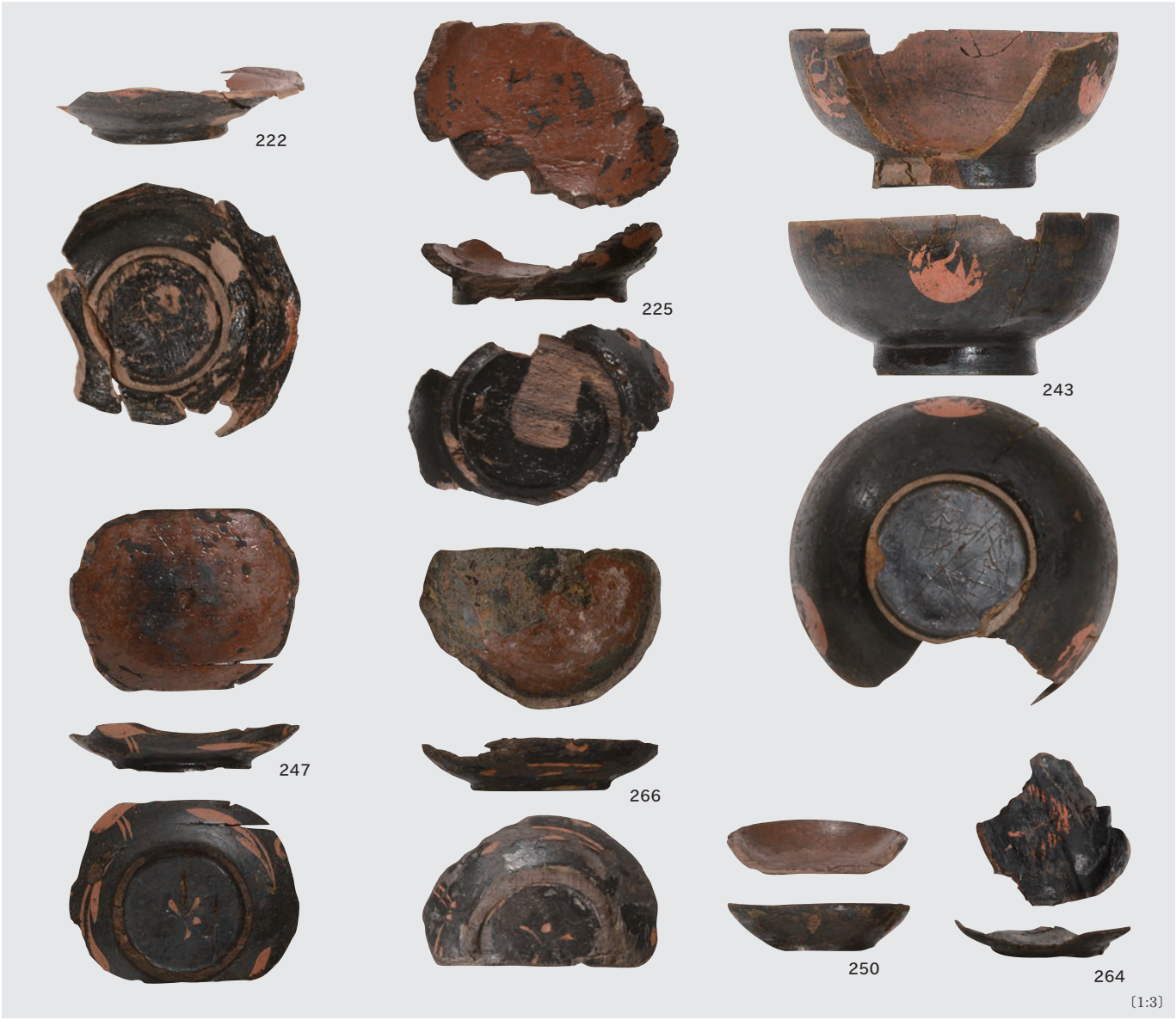
265

267-1

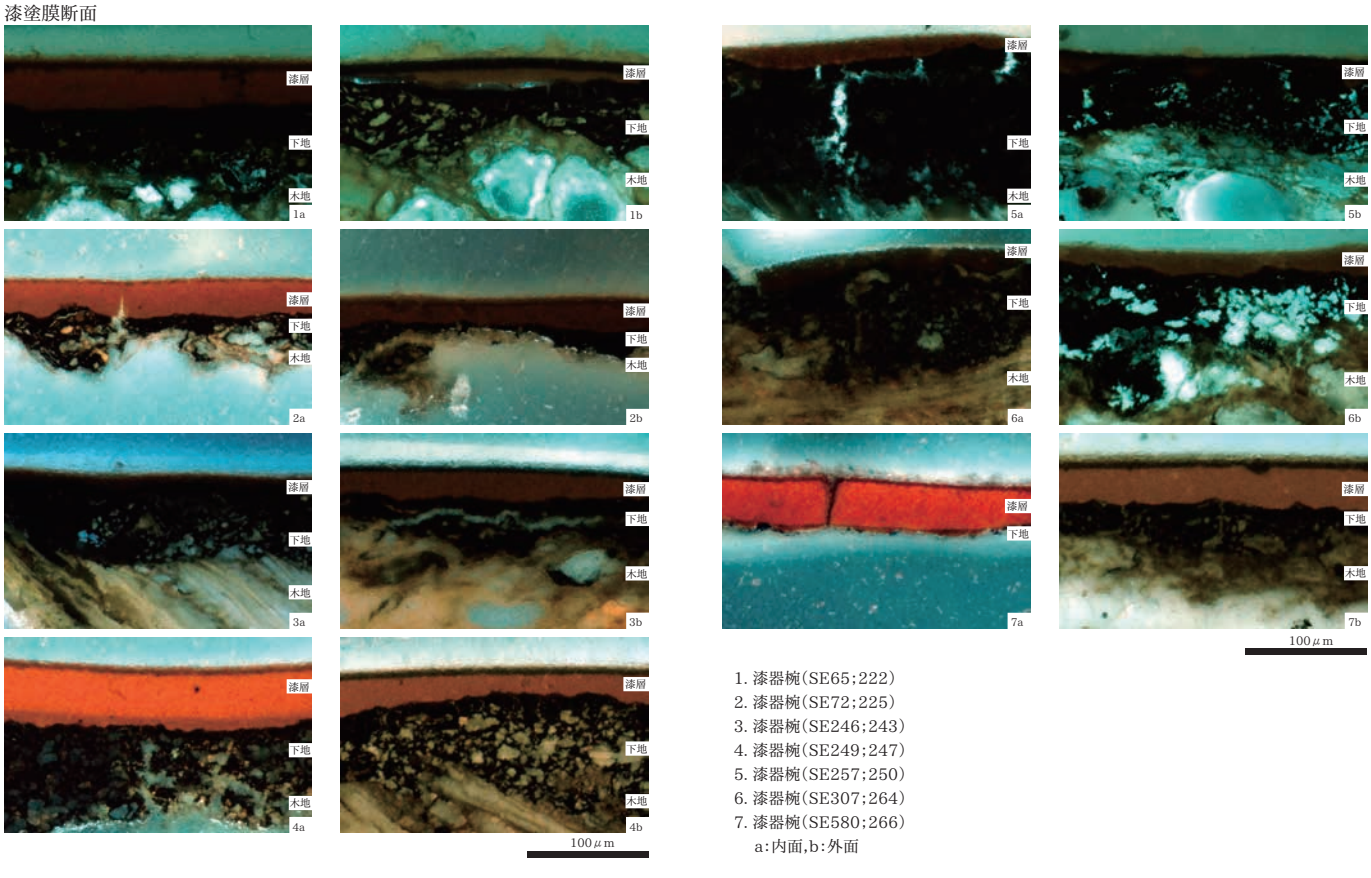
267-2


267

257·262·267　〔1:3〕
その他　〔1:4〕
260　〔1:6〕
259·263　〔1:8〕



漆塗膜断面



1. 漆器椀(SE65;222)
2. 漆器椀(SE72;225)
3. 漆器椀(SE246;243)
4. 漆器椀(SE249;247)
5. 漆器椀(SE257;250)
6. 漆器椀(SE307;264)
7. 漆器椀(SE580;266)
   a:内面,b:外面

報 告 書 抄 録

ふりがな	しんまちいせき
書名	新町遺跡
副書名	一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書
巻次	X
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第263集
編著者名	田海義正（埋文事業団）、 秋山泰利、福山俊彰、大越直樹（以上、株式会社ノガミ）、 高橋　敦（パリノ・サーヴェイ株式会社）
編集機関	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・株式会社ノガミ
所在地	〒956－0845　新潟県新潟市秋葉区金津93番地１　TEL 0250(25)3981　公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 〒950－1136　新潟県新潟市江南区曽川甲527番地3　TEL 025(280)6620　株式会社ノガミ
発行機関	新潟県教育委員会 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2016（平成28）年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	発掘期間	発掘面積 （㎡）	発掘原因
新町遺跡（しんまちいせき）	新潟県阿賀野市（にいがたけんあがのし） 大字百津字新町（おおあざももづあざしんまち） 1390ほか	15223	402	37°49′8″ ～ 37°49′11″	139°12′9″ ～ 140°33′4″	20140401 ～ 20140930	6,750㎡	一般国道49号 阿賀野バイパス建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新町遺跡	遺物包含地	平安時代		須恵器・土師器	遺構検出されず
	集落跡	室町時代	掘立柱建物9棟 溝10条 道状遺構1条 井戸97基 土坑24基 ピット多数	珠洲焼・瓷器系陶器・瀬戸美濃焼・中世土師器・瓦器・越前焼・青磁・白磁・青花・朝鮮陶器・転用研磨具・坩堝・鋳型・羽口・炉壁・粘土塊・鉄鍋・刀子・包丁・釘・装飾具・銭貨・石臼・石鍋・砥石・鉄滓・漆器椀・曲物・桶・手桶・柄杓・折敷・箸・下駄・草履芯・井戸側部材・神饌容器・陽物形木製品・棒状木製品・板状木製品・十字形木製品・杭状木製品	

要約	1 新町遺跡は、阿賀野川右岸の自然堤防上に立地する。 2 15世紀後半～16世紀初頭の集落である。 3 溝で区画された屋敷地が道状遺構を基線に展開し、集落を形成している。 4 遺物は生活用具のほか、威信財と思われる青花などの輸入陶磁器、風炉や香炉などの瓦器、茶道具が出土した。 5 集落の存続期間は、応永の乱のあとの越後が比較的安定した時期にあたる。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第263集
一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書X
新 町 遺 跡

2016（平成28）年3月30日印刷
2016（平成28）年3月31日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950－8570　新潟市中央区新光町４番地１
電話　025（285）5511

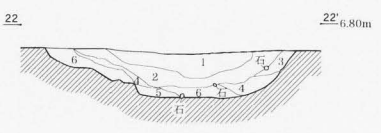
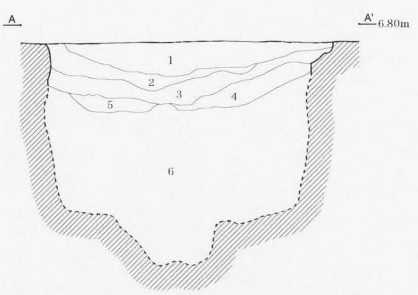
公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956－0845　新潟市秋葉区金津 93 番地１
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社　ライフ
〒286－0134　千葉県成田市東和田５９５
電話　0476（24）1564

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第263集『新町遺跡』　正誤表追加　　2019年9月追加

頁	位置	誤	正
抄録	北緯	37度49分08～11秒	３７度４９分２６秒
抄録	東経	139度12分09秒～140度33分04秒	１３９度１２分５２秒

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第263集『新町遺跡』正誤表

図版	個所	誤	正
図版12	SD329土層説明	4層説明なし	4. 灰白色(2.5Y8/2)シルト　粘性やや強く、締まらない。 黄灰色(2.5Y6/1)シルトブロック多量含む。
	SD377　16-16´	2´	
図版15	SE599土層説明	4層説明なし	4. 黒色(7.5Y2/1)粘質シルト　粘性強く、締まらない。 土壌化が進んだ炭多量含む。
		5層説明なし	5. 灰色(N4/)粘質土　粘性強く、締まらない。 まだらに土壌化が進んだ炭少量含む。
図版17	SE70土層説明	18層説明なし	18. オリーブ灰色(2.5GY6/1)粘質土　粘性強く、締まらない。 黒褐色(2.5Y3/2)粘質シルトブロック微量含む。
図版33	SE288土層説明	4. 灰白色(10YR8/1)シルトとにぶい黄橙色(10YR7/4)シルトと黒褐色(10YR3/1)シルトのブロック充填。灰白色(10YR8/1)シルトの割合が高い。粘性やや強く、締まらない。	5. 灰白色(10YR8/1)シルトとにぶい黄橙色(10YR7/4)シルトと黒褐色(10YR3/1)シルトのブロック充填。灰白色(10YR8/1)シルトの割合が高い。粘性やや強く、締まらない。
		5. 明青灰色(10BG7/1)粘質土。粘性強く、締まらない。	6. 明青灰色(10BG7/1)粘質土。粘性強く、締まらない。
図版13	SD101　22-22´	断面図6層　脱字	
図版33	SE288　A-A´	断面図6層　脱字